

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第99集

きよ す じょう か まち
清洲城下町遺跡 VIII

本文編

2002

財団法人愛知県教育サービスセンター

愛知県埋蔵文化財センター

序

清洲城下町遺跡は、西春日井郡清洲町の市街地ほぼ全域と新川町、春日町の一部に広がる大規模な遺跡です。遺跡は古代から江戸時代まで続きますが、その中でも織田信長をはじめ有力な戦国大名が居城とした戦国時代の「清須城」は、尾張を代表する城館として全国的にも著名なものです。

当センターでは、これまで十数年にわたって清洲城下町遺跡の発掘調査を行い、そこで得られた成果については、これまでに7冊の調査報告書として刊行してまいりました。

8冊目にあたる本書は、清須城本丸の南東隅に造られた石垣の主要な部分の調査の報告がなされており、金箔瓦や鯉瓦など多量に出土した瓦とともに、往時威容を誇ったとされる清須城の姿を復元する上で貴重な資料を提供するものと考えております。

最後になりましたが、調査に対して御理解、御協力を賜った関係諸機関並びに地元の皆様、発掘調査や資料整理に参加協力していただきました多くの方々に厚く御礼申し上げるとともに、本書が埋蔵文化財の保護と研究の一助になれば幸いです。

平成 14 年 8 月

財団法人愛知県教育サービスセンター
理事長 井上 銀 治

例 言

- 1 清洲城下町遺跡は（遺跡番号21001：「愛知県遺跡分布地図Ⅰ（尾張地区）」1994による）は愛知県西春日井郡清洲町のほぼ全域に分布する広大な遺跡であり、一部は春日町と新川町にまたがる。
- 2 本書は、愛知県土木部（現建設部）が進めている五条川河川改修に伴う事前調査にかかる発掘調査報告書のうち、第4巻に相当する「清洲城下町遺跡Ⅷ」である。発掘調査は県土木部（現建設部）から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センター（現愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター）が実施した。
- 3 本書が対象とするのは、平成7年度から平成11年度にかけて行われた95A区・95B区・96区・97A区・97B区・97C区・99A・99B区の8調査区で、合計の面積は8500㎡になる。
- 4 発掘調査は、95A・B区：水谷寛明（現吉良町立白浜小学校）・松田調・加藤博紀（現県立蟹江高校）、96区：増澤徹（現岡崎市立城南小学校）・宮腰健司・原田幹（現県教育委員会文化財保護室）、97A・B・C区：黒田哲生（現県立五条高校）・石黒立人・浅井厚視（現海部教育事務所）、99A・B区：春日井毅（現一宮市立宮西小学校）・伊藤太佳彦（現県立知多東高校）・木川正夫（現県立岡崎高校）が担当した。
- 5 発掘調査に引き続き、平成12・13年度に報告書作成のための整理事業を実施した。平成12年度の整理事業は鈴木正貴が、平成13年度は宮腰健司・鈴木正貴が担当した。
- 6 調査にあたっては本センター理事・専門員をはじめ次の各関係機関のご指導とご協力を得た。
- 7 調査区の座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標Ⅷ系に準拠した。ただし、旧基準の「日本測地系」で表記している。
- 8 遺構は以下のアルファベットによる分類記号と、各調査区毎で調査時に使用した表記をそのまま使用した。ただ99A・B区については、2面ある各面に遺構番号がふられているため、2面目を千番台の表記としたSK：土坑、SD：溝、SW：石垣、SX：その他の遺構、P：ピット
- 9 本書の執筆は下記のとおりである。
I-1・2 宮腰健司、I-3 鈴木正貴
II-宮腰健司、III-鈴木正貴
IV-(I) 堀木真美子・植田弥生、IV-(II) 北野信彦、IV-(III) パリノ・サーヴェイ
IV-(IV) 井上巖、IV-(V) 森勇一、IV-(VI) 北垣聡一郎
V-鈴木正貴
- 10 遺構の写真撮影は各調査担当者が行い、遺物の写真撮影は福岡栄が行った。
- 11 発掘調査及び整理全般については、調査研究補助員である神谷巳佳・小嶋そのみ・土倉崇士の他、多数の発掘補助員・発掘作業員・整理作業員・整理補助員の皆様のご協力を得た。記して感謝する次第である。
- 12 本書をまとめるにあたり、本センター専門委員を始め、次の各氏のご指導・ご協力を得た（敬称略）。
青木修・赤羽一郎・磯村豊司・内堀信雄・梅本博志・遠藤才文・太田宏一・岡村一幸・岡本直久
尾野善裕・加藤理文・蟹江吉弘・金子健一・北垣聡一郎・北野信彦・河野通明・小竹森直子・佐野元
鈴木真哉・柴垣哲彦・下村信博・莊景輝・千田嘉博・高瀬哲郎・高田徹・高田祐吉・高橋信明・谷口克広
中井均・中野晴久・野口哲也・野澤則幸・原田幹・藤澤良祐・松井一明・村田弘・森村健一・山本宏司
吉田寛
- 11 調査記録（図面・写真資料・日誌等）は、本センターにて保管している。
- 12 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。
愛知県海部郡弥富町大字前々須新田字野方802-24 TEL. 0567-67-4164

目次

I 調査概要	I
1 調査の経緯 (1)、2 調査の概要 (2)、3 歴史的環境 (4)	
II 遺構	7
1 95A・B区 (7)、2 96・97C区 (11)、3 97B区 (27)、4 99A区 (29)、5 99B区 (34)	
III 遺物	37
(I) 概要と分析の方法	
1 出土遺物の概要 (37)、2 整理方針 (38)	
(II) 陶磁器・土器類	39
1 概要と分類の方法 (39)、2 95A区出土陶磁器・土器類 (40)、3 95B区出土陶磁器・土器類 (43)、4 96区出土陶磁器・土器類 (47)、5 97B区出土陶磁器・土器類 (56)、6 97C区出土陶磁器・土器類 (70)、7 99A区出土陶磁器・土器類 (74)、8 99B区出土陶磁器・土器類 (108)	
(III) 瓦類	142
1 概要と分類の方法 (142)、2 軒丸瓦 (143)、3 軒平瓦 (165)、4 金箔押軒瓦 (185)、5 丸瓦 (186)、6 平瓦 (193)、7 飾瓦 (206)、8 鬼瓦 (209)、9 甍瓦 (213)、1 0 造形瓦類 (219)、1 1 道具瓦 (221)、1 2 文字瓦 (233)	
(IV) 木製品	235
1 概要と分類の方法 (235)、2 木製品の資料紹介 (235)、3 土台木 (260)、4 杭 (266)、5 繊維製品 (270)	
(V) 石製品	271
1 概要 (271)、2 資料紹介 (271)	
(VI) 金属製品・金属関連遺物	277
1 概要と分析の方法 (277)、2 鉄製品 (277)、3 銅製品 (281)、4 鉛製品 (283)、5 金属関連遺物 (283)	
(VII) 自然遺体	287
(VIII) 石垣に記された墨書	288
1 調査の経緯と調査方法 (288)、2 墨書の紹介 (289)、3 考察 (294)	
IV 自然科学的分析・考察	301
(I) 清洲城下町遺跡出土木製品樹種同定	302
1 はじめに (302)、2 樹種同定の方法 (302)、3 結果 (302)、4 まとめ (306)	
(II) 清洲城下町遺跡出土漆器資料の材質と製作技法	323
1 はじめに (323)、2 出土漆器資料の調査 (323)、3 考察 (326)	
(III) 清須城出土瓦の胎土分析	343
はじめに (343)、1 試料 (343)、2 分析方法 (343)、3 結果 (343)、4 考察 (346)	
(IV) 清洲城下町遺跡出土瓦の胎土・金箔分析	349
1 実験条件 (349)、2 X線回折試験結果の取扱い (349)、3 X線回折試験結果 (350)、4 化学分析結果 (351)、5 瓦の金箔の化学分析 (351)、6 まとめ (351)	
(V) 清洲城下町遺跡から産出した貯穀性昆虫とその意義	365
1 はじめに (365)、2 分析試料 (365)、3 結果 (365)、4 考察 (366)、5 おわりに (368)	
(VI) 清須城伝本丸を中心とした土木構築物について一主として石垣・土台木—	373
はじめに (373)、1 94A区の土木構築物遺構 (373)、2 96区の土木構築物遺構 (383)、3 結語 (390)	
V まとめ	394
報告書抄録	400

挿図目次

第1図	遺跡位置図	1	第54図	99A区出土遺物実測図(3)	78
第2図	調査区位置図	3	第55図	99A区出土遺物実測図(4)	79
第3図	清洲城下町遺跡と周辺の遺跡	5	第56図	99A区出土遺物実測図(5)	80
第4図	95A・B区東壁セクション(1)	8	第57図	99A区出土遺物実測図(6)	82
第5図	95A・B区東壁セクション(2)	9	第58図	99A区出土遺物実測図(7)	83
第6図	95A・B区東壁セクション(3)	10	第59図	99A区出土遺物実測図(8)	84
第7図	96区セクション(1)	13	第60図	99A区出土遺物実測図(9)	86
第8図	96区セクション(2)	14	第61図	99A区出土遺物実測図(10)	87
第9図	SW01・SW02断面図	15	第62図	99A区出土遺物実測図(11)	88
第10図	SW01・SW02平面図	16	第63図	99A区出土遺物実測図(12)	89
第11図	SW01・SW02側面図	17	第64図	99A区出土遺物実測図(13)	92
第12図	SW01・SW02土台木平面図	18	第65図	99A区出土遺物実測図(14)	93
第13-1図	SW01・SW02土台木平面詳細図(1)	20	第66図	99A区出土遺物実測図(15)	95
第13-2図	SW01・SW02土台木平面詳細図(2)	21	第67図	99A区出土遺物実測図(16)	96
第14図	SA01～09平面図	22	第68図	99A区出土遺物実測図(17)	97
第15図	SA01～08平面図	23	第69図	99A区出土遺物実測図(18)	99
第16図	SA05、SA04・06見通し図	24	第70図	99A区出土遺物実測図(19)	100
第17図	SA07見通し図	25	第71図	99A区出土遺物実測図(20)	102
第18図	SA09平面図	26	第72図	99A区出土遺物実測図(21)	103
第19図	SE01断面図	27	第73図	99A区出土遺物実測図(22)	105
第20図	97B区セクション図	28	第74図	99A区出土遺物実測図(23)	106
第21図	99A区SD13・SK248セクション図	30	第75図	99A区出土遺物実測図(24)	107
第22図	99A区西壁・北壁セクション図	31	第76図	99B区出土遺物実測図(1)	109
第23-1図	99B区西壁・北壁セクション図(1)	32	第77図	99B区出土遺物実測図(2)	110
第23-2図	99B区西壁・北壁セクション図(2)	33	第78図	99B区出土遺物実測図(3)	111
第24図	99A区井戸セクション図	35	第79図	99B区出土遺物実測図(4)	113
第25図	99A・B区井戸セクション図	36	第80図	99B区出土遺物実測図(5)	114
第26図	95A区出土遺物実測図(1)	41	第81図	99B区出土遺物実測図(6)	116
第27図	95A区出土遺物実測図(2)	42	第82図	99B区出土遺物実測図(7)	117
第28図	95B区出土遺物実測図(1)	44	第83図	99B区出土遺物実測図(8)	118
第29図	95B区出土遺物実測図(2)	45	第84図	99B区出土遺物実測図(9)	120
第30図	95A・B区出土量分布図	46	第85図	99B区出土遺物実測図(10)	121
第31図	96区出土遺物実測図(1)	48	第86図	99B区出土遺物実測図(11)	122
第32図	96区出土遺物実測図(2)	49	第87図	99B区出土遺物実測図(12)	123
第33図	96区出土遺物実測図(3)	50	第88図	99B区出土遺物実測図(13)	124
第34図	96区出土遺物実測図(4)	51	第89図	99B区出土遺物実測図(14)	125
第35図	96区出土遺物実測図(5)	53	第90図	99B区出土遺物実測図(15)	126
第36図	96区出土遺物実測図(6)	54	第91図	99B区出土遺物実測図(16)	127
第37図	96区出土量分布図	55	第92図	99B区出土遺物実測図(17)	130
第38図	97B区出土遺物実測図(1)	57	第93図	99B区出土遺物実測図(18)	131
第39図	97B区出土遺物実測図(2)	58	第94図	99B区出土遺物実測図(19)	133
第40図	97B区出土遺物実測図(3)	59	第95図	99B区出土遺物実測図(20)	134
第41図	97B区出土遺物実測図(4)	60	第96図	99B区出土遺物実測図(21)	135
第42図	97B区出土遺物実測図(5)	61	第97図	99B区出土遺物実測図(22)	136
第43図	97B区出土遺物実測図(6)	63	第98図	99B区出土遺物実測図(23)	138
第44図	97B区出土遺物実測図(7)	64	第99図	99B区出土遺物実測図(24)	139
第45図	97B区出土遺物実測図(8)	65	第100図	99B区出土遺物実測図(25)	140
第46図	97B区出土遺物実測図(9)	67	第101図	99A・B区出土分布図	141
第47図	97B区出土遺物実測図(10)	68	第102図	軒丸瓦実測図(1)	145
第48図	97B区出土遺物実測図(11)	69	第103図	軒丸瓦実測図(2)	146
第49図	97B区出土遺物実測図(12)	70	第104図	軒丸瓦実測図(3)	147
第50図	97B区出土遺物実測図(13)	71	第105図	軒丸瓦実測図(4)	148
第51図	97B区・97C区出土遺物実測図	72	第106図	軒丸瓦実測図(5)	149
第52図	99A区出土遺物実測図(1)	75	第107図	軒丸瓦実測図(6)	150
第53図	99A区出土遺物実測図(2)	76	第108図	軒丸瓦実測図(7)	151

第109図	軒丸瓦実測図 (8)	152	第167図	造形瓦類実測図 (1)	220
第110図	軒丸瓦実測図 (9)	153	第168図	輪造い瓦実測図 (1)	222
第111図	軒丸瓦実測図 (10)	154	第169図	輪造い瓦実測図 (2)	223
第112図	軒丸瓦実測図 (11)	155	第170図	輪造い瓦実測図 (3)	224
第113図	軒丸瓦実測図 (12)	156	第171図	輪造い瓦実測図 (4)	225
第114図	軒丸瓦実測図 (13)	157	第172図	面戸瓦実測図 (1)	226
第115図	軒丸瓦実測図 (14)	158	第173図	面戸瓦実測図 (2)	227
第116図	軒丸瓦実測図 (15)	159	第174図	丸瓦系道具瓦実測図 (1)	228
第117図	軒丸瓦実測図 (16)	160	第175図	丸瓦系道具瓦実測図 (2)	229
第118図	軒丸瓦実測図 (17)	161	第176図	平瓦系道具瓦実測図 (1)	230
第119図	軒丸瓦実測図 (18)	162	第177図	平瓦系道具瓦実測図 (2)	231
第120図	軒丸瓦実測図 (19)	163	第178図	熨斗瓦実測図	232
第121図	軒丸瓦実測図 (20)	164	第179図	伏間瓦・文字瓦実測図	234
第122図	軒平瓦実測図 (1)	166	第180図	木製品実測図 (1)	236
第123図	軒平瓦実測図 (2)	167	第181図	木製品実測図 (2)	237
第124図	軒平瓦実測図 (3)	168	第182図	木製品実測図 (3)	239
第125図	軒平瓦実測図 (4)	169	第183図	木製品実測図 (4)	240
第126図	軒平瓦実測図 (5)	171	第184図	木製品実測図 (5)	241
第127図	軒平瓦実測図 (6)	172	第185図	木製品実測図 (6)	243
第128図	軒平瓦実測図 (7)	173	第186図	木製品実測図 (7)	244
第129図	軒平瓦実測図 (8)	174	第187図	木製品実測図 (8)	245
第130図	軒平瓦実測図 (9)	175	第188図	木製品実測図 (9)	247
第131図	軒平瓦実測図 (10)	176	第189図	木製品実測図 (10)	248
第132図	軒平瓦実測図 (11)	177	第190図	木製品実測図 (11)	250
第133図	軒平瓦実測図 (12)	179	第191図	木製品実測図 (12)	251
第134図	軒平瓦実測図 (13)	180	第192図	木製品実測図 (13)	252
第135図	軒平瓦実測図 (14)	181	第193図	木製品実測図 (14)	253
第136図	金箔軒丸瓦実測図 (1)	182	第194図	木製品実測図 (15)	255
第137図	金箔軒丸瓦実測図 (2)	183	第195図	木製品実測図 (16)	256
第138図	金箔軒平瓦実測図	184	第196図	木製品実測図 (17)	257
第139図	丸瓦厚さ別出土重量図	186	第197図	木製品実測図 (18)	258
第140図	丸瓦実測図 (1)	187	第198図	土台木実測図 (1)	261
第141図	丸瓦実測図 (2)	188	第199図	土台木実測図 (2)	262
第142図	丸瓦実測図 (3)	189	第200図	土台木実測図 (3)	263
第143図	丸瓦実測図 (4)	190	第201図	土台木実測図 (4)	264
第144図	丸瓦実測図 (5)	191	第202図	土台木実測図 (5)	267
第145図	丸瓦実測図 (6)	192	第203図	土台木断面模式図	267
第146図	丸瓦実測図 (7)	193	第204図	杭実測図 (1)	268
第147図	平瓦実測図 (1)	194	第205図	杭・布など実測図	269
第148図	平瓦実測図 (2)	195	第206図	石製品実測図 (1)	272
第149図	平瓦実測図 (3)	196	第207図	石製品実測図 (2)	273
第150図	平瓦実測図 (4)	197	第208図	石製品実測図 (3)	275
第151図	平瓦実測図 (5)	198	第209図	石製品実測図 (4)	276
第152図	平瓦実測図 (6)	199	第210図	鉄製品実測図 (1)	278
第153図	平瓦厚さ別出土重量図	199	第211図	鉄製品実測図 (2)	279
第154図	丸瓦出土量分布図	200	第212図	鉄製品実測図 (3)	280
第155図	平瓦出土量分布図	200	第213図	銅製品実測図 (1)	281
第156図	丸瓦のコピキA・Bの出土量比分布図	203	第214図	銅製品実測図 (2)	282
第157図	飾瓦実測図 (1)	207	第215図	金属関連遺物実測図 (1)	284
第158図	飾瓦実測図 (2)	208	第216図	金属関連遺物実測図 (2)	285
第159図	飾瓦実測図 (3)	210	第217図	石垣SW01の石番対照図	289
第160図	飾瓦実測図 (4)	211	第218図	石垣に記された墨書 (1)	290
第161図	飾瓦・鬼瓦実測図	212	第219図	石垣に記された墨書 (2)	291
第162図	鬼瓦実測図 (1)	214	第220図	石垣に記された墨書 (3)	292
第163図	鬼瓦実測図 (2)	215	第221図	石垣に記された墨書 (4)	293
第164図	鬼瓦実測図 (3)	216	第222図	石垣に記された墨書 (5)	294
第165図	鯉瓦実測図 (1)	217	第223図	石垣に記された墨書 (6)	295
第166図	鯉瓦実測図 (2)	218	第224図	石垣に記された墨書 (7)	296

第225図	清洲城下町遺跡出土木製品樹種 (1)	315
第226図	清洲城下町遺跡出土木製品樹種 (2)	316
第227図	清洲城下町遺跡出土木製品樹種 (3)	317
第228図	清洲城下町遺跡出土木製品樹種 (4)	318
第229図	清洲城下町遺跡出土木製品樹種 (5)	319
第230図	清洲城下町遺跡出土木製品樹種 (6)	320
第231図	清洲城下町遺跡出土木製品樹種 (7)	321
第232図	清洲城下町遺跡出土木製品樹種 (8)	322
第233図	近世以降の漆器 (挽き物類) の木取り方法	337
第234図	漆塗り構造の分類	337
第235図	E P M A の分析結果	338
第236図	清洲城下町遺跡の地区別出土漆器資料の組成	339
第237図	各遺跡における年代別の蒔絵粉材料の変遷	340
第238図	各遺跡別の一括出土漆器資料の組成	340
第239図	代表的な樹種の顕微鏡写真	341
第240図	赤色系漆 (根根系漆器) の漆塗り構造	342
第241図	胎土重鉱物組成	345
第242図	胎土中の重鉱物	348
第243図	三角ダイヤグラム位置分類図	354
第244図	菱形ダイヤグラム位置分類図	354
第245図	Qt-Pl 図	354
第246図	SiO ₂ -Al ₂ O ₃ 図	355
第247図	FeO ₃ -MgO 図	355
第248図	K ₂ O-CaO 図	355
第249図	Au-Ag 図	355
第250図	胎土・金箔分析試料 (1)	356
第251図	胎土・金箔分析試料 (2)	357
第252図	胎土・金箔分析試料 (3)	358
第253図	胎土・金箔分析試料 (4)	359
第254図	胎土・金箔分析試料 (5)	360
第255図	胎土の顕微鏡写真 (1)	361
第256図	胎土の顕微鏡写真 (2)	362
第257図	金箔の顕微鏡写真 (1)	363
第258図	金箔の顕微鏡写真 (2)	364
第259図	昆虫分析試料の採取地点	369
第260図	遺跡から産出した貯穀性昆虫の顕微鏡写真	371
第261図	現在の貯穀性昆虫	372
第262図	清須城本丸地点の発掘調査区位置図	374
第263図	清須村古城絵図と調査区推定地点	375
第264図	93C・94A・96・97C区遺構配置図	376
第265図	94A区石垣・土台木	377
第266図	SW01 立面図	380
第267図	SW02 立面図	380
第268図	石垣 (SW01・SW02) 平面図	381
第269図	石垣 (SW01) と土台木	382
第270図	96区土台木平面図	385
第271図	96区土台木平面詳細図 (1)	386
第272図	96区土台木平面詳細図 (2)	387
第273図	96・97Cb区石垣とシガラミ遺構	389
第274図	94A区石垣・土台木写真	391
第275図	96区石垣・土台木写真 (1)	392
第276図	96区石垣・土台木写真 (2)	393
第277図	本丸東側遺構配置図	397

挿表目次

第1表	調査区別焼物類出土量一覧表	73
第2表	99A・99B区瀬戸美濃窯産陶器出土量一覧表	90
第3表	軒丸瓦・軒平瓦出土量一覧表	164
第4表	丸瓦厚さ別出土量一覧表 (重量)	201
第5表	丸瓦径別出土量一覧表 (重量)	202
第6表	丸瓦径別出土量一覧表 (破片数)	202
第7表	丸瓦厚さと径の対照表	203
第8表	平瓦厚さ別出土量一覧表 (重量)	204
第9表	平瓦厚さ別出土量一覧表 (破片数)	205
第10表	動物遺体出土一覧表	287
第11表	石垣墨書一覧表	288
第12表	木製品における樹種利用の比較	307
第13表	土台木の樹種	308
第14表	木製品の樹種同定結果 (1)	309
第15表	木製品の樹種同定結果 (2)	310
第16表	木製品の樹種同定結果 (3)	311
第17表	土台木の樹種同定結果	312
第18表	杭の樹種同定結果 (1)	313
第19表	杭の樹種同定結果 (2)	314
第20表	清洲城下町遺跡出土漆器の一覧表	329
第21表	清洲城下町遺跡出土漆器の調査結果	330
第22表	大脇城遺跡出土漆器の調査結果 (1)	331
第23表	大脇城遺跡出土漆器の調査結果 (2)	332
第24表	大脇城遺跡出土漆器の調査結果 (3)	333
第25表	岩倉城遺跡出土漆器の調査結果	333
第26表	勝川遺跡他出土漆器の調査結果	333
第27表	吉田城遺跡出土漆器の調査結果	334
第28表	名古屋城三の丸遺跡出土漆器の調査結果 (1)	335
第29表	名古屋城三の丸遺跡出土漆器の調査結果 (2)	336
第30表	ろくろ挽き物の用材分類一覧表	337
第31表	重鉱物分析結果	344
第32表	瓦の型式と胎土	346
第33表	重鉱物分析試料一覧	347
第34表	胎土性状表	352
第35表	化学分析表	353
第36表	タイプ分類一覧表	353
第37表	胎土・金箔分析試料一覧表	360
第38表	清洲城下町遺跡出土の昆虫化石分析結果	370
第39表	96区出土山茶碗類出土量	395
第40表	96区出土古瀬戸製品出土量	395

I 調査概要

1 調査の経緯

清洲城下町遺跡は愛知県西春日井郡清洲町を中心に、春日町・新川町にわたる広大な遺跡である。五条川河川改修・名古屋環状2号線建設・県道拡幅に伴う発掘調査が、昭和57年度から平成11年度までに約84000㎡が実施されている。

本書で対象とする調査は、平成7年度から平成11年度までに実施された発掘調査のうち、愛知県土木部が計画した五条川河川改修事業に伴う8調査区(95A区・95B区・96区・97A区・97B区・97C区・99A・99B区)である。この河川改修に伴う発掘調

査は、昭和61年度から平成11年度までに、北は清洲中学校から南は巡礼橋に至る区間で、40130㎡の面積で行われたことになる。

調査区のうち、95A区・95B区は遺跡南端に近く、名古屋鉄道本線鉄橋の南で五条川左岸部分にあたる。96区・97C区は清須城本丸の南東の地点で、かつて石垣が見つかった94A区と隣接する。97A区・97B区はその本丸部分の対岸である五条川左岸に設定された。99A・99B区は五条川左岸の長者橋を挟んだ地点に相当する。



第1図 遺跡位置図

2 調査の概要

(1) 95 A区・95 B区

調査期間 平成7(1995)年11月～平成8(1996)年3月

調査面積 95 A区 1500㎡、95 B区 1500㎡

調査担当者 水谷寛明・松田調・加藤博紀

概要 排土処理の関係で95 A区→95 B区の順に調査を行った。基本的に黄褐色砂までを重機等で表土剥ぎし、その下層の褐色砂以下を掘削し、灰黄褐色砂・シルト面で遺構を検出した。

95 A区では調査区はほぼ中央で、北西から南東に走る溝があり、北側では土坑・溝が確認できたが、南側には遺構が見られなくなる。95 B区の北端には95 A区で見られた溝と平行する溝が検出され、その南側からは土坑・溝が多数検出されている。また埋土中に多くの円礫を含む土坑も見つかっている。

(2) 96区

調査期間 平成8(1996)年12月～平成9(1997)年3月

調査面積 2000㎡

調査担当者 増澤徹・宮腰健司・原田幹

概要 重機での表土剥ぎ時点で、94 A区で確認されていた石垣の上部が見つかったため、その後の掘削においては、石垣から五条川までの落ち込みをSX01、下層の溝をSX02というように、94 A区で用いられた遺構表記をそのまま踏襲することとした。SX01の掘削は、礫・瓦が集中する層以下をSX01-2層、その上層をSX01-1層、さらにその上層で堤防の盛土以降の層は検出して遺物を取り上げていった。また、SX01の中で、石垣に近く特に礫・瓦が集中する部分をSX01礫層と呼称した。このSX01中より金箔瓦(軒瓦・飾瓦・鯉瓦)を含む大量の瓦が出土している。

石垣は北東から南西に走るSW01とそれに直行するSW02がある。これらの石垣と下部施設の多くは後世に抜きとられているが、SW01は長さ約11m、高さ1.8mで2～4段積み、SW02は長さ約5mで

基底石のみが残っている。2つの石垣下位には土台木が敷かれており、SW01は、溝を掘り、横木を置いてさらにその上に縦木が乗せられており、SW02は縦木のみで作られている。SW01下部の土台木の南西端を確認するため、排土置き場になっていた部分を拡張したところ、土台木を据えた溝は約44m続き収束することが判明した。さらにSW02の南東側には方形の突出部があり、L字状の杭列や溝が見つかっている。

石垣とその関連遺構の下層にはトレンチ観察により、溝SX02、欄、杭の存在が確認されたが、これらの調査に関しては、石垣の保存方法が決定しなかったため、次年度の調査に委ねることとなった。

(3) 97 A区・97 B区・97 C区

調査期間 平成9(1997)年11月～平成10(1998)年3月

調査面積 97 A区 700㎡、97 B区 500㎡
97 C区 600㎡

調査担当者 黒田哲生・石黒立人・浅井厚視

概要 97 A区に関しては3本のトレンチを開けたところ、調査区全体にわたり五条川の旧流路にあたることを確認された。流路内であるため湧水も激しいことから、トレンチの断面観察等を行い調査を終了した。

97 B区も五条川旧流路とその東岸部が検出された。調査区内には幾条かの流路とその川肩部分が確認されており、それに伴う整地層や杭列が検出されている。

97 C区は前年度の96区の下層部分の調査、94 A区と96区の間未調査部分の調査を行った。96区SW02下層には、逆十字状の丸杭と角杭で形成された杭列に、間を竹で編み込む様にした欄が検出された。また94 A区と96区間では、94 A区の石垣と土台木の続きが出土しており、その下層では倒壊した欄も見つかっている。さらに、移転保存に伴う石垣移動時に、石面に「雑賀」などの墨書されている石が19点確認されている。

(4) 99 A区・99 B区

調査期間 平成11(1999)年12月～平成12(2000)年3月

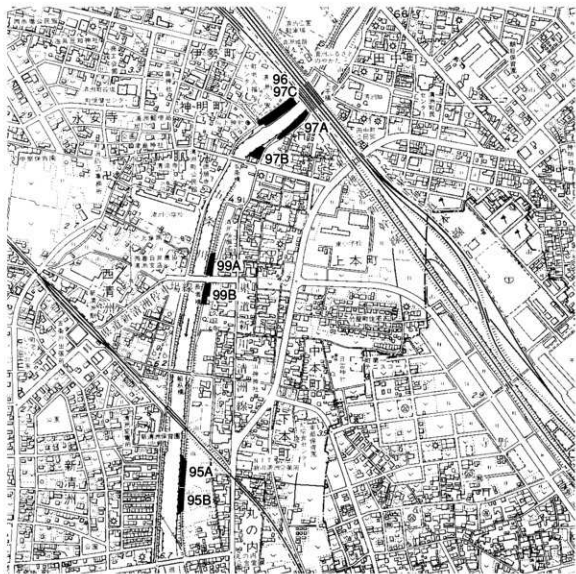
調査面積 95 A区 850 m²、95 B区 850 m²

調査担当者 春日井毅・伊藤太佳彦・木川正夫

概要 95 A区では、標高約2.5 m面を第1面とし、地山の黄褐色シルト直上を第2面として調査を行った。第1面では調査区北東約1/3程に、約50 cmの落ち込みが検出され、その中に畝状遺構が展開している。

さらに、調査区中央に南北方向の溝が走り、城下町後期の廃棄土坑や井戸が密に存在する。第2面では城下町前期の区画溝や天正地震の痕跡が確認された。

95 B区も、標高約2.4 m面を第1面とし、地山の黄褐色シルト直上を第2面として調査を行った。調査区の南側では江戸時代以降の旧堤防築堤による整地層がみられ、それにより城下町期の遺構が削平されていることが確認された。ただそれ以外の部分では95 A区同様多くの溝・土坑・井戸が検出されている。



第2図 調査区位置図

3 歴史的環境

(1) 発掘調査で明らかとなった清須城以前の様子

愛知県西春日井郡清洲町およびその周辺地域では、これまでに多くの遺跡で比較的大きな面積の発掘調査が道路建設など様々な理由によって実施されており、清洲城下町遺跡およびその周辺は古くから人々が継続して生活を営んできたことが判明してきた。遺跡の北東部に隣接して所在する朝日遺跡（遺跡番号21001）では縄文時代後期の遺構・遺物が確認されており、近在の遺跡の中では最も古いものとなっている。この朝日遺跡は弥生時代には東海地方屈指の拠点的な集落として位置付けられており、多くの成果が得られている。弥生時代の他の遺跡には清洲城下町遺跡の西側に土田遺跡（遺跡番号21005）が、南西部では阿弥陀寺遺跡（遺跡番号31008）などが所在している。古墳時代初期には、前方後方形墳丘墓などが確認された廻間遺跡（遺跡番号21003）がある他に、土田遺跡でも墳丘墓が確認された。古墳時代中期には朝日遺跡で墓域が、古墳時代後期になると清洲城下町遺跡田中町地区で集落遺跡が出現するようになる。この田中町地区では奈良時代から平安時代まで集落が継続している。平安時代後半（11世紀後半）には清洲城下町遺跡朝日西地区（朝日西遺跡）で集落遺跡が現れる。引き続き、平安時代末（12世紀後半）になると土田遺跡や清洲城下町遺跡田中町地区および御園地区などでも中世集落遺跡が出現している。南北朝時代（14世紀代）ころになると、清洲城下町遺跡朝日西地区や阿弥陀寺遺跡は集落は継続していくものの、土田遺跡や清洲城下町遺跡田中町地区などでは集落は消滅すると考えられている。しかも、南北朝・室町時代まで継続する集落遺跡も、15世紀中頃になると急速に遺跡は衰退すると考えられており、その後は清須城とそれに関連する遺構群に取って代わられてしまうのである。

(2) 築城期における清須城

考古学的な成果が着実に積み重なり、集落の動向が明らかになる一方で、古記録類による清須周辺の歴史像もある程度は明らかとなっている。「清須」という地名は14世紀初めの『神皇抄』に伊勢神宮領の「清須御所」として記載されたのが初出である。この「清須御所」がどこに比定されるかについては定説が全く無いが、清洲城下町遺跡朝日西地区（朝日西遺跡）に当てる考え方もできるかも知れない。

応永12（1405）年頃、室町幕府の管領で尾張守護職であった斯波義重が、鎌倉街道と伊勢街道の合流地点で交通の要衝となる清須に、守護所下津城の別郭として清須城を築城したと伝えられている。これまでの発掘調査の成果ではこの記述を表付ける積極的なデータは見られていないが、全く無視できないものと思われる。その後、文明8（1476）年に守護所下津城が戦乱によって焼かれ、守護所は清須城に移ったとされている。文明10（1478）年に清須城の尾張守護代織田敏定を岩倉城の織田敏広と齋藤妙椿が包圍攻撃し対立を深めたが、翌年両者と和議が成立し、尾張は上四郡を岩倉の織田敏広が、下四郡を清須の織田敏定が分割支配されることとなった。清須城と岩倉城は両者ともこのころ本格的に居館や城下の諸施設が展開するようになったと考えられ、清洲城下町遺跡の田中町北地区や岩倉城遺跡（岩倉城跡；市指定史跡；記念物番号1105）の発掘調査でその繁栄振りが明らかにされている。

(3) 城下町前期～大改修までの清須城

弘治元（1555）年に清須織田家当主信友が守護所波義統を殺害したのを契機に、郡古野城にあった織田信長は清須城を攻めて信友を切腹させ清須城に入城した。織田信長は次いで、永禄2（1559）年に岩倉織田家を滅ぼし、永禄3（1560）年に桶狭間の戦いで



- | | |
|----------|---------------|
| 1. 清洲城下町 | 12. 蕉池 |
| 2. 山中 | 13. 元屋敷 |
| 3. ニタ子 | 14. 権現山 |
| 4. 河田 | 15. 伝法寺野田 |
| 5. 南木戸 | 16. 下津城 |
| 6. 苗代 | 17. 大塚 |
| 7. 菊安賀 | 18. 森南 |
| 8. 下り松 | 19. 土田・廻間・松の木 |
| 9. 馬見塚 | 20. 朝日 |
| 10. 弥勒 | 21. 阿弥陀寺 |
| 11. 三ツ井 | 22. 大淵 |

第3図 清洲城下町遺跡と周辺の遺跡 (1/50,000)

勝利し、永禄4(1561)年に尾張守護斯波義銀を追放して勢力を伸ばし、永禄6(1563)年に小牧山城に居城を移転した(小牧越し)。小牧越し後の清須城下の様子については明らかではないが、該当する時期の遺物が少なくなる可能性が指摘されており(鈴木2002)、盛時から比べればその繁栄は衰えた可能性が高い。しかし、依然として家臣の本拠や家族は清須に残したままの状況も想定され、実際天正10(1582)年に本能寺の変の事後処理のための重要な会議が清須で行われたこと(清須会議)自体が、この時点においても清須が重要な位置を占めていたことを物語っているだろう。

小牧越し以降の天正3(1575)年には織田信忠が尾張の支配権を与えられており、翌年に織田信忠は岐阜城主になっていた。天正10(1582)年の清須会議後は、織田信雄が尾張、伊勢、伊賀の領主となった。当初信雄は伊勢長島に居城を構えていたが、天正地震と木曾川洪水を期に天正14(1586)年に清須城に本拠を移すことを決めた。このころ清須城は、城下町を三重の堀で囲み本丸には天守などが築造されるなど大きく改修されたと推測される。これを裏付ける資料が御園神明社前の内堀から出土した「天正十四」銘瓦である。大量に廃棄された瓦類に伴って出土したこの資料から、少なくとも瓦葺建物が天正14年に建造されたことがいえるだろう。実際には天正地震以前から瓦類の存在は明らかとなっており、瓦葺建物の存在がどこまで遡るのかは詳らかにできていない問題となっている。

(4) 大改修～清須越しまでの清須城

その後の天正18(1590)年に、織田信雄は追放され豊臣秀次が清須城主となった。秀次は翌天正19(1591)年に尾張国の検地を、文禄2(1593)年に清須町人の家数調査をそれぞれ実施し、尾張の支配力を高めた。このとき清須町人の家数2729軒であることが明らかとなっている。この後は、文禄4(1595)年に福島正則が、慶長5(1600)年に松平忠吉が、慶長12(1607)年に徳川義直が城主となり、清須城下町は最も繁栄した時期を迎える。しかし、慶長14(1609)年に徳川家康が名古屋城築城を決定し、翌慶

長15(1610)年に名古屋城築城が開始され城下町全体も移転が進められた(清須越し)。慶長18(1613)年に清須越しはほぼ完了したといわれ、後に美濃街道の宿場町として清須宿が設けられ、尾張三宿として町並みが栄え続けたと伝えられる。

Ⅱ 遺 構

1 95A・B区

(1) 溝

A SD01・02・03

SD01・02・03は、95A区の北側を南北に走る溝群となる。SD01は幅60cm・深さ約15cmで長さ9.5mを測り、それと平行するように延びるSD02は幅80～130cm・深さ約25cmを測る。SD03はさらに南側にあるもので、幅80cm・深さ約25cmで長さ9mにわたって検出されている。SD02の時期は城下町Ⅲ-2期になる。

B SD04

95A区中央を北北西から南南東に向いて走る幅60cm・深さ約20cmの溝で、褐色細粒砂が埋土となる。時期は城下町Ⅲ-2期になる。

C SD101

95B区の北端を北北西から南南東に走る幅50cm・深さ約5cmを測る溝となる。南端部は約10cm程深くなり、やや西に振れて拡張しており、中層から上層に5～10cmの小礫を含む。さらにその先には、同様に小礫を含むSK207が存在する。時期は城下町Ⅲ-2期になる。

D SD102

95B区中央を東西に走る幅190～240cm・深さ約50cmの溝で、にぶい黄褐色シルトが埋土となる。時期は城下町Ⅲ-2期になる。

E SD107・108・109

95B区の中央から南を東西に走る溝で、SD107は幅150cm・深さ20cm、SD109は幅110cm・深さ約8cmを測り東側で途切れる。SD108は幅70～140cm・深さ25～45cmの大きさとなる。3条の溝とも時期は城下町Ⅲ-2期になる。

F SD501

95B区の南の下層で検出された溝で、ほぼ東西に走る溝が直角に北方向に折れる。規模は幅140cm・深さ約30cmを測り、灰黄褐色極細粒砂が埋土となる。

G SD502・503

SD502は、SD501の南約180cmのところを東西に平行して走る幅180～200cmの溝で、底面のわずかな部分のみが残存していた。東側はSX501によって切られており不明である。そのSX501からSD501に直交するように南に走る、深さ約70cmのSD503が検出された。SD503は東肩が不明で西肩のみが確認されている。

(2) 土坑

A SK26

95A区にあるSD03の南端の南で検出された土坑で、東側がSK27に切られているが、大きさは短径58cm・深さ27cmの楕円形を呈し、城下町Ⅲ期の遺物がまとまって出土している。

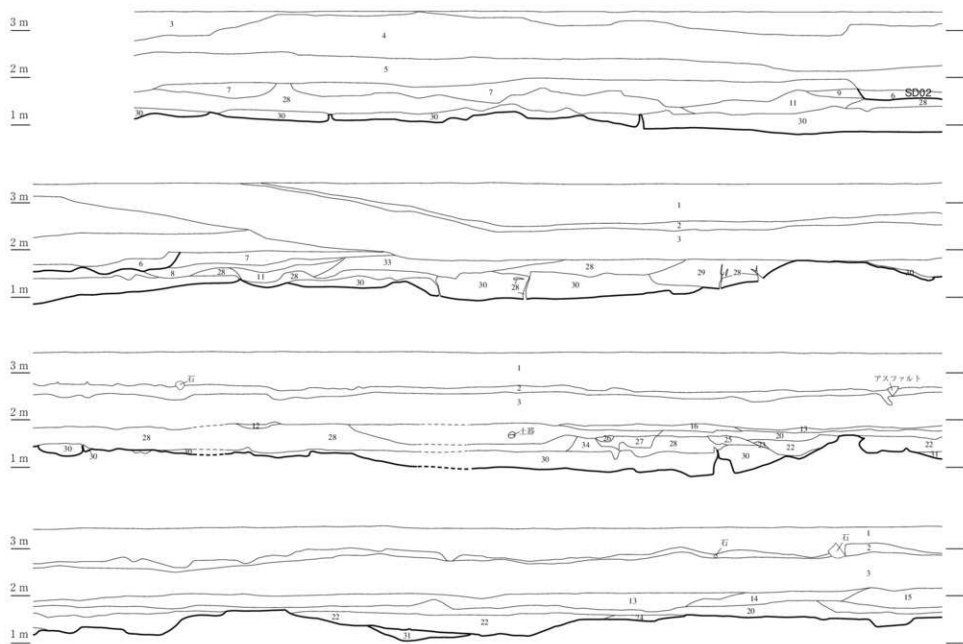
B SK207

95B区の北で、SD101の先端の南西にある長径180cm・短径170cm・深さ60cmを測る土坑となる。最上層に、長径約50cmの礫2個を含む3～10cmの礫が多数出土している。時期は城下町Ⅲ-2期になる。

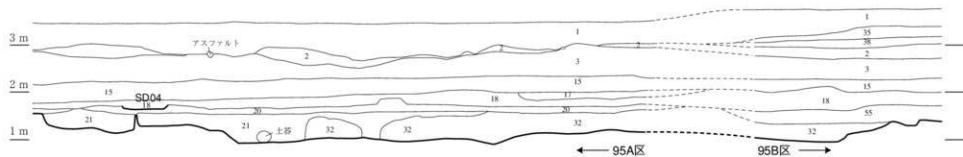
(3) 井戸

A SE101

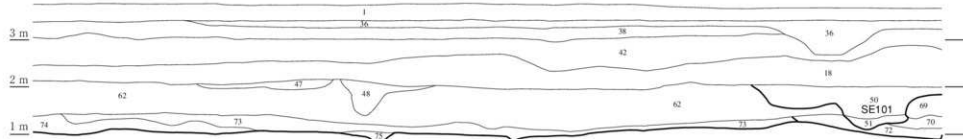
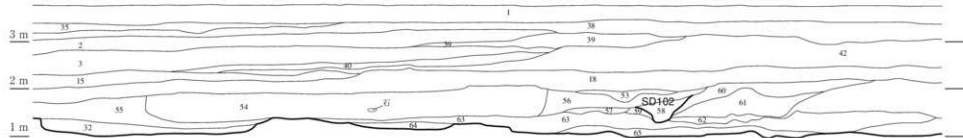
95B区中央部の東壁沿いに検出された井戸で、西肩部分180cm程のみが検出されている。東壁セクションの観察では、底面の径140cm程の部分がさらに落ち込んでおり、桶・曲物等の内部構造物があったと推定される。



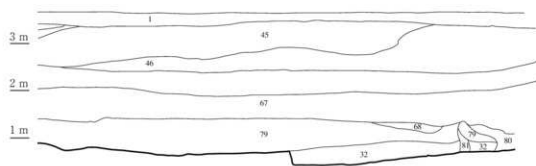
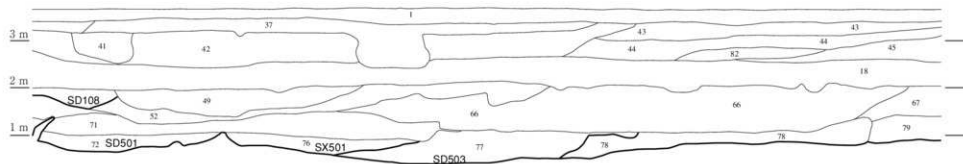
第4図 95A・B区東壁セクション(1) 1/80



- | | | | |
|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 1 10YR6/4 にぶい黄褐色細粒砂 (小石混じり) | 11 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 (有機物含む) | 21 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト | 31 10YR4/1 褐色細粒砂 (粘土混じり) |
| 2 10YR4/3 にぶい黄褐色砂 | 12 7.5YR3/1 黒褐色細粒砂 (有機物含む) | 22 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト (砂混じり) | 32 10YR4/2 灰黄褐色粘土 |
| 3 10YR4/4 褐色細粒砂 | 13 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト | 23 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 | 33 10YR6/1 褐色シルト (砂混じり) |
| 4 7.5YR6/1 褐色シルト | 14 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 | 24 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂 | 34 10YR3/1 黒褐色細粒砂 |
| 5 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂 | 15 7.5YR5/1 褐色細粒砂 (シルト混じり) | 25 10YR5/4 灰黄褐色細粒砂 | 35 2.5Y/42 暗褐色細粒砂 |
| 6 7.5YR5/1 褐色細粒砂 (一部粘土含む) | 16 10YR6/0 にぶい黄褐色細粒砂 | 26 7.5YR4/4 褐色細粒砂 | 36 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 (小石混じり) |
| 7 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 | 17 7.5YR5/4 にぶい褐色細粒砂 | 27 10YR2/1 黒色シルト (有機物含む) | 37 7.5YR5/2 褐色中粒砂 |
| 8 10YR6/4 にぶい黄褐色細粒砂 | 18 7.5YR4/4 褐色細粒砂 | 28 10YR5/1 褐色砂 | 38 10YR4/4 褐色中粒砂 |
| 9 10YR3/2 黒褐色細粒砂 (有機物含む) | 19 10YR5/2 灰黄褐色シルト | 29 10YR4/3 にぶい黄褐色砂 | 39 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 |
| 10 10YR5/2 灰黄褐色シルト (砂混じり) | 20 7.5YR5/1 褐色シルト | 30 10YR4/2 灰黄褐色粘土 | 40 10YR4/4 褐色細粒砂 |



第5図 95A・B区東壁セクション(2) 1/80



- 41 10YR4/4 褐色細粒砂 (小石混じり, 枕瓦)
- 42 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂
- 43 10YR4/4 褐色細粒砂 (一部黒灰色細粒砂含む)
- 44 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂
- 45 10YR3/4 暗褐色細粒砂
- 46 10YR6/2 灰黄褐色シルト (砂混じり)
- 47 10YR3/3 暗褐色中粒砂 (一部有機物含む)
- 48 10YR5/4 にぶい黄褐色中粒砂
- 49 10YR4/4 褐色中粒砂
- 50 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂
- 51 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂
- 52 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂

- 53 10YR3/3 暗褐色中粒砂 (一部有機物含む)
- 54 2.5Y5/3 黄褐色中粒砂
- 55 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂
- 56 2.5Y5/3 黄褐色中粒砂
- 57 2.5Y5/2 暗灰黄色中粒砂
- 58 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
- 59 10YR5/2 灰黄褐色中粒砂
- 60 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂
- 61 10YR5/2 灰黄褐色シルト
- 62 2.5Y5/3 黄褐色中粒砂
- 63 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂
- 64 10YR5/2 灰黄褐色シルト

- 65 10YR5/2 灰黄褐色シルト
- 66 2.5Y5/3 黄褐色細粒砂
- 67 10YR4/4 褐色細粒砂
- 68 10YR5/1 褐色細粒砂
- 69 2.5Y5/3 黄褐色中粒砂
- 70 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂
- 71 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂
- 72 10YR5/2 灰黄褐色シルト
- 73 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂
- 74 10YR5/2 灰黄褐色シルト
- 75 10YR5/2 灰黄褐色シルト
- 76 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂

- 77 10YR5/2 灰黄褐色シルト
- 78 10YR5/2 灰黄褐色中粒砂
- 79 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂
- 80 2.5Y5/3 黄褐色細粒砂
- 81 7.5YR5/6 明褐色中粒砂
- 82 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 (シルト混じり)

第6図 95A・B区東壁セクション (3)

1/80

2 96・97C区

「1-2調査の概要」でも述べたとおり、96・97C区は五条川の右岸で、須須城本丸の南東側の調査区にあたる。96区は上層の石垣を主とした部分を、97Ca区は北西側にある94A区との間の部分を、97Cb区は下層の欄列を主とした部分を調査した。

(1) 河道

A SX01

田五条川になる遺構で、本来ならばNR(自然河道)とすべきものであろうが、94A区での表記と整合させるために、本書も同一のSX01を用いた。石垣・欄列や突出部がある肩部分と、検出した最底面との比高は1~1.2mを測る。北西側の肩付近ではやや急激に落ちがみられるが、全体にはゆるやかに南東側に向かってゆるやかに立ち上がり部分を確認しており、北西側になる94A区で検出された石垣からの距離は約30mとなる。埋土は上層50cm程が江戸時代以降の堆積であるシルト層で、その下層が城下町期の堆積となり、遺物取り上げ時点では、前者を「検出」とし、後者のみを「SX01」とした。さらに城下町期の埋土は、礫・瓦を多量に含む上層と砂質が強くなる下層に分け、1層・2層と呼称した。水流を示す砂の堆積は、最下層でしか確認できず、ほとんどの埋土はシルト質で、ゆるやかな流れもしくは淀んだ場所であったことが想定できる。調査時の底面レベルは標高約80cmで、SX01はさらに落ち込むことが確認されたが、湧水が激しいため、下層への掘削は断念した。

(2) SW01関連遺構

A 石垣(SW01)

調査では、表土を剥いだ時点で石垣の最上部が検出され、前面部分を中心に多量の礫・瓦が出土している。

突出部の南西端より、SX01の肩に沿って南西方向に延びる石垣である。崩落が極めて激しく、長さ10.8mのみが残存していた。依存状況が良い部分で確認

すると、SW01は基本的に、50~100cmの大きさの立方体の石を4段に積み上げており、石の間に20~40cmのやや大きめの自然石や10cm以下の栗石が詰められている。最下段に置かれた根石とその上3段に積み上げられた石垣石は、部分的な加工は行われているが、面を作り出すようなことはされておらず、比較的平坦な面が前面にくるように配置されている。またわずかであるが、石垣間の詰め物には、自然石以外に五輪塔や木杭が使用されている。石垣石は、上位にいくに従い後方に控えながら積み重ねられており、現状での角度は60~65°となる。石垣の背面で、堀肩との間には裏込めとなる10cm以下の多量の栗石が、幅40~60cmの間に詰め込まれていた。また、根石・石垣石には、19点26カ所の墨書が確認されている。

B 溝

SD01

SD01は、溝を目的として掘削されたものではなく、石垣に用いられた石を抜き取るため掘削した結果、溝状になったものである。特に南西部では大規模な「抜き取り」が行われたようで、根石・土台木とも残存しておらず、不定形に乱雑に掘り込まれている。また北東部の土台木についても、「抜き取り」時に移動したと考えられるものが存在する。これらの作業が行われた時期については、不明である。

SD02

石垣を構築するために掘削された溝である。幅3~3.8m、深さ0.5~1.5mを測り、断面形は台形を呈する。SW01が残存している部分では、根石部分にあたる下位70cm程の高さまで青灰色シルト土・灰色シルトで埋められていた。また底面では、平坦にするために埋められた灰色シルトが部分的みられた。

溝最上部より、石垣に平行して長さ約2m・厚さ14cmの丸太杭が横位の状態で2本出土している。根石の上端に接することから石垣の押さえかとも考えられるが、2段目の石垣石とはやや距離があり、用途は不明である。

土台木

SD02に直交するように置かれた32本の胴木と7本の横木からなる。

胴木・横木とも遺存状況が良好であったのは、石垣の下位にあたる部分であるが、調査途中に、湧水と五条川からの流水のため、浮き上がってしまい、胴木25・26・28・30と西-1・3、東-1・3の横木の出土位置が不明となっている。また現位置にあると思われるその他の胴木の中にも、幾分か移動している可能性もある。そのため第12・13図では、取り上げ後に実測した横木・胴木をはめ込んだのである。

胴木は長さ260～280cm・幅30～50cm・厚さ20～30cmを測り、上下面・側面・小口面に面取が施されている方形・長方形のもの、半円形のものがある。上面には横木が渡るように、幅20～30cm・深さ5～10cmの挟り部が平行して2カ所設けられている。胴木は各々90～100cmの間隔で、石垣の平面形に沿って、また横木を挟り部にはめ込むことができるように、幾つかのグループごとに少しづつ角度を変えて配置されている。また石垣の崩落を防止するために、胴木の前面部がわずかに高く上げられている。さらに胴木16の上面では、墨書らしきものが見つかっているが、不明瞭であり、確認はされていない。

完存している横木のうち最も大きなものは東-1で、長さ540cm・幅22cm・厚さ18cmを測るもので、西-3がやや小振りなもの、西-1・2、東-2が長さ4m、東-3が約250cmとなる。これらの横木は、両端に挟り込み部分があって、重ねあわせることができるようになっており、同一面にある東-2・3や、上下対称面にある東-1、西-1・3や、同一面にありながら片方の挟り面が不明瞭な西-2がある。また、横木を重ねた部分を動かないように補強するために挟り部にはほぞ穴が穿たれているもの西-2、東-1・2、ほぞ穴がないもの西-1、東-3がある。石垣のない部分の、胴木19～22の南東側の挟り部で横木21が検出されているが、遺存状況は極めて悪いものであった。また、胴木12の南東側でも横木らしき木片が確認されている。

土台木に用いられた樹種は多様で、アカマツ・コウヤマキ・ケヤキなどがみられる。

これら土台木（胴木・横木）及びその上位の根石を支えるために前面部を中心に、検出されただけで

89本の杭が打ち込まれている。これらの杭は長さ80～100cm、太さ約12cmの樹皮が残存した芯もち材で、アカマツがほとんどをしめており、その他クヤリやナギが使われている。

(3) 石垣 (SW02)

SW01の北東端から直交するように南東に根石3個分が検出されている。用いられた根石・石垣間に詰め込まれた石・栗石ともSW01と同規模となる。土台木の遺存状況は良好ではなかったが、約40cmの間をおいて2本の横木が直接地面上に置かれており、南東端の下位のみ胴木が存在する。根石・横木の前面には、長さ80～100cmの樹皮が残存した芯もち杭が9本の杭打ち込まれている。なお、SW02の北東側は削平されているため、現状では低くなっている。

(4) 石垣 (SW03)

97Ca区の調査区端で検出されたもので、94A区の土台木・横木に続いていくものである。ただ94A区では根石・石垣石は検出していないが、南東端にあたると思われるこの部分では、80cm程の根石が2個確認されている。

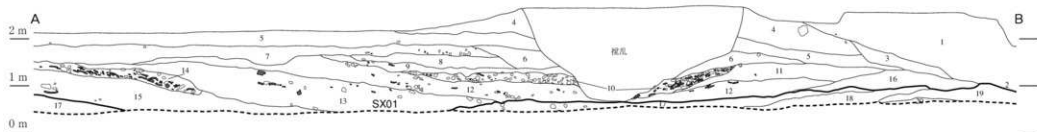
(5) 溝

A SD03

突出部分の南東辺に沿うように北東から南西に走る、幅3～6mの不定形な溝で、流水を示す砂層が埋土となっている。北東・南西端は不明瞭で、そのままSX01につながっていくようである。

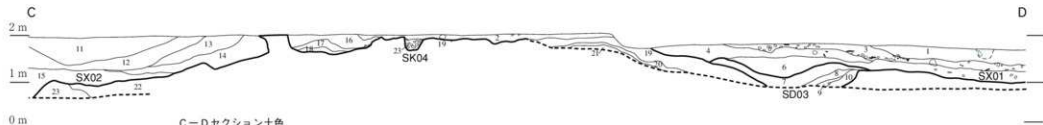
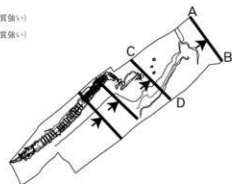
B SX02

溝状の遺構であるが、94A区で呼称されたSX02という名称をそのまま使用する。石垣遺構の下層から検出された溝状の遺構で幅約7mを測り、底面は湧水のため不明瞭であるが、浅いところで約90cmを測る。南東肩および南西端はそのままSX01と繋がるようではっきりとせず、北東肩はSW01があるあたりで屈曲すると思われる。埋土はシルトが主体で、木製品や植物遺体が多量に出土している。



A-Bセクション土色

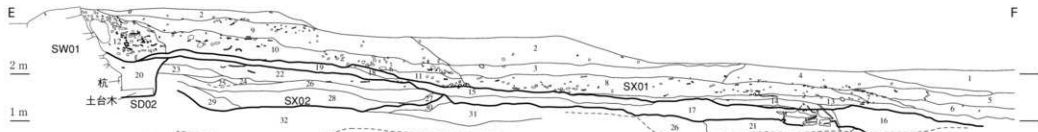
- | | | |
|--------------------------|-------------------------------------|---------------------------|
| 1 10YR4/1 黒灰色シルトとにぶい黄褐色砂 | 9 5BG5/1 青灰色シルト | 17 10BG4/1 暗青灰色シルト (粘質強い) |
| 10YR5/4 黄褐色砂の互層 | 10 5BG5/1 青灰色シルト | 18 10BG3/1 暗青灰色シルト (粘質強い) |
| 2 10YR4/1 黒灰色シルト | 10YR5/2 オリープ灰色砂を含む (礫・瓦を多量に含む) | 19 10YR5/0 にぶい黄褐色砂 |
| 3 10YR5/2 灰黄褐色砂 | 11 7.5Y5/2 オリープ灰色シルト | 20 7.5YR5/8 明褐色砂 |
| 4 10YR5/2 灰黄褐色シルト | 12 10Y5/2 オリープ灰色シルト | |
| 5 10YR4/1 黒灰色シルト | 5BG5/1 青灰色シルトアロツクを含む | |
| 6 10YR5/1 黒灰色シルト | 13 5BG5/1 青灰色砂質シルト | |
| 7 10YR5/2 オリープ灰色シルト | 10Y3/2 オリープ灰色シルトアロツクを含む | |
| 8 10YR5/2 オリープ灰色シルト | 14 5BG5/1 青灰色砂質シルト | |
| 5BG5/1 青灰色シルトアロツクをわずかに含む | 10Y3/2 オリープ灰色シルトアロツクを含む (礫・瓦を多量に含む) | |
| | 15 10BG5/1 青灰色砂層 | |
| | 16 7.5YR5/2 灰オリープ砂質褐色細粒砂 | |



C-Dセクション土色

- | | | | |
|-----------------------|------------------------|--------------------------|--------------------|
| 1 10YR5/1 黒灰色シルト | 8 2.5Y6/8 明黄褐色砂 | 15 5B2/1 暗青灰色シルト (粘質シルト) | 22 2.5Y5/4 黄褐色砂 |
| 7.5YR4/6 褐色シルトの互層 | 9 5B5/1 青灰色シルト | 16 5Y4/1 灰色シルト | 23 10YR6/4 にぶい黄褐色砂 |
| 2 2.5Y6/1 黄褐色シルト | 10 2.5Y6/8 明黄褐色砂 | 17 10Y6/0 にぶい黄褐色砂 (鉄分多い) | 24 2.5Y6/8 明黄褐色砂 |
| 3 10YR4/1 黒灰色砂 (礫を含む) | 10YR4/1 黒灰色砂を含む | 18 10Y6/0 にぶい黄褐色砂 | 25 5B4/1 暗青灰色砂 |
| 4 10YR4/1 黒灰色砂 | 11 2.5GY4/1 暗オリープ灰色シルト | 10Y5/1 黒灰色シルトを含む | |
| 5 10YR4/1 黒灰色シルト | 12 5B5/1 暗青灰色シルト | 19 10YR/1 灰白砂 | |
| 10YR6/8 明黄褐色砂の互層 | 13 2.5Y4/2 暗灰黄色砂 | 20 7.5YR5/6 明褐色砂 | |
| 6 2.5Y6/8 黄褐色砂 | 14 2.5GY5/1 オリープ灰砂 | 21 10YR4/1 黒灰色シルト | |
| 10YR4/1 黒灰色シルトの互層 | | | |
| 7 10YR4/1 黒灰色シルト | | | |
| 2.5Y7/8 黄褐色を含む | | | |

第7図 96区セクション (1)

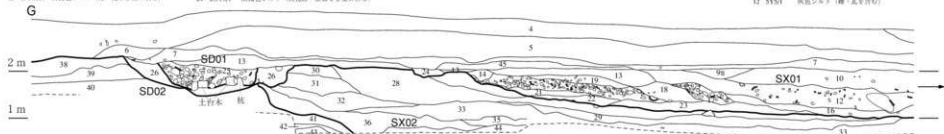
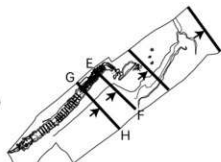


E-Fセクション土色

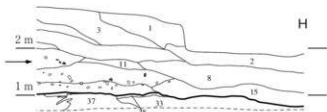
- | | | |
|--|----------------------------------|---------------------|
| 1 10YR4/5 にごい黄褐色シルト | 13 10YR4/1 黒灰色砂 | 25 目礫 |
| 2 10YR6/6 黄褐色砂質シルト | 14 10YR4/1 黒灰色砂質シルト | 26 5S4/1 暗青灰色シルトを含む |
| 3 2.5GY3/1 オリーブ灰シルト | 15 7.5YR5/1 暗灰色砂 | 10YR3/1 黒褐色シルトを含む |
| 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト | 16 5B6/4 暗青灰色シルト (粘質シルト) | 27 7.5YR5/1 暗灰色砂 |
| 5 10YR5/1 にごい黄褐色細粒砂 (礫・瓦を少量含む) | 17 10B6/4 暗青灰色砂質シルト | 28 5B4/3 暗青灰色シルト |
| 6 10YR4/1 黒灰色砂 | 18 2.5Y7/3 洗青砂 | 29 5B4/3 暗青灰色シルト |
| 7 5YR5/1 灰色砂 | 19 2.5GY5/1 オリーブ灰シルト | 7.5YR5/1 暗灰色砂を含む |
| 8 10YR4/1 黒灰色砂質シルト (礫・瓦を多量に含む) | 20 5B5/3 青灰色シルト | 30 5B4/3 暗青灰色シルト |
| 9 10YR5/6 黄褐色シルト
10YR6/2 灰黄褐色シルトアロックを含む | 21 10YR5/6 黄褐色砂 | 31 N2/1 黒色シルト (粘質砂) |
| 10 10YR5/6 黄褐色シルト (礫・瓦を多量に含む) | 22 10YR3/1 灰褐色シルト (泥・砂物・木製品を含む) | 32 10B6/4 暗青灰色粘板 |
| 11 2.5Y3/2 暗灰黄色シルト (礫・瓦を含む) | 23 2.5Y4/1 黄灰色シルト | |
| 12 10YR5/6 黄褐色シルト (礫・瓦を多量に含む) | 24 2.5Y3/1 黒褐色シルト (炭化物・砂物を多量に含む) | |

G-Hセクション土色

- | | |
|---------------------------|------------------------------------|
| 1 10YR4/5 にごい黄褐色シルト | 7 10YR5/1 暗灰色シルト |
| 2 10YR6/6 黄褐色砂質シルト | 8 10K4/1 暗赤褐色シルト |
| 3 10YR4/4 褐色シルト | 9 10YR5/1 暗灰色シルト (鉄分を含む) |
| 4 7.5YR6/6 黄褐色砂質シルト | 10 10YR5/1 暗灰色シルト (鉄分を多く含む、礫・瓦を含む) |
| 5 10YR5/6 黄褐色シルト | 11 10YR4/1 黒灰色砂 |
| 6 10YR6/2 灰黄褐色シルトのアロックを含む | 12 5Y5/1 灰色シルト (礫・瓦を含む) |

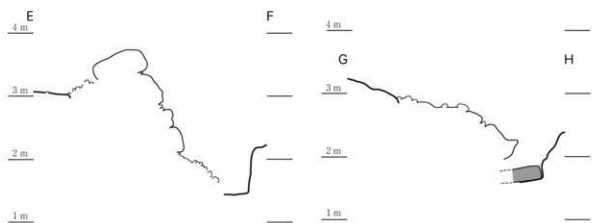
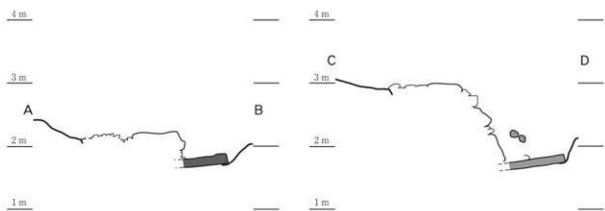


H

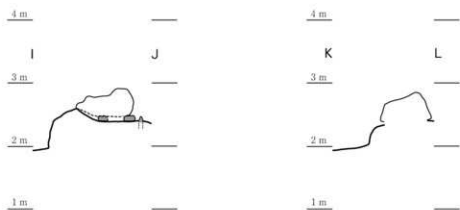


- | | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------|
| 13 7.5GY5/1 緑灰色シルト | 25 7.5Y4/1 灰色砂質シルト (礫を含む) | 37 5YR4/8 赤褐色砂 |
| 14 10YR5/1 黒灰色シルト | 26 7.5Y4/1 灰色シルト | 38 10Y5/1 灰色砂質シルト |
| 15 10YR5/1 暗灰色シルト
2.5Y6/6 明黄褐色の瓦層 | 27 5GY5/1 オリーブ灰色砂質シルト | 39 10Y5/2 オリーブ灰色シルト (粘質砂) |
| 16 10YR4/1 暗灰色シルト (礫・瓦を含む) | 28 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色シルト | 40 10Y4/2 オリーブ灰色シルト (粘質砂) |
| 17 10YR5/2 灰黄褐色シルト | 29 10B6/4 暗青灰色シルト | 41 10B6/5 青灰色シルト |
| 18 7.5GY4/3 暗緑灰砂質シルト | 30 2.5YR5/1 赤灰砂質シルト (砂物を多量に含む) | 42 10B6/5 青灰色シルト |
| 19 7.5GY3/3 緑灰色シルト (礫・瓦を含む) | 31 2.5GY5/1 オリーブ灰色砂質シルト (砂物を多量に含む) | 43 5G2/1 オリーブ黄色シルト (粘質砂) |
| 20 10YR5/2 灰黄褐色シルト (礫・瓦を多量に含む) | 32 5B4/1 暗青灰色シルト (砂物を多量に含む) | 44 5G3/1 暗緑灰粘板 |
| 21 10YR6/6 黄褐色砂 | 33 5B4/1 暗青灰色シルト | 45 2.5GY5/1 オリーブ灰シルト |
| 22 10YR5/1 暗灰色シルトの瓦層 | 34 5N1 灰色シルト | |
| 23 10YR6/6 黄褐色砂 | 35 5Y5/6 オリーブ粘砂 (有機物を含む) | |
| 24 10YR5/1 暗灰色砂質シルト (鉄分多い) | 36 5B4/1 暗青灰色シルト | |

第8図 96区セクション(2)



SW01



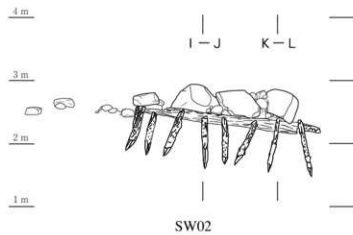
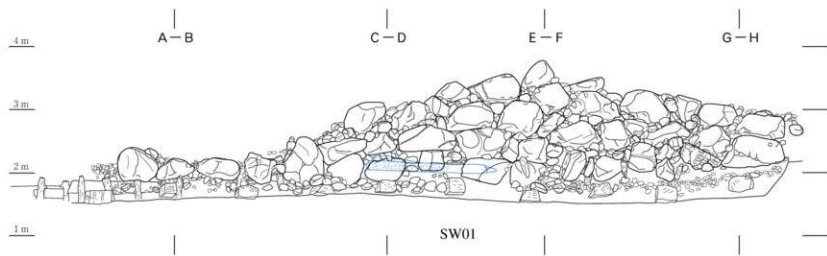
SW02

第9图 SW01・SW02断面图

(1/60)

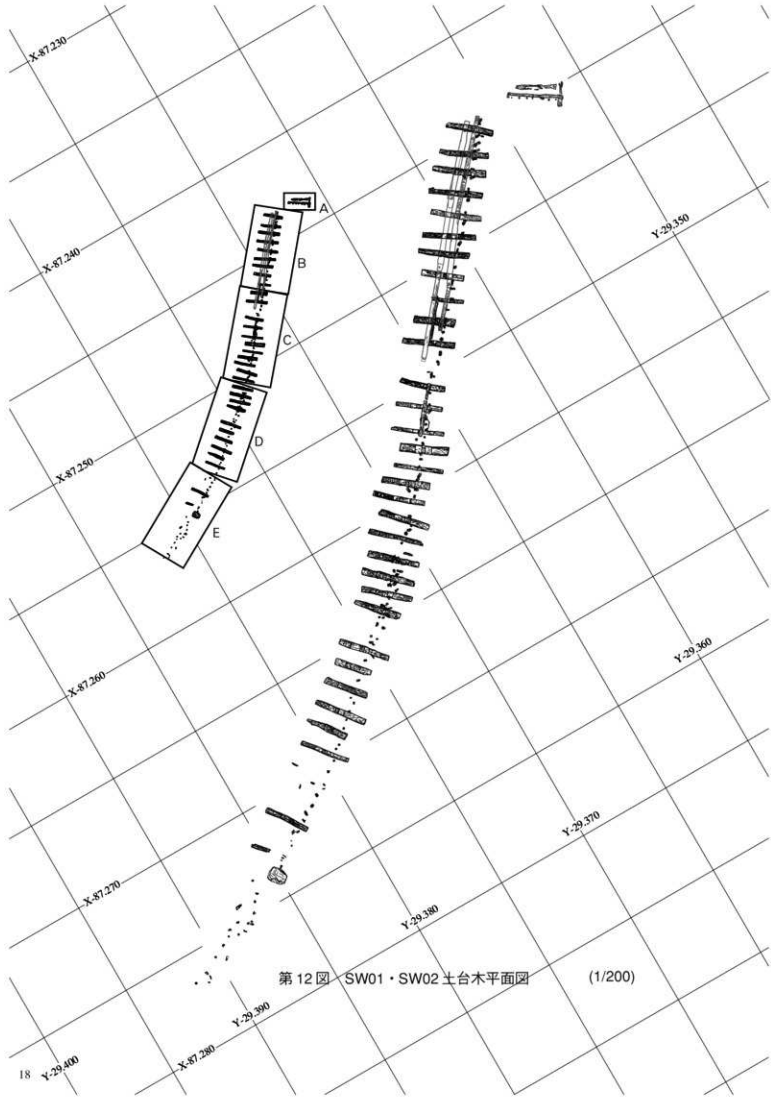


第10図 SW01・SW02平面図
(1/60)



第 11 図 SW01・SW02 側面図

(1/60)



第 12 図 SW01・SW02 土木平面図

(1/200)

C SD04・05

SW02付近にある不定形な落ち込みである。SD04はSW02の南西側にあり、長径3.6m・短径1.6m・深さ13cmを測る。SD05は南東側にあり、長径9.1m・短径2.7m。深さ25cmを測る。両者とも黄褐色砂が埋土になっており、下層の柵列に伴った溝である可能性が高い。

(6) 土坑

A SK01・02・03・04

突出部にあるSA01・02・03にコ字状に囲まれた部分の中央部から開口部に位置する、長径1m前後の土坑である。この中でSK04は55cmの深さがあり、中層から上層にかけては10～20cmの栗石が出土している。

B SK05

調査時には土坑として認識していたが、掘り込みはごく浅く、集石遺構として捉えるべきであるかもしれない。石は径60cmを測る大型の自然石が1個と、20～30cmの中型のもの、5～20cmの小型のものが多数検出されている。

(7) 柵列

A 上層で検出された柵列

SA01・02・03

96区の上層遺構の検出時に確認しているが、打ち込まれた層を特定することはできなかった。そのため比較的新しい時期の遺構であるとの認識にたつて調査を進めていったため、充分な記録を採ることがなされていない。

SA01は北東-南西方向の19本、SA02は北西-南東方向の15本と97Ca区の本、SA03は北東-南西方向の35本の杭で構成されており、平面形は南西部が開口部となるようなコ字状を呈している。またSA02が97Ca区に続いていく可能性が高く、そうするとSW03の延長上にある北西-南東方向の柵列とそれに直交する2条の柵列と見ることできる。杭は5～12cmのアカマツを主体とした丸杭で、ほぼ垂直に打ち込まれている。杭の長さは50～80cmを測

るが、突出部が削平を受けて石垣SW01・02が検出された地点より低くなっていることを考えると、現状より長いものであったと推定できる。柵列の長さは、全長がわかるSA03が27.9mを測り、SA01が25.6mで、SA02にまで続くとするSA03と同じ長さになるとと思われる。SA02は、96区部分が5.9m、97Ca区部分が2.3mあり、未掘部分をいれると9.1mとなる。杭間は30～60cmとばらつきがあるが、38cmと60cm間隔となっているものが最も多くみられる。また、SA01はほぼ直線上に並ぶが、SA02では方向を違えている部分が2カ所、SA03では2～3カ所ある。特にSA03は、北東側のやや曲線状になる部分や、杭間が狭い部分、北西側に平行するように打ち込まれている部分などがあり、SA01・02に比べ、不定形が目立っている。

またSA02の北東側で、突出部のコーナーに沿って弧状に並ぶ4本の杭も柵列である可能性がある。これらの杭もSA01などと同様な大きさで、1.1～1.3mの間隔をもって打ち込まれている。

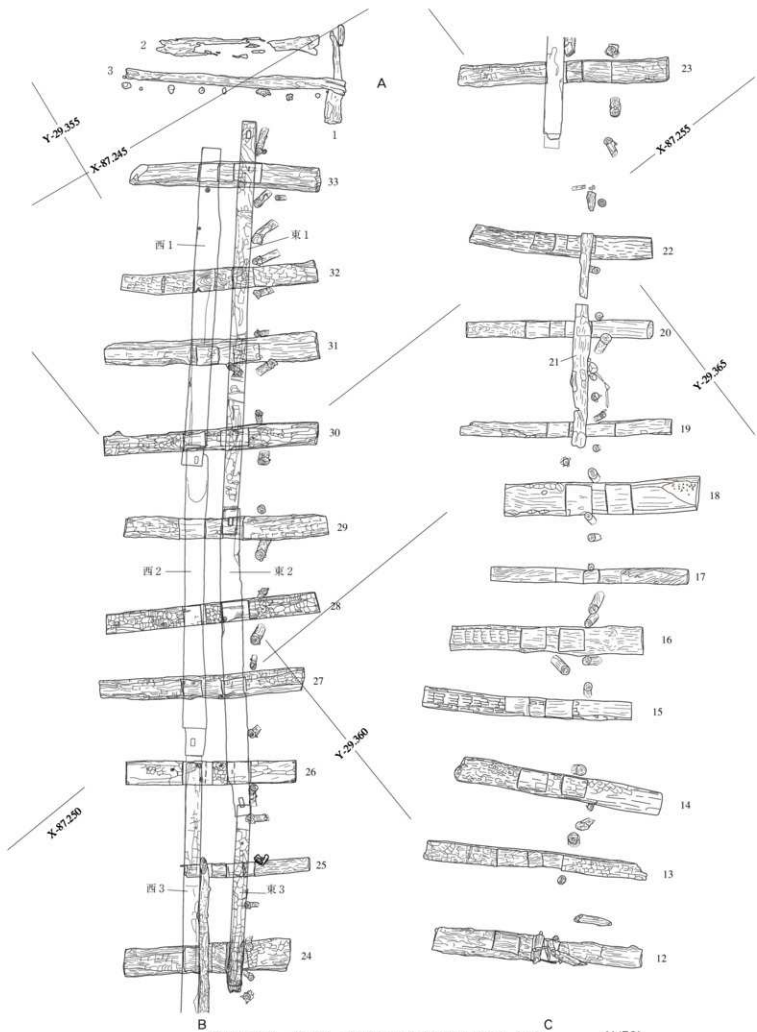
B 下層で検出された柵列

石垣SW01・02の下層に作られた5条の柵列群である。柵列群のうち、主要なものはSA06・07・08であり、平面形が上層の柵群と対称的に北東側が開口部となっている。また南北軸は上にある石垣よりも東に振れており、上層の柵列群と同様の方向を向いている。ただ上層の柵列群と大きく異なる点として、丸杭だけではなく大型の角杭が用いられていること、杭が垂直だけではなく斜めに打ち込まれていること、杭に幅2～3cmの宍形または半截した竹を巻き付けて「シガラミ」としていることが確認できたことがあげられる。

下層調査時には湧水が激しく、柵列の崩壊が予想されたため、杭の下端部分については計測点をもとに推定したものを第16・17図に掲載している。

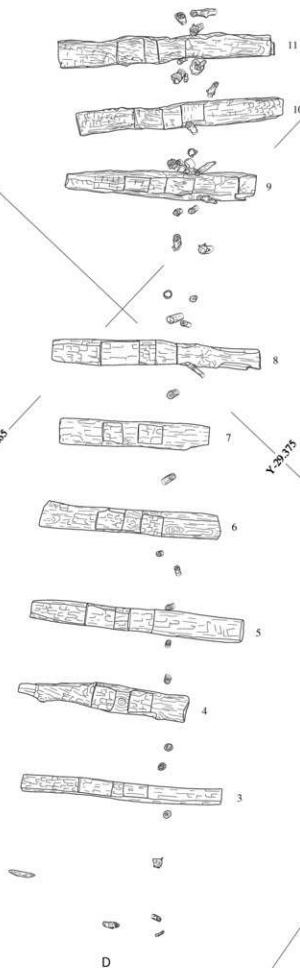
SA04

側面が面取された四角形杭で構成された柵列で、SA06の西側で軸線を違えて長さ2.4mにわたって検出され、調査区外に続いていくようである。大型の杭は長さ2.8mを測り、杭間をつなぐように竹が編み



第 13-1 图 SW01・SW02 土台木平面詳細図 (1)

(1/50)



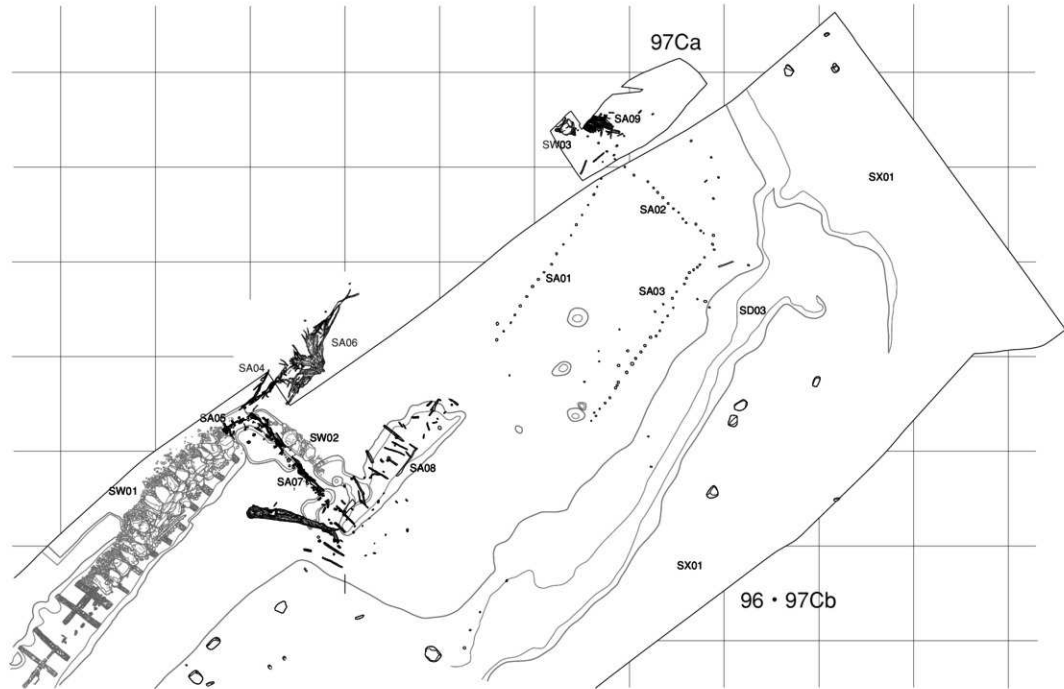
D



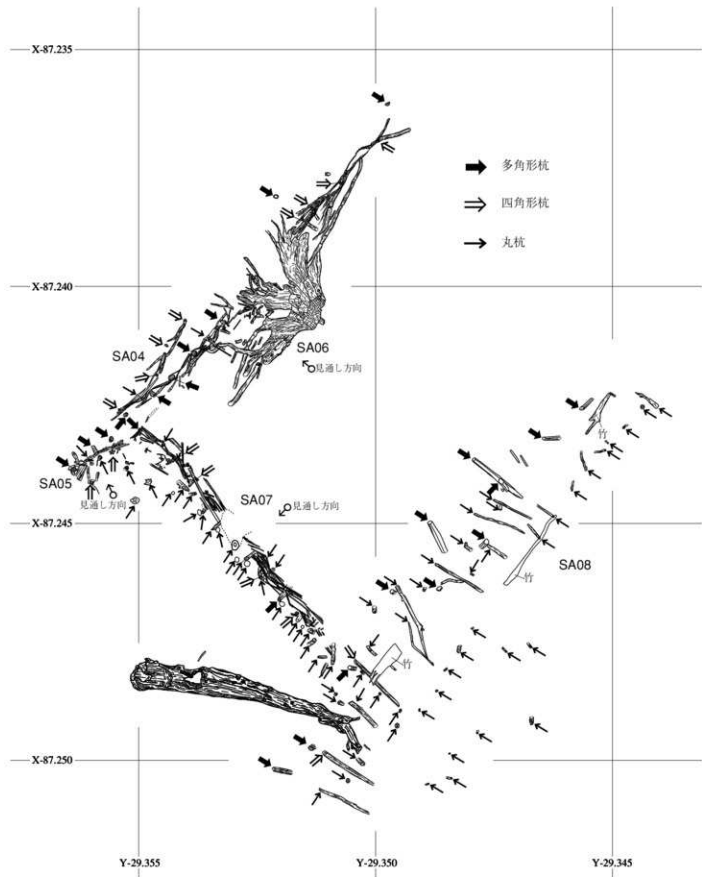
E

第 13-2 図 SW01・SW02 土台木平面詳細図 (2)

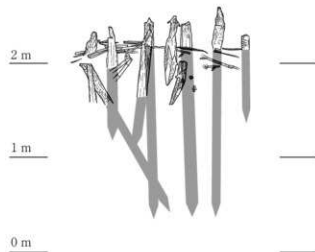
(1/50)



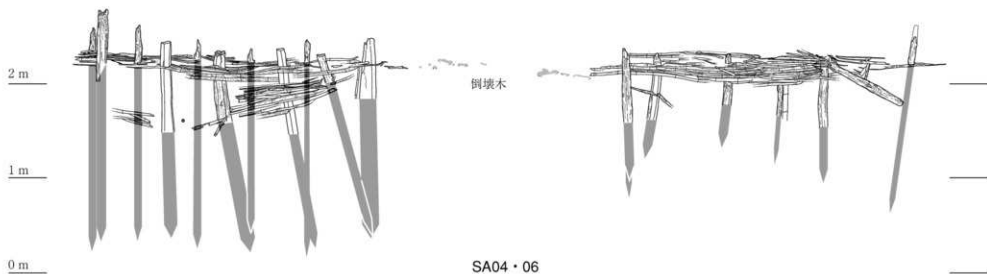
第14図 SA01～09平面図 (1/200)



第15図 SA01 ~ 08 平面図 (1/80)



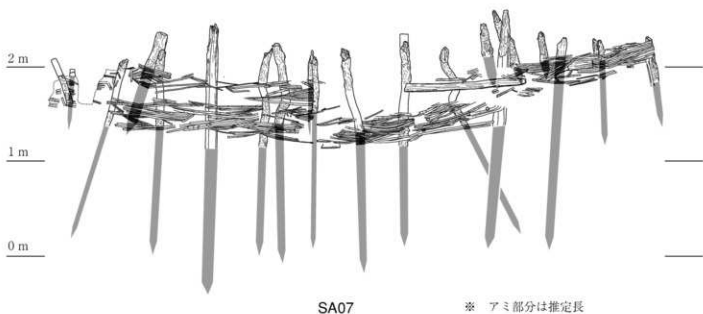
SA05



SA04・06

※ アミ部分は推定長

第 16 図 SA05、SA04・06 見通し図 (1/40)



第17図 SA07見通し図 (1/40)

込まれている。杭間は60～100cmを測る。

SA05

SA07の北西端より、直角よりわずかに開き気味に延びる柵列で、長さ1.6mにわたって検出されている。杭には多角形杭と丸杭があり、杭長は1～2.2mで、杭間には竹が編み込まれている。杭間は40～50cmを測る。また多角形杭の南東側にも不揃いな四角形杭・丸杭がみられる。

SA06

下層柵のうち北西側で北東-南西方向に向くもので、長さ8.6mになる。柵は10本の多角形・四角形杭と2本の丸杭からなっており、杭長は1～2.4mを測る。杭間は40～50cmで、間には竹が編み込まれている。このSA06で特徴的なことは、中央部に倒壊木の根が検出されたことで、この部分約2.4mにわたっては杭が確認できないことから、柵列の一部として用いられていたことが考えられた。倒壊木は五条川方向に向かって倒れており、折損部には明瞭な

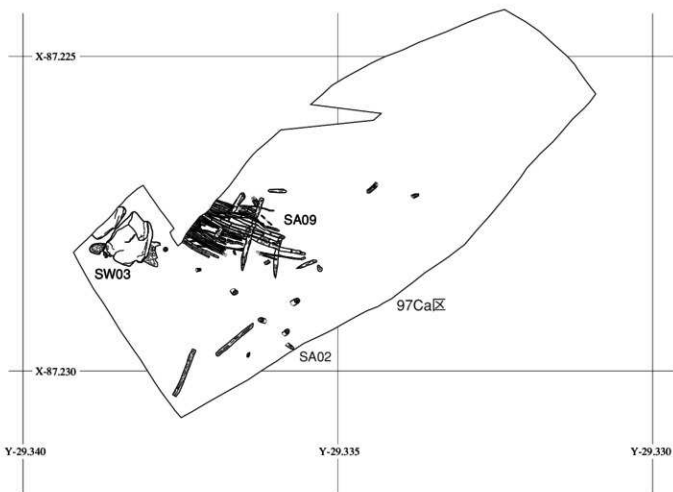
削痕跡がみられた。また編み込まれた竹の下位では、下方に向かって沈下している部分が検出されている。

SA07

北西-南東方向に延びる柵列で、長さ6.4mになる。杭長0.5～2.3mの丸杭が主体となり、その間に杭長1～2.8mの多角形・四角杭が5本検出されている。ただ詳細にみると、杭間が50cmを測る多角形・四角杭列と、そのやや南西側を不揃いに並ぶ丸杭列に分かれ、編み込まれた竹は多角形・四角杭列を基軸としているようである。SA07の編み込まれた竹も、SA06と同様に下位部分が下方に向かって沈下しており、柵と竹からなる「シガラミ」が、何らかの理由で一時崩壊して沈下したと考えられた。さらに上述した多角形・四角杭列と丸杭列の相違が、沈下前と沈下後の修復・補強に対応するとも想定されたが、明確な証拠はつかめなかった。

SA08

北東-南西方向の杭列で、長さ10.6mになる。こ



第 18 図 SA09 平面図 (1/60)

の杭列も SA07 と同じく、北西側にある多角形・四角杭列と南東側にある丸杭列に分かれる。ただ多角形・四角杭列は、北西側を高く南東側を低くして、地面からの角度が $30 \sim 45^\circ$ といった横位に近いような状態で検出されており、横または斜位から打ち込まれたことが推定された。一方、丸杭列は垂直かやや角度をもって上方から打ち込まれている。竹の編み込みは部分的に検出されたのみである。

SA09

97Ca 区の石垣 SW03 の東側で検出された柵列で、長さ 2 m にわたっており、北西側はさらに調査区外に続いていく。杭長 1.2 m の丸杭 3 本に竹が編み込ま

れた「シガラミ」が、北東側に倒れた状態で出土している。上部が割平されているため詳細は不明であるが、出土時点の高さは、土台木より「シガラミ」が $30 \sim 40$ cm 下位となっている

3 97B区

(1) 河道

97B区は五条川左岸に接した調査区であることから、本調査区でも河道肩部分が検出されている。

河道は幾度か方向を変えて流れており、古い順より、NR01→NRX→NR00・02→NRb→NRaとなる。河道の時期については明瞭ではないが、最古のNR01が城下町期の遺構を削平しており、それ以降に形成されたと考えられる。

また、第20図の北東セクションでも確認できるとおり、河岸部分には埋め立てにもちいられたと思われる斑土が検出されており、河道の変化に合わせて河岸を補強していった状況が確認できる。

NR01は、幅約13mを測り、調査区南東部の城下町期の遺構を削平し、その上部に形成されている。幅が狭いことから、五条川本流ではなく支流であるとも考えられる。

NRXは、河道が岸にあたり屈曲する地点にあたるが、河岸が明瞭に確認できなかった。NR00・02も、NRXと同様の地点にあたり、NR00が北東から南西に流れてくる部分、NR02がそこから曲がって北西に流れる部分になる。

NRb・aは、現在の五条川と平行する河道である。これらの河道に沿って、丸杭を打ち込んだ幾条かの杭列が検出されており、河道岸の補強のためのものと考えられた。

(2) 井戸

A SE01

平面形が隅丸方形及び円形を呈し、径1.4m・深さ1.3mを測る。上層より瓦や土器、10cm前後の礫が大量に出土している。下層では3段のタガをもつ桶組の井戸枠が検出されている。時期は城下町Ⅰ期となる。

(3) 溝

A SD01・02

調査区東部をほぼ東西に走る溝で、SD02→01の

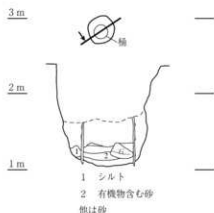
順となり、西側がNRに切られている。SD02はSD01に切られているために深さ22cmと確認できるのみで、SD01は幅1.3m・深さ46cmを測る。SD01は、砂が埋土となり、上層に炭化物と焼土を含んでいる。SD01の時期は、城下町Ⅰ期となる。

B SD03

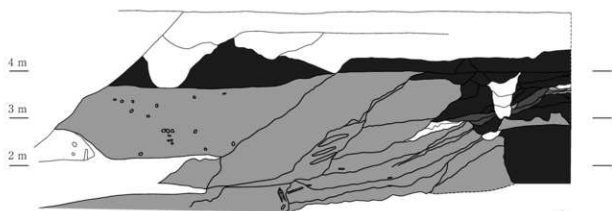
調査区東部を北東-南西方向に約12mの長さを走る、幅58cm・深さ28cmの溝で、底面でピット列が検出されている。ピットは、長径40～90cm・深さ7～25cmを測るもので、70cm及び170cm程の間隔をもって掘削されている。

C SD04・05

調査区北東隅の河道下層で検出された溝で、南側にある城下町期以前の遺構群と同時期と推定される。掘削時期は、SD05→04、SD05→01となる。

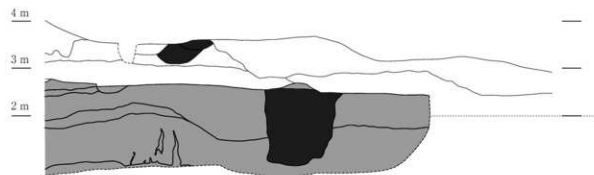
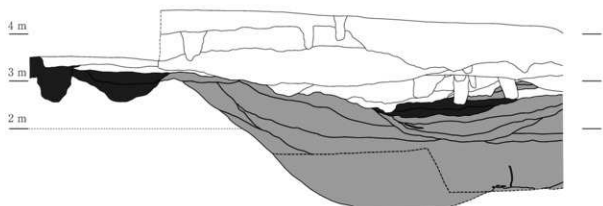
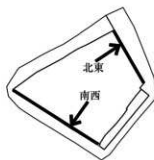


第19図 SE01断面図 (1/50)



北東セクション

- 斑土
- 斑土+砂層
- シルト



南西セクション

第20図 97B区セクション図 (1/80)

4 99 A区

(1) 溝

A 上層で検出された溝

SD01・03、SD08

SD01・03は同一の溝と考えられ、調査区西部を、南北からやや東に振れた方向で走る。幅約1m・深さ約50cm、溝の断面形はVまたはU字形を呈し、再掘削された痕跡がみられた。時期は城下町Ⅲ-2期になる。SD08はSD03の北端の西側約1.6mから始まり、SD01・03と同様の方向を向いて走る。幅30cm・深さ10cmと小型の溝となる。

SD04・02・04・05・07

上記の2条の溝に直交するように、北からSD07・04・02・05があり、これらの溝群は、区画溝として機能していたと考えられる。所属時期は、城下町Ⅲ-2期を中心としている。

B 下層で検出された溝

SD13・14

SD13は調査区中央部を、東西からやや北に振れた方向で走る溝で、幅4.9m・深さ1.2m、断面形がゆるやかなU字形を呈する。下層には細粒砂の互層が堆積しており、水流があったことを窺わせた。時期は城下町Ⅲ-2期になる。

SD14はSD13の北約1.8mのところを、同方向に走る溝で、東側で途切れているようである。

SD05・11

SD11は、SD13の南約7mのところを同方向に走る溝で、幅2.5m・深さ1.1m、断面形は逆台形を呈している。溝は東側で、南肩が50cmほど拡張されて収束する。時期は城下町Ⅲ期となる。

SD05はSD11の南約1mのところを平行して走る、幅1.3m・深さ30cmの溝で、同じように東側で途切れている。SD12はSD11の北約1mのところを平行して走る、幅2.8m・深さ1mの溝で、井戸SK221のところで途切れている。両溝とも時期は城下町Ⅲ-2期になる。

(2) 井戸

A SK44

調査区の南西隅で検出された井戸で、長径3.6m・短径3.1m・深さ2.1mを測る。井戸枠は桶組みで、部分的に残存していた。時期は城下町Ⅲ期になる。

B SK68

SK182を切って掘削された井戸で、長径2.7m・短径2.5m・深さ2mを測る。井戸枠は確認されていないが、下位部分は段状を呈しており、抜き取りの痕跡であると思われた。時期は宿場町期か。

C SK182

SK68の南西側にある井戸で、長径2.2m・深さ2.1mを測る。最下位では楕円形に組まれた長径69cm・短径57cmの桶組みの井戸枠が検出され、内部より5～30cm程の礫が10個出土している。時期は城下町Ⅲ-2期になる。

D SK186

SK68・SK182の南である井戸で、径2.4mの円形で、深さ0.6mを測る。時期は城下町期になる。

E SK203

調査区の西壁沿いで検出された井戸で、長径4.1m・深さ1.6mを測る。最下位より円形を呈する桶組みの井戸枠が検出されている。時期は城下町Ⅲ期になる。

F SK207

SK68の北東側にある井戸で、長径3.0m・短径2.8m・深さ1.4mを測る。最下位より楕円形を呈する桶組みの井戸枠が検出されている。時期は城下町期になる。

G SK221

SK207の北西側にある井戸で、長径4.0m・短径3.5m・深さ0.7mを測る。時期は城下町Ⅲ期になる

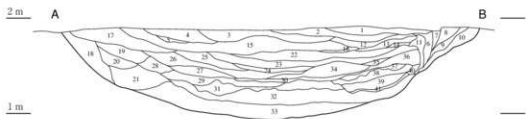
H SK250

調査区の北東部で検出された井戸で、長径3.3m・深さ1.6mを測る。最下位より楕円形を呈するタガのはまった桶組みの井戸枠が検出されている。時期は城下町期になる

(3) 土坑

A SK248

長径2.9m・短径2.8m・深さ0.5mを測る、隅丸



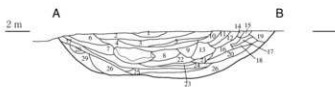
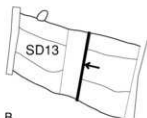
99A区SD13セクション土色

- 1 2.5Y6/2 砂質シルト
- 2 2.5Y5/2 砂質シルト 炭化物含む
- 3 2.5Y6/2 砂質シルト
- 4 10YR6/2 砂質シルト
- 5 10YR6/1 細粒砂
- 6 2.5Y7/5 シルトプロック状になる
- 7 2.5Y6/2 砂質シルト
- 8 2.5Y6/2 砂質シルト
- 9 10YR6/2 砂質シルト
- 10 10YR6/2 細粒砂
- 11 10YR6/2 砂質シルト
- 12 2.5Y6/2 シルト
- 13 2.5Y6/2 シルト
- 14 10YR6/9 シルトプロック状になる
- 15 2.5Y6/2 シルト (マンガン斑)
- 16 2.5Y6/2 シルト
- 17 10YR6/3 シルトプロック状になる

SD13

- 16 10YR5/2 シルト 炭化物・塊土含む
- 17 10YR5/3 砂質シルト 炭化物・塊土含む
- 18 10YR6/2 細粒砂
- 19 2.5Y6/2 シルト
- 20 10YR6/2 細粒砂プロック状になる
- 20 10YR6/2 細粒砂 (マンガン斑)
- 21 10YR6/4 細砂 (基盤)
- 22 10YR6/2 シルトプロック状になる
- 23 2.5Y6/2 砂質シルト
- 24 2.5Y6/3 粘質シルトプロック状になる
- 24 2.5Y6/2 砂質シルト
- 25 10YR6/2 シルトプロック状になる (此處あり)
- 25 2.5Y6/2 砂質シルト
- 25 2.5Y6/3 粘質シルトプロック状になる 炭化物含む
- 26 2.5Y6/2 砂質シルト
- 27 2.5Y4/1 砂質シルト
- 28 2.5Y4/1 砂質シルト
- 29 10YR6/2 細粒砂の互層
- 29 2.5Y4/1 砂質シルト
- 30 10YR6/2 粘粒砂プロック状になる
- 30 2.5Y3/1 粘土

- 31 10YR6/2 細粒砂
- 32 2.5Y4/1 砂質シルト・2.5Y3/1 粘土プロック状になる
- 32 10YR6/2 細粒砂の互層
- 33 10YR6/2 細粒砂の互層
- 34 2.5Y6/1 シルト
- 35 2.5Y6/2 粘質シルトプロック状になる
- 35 2.5Y6/1 砂質シルト
- 36 10YR6/2 シルトプロック状になる
- 37 2.5Y4/1 砂質シルト
- 37 10YR6/2 細粒砂状になる
- 38 2.5Y4/1 粘質シルト
- 39 2.5Y5/1 粘質シルト
- 40 10YR6/2 細粒砂状になる
- 40 2.5Y3/1 砂質シルト
- 41 10YR6/2 細粒砂の互層 (此處あり)



SK248

99A区SK248セクション土色

- 1 2.5Y7/3 粘土
- 2 2.5Y3/1 中粒砂状になりシルトの塊土
- 2 2.5Y3/1 粘土
- 3 2.5Y3/1 粘土
- 4 10YR5/6 中粒砂の互層
- 4 2.5Y3/1 中粒砂状になり粘土 炭化物含む
- 5 2.5Y2/1 粘土 本方状になり
- 6 10YR6/1 中粒砂の互層 炭化物の塊あり
- 7 10YR4/2 シルト状になり中粒砂
- 8 10YR6/1 粘土の互層 炭化物の塊あり
- 8 10YR4/2 中粒砂状になりシルト
- 9 10YR6/1 粘土プロック含む 炭化物・土層片含む
- 9 10YR4/1 中粒砂状になり粘土
- 9 10YR5/1 粘土
- 10 10YR5/1 砂質シルトの塊土
- 11 10YR4/1 砂質シルト 土層片含む
- 12 10YR7/3 中粒砂
- 13 10YR4/1 中粒砂の塊土
- 13 10YR5/1 粘土
- 14 10YR4/1 粘土プロック含む
- 14 10YR5/1 中粒砂
- 15 10YR4/2 中粒砂状になり粘土

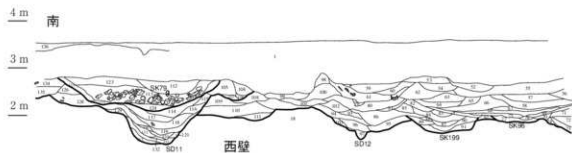
- 16 10YR3/1 粘土 炭化物含む
- 17 10YR5/3 中粒砂
- 18 10YR3/1 粘土の互層
- 18 10YR5/3 中粒砂
- 19 10YR6/1 中粒砂
- 20 10YR4/1 粘土プロック含む
- 21 2.5Y3/1 粘土
- 22 2.5Y3/1 中粒砂状になり粘土 炭化物含む
- 23 2.5Y3/1 シルト状になり中粒砂
- 24 2.5Y3/1 中粒砂状になり粘土 植物遺体あり
- 25 2.5Y3/5 粘土
- 25 10YR5/3 粘土の互層 炭化物含む 本方状になり
- 26 2.5Y3/4 中粒砂 炭化物の塊あり
- 27 2.5Y3/1 粘土
- 28 2.5Y3/1 中粒砂の互層 (此處)
- 28 2.5Y4/2 シルト状になり中粒砂
- 29 2.5Y7/3 中粒砂
- 10YR6/6 中粒砂の互層



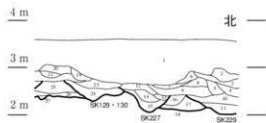
SK248

第21図 99A区SD13・SK248セクション図

(1/40)



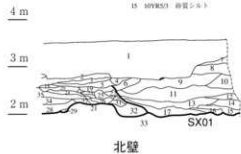
西壁



99A区西壁セクション土色

1 表土

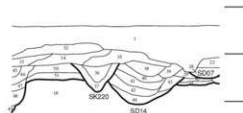
- 2 10YR4/4 砂質シルト
- 2 10YR4/4 砂質シルト 瓦礫混じる
- 4 10YR5/3 砂質シルト
- 5 10YR5/4 砂質シルト
- 6 10YR5/4 砂質シルト
- 7 10YR4/4 砂質シルト
- 7 10YR5/3 砂質シルト
- 8 10YR5/3 砂質シルト
- 9 10YR5/4 砂質シルト
- 10 10YR4/3 砂質シルト
- 11 10YR4/3 砂質シルト
- 12 10YR5/6 砂質シルト
- 13 10YR5/4 砂質シルト
- 14 10YR6/4 粘壤砂
- 15 10YR5/3 砂質シルト



北壁

- 16 10YR5/4 砂質シルト
- 17 10YR5/3 砂質シルト
- 18 10YR6/4 粘壤砂 (基盤)
- 19 10YR5/3 シルト 炭化物多く含む
- 20 10YR5/3 シルト
- 21 10YR5/3 砂質シルト
- 22 10YR4/4 砂質シルト
- 23 10YR4/4 砂質シルト
- 24 10YR5/4 砂質シルト
- 25 10YR5/4 砂質シルト
- 26 10YR5/4 砂質シルト
- 26 10YR6/4 粘壤砂砂混じる
- 27 10YR5/4 粘壤砂
- 28 10YR4/3 砂質シルト
- 29 10YR4/4 砂質シルト
- 30 10YR4/4 砂質シルト
- 31 10YR4/4 砂質シルト
- 31 10YR4/4 粘壤砂砂混じる
- 32 10YR5/3 砂質シルト
- 33 10YR4/4 砂質シルト
- 34 10YR4/3 シルトブロック混じる
- 34 10YR6/3 砂質シルト
- 36 10YR5/4 砂質シルト
- 37 10YR5/3 砂質シルト
- 37 10YR5/3 砂質シルト
- 38 10YR5/3 砂質シルト
- 39 10YR4/4 砂質シルト
- 39 10YR4/4 粘壤砂砂混じり
- 40 10YR5/3 粘壤シルト
- 40 10YR5/3 粘壤シルト
- 41 10YR5/3 粘壤シルト
- 42 10YR5/3 砂質シルト
- 43 10YR5/4 砂質シルト
- 44 10YR4/2 シルト
- 45 10YR5/4 砂質シルト
- 46 10YR4/5 砂質シルト 炭化物多く含む
- 47 10YR4/5 砂質シルト 炭化物多く含む
- 48 10YR5/3 シルトブロック混じる
- 48 10YR4/5 粘壤砂
- 49 10YR4/4 粘壤砂
- 49 10YR6/4 粘壤砂砂混じる
- 50 10YR6/3 砂質シルト
- 51 10YR6/4 砂質シルト
- 52 10YR5/4 砂質シルト
- 53 10YR5/2 粘砂
- 54 10YR5/4 砂質シルト
- 55 10YR5/3 砂質シルト
- 56 10YR4/4 粘壤シルト
- 57 10YR4/4 粘壤シルト 粘壤砂砂混じる
- 58 10YR4/3 粘壤シルト
- 59 10YR5/3 砂質シルト 炭化物含む
- 60 10YR5/3 砂質シルト 炭化物含む
- 61 10YR5/4 砂質シルト
- 62 10YR5/4 砂質シルト
- 63 10YR4/4 粘壤シルトの塊化
- 64 10YR4/2 シルト
- 65 10YR5/2 砂質シルト 炭化物含む
- 65 10YR4/4 シルト
- 66 10YR4/4 粘壤シルト
- 67 10YR6/3 粘壤砂
- 68 10YR4/4 粘壤シルト 粘壤砂砂混じる
- 69 10YR6/2 粘壤砂
- 70 10YR5/3 シルト 粘壤砂砂混じる
- 71 10YR4/5 粘壤砂 炭化物含む
- 72 10YR4/3 粘壤シルト 粘壤砂砂混じる
- 73 10YR4/2 シルト 粘壤砂砂混じる
- 74 10YR4/3 粘壤シルト
- 75 10YR6/4 粘壤砂
- 76 10YR5/4 粘壤シルト
- 77 10YR5/2 粘壤砂
- 78 10YR5/3 粘壤シルト 粘壤砂砂混じり
- 79 10YR4/4 粘壤シルト
- 80 10YR5/2 粘壤シルト 炭化物多く含む
- 81 10YR5/3 シルト 粘壤砂砂混じり
- 82 10YR4/4 粘壤シルト 粘壤砂砂混じり
- 83 10YR4/2 粘壤シルト
- 84 10YR6/2 砂質シルト
- 85 10YR4/4 粘壤シルトの塊化 炭化物多く含む
- 85 10YR5/4 粘壤砂
- 86 10YR4/2 粘壤砂
- 87 10YR4/2 粘壤砂
- 88 10YR4/5 粘壤シルト
- 89 10YR4/3 砂質シルト
- 90 10YR5/2 砂質シルト 炭化物多く含む
- 91 10YR4/2 粘壤シルト 炭化物多く含む
- 92 10YR5/3 シルト
- 93 10YR6/4 粘壤砂砂混じる
- 94 10YR4/2 粘砂
- 95 10YR4/2 粘砂
- 96 10YR4/2 シルト
- 97 10YR4/2 粘砂
- 98 10YR4/2 粘砂
- 99 10YR5/2 シルト
- 100 10YR5/3 粘土

SK203 (別図参照)

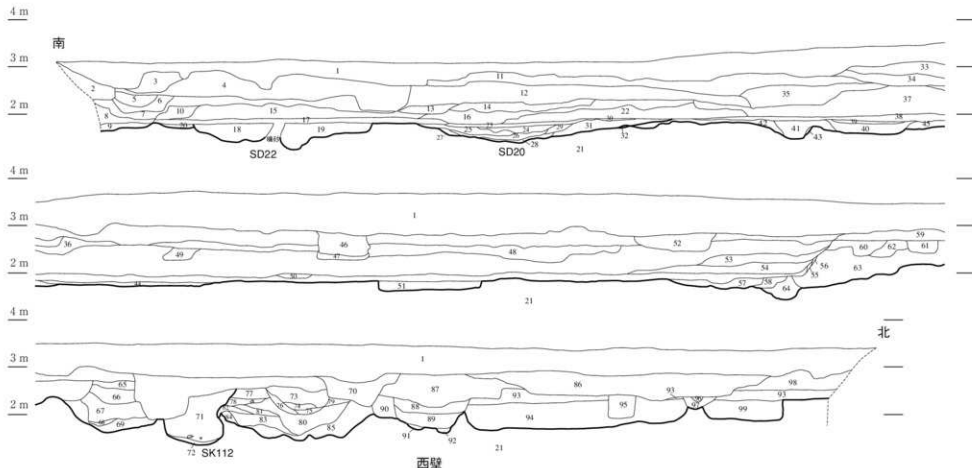


99A区北壁セクション土色

1 表土

- 2 10YR4/4 砂質シルト 瓦礫混じる
- 3 10YR4/4 砂質シルト 瓦礫混じる
- 4 10YR5/3 粘壤シルト
- 5 10YR4/4 砂質シルト
- 6 10YR6/2 シルトブロック混じる
- 7 10YR4/2 砂質シルト
- 8 10YR5/3 砂質シルト
- 9 10YR5/3 砂質シルト
- 10 10YR5/2 砂質シルトブロック混じる
- 11 10YR5/3 砂質シルト
- 11 10YR6/3 シルトブロック混じる 炭化物わずかに含む
- 12 10YR5/3 砂質シルト 炭化物わずかに含む
- 13 10YR5/2 砂質シルト
- 14 10YR6/4 粘壤シルト
- 15 10YR5/3 粘壤シルトの塊土
- 15 10YR5/2 砂質シルト 粘壤砂砂混じり
- 16 10YR4/2 粘壤シルト 粘壤砂砂混じり
- 17 10YR5/2 粘壤シルト 粘壤砂砂混じり
- 18 10YR4/4 粘壤シルト 炭化物含む
- 19 10YR4/4 粘壤シルト 炭化物わずかに含む
- 20 10YR4/3 粘壤シルト
- 21 10YR4/4 粘壤シルト
- 22 10YR5/2 シルト
- 23 10YR4/2 シルト 粘壤砂砂混じり
- 24 10YR5/3 粘壤シルト
- 24 10YR5/2 粘壤シルト 粘壤砂砂混じり
- 25 10YR5/3 粘壤シルト
- 26 10YR5/2 シルト
- 27 10YR4/2 粘壤シルト
- 28 10YR5/3 粘壤シルト
- 29 10YR6/2 粘壤砂
- 30 10YR5/2 粘壤シルト
- 31 10YR4/4 粘壤シルト
- 32 10YR5/3 粘壤シルト
- 32 10YR5/3 粘壤シルト 粘壤砂砂混じり
- 33 10YR5/2 粘壤 (基盤)
- 34 10YR4/3 砂質シルト
- 35 10YR4/4 シルト

第22図 99A区西壁・北壁セクション図



99B区西壁セクション土色

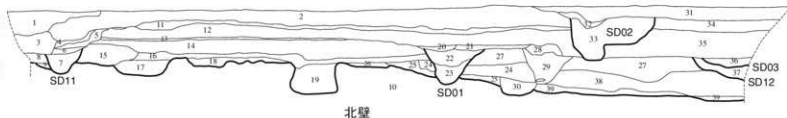
- 1 表土
- 2 HVR54 無礫砂・瓦礫混じる
- 3 HVR52 シルト
- 4 HVR54 シルトの黄土
- 5 HVR52 砂質シルト
- 6 HVR52 シルトブロック混じる
- 7 HVR52 シルト・無礫砂混じり
- 8 HVR52 無礫砂
- 9 HVR52 粘土ブロック混じる
- 10 HVR52 無礫砂
- 11 HVR44 礫
- 12 HVR52 シルト・無礫砂混じり
- 13 HVR52 粘質シルト・無礫砂混じり
- 14 HVR54 無礫砂
HVR52 シルトブロック混じる
- 15 HVR52 砂質シルト
- 16 HVR52 シルト・無礫砂混じり
- 17 HVR52 砂質シルト・炭化物わずかに含む
- 18 HVR52 砂質シルト・下部に鉄分沈着
- 19 HVR52 砂質シルト・下部に鉄分沈着
- 20 HVR43 シルト
HVR64 礫混じる
- 21 HVR64 礫
- 22 HVR52 砂質シルト・炭化物わずかに含む
- 23 HVR52 粘質シルト・無礫砂混じり
- 24 HVR62 礫
- 25 HVR43 粘質シルト・無礫砂・炭化物混じり
- 26 HVR34 粘土・炭化物含む
- 27 HVR52 シルト
- 28 HVR64 礫混じり
- 29 HVR42 粘土
- 30 HVR64 無礫砂
- 31 HVR42 粘質シルト・無礫砂混じり
- 32 HVR52 シルト
- 33 HVR44 砂質シルト
- 34 HVR52 砂質シルト
- 35 HVR54 砂質シルト混じる
- 36 HVR54 無礫砂
- 37 HVR52 シルト・無礫砂混じり
- 38 HVR42 粘土
- 39 HVR43 粘質シルト・無礫砂混じり
- 40 HVR42 粘質シルト
- 41 HVR42 粘質シルト（鉄分多い）
- 42 HVR52 シルト
- 43 HVR64 礫
- 44 HVR42 粘質シルト（鉄分多い）が混じる
- 45 HVR45 砂質シルト・炭化物含む
- 46 HVR45 砂質シルト・無礫砂混じり
- 47 HVR54 礫
- 48 HVR52 無礫砂
- 49 HVR42 粘土
- 50 HVR42 粘質シルト
- 51 HVR42 粘質シルト
- 52 HVR42 粘質シルト
- 53 HVR42 粘質シルト
- 54 HVR42 粘質シルト
- 55 HVR42 粘質シルト
- 56 HVR42 粘質シルト
- 57 HVR42 粘質シルト
- 58 HVR42 粘質シルト
- 59 HVR42 粘質シルト
- 60 HVR42 粘質シルト
- 61 HVR42 粘質シルト
- 62 HVR42 粘質シルト
- 63 HVR42 粘質シルト
- 64 HVR42 粘質シルト
- 65 HVR42 粘質シルト
- 66 HVR42 粘質シルト
- 67 HVR42 粘質シルト
- 68 HVR42 粘質シルト
- 69 HVR42 粘質シルト
- 70 HVR42 粘質シルト
- 71 HVR42 粘質シルト
- 72 HVR42 粘質シルト
- 73 HVR42 粘質シルト
- 74 HVR42 粘質シルト
- 75 HVR42 粘質シルト
- 76 HVR42 粘質シルト
- 77 HVR42 粘質シルト
- 78 HVR42 粘質シルト
- 79 HVR42 粘質シルト
- 80 HVR42 粘質シルト
- 81 HVR42 粘質シルト
- 82 HVR42 粘質シルト
- 83 HVR42 粘質シルト
- 84 HVR42 粘質シルト
- 85 HVR42 粘質シルト
- 86 HVR42 粘質シルト
- 87 HVR42 粘質シルト
- 88 HVR42 粘質シルト
- 89 HVR42 粘質シルト
- 90 HVR42 粘質シルト
- 91 HVR42 粘質シルト
- 92 HVR42 粘質シルト
- 93 HVR42 粘質シルト
- 94 HVR42 粘質シルト
- 95 HVR42 粘質シルト
- 96 HVR42 粘質シルト
- 97 HVR42 粘質シルト
- 98 HVR42 粘質シルト
- 99 HVR42 粘質シルト

第 23-1 図 99B区西壁・北壁セクション図(1) (1/80)

4 m

3 m

2 m



北壁

99 A区西壁セクション土色

51	HYR52	砂質シルト (鉄分多い)
52	HYR44	シルト
53	HYR64	シルト 無細粒砂混じり
54	HYR62	シルト 無細粒砂混じり
55	HYR53	砂質シルト
56	HYR54	砂質シルト
57	HYR53	シルト (鉄分多い)
58	HYR42	砂質シルト
59	HYR44	砂質シルト
60	HYR47	砂質シルト 炭化物含有
61	HYR55	シルト 炭化物多量に含む
62	HYR43	砂質シルト
63	HYR53	砂質シルト
64	HYR52	砂質シルト 無細粒砂混じり
65	HYR63	砂質シルト 無細粒砂混じり
66	HYR63	砂質シルト 炭化物含有
67	HYR42	砂質シルト 炭化物含有
68	HYR63	砂質シルト
69	HYR64	細砂
70	HYR52	砂質シルトを含む
71	HYR42	砂質シルト
72	HYR64	細砂
73	HYR53	砂質シルト 炭化物も少量含む
74	HYR47	砂質シルト 炭化物も少量含む
75	HYR42	砂質シルト 炭化物含有
76	HYR42	シルト 炭化物も多く含む
77	HYR43	砂質シルト 炭化物も多く含む
78	HYR53	粘質シルト 炭化物含有
79	HYR53	砂質シルト 無細粒砂混じり
80	HYR52	粘質シルト 無細粒砂混じり
81	HYR53	シルト 無細粒砂混じり
82	HYR52	粘土
83	HYR42	粘質シルト 無細粒砂混じり
84	HYR42	シルト
85	HYR64	細砂が混じる
86	HYR42	シルト
87	HYR64	細砂が混じる
88	粘土	
89	HYR63	砂質シルト
90	HYR63	砂質シルト 無細粒砂混じり
91	HYR63	砂質シルト 無細粒砂混じり
92	HYR63	砂質シルト 炭化物わずかに含む
93	HYR63	砂質シルト
94	HYR64	細砂
95	HYR63	砂質シルトが混じる
96	HYR63	砂質シルトが混じる
97	HYR44	砂質シルト
98	HYR44	砂質シルト
99	HYR44	HYR52 砂質シルト (鉄分多い)

99 A区北壁セクション土色

1	表土
2	HYR42 砂質シルト 無細粒砂混じり
3	HYR64 砂質シルト
4	HYR62 シルト
5	HYR54 無細粒砂が混じる
6	HYR64 砂質シルト
7	HYR43 砂質シルト 炭化物含有
8	HYR44 砂質シルト
9	HYR64 細砂
10	HYR63 砂質シルトプロック混じる
11	HYR64 細砂
12	HYR42 砂質シルト
13	HYR54 砂質シルト
14	HYR53 砂質シルト
15	HYR54 砂質シルト
16	HYR62 砂質シルト
17	HYR64 砂質シルト
18	HYR43 砂質シルト
19	HYR54 砂質シルト
20	HYR64 シルト 炭化物も少量含む
21	HYR54 砂質シルト 炭化物も少量含む
22	HYR54 シルト 炭化物も少量含む
23	HYR52 粘質シルト
24	HYR63 シルト
25	HYR63 砂質シルト
26	HYR43 砂質シルト
27	HYR64 シルト 炭化物も少量含む
28	HYR64 シルト
29	HYR42 砂質シルト
30	HYR54 粘質シルト
31	HYR51 中粒砂
32	HYR51 粘質シルト
33	HYR42 砂質シルト
34	HYR43 砂質シルト
35	HYR44 砂質シルト
36	HYR43 砂質シルト 炭化物も少量含む
37	2.5Y5/3 粘質シルト
38	2.5Y5/3 粘土
39	2.5Y5/3 砂質シルト
40	HYR64 細砂混じる



第23-2図 99 B区西壁・北壁セクション図(2) (1/80)

方形を呈する土坑で、下層の炭化物・植物遺体を含むシルト・砂層より、コクゾウムシなどの穀物害虫化石が出土している。

(4) 不明遺構

A SX01

上層で南北約24mにわたって検出された落ち込みで、南側でクランク状に曲がる。また、北側のトレンチ部分にも続いていくことが確認されている。落ち込みは50～70cmの深さをもち、南北からやや東に振れている。底面では、平行して東西に走る幅10～20cm・深さ5～10cmの溝が検出されている。SX01は城下町期の遺構を切って作られており、宿場町期以降のものである可能性が高く、溝の配置から畑作地とそれに伴う畝と考えられる。

5 99 B区

(1) 溝

A 上層で検出された溝

SD01・02・03・06

やや東に振れ平行して南北に走る溝である。SD01・02・06の時期は宿場町期となる可能性があるが、調査区東壁沿いで検出されたSD03は城下町Ⅲ-2期になり、他の溝とは性格の違うものであるかもしれない。

SD04・05

同位置をやや北に振れて東西に走る溝で、1条の溝と途切れ部分という見方もできる。ただ出土遺物からみた時期は、東にあるSD04が宿場町期、西にあるSD05が城下町Ⅲ-2期になる。

B 下層で検出された溝

A SD11

調査区北東隅で、直角に折れて曲がる溝で、幅1.2m・深さ40cmを測る。時期は城下町Ⅲ期になる。

B SD20・21

調査区南側を、やや北に振れて東西に平行して走る溝で、SD20が幅4.2m・深さ60cm、SD22が幅3m・深さ50cmを測る。時期はSD20が宿場町期になる可能性があり、SD22は城下町期になる。

(2) 井戸

A SK92

調査区の北よりのところにある井戸で、長径4.0m・短径3.2m・深さ2mを測る。最下位では楕円形に組まれた長径74cm・短径55cmの桶組みの井戸枠が検出されている。時期は城下町Ⅲ-2期になる。

B SK131

SK92の南西にある井戸で、径2.5m・深さ1mを測る。時期は城下町Ⅲ-1期になる。

C SK289

SK100などに切られて全体は不明であるが、深さ1mを測る。宿場町期の可能性のある井戸である。

D SK304

調査区の西壁沿いで検出された井戸で、長径3.2m・深さ62cmを測る。時期は城下町Ⅲ期になる。

E SK316

SK92に切られる井戸で、長径5.1m・短径4m・深さ1.8mを測る。最下位では隅丸方形に組まれた長径68cm・短径64cmの桶組みの井戸枠が検出されている。時期は城下町期になる。

F SK325

SK289の北東にある井戸で、径1.2m・深さ1.2mを測る。下層では、3段に重ねた桶組みの井戸枠が検出されている。時期は城下町Ⅲ期になる。

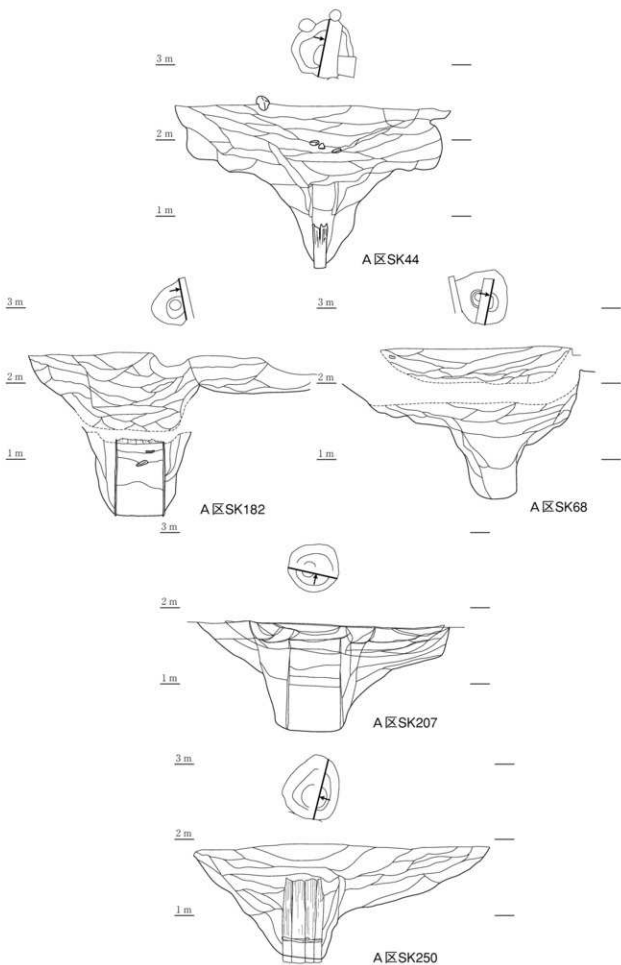
G SK296・327・328・332・334・335・336

調査区の南部で検出された7基の井戸で、いずれも上部がSX01の造成によって削平されている。

(3) 不明遺構

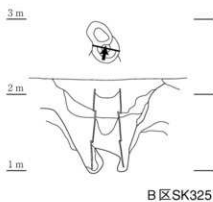
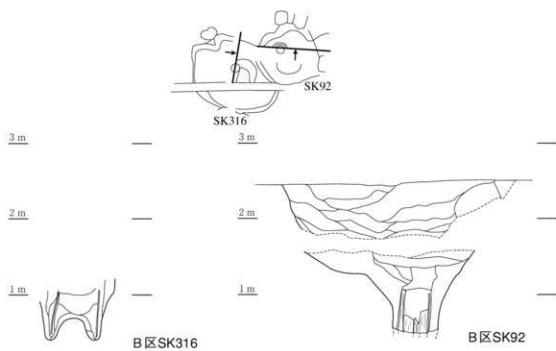
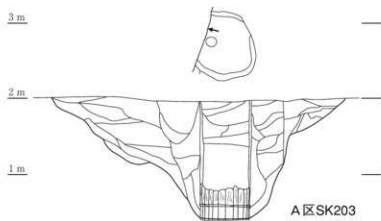
A SX01

調査区の南部にある幅約10m・高さ約60cmの、南北に延びる高まり(写真図版6)で、粘土ブロックを含む土で土盛りされている。また東西の肩部から落ち込みにかけては整地層が広がっており、江戸期以降に造成された堤防とそれを埋めた整地跡であると考えられた。



第 25 図 99 A 区井戸セクション図

(1/50)



第 25 図 99 A・B区井戸セクション図 (1/50)

Ⅲ 遺物

(I) 概要と分析の方法

1 出土遺物の概要

本報告書の対象となる調査区(95A区、95B区、96区、97A区、97B区、97C区、99A区、99B区)から出土遺物には多種多様なものが多量に出土している。これらは材質で分類すると、陶磁器・土器類、瓦類、木製品、石製品、金属製品、自然遺体などに分けることができる。また、各遺物の時期について着目すると、奈良時代の須恵器から江戸時代の陶磁器や近代のガラス製品に至るまでバラエティーに富んでいる。遺物の出土量に注目すると、96区出土瓦類が圧倒的な出土量を誇るのを始めとして、各調査区から多量の遺物が出土しており、総遺物出土量は27リットル入りコンテナで約1300箱にのぼる。

これらの遺物は、各調査区において出土遺物の種類や時期や出土量に相違が認められ、多様性を示している。これは、今回対象となる各調査区が清須城下町の中でも多様な地区に分散して分布していることに起因し、具体的には各調査区で遺跡が存続した時期、地形的な条件や遺構のあり方に起因する遺物の遺存条件、存在した遺構や屋敷などの性格などが相違しているために起こる現象であると推定される。この各調査区で異なる出土遺物の様相を概述すると、以下のようにまとめられる。

(1) 95A区、95B区

清洲城下町遺跡の南部地区に属し、周辺では城下町期Ⅲ期(城下町期後期)に属する町屋に関連する遺構などが確認されている。城下町期Ⅲ期の中でも後半の段階のみが居住域になっていた可能性が高く、当時の生活面が低く砂地であることから土地的条件は悪く居住域であった期間が他の地区に比べて短い

ことが予想される。深く掘り込んだ遺構は少なく、遺物は陶磁器・土器類が大半を占めており、遺物出土量はそれほど多くはない。

(2) 96区、97C区

清洲城下町遺跡の本丸地区に属し、本丸東側の内堀や石垣など城郭の外郭に伴う遺構が確認された。内堀内や石垣の前面から大量の瓦類が出土しており、これらは城下町期Ⅲ期(城下町期後期)に属すると推測される(一部に城下町期Ⅱ-2期に属するものが存在するか?)が、一方、同時期に属する陶磁器・土器類は非常に少ない点特徴となっている。また、城下町期Ⅰ期(城下町期前期)の陶磁器・土器類も下位の遺構や堆積層から出土し、さらに時間的に遡るものも少なからず認められる。また、下位の堆積層は湧水レベル以下の部分があり、多くの木製品が出土している。

(3) 97A区

清洲城下町遺跡の田中町地区に属し、かつ五条川に面した調査区である。城下町期や宿場町期の遺構は確認されず、五条川の堆積物から近代などの遺物が出土した。特に報告するに値する資料は無いと判断して、ここでは割愛することとした。

(4) 97B区

清洲城下町遺跡の五条橋地区に属する。97A区と同様に五条川に面した調査区であるが、97B区では旧五条川の堆積層から様々な遺物が出土している。堆積層の特に上位からは近世や近代遺物が出土した

が、下位の堆積層からは城下町Ⅰ期（城下町前期）にまで遡る遺物が比較的多く存在する。また、旧流路では滞水環境にあった部分があり、こうした粘土層などからは木製品や繊維製品などの植物製品が多く出土した。

（５）99A区、99B区

99A区は清洲城下町遺跡の本町地区、99B区は清洲城下町遺跡の南部地区に属するが、両者は長者橋

を境に隣接しており、遺跡の状況は類似している。周辺では城下町Ⅲ期（城下町後期）に属する町屋に関連する遺構などが確認されており、本町地区では城下町Ⅰ・Ⅱ期（城下町前期）の遺構や遺物も確認されている。このような状況であるためか、99A区、99B区では城下町Ⅲ期（城下町後期）に属する陶磁器・土器類が多量に出土している。なお、滞水環境にあった遺構埋土がほとんどなかったことから木製品などはあまり出土しなかった。

2 整理方針

上記のように、各調査区で遺物の出土傾向に相違が認められることが明らかであるが、遺物そのものの大半は大量生産されたもので調査区によって遺物の形状や性質が著しく異なることはないと想定される。今回対象となる膨大な資料を報告するに際しては、全部の資料を図化や写真撮影によって報告することは到底できない状態であり、実際には図化や写真撮影による資料紹介は代表的な遺物に限定せざるを得ない。しかし、遺物が大量生産品であることを前提にすれば、出土量の算定が全資料の図化に代わる重要な情報として位置付けられるのではないかと思われる。このことから、本書では、材質分類を大分類に設定し、この大分類毎に整理報告を行うこととしたい。材質と調査区によって資料の特性が異なることから、これに応じて整理の方法が若干異なるが、具体的な手順は下記の通りである。

（１）大分類

遺物を材質（陶磁器・土器類、瓦類、木製品、石製品、金属製品など）で分類する。

（２）資料の図化と写真撮影

資料の多様性を表現することを念頭に置いて、重要と思われる図化可能な資料を図化し、その中でさらに選択した資料の写真撮影を行った。この結果、項目によっては大量に出土した同一分類の資料を大幅に割愛するなどの処置を行っている場合があり、

資料抽出は恣意的であるものがあることをあらかじめ断っておく。遺物の図化（実測および拓本）は整理補助員などが行い調査研究員が点検した。製図作業（デジタルトレース）は大部分をアイシン精機株式会社事業企画室文化財プロジェクトに委託し、一部は調査研究補助員および調査研究員などが行った。写真撮影はスタジオビュアの福岡栄氏の手を煩わした。

（３）出土量の算定

出土量の算定は全ての遺物で実施できなかったものの、大部分の資料について行った。資料の特性が多様であることから、材質別に方法を設定しカウントした。原則として接合前破片数を計測し、必要に応じて重量などのデータを併用した。元々個体識別を実施した上で数量化しているわけではないので、算出された数値が本来持っている出土量を表現しているとは言えないことを断っておく。

具体的には、瀬戸美濃窯産陶器については、その多くは藤澤良祐氏に時期や器種を直接鑑定いただき、これを調査研究員や整理補助員などが集計作業を行った。土器については、調査研究員が分類した後、その結果を整理補助員などによって集計作業を実施した。丸瓦や平瓦については整理補助員が分類した上でデータを採取し、後に調査研究補助員がデータ入力して調査研究員が集計作業を行った。

(II) 陶磁器・土器類

1 概要と分類の方法

(1) 概要

今回出土した陶磁器と土器類は多くは従来から城下町期に属する遺物であるが、城下町期以前（古代から中世）と城下町期以降（近世から近代）の遺物も存在する。これらは広大な範囲に及ぶ調査区の中で出土したものであり、調査区によって出土遺物の時期や量、そして遺物の接合状況は大きく傾向が異なっている。このため、今回の報告では調査区に応じて報告のあり方を変えて実施した。具体的には、99A区と99B区では別遺構どうしの遺物片が接合するケースが多く、この状況では遺構一括資料として各遺物を取扱うと重複する遺物が多く煩雑になってしまうため、調査区一括で取り扱うこととした。その他の調査区では従来通り遺構一括資料を中心に取り扱う方針とした。

(2) 出土量計測（カウント）の方法

ここで実施した陶磁器と土器類のカウント方法は、これまでに筆者らが数回の報告書（鈴木編1994a、鈴木編1994b、蟹江編1996、鈴木編1997）で実施してきた方法ではなく、陶磁器の部分を中心に新たに変更した方法を採用する。これは、先頃筆者が瀬戸美濃窯産陶器の消費地遺跡の出土傾向を分析したカウント方法（鈴木2002）を取り入れたものである。この方法を用いた理由は下記のとおりである。

これまでに15世紀末から17世紀初頭の大窯期の瀬戸美濃窯産陶器の流通の様相について藤澤良祐氏らが精力的な調査を敢行し、各地で藤澤良祐編年による消費地遺跡の出土量のデータが揃いつつある（瀬戸市埋文2001）。藤澤良祐編年案の妥当性については現在も将来にわたっても絶えず検討していかなければならない問題と思われるが、現状において清洲城下町遺跡における瀬戸美濃窯産陶器の流入様相を他の遺跡の状況と比較しながら検討することは、

当面の諸問題を考察するのに必要なことと考えられる。このような研究状況を背景に加え、今回対象となった調査区はいずれも過去に報告を実施した調査区に隣接することもある、新しい方法を採用し、比較検討のためのデータを提示できると考えたためでもある。

ただし、今回この方法によるカウントも全ての調査区で完全にはできなかった。整理時間の不足だけでなく、筆者の力量不足によるものであり、あらかじめこの点を断っておく。

(3) 分類の方法

最後に、分類の方法についてその概略を記述する。

全陶磁器と土器類を城下町期以前と城下町期と宿場町期に区分し、それぞれの時期毎に分析方法を設定した。分析方法は、城下町期を中心に（詳細）に分析し、城下町期以前と宿場町期は遺構や遺物の量が少なく遺跡の主体となっていないことから割愛することとした。

城下町期の陶磁器と土器類については、基本的に産地材質、器類、器種、器形、釉薬などの項目によって階層的に設定し、出土量の計測は接合前破片数を求めた。産地材質のうち、瀬戸美濃窯産陶器については多くの資料を藤澤良祐氏に器種や時期についてご教示いただいた。この成果をもとにデータを作成しているため、分類は基本的に藤澤良祐の分類方法に依拠する形となっている（藤澤良祐2002）。また、土師器については、その分類は以前に分類作業を行い報告した「清洲城下町遺跡V」（鈴木編1995）の所収論文に依拠している。その他の遺物については、適宜先行研究を援用しながら分析を進めていった。

2 95A区出土陶磁器・土器類

(1) 概要

95A区から出土した陶磁器と土器類は多くは従来の城下町期Ⅲ期に属する遺物であり、城下町期以前と城下町期以降の遺物は極めて少ない状況である。陶磁器類の出土量を完全に計測することができず、正確な数値を示すことができなかったが、陶磁器・土器類は接合前破片数でおおよそ4000点が出土した。この調査区では、遺構の重複が少ないためか、遺構間における遺物接合はほとんどできなかったことなどから、遺構別に実測図を掲載し報告することとした。

(2) 遺構一括資料の紹介

A SK05 出土遺物 (第26図1)

土師器羽無釜(1)などが出土した。1は肩に付く耳は遺存した部分には残存しなかったが、直立する口縁部が短いことなどからみて城下町期Ⅲ期に属する羽無釜B類と考えられる。

B SK10 出土遺物 (第26図2)

土師器羽無釜(2)などが出土した。2は肩に付く耳は欠損していたが、板状の外耳が付着していたと推定され、口縁部から肩部にかけてなだらかになっていることなどからみて城下町期Ⅲ-2期に属する羽無釜B類と考えられる。

C SK20 出土遺物 (第26図3)

瀬戸美濃窯産陶器德利(3)などが出土した。3は口縁部が欠損し、体部は鉄軸を施した上に灰釉を流しかけている。

D SK22 出土遺物 (第26図4)

土師器犬形代(4)などが出土した。4は頭部と右前脚部と左後脚部が欠損する。

E SK25 出土遺物 (第26図5)

土師器内耳鍋(5)などが出土した。5は底部から口縁部にかけて丸く彎曲しながら内彎するタイプで、清須分類鍋B類の第3型式に属する。

F SK26・27 出土遺物 (第26図6)

土師器内耳鍋(6)などが出土した。6は底部と体

部の境界に明瞭な稜を持つものであり、5と同じく鍋B類の第3型式に属するだろう。

G SK06 出土遺物 (第26図7)

土師器羽付釜(7)などが出土した。7は短い罫を持つ釜で耳部は遺存しなかった。口縁部が短くやや内傾することから比較的新しい資料と考えられる。

H SX01 出土遺物 (第26図8～10)

瀬戸美濃窯産陶器向付(9)、播鉢(10)、常滑窯産陶器を転用した加工円盤(8)などが出土した。8は焼締られた真焼の製品で器種は特定できない。9は銅緑釉が施されたいわゆる織部製品で連房式登窯第1小期に属する資料である。

I SD02 出土遺物 (第27図11～18)

瀬戸美濃窯産陶器天目茶碗(11～13)、内壳端反皿(14)、播鉢(15・18)、常滑窯産陶器無頸壺(16)、備前窯産陶器小瓶(17)などが出土した。天目茶碗はくびれた口縁部が高く上方に伸びるタイプで城下町期Ⅲ-2期に属する資料である。16は口縁部が内側に折れてその上面に浅く広い沈線が巡る形状となっている。17は底部に窯印とみられる刻印が施されている。

J SD04 出土遺物 (第27図19～26)

瀬戸美濃窯産陶器天目茶碗(19)、折縁皿(20)、志野丸皿(21)、播鉢(22～25)、土師器羽付内耳鍋(26)などが出土した。瀬戸美濃窯産陶器は大窯第4段階から登窯第1小期に属する資料である。26は罫と内耳を両方有する土師器鍋で口径は約30cmを計測する。口縁部が内彎することから比較的新しいものと推測される。

(3) 遺構外出土資料の紹介

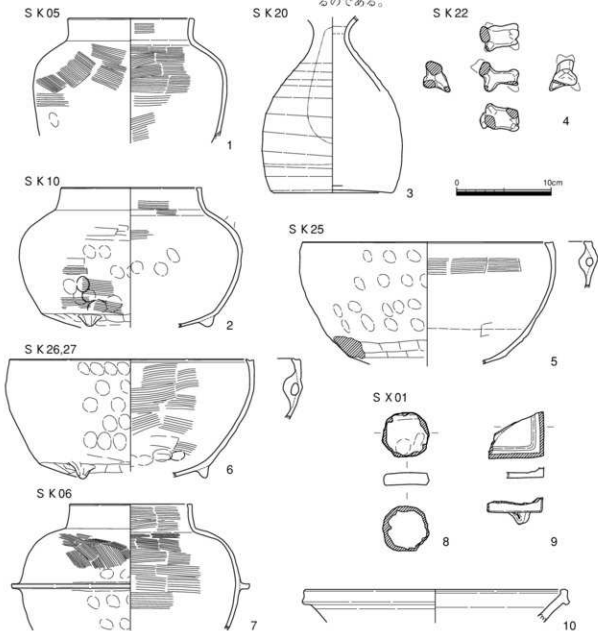
遺構外から出土した資料の中で特筆すべきものを抽出して報告する。瀬戸美濃窯産陶器は折縁皿(27)、志野丸皿(28)、德利(31)、播鉢(33・34)などがあり、中には登窯第8小期に属するこね鉢(32)も含まれる。土師器にはロクロ調整皿、非ロクロ調整皿、内耳鍋、釜などがあり、ロクロ調整皿は体部が逆ハの字状に開き口縁端部がやや外反するもの

(29)などがみられる。釜は平面形が五角形状となる板状外耳が付くものも多く(35・36)、鐙が無いものも多い。

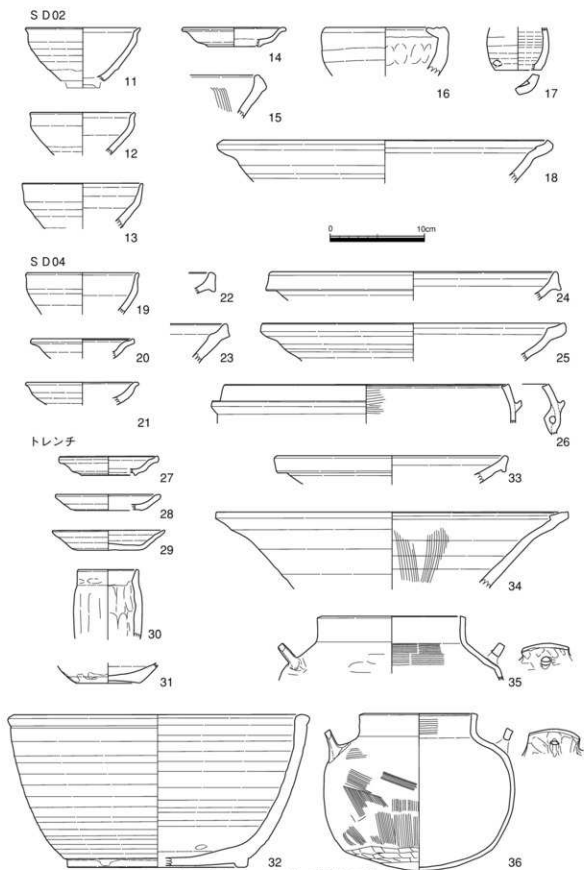
(4) 小結

数少ない実測資料から見ても、瀬戸美濃窯産陶器では大窯第4段階を中心に、大窯第3段階から登窯第1小期までの遺物が多く認められる。これは土師器鍋釜類をみても判明する現象である。具体的にみてみよう。土師器の出土量を接合前破片数で算出す

ると、ロクロ調整皿が377点、非ロクロ調整皿49点、内耳鍋18点、羽付鍋0点、釜68点、焙烙83点、不明鍋釜類1255点、火鉢3点などとなっている。このうち、ロクロ調整皿は「清洲城下町遺跡V」(鈴木編1995)の分類でみるとC類が10点、E類が20点であり、非ロクロ調整皿はD類が圧倒的多数を占めている。これらは、羽無釜や焙烙と同様に、城下町期Ⅲ期に多く見られる器種であり、陶磁器と土器の両側面からみても、95A区は城下町期Ⅲ期という短期間に居住域となっていた可能性が高いことが窺われるのである。



第26図 95A区出土遺物実測図(1)



第27図 95A区出土遺物実測図(2)

3 95B区出土陶磁器・土器類

(1) 概要

95B区から出土した陶磁器と土器類は、95A区と同様に、多くは従来の城下町期Ⅲ期に属する遺物であり、城下町期以前と城下町期以降の遺物は極めて少ない。今回の報告に際しては、陶磁器類の出土量の測定を完全に行うことができず、正確な数値を示すことができなかったが、陶磁器・土器類は接合前破片数でおおよそ4000点が出土した。この調査区では、遺構の重複が少ないためか、遺構間における遺物接合はほとんどできなかったことなどから、遺構別に実測図を掲載し報告することとした。

(2) 遺構一括資料の紹介

A SD102 出土遺物 (第28図37～53)

瀬戸美濃窯産陶器天目茶碗(37・38)、小碗(39)、大皿(44)、播鉢(41・42・47)、常滑窯産陶器壺(45)、甕(46)、土師器ロクロ調整皿(40)、内耳鍋(48)、焙烙(49)、火鉢(50)、火熨斗? (51)、羽無釜(52・53)、中国産磁器青花皿(43)などが出土した。瀬戸美濃窯産陶器は大窯第3段階後半から第4段階までに属する製品が多くなっている。39は志野小碗で体部から口縁部にかけて直立する。播鉢は口縁端部が内側に折り返して縁帯を持つタイプであるが、上端部に面を持たない。48の土師器内耳鍋は口縁部が直線的に伸びる第4型式に属するものと考えられる。羽無釜は、肩に付く耳が遺存するものは少ないが、直立する口縁部が短く、口縁部から肩部にかけてなだらかになっていることなどからみて城下町期Ⅲ期に属する羽無釜B類と考えられる。51は口縁部が大きく外反する浅鉢状の製品で中空の取っ手を持つ火熨斗状の製品と推測される。

B SK101 出土遺物 (第29図54)

土師器ロクロ調整皿(54)などが出土した。54は体部から口縁部にかけて短く直線的に伸びるものである。

C SK109 出土遺物 (第29図55)

土師器ロクロ調整皿(55)などが出土した。55は

口縁部が緩やかに内彎するもので、器壁がやや厚い。

D SK111 出土遺物 (第29図56～58)

瀬戸美濃窯産陶器天目茶碗(56・57)と内売皿(58)などが出土した。天目茶碗はくびれた口縁部が長く直立するもので、登窯第1小期に属する資料である。58は非常に浅い内売皿で比較的新しいものと考えられる。

E SK126 出土遺物 (第29図59)

土師器ロクロ調整皿(59)などが出土した。59は口縁部が内彎するもので、他の遺構出土資料に比べ器高がやや高い。

F SK130 出土遺物 (第29図60)

土師器ロクロ調整皿(60)などが出土した。60も口縁部が内彎するが、腰が強張りっておりこの結果口縁部が直立ぎみになるものである。

G SK140 出土遺物 (第29図61)

土師器非ロクロ調整皿(61)などが出土した。61は内面を一方方向にナデているだけで口縁部を立ち上げないタイプである。

H SK144 出土遺物 (第29図62・63)

瀬戸美濃窯産陶器向付(63)と土師器ロクロ調整皿(62)などが出土した。63は底部のみが残存するが、おそらく志野四方向付と思われる。底部の露胎部分には「九」と記された墨書が残存する。

I SK149 出土遺物 (第29図64)

登窯第1小期に属する瀬戸美濃窯産陶器天目茶碗(64)などが出土した。

J SK151 出土遺物 (第29図65)

瀬戸美濃窯産陶器志野四方向付(65)などが出土し、大窯第4段階後半に属する。

K SK153 出土遺物 (第29図66)

常滑窯産陶器壺の下半部(66)などが出土した。焼成は良好であり、真槌製品である。

L SK158 出土遺物 (第29図67)

口縁部が内彎する土師器ロクロ調整皿(67)などが出土した。

M SK180 出土遺物 (第29図68・69)

大窯第4段階後半から登窯第1小期までに属する

瀬戸美濃窯産陶器などが出土した。両者とも志野製品である。

N SK182 出土遺物 (第29図70～72)

瀬戸美濃窯産陶器志野四方向付(70)、志野丸皿(71)、土師器火鉢(72)などが出土した。70は浅い皿形の志野四方向付で底部に半環足が付着する。72は筒状の土師器で、おそらく火鉢に3つ付く中空の脚になると考えられる。

O SK183 出土遺物 (第29図73)

土師器ロクロ調整皿(73)などが出土した。73は腰が張って口縁部が内彎するもので、口縁端部にタールが付着する。

P SK184 出土遺物 (第29図74)

土師器羽無釜(74)などが出土した。板状の外耳が付き、口縁部はやや内傾する。

Q SK192 出土遺物 (第29図75)

土師器ロクロ調整皿(75)などが出土した。内外面ともタールがかなりの部分に付着したものである。

R SK194 出土遺物 (第29図76・77)

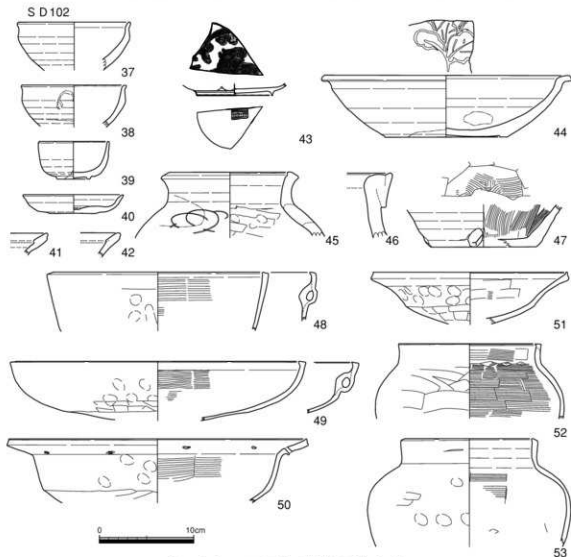
土師器釜(76)とロクロ調整皿(77)などが出土した。77は口縁部が内彎するタイプである。

S SK197 出土遺物 (第29図78)

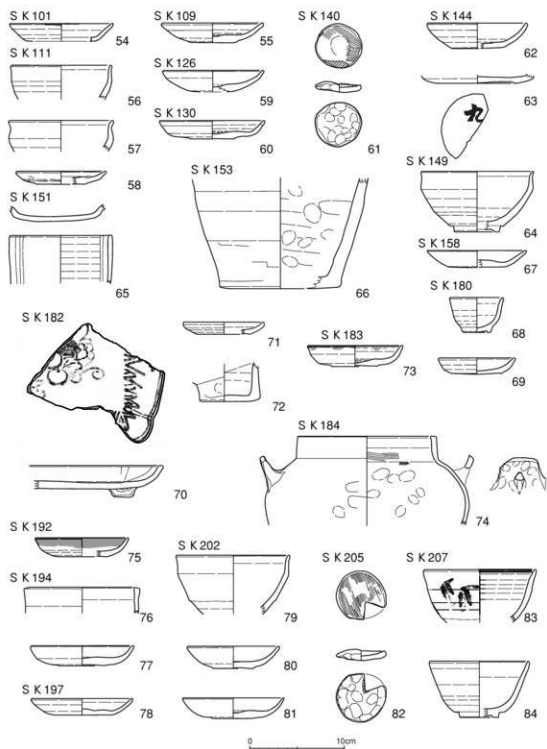
土師器ロクロ調整皿(78)などが出土した。体部から口縁部が逆ハの字状に伸びるものである。

T SK202 出土遺物 (第29図79～81)

登窯第1～2小期に属する瀬戸美濃窯産陶器天目



第28図 95B区出土遺物実測図(1)



第29图 95B区出土遺物実測図(2)

茶碗(79)と土師器ロクロ調整皿(80・81)などが出土した。すべて城下町期Ⅲ-2期に属する資料である。

U SK205 出土遺物 (第29図82)

土師器非ロクロ調整皿(82)などが出土した。内面は一方方向にナデしており、口縁部を上立ち上げないものである。

V SK207 出土遺物 (第29図83・84)

登窯第1小期に属する瀬戸美濃窯産陶器志野丸碗(83・84)などが出土した。83には外面に鉄絵が描かれている。

(3) 小結

本調査区も95A区と同様、瀬戸美濃窯産陶器では大窯第4段階を中心に、大窯第3段階から登窯第1小期までの遺物が多く認められる。また、土師器の出土量を接合前破片数で算出すると、ロクロ調整皿が696点、非ロクロ調整皿43点、内耳鍋26点、羽付鍋1点、釜45点、焙烙21点、不明鍋釜類603点、火鉢8点などとなっている。このうち、ロクロ調整皿は『清洲城下町遺跡V』(鈴木編1995)の分類でみるとC類が48点、E類が76点であり、非ロクロ調整皿はD類が圧倒的多数を占めている。95A区と比べると、ロクロ調整土師器皿が比較的多く、鍋釜類は少ない傾向を読み取ることができる。

凡例

方眼の1マスは、平面垂直座標Ⅶ系によって設定された5mグリッドを示す。

マスの中の数値はそのグリッドから出土した土器類の破片数を示したものである。

	l	m	n	o	p	q	q
14							
15				5			
16				17	2		
17			12	84	34		
18			7	172	61		
19			5	54	77	11	
20			4	52	127	5	
1			19	83	47	2	
2			8	48	85	14	
3			52	76	354	22	
4			9	70	34		
5			13	35	7		
6			6	23	6		
7			6	29	17		
8			28	107	3		
9			42	52	36		
10			18	63	11		
11			34	59	17		
12			57	63	12		
13			47	10			
14			28	1			
15		60	154	110			
16		15	117	114			
17		11	34				
18		15	56	1			
19			16	6			
20		7	26	13			
1		4	2	8			
2			8	1			
3							
4		13	1	6			
5			8				
6							

第30図 95A・B区出土量分布図

4 96区出土陶磁器・土器類

(1) 概要

96区から出土した陶磁器と土器類は接合前破片数で6321点である。これらは城下町期に属する資料ばかりではなく、城下町期以前や城下町期以降のものも少なからず見受けられる状況である。また、遺構の状況は本丸東側の城郭外縁部に相当し、城下町期Ⅲ期を中心に内堀や石垣が、それ以前では溝や溝などが確認されている。このような状況の中、遺物はその大半が石垣前面部分や内堀あるいは石垣下層のやや規模の大きな溝から出土したものが大半を占め、比較的小規模な遺構から出土した事例はほとんど見当たらない。このため出土陶磁器類が多いSX01下層を中心に遺構一括出土資料を取り上げることが報告の中心とし、これに加えて城下町期以前の遺物が相当量存在することも重視して、これもできるだけ図化するように心掛けた。

(2) 城下町期以前の資料紹介

A 須恵器 (第31図85～98・100)

96区から出土した須恵器には様々な器種が認められ、杯蓋、杯身の他、短頸壺(93)、平瓶(94)、甕(97)なども存在する。杯蓋は口縁端部を下に折り曲げるいわゆる杯蓋Bが大半を占め(85～88)、杯身は高台を有するいわゆる杯B(91・92)の他に無台杯(いわゆる杯A)も存在したと考えられる。これらの須恵器はほとんどが猿投窯系須恵器と考えられ、8世紀を中心とする時期のものが多くといえよう。

B 古代の土師器 (第31図99)

古代に属する土師器には甕(99)などが存在する。99は体部外面に荒いハケ調整を残すもので8世紀代に位置付けられると推定される。

C 灰釉陶器 (第31図101～103)

灰釉陶器も96区からは少なからず出土している。器種は、筆者の識別能力の問題が残されるものの、碗(102)や皿(101・103)が多い。これらは時期的には、黒管90号窯式期に属するものが主体をなしていると考えられよう。

D 山茶碗類 (第31図104～111)

山茶碗類(灰釉系陶器類)には碗、皿、鉢などが存在する。今回の資料では、東濃型山茶碗類と尾張型山茶碗類の二者が確認されており、どちらかと言えば後者の方が出土量は多い。東濃型山茶碗類には藤澤良祐福年の第6型式に属する碗(104・105)などがあり、尾張型山茶碗類には第5型式に属する碗(106)、第7か8型式に属する碗(107)、第3型式に属する小碗(108)、第5型式に属する鉢(111)、第9型式に属する鉢(110)などが存在する。

E 古瀬戸製品 (第31・32図112～152)

96区から出土した陶磁器と土器類の中で、比較的目立つ存在として瀬戸窯産陶器の古瀬戸製品をあげることができる(ただし、ここでは城下町期に属する古瀬戸後Ⅳ期に属する製品についてはこの項目から除外している)。器種には、卸皿(112)、燗台(114)、仏供(115～117)、仏龕具(118)、柄付片口(119)、花瓶(120)、折縁深皿(121・122)、折縁大皿(123)、直縁大皿(124)、水注(138・139)、梅瓶(140～142)などが存在するが、最も多いのは四(三)耳壺である。

四(三)耳壺は古瀬戸前期から後期にわたって各時期の製品が認められる。藤澤良祐福年でこれらを時期区分すると、130と144～146は古瀬戸前ⅠかⅡ期に、131と147は古瀬戸前Ⅱ期、148は古瀬戸前Ⅲ期、132と149は古瀬戸前ⅢかⅣ期、135と152は古瀬戸中期に、137と150と151は古瀬戸後期、126は古瀬戸後ⅢかⅣ期などに分けることができる。なお、129は猿投窯産陶器の三筋壺で4か5型式に属する古いタイプのものである。

このようにみると、96区では古瀬戸前期から中期にかけての資料が一定量まとまって存在し、器種構成では四(三)耳壺が多いことが明らかである。後述するようにここでは常滑窯産陶器の壺類も数点出土しており、このような出土傾向は、東海地方の一般的な？集落では余り見られない状況である。むしろ中世墓またはそれに関連する遺跡で多く見られる状況といえよう。96区で墓などの遺構が確認されて

いないので断定はできないが、中世の段階で墓域が展開していた可能性を窺わせる資料となることをここで指摘しておきたい。

(3) 遺構一括資料の紹介

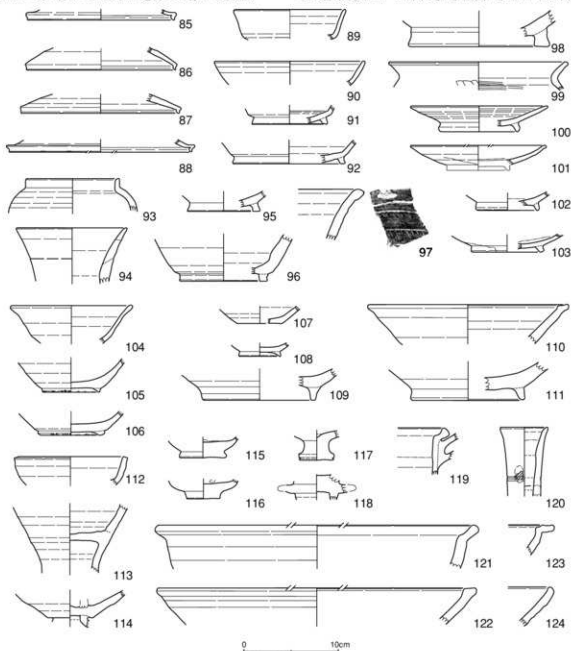
A SX01-2層出土遺物 (第33～35図153～275)

SX01の第2層から出土した遺物には様々な製品が

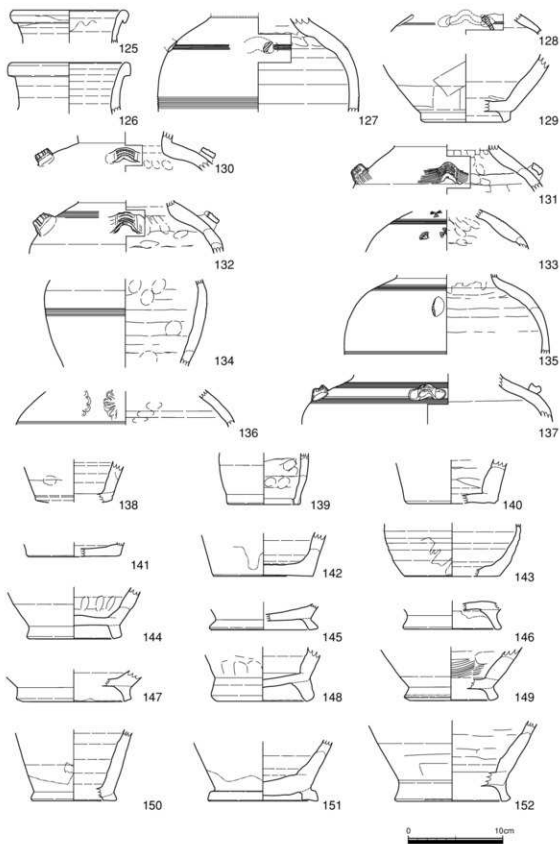
存在しており、多くは城下町期に属する遺物であるが、一定量の宿場町期に属する資料も見受けられる。ここでは、城下町期の瀬戸美濃窯産陶器、中国産磁器、土師器、常滑窯産陶器、宿場町期の陶磁器・土器、その他に分けて報告する

(A) 城下町期の瀬戸美濃窯産陶器

瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗、丸碗(160・168)、小天目茶碗(164・165)、丸皿、重皿、鉢皿(180)、

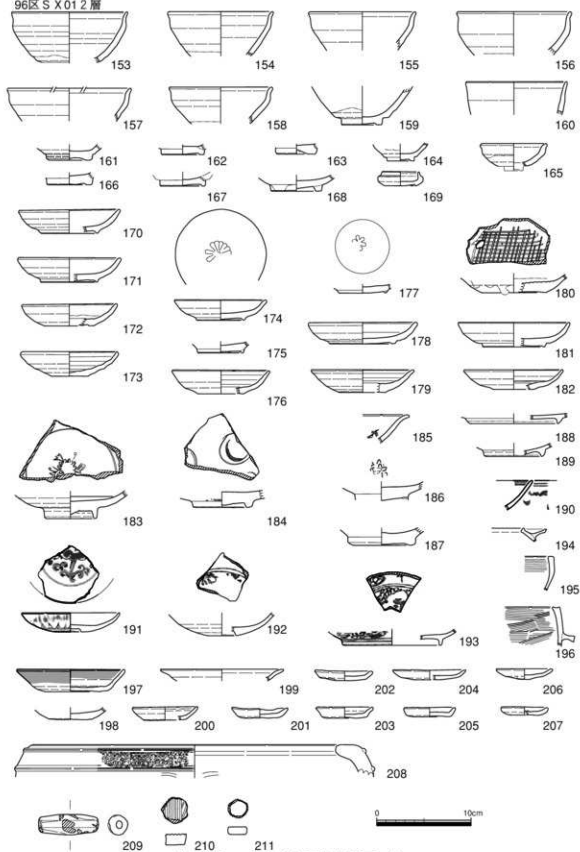


第31図 96区出土遺物実測図(1)

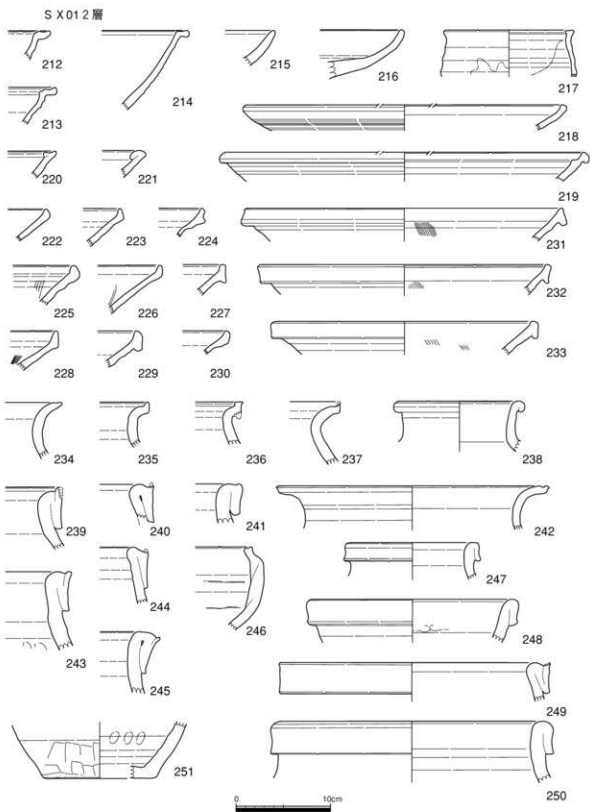


第32图 96区出土遺物実測図(2)

96区 S X01 2層



第33图 96区出土遺物实测图(3)



第34图 96区出土遺物実測図(4)

志野丸皿、緑軸皿(198)、搦鉢、大皿などが存在する。天目茶碗は口縁端部を短くS字状に折り曲げる古瀬戸後Ⅳ期新段階に属するもの(154・157・161)、大窯第1段階に属するもの(162・167)、大窯第3段階後半に属するもの(155・159)、大窯第4段階前半に属するもの(158・163)、大窯第4段階後半に属するもの(153・156・166)がある。丸碗は大窯第3段階後半に属するもの(168)と登窯第1小～2期に属するもの(160)がある。碗のみに着目しても城下町期各時期の製品が認められることが判明する。

皿は大窯第3段階に属する灰軸丸皿(170・171・174)などが目立ち、大窯第4段階後半に属する志野丸皿(178)や重圈皿(179)なども認められる。169は大窯第4段階に属する香合身である。

搦鉢は古瀬戸後Ⅳ期新段階のものが多く(220・222・223・225・226・230)、他に大窯第1段階に属するもの(224)、大窯第2段階に属するもの(228)、大窯第3段階後半に属するもの(229・231)、大窯第4段階前半に属するもの(227・232・233)も存在する。

(B) 城下町期の土師器

城下町期に属する土師器にはロクロ調整皿(200)、非ロクロ調整皿、内耳鍋、羽付鍋などが存在する。非ロクロ調整土師器皿には、口径が大きく口縁部が大きく外反するタイプ(199)と口縁部を短く立ち上げて横ナデが施されるタイプ(201～207)がある。一方、土師器皿の出土量は2464点と多いのに対して、鍋釜類の出土量は137点と相当に少なくなっており、図化できた資料は195と196に過ぎない。また、194はいわゆる内壱型羽釜と呼ばれる室町時代を通じて尾張地域を中心に存在する形式の鍋類で、口縁部がかなり内傾しこの形式では比較的新しい資料である。208は瓦器の火鉢で、口縁部外面にスタンプ紋が巡っている。

(C) 常滑窯産陶器(第34図234～251)

常滑窯産陶器には壺と壺が存在する。234のように赤羽中野編年の3型式に属する古いものから、244のように11型式に属するものまで、時期的に多様なものが存在する。中でも口縁緑帯部が頭部上端に密着し緑帯が折り返しの頂部よりも下がった位置にくる10型式に属するものが数的に多い。238や247

などの壺類や246などの無頸壺などの器種もわずかに存在する。

(D) 宿場町期の陶磁器・土器類(第35図252～275)

江戸時代(17世紀中頃～19世紀中頃)の陶磁器・土器類には、瀬戸窯産陶器、美濃窯産陶器、肥前窯産磁器、土師器など多種多様な製品が認められる。瀬戸窯産陶器には腰鉋茶碗(253)、端反碗(255)、水盤(265)、蓋(266)、小瓶(269)、大皿(270)、こね鉢(271)、搦鉢(272)などがあり、端反碗や搦鉢を除く大部分の製品は登窯第8～9小期に属するものである。端反碗(255)は登窯第11小期に属する。

美濃窯産陶器には広東茶碗(256)、箱形湯呑(259)、無高台皿(灯明皿261～263)、丸皿(264)などがある。広東茶碗や箱形湯呑は登窯第9小期前後に属し、無高台皿は登窯第8～9小期に、丸皿は登窯第5小期に属する。

土師器には焙烙が存在し、これらは口縁部が内側に屈曲し端部が肥厚するもの(274・275)であり、18世紀後半から19世紀初頭に位置付けられよう。

この他には、肥前磁器丸碗(257)、蛙形の産地不明陶器水滴(254)、関西系磁器蓋(267)、白色粘土などによる罎目状の浮紋が内外面に展開する産地不明陶器碗(260)、近代に属するガラス製薬瓶(268)などがある。

B SK07 出土遺物(第35図276)

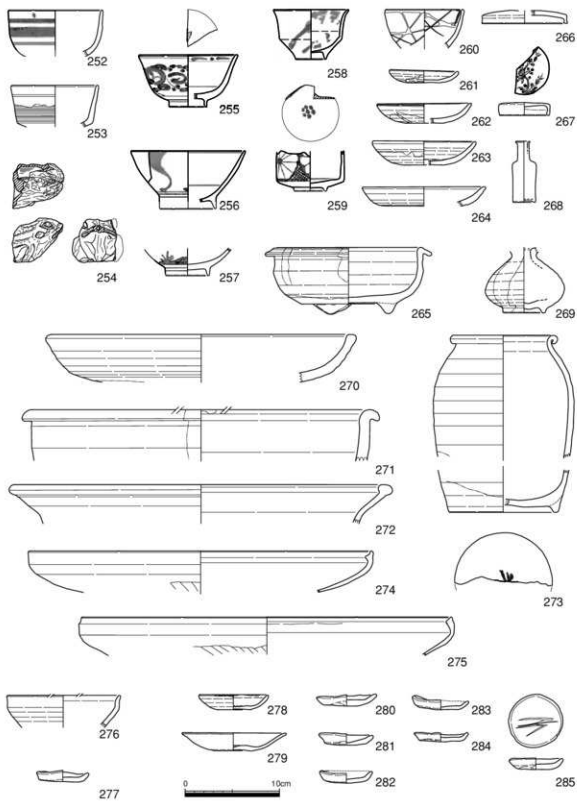
SK07からは天目茶碗(276)などが出土した。276は口縁部が緩やかにくびれており、古瀬戸後Ⅳ期古段階に属するものである。

C SU02 出土遺物(第35図277)

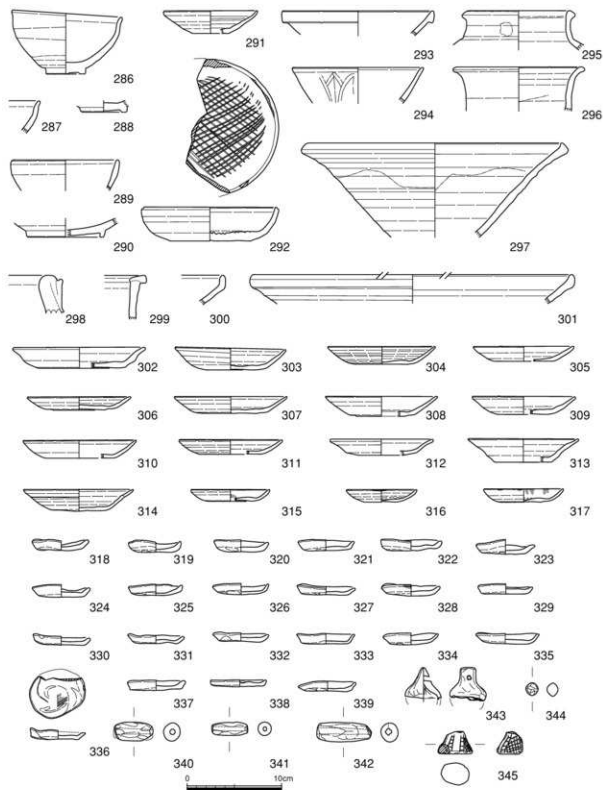
土師器非ロクロ調整皿(277)などが出土した。277は口縁部が横ナデされたタイプで、城下町期Ⅰ～Ⅱ期に属するものである。

D SU01 出土遺物(第35図278～285)

土師器ロクロ調整皿(278・279)、非ロクロ調整皿(280～285)などが出土した。278は口縁部がやや内彎する小形皿、279は口縁部が緩やかに大きく外反するものである。非ロクロ調整皿はSU02出土資料と同様口縁部に横ナデが施されるタイプのもので、285は内面に線刻が認められた。



第35图 96区出土物实测图(5)



第36图 96区出土遗物实测图(6)

(4) 遺構外出土資料の紹介

遺構以外から出土した資料(特に城下町期に属するもの)をここで紹介する。瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗(286~288)、台付碗(289)、卸皿(292)、筒型容器(296)、直縁大皿(297)などがある。天目茶碗は大室第1~3段階に位置付けられるものが多いが、その他は古瀬戸後Ⅳ期前後に属するものが多い。中国産磁器には白磁玉縁口縁碗(293)、龍泉窯系青磁蓮弁紋碗(294)など城下町期以前に属するも

のが目立つ。土師器皿にはロクロ調整皿と非ロクロ調整皿が存在するが、前者は口縁部が大きく外反するタイプ(302・312)は非常に少なく、口縁部が直線的に逆ハの字状に開くタイプ(303~311)が多く認められる。一方、後者は口縁部が上方に立ち上がり横ナデが施されるもの(318~339)が大半を占める。土師器にはこの他に、土鍾(340・341)、土鈴(343)、土鈴用と推測される土玉(344)、瓦質に焼成された形代(345)などがある。342は陶製の土鍾である。

凡例

方眼の1マスは、平面垂直座標Ⅱ系によって設定された5mグリッドを示す。

マスの中の数値はそのグリッドから出土した陶磁器・土器類の総破片数を示したものである。

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18							
4																										
5																	1	14								
6																	45	54	5							
7																	3	1	24	77	46					
8																	5	3	11	34	27	58	22			
9																	9	13	3	18	42	39	38	5		
10																	1	54	27	19	4	179	84	25	2	1
11																	1	15	5	37	25	12	200	54	3	
12																	5	10	65	43	45	30	19	8		
13																	5	15	34	68	24	23	14			
14																	1	17	9	25	28	37	15	1		
15																	3	38	33	15	25	5	4			
16																	1	12	18	12	2	3				
17																		12	1							
18																										

第37図 96区出土量分布図

5 97B区出土陶磁器・土器類

(1) 概要

97B区から出土した陶磁器と土器類は接合前破片数で9766点である。その内訳は城下町期に属する資料ばかりではなく、古代の遺物が140点、山茶碗類が237点出土するなど城下町期以前の遺物が一定量認められる。また、城下町期以降のものも瀬戸窯産陶器などが582点存在する。これらの資料は人為的に掘削された遺構の他に自然流路(旧五条川)などの堆積物からも多量に出土しており、現実的には自然流路も遺構に含めると遺構外出土資料はほとんど存在しない状態となっている。このような状況であることから、ここでは遺構一括出土資料のみを紹介することで報告としたい。

(2) 遺構一括資料の紹介

A NR02出土資料(第38～42図346～477)

NR02の灰色粘土層や植物層などからは多くの木製品とともに陶磁器・土器類が出土している。陶磁器・土器類は城下町期1期に属する資料が大半を占め、瀬戸美濃窯産陶器、土器器、常滑窯産陶器、中国産磁器、瓦器などの製品が存在する。ここではこれらの産地材質別に記述を進めたい。

(A) 瀬戸美濃窯産陶器

瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗(346～352)、平碗(353)、仏前具(台付碗:354)、香炉(355～357)、緑釉皿(358～361)、重團皿(東濃型山茶碗:363～368)、鉦皿(369～370)、耳付水注(371)、茶入(372)、瓶子(373)、小鉢(376)、口広有耳壺(377)、花瓶(380)、徳利(381)、甕(382)、卸目付大皿(383)、搦鉢(385～397)などが存在する。このうち352・354・362・367・368・380は大窯第1段階に属するものであり、これ以外の製品は古瀬戸後Ⅳ期に属するものが多く、中でも新段階に位置付けられるものが大半である。

天目茶碗は口縁端部を短くS字状に折り曲げるものが多く、底部外面には紫褐色の錆釉が施されている。平碗(353)は器壁が厚手で器高が低くなるもの

であり、仏前具(354)は底部外面が露胎となっている。香炉は口縁部が短く外側に折れ曲がるタイプと(355・357)、緩やかに外反するタイプ(356)に分けることができる。

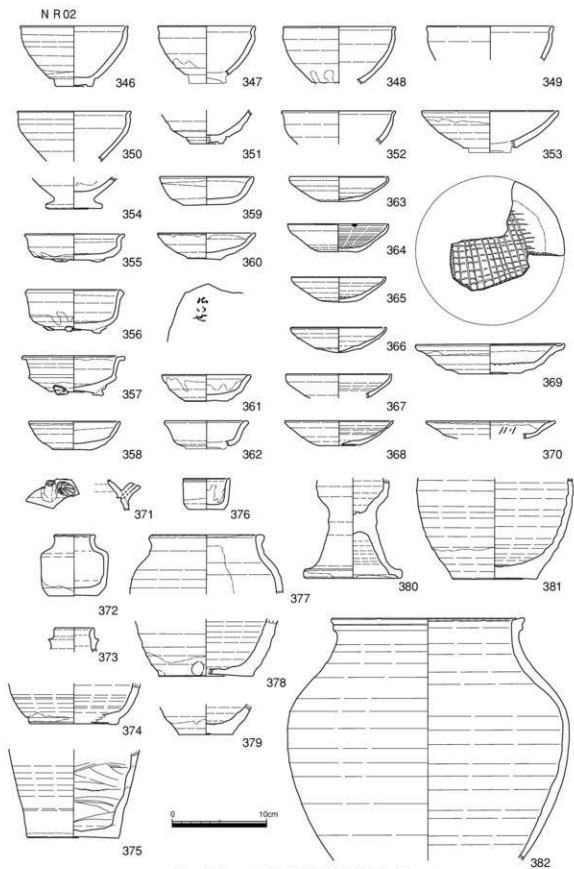
緑釉皿は体部から口縁部にかけて直立ぎみに開くタイプ(358・359・361)と、斜に開くタイプ(360)がある。361は内外面がやや煤けており、内面中央部(見込み部)に「御いせ」と墨書が施されている。重團皿(東濃型山茶碗)は口縁部が屈曲するように内彎するタイプが多く(363～367)、ほとんど内彎しないタイプ(368)は少ない。364の口縁部には部分的にタールが付着しており、灯明皿として使用されていたことが判明する。

耳付水注(371)は注口部が出土した。茶入(372)は光沢の強い黒色の鉄釉が施されていた。搦鉢は図示したものは全て口縁端部が内側の斜上方にやや伸びる古瀬戸後Ⅳ期新段階に属するものであるが、詳細に見ると、内側に伸びる口縁端部が丸く玉縁状になるもの(385・387・389・394・395)、端部がやや長く伸びるもの(390・392・397)、端部が短く折れるに過ぎないもの(391・393)に分類が可能である。

(B) 土器器(第40図398～451・第41図462～474)

城下町期に属する土器器にはロクロ調整皿(398～435・437～440)、非ロクロ調整皿(436・441～451)、内耳鍋(462～474)などが存在する。

ロクロ調整土器器皿には、口径が11～15cmの規模で体部から口縁部が直線的に逆ハの字状に開く1類(398～427・429～435)と、口径が約17cmの規模で体部の腰が張り口縁部が大きく外反する2類(428)と、口径が約8cmの規模で体部から口縁部が直線的に逆ハの字状に開く3類(437～440)がある。『清洲城下町遺跡Ⅴ』(鈴木編1995)分類で各類を当てはめてみると、1類がB類に、2類がA類に、3類がF類に各々相当し、この中で1類(B類)が数量的に最も多いものである。したがって、このNR02はロクロ調整B類の土器器皿が多く認められるタイプの出土状況を呈していることが明らかとなり、90CD



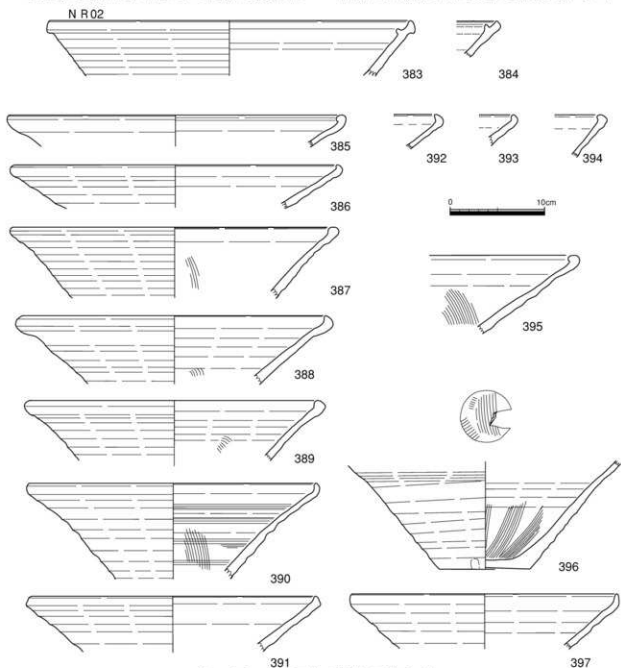
第38图 97B区出土遺物実測図(1)

区や94A区と同様な出土傾向を示していることが判明した。I類のロクロ調整土師器皿には墨書が施されたものが数点存在する。これらは体部内面に書かれたもの(430)、底部内面に書かれたもの(431)、底部外面に書かれたもの(432・433)、体部外面に書かれたもの(434・435)など様々な部位に墨書されているが、記述された内容は判読できたもので見ると「五十」、「三」、「十」、「井」といった数字に限定され

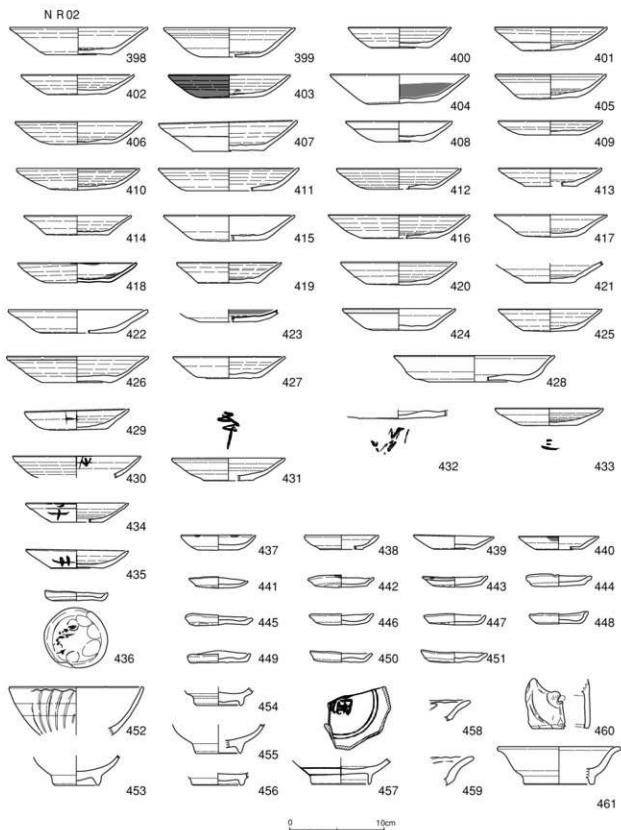
ているものである。

一方、非ロクロ調整土師器皿には、口径が約6cmの規模を持ち、口縁部を短く立ち上げて横ナデが施されるタイプにはほぼ限られる。このうち、436の底部には判読できない墨書らしき痕跡が残存する。

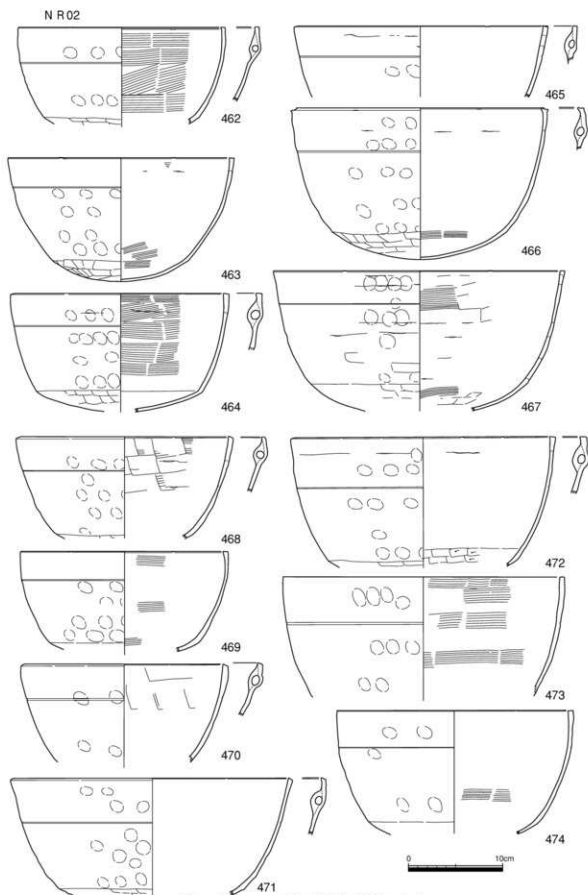
鍋釜類は圧倒的に内耳鍋の出土量が多くなっている。内耳鍋はいわゆる半球形内耳鍋に属するもので、体部から口縁部にかけてほとんど直立しながらやや



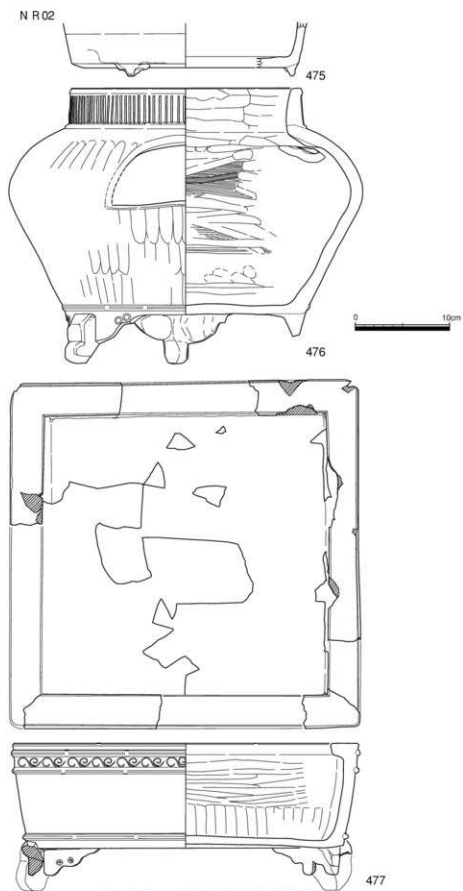
第39図 97B区出土遺物実測図(2)



第40图 97B区出土遺物実測図(3)



第41図 97B区出土遺物実測図(4)



第42図 97B区出土遺物実測図(5)

開くタイプであり、口縁端部から3～5cm程度下位の部分に浅い沈線が巡っている。これらは半球形内耳鍋の中で最も古いタイプとして認識されているものである。内耳は粘土を平らに伸ばして取り付けられている(写真図版15参照)。

(C) 中国産磁器(第40図452～461)

中国産磁器には青磁と白磁と青花が存在するが、比較的青磁の出土量が多くなる傾向を説取ることができる。青磁には蓮弁紋碗(452)や稜花皿(458・459)、水滴(460)などが認められ、その多くは龍泉窯系の青磁と考えられる。460は人物を形作った水滴の破片と推測されるもので、あるいは新しい時期に属するものかも知れない。白磁には碗(453・455)などがあり、青花には蓮子碗と目される碗(457)などが存在する。

(D) 瓦器(第42図476・477)

瓦器には風炉(476)と火鉢(477)があり、両者とも表面が赤橙色を呈しているものである。476は3個の猫脚を持ち、半円形の大きな窓と花形を呈する小さな孔が2個穿たれている。表面は縦方向にミガキ調整が施され、内面はヘラ状工具によるケズリ調整や指ナデ調整が施されていた。477は平面形がほぼ正方形となる火鉢である。口縁部は内側に直角に屈曲し、外面上位に連続するスタンプ紋が2条の突帯の間に施されている。

B NR01出土資料(第43～47図478～641)

NR01からも多くの陶磁器・土器類が出土している。NR02出土遺物と同様に、城下町期I期に属する資料が大半を占め、瀬戸美濃窯産陶器、土師器、常滑窯産陶器、中国産磁器、瓦器などの製品が存在する。

(A) 瀬戸美濃窯産陶器(第43図478～534)

瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗(478～483)、平碗(484)、仏前具(台付碗:485)、尾張型山茶碗(486)、重圍皿(東濃型山茶碗:487～499)、緑釉皿(500～514)、端反皿(516)、香炉(518～520)、茶入(522・524)、折縁深皿(605)、双耳壺(606)、燗台(607)、口広有耳壺(612)、搦鉢(614～631)などが存在する。このうち485・486・509・516は大窯第1段階に属するものであり、これ以外の製品は古瀬戸後IV期

新段階に位置付けられるものが大半である。大窯第2段階から第4段階の資料はほとんど見られないのに対して、連房式登窯期の製品は数点見出すことができる。515は登窯第1小期の志野鉄絵丸皿、517は登窯第5～6小期の摺絵皿、523は登窯第8小期の汁次である。

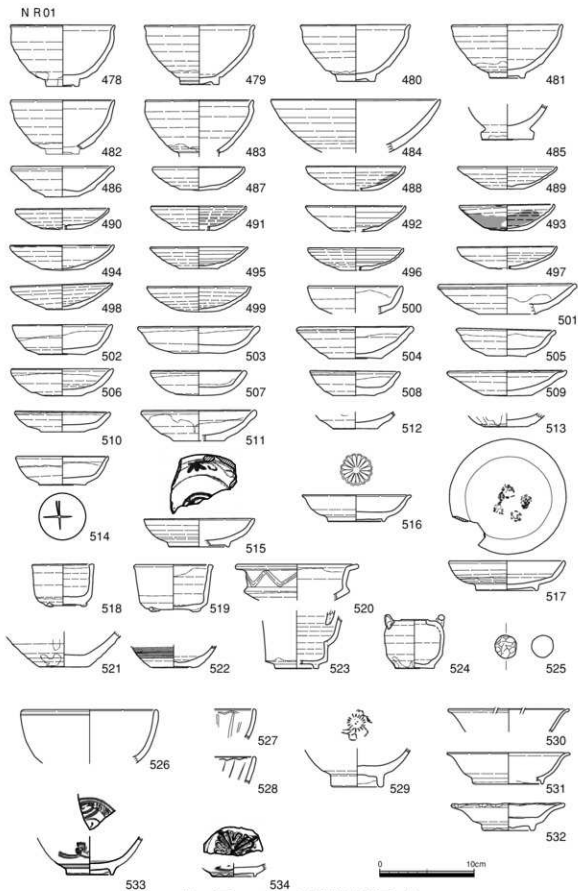
天目茶碗は口縁端部が短くS字状に折り曲げられている。平碗(484)は器壁が厚手のものであり、尾張型山茶碗(486)は高台を持たないもので、大窯第1段階に相当する第12型式に属するものである。

重圍皿(東濃型山茶碗)は口縁部が緩やかに内彎するタイプが多く、493のように内外面の多くの部分にタールが付着しているものがある。緑釉皿は、はさみ皿と分類されるもの(501・509)が含まれている。この他のものはNR02と同様に、体部から口縁部にかけて直立ぎみに開くタイプ(502・503・507など)と、斜に開くタイプ(504～506など)がある。505は内外面がやや煤けている。514は底部外面に焼成後に刻み込まれた「十」の刻書が残存する。端反皿(516)は内面に印花紋が認められ、香炉は筒形のタイプ(518・519)と袴腰形のタイプ(520)が存在する。520は頸部に扇歯状の沈線が巡っている。

521は搦鉢形小鉢の底部である。603は大窯期に属する腰部がやや丸く張る鉢と推測される。双耳壺(606)は底部がヘラケズリ調整されていた。607は燗台の脚部、608は頸部と肩部がなだらかになっている壺である。搦鉢は口縁部内側に突帯が巡るタイプ(614・615)と口縁端部が内側の斜上方にやや伸びるタイプ(616～631)があり、いずれも古瀬戸後IV期新段階に属するものである。後者は、詳細に見ると、内側に伸びる口縁端部が丸く玉縁状になるもの(617・629など)、端部がやや長く伸びるもの(621・627など)、端部が短く折れるに過ぎないもの(622・623など)に分類することができる。

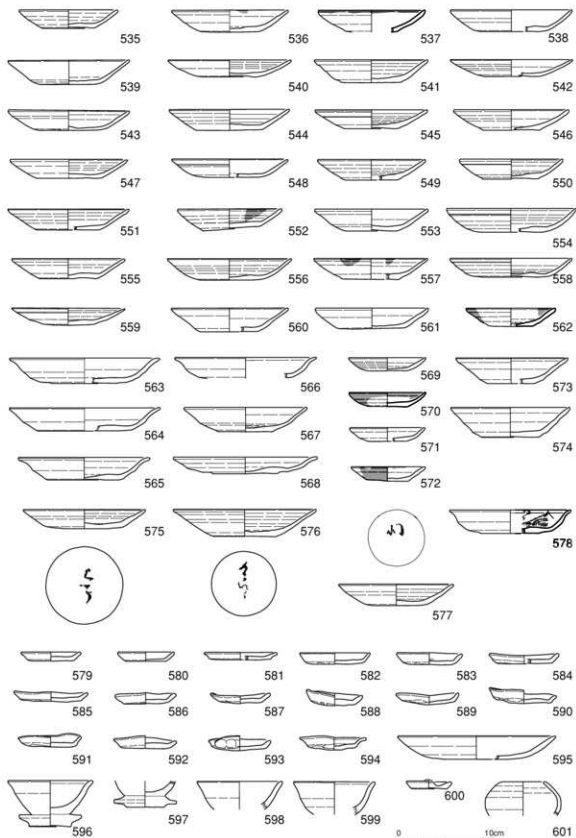
(B) 土師器(第44図535～601・第47図632～641)

城下町期に属する土師器にはロクロ調整皿(535～578)、非ロクロ調整皿(579～595)、仏前具(596～599)、蓋(600)、無頸壺(601)、内耳鍋(632～640)、釜(641)などが存在する。



第43图 97B区出土遺物实测图(6)

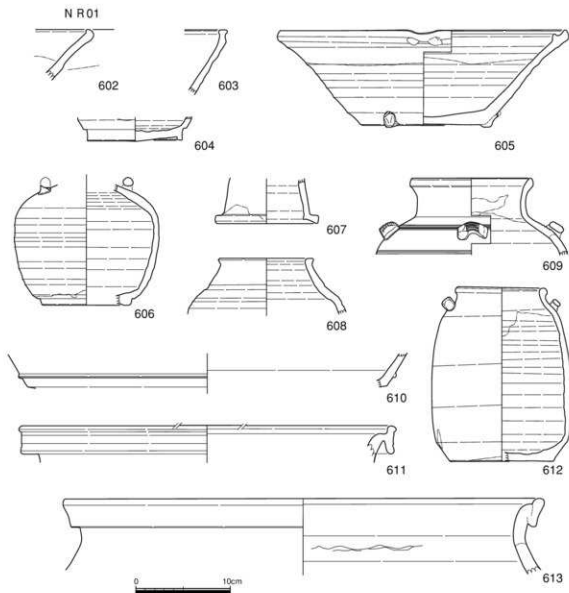
N R 01



第44图 97B区出土遗物实测图(7)

ロクロ調整土師器皿には、口径が10～13cmの規模で体部から口縁部が直線的に逆ハの字状に開く1類(539～559・575～577など)と、口径が約15cmの規模で体部の腰が張り口縁部が大きく外反する2類(563～568)と、口径が約8cmの規模で体部から口縁部が直線的に逆ハの字状に開く3類(569～572)、口径が約12cmで器高が他と比べやや高い4類(573・574)、体部は直線的に開くもののやや外折れする5類(560・561など)がある。「清洲城下町遺跡V」(鈴木編1995)分類で各類を当てはめると、

1類がB類に、2類がA類に、3類がF類、5類がE類に各々相当し、この中で1類(B類)が数的に最も多いものである。しかしNR02に比べると2類(A類)が比較的目的つようになっていいる。1類のロクロ調整土師器皿には墨書が施されたものが数点存在する。これらは底部内面に書かれたもの(577)、底部外面に書かれたもの(575・576)があり、いずれも記述内容は判読できない。2類(A類)にも内面に墨書が残存するものが存在するが、文字が否かも判読できない状態である。



第45図 97B区出土遺物実測図(8)

一方、非ロクロ調整土師器皿には、口径が約6～7cmの規模を持ち、口縁部を短く立ち上げて横ナデが施されるタイプ(579～594)には限られる。この中で横ナデが強いタイプ(594など)も見られる。この他に口縁部が直線的に伸びて、口径が約17cmを測るもの(595)も認められる。

596～599は口縁部が外反する碗形の体部を持ち、下部に平底の盤状台が付くものであり、瀬戸美濃窯産陶器大窯第1段階の仏前具を模倣してできたと推測される。596の盤状の台の上には回転糸切り痕が残存することから碗口と台部が別々に作られ合わせたものと考えられる。これまで清洲城下町遺跡では見られないタイプの土師器製品である。600は土師器蓋で下面には回転糸切り痕が残る。601は無頸壺でこれまでの類別と比べると器壁が薄いものである。

鍋釜類は、NR02と同様に、内耳鍋の出土量が多くなっている。内耳鍋はいわゆる半球形内耳鍋に属するもので、体部から口縁部にかけてほとんど直立しながらやや開く最も古いタイプであり、口縁端部から3～5cm程度下位の部分に浅い沈線が巡っている。641は口縁部が高く直立する羽付釜であり、鍋の長さがやや長い。

(C) 中国産磁器(第43図452～461)

中国産磁器には青磁と白磁と青花が存在する。青磁には無紋碗(526)、蓮弁紋碗(527～529)や桜花皿(532)などが認められ、いずれも龍泉窯系の青磁と考えられる。白磁には端反皿(530・531)などがあり、青花には碗(533)と皿(534)などが存在する。

(D) 常滑窯産陶器(第45図611・613)

常滑窯産陶器には堯があり、赤羽中野編年の7型式ぐらいに属する。

C SD01 出土資料(第47図642～644)

中国産白磁皿と青磁碗と瀬戸窯産陶器四耳壺などが出土した。四耳壺は頸部と肩部がなだらかになり古瀬戸後Ⅲ期に属する。

D SK14 出土資料(第48図645～661)

瀬戸美濃窯産陶器天目茶碗(645)、搦鉢(649～652)や土師器ロクロ調整皿(654～660)、内耳鍋

(661)などが存在する。648は中国産青磁の盤で龍泉窯系の製品と考えられる。体部内面にそぎが入っている。

E SK01 出土資料(第48図662)

非ロクロ調整土師器皿などが出土した。横ナデが施される古いタイプのものである。

F SK02 出土資料(第48図663)

瀬戸美濃窯産陶器腰折皿が出土した。古瀬戸後Ⅳ期後半に属するものである。

G SK06 出土資料(第48図664～666)

ロクロ調整土師器皿などが出土した。口径が約12cmのものとして8cm弱のものがあり、両者とも体部は短く直線的に開くものである。

H SK08 出土資料(第48図667～669)

瀬戸美濃窯産陶器天目茶碗(667)、ロクロ調整土師器皿(668)、非ロクロ調整土師器皿(669)などが出土した。669は口縁部が緩やかに大きく外反する口径が大きなタイプのものである。

I SK10 出土資料(第48図670)

瀬戸美濃窯産陶器搦鉢などが出土した。

J SK12 出土資料(第48図671)

瀬戸美濃窯産陶器平鉢などが出土した。

K SK13 出土資料(第48図672)

土師器内耳鍋などが出土したが、体部外面に沈線が巡る古いタイプのものである。

L SK17 出土資料(第48図673・674)

瀬戸美濃窯産陶器搦鉢と非ロクロ調整土師器皿などが出土した。

M SK15 出土資料(第48図675)

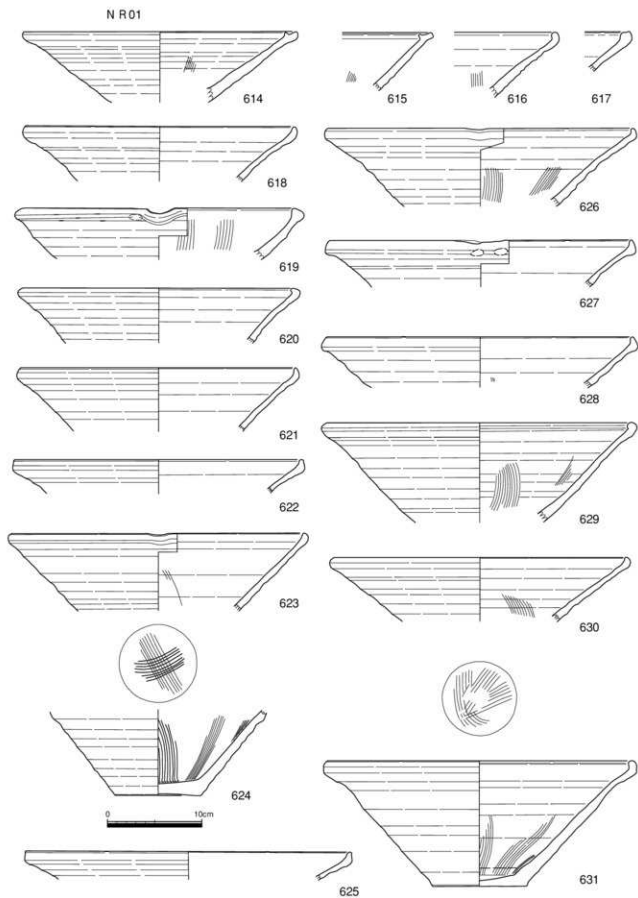
瀬戸美濃窯産陶器耳付小壺などが出土した。

N SK16 出土資料(第48図676～680)

瀬戸美濃窯産陶器仏前具や東濃型山茶碗や中国産青磁碗などが出土した。肥前産磁器碗も含まれることから宿場町期に属する資料と考えられる。

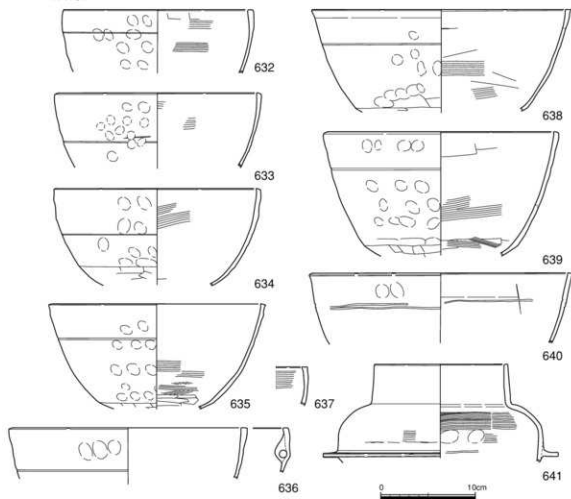
O NR00 出土資料(第49図681～691)

肥前磁器碗(681)などの宿場町期に属する遺物が少なからず出土し新しい遺構と推測されるが、城下町期の遺物の中で抽出したものを紹介する。683と684は瀬戸美濃窯産陶器端反皿、689は広口有耳壺、690は鉢である。690は体部が穿孔されている。ま

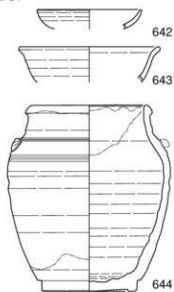


第46图 97B区出土遗物实测图(9)

N R 01



S D 01



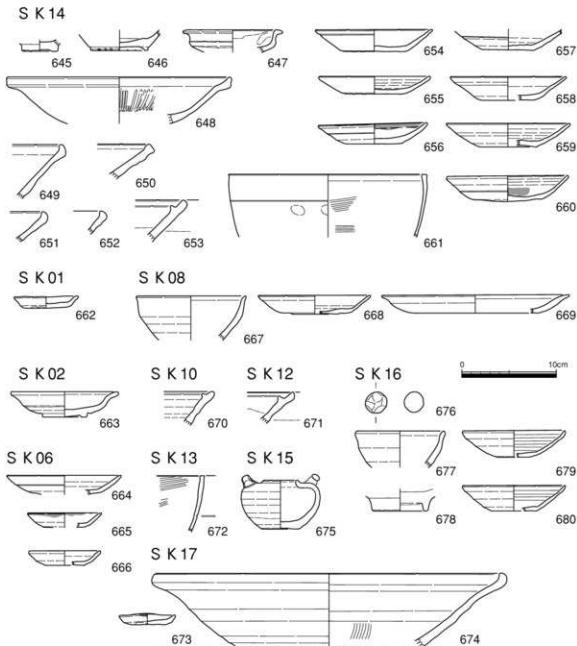
第47图 97B区出土遺物実測図(10)

た、686は楽系軟質陶器の碗で黒色の鉛釉が施されている、いわゆる黒楽茶碗の口縁部である。

P NRA 出土資料 (第50図692～714)

若干の古い時期の遺物を含むものの、多くは江戸時代に属するものである。瀬戸美濃窯産陶器には腰錯茶碗(692)、丸碗(693・695)、大皿(707)、半胴甕(708)、こね鉢(709)などがある。美濃窯産陶器には無高台皿(灯明皿:706)、徳利(713)などがあ

る。これらは藤澤良祐編年の登窯第8～9小期に属するものが多い。肥前窯産磁器には丸碗(696)、蓋(700)、小瓶(702)などがある。698と699は尾張型山茶碗で第6型式に属する資料、705は中国産青花端反皿で城下町期I期に多く見られるものである。711は土師器の無頸壺状の製品である。これまでに本遺跡では類例が無く、機能や時期については明らかにし得ないが、土師器釜の体部のつくりには頸部との接



第48図 97B区出土遺物実測図(11)

合部分で口縁端部の調整を施しており、煮沸に使用された製品の可能性が考えられる。

Q NRB 出土資料 (第51図715～737)

ここで紹介する資料はNRBの護岸表込め部分から出土したものが大半を占めている。NRA出土資料と同様に、若干の古い時代の遺物を含むものの、多くは江戸時代に属するものである。江戸時代に属する瀬戸窯産陶器にはせんじ碗(716)、腰銘茶碗(718)、丸碗(715)、丸皿(729・730)、乗燭半(731)、蓋(732・733)などがある。美濃窯産陶器には摺絵丸皿(728)、蓋(733)などがある。これらは登窯第7～9小期に属するものが多い。肥前窯産磁器には丸

碗(717)などがある。一方、城下町期に属する資料に着目すると、瀬戸美濃窯産陶器仏飴具(台付碗:720)、縁軸皿(721・722)、重圍皿(723・724)、摺鉢(737)、常滑窯産陶器壺(736)などがある。瀬戸美濃窯産陶器は古瀬戸後Ⅳ期の新段階に属するものが多い。

R SE01 出土資料 (第51図739～744)

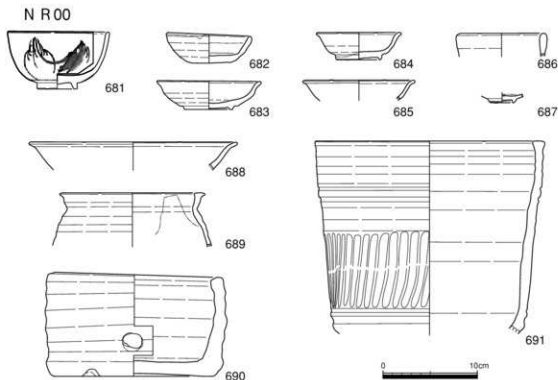
瀬戸美濃窯産陶器天目茶碗(738)、重圍皿(739)、志野丸皿(740)、土師器ロクロ調整皿(741～743)、常滑窯産陶器赤土壺(744)などがある。740はこの97B区では数少ない大窯第4段階後半に属するものである。

6 97C区出土陶磁器・土器類

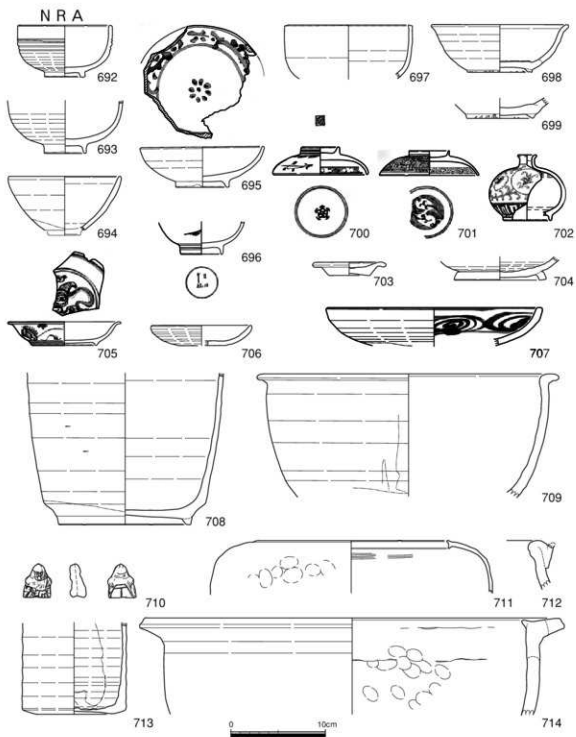
(1) 概要

97C区は96区で確認された石垣SW01の取り外し調査とその下層部分の調査を実施した調査区である。遺物は石垣SW01の表込め部分の礫層から出土したものの下層で確認された枕列付近から出土したもの

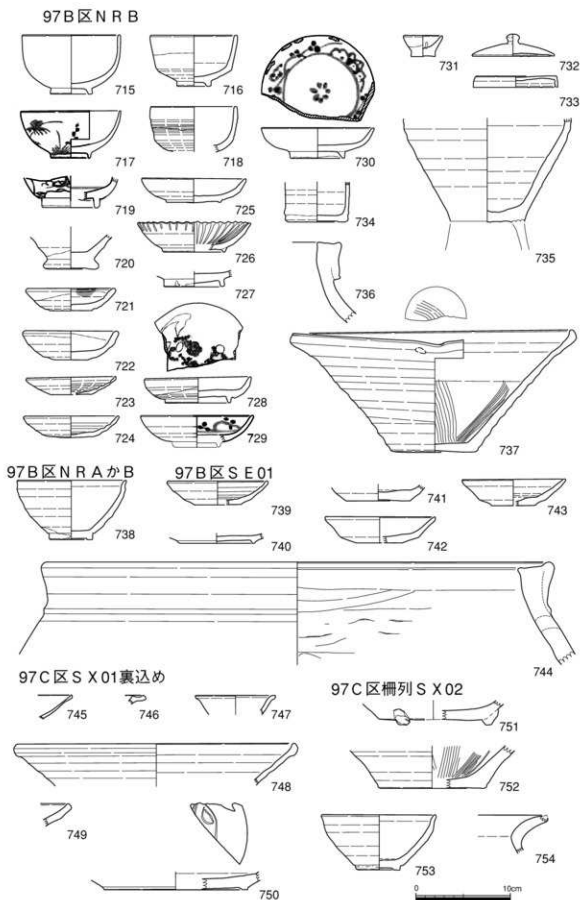
などがある。基本的には、既に報告を記述した96区の遺構外出土資料と類似した出土状況であると推測される。遺物としては杭などの木製品と瓦類が多く、陶磁器・土器類は他の調査区に比べてそれほど多くはない。ここでは、遺構一括出土資料を紹介するに止めておきたい。



第49図 97B区出土遺物実測図(12)



第 50 图 97B 区出土遗物实测图 (13)



第51図 97B区・97C区出土遺物実測図

(2) 遺構一括出土資料

A SW01 裏込め出土遺物 (第51図745～750)

ここで紹介する資料は、石垣SW01を取り外した際に石垣石の裏側に堆積した裏込めの栗石に混入していた遺物であり、石垣を構築した際に入り込んだ資料と考えることができるものである。

東濃型山茶碗(745)や瀬戸美濃窯産陶器折縁皿

(746)、播鉢(748)、大皿(750)、中国産白磁端反皿(747)などが存在する。この中で、最も新しい時期に属するものは746と750と考えられる。

B SX02付近出土遺物(第51図751～754)

欄列SX02の付近から出土した遺物には瀬戸美濃窯産陶器平鉢(751)、播鉢(752)、天目茶碗(753)、常滑窯産陶器甕(754)などがある。瀬戸美濃窯産陶器は古瀬戸後Ⅳ期に属するものと考えられ、754は城下町期以前の時期のものである。

	95A区	95B区	96区	97B区	97C区	99A区	99B区
古代(須恵器～灰軸陶器)			356	140	99	21	15
山茶碗類(碗、皿、鉢等)			604	237	247	145	72
瀬戸美濃窯産陶器(城下町期まで)			989	1308	280	3000	4181
◇(天目茶碗)			83	151	39	669	883
◇(天目茶碗以外の碗)			29	25	13	127	161
◇(重圍皿以外の皿)			113	260	48	663	1141
◇(重圍皿)			—	145	15	211	206
◇(鉢類)			85	61	48	100	181
◇(播鉢)			238	417	71	689	934
◇(大形製品)			425	210	43	250	211
◇(小形製品)			1	19	3	20	18
土師器	2025	1540	2613	6919	544	8787	5391
◇(ロクロ皿)	377	696	2060	6259	501	6751	2967
◇(手づくね皿)	50	43	404	102	31	234	209
◇(鍋類)	1424	696	137	834	10	1709	2339
◇(鍋類のうち内耳鍋)	18	26	14	108	4	153	67
◇(鍋類のうち羽付鍋)	0	1	2	0	0	13	1
◇(鍋類のうち釜)	68	45	6	6	2	53	113
◇(鍋類のうち焙烙)	83	21	3	5	0	183	224
粘土塊	13	238	6	69	0	306	196
瓦(城下町期)	306	64	68561	70	4066	388	288
常滑窯産陶器			644	317	80	224	314
中国産陶磁器			46	105	15	129	235
その他の生産地の陶磁器			21	20	1	134	119
宿場町期全体			1023	633	282	508	437
不明			19	18	10	12	23
合計	2344	1842	74882	9836	5624	13654	11271

第1表 調査区別焼物類出土量一覧表

7 99A区出土陶磁器・土器類

(1) 概要

99A区から出土した陶磁器と土器類は接合前破片数で13266点である。その内訳は城下町期に属する資料が大多数を占めるものの、そればかりではなく城下町期以前や宿場町期の遺物も一定量認められる。この99A区では数多くの土坑や溝が重なりあって検出されており、確認された遺構は屋敷の区画溝や建物跡の基礎構造であったものと考えられている。こうした状況から見て、城下町期の段階で居住域（おそらく町屋か）であったと推測される。遺物はこうした遺構から出土したものが多く、遺物の整理を行ってみると遺構をまたがって破片が接合する事例が相当量存在することが判明した。これは度重な遺構が構築される間に遺物を包含する古い遺構が攪乱されるために生じたものと推測される。この結果、本来その遺物がどの遺構に所属したの資料と共存するのかわからない状態となってしまっている。このような状態の中で遺構一括資料を紹介する方法で報告を行うと、遺構一括資料がどの程度有効なまとまりであるかといった疑問が生じ、報告に際しては同じ遺物を何度も紹介する煩雑さが弊害となる。このため99A区という調査区全体を一つのまとまりと認識して記述を進めていき、具体的には産地材質別に報告する方法を採用した。

(2) 資料の紹介

A 瀬戸美濃窯産陶器 (第52～63図 756～1109)

99A区から出土した瀬戸美濃窯産陶器は全部で3000点(接合前破片数)が出土した。これらは碗類、皿類、鉢類、搦鉢、大形製品、小形製品などに大別ができる。このうち、碗類には天目茶碗、小天目茶碗、丸碗、沓茶碗、小碗、小杯などがある。皿類には縁輪皿、端反皿、丸皿、折縁皿、稜皿、内壳皿、菊皿、志野丸皿、重圍皿など多種多様な製品が存在する。鉢類には浅鉢、深鉢、向付、大皿、盤などがあり、大形製品には建水、水指、緒桶、匣鉢、双耳壺、

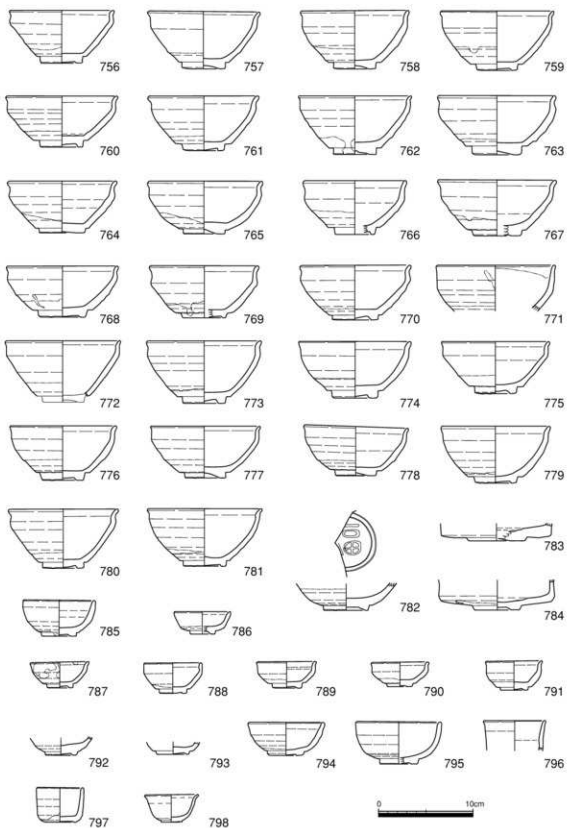
徳利、花瓶、甕などが、小形製品には茶入や水注などがある。

主要な器種別の出土量は接合前破片数で、天目茶碗が669点(瀬戸美濃窯産陶器全体の中で約22%；以下同様)、その他の碗類が127点(約4%)、重圍皿が211点(約7%)、重圍皿を除く皿類が663点(約22%)、鉢類が100点(約3%)、搦鉢が689点(約23%)、大形製品が250点(約8%)、小形製品が20点(約1%)となっている。従来の清須城下町の中の瀬戸美濃窯産陶器の出土傾向と同様に、天目茶碗と小皿類と搦鉢の主要3器種が多い傾向を読み取ることができる。ここでは器種別に遺物の紹介を進める。

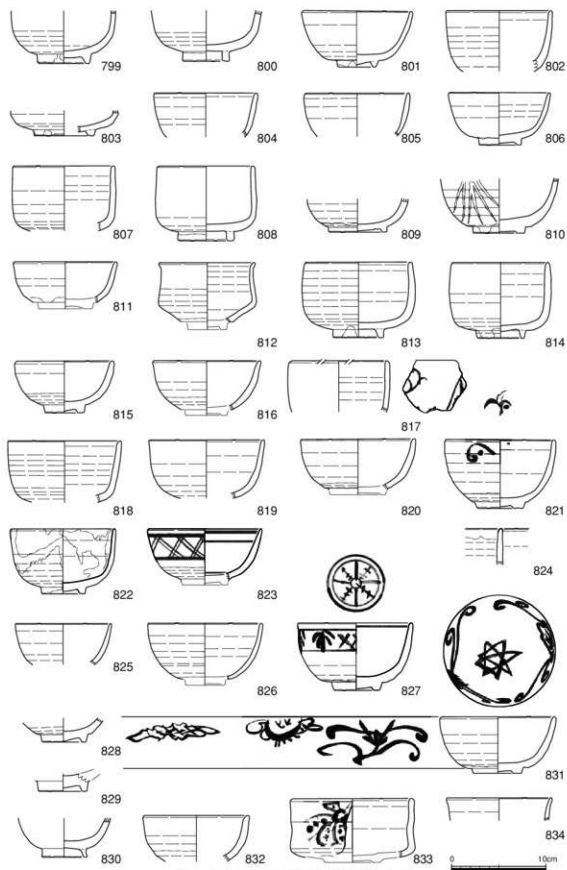
(A) 天目茶碗 (第52図 756～781)

天目茶碗には様々な形状のものが存在する。1類は高台が輪高台で紫色の錆軸が施されるもの(781)、2類は体部が直線的に逆ハの字状に開き下半部に茶色の錆軸が施されるもの(772)、3類は輪高台で体部が直線的に開き口縁部が直立し短く折れるものでやや小振りなもの(756・760・761・775)、4類は高台中央部が緩やかに窪む内反高台で比較的器高が高くなるもの(757・758・762)、5類は輪高台で体部がやや丸みを帯びて口縁部に至り端部が短くS字状に屈曲するもの(759・773・774)、6類は輪高台で口縁部のくびれが緩やかでやや高く全体的に小振りなもの(766・767・776)、7類は6類と同様な口縁部形態で内反高台となるもの(777・778)、8類は輪高台で口縁部のくびれの屈曲が比較的明瞭でやや高く全体的に小振りなもの(768～770)、9類は口縁部のくびれが不明瞭なもの(771)、10類は輪高台で口縁部のくびれがやや強く器高が比較的高いもの(779・780)である。771は外面は鉄軸を、内面は長石軸を施した掛け分けの天目茶碗となり、外面は灰を流し掛けしたような状態となっているものである。

上記のような分類を藤澤良祐の大窯年表に当てはめるとおおよそ1類は大窯第1段階、2類は大窯第2段階、3類～5類は大窯第3段階、6類～9類は大窯第4段階、10類は連房式登窯第1小期に各々対応すると考えられる。この他にも古瀬戸後Ⅳ期新段階に



第52图 99A区出土遗物实测图(1)



第53图 99A区出土遗物实测图(2)

位置付けられるものや、登窯第2小期以降に属するものもいくつかはみられる。ただし、出土量からみると、最も多いのは大窯第3段階の180点(瀬戸美濃窯産陶器天目茶碗全体の中で約27%)と大窯第4段階の107点(約16%)であり、大窯第3段階が第4段階が特定できない274点を含めると全体の約84%を占めている。このように検討すると、天目茶碗の期的な主体は大窯第3段階から第4段階までの期間にあるといえよう。

(B) 丸碗 (第52・53図782・799～834)

半筒碗や筒形碗も含めて丸碗としてここでは一括して報告する。丸碗も様々な形状が存在するが、大窯前半以前に属するものはほとんど無く、大窯第3段階以降のものが多い。

1類は体部が緩やかに立ち上がり腰が張らない付高台のタイプで、鉄軸が施されたもの(799)、灰軸が施されたもの(800・801)がある。2類は腰がやや屈曲するように立ち上がる付高台のもの(803・806)、3類は体部が緩やかに立ち上がり腰が張らない削り出し高台のもの(809・810・815・816・819・820・821・823・827・831)で、後者は長石軸が施されたものが大半を占める。810は鼠志野と呼ばれる製品で、外面は薄く鉄軸を掛けた後に葉紋状に紋様を掻き落として長石軸を施す製品である。また、821と827と831は内外面に鉄絵が施されたものである。4類は腰がしっかりと張って口縁部に至るまで直立して伸びるもの(807・814・817・818)で、筒形碗と称されるものである。5類は腰がしっかりと張って口縁部がやや内傾するもの(808・803・833)で、これも筒形碗に分類されよう。ただし、833は体部の形状からみて香茶碗と呼ばれるものであろう。6類は削り出し高台で腰が緩やかに彎曲しながら口縁部に至りやや逆ハの字状に開くタイプで器壁が比較的薄いもの(821・822・825・826)である。822は内外面とも鉄軸に灰軸が流し掛けられているもので、焼成は堅緻である。6類は登窯第1～2小期に属するものである。

(C) その他の碗類 (第53図783～798)

天目茶碗と丸碗に属さないものをここで一括して報告する。783と784は腰部が明瞭に屈曲する瀬戸黒

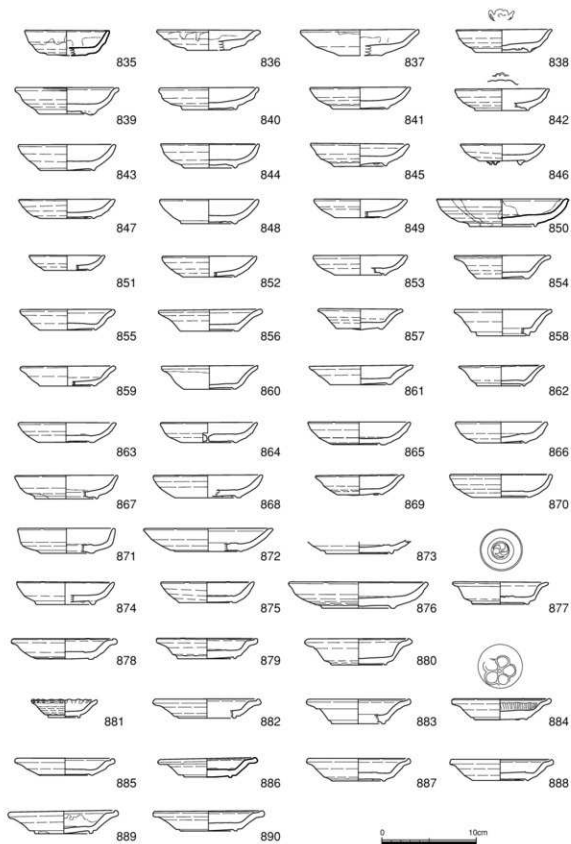
香茶碗で、削り出された高台は非常に低く底部内面(見込み)に茶溜り(一段下がった浅い窪み)が存在する。いわゆる引き出し黒と呼ばれる漆黒色の釉調を呈しており、底部外面は露胎となっている。ロク口成形の製品である。787～791は小天目茶碗である。787と788は大窯第3段階に、789～791は大窯第4段階に属し、787は鉄軸に灰軸が流し掛けられている。また、790の内面には赤褐色の滓状の付着物が残存しており、銅製品を生産する際に使用された「とりべ」に転用されたものと理解されよう。785・786・792～795は丸碗形の小碗で、削り出し高台を持ち口縁部がやや開くものである。796は口縁部がやや外反する小杯のような製品と推察される。797と798は小杯で、797は底部が萁筒底状、798は口縁部が大きく外反するものである。両者とも大窯第3段階に位置付けられる。

(D) 皿類 (重圓皿を除く；第54・55図835～910)

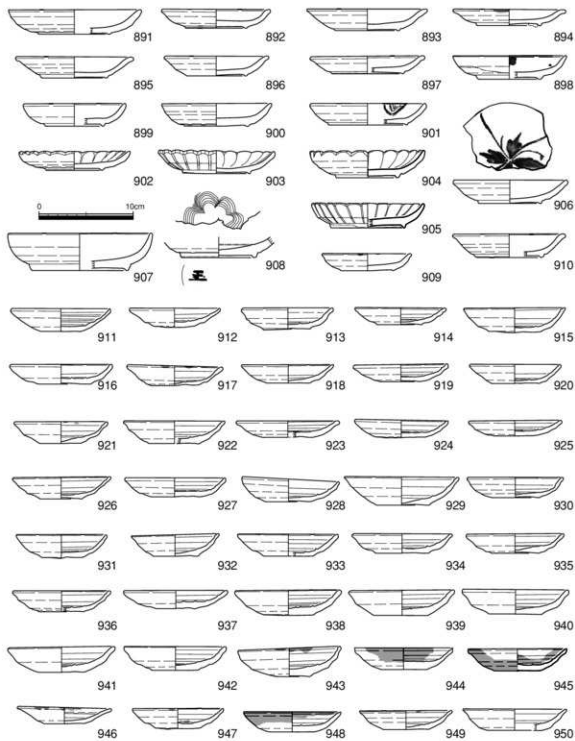
ここでは、重圓皿を除く施軸された皿類を取り扱うこととする。具体的には、緑軸皿(835～837)、端反皿(838・839)、丸皿(840～853)、稜皿(854～861)、反り皿(862・877)、内壳丸皿(863～871・875・876)、輪壳皿(872・873)、折縁内壳皿(878・879・885～890)、折縁皿(882～884)、志野丸皿(891～901・906)、志野菊皿(902～904)、志野中皿(907)などが存在する。

緑軸皿には口縁部が比較的直立きみになるもの(835)とやや外反するもの(836・837)がある。端反皿には見込みに印花を持つもの(838)と印花を持たないもの(839)がある。丸皿には底部に輪トチンの痕跡が残存するもの(843～851など)と円錐ピンが残存するもの(846)があり、後者は大窯第4段階後半に属する資料である。その他の丸皿も釉薬は光沢を持たない乳白色や黄白色の発色をした灰軸が施されたものが多く、大窯第3段階から第4段階に属するものである。850は口径が約14cmを測るやや大きめの鉄軸丸皿で、内外面に灰軸が流し掛けられている。

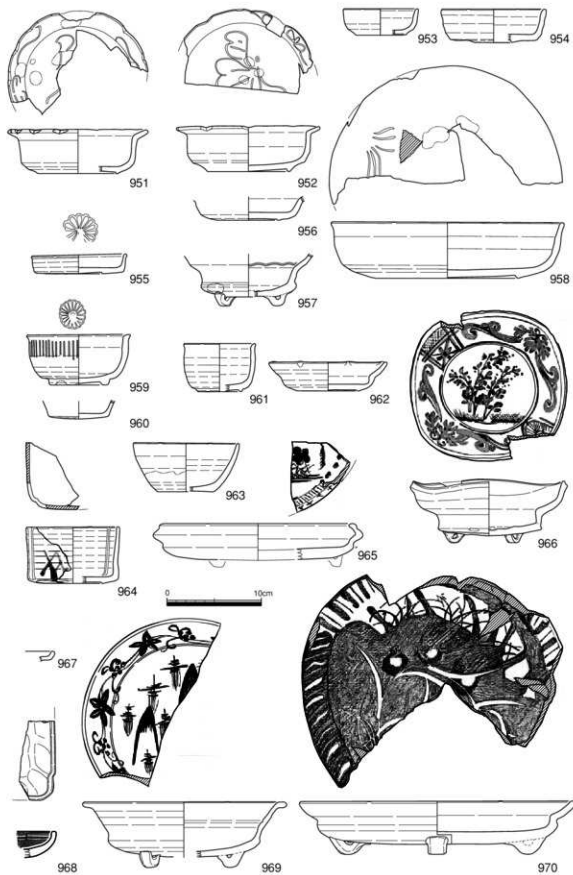
稜皿は底部が萁筒底状になり口縁部にかけて体部が大きく外反するものが多く(854～857・859～861)、858のような腰部に明瞭な後縁を持つ腰折皿



第54图 99A区出土物实测图(3)



第 55 图 99A 区出土遗物实测图 (4)



第56图 99A区出土文物实测图(5)

に近い形状のものがある。860は体部から底部にかけての外面に鉄軸を掛けずに錯軸を塗布したものである。内禿丸皿には底部内面の露胎部に明瞭な段差を有するもの(863・866など)と段差を全く持たない通常の丸皿の形状をしたもの(867など)に分けることができる。864は底部中央が焼成後に穿孔されたものである。また、871は体部から口縁部にかけて直立する内禿皿としては珍しいタイプのものである。輪禿皿(872・873)は露胎部分が段差状に盛り上がった形状を呈しており、器高が比較的低いものである。これらは大窯第4段階に位置付けられる。折縁内禿皿は器高が高く折り曲げられた口縁端部が断面三角形に尖るタイプと(887・888)と、器高がやや低く口縁端部が丸くなっているもの(878・879・885・886・889・890)に分けることができる。前者は大窯第3段階後半に、後者は大窯第4段階前半に各々位置付けられよう。折縁皿には体部内面にそぎが入らないもの(882・883)と入るもの(884)が存在する。884は底部内面(見込み)に梅紋の印花が押印されており、大窯第3段階後半に属する資料である。

志野丸皿は大半は底部に円錐ピンの付着した痕跡が残存するもので、鉄絵が施されたもの(901・906)と施されていないものがある。また、器壁特に底部の器壁が薄いもの(891～889など)と厚いもの(900)にも分けることができる。前者は長石軸の発色が赤みを帯びており、大窯第4段階後半に位置付けられるだろう。志野菊皿は内面が花卉状に成形されたもの(902～904)で、903が登窯第1小期に属すると考えられる。908は底部しか遺存しない資料であるが、内面底部(見込み)に花紋が描かれ底部に「玉」と墨書されたものである。

(E) 重圈皿(第55図911～950)

重圈皿は大きく、無軸で黄白色や灰白色などの胎土を持ち圈線が不明瞭で螺旋状となる1類(911など)と、無軸で焼き締められた黒灰色などの胎土を持ち同心円の圈線が明瞭な2類(912～938など)と、焼き締められずに錯軸を掛けて作られ同心円の圈線が明瞭な3類(939～942)に分けることができる。数量的には2類が最も多く1類は少ない傾向を読み取ることができる。

2類の重圈皿はさらに、器高が高く体部から口縁部にかけて直線的に開く2a類(915・929・933など)と、器高がやや高く体部中央が丸みを帯び次に口縁部に向かって外反する2b類(921・922など)と、器高がやや低く体部中央がやや丸みを帯びて口縁部に向かって直線的に開く2c類(933～935など)と、器高が非常に低く底部から口縁部にかけて緩やかに開く2d類に分けることが可能である。ここでは具体的な根拠を全く示すことができないが、他の皿類がおおよそ同形式内で見ると新しいものほど器高が低くなる傾向を読み取ることができるとするならば、2a類→2b類→2c類→2d類という変遷過程を推測することが可能かも知れない。

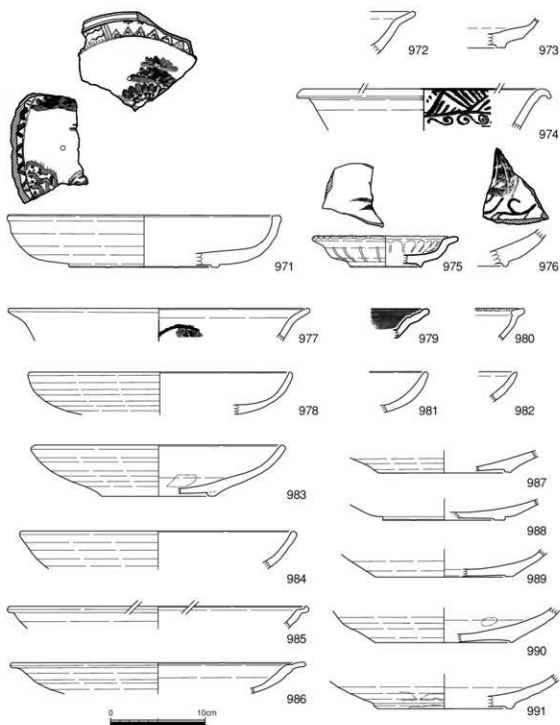
この重圈皿は他の皿類に比べ高い確率でタールが付着するものが多い。タールが付着する状態は、口縁部の一部分に1カ所ないし数カ所認められるタイプ(921など)と内外面のほぼ全体に付着するタイプ(944・945・948など)に分けることができる。前者は灯明に用いられた痕跡であると考えられるが、後者については別の使用痕跡の可能性を考えた方がよいかも知れない。

(F) 向付・盤類(第56図951～970)

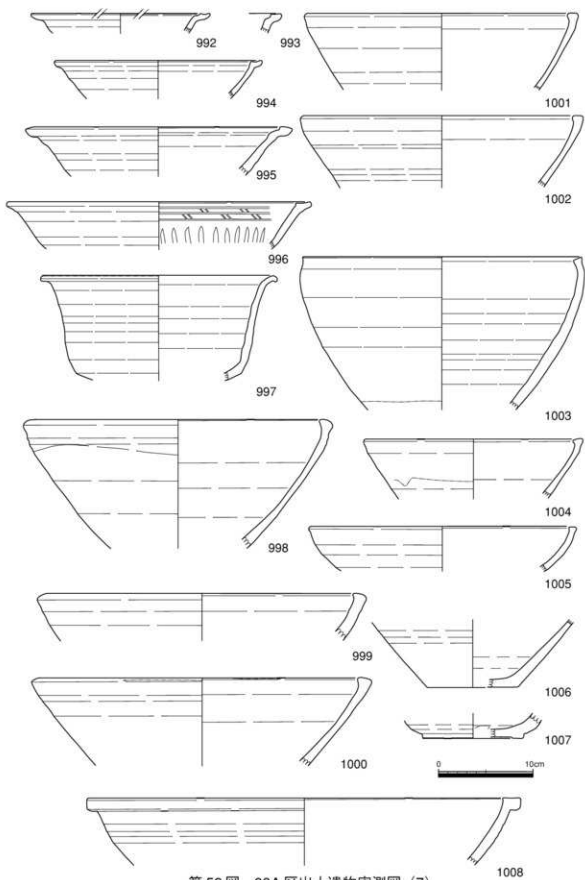
向付・盤類は黄瀬戸軸や長石軸が施された製品が多く認められ、大窯第4段階から登窯第1小期に属する資料が大半を占める。

951～959は黄瀬戸向付である。951と952は直立する体部に外側に折れ曲がった口縁部を持つ黄瀬戸向付で、内面に刻紋が描かれ緑釉のタンパンが施されている。底部は基筒状に作られている。956も同様の製品と推測される。953～955は口縁部が直立する黄瀬戸向付で、955は内面に菊紋が印花されている。957は袴腰風に作られた体部に半環足が付くもの、958は体部が直立する大形の盤状の製品、959は筒形碗の形状を持ち見込み部に印花を持つ黄瀬戸向付である。

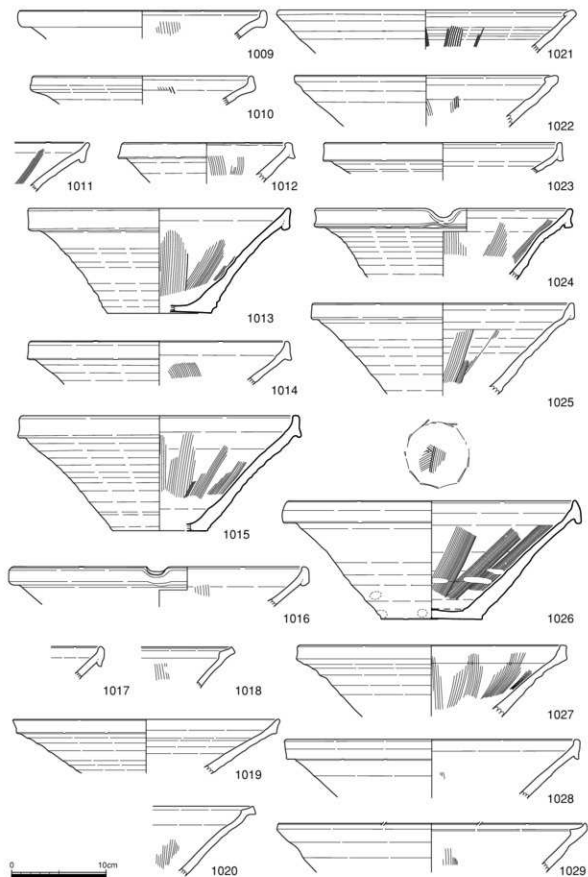
963は高台を持たない碗形の形状を呈した小鉢状製品である。体部外面上半に鉄軸が施され、外面下半部は錯軸が塗布されているが、内面には全く釉薬が無く露胎となっている。底部外面はハラケズリ調整が認められ、輪トチン痕が残存する。胎土や釉薬



第57图 99A区出土遺物実測図(6)



第 58 图 99A 区出土遺物実測図 (7)



第 59 图 99A 区出土遺物実測図 (8)

の状態から見て大窯製品と推測されるが、類例を見ないものである。

961・962・964～980は志野の向付あるいは盤である。964は体部が直立する四方向付で底部は萁筒底となっている。965は口縁端部が著しく内側に傾いたもの、966は内面に草花紋が鉄絵で描かれたものである。967は褐色の胎土に比較的透明に発色した長石釉が施されたいわゆる鳴海織部と呼ばれるものである。969は釉薬が茶褐色の発色をして鉄絵が描かれたいわゆる美濃唐津と呼ばれる製品である。970は鐮状の口縁部を持つ盤で半環足が4個付いている。長石釉に鉄絵が施されており、部分的に鉄絵が掻き落とされているものである。968と979は鼠志野向付である。

(G) 大皿 (第57図 971～991)

大皿には志野に属する製品と焼締陶器または錆釉が施されたものの二者が存在する。

このうち前者は、前項目の盤と区分が難しいものがある。971は削り出し高台を持ち内面に鉄絵が施された志野大皿である。976と977は焼成が良好な盤または大皿で釉薬が透明に近い雰囲気となっている。登窯第1小期に属する資料である。

978・981・983・987などは焼締陶器で釉薬は施されないもので、大窯第3段階前半に位置付けられるものである。高台が残存するものは萁筒底で、口縁部が残存するものは直線的に開くタイプとなっている。一方、982・984～986・988～991は鉄釉または錆釉が施された大皿で、口縁部の形状からさらに口縁部が直線的に開くタイプ(982・984)と折縁状となるタイプ(985・986)に細分が可能である。底部も萁筒底状となるもの(987・989・990)と削り出し輪高台となるもの(988・991)に分けることができる。

(H) 鉢 (第58図 992～1008)

体部から口縁部が逆ハの字状に開く大形製品を鉢として一括する。これらは口縁部の形状から、折縁になるもの(992～996)、口縁端部が斜上方に積み上がるもの(998～1000)、口縁部上端に面を有するもの(1001～1005)、口縁部が外側に屈曲するもの(1008)に分類することができる。992～995は折縁

深皿で古瀬戸中期から後期に属する製品である。996は内面にそぎが入る鉄釉の鉢で大窯第3か4段階に位置付けられよう。

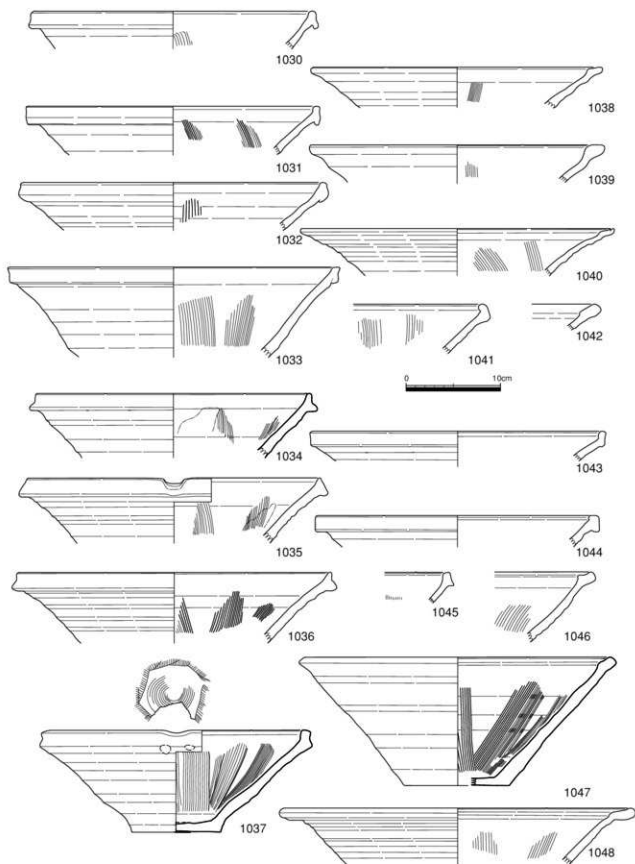
(1) 播鉢 (第59～61図 1009～1057)

播鉢は大きく口縁端部を外側に折り返して縁帯を形成するⅠ類と、口縁端部を内側に折り返すものあるいは外折するⅡ類に大別できる。

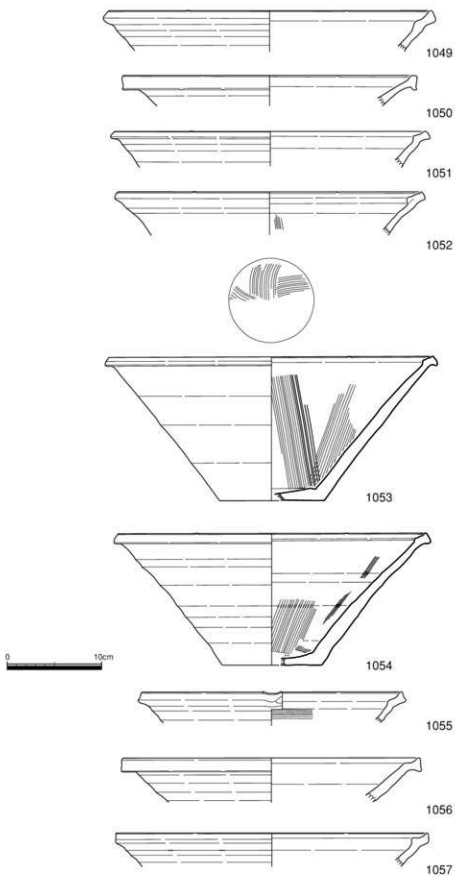
Ⅰ類はさらに7類に細分が可能である。Ⅰ類は口縁端部が内側の斜上方にやや伸びるタイプ(1009・1010)である。2類は垂れ下がった縁帯の下端部が断面三角形状あるいは丸まっているもの(1011～1016など)である。3類は垂れ下がった縁帯の下端部が下方に伸びるもの(1030・1031など)である。4類は垂れ下がった縁帯の下端部が体部に向かってナデつけられたもの(1032・1033など)である。5類は垂れ下がった縁帯の下端部が断面三角形状となり横方向に伸びるもの(1034～1037など)である。6類は垂れ下がった縁帯の上端部が上方に伸びるもの(1043など)である。7類は垂れ下がった縁帯の上端部に面を有するもの(1044・1045・1050など)である。

Ⅱ類はさらに6類に細分が可能である。8類は内側に折り返された口縁端部の上面が内側に傾くタイプ(1021・1022)である。9類は内側に折り返された口縁端部の上面がほぼ水平で器壁が肥厚するタイプ(1039など)である。10類は内側に折り返された口縁端部の上面がわずかに内側に傾くが肥厚しないタイプ(1038・1040など)で、見た目では有段で折り曲げたような形状となっている。11類は外側に折り曲げられた口縁部が断面方形になるタイプ(1046・1047など)である。12類は外側に折り曲げられた口縁部の上面や端面や下面が横ナデされて窪むタイプ(1051～1054など)である。13類は外側に折り曲げられた口縁端面が幅広く広がりT字状に近い形となるタイプ(1056・1057)である。

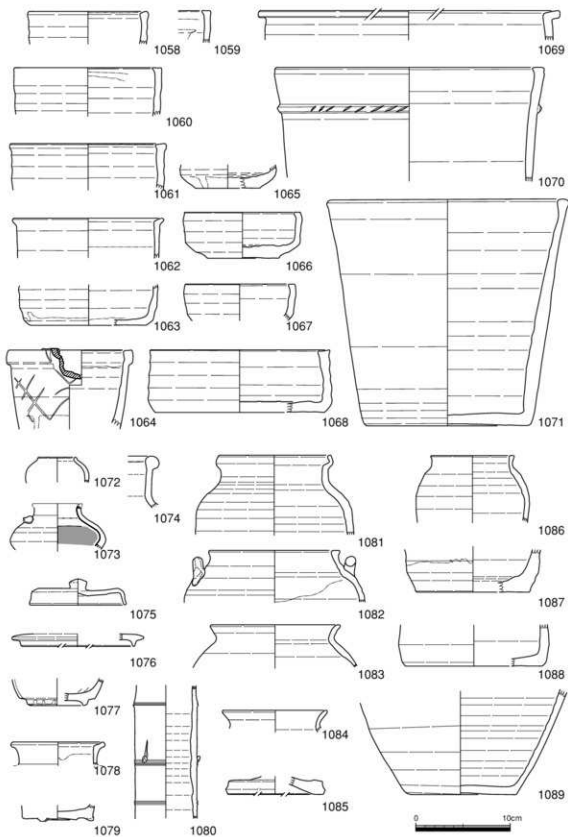
これらの分類と藤澤良祐の編年との対応関係はおおよそ次の通りである。Ⅰ類は古瀬戸後Ⅳ期新段階、8類は大窯第2段階後半、2類と9類は大窯第3段階前半、3類と4類と10類は大窯第3段階後半、5類～7類と11類は大窯第4段階前半、12類は大窯第4段



第60图 99A区出土遗物实测图(9)



第 61 图 99A 区出土遗物实测图 (10)



第62図 99A区出土遺物実測図(11)

階後半、13類は連房式登窯第1小期に属するものである。

(J) 筒形容器類 (第62図 1058～1071)

筒形容器類には建水、水指、緒桶、匣鉢などの器種があるが、破片では区分が難しい側面があるので口縁部などの形状で区分する。口縁部の上端に面を持つタイプ(1058～1061・1066～1068・1070)と口縁部が外側に折れるタイプ(1062・1069)と口縁部が丸まるタイプ(1071)がある。1063は黄瀬戸軸が施されており、1064は灰軸が施された片口を持つ製品である。1066～1068は無軸の匣鉢で、底部

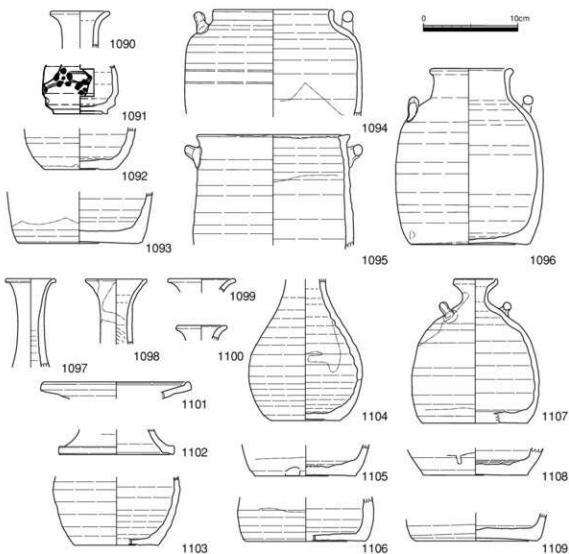
は回転糸切痕が残存する。1071は錯軸が掛けられた大形の筒形容器で体部はやや逆ハの字状に開くものである。

(K) 小形製品 (第62図 1072・1073)

1072は鉄軸が施された茶入、1073は耳付水注で内面に褐色の付着物が残存している。

(L) 大形製品 (第62・63図 1081～1109など)

大形製品として一括したものには、茶壺(1074)、片口瓶(1081)、口広有耳壺(1082・1095)、祖母懷壺(1089)、徳利(1090・1092・1093・1097～1100・1103～1106など)、花瓶(1101)、瓶子(1102)、双



第63図 99A区出土遺物実測図(12)

耳瓶(1107)などが存在する。このうち1102・1109は古瀬戸後Ⅲ期に、1081・1082は古瀬戸後Ⅳ期に各々属する他は、多くの製品は大窯第3段階から大窯第4段階に属するものである。1091は銅緑釉などが施された織部瓶類で、時期的には登窯第1小期に属する。

(M) その他の製品(第62図1075～1080)

これまでに報告されなかったものをここで紹介する。1075は錯軸が施された摘みを有する蓋であり、

器壁が薄いタイプである。1076は鉄軸が施された蓋で口縁部に返しを持つものである。1077は平面形が方形となる筒状の体部に円形の高台を有する花生と推測される製品である。1078は袴腰形の香炉の口縁部、1079は筒形の形状をなす香炉の底部である。1080は外面に薄い錯軸を施した焼締陶器で竹を模した掛花生と考えられる製品である。沈線などにより筋などがよく表現された精巧な作りを呈している。

99A区	天目茶碗	皿(除重曜皿)	小杯	その他の種	向付	鉢	大皿	椀鉢	香炉	茶入	小形製品	大形製品	筒形製品	不明	合計		
古瀬戸前中期												2			2		
古後3以前		3	2		3					1	1	1	16		15	42	
古後4古		5		3											8	8	
古後4		11			1							1	3		16	16	
古後4新		14	26			8	20	1							69	69	
古後4Ror大1		2													2	2	
大全		149					3	1				160	4	309	626	626	
大1		12	16	2	2			8							32	42	
大1or2															3	3	
大2		5	13					8							26	26	
大2or3			138												138	138	
大3前			47					40							87	87	
大3		185	23	1	7			6							222	222	
大3後			164		5			45							214	214	
大3or4		373			18	3	22	6	4	3			24		453	453	
大4前			67	1	7			47							122	122	
大4		174			3	9	13								199	199	
大4後		1	410	25	48	83	26		56			1		2	651	651	
大4後一層1															169	169	
器1		63	69	2	30	6	1		5						177	177	
器1or2					1				4						5	5	
ケズリなし									574						574	574	
ケズリあり									102						102	102	
ケズリ不明									22						22	22	
不明															11	11	
合計		829	1141	31	125	98	43	12	29	934	9	5	4	180	31	5077	3977

99B区	天目茶碗	皿(除重曜皿)	小杯	その他の種	向付	鉢	大皿	椀鉢	香炉	茶入	小形製品	大形製品	筒形製品	不明	合計		
古瀬戸前中期												2			4	4	
古後3以前		1		2		1	15		1	1		25	1	11	57	57	
古後4古		5		1											6	6	
古後4		7		1		9						1	10		28	28	
古後4新		17	64		2		6	38	1						126	126	
古後4Ror大1		9													9	9	
大全		2	91					5	3	1	2	195			156	455	455
大1		49	1		8			10							68	68	
大1or2			11							1					12	12	
大2		8	20					6							34	34	
大2or3			91												91	91	
大3前			36					18							54	54	
大3		180	9	2	10			7			1				209	209	
大3後			83		5			16	16						120	120	
大3or4		274			15	6			5	3	2		16		321	321	
大4前			53		7			20							80	80	
大4		107		3	1	1	5	1							115	115	
大4後			128	5	29	41	16		24						1	244	244
大4後一層1															73	73	73
器1		21	63	5	29	3	3		2						126	126	
器1or2									1						1	1	1
ケズリなし									457						457	457	
ケズリあり									73						73	73	
ケズリ不明									18						18	18	18
不明															6	6	6
合計		667	663	13	110	49	28	30	23	689	10	5	5	223	27	247	2789

第2表 99A・99B区瀬戸美濃窯産陶器出土量一覧表(破片数)

B 土師器 (第64～70図 1110～1371)

99A区から出土した土師器は全部で8787点(接合前破片数)が出土した。これらは皿類、鍋釜類、火鉢、その他の器種に大別ができる。このうち、皿類はロクロ調整土師器皿と非ロクロ調整土師器皿に区分できる。鍋釜類には内耳鍋、羽付鍋、釜、焙烙などが存在する。その他の器種としては火熨斗(フライパン)状製品、小壺、焼塩壺、形代(犬)、土鈴などがあげられる。

主要な器種別の出土量は接合前破片数で、ロクロ調整皿が6751点(土師器全体の中で約77%；以下同様)、非ロクロ調整皿が234点(約3%)、鍋釜類が1709点(約19%)となっている。従来の清須城下町の中の土師器の出土傾向と同様に、皿類と鍋釜類の主要2種の製品が多いことが分かる。ここでは器種別に遺物の紹介を進める。

(A) ロクロ調整皿 (第64・65図 1110～1241)

清洲城下町遺跡出土のロクロ調整土師器皿については、既に佐藤公保(佐藤1986・1987)や筆者(鈴木編1995)らによって分類が行われている。今回は筆者がかつて実施した分類を踏襲して99A区出土資料を大別する。具体的には、A類は口径が大きくて口縁部が大きく外反するもの、B類は口径が比較的大きくて体部から口縁部にかけて直線的に逆ハの字状に開くもの、C類は口径が比較的大きくて体部から口縁部にかけて内彎するもの、D類は口径が比較的小さくて口縁部が大きく外反するもの、E類は口径がやや大きく体部から口縁部にかけて逆ハの字状に開くものの途中で屈曲したりするもの、F類は口径が8cm前後の小さなものの、などに区分できる。

99A区出土資料は、上記の大別の中ではE類が最も多く、次いでC類、F類の順で多くなっている。一方、A類とB類とD類は非常に少なく、今回の報告でもほとんど紹介できない状態である。以下に、C類・E類・F類について詳述し、上記の分類では該当しない特殊なものについては別個に資料紹介を行いたい。

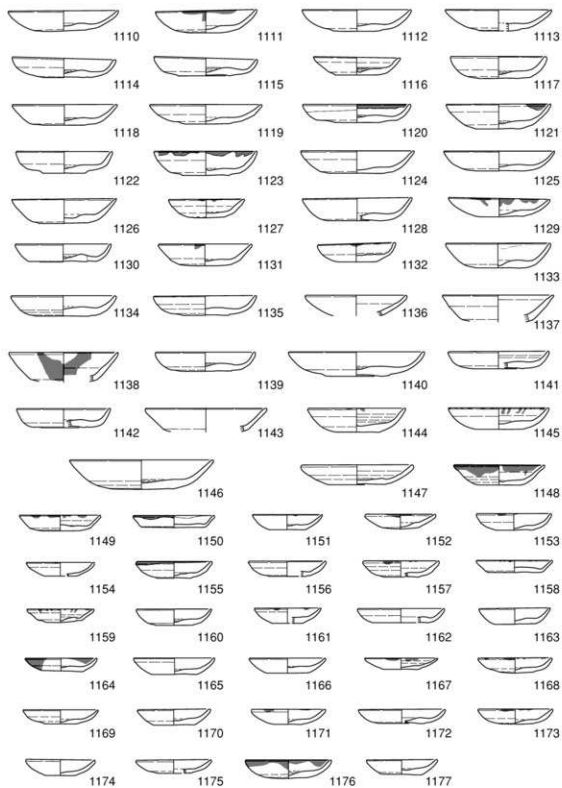
ロクロ調整土師器皿C類は次の5類に細分できる。C1類は口径が14～16cmの規模で体部の腰が丸く張るタイプ(1140・1146)である。C2類は口径が

10～12cmの規模で体部の腰が丸く張るものの口縁部が比較的直線的に開くタイプ(1110～1113など)である。C3類は口径が10～12cmの規模で体部の腰が丸く張り口縁部が比較的直立きみになるタイプ(1114・1115など)である。C4類は口径が10～12cmの規模で体部の腰が屈曲して口縁部が比較的直立きみになるタイプ(1122など)である。このC1類～C4類は底部内面中央部が凹み、底部外周部分が肥厚するものである。C5類は口径が8～10cmの規模で体部の腰が丸く張るものの口縁部が比較的直立きみになるタイプ(1127・1130など)で、底部中央部は凹まないものである。

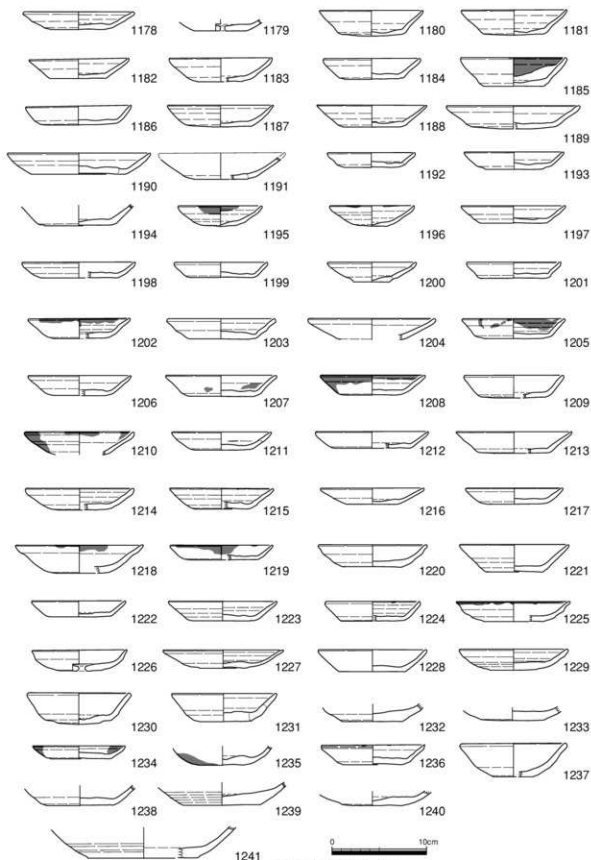
ロクロ調整土師器皿E類は次の5類に細分できる。E1類は口径が14～16cmの規模で体部の腰が強く張り体部内面に弱い稜線を持つタイプ(1189・1190など)である。E2類は口径が10～12cmの規模で体部の腰が強く張り体部内面に弱い稜線を持つタイプであり、器高が高いもの(1180・1218など)と器高が低いもの(1197など)がある。E3類は口径が10～12cmの規模で底部と体部の境界部分が屈曲し体部の内外面が凸凹するタイプ(1205など)である。これは内面に2～3条の弱い稜線が残るものである。E4類は口径が10～12cmの規模で底部と体部の境界部分が屈曲し体部が緩やかに少し外反するタイプ(1212など)である。E5類は口径が10cm前後の規模で体部の内外面が凸凹しつつも緩く外反するタイプ(1227など)である。これらの分類は、形態の相違が暫時的であり明確には区分し難いものである。

ロクロ調整土師器皿F類は次の3類に細分できる。F1類は体部の腰が丸く張り内彎しながら口縁部が立ち上がるタイプ(1153・1155など)である。底部内面中央部が凹み、底部外周部分が肥厚するものである。F2類は口縁部が内彎しながら立ち上がり、底部内面が凹まないタイプ(1161など)である。F3類は体部の腰が屈曲して口縁部が比較的直立きみになるタイプ(1150など)である。

上記のタイプ以外のものには次のようなものが存在する。1230・1231・1237は口径の規模に比べ器高が高いタイプである。器壁が比較的厚くなるのが特徴である。1230と1231は底部が突出し腰部が屈曲す



第64图 99A区出土遗物实测图(13)



第 65 图 99A 区出土遗物实测图 (14)

るように体部に向かって立ち上がるものである。1237は底部は突出せず体部中央付近で弱い稜線が存在する。1239と1241は口縁部が残存しないが、底径が8cm以上と大きく体部は逆ハの字状に直線的に開くもので、体部下外面にロクロの水引きの痕跡が残存する。本来は口径も非常に大きくなるものと推測される。

ロクロ調整土師器皿の概要をまとめると、A類とB類が少なく、C類とE類が多いことからみて、99A区出土資料は時期的には城下町期Ⅲ期が主体となるといえよう。出土遺物別に検討してみると、遺構一括資料ではC類やE類など各々の細分類ごとにまとまる傾向があり、細分類は時期差あるいは細かな系譜差などを表現している可能性がある。

(B) 非ロクロ調整皿 (第66・67図 1242～1307)

一方、非ロクロ調整土師器皿には、体部(口縁部)を横ナデで立ち上げるもの(1265)、体部(口縁部)を連続する指オサエで立ち上げるもの(1268・1269など)、横ナデによる体部(口縁部)の立ち上げが無く内面にナデ調整などを施してわずかに凹ませるものの3種類が存在する。これらは『清洲城下町遺跡V』(鈴木編1995)の非ロクロ調整土師器皿分類で、各々A類、C類、D類に対応するものであり、A類とC類はわずかに存在する程度で、大半はD類が占めている。

さて、非ロクロ調整土師器皿D類は調整のあり方でいくつかに分類が可能である。1類は指または掌で内面を一方にナデ調整されるもの(1242など)である。ナデ始めの部分がやや強めに押さえるために凹むケース(1257の右端部など)が多く、この部分のナデ調整痕が歪む場合(1277など)がある。ナデ調整の痕跡は10数条の細かい並行する条線として残されている。外面には指などの圧痕が残るものが大半を占め、指を揃えた状態を想像することができるもの(1247など)が認められる。また、指オサエ痕が口縁部に近い部分に環状に巡る形となっているもの(1275)もある。2類は内面に半円状のナデ調整または指オサエ調整が残存するもの(1306など)である。このタイプの出土量は少なく、外面には指などの圧痕が残る。3類は内面の外周部分を横方向に

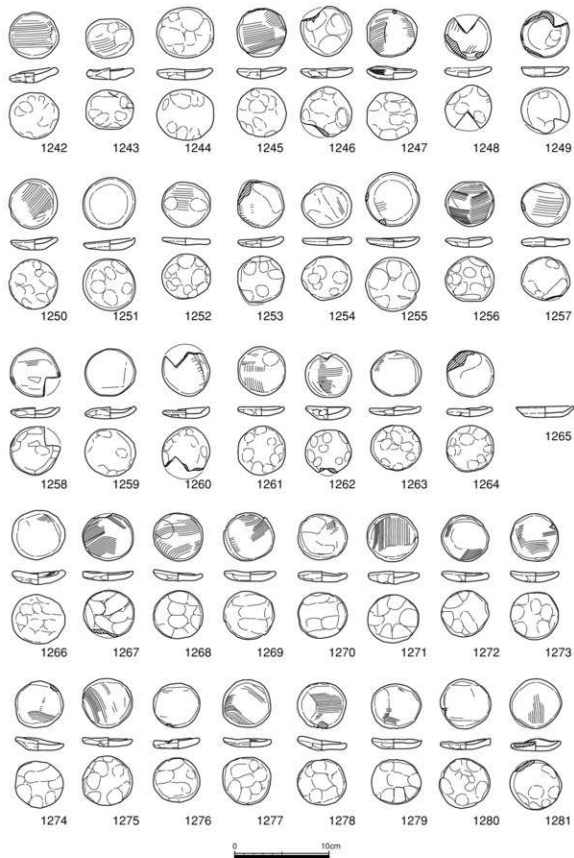
ナデ調整が施されるもの(1249・1251など)である。ナデ調整を一周させた結果、口縁端部が上方へわずかに立ち上がっている。外面には指などの圧痕が残っているが、その状態は口縁部に近い部分に環状に巡る形となっている。

非ロクロ調整土師器皿は、横ナデを施さないD類(鈴木編1995)が大多数を占めていることから、99A区出土資料は時期的に城下町期Ⅲ期が主体となっている様相を読み取ることができる。これらは口径が4～5cmの範囲内に収まっているものである。

(C) 鍋釜類 (第68～70図 1308～1363)

鍋釜類には内耳鍋、羽付鍋、焙烙、羽付釜、羽無釜など主要な器種が存在する。各器種の出土量は内耳鍋が153点、羽付鍋が13点、焙烙が183点、釜が53点、器種不明の体部片が1703点であり、焙烙が多く出土する点が、近隣の他の遺跡では見られない特徴となっている。ここでは主要な器種ごとに記述を進める。

内耳鍋(1308～1327)はいわゆる半球形内耳鍋(鈴木1996)に属するものばかりである。99A区出土半球形内耳鍋は3類に細分ができる。1類は体部から口縁部にかけてほとんど直立しながらやや開くタイプ(1315～1317・1323～1327)であり、口縁端部から3～5cm程度下位の部分に浅い沈線が巡るもの(1316など)が存在する。1類は口縁端部の断面形が方形となっている点が特徴であり、これらは半球形内耳鍋の中で古いタイプと考えられているものである。2類は体部から口縁部にかけて内彎しながら内側に傾くもの(1309～1313など)で、口縁上端面をやや強く横ナデ調整するためにわずかに凹んでいる。口縁部の内面はハケ調整が、外面は指オサエ調整が施されている。確証はないが、底部の形状は1318の資料からみて体部と底部の境界部分が不明瞭で突出するような丸底になるものと推測される。これらは16世紀後半を主体とする時期が考えられる。3類は体部から口縁部にかけて屈曲して口縁部が内側に傾くもの(1319～1321など)で、口縁上端面を強く横ナデ調整するために内外両端が横方向に広がっている。底部の形状は1314・1320・1321などからみて、底部と体部の境界が明瞭に稜線を持っており、丸底では



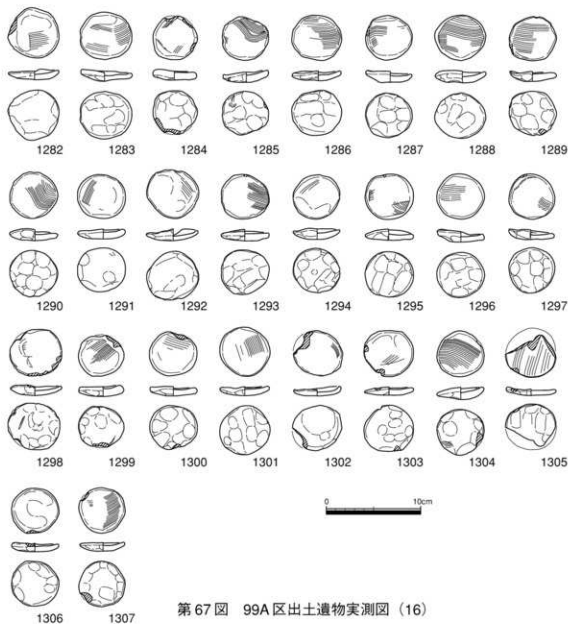
第 66 图 99A 区出土遗物实测图 (15)

あるものの全体の形状は桶形となっている。これらも16世紀後半を主体とする時期が考えられる。

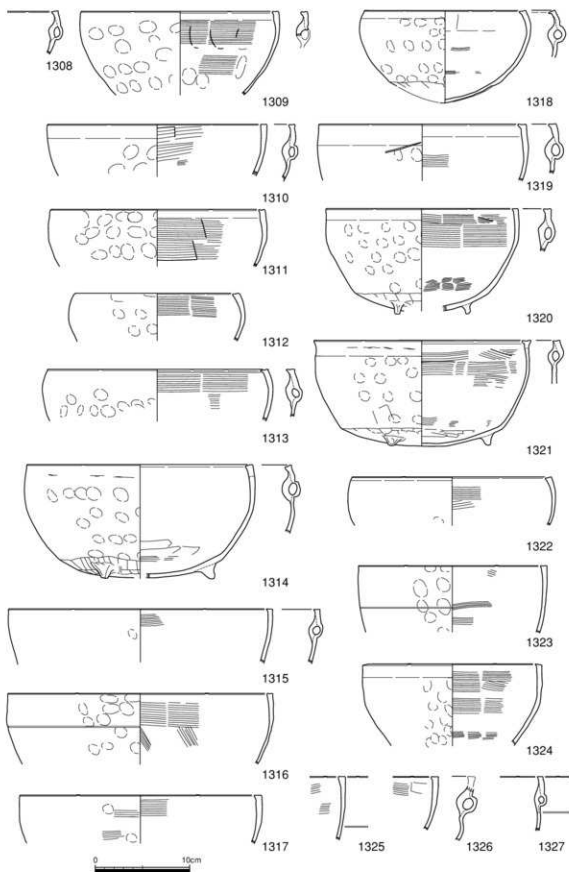
羽付鍋は、羽釜ともよばれることがある製品で、半球形の体部上方に鈎がつくもの(1352～1357)である。実測したものはいずれも口縁部が内彎しながら内傾するもので、口縁端部上面がやや強く横ナデされて内側の端部が広がっている。鈎は概して短く鈎の端面も横ナデ調整によって若干広がっている。内面上位に細かなハケ調整が残存し、鈎よりも下位の体部外面には指オサエ調整が施されている。99A区出土土師器羽付鍋は、口縁部から体部にかけての形状は内耳鍋の2類と近似していることからみて、

16世紀後半を主体とする時期が考えられる。

釜には羽付釜(1359・1363)と羽無釜(1358)がある。羽付釜は口縁部が遺存する資料に恵まれなかったために全体の形状は不明である。ただし、鈎の状態から見て、鈎が非常に短く断面形が三角形になるもの(1359)と羽付鍋と同様に鈎端面が横ナデ調整によって広がるもの(1363)に分類が可能である。羽無釜(1358)は体部に至る屈曲部分がなだらかになっており、肩部に板状の耳が付く。また、口縁部が残存する釜類では、直立する口縁部が比較的高く立ち上がっているが、体部に至る屈曲部分がなだらかになっているもの(1358・1360～1362)であ



第67図 99A区出土遺物実測図(16)



第 68 图 99A 区出土遺物実測図 (17)

る。時期は、1363が比較的古いタイプで16世紀前半から中頃と思われるが、それ以外は16世紀後葉（城下町期Ⅱ-2期）以降に属するものと考えられる。

焙烙は4類に分類でき、1類は丸底の底部に逆ハの字状に開く口縁部が付き口縁部上端面が水平となるもの（1328など）、2類は丸底の底部に逆ハの字状に開く口縁部が付き口縁部上端面が斜めに外傾するもの（1329など）、3類は直線的に開く体部に口縁部が外側に折り返され突帯状になるもの（1346）、4類は体部から口縁部の立ち上がりが短く胎土が褐色となるもの（1343）である。このうち、1類と2類は半球形内耳鍋をそのまま浅くしたような形状を呈するものであり、圧倒的多数を占めている。口縁部内面には横方向のハケ調整が、口縁部外面には指オサエ調整が、底部外面にはヘラケズリ調整が施され、底部内面には明瞭な調整痕を見て取ることができないほど平滑に仕上げられている。口縁部外面が横ナデ調整されているものとされていないものに区分することも可能である。3類は器壁が薄く1類と2類に比べて精巧な作りをしており、半球形内耳鍋とは別系譜の焙烙であると推測される。4類は宿場町期（江戸時代）に属する可能性がある。

（D）その他の製品（第70・75図1364～1371・1481～1485）

火掬状土器（1364～1367）は浅鉢状の杯部に円筒形の柄部が付くものである。杯部は丸底状の底部に逆ハの字状に開く体部を持ち、口縁部がやや肥厚する。柄部は粘土板を円筒形に丸めて作り、大きく穿孔された杯部に接合される。内面に黒色のしみ込み状の使用痕が確認される他は、煤などの痕跡は全く確認できなかった。このことから、外から火を当てて内容物を熱を加える容器ではなく、内部に熱した物体を入れて使用されたものと考えられる。火鉢（1369～1371）は口縁部が外側に屈曲する浅鉢状に中空の三足が付くものである。1369は折り曲げられた口縁部に複数の孔が開けられたものである。1371は火鉢の三足部分に相当する。焼塩壺には蓋（1484）と身（1485）がある。1484は手づくね成形による焼塩壺蓋と推測される資料で、胎土はにぶい黄褐色を呈している。1485は手づくね成形による焼塩

壺身で、胎土はにぶい褐色を呈している。内面は被熱痕が認められ、口縁部はくハの字状に折り曲げられた形状となっている。1481と1482は大形の形代である。1481は陶器質の焼成で、全く欠損しておらず、目や耳がリアルに表現されている。一方、1482は土師器質で頸部や脚部が欠損している。土鈴（1483）は上半部のみが遺存する。

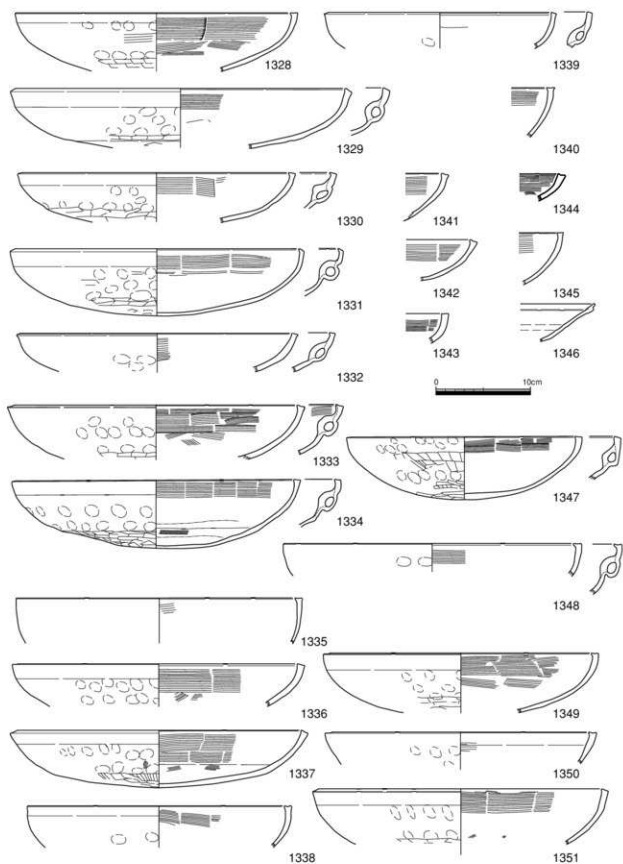
C 常滑窯産陶器（第43～47図1372～1392）

99A区からは常滑窯産陶器も多く出土しているが、器種は壺、甕、鉢などに限定されている。大形の器種が破損して出土しているために全ての資料を器種同定できないが、この中でも甕類が最も多く出土している。また、常滑窯産陶器は焼成の状態から、胎土が黒灰色などを呈する焼き締められた真焼製品と胎土が褐色などの明るい色を呈する焼成温度が低い赤物製品に区分される。99A区から出土した資料には両者が認められる。図化したものでは、1376・1378・1379が赤物である。

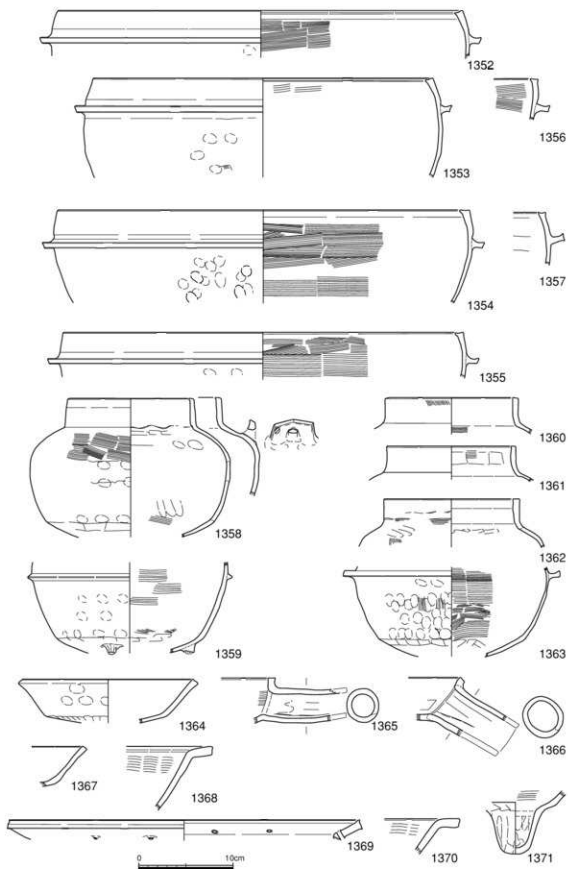
（A）甕

甕の口縁部にはいくつかの形状が認められる。1類は折り返された口縁部の縁部が体部に張り付いたもので、上端面の内側部分が大きく丸まるもの（1373）である。2類は縁部が体部に張り付き上端面がほぼ平坦になるもの（1374）である。上端面には1条ないしは2条の凹線状の窪みが巡ることが多く、上端面の内側はあまり張り出さない。3類は縁部が張り付き上端面が平坦で上端面の内側が突帯状に張り出すもの（1372）である。張り付けられた縁部は高くなっている。4類は折り返し張り付けられた縁部が不明瞭となり、上端面が斜めに傾くもの（1386）である。上端面の外側に張り出した部分は厚手で先端が丸められている。5類は縁部の痕跡は全く認められず口縁部が断面三角形になるもの（1387～1389）である。このタイプには口縁外端部が積み出されるもの（1387・1392）とそうでないもの（1388・1389）に細分できる。6類は5類に比べ口縁部端面が水平に近付き、外端部が外側へ積み出されるもの（1390・1391）である。

これらは形状からみて、1類から順に6類に変化していったものではないかと想定され、3類までが城



第 69 图 99A 区出土遗物实测图 (18)



第70图 99A区出土遺物実測図(19)

下町期に属する資料と考えられる。4類以降は宿場町期に属するものであり、形状からみると壺と表現した方がよいかも知れないものである。赤羽中野圃年との対応関係は1類が10型式くらい、2類が11型式くらいに相当すると考えられる。

(B) 壺

壺には頸部が存在する一般的？な壺A類と、頸部がないか短く括れる程度の壺B類（無頸壺）に大別できる。

壺A類は口縁部の形状から2類に分類できる。1類は口縁部が外側に折り返され体部に張り付いて口縁部上端部が丸められるもの（1383）である。2類は体部から口縁部にかけての字状に屈曲して逆ハの字状に伸び口縁部上端部が丸められるもの（1385）である。1類は城下町期、2類は宿場町期にそれぞれ属すると考えられる。

壺B類は、口縁部の外側を強くナデてわずかな頸部を形作るもの（1380）が出土した。外面には横方向や斜め方向のヘラズリ痕が残存し、内面には指オサエ痕や粘土経積痕の他にやや傾いた縦方向に施されたハケ状の痕跡が残されていた。底部外面は大量の砂が付着している。

(C) 鉢

鉢は平底の底部に体部が逆ハの字状に開く形状の製品で、99A区では口縁部端部が断面方形になるもの（1378・1381）が出土した。

(D) その他

その他のものとして、器種が特定できない底部の破片を一部実測した。1375～1377は底部に砂目痕が残り、体部外面にはヘラケズリ痕が残存するもので、器種は特定できない。1379は内面に縦方向に施された沈線が残るもので、体部の立ち上がりが急であることなどから無頸壺（壺B類）になると想定される。1384も体部の立ち上がりは垂直に近く、壺類の底部の可能性が考えられる。

D 中国産陶磁器（第73・74図1393～1433・1437・1438）

中国産陶磁器はその出土量はあまり多くなく全体で129点にしか過ぎない。その内訳は磁器には青磁と白磁と青花が存在し、同じく陶器には褐釉の壺な

どが認められる。ここでは青磁と白磁と青花とその他に分けて報告する。

(A) 青磁

中国産の青磁には蓮弁紋碗（1393・1935）、端反皿（1394）、棧花皿（1397）、盤（1400）などが認められる。1393～1395と1397・1400・1402は器壁が厚く胎土は灰色を呈しており、龍泉窯系の青磁と考えられる。1395は縦方向の線と連続する半円紋で蓮弁紋を描く比較的新しい資料である。1396と1398は胎土は白色で薄く作られており、景德鎮窯系の製品と推測される。1398は内面に2段の筋が入るもので青白磁とも考えられる。

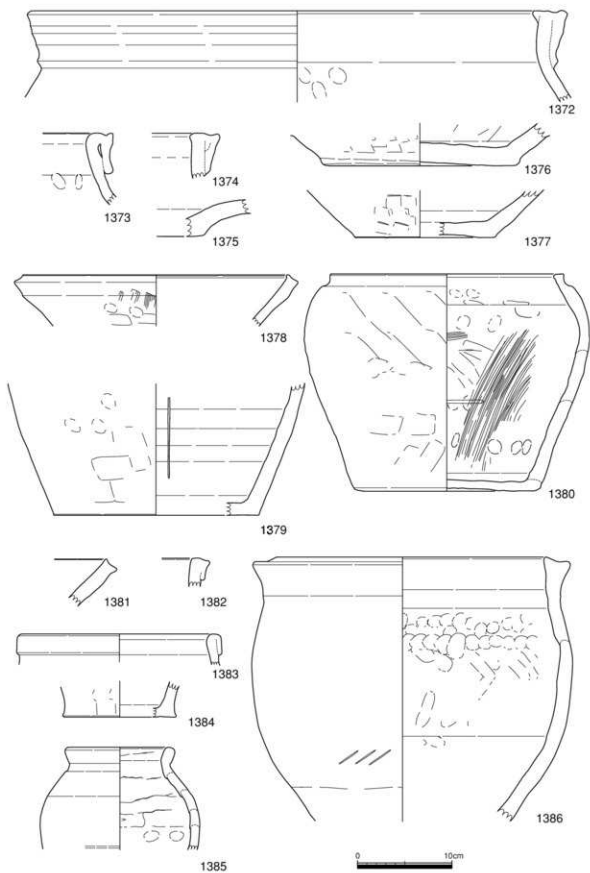
(B) 白磁

中国産の白磁には端反皿（1401・1403など）、棧皿（1404）、小杯（1405）、丸碗（1438）などがある。1401・1403～1405は胎土が緻密で白色を呈しており器壁も薄手であることから、景德鎮系白磁と考えられる。1399は10YR8/3浅黄褐色を呈する胎土を持ち、中国南部の窯の製品と推測される。1402は器壁が厚く胎土もやや黄色味がかっている。1405は底部内面が輪禿となっている。

(C) 青花

青花は大きく碗と皿と大皿などの器種が存在する。出土量は碗や皿類が多く、その他の器種は非常に少ない。これらの産地については基本的には、胎土が緻密で白色を呈しコバルトの発色も鮮やかな青色となる景德鎮窯系と、胎土が粗めで黄色味がかかりコバルトの発色も鈍い紺色となる漳州窯系とに大別され、これまでもその大別で報告を行ってきた。しかし、実際には焼成の状態、胎土の発色や緻密さ、釉薬や紋様部分のコバルトの発色、底部の削り出し調整痕や高台端部（臺付部）の状態などに相違が見られることから、さらにいくつかの系統に分類できることが予想される。ただ、ここではこれらを未だに系統だててうまく整理ができていないために、こうした観点からの分類は挫折した。ここでは従来通り、器種毎に記述を進めていきたい。

青花碗は5類に分類できる。1類は底部から体部にかけて半球形状に立ち上がり高台が付くもの（1407）である。2類は体部下半の腰が張り体部から口縁部

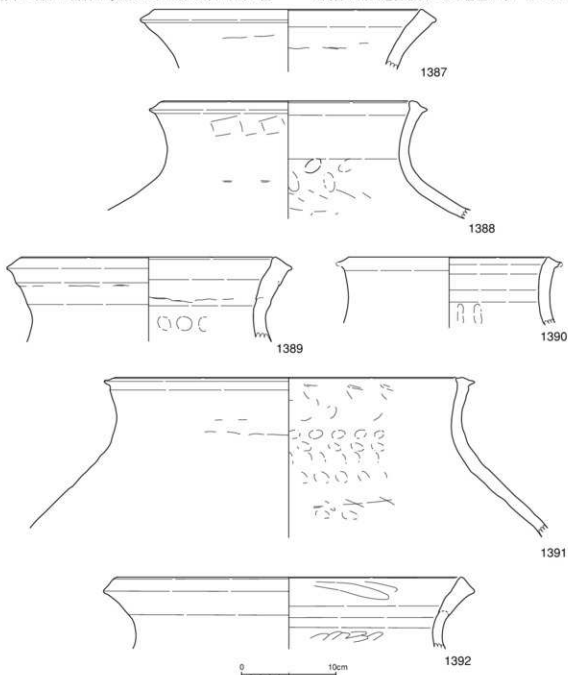


第71图 99A区出土遗物实测图(20)

にかけて直線的に伸びるもの(1413)である。3類は底部が厚く見込み部分が大きくなり、腰が張りながら口縁部が立ち上がるもの(1412)である。4類は底部中央が上方へやや盛り上がり、腰が張って体部から口縁部がやや急に立ち上がるもの(1406・1409)である。5類は底部から口縁部が薄く高台が高くなっているもの(1408)である。1類や2類は城下町期の前半に属する資料と考えられ、4類は城下町期の後

半に属する資料と位置付けられよう。5類は漳州窯系青花である。

青花皿は3類に分類できる。1類は口縁部が大きく外反するもの(1414～1418など)である。2類は口縁部が内彎して立ち上がるもの(1419・1420・1422～1425など)である。1類と2類は器壁が薄く高台の内側がシャープに挟られているものが多い。3類は高台が断面逆台形状になり器壁が厚いもの(1427)



第72図 99A区出土遺物実測図(21)

である。口縁部が残存していないために、全体の形状は復元できなかった。

1432は漳州窯系青花の大皿である。焼成がやや甘くなった製品である。

(D) その他の中国産陶磁器

1433は緑釉が施された交趾三彩小皿で、表面に花卉が表現されている。1437は褐釉の茶壺である。褐灰色の胎土にやや光沢のある褐釉が施され、口縁部は外側に折り返され丸められている。図化した口縁部片以外にも体部の破片が数点存在する（写真図版16参照）。

E 朝鮮王朝産陶磁器（第74図1434～1436）

朝鮮王朝産陶磁器には、陶器の碗と徳利が出土した。1434と1435は碗で内面に重ね焼きのための目跡が残存する。1434はにぶい橙～褐灰色の胎土、1435は暗青灰色の胎土を持っており、両者とも透明釉が掛けられている。1436はラッパ状に開く徳利の口縁部で、褐灰色の胎土を持つ。

F 唐津（肥前）窯産陶器（第74図1439～1457）

唐津窯産陶器は灰釉が施された丸碗が大部分を占めており、その他の器種は非常に少ない。これらは16世紀後葉から17世紀前葉に位置付けられ、城下町期Ⅲ期に属する資料と考えられる。

丸碗は形状から2類に分類が可能である。1類は腰部が丸みを帯びて立ち上がり内増しながら口縁部に至るもの（1439・1443など）であり、2類は腰部がやや屈曲して直立気味に立ち上がり口縁部が直線的に伸びるもの（1441など）である。両者とも高台は削り出されており、薬灰釉は底部外面を除く全面に掛けられている。釉薬の発色は透明な光沢を持つものと白味がかる光沢のないものなどがある。

その他の器種としては、1455の鉄絵が施された碗？と1457の底径が非常に大きい鉢状？のものが存在する。

G 楽系窯産陶器（第74図1458～1461）

楽系窯産陶器は軟質で鉛釉が施された焼物で、99A区では碗のみが存在する。

1458は明赤褐色の胎土に白色粘土で白化粧した上に鉛釉が施された筒形碗である。口縁部は内側に傾斜しながら立ち上がるもので、釉薬は大部分が剥げ

落ちてしまっている。1459は灰白色の粘土に黄色あるいは茶色の鉛釉が掛けられた鉢状の碗である。1460は明赤褐色の胎土に鉛釉が施された筒形碗の腰部で、外面は白色粘土で白化粧されている。内面の鉛釉は黒色に発色している。1461も1460と同様な製品の高台部である。

これらの楽系窯産陶器は城下町期Ⅲ期に属する遺物として考えられよう。

H 備前窯産陶器（第75図1462～1472）

99A区出土の備前窯産陶器は擂鉢がある。胎土は灰色から灰赤色を呈しており、焼成は堅緻である。口縁部の形状から2類に分類できる。1類は肥厚する口縁部の断面形が三角形となるもの（1462～1465など）、2類は口縁上端部が上方へ伸びていくもの（1466・1467・1470）である。擂鉢の底部は高台を持たず、底部外周部をヘラケズリ調整が施されて丸みを持っている。底部外面には砂目が残存している。これらの遺物は16世紀後葉くらい時期が考えられよう。

I 信楽窯産陶器（第75図1473・1474）

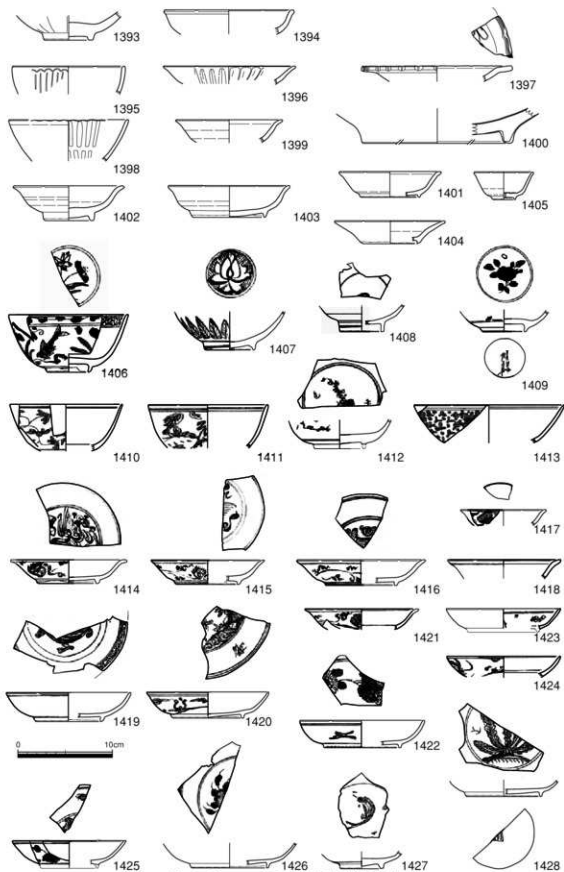
信楽窯産陶器には壺または甕の底部片（1473）と無頸壺（あるいは建水か；1474）が出土した。白色の胎土中に長石粒が混じるのが特徴である。これらの時期については城下町期に属するが、これ以上は特定できない。

J 城下町期以前の土器・陶磁器（第75図1486～1490）

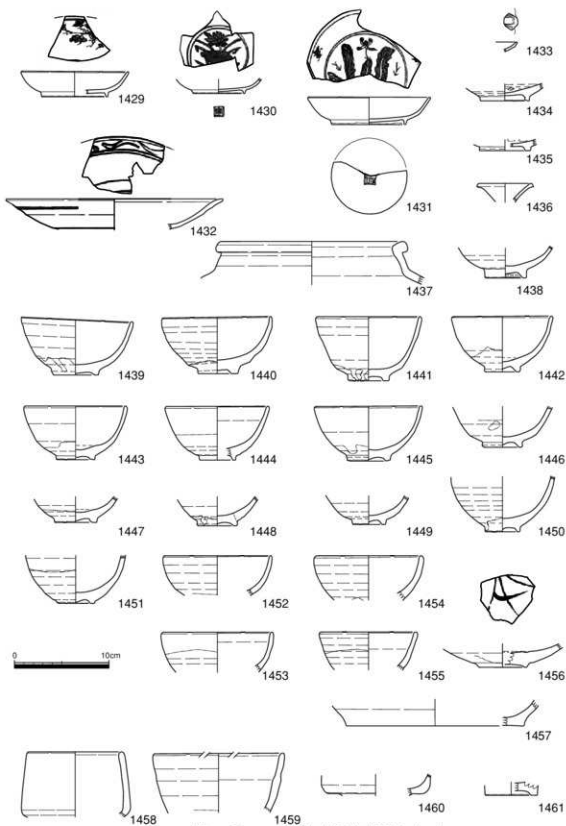
城下町期よりも前の時期の遺物には須恵器や山茶碗類などが出土しているが、ここでは山茶碗類の鉢と陶丸（1489・1490）を紹介する。1486は片口鉢の口縁部、1487と1488は鉢の底部である。

K その他の製品（第75図1475～1480）

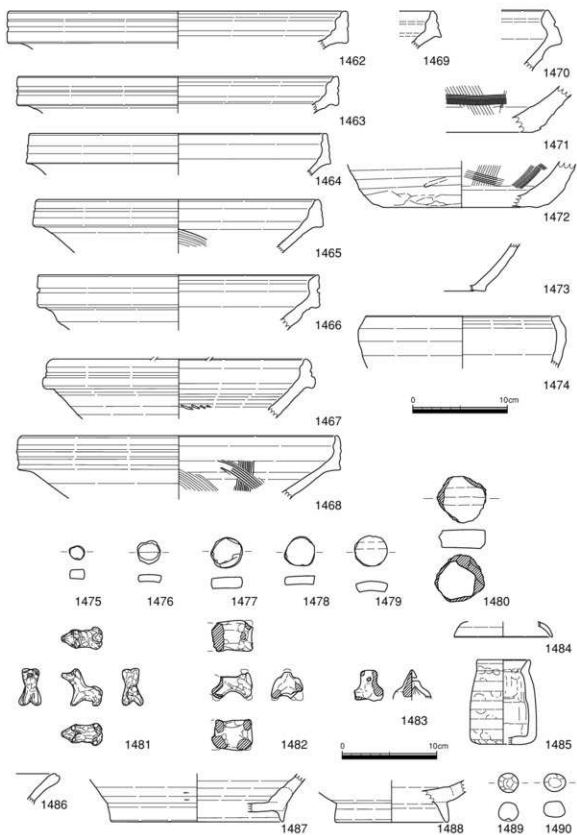
ここでは、その他の製品としていわゆる加工円盤を紹介する。加工円盤は本来は別の器種として生産された陶器片を円盤状に打ち欠いて製作されたものである。1475～1480は瀬戸美濃窯産陶器を利用したものである。1475は大窯期の大形製品、1476は18世紀代の大形製品、1477と1478は古瀬戸後Ⅳ期の壺、1479は大窯第3か4段階の徳利、1480は大形製品の破片を各々用いている。



第73图 99A区出土遗物实测图(22)



第 74 图 99A 区出土遗物实测图 (23)



第 75 图 99A 区出土遗物实测图 (24)

8 99B区出土陶磁器・土器類

(1) 概要

99B区から出土した陶磁器と土器類は接合前破片数で10983点である。その内訳は城下町期に属する資料が大多数を占めるものの、そればかりではなく城下町期以前や宿場町期の遺物も少なからず存在する。この99B区では数多くの土坑や溝が重なりあって検出されており、確認された遺構は屋敷の区画溝や建物跡の基礎構造であったものと考えられている。こうした状況から見て、城下町期の段階で居住域(おそらく町屋か)であったと推測される。この他に整地層なども確認されており、遺物はこうした遺構や整地層から多数出土している。実際に遺物の整理を行ってみると、99A区と同様に、遺構をまたがって破片が接合する事例が相当量存在することが判明した。これは遺構が構築される間に遺物を包含する古い遺構や整地層が攪乱されるために生じたものと考えられる。このため、その遺物が本来どの遺構に所属してどの資料と共存するのか判別が難しくなっている。このような状態の中で遺構一括資料を紹介する方法で報告を行うと、遺構一括資料がどの程度有効なまとまりであるかといった疑問が生じ、報告に際しては同じ遺物を何度も紹介する煩雑さが障害となる。したがって99B区という調査区全体を一つのまとまりと認識して記述を進めていき、具体的に産地材質別に報告する方法を採用した。

(2) 資料の紹介

A 瀬戸美濃窯産陶器(第76～91図1491～1927)

99B区から出土した瀬戸美濃窯産陶器は全部で4181点(接合前破片数)が出土した。これらは碗類、皿類、鉢類、搦鉢、大形製品、小形製品などに大別ができる。このうち、碗類には天目茶碗、小天目茶碗、丸碗、端反碗、沓茶碗、小碗、小杯、仏用具などがある。皿類には緑釉皿、端反皿、丸皿、折縁皿、椀皿、内壳皿、ひだ皿、菊皿、志野丸皿、重圈皿など多種多様な製品が存在する。鉢類には浅鉢、深鉢、

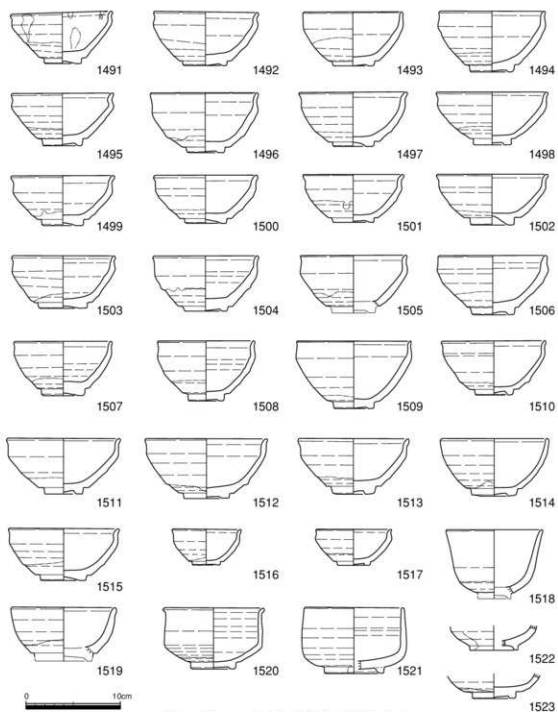
向付、大皿、盤などがあり、大形製品には建水、水指、緒桶、匣鉢、祖母懷盒、双耳壺、徳利、花瓶、甕などが、小形製品には茶入や水注などがある。

主要な器種別の出土量は接合前破片数で、天目茶碗が883点(瀬戸美濃窯産陶器全体の中で約21%；以下同様)、その他の碗類が161点(約4%)、重圈皿が206点(約6%)、重圈皿を除く皿類が1141点(約27%)、鉢類が181点(約4%)、搦鉢が934点(約22%)、大形製品が211点(約5%)、小形製品が18点(約0.5%)となっている。従来清須城下町中の瀬戸美濃窯産陶器の出土傾向と同様に、天目茶碗と小皿類と搦鉢の主要3器種が多い傾向を読み取ることができる。ここでは器種別に遺物の紹介を進める。

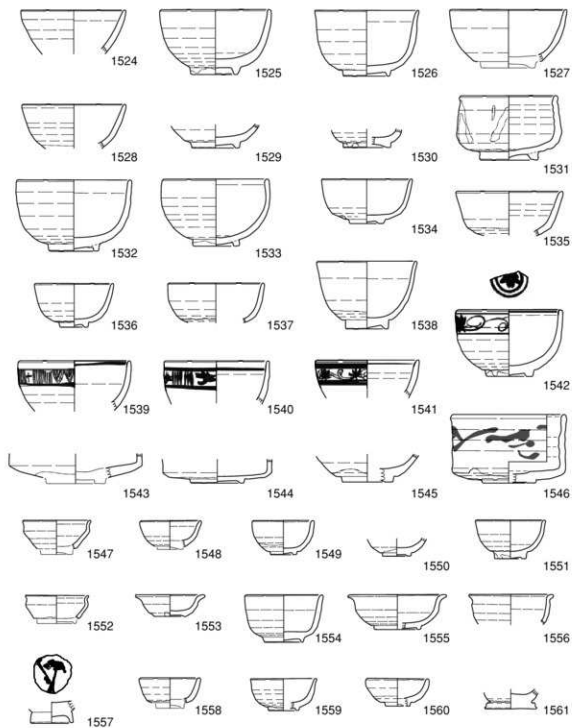
(A) 天目茶碗(第76図1491～1515)

天目茶碗には様々な形状のものが存在する。1類は体部が直線的に逆ハの字状に開き内反高台となるもの(1491)、2類は輪高台で体部が直線的に開き口縁部が直立しS字状に屈曲するものでやや小振りなもの(1492・1495・1498・1511)、3類は高台中央部が緩やかに窪む内反高台で体部がやや丸みを帯びるもの(1497)、4類は輪高台で体部がやや丸みを帯びて口縁部に至り端部が短くS字状に屈曲するもの(1493・1494・1496・1512)、5類は内反高台で体部が直線的に開き口縁部のくびれが緩やかでやや高く全体的に小振りなもの(1499・1500・1502・1503・1515)、6類は輪高台で口縁部のくびれが緩やかでやや高く全体的に小振りなもの(1501)、7類は底部から体部にかけて器壁が厚く口縁部が直立しS字状に屈曲するもの(1504・1506・1507・1513)、8類は輪高台で口縁部のくびれがほとんど見られないもの(1514)、9類は輪高台で口縁部のくびれが弱くやや内側に傾くもの(1508)、10類は輪高台で口縁部のくびれが弱く器高が高いもの(1509)である。1491は鉄釉の上に灰釉を流し掛けた製品で、流し掛けを施した配置は平面形でみて十字の位置に4ヶ所行っている。1502は外面下半部に非常に薄い錆釉を施し、高台端面に回転糸切痕が残存するものである。

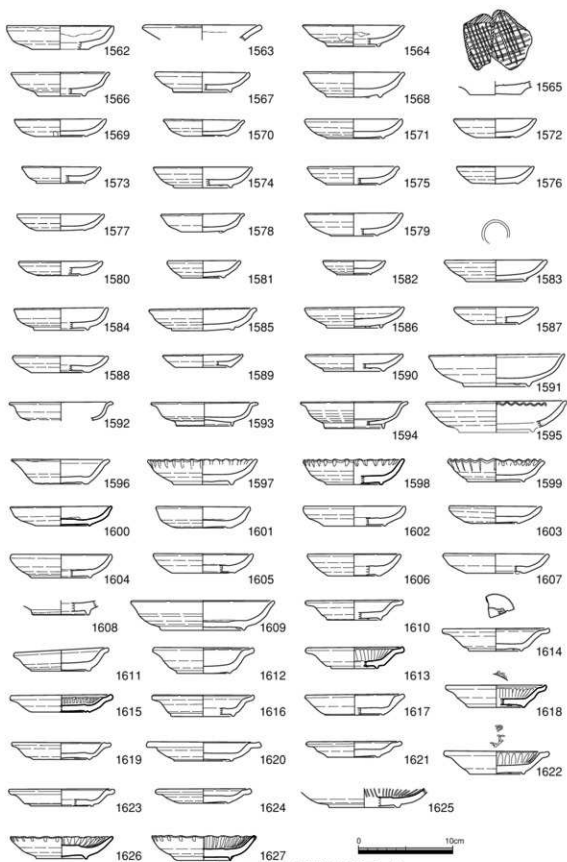
上記のような分類を藤澤良祐の大瀬編年当ては



第 76 图 99B 区出土遗物实测图 (1)



第77图 99B区出土遺物実測図(2)



第78图 99B区出土遺物実測図(3)

めるとおおよそ1類は大窯第2段階後半、2類～4類は大窯第3段階後半、5類～8類は大窯第4段階、9類と10類は連房式登窯第1小期に各々対応すると考えられる。この他にも古瀬戸後Ⅳ期新段階に位置付けられるものや、登窯第2小期以降に属するものもいくつかはみられる。ただし、出土量からみると、最も多いのは大窯第3段階の185点(瀬戸美濃産陶器天目茶碗全体の中で約22%)と大窯第4段階の174点(約21%)であり、大窯第3段階か第4段階か特定できない373点を含めると全体の約88%を占めている。また、登窯第1小期以降に属するものも63点存在する。このように検討すると、天目茶碗の時期的な主体は大窯第3段階から第4段階までの期間にあるといえよう。

(B) 丸碗 (第76・77図 1519～1542)

半筒碗や筒形碗も含めて丸碗としてここでは一括して報告する。丸碗も様々な形状が存在するが、大窯前半以前に属するものはほとんど無く、大窯第3段階後半以降のものが多い。

1類は体部が緩やかに立ち上がり腰が張らない付高台のタイプで灰軸が施されたもの(1525・1529)である。1527と1528も1類に属すると思われ、これらは大窯第3段階に属すると考えられる。2類は体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる付高台のもの(1526・1532・1533)で、鉄軸が施される。3類は腰が張ってやや屈曲するように立ち上がり体部が内傾する付高台のもの(1531)である。1531は鉄軸の上に灰軸を部分的に流し掛けている。4類は体部が緩やかに立ち上がり腰が張らない削り出し高台のもの(1519・1539～1542)で、長石軸が施される。1539～1542は外面上位に2条の圏線内に紋様が描かれた鉄軸が存在する。これらは登窯第1小期に属する。5類は腰がしっかりと張って口縁部がやや内傾するタイプ(1521)で、筒形碗と呼ばれるものである。6類は削り出し高台で体部が屈曲して直立しながら口縁部に至り口縁端部が短く外折するタイプで器壁が比較的薄い筒形碗(1520)である。紫色の鉄軸が掛けられており、登窯第1小期に属する資料である。7類は削り出し高台で体部がやや直立きみに立ち上がるもの(1538)で、器高が高く口縁部がわずかに外

反する。

(C) その他の碗類 (第77図 1518・1543～1561・1766)

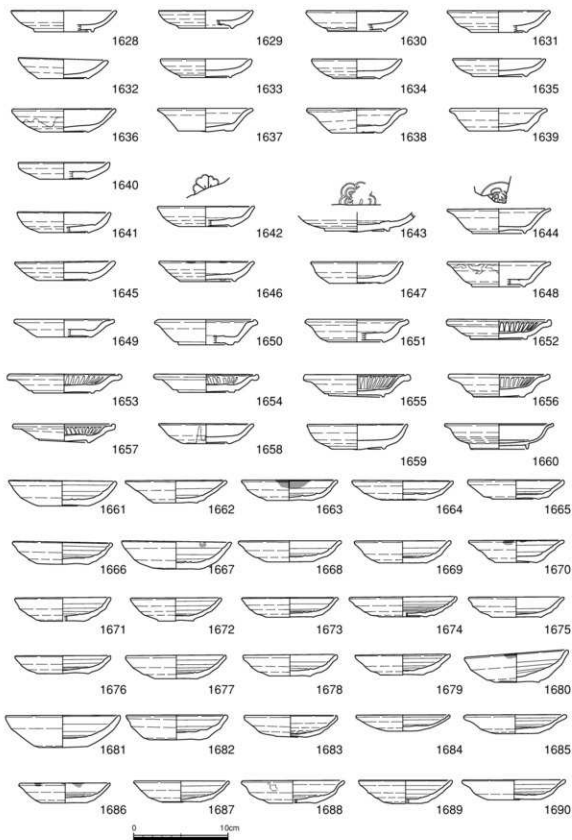
天目茶碗と丸碗に属さないものをここで一括して報告する。

1543と1544は腰部が明瞭に屈曲する香茶碗である。1543はいわゆる引き出し黒と呼ばれる漆黒色の軸調を呈しており、底部外面は露胎となっている。ロクロ成形の製品で大窯第4段階に属する。1544は薄い器壁を持ち鉄軸が掛けられたもので、底部内面(見込み)に茶溜り(一段下がった浅い窪み)は存在しない。1766は黒織部茶碗で、外面に長石軸鉄絵に灰軸や銅緑軸が流し掛けられたもので登窯第1小期に属する。1518と1545は端反碗で、前者は銅緑軸が掛けられた登窯第1小期に属するもので、後者は灰軸が掛けられた古瀬戸後Ⅳ期に属するものである。1547と1552は小天目茶碗である。1547は大窯第3段階に、1552は大窯第4段階に属する。1548～1551・1557～1560は丸碗形の小板で、削り出し高台を持ち口縁部がやや開くものである。1557は高台部が高く内面に鉄絵が描かれており、登窯第1小期に属する。1553～1556は小杯で、1553・1554は長石軸が、1556は灰軸が掛けられている。1553・1555・1556は口縁部が大きく外反するものである。1554は体部から口縁部が直立しながら立ち上がる。小杯はいずれも大窯第4段階に位置付けられる。1561は鉄軸が施された仏用具で、大窯第1段階に属する。

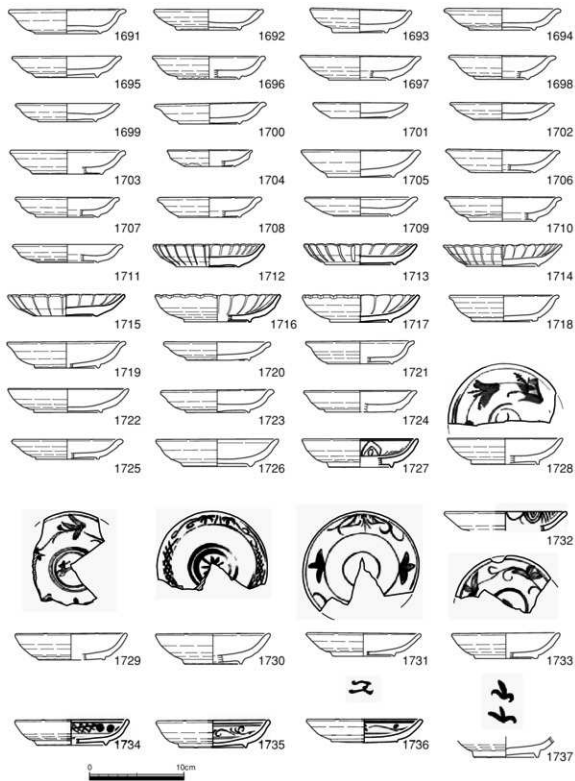
(D) 皿類(重圓皿を除く; 第78・80図 1562～1660・1691～1737)

ここでは、重圓皿を除く施軸された皿類を取り扱うこととする。具体的には、緑軸皿(1562・1563)、銅皿(1565)、端反皿(1564・1566・1658・1659)、焼締端反皿(1592～1594・1660)、丸皿(1567～1591・1628～1636)、稜皿(1596・1637～1639)、ひだ皿(1597～1599)、反り皿(1644・1648)、内壳丸皿(1600～1607・1640～1643・1645～1647)、輪壳皿(1609)、折縁皿類(1610～1624・1649～1657)、菊皿(1625～1627)、志野丸皿(1691～1711・1718～1737)などが存在する。

緑軸皿には口縁部が比較的直立きみになるもの



第 79 图 99B 区出土遗物实测图 (4)



第80图 99B区出土遗物实测图(5)

(1562)とやや外反するもの(1563)がある。前者は古瀬戸後Ⅳ期新段階、後者は大窯第1段階に位置付けられる。鉦皿は底部のみが残存しており、古瀬戸後期に属する。端反皿には底部下半部が露胎のもの(1564・1658)と全面施軸されたもの(1566・1659)がある。1564は大窯第1段階に、1566・1658・1659は大窯第3段階に属する。焼締端反皿は付高台がやや高く、口縁部が強く外反するものである。底部内面および口縁部内面に沈線が巡っている。胎土が灰色で焼き締められており、大窯第3段階に位置付けられる。

丸皿には底部に輪トチンの痕跡が残存するもの(1567・1568など)と円錐ビンが残存するもの(1569・1570)があり、後者はおおよそ大窯第4段階後半に属する資料である。その他の丸皿も釉薬は光沢を持たない乳白色や黄白色の発色をした灰軸が施されたものが多く、大窯第3段階から第4段階に属するものである。1587は灰土野風の釉薬が施されている。1591は口径が約14cmを測るやや大きめの鉄軸丸皿で、大窯第3段階前半に位置付けられる。1595は口径が約14cmを測る灰軸丸皿で口縁部内側に波状紋が施される。1636は外面下半部に錆軸が施された灰軸丸皿で、底部が萁筒底となっている。

椀皿は底部が萁筒底状になり口縁部にかけて体部が大きく外反するもので、鉄軸が施されている。外面下半部に錆軸が施されるもの(1596・1639)や、内面底部(見込み部)に釉薬が拭き取られ露胎となるもの(1639)もある。ひだ皿は鉄軸の製品のみが確認され、大窯第3段階に属する資料である。反り皿は灰軸が施され、1644は内面に印花が認められる。内丸丸皿には底部内面の露胎部に明瞭な段差を有するもの(1603・1604など)と段差を全く持たない通常の丸皿の形状をしたもの(1600・1601など)に分けることができる。輪壳皿(1609)は露胎部分が段差状に盛り上がり、口径と器高が大きい大振りなものである。大窯第4段階に位置付けられる。

折縁皿はいくつかの基準で分類ができる。底部内面の状態から、底部内面にも釉薬が施されるもの(1610～1612など)と内壳となり露胎部に明瞭な段差を有するもの(1615など)と内壳で段差を全く持

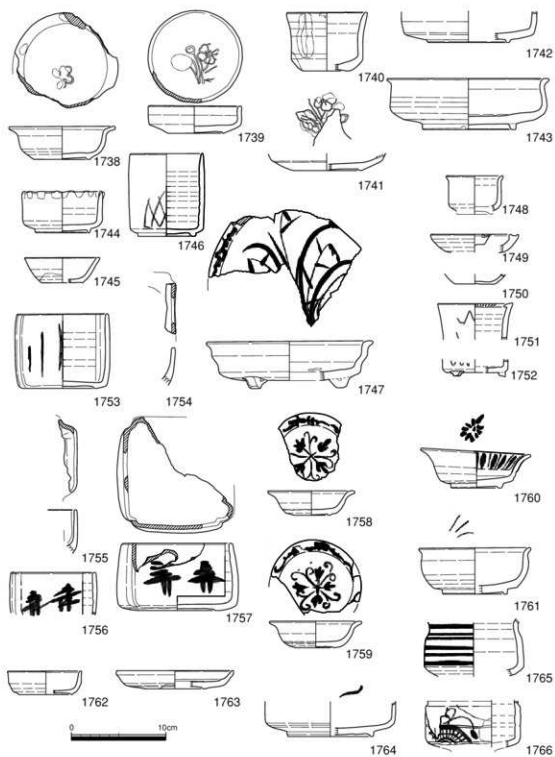
たないもの(1620など)に区分できる。体部内面の状態から、そぎが入るもの(1613など)と入らないもの(1610など)に分けられる。形状からは、器高が高く折り曲げられた口縁部が断面三角形に尖るタイプと(1610・1612など)と、器高がやや低く口縁部が丸くなっているもの(1619・1623など)、口縁部が水平となり器高がさらに低くなるもの(1621・1624)に分けることができる。これらは順に大窯第3段階後半に、大窯第4段階前半に、大窯第4段階後半に各々位置付けられよう。1614などには底部内面(見込み)に印花が押印されている。1626と1627は内壳ソギ皿で口縁部が丸皿の形状となっている。1625も同様の製品の可能性がある。

志野丸皿は大半は底部に円錐ビンの付着した痕跡が残存するもので、鉄軸が施されたもの(1727～1737)と施されていないものがある。1728～1732は大窯第4段階後半に、1727と1733～1736は登窯第1小期に位置付けられる。1737は登窯第2小期に属し宿場町期の遺物となる。志野菊皿は内面が花卉状に成形されたもので、外面に花卉を描く沈線が存在するもの(1712～1715)と存在しないもの(1716・1717)がある。後者の方が器高が高く古い様相を呈している可能性も考えられる。

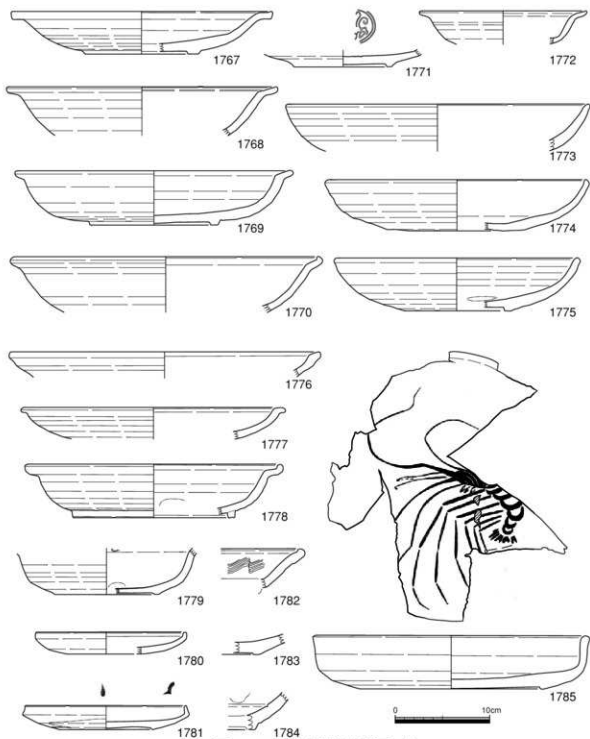
(E) 重圍皿(第79図1661～1690)

重圍皿は大きく、無軸で黄白色や灰白色などの胎土を持ち圍線が不明瞭で螺旋状となる1類(1674)と、無軸で焼き締められた黒灰色などの胎土を持ち同心円の圍線が明瞭な2類(1661～1677など)と、焼き締められずに錆軸を掛けて作られ同心円の圍線が明瞭な3類(1678～1682・1690)に分けることができる。99A区と同様に、数量的には2類が最も多く、1類は少ない傾向を読み取ることができると

2類の重圍皿はさらに、器高が高く体部から口縁部にかけて直線的に開く2a類(1661・1667など)と、器高がやや高く体部中央が丸みを帯び次に口縁部に向かって外反する2b類(1663・1668など)と、器高がやや低く体部中位がやや丸みを帯びて口縁部に向かって直線的に開く2c類(1673～1675など)と、器高が非常に低く底部から口縁部にかけて緩やかに開く2d類(1684・1685など)に分けることが可能であ



第81图 99B区出土遺物实测图(6)



第82图 99B区出土遺物実測図(7)

る。99A区で記述したように、2a類→2b類→2c類→2d類という変遷過程を推測できるかも知れない。

3類の重圍皿はさらに、2b類と同様な規模と形状の3a類(1678・1679)と、器壁が非常に厚く器高がやや高い3b類(1682)と、さらに器高が高く作りが粗雑になる3c類(1680・1681)に分類できる。作りの粗雑さを手がかりに考察すると、3a類→3b類→3c類という変遷過程を推測できるかも知れない。

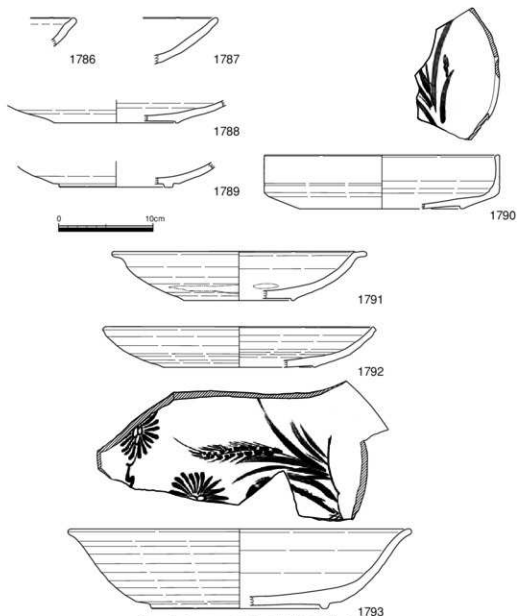
この重圍皿はタールが付着するものが多いが、付着する状態は口縁部の一部分に1カ所ないし数カ所

認められるもの(1667など)が存在するものの、内外面のほぼ全体に付着するタイプは確認できなかった。

(F) 向付・盤類(第81～83図 1738～1764・1778～1781・1785・1792・1793)

向付・盤類は黄瀬戸軸や長石軸が施された製品が多く認められ、大室第4段階から登室第1小期に属する資料が大半を占める。

1738・1739・1741・1742・1779は黄瀬戸向付である。1738は直立する体部に外側に折れ曲がる口縁部



第83図 99B区出土遺物実測図(8)

を持つもの、1739は口縁部が直立するもので、両者とも内面に刻紋が描かれ緑釉のタンパンが施されている。底部は萁筒状に作られている。1740は縦やかに外反する口縁部を持つ湯呑状の向付で、灰釉に鉄釉が流し掛けられている。1743は直立する体部に外折する口縁部が付く向付で灰釉が施されている。

1744は口縁部がひだ状となる志野向付、1745は萁筒底となる小鉢状志野向付、1746は器高が高い筒向付である。1753～1757は四方志野鉄絵向付で、体部が直立するもの(1753～1756)と体部がやや内傾するもの(1757)がある。1758と1759は小形の皿状志野鉄絵向付で内面に十字花紋が描かれている。両者は本来ワンセットで存在したものと考えられる。1760と1761は登窯第1小期に属する向付で、後者は釉の下に墨書らしき線が描かれている。1764は灰志野向付で内面に鉄絵が施されている。

盤には口縁部が内傾する小形のタイプ(1780・1781)、体部が屈曲し口縁部が直立するタイプ(1785・1792)、口縁部が上方に折り返されるタイプ(1778)と口縁部が大きく外反するタイプ(1793)がある。1785には海老紋が、1793には草花紋が鉄絵によって描かれている。

(G) 大皿(第82・83図1761～1777・1782～1784・1786～1791)

大皿には灰釉が施されたもの(1777・1782～1784・1790)、鉄釉が施されたもの(1769・1770・1773・1775・1789)、錆釉が施されたもの(1767・1768・1771・1772・1776・1787)、露胎で焼締陶器であるもの(1774・1788)が存在する。

これらは、口縁部では内彎するもの(1773～1775など)と外反し折線になるもの(1767～1770など)に分けられ、底部では削り出し輪高台になるもの(1767・1771など)と萁筒底になるもの(1775・1788など)に分類できる。1771は見込みに印花紋が残存し、1784は銅緑釉が流し掛けられている。1775や1791のように底部内面に重ね焼きのため露胎となった部分が残存するものもある。

(H) 鉢(第92図1922・1923)

体部から口縁部が逆ハの字状に開く大形製品を鉢として一括するが、99B区ではそれほど資料は多く

ない。1922と1923は両者とも鉄釉が施され、前者は大窯期の深鉢、後者は古瀬戸後Ⅳ期の鉢類である。

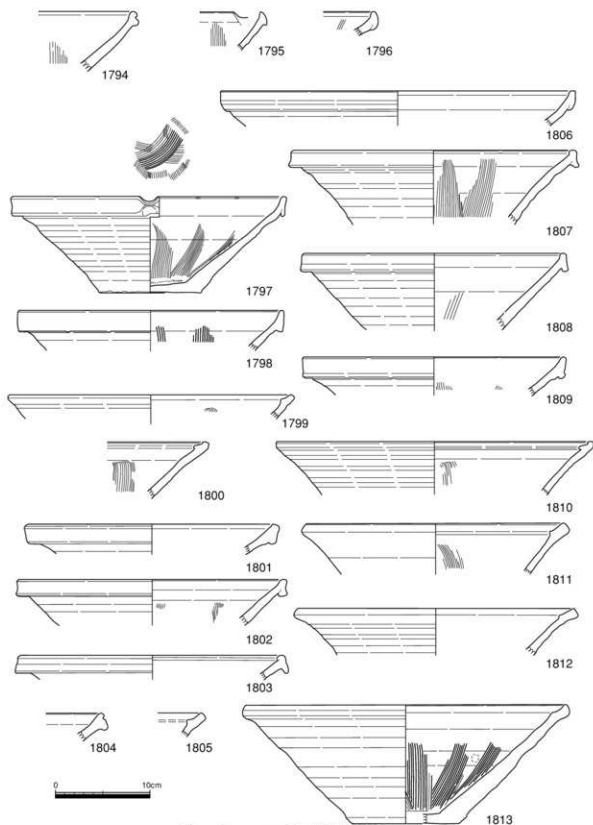
(1) 播鉢(第84～89図1794～1860)

播鉢は大きく口縁端部を外側に折り返して緑帯を形成するⅠ類と、口縁端部を内側に折り返すものあるいは外折するⅡ類に大別できる。

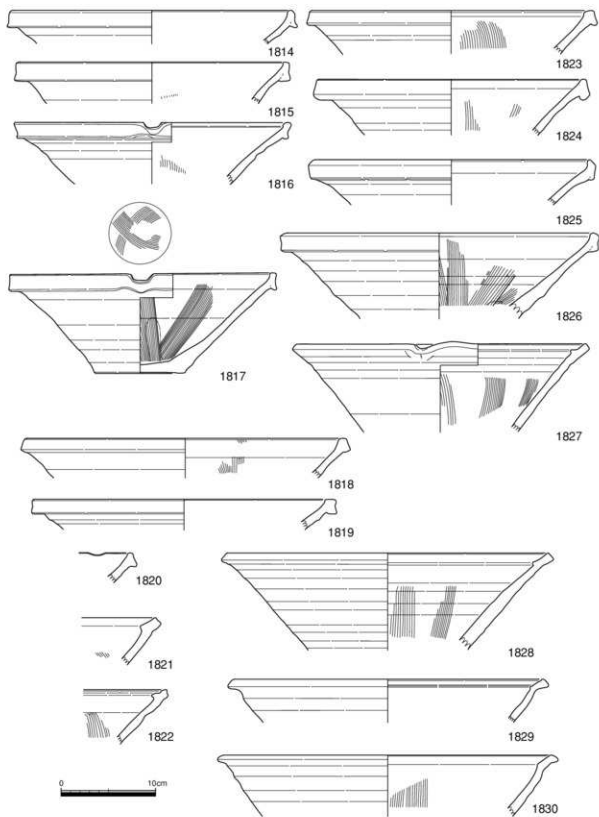
Ⅰ類はさらに9類に細分が可能である。1類は口縁端部が凹線状に窪むタイプ(1794)である。2類は口縁部が断面三角形で下端が少し垂れ下がるもの(1795)である。3類は垂れ下がった緑帯の下端部が断面三角形状あるいは丸まっているもの(1796・1798など)である。4類は垂れ下がった緑帯の下端部が下方に伸びるもの(1797など)である。5類は垂れ下がった緑帯の下端部が体部に向かってナデつけられたもの(1825など)である。6類は垂れ下がった緑帯の下端部が断面三角形状となり横方向に伸びるもの(1847など)である。7類は垂れ下がった緑帯の上端部が上方に伸びるもの(1825など)である。8類は垂れ下がった緑帯の上端部に面を有するもの(1801など)である。9類は口縁部上端面が平坦で緑帯の高さが低くなるもの(1818・1819など)である。

Ⅱ類はさらに6類に細分が可能である。10類は内側に折り返された口縁端部の上面がほぼ水平で器壁が肥厚するタイプ(1831・1838など)である。11類は内側に折り返された口縁端部の上面がわずかに内側に傾くが肥厚しないタイプ(1841など)で、断面三角形状となっている。12類は折り返された口縁部が同じ厚さとなり断面が隅丸方形状となるもの(1845・1853など)である。13類は外側に折り曲げられた口縁部が断面方形になるタイプ(1811～1813など)である。14類は外側に折り曲げられた口縁部の上面や端面や下面が横ナデされ口縁部が外折するタイプ(1828～1830など)である。15類は外側に折り曲げられた口縁端面が幅広く広がりT字状に近い形となるタイプ(1836)である。

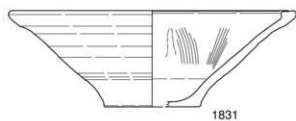
これらの分類と藤澤良祐の編年との対応関係はおおよそ次の通りである。1類と2類は大窯第1段階、3類と10類は大窯第3段階前半、4類と5類と11類と12類は大窯第3段階後半、6類～8類と13類は大窯第4段階前半、9類と14類は大窯第4段階後半、15



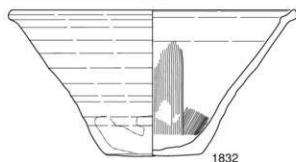
第84图 99B区出土遗物实测图(9)



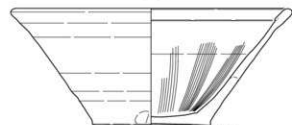
第 85 图 99B 区出土遗物实测图 (10)



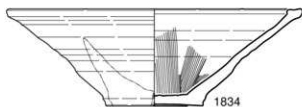
1831



1832



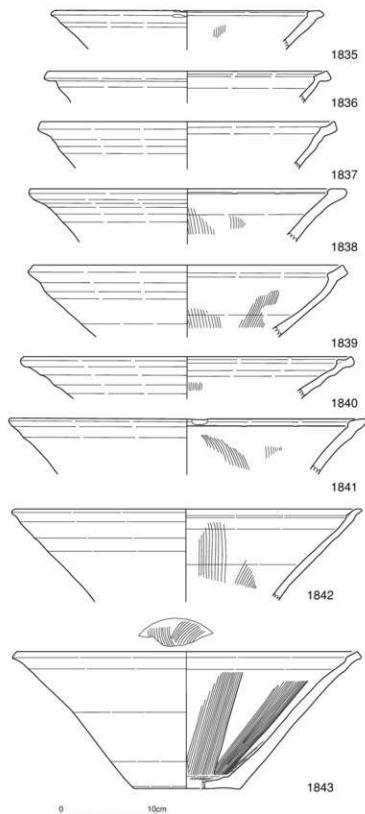
1833



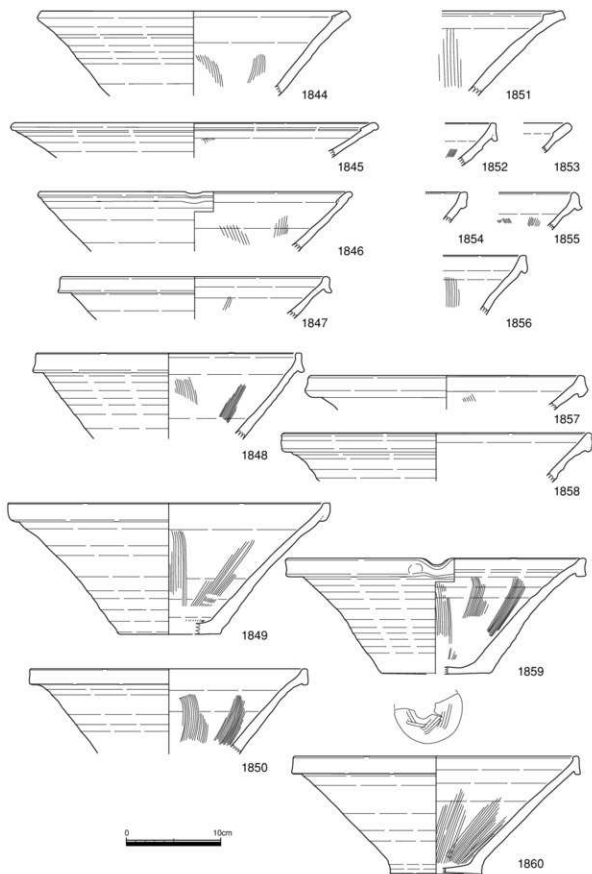
1834

0 10cm

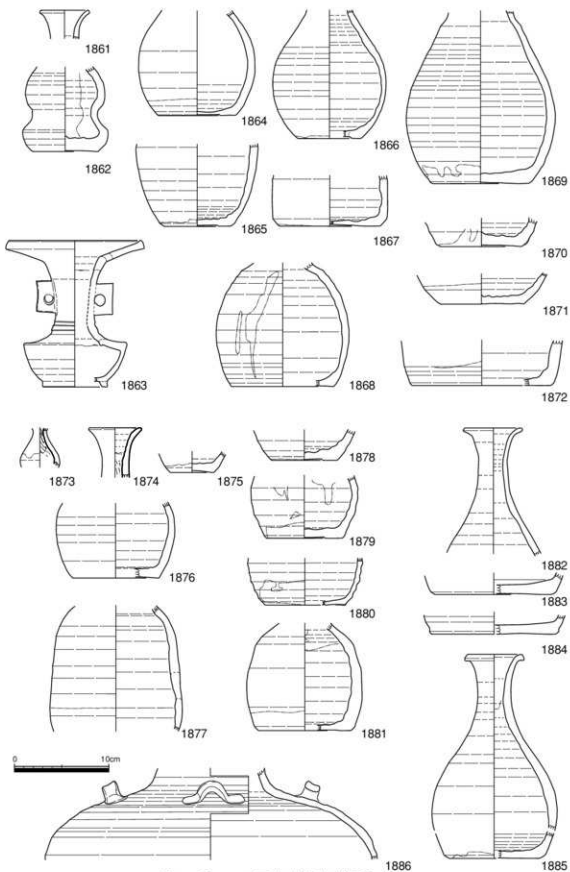
第 86 图 99B 区出土遺物実測図 (11)



第 87 图 99B 区出土遗物实测图 (12)



第88图 99B区出土遗物实测图(13)



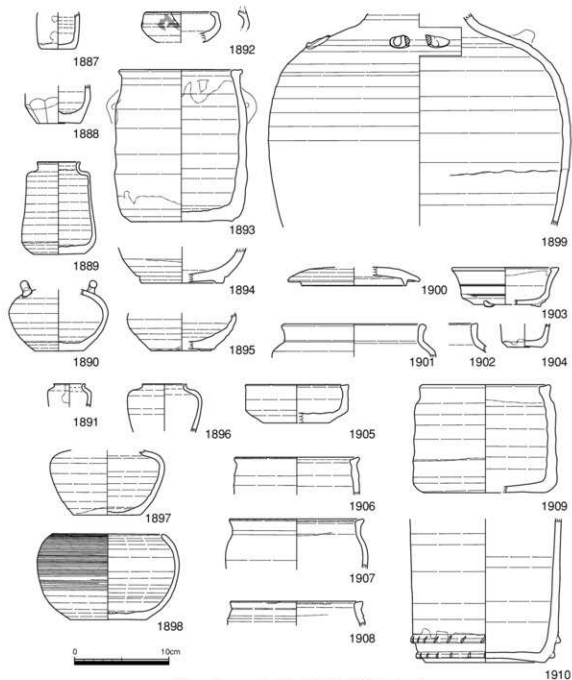
第89图 99B区出土遗物实测图(14)

類は登窯第1小期に属するものである。

(J) 筒形容器類 (第91・92図 1905～1921)

筒形容器類には建水、水指、緒桶、匣鉢などの器種があるが、破片では区分が難しい側面があるので、99A区と同様に、口縁部などの形状で区分する。口縁端部の上端に面を持つタイプ(1905・1913・1914・1917)と口縁端部が外側に折れるタイプ(1906・

1920)と口縁端面が斜めになるタイプ(1909・1912・1915・1916・1921)がある。1907と1908は口縁下部がやや括れ変型になるかも知れない。1909は紫色の錆釉が塗布された水指で下半部は露胎となっている。1910と1911は下半部に結桶のタガを模した突帯が巡る緒桶で鉄軸が施されている。1918と1919は片口部分で筒形容器の体部に別の粘土板で張り付けて作



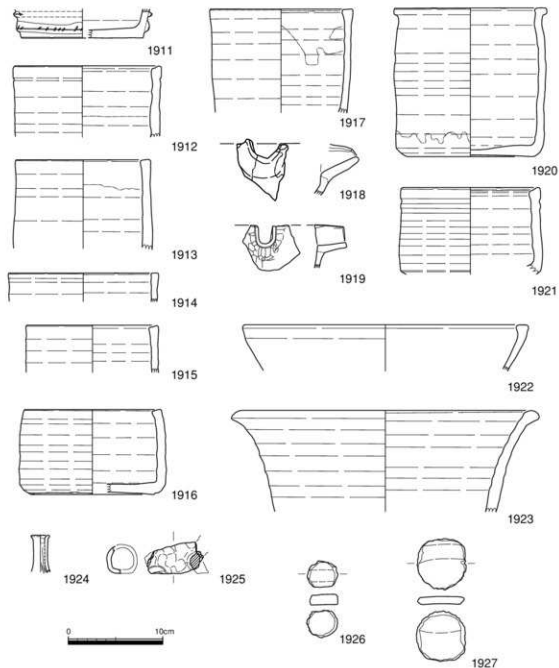
第90図 99B区出土遺物実測図(15)

られている。これらはおおよそ大窯第3～4段階に属するものである。

(K) 小形製品 (第91図1887～1891・1895～1897など)

小形製品には茶入、耳付水注などがある。1887と1888は口縁部が遺存しない茶入で、後者は底部が縦

方向にヘラケズリ調整が施されている。1889は鉄軸肩衝茶入で器壁が薄く作られている。登窯第1小期に属する。1891は灰釉に銅緑釉を流し掛けた茶入で、大窯第4段階後半に属する。1896は大窯第1段階に属する、99B区では古いタイプの茶入である。1890は耳付水注で内面に褐色付着物が残存する。



第91図 99B区出土遺物実測図 (16)

1897は底部外面に錆軸が施された鉄軸壺である。また、1873と1924は登窯第1小期に属する小瓶、1925は動物形を呈した水滴である。

(L) 大形製品 (第90図1861～1872・1876～1885など)

大形製品として一括したものには、徳利 (1861・1864～1872・1876～1885など)、祖母懷壺 (1886・1899)、花瓶 (1862・1863) などが存在する。99A区に比べると器種のバラエティーは少なく徳利が多い点が特徴となっている。

徳利の口縁部はラッパ状に開き、端部がそのまま丸められるもの (1861・1874・1882) とやや厚くなるもの (1885) がある。底部は平底で回転糸切痕が残存するもの (1876) と、平底で回転ヘラケズリ痕が残存するもの (1867～1872など) と、蛇の目高台状に削り出されたもの (1864～1866) に分けられる。1865は灰軸徳利で大窯第4段階に属する。1866・1868～1870・1879は灰軸が流し掛けられた鉄軸徳利、1867・1871・1872・1877・1880・1881は外面下部に錆軸が施された鉄軸徳利である。1882は外面も露胎となる焼締陶器徳利で大窯第3段階に属する。1885

は銅緑軸が施された大窯第2段階に属する徳利で内面は薄い錆軸が施されている。

花瓶は、瓢箪形を呈するもの (1862) と肩が著しく張り頭部に方形の板状耳が付くもの (1863) があり、両者とも錆軸が塗布されている。前者は大窯第3段階、後者は大窯第1段階に属するものである。1886・1899は大窯段階の祖母懷壺である。1893は紫色の錆軸が施された縦耳付口広有耳壺で、耳部は剥がれて欠損する。1898は内面は鉄軸が、外面は錆軸が施された無頸壺で、大窯第3段階の建水と考えられる遺物である。

(M) その他の製品 (第91・92図1900～1904・1926・1927)

これまでに報告されなかったものをここで紹介する。1900は錆軸が施された蓋で、茶釜の蓋と推測される。1901と1903は茶釜の口縁部と推測され、直立する口縁部は短くなっている。1902は沈線が2ヶ所巡る香炉であり、体部は外傾し大窯第3段階に属する。1926・1927は他の器種で作られた製品を転用したいわゆる加工円盤である。両者とも大形製品の破片を利用している。

B 土師器 (第93～97図 1928～2069)

99B区から出土した土師器は全部で5391点(接合前破片数)が出土した。これらは皿類、鍋釜類、その他の器種に大別ができる。このうち、皿類はロクロ調整土師器皿と非ロクロ調整土師器皿に区分できる。鍋釜類には内耳鍋、羽付釜、釜、焙烙などが存在する。その他の器種としては火鉢、火熨斗(フライパン)状製品、小壺、焼塩壺、形代(犬)、土鈴などがあげられる。

主要な器種別の出土量は接合前破片数で、ロクロ調整皿が2967点(土師器全体の中で約55%；以下同様)、非ロクロ調整皿が209点(約4%)、鍋釜類が2339点(約43%)となっている。従来の清須城下町の中の土師器の出土傾向と同様に、皿類と鍋釜類の主要2種の製品が多いことが分かる。ここでは器種別に遺物の紹介を進める。

(A) ロクロ調整皿 (第92図 1928～1976)

99B区出土のロクロ調整土師器皿については、99A区と同様に、かつて筆者が分類したA類からF類までの区分を援用して報告する。99B区出土資料は、99A区と同様に、E類が最も多く、次いでC類、F類の順で多くなっている。一方、A類とB類とD類は非常に少ない。

ロクロ調整土師器皿C類は次の5類に細分できる。

C1類は口径が10～12cmの規模で体部の腰が丸く張るものの口縁部が比較的直線的に開くタイプ(1928・1932など)である。C2類は口径が10～12cmの規模で体部の腰が丸く張り口縁部が比較的直立さみになるタイプ(1944・1945など)である。C3類は口径が10～12cmの規模で体部の腰が屈曲して口縁部が比較的直立さみになるタイプ(1935・1940など)である。このC1類～C3類は底部内面中央部が凹み、底部外周部分が肥厚するものである。器高や形状に着目すると、C1類→C2類→C3類と変遷したことが推測される。

ロクロ調整土師器皿E類は次の5類に細分できる。E2類は口径が10～12cmの規模で体部の腰が強く張り体部内面に弱い稜線を持つタイプ(1949・1955など)である。E3類は口径が10～12cmの規模で底部と体部の境界部分が屈曲し体部の内外面が凸凹

するタイプ(1952・1953など)である。これは内面に2～3条の弱い稜線が残るものである。E4類は口径が10～12cmの規模で底部と体部の境界部分が屈曲し体部が緩やかに少し外反するタイプ(1960・1971など)である。これらの分類は、形態の相違が暫時的であり明確には区分し難いものである。

ロクロ調整土師器皿F類は、体部の腰が屈曲して口縁部が逆ハの字状に開くタイプ(1973・1974など)がある。

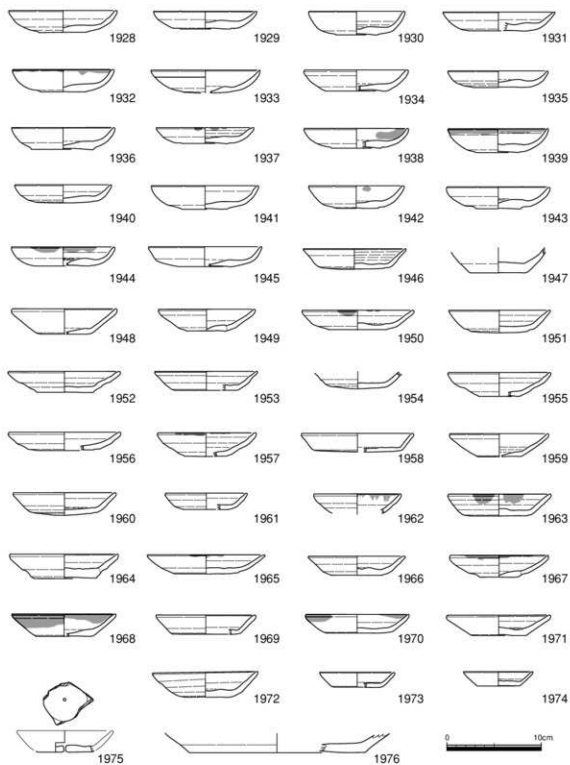
上記のタイプ以外のものには次のようなものが存在する。1947は口縁部が遺存しないが、底部が厚く体部に向かって屈曲するものである。1958は薄作りで体部は比較的急に立ち上がり器高が低いものである。1975は口縁部が遺存せず形状は不明であるが、底部中央に焼成後の穿孔が認められる。1976は底径が推定で19.0cmに及ぶ特大の土師器ロクロ調整皿である。

ロクロ調整土師器皿の概要をまとめると、A類とB類が少なく、C類とE類が多いことからみて時期的には城下町中期が主体となる。また、使用痕に着目すると3割程度の資料についてタールが付着した痕跡を見ることができ、相当量の皿が灯明皿として使用されていたと思われる。

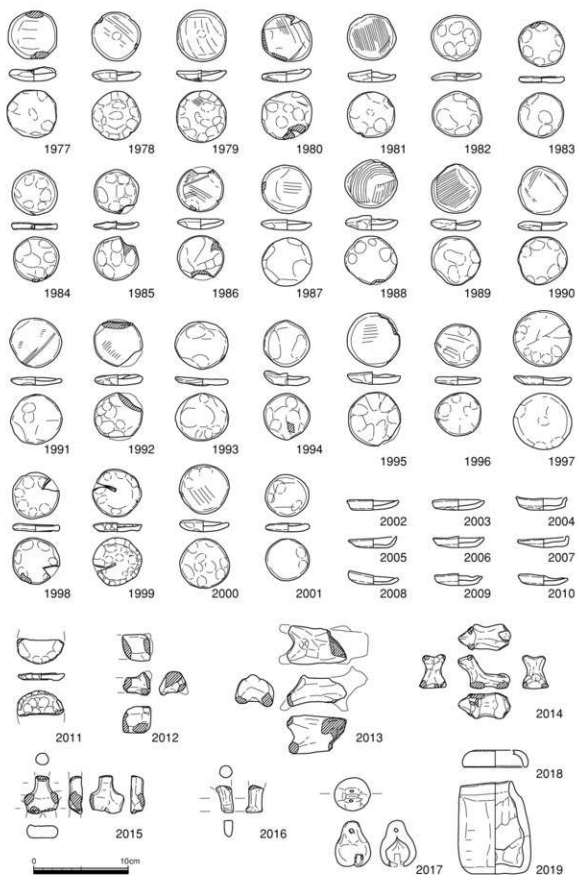
(B) 非ロクロ調整皿 (第93図 1977～2011)

一方、非ロクロ調整土師器皿には、体部(口縁部)を横ナデで立ち上げるもの(2002～2010)、体部(口縁部)を連続する指オサエで立ち上げるもの(1999など)、横ナデによる体部(口縁部)の立ち上げが無く内面にナデ調整などを施してわずかに凹ませるもの(1977～1982など)、体部を全く立ち上げない円盤状のもの(1983・1984・1998)の4種類が存在する。前三者は「清洲城下町遺跡V」(鈴木編1995)の非ロクロ調整土師器皿分類で、各々A類、C類、D類に対応するものであり、後者のものは今回新たに分類したタイプで、ここでは非ロクロ調整土師器皿F類と仮称する。A類とC類とF類はわずかに存在する程度で、大半(約7割)はD類が占めている。

さて、非ロクロ調整土師器皿D類は調整のあり方でいくつかに分類が可能である。1類は指または掌で内面を一方にナデ調整されるもの(1977～1981



第92图 99B区出土遗物实测图(17)



第 93 图 99B 区出土遗物实测图 (18)

など)である。ナデ始めの部分がやや強めに押さえるために凹むものが多く、ナデ調整の痕跡は10数条の細かい条線として残されている。外面には指などの圧痕が残るものが大半を占め、指オサエ痕が口縁部に近い部分に環状に巡る形となっているもの(1978など)が多い。2類は内面に指オサエ痕が口縁部に近い部分に環状に巡る形となっているもの(1982・1985など)である。なお、D2類のタイプの土師器皿で、体部を上立ち上げなくなるものが、先の分類のF類に相当すると考えられる。非ロクロ調整土師器皿F類は、円盤状の粘土板の外周側面に指オサエ痕が環状に巡っており、裏表の判別が難しいものである。F類はD類がさらに退化してできた製品と考えられ、城下町期最末期に位置付けられる資料と想定される。

(C) 鍋釜類 (第94～96図2020～2069)

鍋釜類には内耳鍋、羽付鍋、焙烙、羽付釜、羽無釜など主要な器種が存在する。各器種の出土量は内耳鍋が67点、羽付鍋が1点、焙烙が224点、釜が113点、器種不明の体部片が1725点であり、焙烙が最も多く、内耳鍋が意外と少ない。ここでは主要な器種ごとに記述を進める。

内耳鍋(2020～2028)は半球形内耳鍋(鈴木1996)に属するものばかりであり、3類に細分ができる。1類は体部から口縁部にかけてほとんど直立しながらやや開くタイプ(2020・2021)である。1類は口縁端部の断面形が方形となっており、半球形内耳鍋の中で古いタイプである。2類は体部から口縁部にかけて内彎しながら内側に傾くもの(2022・2024～2027)で、口縁上端面をやや強く横ナデ調整するためにわずかに凹んでいる。3類は体部から口縁部にかけてほとんど直立しながら立ち上がり、口縁上端面をやや強く横ナデ調整するためにわずかに凹んでいるもの(2023・2028)である。

釜には羽付釜(2053)と羽無釜(2057)がある。羽付釜は口縁部が遺存する資料に恵まれなかったために全体の形状は不明である。2053は鈔の状態からみて、鈔端面が横ナデ調整によって広がっており16世紀中頃と思われる。羽無釜(1358)は体部に至る屈曲部分がなだらかとなっており、肩部に板状の耳が

付く。

口縁部が残存する釜類では、その形状から5類に分類できる。1類は口縁部が直立し高く立ち上がっているもの(2049～2051・2059・2069)、2類は口縁部がわずかに内傾するが高く立ち上がるもの(2052・2060)である。3類は内傾する口縁部が低くなり口縁端部が断面方形となるもの(2054・2056～2058・2061～2063・2065～2068)、4類は内傾する口縁部が低くなり口縁端面が斜になるもの(2055)、5類は直立する口縁部の器壁が厚く端部が丸まるもの(2064)である。口縁部と体部の接合部分の屈曲の度合いからみて1類→2類→3類→4類と変遷すると推測される。

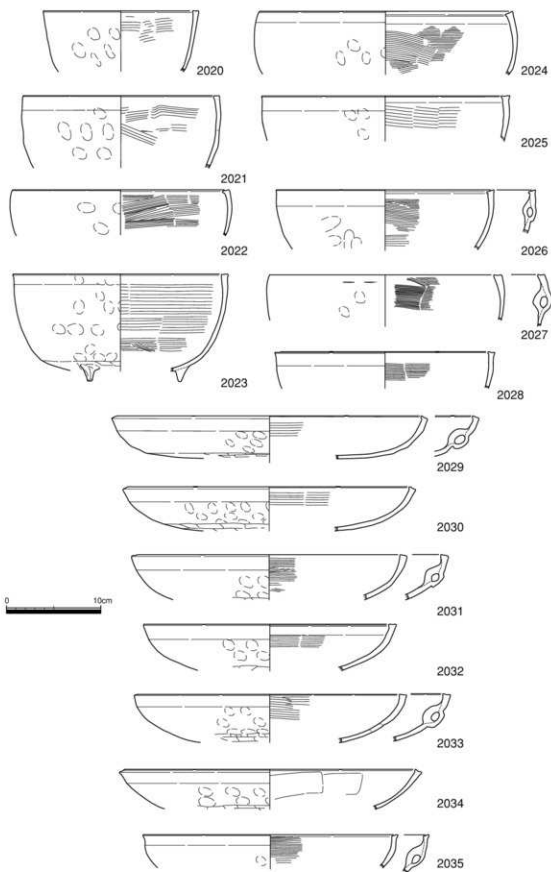
焙烙は4類に分類でき、1類は丸底の底部に逆ハの字状に開く口縁部が付き口縁部上端面が水平となるもの(2032・2033など)、2類は丸底の底部に逆ハの字状に開く口縁部が付き口縁部上端面が斜めに外傾するもの(2029～2031など)である。これらは16世紀後葉から17世紀初頭に位置付けられるものである。

(D) その他の製品 (第93・97図2012～2019・2070～2075)

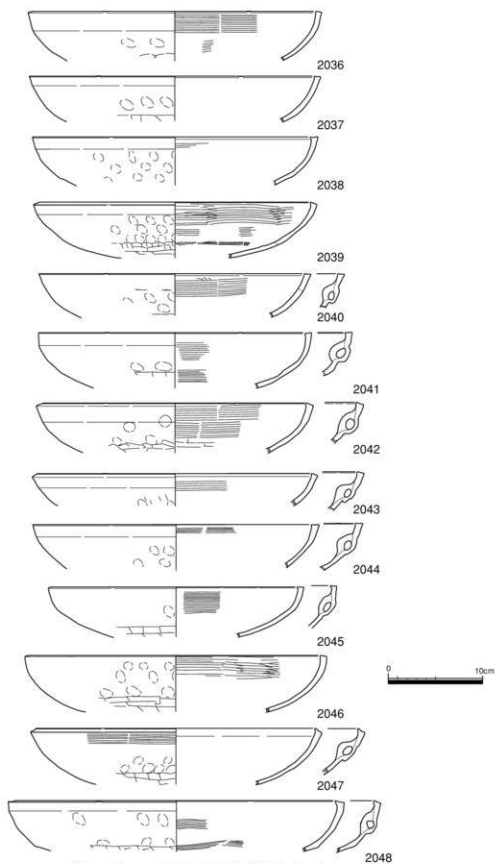
火鉢(2070～2072)は口縁部が外側に屈曲する浅鉢状に中空の三足が付くもので、2070は折り曲げられた口縁部に複数の孔が開けられている。火闘斗状土器(2073～2075)は浅鉢状の杯部に円筒形の柄部が付くものである。焼塩壺には蓋と身がある。2018は手づくね成形による焼塩壺蓋と推測され、2019は手づくね成形による焼塩壺身で全体が大きく歪んでいる。内面は被熱痕が認められ、口縁部外面は横ナデが施されている。2012～2014は犬形の形代で、脚部や頭部などが欠けているものである。2015と2016は人形の形代と考えることができる土製品である。2015は人形だとすれば頭や両手、両足が欠損した胴体部分となる。2016は同様に脚部と推測される。

C 常滑窯産陶器 (第97図2076～2089)

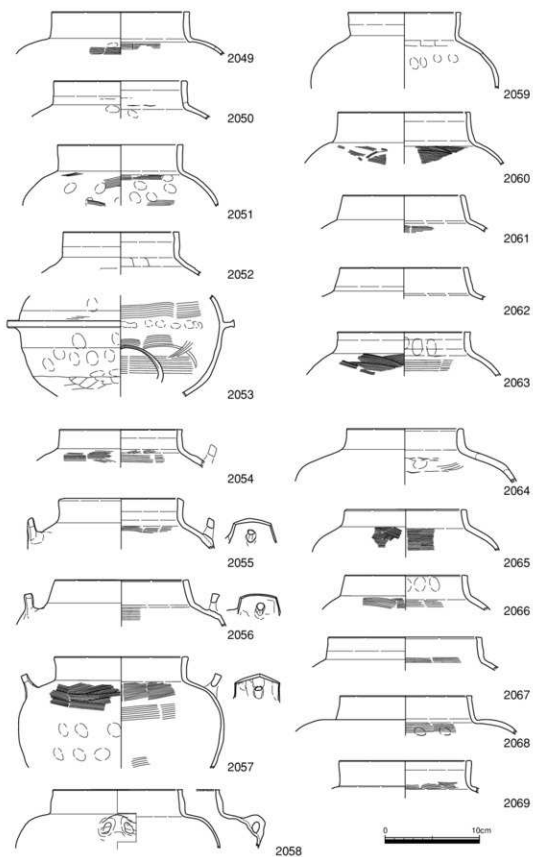
99B区からも常滑窯産陶器が出土しており、器種は壺、甕、鉢などがある。焼成の状態から、胎土が黒灰色などを呈する焼き締められた真焼製品(2076・2077・2079～2081・2085・2087～2089)と



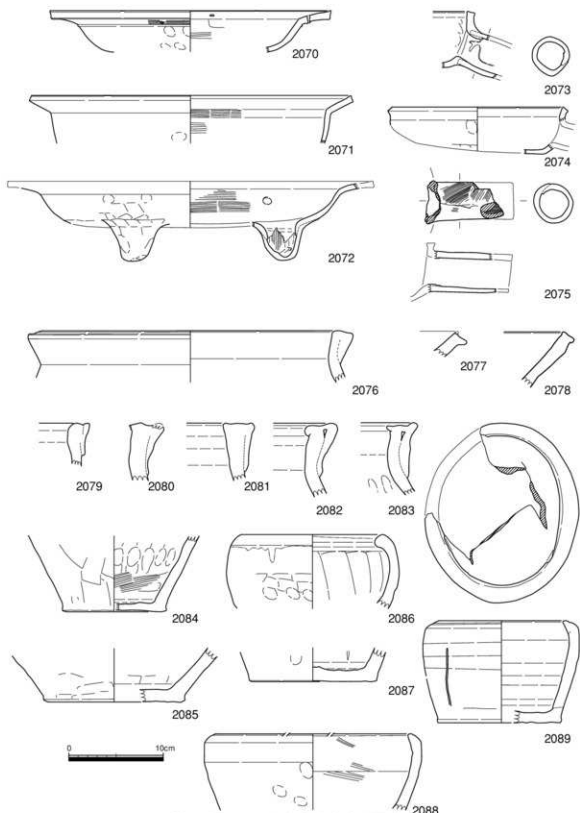
第94図 99B区出土遺物実測図(19)



第95図 99B区出土遺物実測図(20)



第96図 99B区出土遺物実測図(21)



第97図 99B区出土遺物実測図(22)

胎土が橙色などの明るい色を呈する焼成温度が低い赤陶製品(2078・2082～2084・2086)に区別される。

壺の口縁部にはいくつかの形状が認められる。1類は折り返された口縁部の緑帯が体部に張り付いたもので、上端面の内側部分が大きく丸まるもの(2079)である。2類は緑帯が体部に張り付き上端面がほぼ平坦になるもの(2076・2081)である。3類は緑帯が張り付き上端面が平坦で上端部の内側が突帯状に張り出すもの(2080・2082・2083)である。張り付けられた緑帯は高くなっている。これらは形状からみて、1類から順に3類に変化していったものではないかと想定され、赤羽中野福年との対応関係は1類が10型式くらい、2類が11型式くらい、3類が12型式くらいに相当すると考えられる。

壺には頸部がない無頸壺が存在する。口縁部の形状から、口縁部先端が尖るもの(2088・2089)と先端が丸められるもの(2086)に分けられる。2089は平面形が楕円形に歪み、外面に縦方向の沈線が施されている。鉢は口縁端部が断面方形になるもの(2077・2078)が認められる。

この他に器種が特定できない底部の破片を一部図化した。2084・2085・2087は底部に砂目痕が残るものである。

D 中国産陶磁器(第98・99図2090～2127)

中国産陶磁器はその出土量はあまり多くなく、青磁と白磁と青花が認められる。

(A) 青磁

中国産の青磁には棧花皿(2101・2127)などが認められる。これは龍泉窯系の地方窯産の青磁と考えられる。2127は本遺跡では珍しく完形の状態で出土した。

(B) 白磁

中国産の白磁には端反皿(2091～2097など)、棧皿(2100)、小杯(2090)、丸皿(2099)などがある。2090・2093～2100は胎土が緻密で白色を呈しており器壁も薄手であることから、景德鎮系白磁と考えられる。2091と2092は白色の胎土を持ち、底部の厚さが厚いものである。高台は断面方形となる。2092は内面が輪壳となっている。

(C) 青花

青花は大きく碗と皿と大皿などの器種が存在する。出土量は碗や皿類が多く、その他の器種は非常に少ない。これらの産地については、99A区出土資料で記述したようにいくつかの系統に細分できると思われるが、基本的には胎土が緻密で白色を呈しコバルトの発色も鮮やかな青色となる景德鎮窯系と、胎土が粗めで黄色味がかりコバルトの発色も鈍い紺色となる漳州窯系とに大別する。ここでは器種毎に記述を進めていきたい。

青花碗は口縁部がやや直立するもの(2102～2105)とやや開くもの(2106)があり、後者は漳州窯系青花である。2108と2110は底部が盛り上がる饅頭心碗である。2107・2109は小杯で、後者は外面が五彩となっている。

青花皿は5類に分類できる。1類は口縁部が大きく外反するもの(2111・2113・2118など)、2類は口縁部が内彎して立ち上がるもの(2114・2119・2121)である。1類と2類は器壁が薄く高台の内側がシャープに挟られているものが多い。3類は底部が萐筒底となるもの(2112)、4類は口縁部が屈曲して横に広がるもの(2117)である。5類は漳州窯系青花の丸皿(2122～2124)である。

2125は景德鎮窯系青花の大皿で、口縁部が外折して開くもの、2126は漳州窯系青花の大皿である。

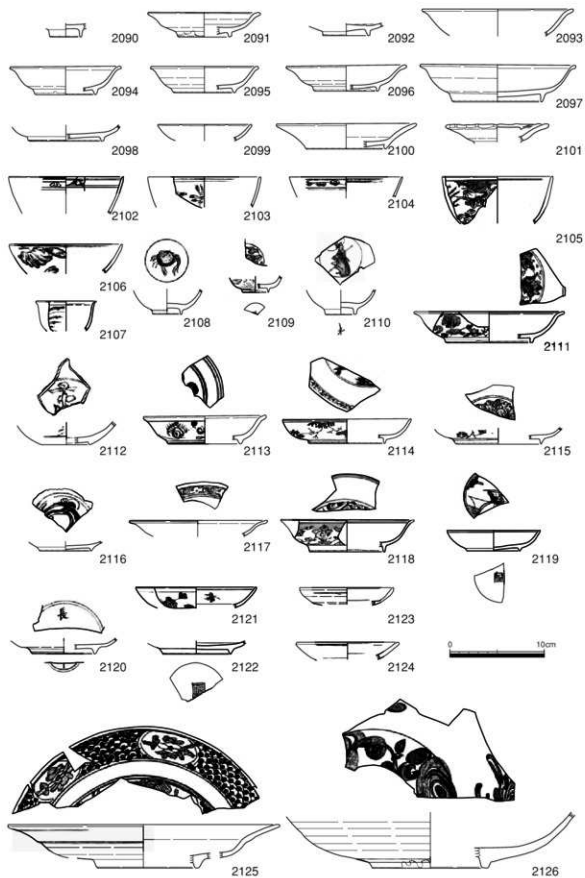
E 朝鮮王朝産陶磁器(第99図2128～2130)

朝鮮王朝産陶磁器には、陶器の碗と鉢が出土した。2128と2129は碗で内面に重ね焼きのための目跡が残存する。2130は赤灰色の胎土で口縁部を水平に折り曲げる鉢状の製品である。産地は確定できないが、表面には透明釉が施されており、朝鮮王朝陶器と推定した。

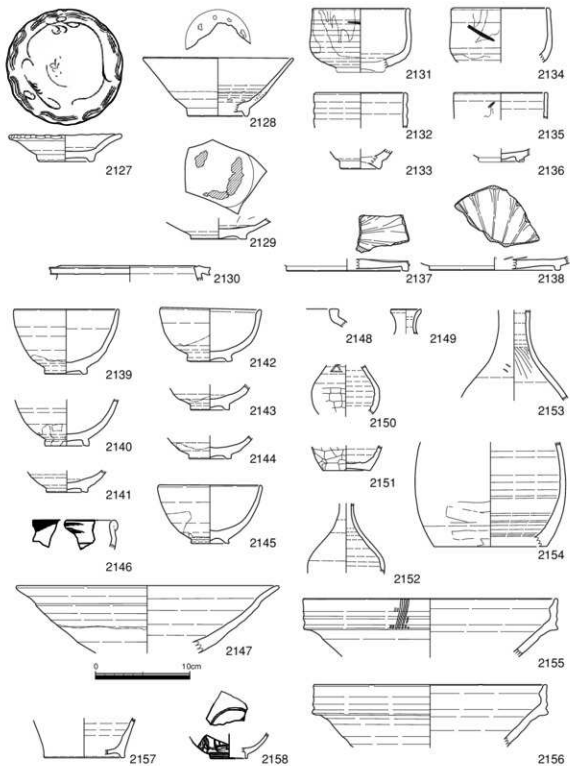
F 唐津(肥前)窯産陶器(第99図2139～2147)

唐津窯産陶器は灰釉が施された丸碗が大部分を占めており、その他の器種は非常に少ない。

丸碗は腰部が丸みを帯びて立ち上がり内彎しながら口縁部に至るもの(2139～2145)である。高台は削り出されており、藁灰釉は底部外面を除く全面に掛けられている。釉薬の発色は透明な光沢を持つものと白味がかかる光沢のないものがある。



第98图 99B区出土遗物实测图(23)



第99图 99B区出土遗物实测图(24)

その他の器種としては、2146の鉄絵が施された香茶碗と2147の平鉢が存在する。前者は焼成が良好である。これらは16世紀後葉から17世紀前葉に位置付けられ、城下町期Ⅲ期に属する資料と考えられる。

G 楽系窯産陶器 (第99図2131～2138)

軟質で鉛釉が施された楽系窯産陶器は碗と菊花皿が存在する。

2131と2134と2135は橙色の胎土に、外面は白色粘土による白化粧の後に鉛釉を施し緑釉を流しかけ鉄絵らしき紋様が存在し、内面は茶色または黒色に発色した釉が施された筒形碗である。2132と2136は内外面とも黒色に発色する鉛釉が施されたいわゆる黒楽茶碗である。2137と2138は内面全体に菊花紋が表現される軟質施軸陶器で黄色に発色する鉛釉が施されている。産地は確定できないが、ここでは楽系窯産陶器として報告する。胎土は白っぽく緻密ではない。

H 備前窯産陶器 (第99図2149～2156)

99B区出土の備前窯産陶器は搦鉢、徳利、小瓶などがある。胎土は灰色から灰赤色を呈しており、焼

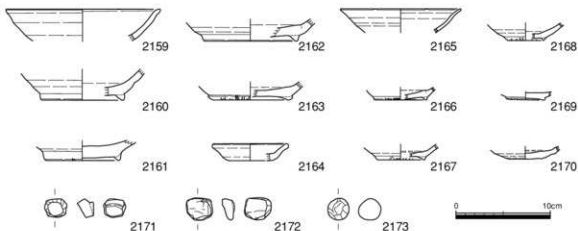
成は堅緻である。2149～2151は小瓶で、2150の肩部には「△」の刻紋が存在する。2152～2154は徳利、2155と2156は搦鉢である。2155は口縁部外面に櫛目が見られるものである。これらの遺物は99A区と同様16世紀後葉から17世紀初頭までくわいの時期が考えられよう。

I 信楽窯産陶器 (第99図2148)

2148は信楽窯産陶器と思われる口縁部で、壺または筒形容器の破片と考えられる。

J 城下町期以外の土器・陶磁器 (第99・100図2157～2173)

宿場町期の遺物は、上記以外に肥前窯産磁器などがある。2157は白磁瓶類、2158は染付丸碗である。城下町期よりも前の時期の遺物には須恵器や山茶碗類(2159～2170)などが出土している。山茶碗類は尾張型と東濃型の二者があり、時的には藤澤良祐編年の第4型式から第11型式まで存在する。2171と2172は尾張型山茶碗の底部を利用したいわゆる加工円盤、2173は山茶碗類の陶丸である。



第100図 99B区出土遺物実測図(25)

	r	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p
9								1			
10						11	40	162	123	45	
11		99A区				30	915	224	153	10	
12						97	2348	152	176		
13						289	1228	356	88		
14						70	1190	907	50		
15						229	540	1240	88		
16						68	339	682	83		
17											
18											
19											
20											
1		99B区									
2					2	6	19	11			
3					58	130	318	41			
4			33	231	277	1087					
5		4	117	165	1246	874					
6			253	427	667	708					
7			31	26	259	203					
8			8	15	34	6					
9			8	182	461	445					
10			10	25	168	59					
11			62	16	38						
12		5	103	594	69						
13			26	228							
14				6							
15											

凡例

方眼の1マスは、平面垂直座標Ⅶ系によって設定された5mグリッドを示す。

マスの中の数値はそのグリッドから出土した陶磁器・土器類の総破片数を示したものである。

第101図 99A・B区出土分布図

(Ⅲ) 瓦類

1 概要と分類の方法

瓦類は96区で検出された石垣の前面を中心に大量に出土しており、27リットル入りコンテナにして約800箱が出土した。96区の下層に相当する97C区や、96区の対岸に当たる97B区からも一定量の瓦類が出土し、95A・B区や99A・B区では若干量が出土している。これらの膨大な瓦類を整理、報告するために、下記のような方法を採用した。この方法は、報告書「清洲城下町遺跡Ⅶ」（鈴木編1997：以下同様）で実施した方法を一部簡略化したものである。

(1) 瓦を大分類で類別する

全瓦類を軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦（軒丸瓦を除く）、平瓦（軒平瓦を除く）、飾瓦、道具瓦、古代瓦、近世棧瓦などに区分した。整理の方法はこの類別によって異なっている。

(2) 軒丸瓦・軒平瓦の分類

軒丸瓦と軒平瓦は瓦当面の紋様によって細分する。清須城関連の軒瓦の分類は、小澤一弘が行った分類と、これを受けて鈴木とよ江が実施した分類と、報告書「清洲城下町遺跡Ⅶ」で筆者が実施した分類の3種が存在する。前二者の分類は名古屋環状二号線建設関連の発掘調査で出土した資料を用いているのに対し、後者は94A区から出土した資料を中心に用いた点が異なっている。今回取り扱う資料は、94A区に隣接する96区が大部分を占めていることから、報告書「清洲城下町遺跡Ⅶ」で筆者が実施した分類に依拠するのが妥当であり、これに若干の補足、修正作業を行うこととした。具体的な分類の手法は瓦当面の規模で大別した後に、紋様構成、同紋関係、同范関係を検討して細別する方法である。この分類結果は第2、3項で詳述する。次にこの分類結果をもとに、全軒瓦を類別し各種のデータを接合後破片1点ずつ記録した（付表）。各データの詳細な内容は、報告書「清洲城下町遺跡Ⅶ」を参照されたい。

(3) 丸瓦のカウント方法

丸瓦は、筒部の厚さや調整痕などによる類別毎に、破片数、重量、隅数、端面の長さを算定することを目的とした。具体的な方法は以下の通りである。

丸瓦1点（簡易な接合作業後）につき1データを記録する。記録する内容は、a出土情報（調査区、グリッド、遺構、日付）、b筒部左長、c筒部右長、d筒部頭長、e玉縁部幅、f筒部尻長、g隅数、h筒部厚さ、i筒部径、j重量、k接合前破片数、lコビキの種類、m備考の13項目である。次に収集したデータをコンピューターに入力し、最後に表計算ソフトを用いて集計した。以下に、各項目の概略を補足説明する。

b筒部左長、c筒部右長、d筒部頭長、f筒部尻長は、筒部端部の残存する長さを記録する。筒部左長と筒部右長が区別できない場合はその数値をb筒部左長に記録した。

e玉縁部幅は、玉縁部頭の端部の残存する長さを記録する。

g隅数は、尻小口面両端部の隅の数（最大で2個）を記録する。

h筒部厚さは、玉縁部付近を除く筒部の中で最大の厚さを記録する。

i筒部径は、筒部の直径を11cm以下、13cm、15cm、17cm、19cm以上の5段階に区分して記録した。測定方法は、大きめの型枠に各々直径が13cm、15cm、17cmの半円形を切り抜いた型紙を作成し、筒部の外周に型枠を当てはめ比較的合致する直径のものを筒部径として記録する。

j重量は、10g単位で記録する。

lコビキの種類は、粘土塊から粘土板を成形する際の切断方法による区分で、コビキA手法とコビキB手法がある。コビキA手法は糸を張った弓状工具を使用して切断する方法で、痕跡としては斜め方向の緩弧状の並行する筋が残存する。コビキB手法は鉄線張った張力の強い工具を使用して平行に切断

する方法で、痕跡としては小口に並行する直線状の筋が残存する。

(4) 平瓦のカウント方法

平瓦も、丸瓦と同様に、厚さなどによる類別毎に、破片数、重量、隅数、端面の長さを算定することを目的とした。具体的な方法は以下の通りである。

まず、平瓦1点(簡易な接合作業後)につき1データを記録する。記録する内容は、a出土情報(調査区、グリッド、遺構、日付)、b左長、c右長、d頭長、e尻長、f隅数、g厚さ、h重量、i接合前破片数、j備考の10項目である。次に収集したデータをコンピューターに入力し、最後に表計算ソフトを用いて集計した。以下に、各項目の概略を補足説明する。

b左長、c右長、d頭長、e尻長は、各端面の残存する辺の長さを記録する。左右または頭尻の区別ができない場合は各々b左長またはd頭長の部分に記録した。

2 軒丸瓦

(1) 分類の方法

軒丸瓦と分類できたものは96区で2183点、97C区で16点が出土した。この中で瓦当面が残存しある程度瓦当面の紋様が特定できるものが1293点存在する。ここでは瓦当面の紋様構成から分類を行い、その類別毎に特徴を記述する。

清須城出土軒丸瓦の分類は、大きく小澤・鈴木分類(小澤1987・鈴木1990)と『清洲城下町遺跡Ⅱ』分類(鈴木1997)の二者が存在する。両者の分類の相違は、分析対象資料が前者は清須城城郭北部に相当する名古屋環状2号線関連の調査出土資料、後者は清須城城郭東部に相当する河川改修関連の調査出土資料と異なっていること、および分類における大別の視点が異なっていることに起因する。今回使用する分類方法は、対象資料が清須城城郭東部に相当する調査地点の出土資料であることから、後者の方法を採用することとした。

分類の方法は、以下の方針に則り実施した。

f隅数は、四隅の数(最大で4個)を記録する。

g厚さは、鱗部・棧部・水返し部などの突出部を除く最大の厚さを記録する。

h重量は、10g単位で記録する。

(5) 飾瓦・道具瓦等のカウント方法

飾瓦・道具瓦などのカウントは、分類別に破片数と重量を算定することを目的とした。カウントの方法は以下の通りである。

まず、飾瓦や道具瓦をあらかじめ設定した分類に従って区分し、各破片に通番を付けた。次に瓦1点(簡易な接合作業後)につき1データを記録する。記録する内容は、a出土情報(調査区、グリッド、遺構、日付)、b種別、c分類、d外周長、e隅数、f厚さ、g重量、h接合前破片数、i備考の9項目である。そして収集したデータをコンピューターに入力し、最後に表計算ソフトを用いて集計した。なお、種別や分類の具体的な内容は各報告を参照されたい。

A 瓦当面径による大分類

今回出土した軒丸瓦の瓦当面径はおおよそ、直径17cm前後、直径15～16cm、直径13～14cm、直径10cm前後の4類に区分できる。この瓦当面径による大別は瓦当面周縁幅が異なる場合があるために範の規模と必ずしも一致しないが、おおよそ丸瓦部の規模と連動すると考えられる。ここでは瓦当面径の規模の大きいものから順にそれぞれ100番台、200番台、300番台、400番台と名付ける。

B 紋様構成による中分類

次に、紋様構成に着目すると桐紋のみで構成されるもの、左巻三巴紋に珠紋20個を配するもの、左巻三巴紋に珠紋16個を配するもの、左巻三巴紋に珠紋12個を配するもの、左巻三巴紋に珠紋8個を配するもの、右巻三巴紋に珠紋12個を配するもの、左巻三巴紋に珠紋15個を配するもの、左巻三巴紋に珠紋17個を配するものに区分できる。『清洲城下町遺跡Ⅱ』分類に比べると後二者が新たに発見されたものである。この段階の分類は意匠が類似するという意味で

「近似意匠瓦」に位置付けられよう。上記の紋様型式を、順に00番台、10番台、20番台、30番台、40番台、50番台、60番台、70番台の型式名を与える。

C 同紋及び同范関係による細分類

次に、同じ瓦当面径で同じ紋様構成のものの中で、桐紋や巴紋の形状の相違あるいは珠紋の配置の相違などから同紋関係の軒丸瓦を類別する。この類別によって同類とされたものは、基本的に同じ型紙による范型によって製作された軒丸瓦群を示していると推測される。また同紋関係の軒丸瓦のうち、范傷などから同范関係が判明するものや范が明白に異なるものについてはさらに細分が可能である。

「清洲城下町遺跡Ⅶ」では同紋関係の小分類を1桁台の数値で命名し、同范関係の細分類を小文字アルファベットで表現することを試みた。そして、このような瓦当面径、紋様構成、同紋関係、同范関係という階層的な分類方針から得られた型式名をM121a型式などの呼び方で表記した。

この結果、M120型式群などについてはある程度整備された分類体系を構築することができた。しかし最も出土量が多いM340型式群については暫定的に4類に分類したが、決して十分な分類体系を得ることができなかった。今回取り扱う軒丸瓦類は「清洲城下町遺跡Ⅶ」よりも点数が多い上に、資料の出土地点からみて「清洲城下町遺跡Ⅶ」の資料も加えて検討する必要があるため、数量が多く分類結果も複雑化したため、結果的に筆者の力量では十分な分類体系を構成することができなかった。したがって、今回の報告では、大分類と中分類による整理に記述を止めざるを得なくなったことをご容赦願いたい。

(2) 資料の紹介

A M101型式 (桐紋軒丸瓦: 第102図2174～2177)

瓦当面径が約17cmで、紋様構成は五七桐紋のみを配置するものである。今回の調査では5点が出土した。五七桐紋は、枝が短く花蕾は丸みを帯びた唐花の花弁形となっていることから、「清洲城下町遺跡Ⅶ」と同様に黒田分類のAⅡa (黒田1993)に属すると推測される。丸瓦部裏面が残存するものが1点

存在するが、これにはコビキB手法の痕跡が認められる。

B M121型式 (左巻三巴紋に16珠紋軒丸瓦Ⅰ類: 第102図2178～2181)

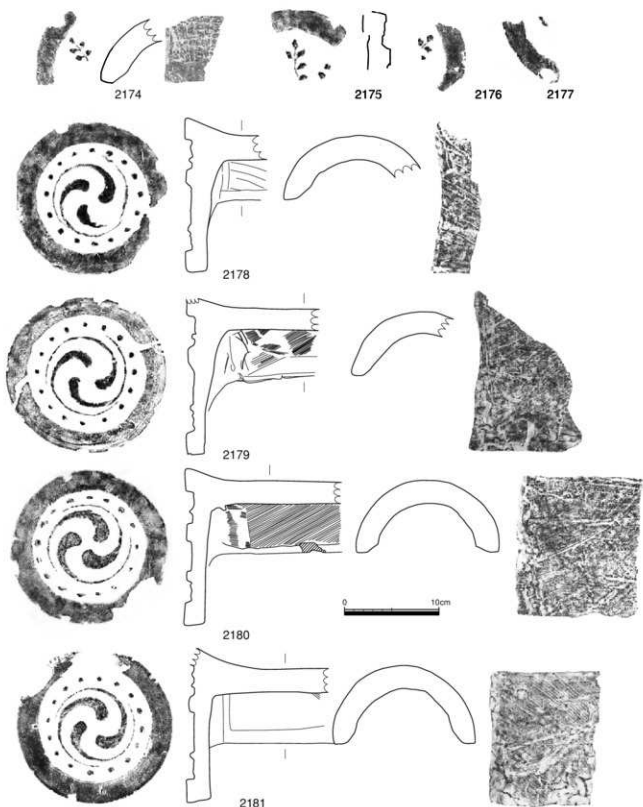
瓦当面径が約17cmで、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を16個配置するものである。巴の形状が全体としてなだらかとなっており、特に巴の内側外縁線が弧状になり先端が尖っているものである。圏線は持たず、珠紋が平面形と高さともに大きい。今回の調査では77点が出土した。丸瓦部裏面の調整痕にはコビキAとBの両手法の痕跡が認められるが、コビキA手法が大半を占める。また、丸瓦部内面に棧を持つものも1点確認された。「清洲城下町遺跡Ⅶ」では范傷や巴紋の間隔や珠紋の位置関係などから3型式に細分したが、この区分で全てを整合的に分類することができなかった。ただし、M121a型式と同様の范傷を有するものは今回でも確認される。

C M122型式 (左巻三巴紋に16珠紋軒丸瓦Ⅱ類: 第103・104図2182～2187)

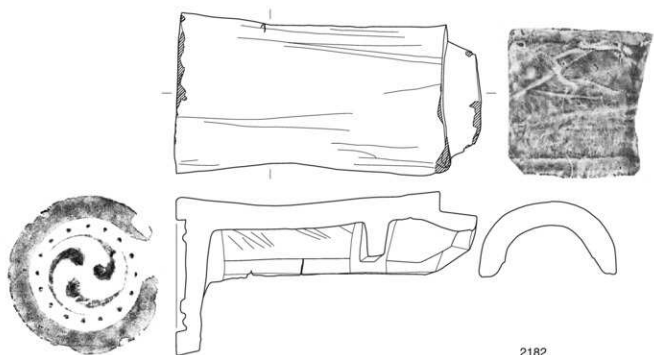
瓦当面径が約17cmで、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を16個配置するものである。巴の形状が円形の体部に尾部が取り付くような形となっており、巴の内側外縁線が鋭角に屈曲している。圏線を持たず、珠紋が平面形と高さともに大きい。今回の調査では98点が出土した。丸瓦部裏面の調整痕にはコビキAとBの両手法の痕跡が約半々で認められる。また、丸瓦部内面に棧を持つものが2点確認された。「清洲城下町遺跡Ⅶ」では巴紋の形状や珠紋の位置関係などから3型式に細分したが、この区分で全てを整合的に分類することができなかった。

D M123型式 (左巻三巴紋に16珠紋軒丸瓦Ⅲ類: 第104～105図2188～2192)

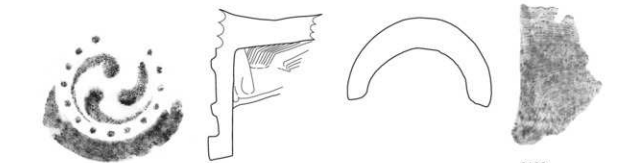
瓦当面径が約17cmで、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を16個配置するものである。巴の形状がM121型式と同様に全体としてなだらかとなっており、圏線は持たない。外区の幅が比較的広く、珠紋が小振りである。今回の調査では111点が出土した。丸瓦部裏面の調整痕にはコビキA手法の痕跡のみが認められる。「清洲城下町遺跡Ⅶ」では巴



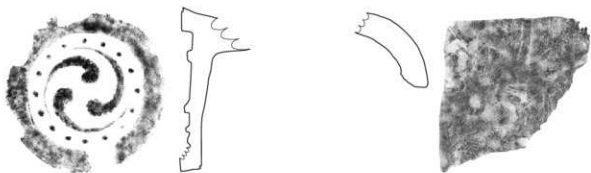
第 102 图 軒丸瓦实测图 (1)



2182



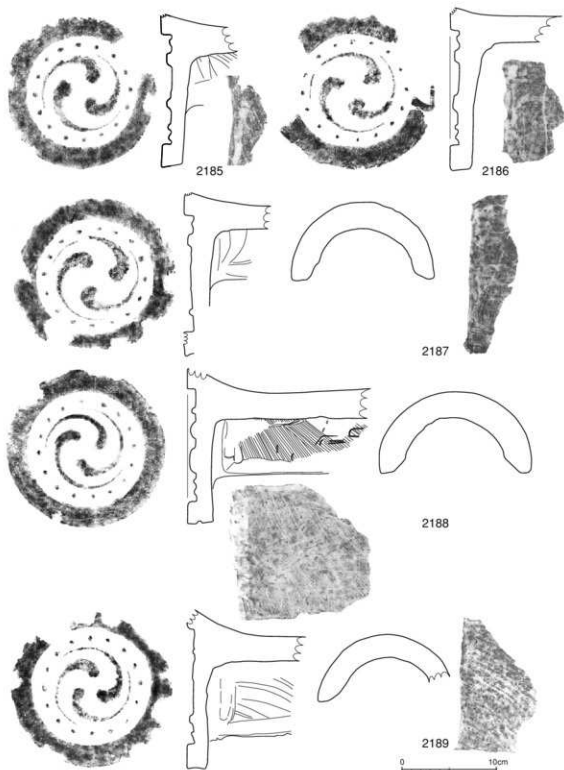
2183



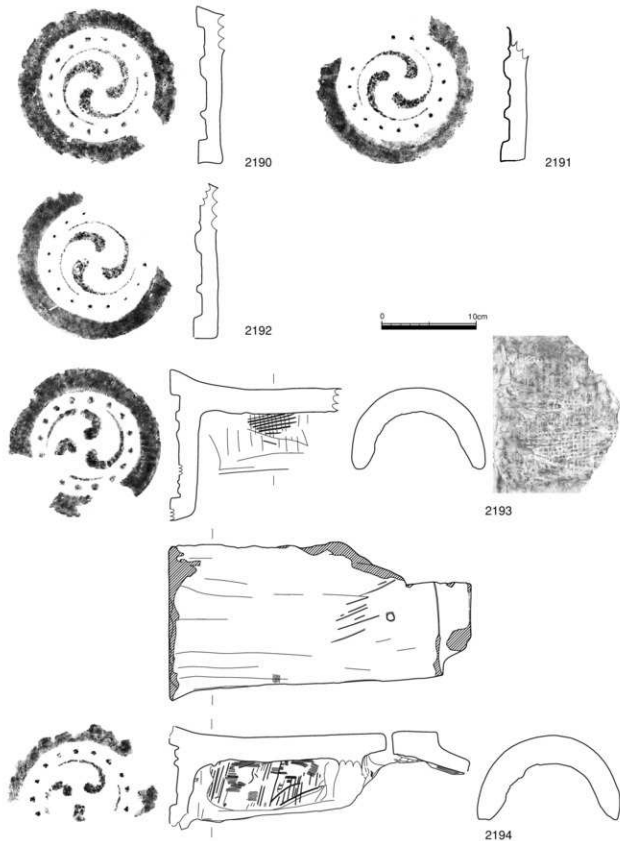
2184

0 10cm

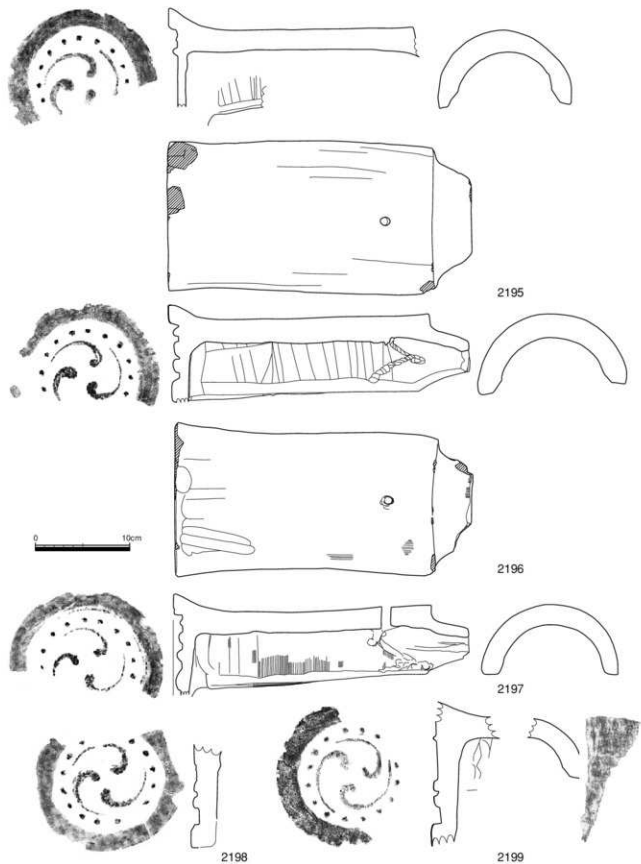
第103图 軒丸瓦実測図(2)



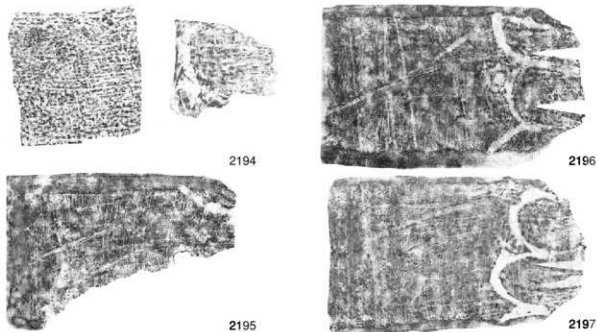
第104図 軒丸瓦実測図(3)



第105图 軒瓦瓦实测图(4)



第106図 軒丸瓦実測図(5)



第107図 軒丸瓦実測図(6)

紋や珠紋の位置関係などから2型式に細分したが、この区分で全てを整合的に分類することができなかった。

E M124型式 (左巻三巴紋に16珠紋軒丸瓦4類：第105～111図2193～2212)

瓦当面径が約17cmで、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を16個配置するものである。巴の形状がM122型式と同様に巴の内側外縁線が鋭角に屈曲している形となっており、三巴紋どうしの間隔が比較的広い。圏線は持たず、珠紋は大振りである。今回の調査では198点が出土した。丸瓦部表面の調整痕にはコピキAとBの両手法の痕跡が認められるが、コピキB手法が49点と大半を占めている。また、丸瓦部内面に棧を持つものが5点、孔を持つものが10点確認された。「清洲城下町遺跡Ⅶ」では巴紋や珠紋の位置関係などから2型式に細分したが、この区分で全てを整合的に分類することができなかった。

F M131型式 (左巻三巴紋に12珠紋軒丸瓦1類：第111図2213・2214)

瓦当面径が約17cmで、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を12個配置するものである。巴の尾部がやや細く、巴の内側外縁線が弧状に緩やかに

カーブする。圏線は持たず、珠紋の高さが低い。今回の調査では5点が確認されたが、丸瓦部表面の調整痕を観察できる資料は認められなかった。

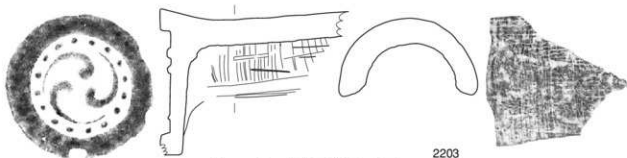
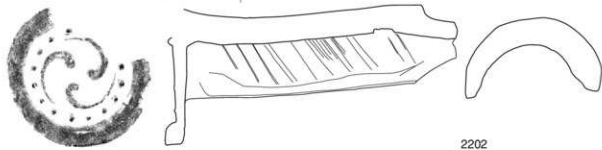
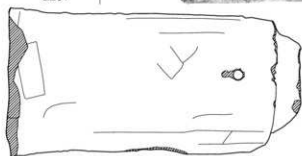
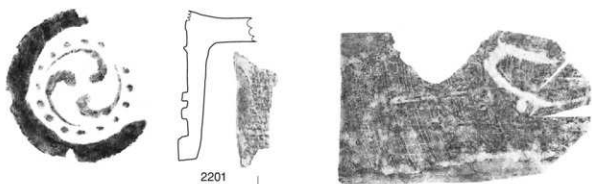
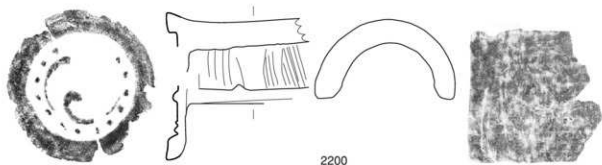
G M132型式 (左巻三巴紋に12珠紋軒丸瓦2類：第111図2215)

瓦当面径が約17cmで、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を12個配置するものである。巴の尾部が他類では見られないほど太く短いものである。圏線は持たず、珠紋は巴紋に比例して大きい。今回の調査では3点が出土した。丸瓦部表面の調整痕を観察できる資料は認められなかった。

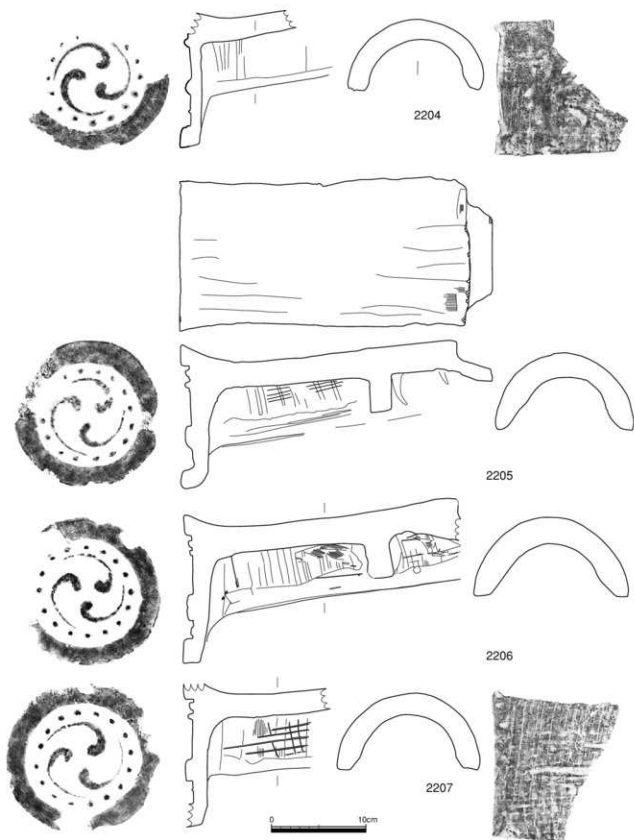
H M151型式 (右巻三巴紋に12珠紋軒丸瓦：第136・137図2349・2359)

瓦当面径が約17cmで、紋様構成は中心に右巻三巴紋、外区に珠紋を12個配置するものである。巴の尾部が細長く伸びて隣の巴紋と接するが、圏線とはなっていない。珠紋の大きさは非常に小さい。周縁区及び紋様区周縁部は丁寧なミガキ調整が施され、紋様区の内側に金箔が残存するものが多い。今回の調査では6点が出土した。丸瓦部表面の調整痕にはコピキA手法の痕跡のみが認められる。

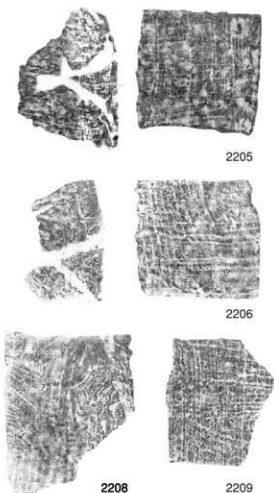
I M161型式 (左巻三巴紋に15珠紋軒丸瓦：



第108图 軒丸瓦実測図(7)



第109図 軒丸瓦実測図(8)



第110図 軒丸瓦実測図(9)

第112図2216～2217)

瓦当面径が約17cmで、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を15個配置するものである。巴の形状がいびつで正確な円弧を描いていない。圏線は持たず、珠紋の規模は小さい。珠紋の周囲には一定方向に向く範傷が認められ、おそらくM161型式に属するものは同範囲関係にあるものと推測される。今回の調査では26点が出土した。丸瓦部裏面の調整痕にはコビキA手法の痕跡のみが認められ、鳥衾瓦に使用されたもの(2216)も存在する。

J M211型式(左巻三巴紋に20珠紋軒丸瓦：第112図2218)

瓦当面径が約15cmで、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を20個配置するものである。巴紋

は圏線は持たず、珠紋が比較的小さい。今回の調査では5点が出土し、このうち丸瓦部裏面の調整痕にコビキA手法の痕跡が認められるものが1点存在する。「清洲城下町遺跡Ⅳ」ではこの型式の中に異范のものが認められたが、分類するには至らなかった。

K M221型式(左巻三巴紋に16珠紋軒丸瓦：第112図2219～2220)

瓦当面径が約15cmで、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を16個配置するものである。巴紋は全体に緩やかにカーブする形状でやや間隔が広く、圏線は持たない。紋様の高さが低く不鮮明である。今回の調査では33点が出土した。丸瓦部裏面の調整痕にはコビキB手法の痕跡のみが認められる。「清洲城下町遺跡Ⅳ」では巴紋や珠紋の位置関係などから2型式を特定したが、この区分で全てを総合的に分類することができなかった。

L M231型式(左巻三巴紋に12珠紋軒丸瓦：第112・113図2221～2230)

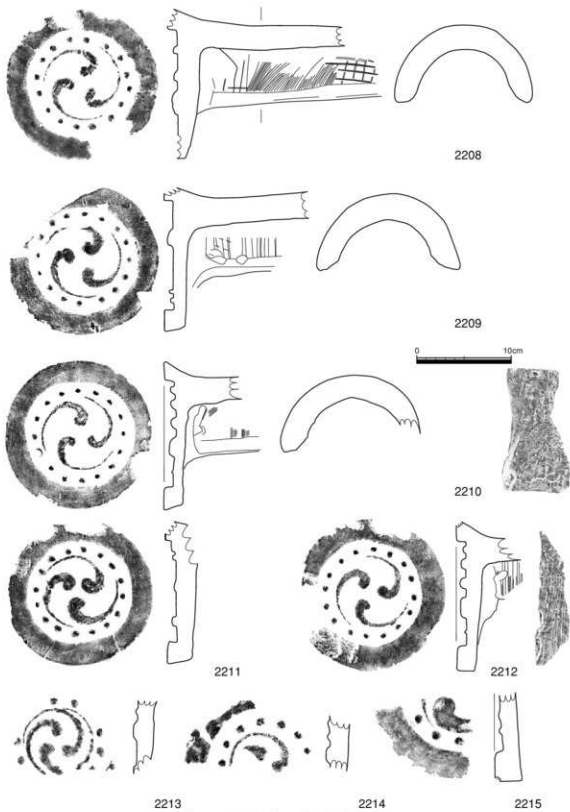
瓦当面径が約15cmで、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を12個配置するものである。巴紋の尾部が長く伸びて隣りの巴紋と接続し、圏線を持つ形状となっている。珠紋の規模は外区の幅の割に大きい。今回の調査では81点が出土した。丸瓦部裏面の調整痕にはコビキAとBの両手法の痕跡が認められるが、コビキA手法の方がやや多い。この型式もさらに細分が可能と思われるが、全てを総合的に分類することができなかった。

M M241型式(左巻三巴紋に8珠紋軒丸瓦：第115図2240～2241)

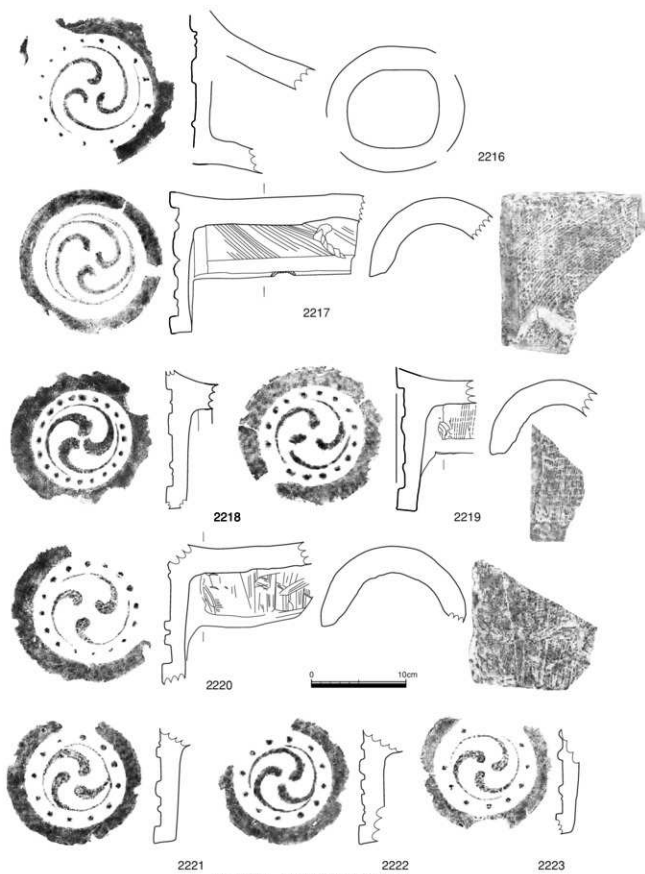
瓦当面径が約15cmで、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を8個配置するものである。巴紋は全体が緩やかにカーブし、圏線は持たない。今回の調査では21点が出土し、このうち丸瓦部裏面の調整痕にコビキA手法の痕跡が認められるものが2点存在する。

N M251型式(右巻三巴紋に12珠紋軒丸瓦：第114図2232)

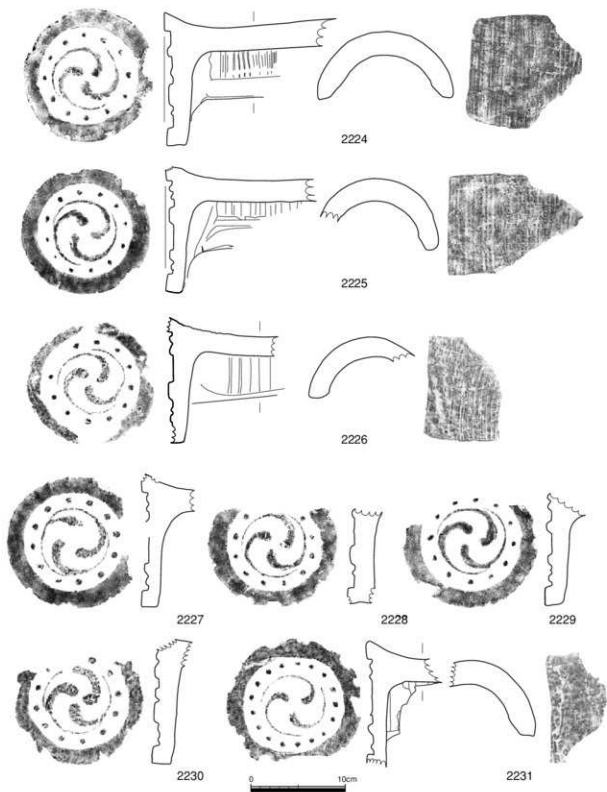
瓦当面径が約15cmで、紋様構成は中心に右巻三巴紋、外区に珠紋を12個配置するものである。巴紋



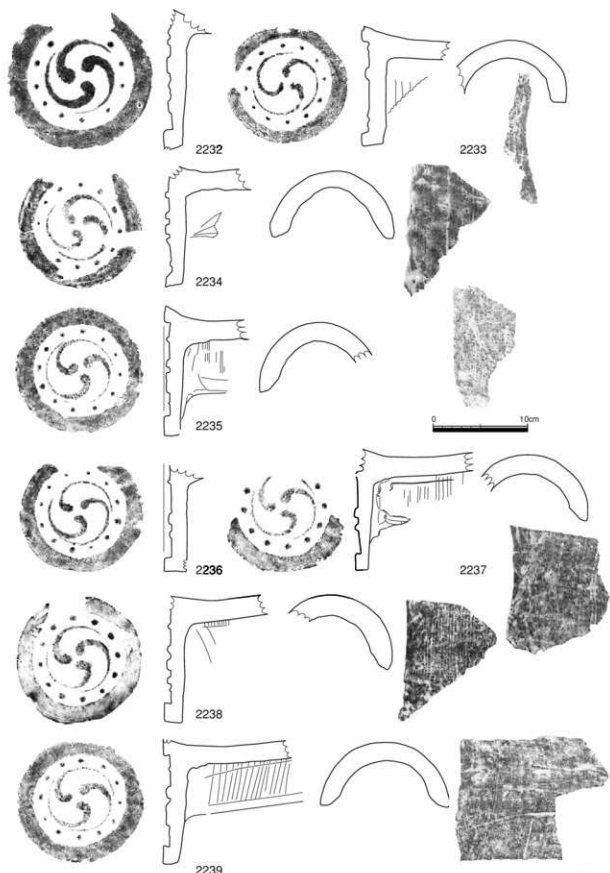
第111图 軒丸瓦实测图(10)



第 112 图 軒丸瓦実測图 (11)



第113図 軒丸瓦実測図(12)



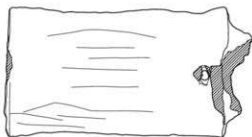
2232
 2234
 2235
 2236
 2238
 2239
 2233
 2237
 0 1.0cm
 第 114 图 軒丸瓦実測図 (13)



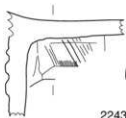
2240



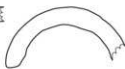
2241



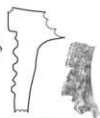
2242



2243

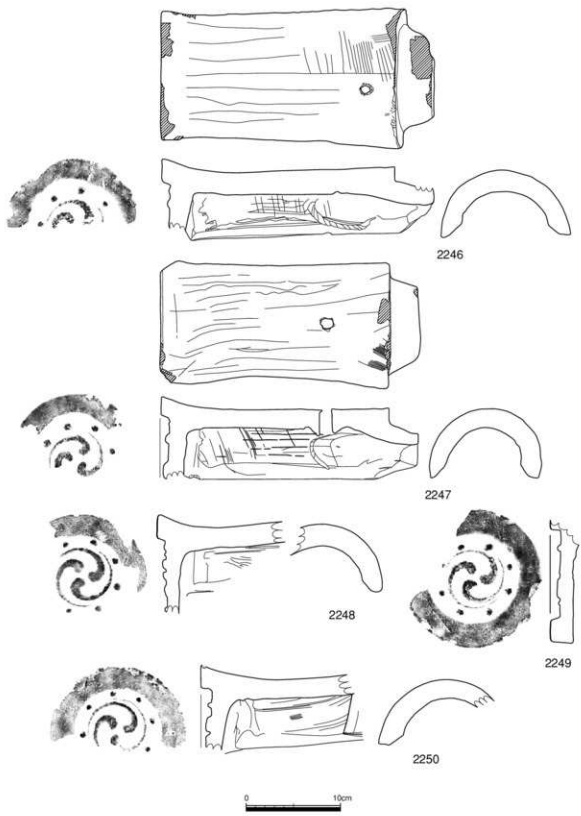


2244



2245

第115图 軒丸瓦実測图(14)



第 116 図 軒丸瓦実測図 (15)

は全体に緩やかにカーブする形状でやや間隔が広く、しかも太く大振りである。圏線を持たない。今回の調査では6点が出土した。丸瓦部裏面の調整痕が判明するものは認められなかった。

○ M271 型式 (左巻三巴紋に17珠紋軒丸瓦：第113図 2231)

瓦当面径が約15cmで、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を17個配置するものである。巴紋は全体が緩やかにカーブするが、少しびつとなっている。巴紋の形状はM161型式に類似するような感がある。今回の調査では1点のみ確認され、丸瓦部裏面の調整痕にはコピキB手法の痕跡が認められる。このM271型式はおそらく左巻三巴紋に16珠紋の紋様モチーフを模倣しようとしたものが珠紋の割付を間違えたものであると推測される。

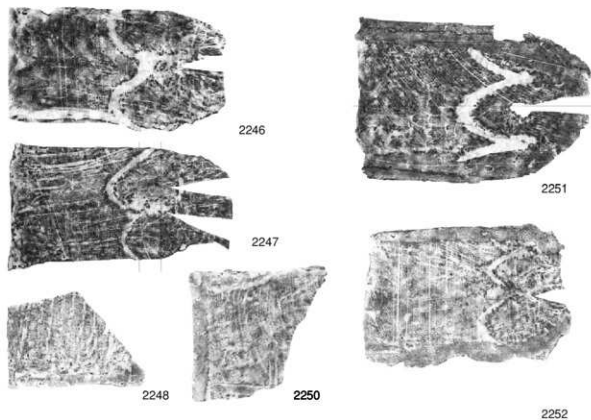
○ P M341 型式 (左巻三巴紋に8珠紋軒丸瓦：第115～120図 2242～2273)

瓦当面径が約13cmで、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を8個配置するものである。巴紋

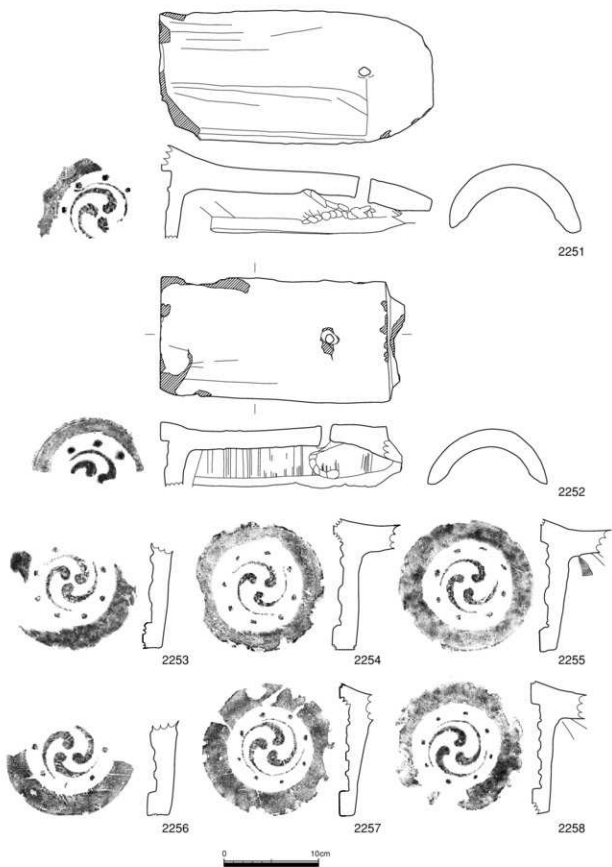
の尾部は短く圏線を持たない。今回の調査では571点と最も多く出土しており、同紋関係や同範囲関係の分類について全てを整合的に分類することができなかった。しかし、少なくとも三巴紋の巴どうしの間隔が狭いものと広いものに区分することが可能である。丸瓦部裏面の調整痕に着目すると、コピキA手法が残存するものは23点、コピキB手法が残るものは68点存在しており、棧を持つものが2点、孔を持つものが9点認められる。

○ Q M351 型式 (右巻三巴紋に12珠紋軒丸瓦：第114図 2233～2239)

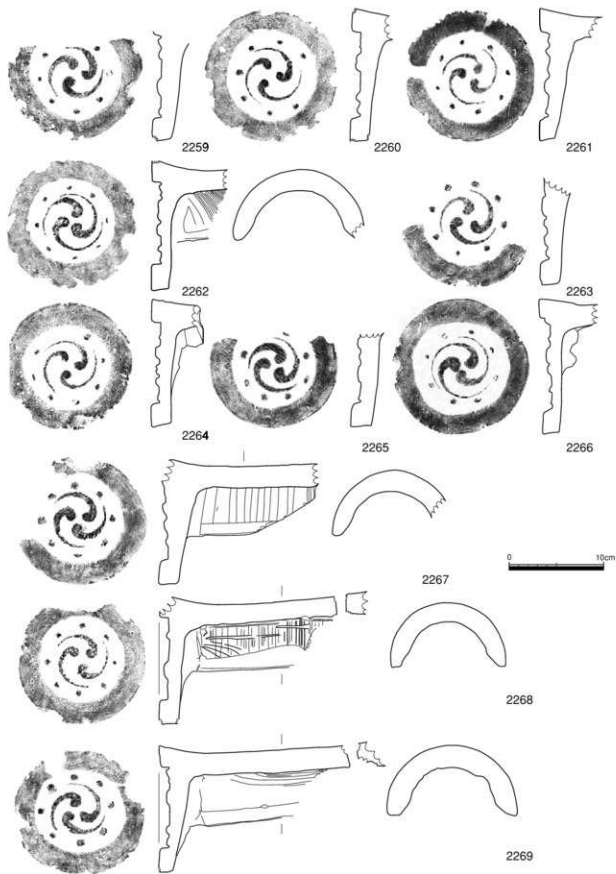
瓦当面径が約13cmで、紋様構成は中心に右巻三巴紋、外区に珠紋を12個配置するものである。今回初めて発見されたタイプの軒丸瓦である。巴紋は全体が緩やかにカーブし、その尾部が細長く伸びて隣の巴紋と接して圏線となる。今回の調査では38点が出土した。丸瓦部裏面の調整痕にはコピキAとコピキBの両手法が認められるが、数量的にはコピキB手法の方が多い。



第117図 軒丸瓦実測図(16)



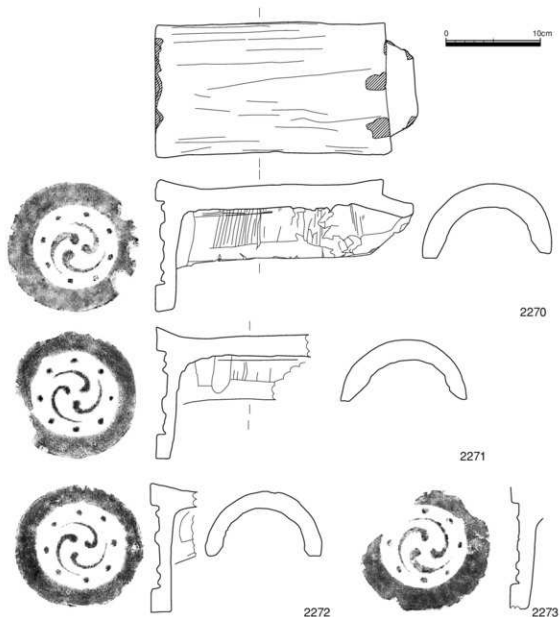
第118図 軒丸瓦実測図(17)



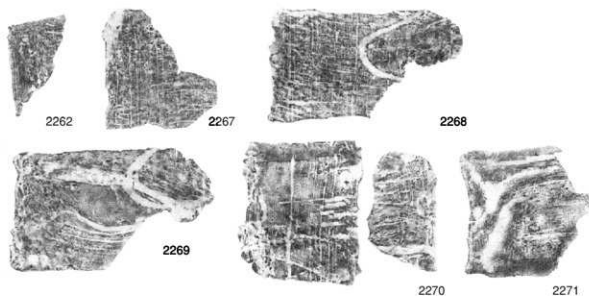
第119図 軒丸瓦実測図(18)

R M441 型式 (左巻三巴紋に8珠紋軒丸瓦)

瓦当面径が約10cmで、紋様構成は中心に右巻三巴紋、外区に珠紋を12個配置するものである。巴紋は尾部が短く、圏線は持たない。今回の調査では8点が出土した。丸瓦部裏面の調整痕が判明するものは認められなかった。



第120図 軒丸瓦実測図(19)



第121図 軒丸瓦実測図(20)

軒丸瓦

型式名	総数	コビキA	コビキB	残あり	孔あり	備考
M101	5	0	1			
M121	77	12	1	1	2	
M122	98	5	4	2		
M123	111	12	0		1	
M124	198	9	49	5	10	
M131	5	1	0			
M132	3	0	0			
M151	6	3	0			
M161	26	13	0			鳥変
M100番台	133	8	5		1	鳥変
M211	5	1	0			
M221	33	0	4			
M231	81	11	7	1	1	
M241	21	2	0			
M251	6	0	0			
M271	1	0	1			
M200番台	18	2	0			
M341	571	23	68	2	9	
M351	38	3	9			
M441	8	0	0			
不明	755	82	135	175	12	
合計	2199	187	284	186	36	

軒平瓦

型式名	総数	補あり	残あり	孔あり	木返しあり
H101	31	4			
H102	49	10	1	1	
H111	13			3	3
H112	130	32	2		
H131	26	17	4	2	
H211	10	2	1		1
H212	14				
H213	9				
H214	32	9			
H215	11				
H221	83	4			
H222	42	3			
H331	24	3			
H332	2				
H333	7				
H341	195	11			1
H351	9	4			1
H491	42	4			
H不明	709	253	50	7	57
合計	1438	352	58	13	63

第3表 軒丸瓦・軒平瓦の型式別出土量一覧表

3 軒平瓦

(1) 分類の方法

軒平瓦と分類できたものは96区で1352点、97C区で85点、97A区で1点が出土した。この中で瓦当面が残存しある程度瓦当面の紋様が特定できるものが765点存在する。ここでは瓦当面の紋様構成から分類を行い、その類別毎に特徴を記述する。

清須城出土軒平瓦の分類は、軒丸瓦と同様に、大きく小澤・鈴木分類（小澤1987・鈴木1990）と「清洲城下町遺跡Ⅵ」分類（鈴木1997）の二者が存在する。今回使用する分類方法は、対象資料が清須城域郭東部に相当する調査地点の出土資料であることから、後者の方法を採用する。

分類の方法は、以下の方針に則り実施した。

A 瓦当面幅による大分類

今回出土した軒平瓦の瓦当面幅はおおよそ、26～28cm、24～25cm、22～23cm、20cm前後の4類に区分できる。この瓦当面幅による大別は瓦当面脇部の幅が異なる場合があるために範の規模と必ずしも一致しないが、おおよそ本体の平瓦部の規模と連動すると考えられる。ここでは瓦当面幅の大きいものから順にそれぞれ100番台、200番台、300番台、400番台の型式名を与える。

B 紋様構成による中分類

次に、紋様構成から分類する。軒平瓦の瓦当紋様は、一部のものを除き、中心飾りとその両脇にある唐草紋で構成されている。このうち中心飾りには桐紋、三子葉紋、五子葉紋、桔梗紋、三角形紋、劍菱紋、中心飾りがないものに区分できる。ここではこの中心飾りによる区分を軒丸瓦で示した中分類に対応させ、「清洲城下町遺跡Ⅵ」分類と同様の型式名を与える。この段階の分類は意匠が類似するという意味で「近似意匠瓦」に位置付けられよう。具体的には、上記の区分で順に00番台、10番台、20番台、30番台、40番台、50番台、90番台と名付ける。

C 同紋関係による小分類

次に、同じ瓦当面幅で同じ中心飾りを持つものの中で、唐草紋の形状と配置などから同紋関係の軒丸

瓦を類別する。この類別によって同類とされたものは、基本的に同じ型紙による範型によって製作された軒平瓦群を示していると考えられる。それぞれに一桁台の名称を与える。

D 同紋関係による細分類

最後に同紋関係の軒丸瓦の中で、範傷などから範が明瞭に異なるものを細分した。この類別が同紋関係にある可能性が高いと考えているが、断定はできない。この細分類を小文字アルファベットで表現する。

E 各型式の命名

上記のような瓦当面径、紋様構成、同紋関係、同紋関係という階層的な分類方針から得られた型式名をH111a型式などの呼び方で表記した。この結果、「清洲城下町遺跡Ⅵ」の分類とほとんど変わらない結果となっているが、H330番台の型式で齶歯が生じてしまっている部分がある。ここでは無用な混乱を避けるために「清洲城下町遺跡Ⅵ」分類の名称をそのまま用い、本文の記述で変更点を指摘するのみに止めたい。

(2) 各型式の説明

A H101型式（桐紋に4反転均整唐草紋軒平瓦1類：第122図2274～2276）

瓦当面径幅が約28cmで、紋様構成は五三桐紋の中心飾りに4反転の均整唐草紋を配置するものである。4番面（両端）の唐草が3番目の唐草の中位から始まるもので、唐草紋は比較的左右が対称的になっている。五三桐紋は葉が大形の掌状で欠刻が非常に緩やかな波状となり、枝は短く花蕾は三叉に枝分かれした形状となっている。黒田分類のAⅡb（黒田1993）に属するものである。今回の調査では31点が出土した。このうち平瓦部両端に鱗を持つものが4点存在する。

B H102型式（桐紋に4反転均整唐草紋軒平瓦2類：第123図2277・2278）

瓦当面径幅が約28cmで、紋様構成は五三桐紋の中心飾りに4反転の均整唐草紋を配置するものであ

る。4番面（両端）の唐草が3番目の唐草の下位から始まるもので、4番目の唐草紋は左右が被対称的である。H101型式に比べて、1番目の唐草が上へ持ち上がり、五三桐紋は不明瞭になっている。今回の調査では49点が出土した。このうち平瓦部両端に鏝を持つものが10点、平瓦部裏面に棧を持つものが1点存在する。

H102a型式（桐紋に4反転均整唐草紋軒平瓦2類；第123図2278）

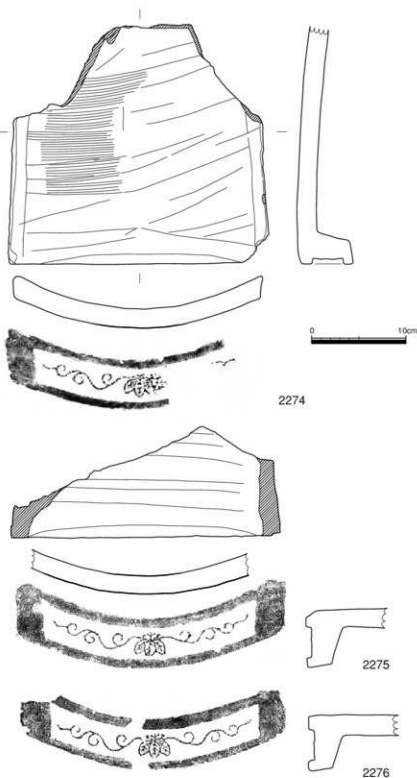
五三桐紋の下位の花書が簡略化されて影らみを持たず、葉の欠刻はやや緩やかな波状となるもので、黒田分類のA II c?に属するものである。

H102b型式（桐紋に4反転均整唐草紋軒平瓦2類；第123図2277）

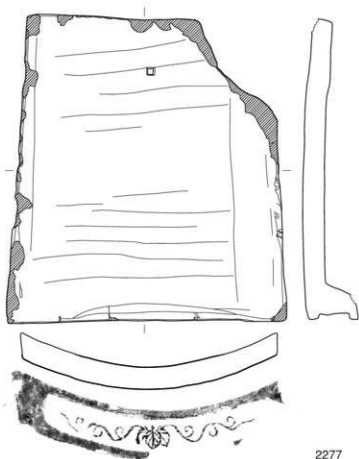
五三桐紋の全花書が簡略化されて影らみを持たず、葉が欠刻のない橋の葉状となるもので、黒田分類のC I II d?に属するものである。葉の葉脈が外郭線まで伸びている。

C H111型式（三子葉紋に3反転均整唐草紋軒平瓦；第124・125図2279～2284）

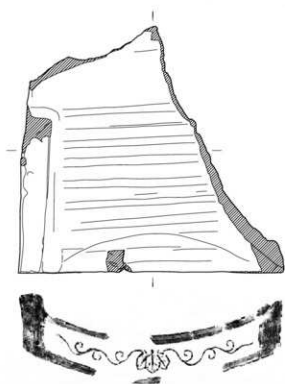
瓦当面幅が約26cmで、紋様構成は三子葉紋の中心飾りに3反転の均整唐草紋を配置するものである。各三子葉は明瞭に三叉に分岐しており、唐草紋は十分に内側に巻



第122図 軒平瓦実測図(1)

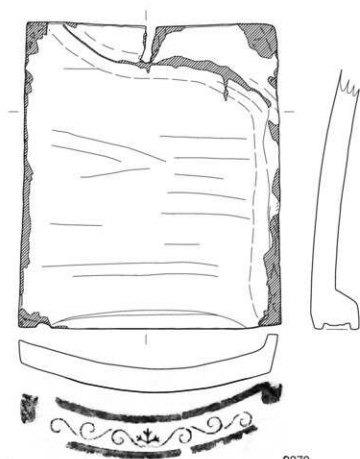


2277

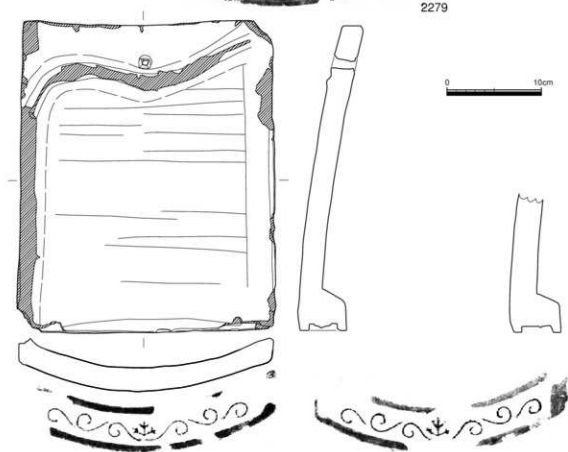


2278

第123图 軒平瓦实测图(2)



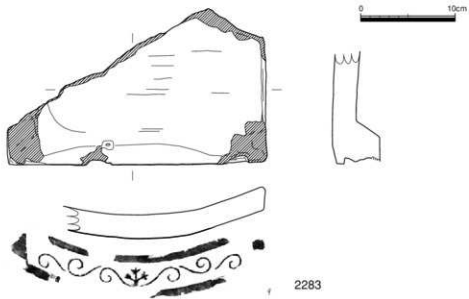
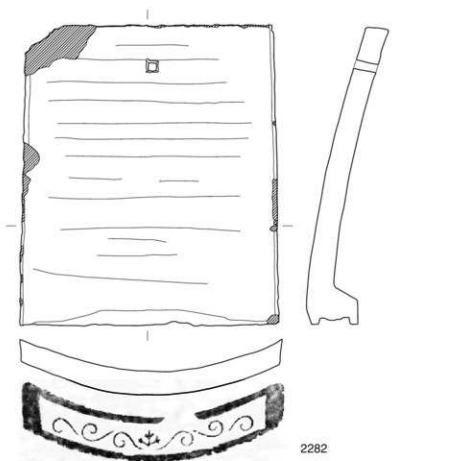
2279



2280

2281

第124図 軒平瓦実測図(3)



第 125 图 軒平瓦实测图 (4)

いている。周縁区と紋様区の周囲に丁寧なミガキ調整が施されており、これに期する調整が施されたものは軒丸瓦 M151 型式のみである。平瓦部頭端が残存するものについては全て釘孔と考えられる孔が1個存在している。今回の調査では13点が出土した。平瓦部表面に水返しを有するものが3点認められる。

D H112 型式 (三子葉紋に4反転均整唐草紋軒平瓦：第126・127図 2285～2294)

瓦当面幅が約26cmで、紋様構成は三子葉紋の中心飾りに4反転の均整唐草紋を配置するものである。各三子葉は剣菱状となり、唐草紋は上下に重なり合いながら展開する。4番目(両側)の唐草紋下端が波状になっている。今回の調査では130点が出土した。このうち平瓦部両端に鰭を持つものが32点、平瓦部裏面に棧を持つものが2点存在する。平瓦部頭端が残存するものについては全く穿孔されたものは全く存在しない。「清洲城下町遺跡Ⅷ」では、さらに2型式に細分したが、今回の資料は全てH112a型式に属しており、またこれらを細分することはできなかった。H112b型式はH215型式等に属するものだったかも知れない。

E H131 型式 (桔梗紋に4反転均整唐草紋軒平瓦：第128～130図 2295～2301)

瓦当面幅が約26cmで、紋様構成は桔梗紋の中心飾りに4反転の均整唐草紋を配置するもので、紋様区の上端と両端部に圏線を1条配置する。唐草紋の巻き込みは非常に弱い。今回の調査では26点が出土した。このうち平瓦部両端に鰭を持つものが17点、平瓦部裏面に棧を持つものが4点存在する。平瓦部頭端が残存するものは2点確認された。

F H211 型式 (三子葉紋に2反転均整唐草紋軒平瓦1類：第130図 2302～2303)

瓦当面幅が約24～25cmで、紋様構成は三子葉紋の中心飾りに2反転の均整唐草紋を配置するものである。各三子葉は長くシャープでその先端は比較的明瞭に三又に分岐しており、唐草紋の巻き込みは弱い。外区の高さが非常に低くなっている。今回の調査では10点が確認されたが、このうち平瓦部両端に鰭を持つものが2点、平瓦部裏面に棧を持つものが1点、平瓦部表面に水返しを有するものが1点認めら

れる。

G H212 型式 (三子葉紋に2反転均整唐草紋軒平瓦2類：第131図 2304・2305)

瓦当面幅が約24～25cmで、紋様構成は三子葉紋の中心飾りに2反転の均整唐草紋を配置するものである。各三子葉は幅太の剣菱状となり、唐草紋は内側に十分に巻き込まれている。外区の高さは比較的高い。今回の調査では14点が出土した。このうち平瓦部に鰭、棧、水返しを観察できる資料は認められなかった。

H H213 型式 (三子葉紋に3反転均整唐草紋軒平瓦1類：第131図 2309)

瓦当面径が約24～25cmで、紋様構成は三子葉紋の中心飾りに3反転の均整唐草紋を配置するものである。各三子葉は幅狭の剣菱状となり、唐草紋を内側に十分に巻き込んでいる。3番目の唐草は外区に接して途切れていることから、別型式の范型を切断し転用した可能性が考えられる。今回の調査では9点が出土したが、平瓦部に鰭、棧、水返しを持つものは認められなかった。

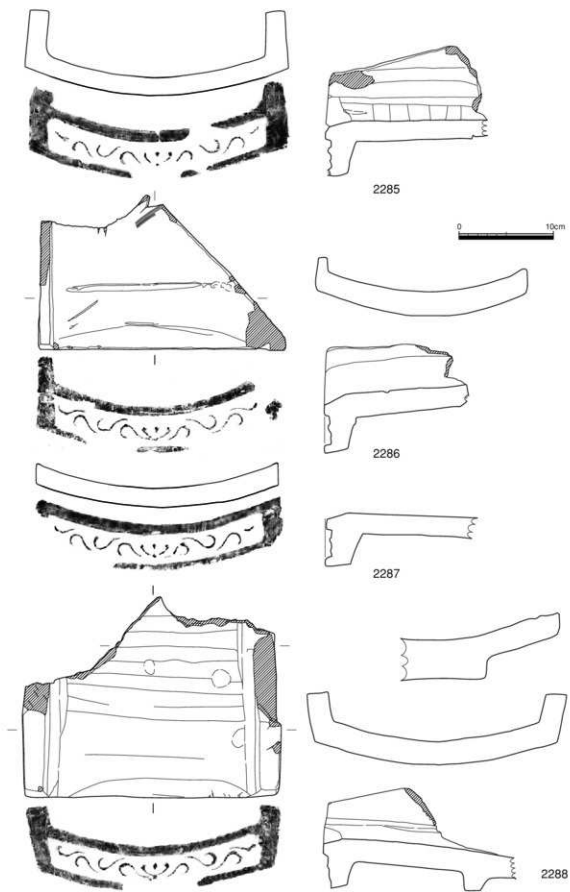
I H214 型式 (三子葉紋に3反転均整唐草紋軒平瓦2類：第131図 2306～2308・2310)

瓦当面幅が約24～25cmで、紋様構成は三子葉紋の中心飾りに3反転の均整唐草紋を配置するものである。各三子葉は短く丸みを帯びており、外側の子葉の方が太い。3番目(両側)の唐草下端が波状になり、他の唐草は巻きあがっている。今回の調査では32点が出土した。このうち平瓦部両端に鰭を持つものが9点確認された。

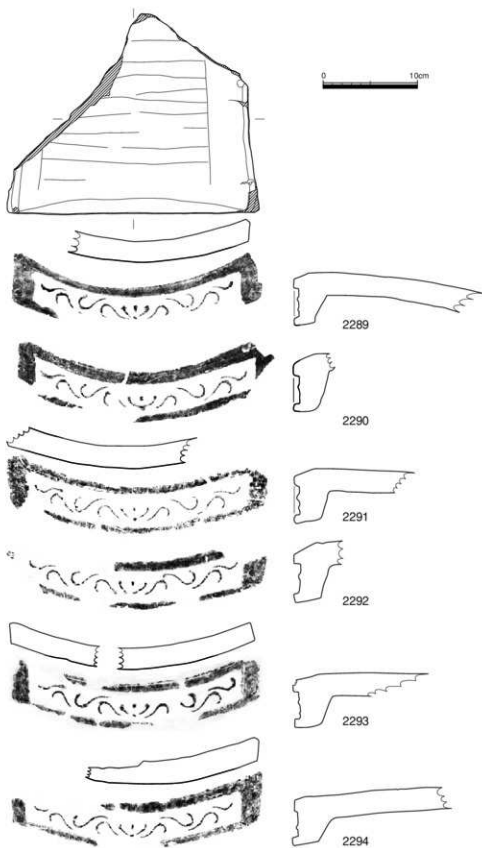
J H215 型式 (三子葉紋に3反転均整唐草紋軒平瓦3類：第131図 2311～2313)

瓦当面幅が約24～25cmで、紋様構成は三子葉紋の中心飾りに3反転の均整唐草紋を配置するものである。各三子葉は長く先端が尖っている。2番目の唐草と3番目の唐草が連続しており、2反転の唐草紋と表現することも可能である。H211型式と同様に、外区の高さが非常に低くなっている。今回の調査では11点が出土したが、平瓦部に鰭、水返しは認められるものはなかった。

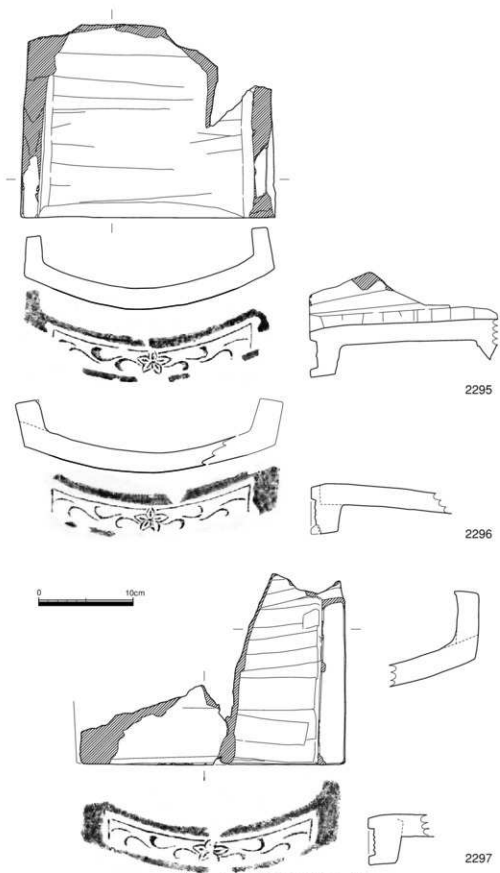
K H221 型式 (五子葉紋に2反転均整唐草紋



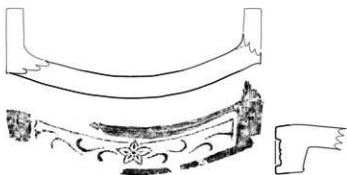
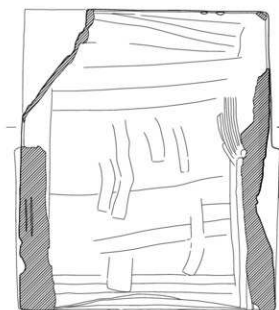
第 126 图 軒平瓦实测图 (5)



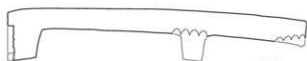
第 127 图 軒平瓦实测图 (6)



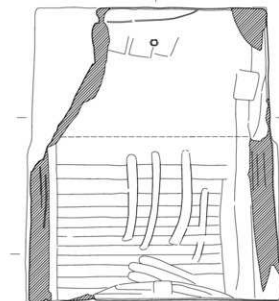
第 128 图 軒平瓦实测图 (7)



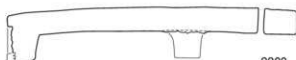
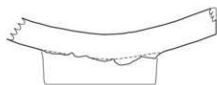
2298



2299

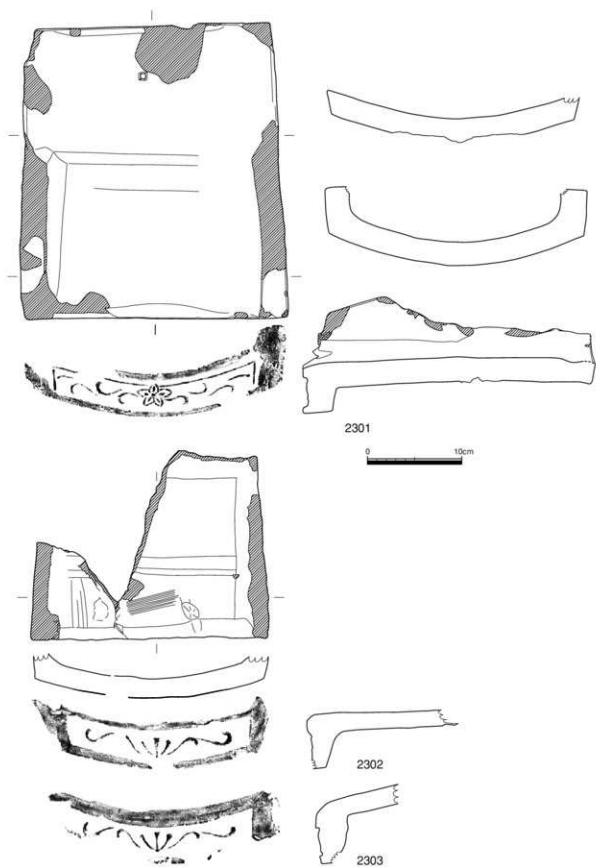


0 10cm

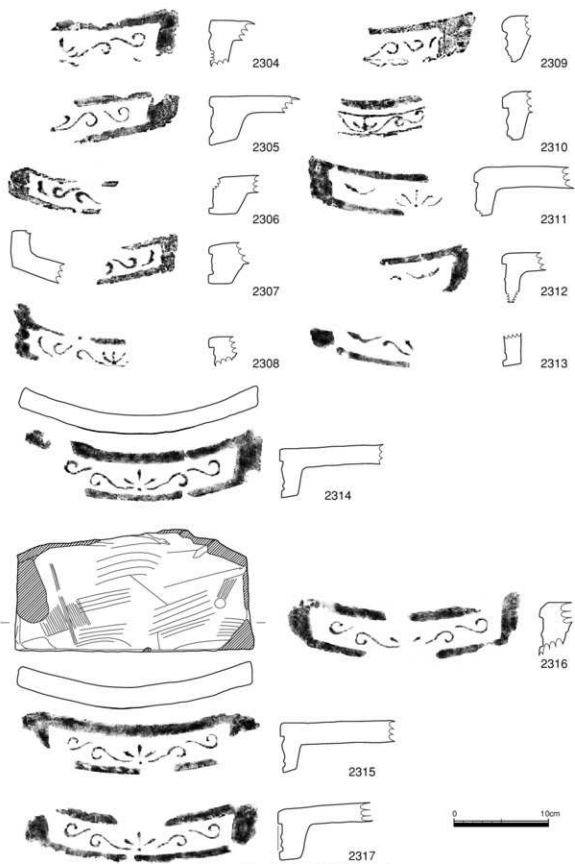


2300

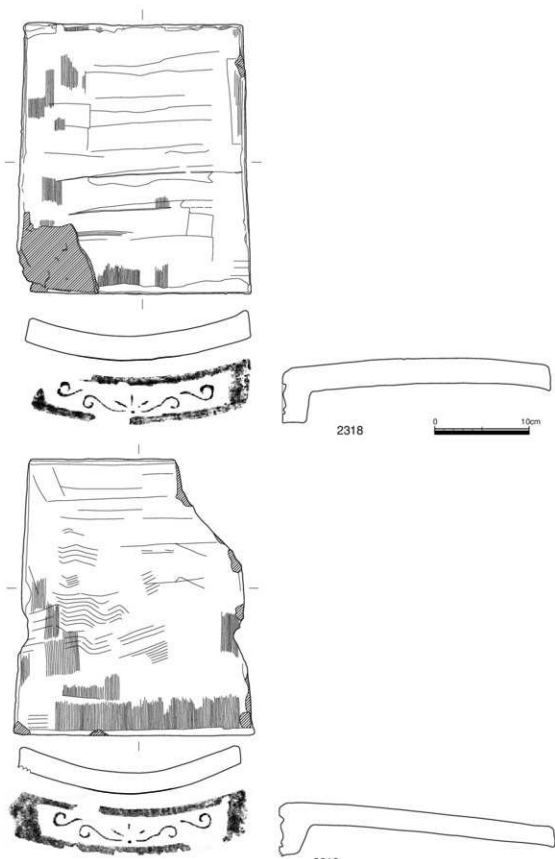
第129图 軒平瓦实测图(8)



第130图 軒平瓦实测图(9)



第131图 軒平瓦实测图(10)



第 132 图 軒平瓦実測図 (11)

軒平瓦 1類：第131・132図 2314～2319)

瓦当面幅が約24～25cmで、紋様構成は五子葉紋の中心飾りに2反転の均整唐草紋を配置するものである。上位の三子葉は比較的短い剣菱状に、下位二子葉は1番目の唐草と連続する形状となっている。下位二子葉を唐草紋と解釈することも可能であるが、ここでは五子葉紋と理解した。唐草紋は十分に内側に巻き込んでいる。今回の調査では83点が出土した。このうち平瓦部両端に鱗を持つものが4点存在する。

L H222型式 (五子葉紋に2反転均整唐草紋軒平瓦 2類：第133図 2320～2322)

瓦当面幅が約24～25cmで、紋様構成は五子葉紋の中心飾りに2反転の均整唐草紋を配置するものである。各五子葉は丸みを持つ剣菱状で、比較的短い。唐草紋の巻き込みはH221型式よりも弱い。今回の調査では42点が確認され、平瓦部両端に鱗を持つものが3点認められた。

M H331型式 (栝梗紋に3反転均整唐草紋軒平瓦 1類：第133図 2323～2327)

瓦当面幅が約22～23cmで、紋様構成は栝梗紋の中心飾りに3反転の均整唐草紋を配置するものである。栝梗紋は星形の輪郭を持つ楓状のもので、輪郭の入角部から内側に短い線が入る。3番目の唐草上位に羽状の紋様を加えられている。今回の調査では24点が出土したが、平瓦部側端部に鱗を持つものが3点認められる。これまでこのH331型式と認識されたものは中心飾りから左側の部分に限定されていたが、今回H333型式に分類されたものと接合された事例を発見するに至り、H331型式とH333型式は同じ型式の瓦である可能性が高くなったといえる。

N H332型式 (栝梗紋に3反転均整唐草紋軒平瓦 2類：第133図 2328～2329)

瓦当面幅が約22～23cmで、紋様構成は栝梗紋の中心飾りに3反転の均整唐草紋を配置するものである。栝梗紋は星形の輪郭を持つ楓状のもので、輪郭から伸びる線は存在しない。2番目の唐草中位から枝分かれして外側に巻き込む唐草が存在する。今回の調査では2点が出土したが、平瓦部に鱗、水返しが認められるものはなかった。

O H333型式 (栝梗紋に3反転均整唐草紋軒平瓦 3類：第133図 2330～2332)

瓦当面幅が約22～23cmで、紋様構成は栝梗紋の中心飾りに3反転の均整唐草紋を配置するものである。栝梗紋は星形の輪郭を持つ楓状のもので、輪郭から伸びる線は存在しない。2番目の唐草から枝分かれする紋様はない。今回の調査では7点が出土したが、平瓦部に鱗、水返し認められるものはなかった。これまでこのH333型式は中心飾りよりも右側の部分しか発見されていなかったが、H331型式とH333型式が接合する資料(2327)が存在し、両者は同じ型式の瓦である可能性が高い。

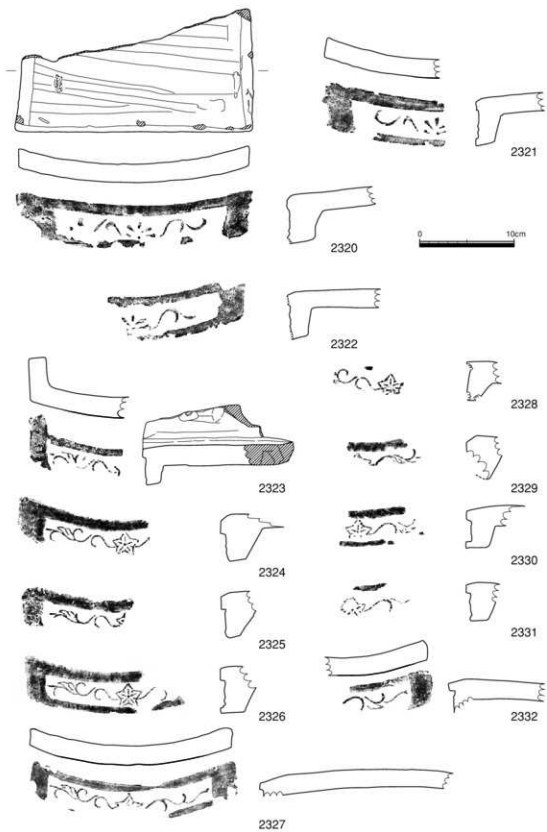
P H341型式 (三角形紋に3反転均整唐草紋軒平瓦：第134・135図 2333～2341)

瓦当面幅が約22～23cmで、紋様構成は三角形紋の中心飾りに3反転の均整唐草紋を配置するものである。三角形紋は三角形の輪郭の内側に下辺と接続する三角形の突出部が存在するもので、上位に珠紋がある。3番目(両端)の唐草はほぼ直角に屈曲し段が付く。今回の調査では195点が出土したが、平瓦部側端部に鱗を持つものが11点、水返しをもつものが1点認められた。軒平瓦の中で最も多く存在するタイプであり、細部に見ていくといくつかのタイプに区分することが可能である。ただし、これらの相違を総合的に同紋関係や同范関係として整合的に分類することは今回もできなかった。

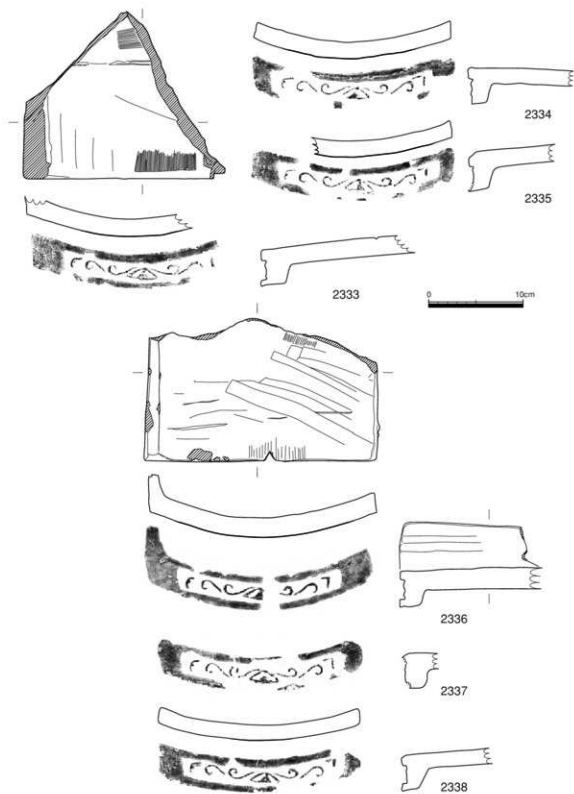
中心飾りの三角形紋に着目すると、上位に存在する珠紋が明瞭なもの、不明瞭なもの、ほとんど消滅したものに区分できる。左側3番目の唐草紋の内側にある突出部に着目すると、突出部がシャープに尖るもの、丸みを持って突き出るもの、ほとんど突出しないものに分類できる。右側3番目の唐草紋に着目すると、丸みを帯びて屈曲し先端部が外側に折れるもの、ほぼ直角に屈曲し先端部が外側に折れないものに分けられる。これらの相違は暫時的なものである。

Q H351型式 (剣菱紋に4反転均整唐草紋軒平瓦：第135図 2342～2345)

瓦当面幅が約22～23cmで、紋様構成は剣菱紋1個の中心飾りに4反転の均整唐草紋を配置するもの



第 133 图 軒平瓦实测图 (12)



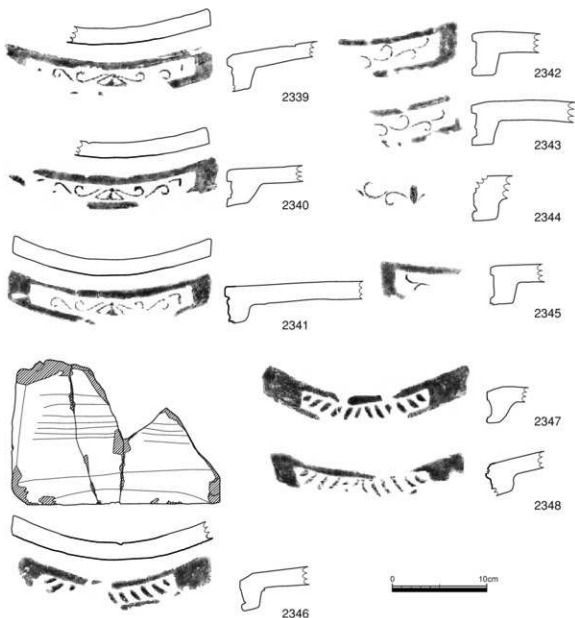
第134图 軒平瓦实测图(13)

である。剣菱紋の上部は低く平坦となっている。唐草紋の巻き込みは弱い。今回の調査では9点が出土したが、平瓦部表面に水返しが認められるものが1点存在する。

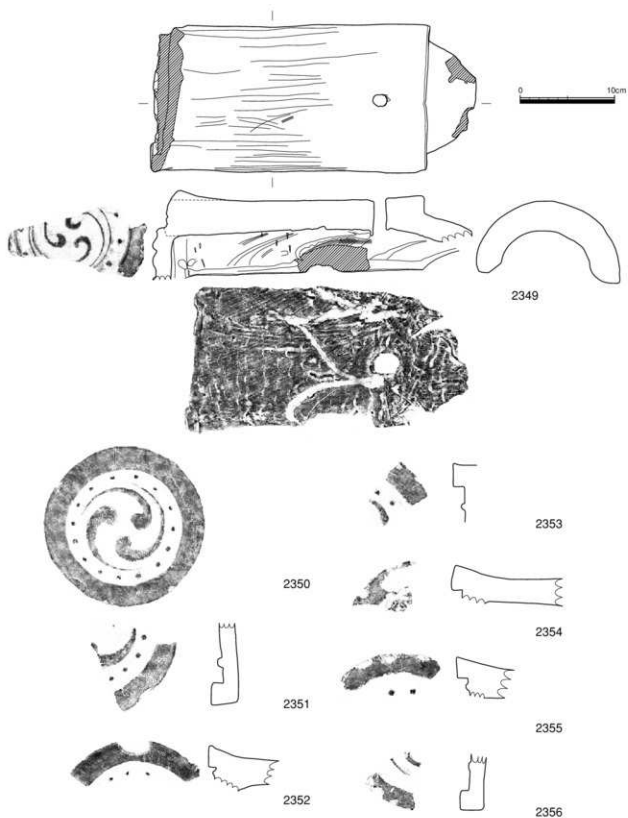
R H491 型式 (6順転均整唐草紋軒平瓦：第135図2346～2348)

瓦当面幅が約21～22cmで、紋様構成は中心飾りを持たず6個の直線的な唐草紋？を対称的に配置す

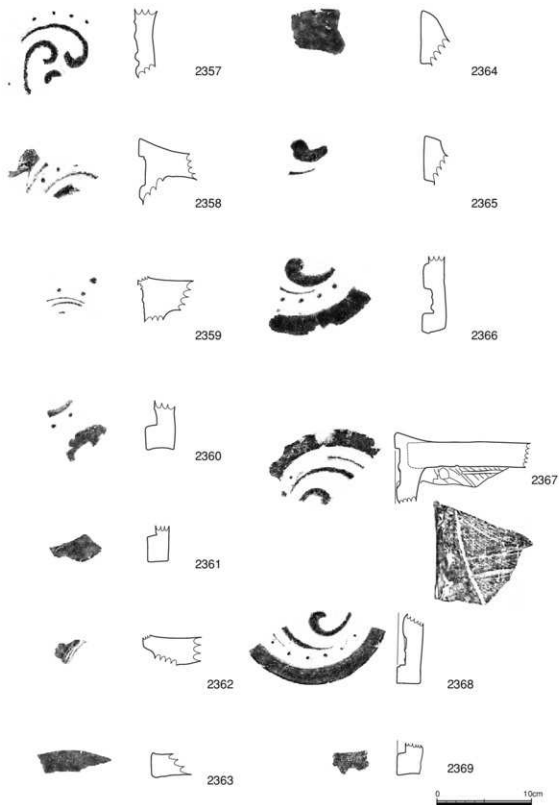
るものである。中心部は「ハ」字状となっている。『清洲城下町遺跡Ⅶ』では直線的唐草紋の太さから2類に分類したが、今回はこれをあえて分類しなかった。今回の調査では42点が出土したが、平瓦部側端部に鏝を持つものが4点認められた。



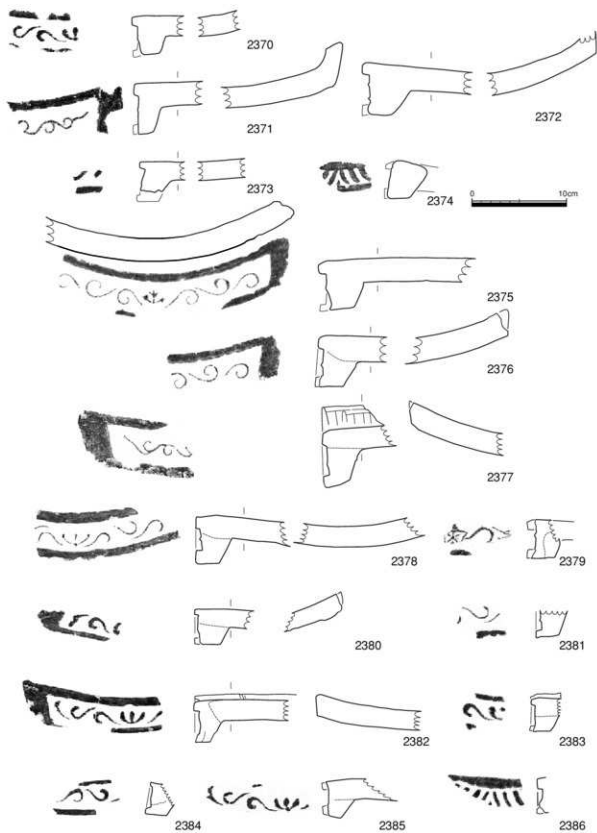
第135図 軒平瓦実測図(14)



第 136 図 金箔軒丸瓦実測図 (1)



第137图 金箔軒丸瓦実測图(2)



第138图 金箔轩平瓦实测图(20)

4 金箔押軒瓦

(1) 概要

軒丸瓦と軒平瓦のうち、瓦当面に金箔が押されたものを金箔押軒瓦として、ここでは別項目を立てて報告する。ただし、瓦当面の分類は軒丸瓦と軒平瓦の各項目の分類をそのまま採用する。

今回、図化して資料紹介する金箔押軒瓦は38点である。これらは金箔押瓦といえども、瓦当面の金箔の残存状況は著しく不良で大部分が剥げ落ちた状態となっており、残存した部分は少なくとも下地に塗布された漆膜片がかりうじて残存しているに過ぎないものも多い。このような状況から見て、今回出土した軒丸瓦や軒平瓦の大部分は、本来は金箔が押されていた可能性が高いと推測される。もしこの仮説が正しければ、金箔押軒瓦のみを項目立てて報告することはあまり意義がないと思われるが、金箔が押された部位や下地の漆の状況などについてまとめた記述をすることも重要であると考えた次第である。

(2) 金箔押軒丸瓦 (第136・137図2349～

2369)

金箔押軒丸瓦は、金箔が施された部位によって2類に分類できる。1類は金箔が紋様本体ではない平坦な地の部分(凹部)に押されたもの、2類は金箔が紋様本体の張り出した部分に押されたものである。なお、外区上に金箔が押されていたものは今回は数点しか確認できなかったが、先述したように金箔の遺存状況が不良であるために、確認できなかったものが本当に外区上に金箔が押されていたか否かについては確証は得られない。

2349はM151型式の軒丸瓦で、巴紋や珠紋ではない地の部分に金箔が比較的明瞭に残存する1類の金箔押軒丸瓦である。2358と2359もM151型式の1類金箔押軒丸瓦である。2357はM161型式の軒丸瓦で、巴紋や珠紋ではない地の部分に金箔が残存する1類の金箔押軒丸瓦である。2350はM251型式の軒丸瓦で、巴紋や珠紋および外区に金箔が明瞭に残存する

2類の金箔押軒丸瓦である。外区に金箔が残存する2類の金箔押軒丸瓦は2361～2365などがあるが、紋様構成は復元できない資料である。2364は鳥袋瓦の鳥体部(突出部)と考えられるものである。

(3) 金箔押軒平瓦 (第138図2370～2386)

金箔押軒平瓦は、金箔が施された部位によって2類に分類できる。1類は金箔が中心飾り紋様のみを押されたもの、2類と3類は金箔が中心飾り以外の部分にも押されたものである。2類については遺存状況が不良なため明確にはいえないが、紋様ではない地の部分に金箔が押されていると推測されるもの、3類は中心飾りの他に唐草紋の上面に金箔が押されているものである。

写真図版に示した3237はH101型式(桐紋に4反転均整唐草紋軒平瓦)の軒平瓦で、五三桐紋の中心飾りをちょうど覆い尽くすように金箔が押されている1類の金箔押軒平瓦といえる。H101型式やH102型式の桐紋部には褐色の漆膜が付着するケースが多く、これらも本来は3227のような状態で金箔が押されていたと推測できる。2379はH331型式の軒平瓦で、桔梗紋の中心飾りに金箔が押されている1類の金箔押軒平瓦である。1類の金箔押軒平瓦には、他にH131型式の軒平瓦も存在する。2375と2376はH111型式の軒平瓦で金箔が紋様本体ではない平坦な地の部分(凹部)に押された2類の金箔押軒平瓦である。2380～2385はH214型式の軒平瓦で、三子葉紋の中心飾りの他に唐草紋の上面に金箔が押されている3類の金箔押軒平瓦といえる。2382は外区上にも金箔が押されている。2374・2386はH491型式の軒平瓦で、ハの字状の唐草紋の上面に金箔が押された3類の金箔押軒平瓦である。

5 丸瓦 (第140～146図2387～2399)

(1) 概要

96区と97C区で、丸瓦と分類できたものは接合前破片数で15732点、総重量で約2.66tが出土した。この中には軒丸瓦の丸瓦部、丸瓦に類似した形態の道具瓦(例えば輪違瓦など)などが含まれている可能性が高い。大多数の丸瓦は玉縁を有する丸瓦であり、出土量の多さに比べると形態的なバラエティーは非常に乏しいものとなっている。ここでは代表的な事例を数点取り上げて報告とする。

(2) 資料の紹介

丸瓦は内面(裏面)に見られる調整痕で、軒丸瓦と同様に、大きく2類に大別できる。第一は粘土塊から粘土板を成形する際の切断方法に糸を張った弓状工具を使用して切断する、いわゆるコピキA手法の痕跡が残存するもの(2387・2388・2390・2391・2394～2399)である。第二は同じく粘土板を成形する際に鉄線を張った張力の強い工具を使用して平行に切断する、いわゆるコピキB手法の痕跡が残存するもの(2389・2392・2393)である。

粘土板を成形した後は、丸瓦の形状に曲げるために成形台にはめ込み半円筒形に造っている。この成形台と粘土板の脱着を容易にするために布を被せ、布には玉縁部の側に吊り紐を刺し込ませている。布目の縦糸と横糸の密度は細かく1cm当たり10～16本である。成形台から粘土板を外した後は、内面にはほとんど手を加えないものと考えられ、一部の資料で棒状工具によるタキ調整が施されるものがある。この結果、内面にはコピキAまたはB手法、吊り紐痕、布面痕が残存するものが大半を占めている。

一方、外面については、成形台にはめ込まれた際に縄を巻いた叩き工具を用いて表面が叩かれ、後に縦方向に丁寧に磨くようにヘラケズリ調整が施されている。

丸瓦の側端部は2段にヘラケズリ調整が施されている。大半は側端面(瓦を葺く際に平瓦部と接触する面)の幅は狭く、胴部裏側面(側端面のすぐ内側

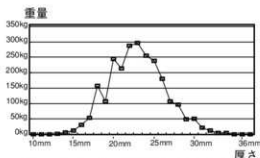
の面)の幅が広がっている。表面と側端面で形成される角度は約80°(70～100°の範囲で分布する)、側端面と胴部裏側面で形成される角度は約130°(100～145°の範囲で分布する)を計測する。

尻小口面裏面は幅広く面取りされ下位に葺かれる丸瓦玉縁部とうまく重なるように工夫されている。この面取りの幅は約50mmを測る。尻小口端面はヘラケズリ調整が施され、砂が付着する場合も認められる。

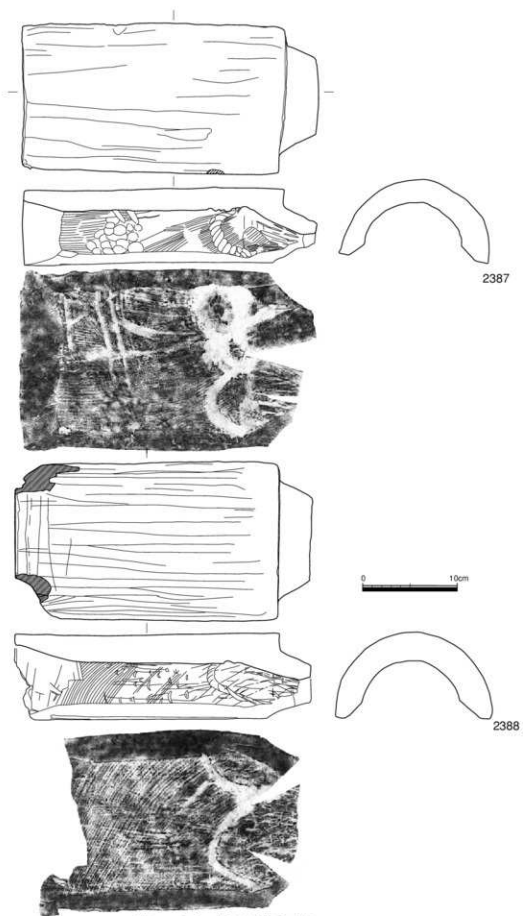
玉縁部の裏面は布袋が穿った部分に相当するため布の皺状の痕跡が残っている。外面は縦または横方向に丁寧にヘラケズリ調整が施され、各個端面も同様である。玉縁部裏面側の両側端は筒部の上端部を含めて斜めにヘラケズリされている場合が多い。

(3) 丸瓦の出土傾向

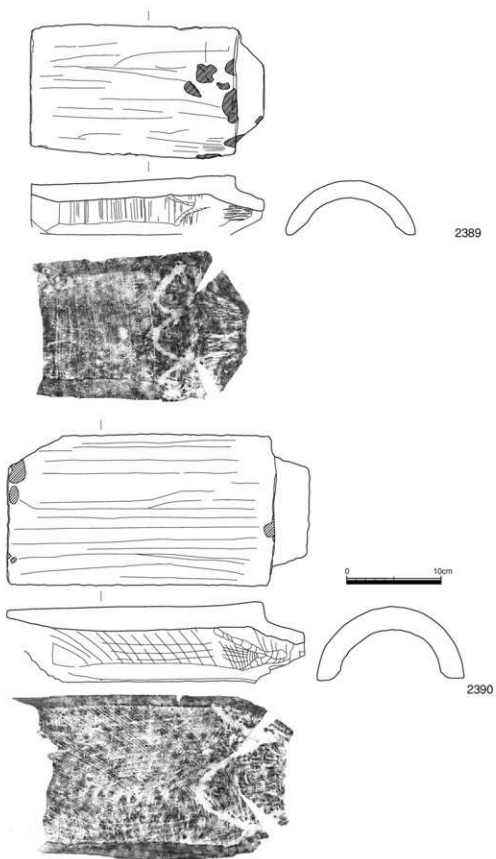
丸瓦の規模は、筒部の長さは平均27cmで、大きく31cm前後、28cm前後、26cm前後に分布のピークが認められる。筒部の幅については今回はデータ整理を実施しなかったが、筒部径については型枠による測定で11cm以下、13cm、15cm、17cm、19cm以上に区分してその出土量を算出した結果、11cm以下は34点8.48kg、13cmは698点173.38kg、15cmは2986点1013.62kg、17cmは1032点467.29kg、19cm以上は25点14.83kgであることが判明した。この筒部径と厚さとの関係について表にまとめると、明瞭な対応関係は見出せないがおおよそ相関することが窺われる。厚さについては23～24cmのものが最も多く、18cmと20cmにもピークが存在する(第139図)。



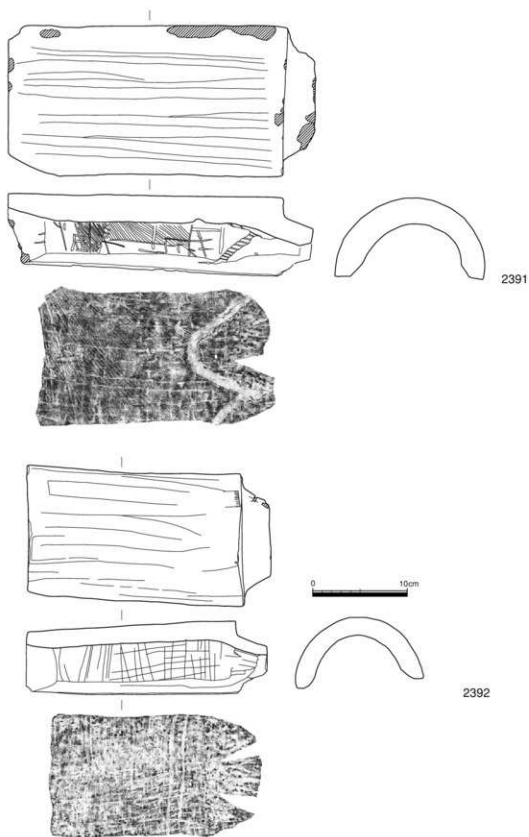
第139図 丸瓦厚さ別出土重量図



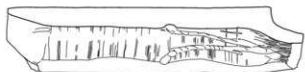
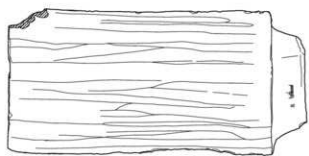
第 140 图 丸瓦实测图 (1)



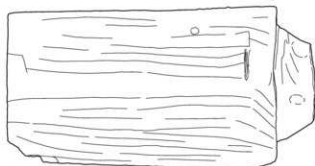
第 141 图 丸瓦実測图 (2)



第 142 图 丸瓦实测图 (3)



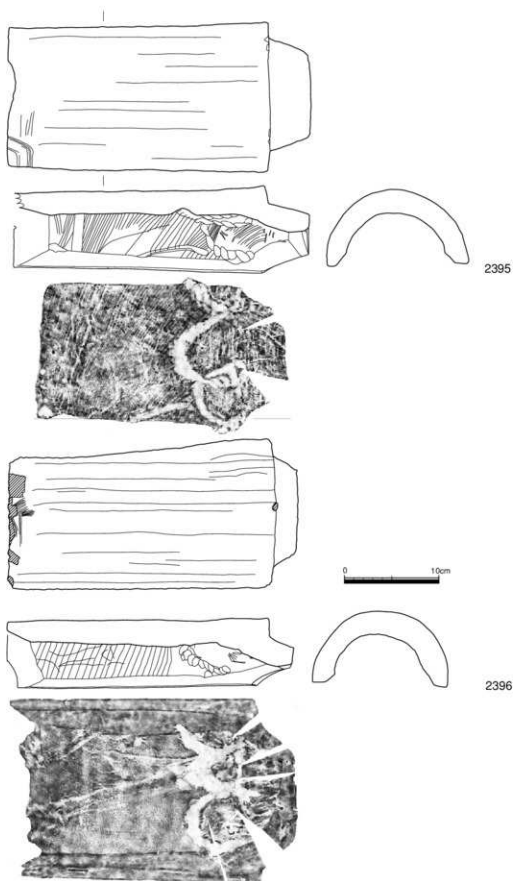
2393



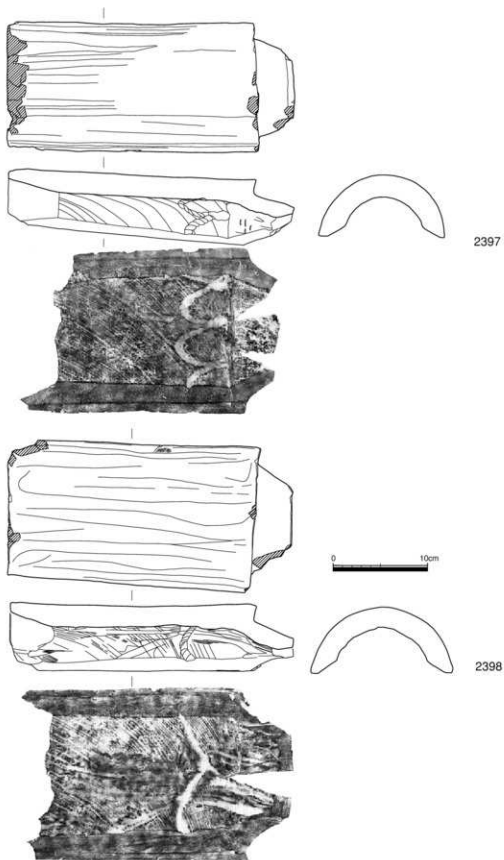
2394



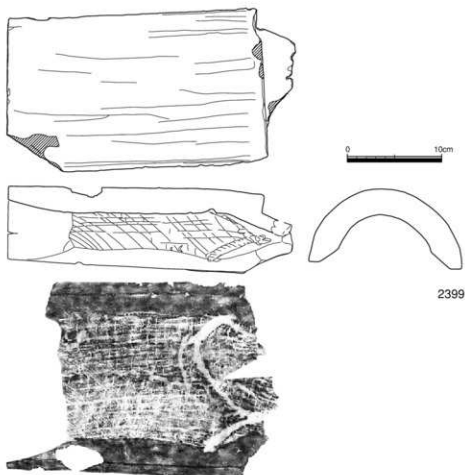
第143图 丸瓦实测图(4)



第 144 图 丸瓦实测图 (5)



第 145 图 丸瓦实测图 (6)



第146図 丸瓦実測図(7)

6 平瓦 (第147～152図2400～2410)

(1) 概要

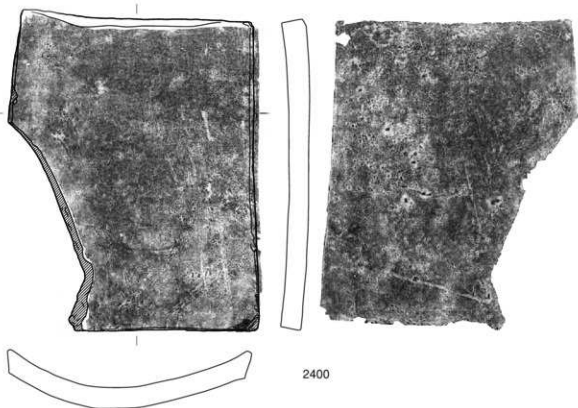
96区と97C区で、平瓦と分類できたものは接合前破片数で51540点、総重量で約6.61tが出土した。この中には軒平瓦の平瓦部、平瓦に類似した形態の道具瓦(例えば鬘斗瓦など)などが含まれている可能性が高い。大多数の平瓦は玉縁を持たない平面形が台形の平瓦であり、出土量の多さに比べると形態的なバラエティーは非常に少ないものである。ここでは代表的な事例を数点取り上げて報告とする。

(2) 資料の紹介

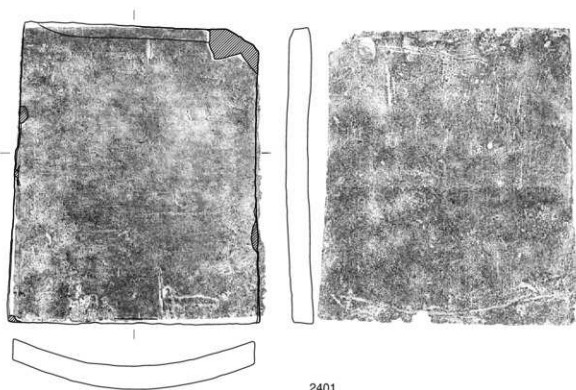
平瓦については丸瓦と同様な大別は難しい。粘土塊から粘土板を成形する際の切断方法にコビキA手

法とコビキB手法の両者が存在するものと考えられ、実際にその痕跡を見いだすことができる事例は存在するが、大半の資料では後の調整痕によって消滅し観察することができない。この点に丸瓦と違って系統差や時期差を考察する手がかりが少ない特徴が現れている。

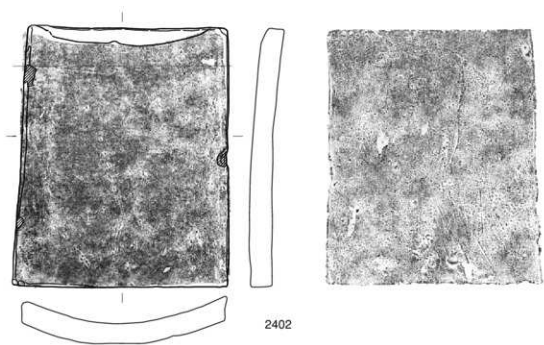
コビキA手法またはコビキB手法で粘土板を成形した後は、平瓦の形状に曲げるために成形台にはめ込んでいる。この成形台と粘土板の脱着を容易にするために布を被せるか、相当量の砂を挿している。表面(凹面)と裏面(凸面)の両方に砂が付着した痕跡や布目痕を見いだすことができるが、裏面(凸面)に砂が多量に残存する場合が多い。また、裏面(凸面)の頭小口部または尻小口部に近い部分に、小



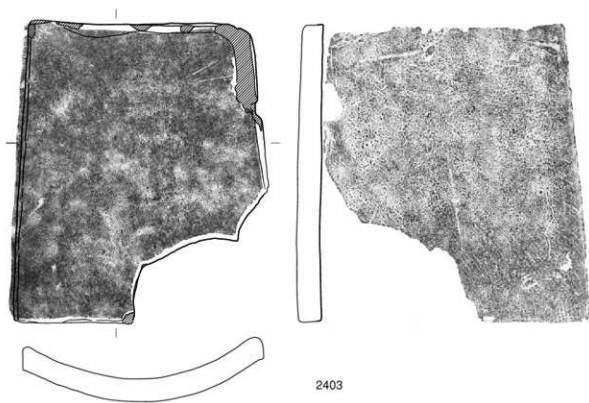
0 10cm



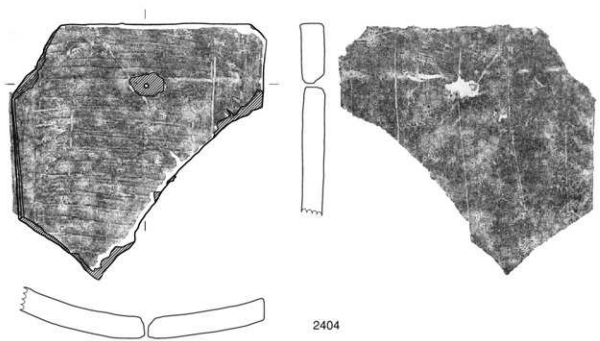
第 147 図 平瓦実測図 (1)



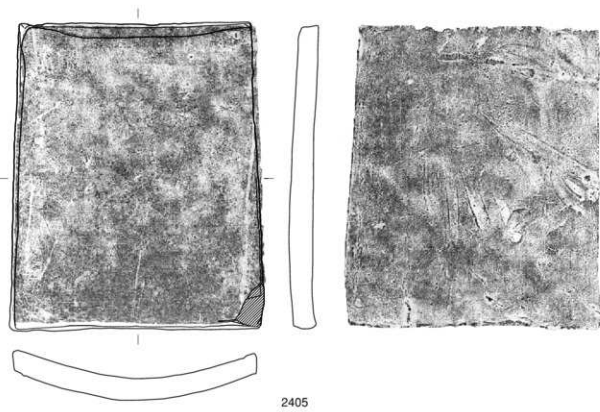
0 10cm



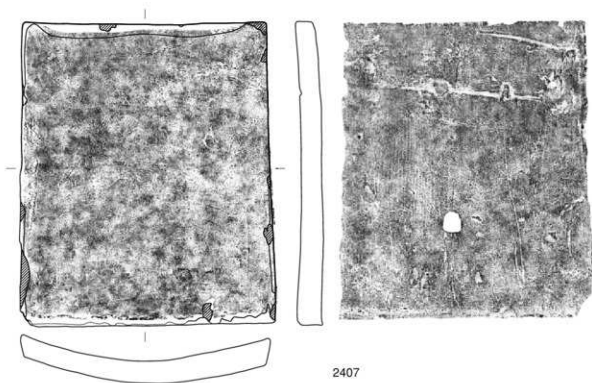
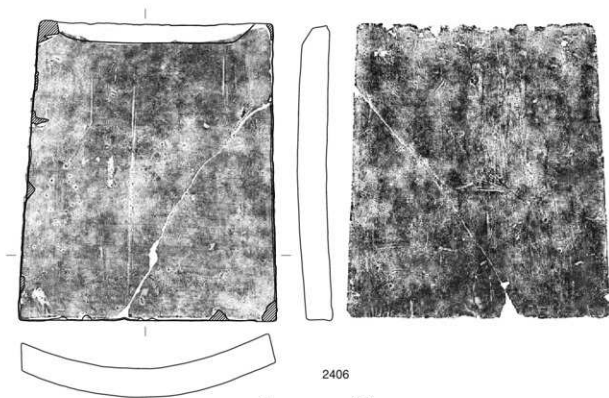
第 148 图 平瓦实测图 (2)



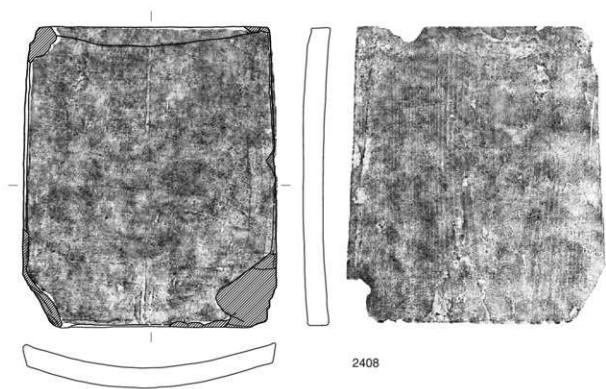
0 10cm



第 149 图 平瓦实测图 (3)

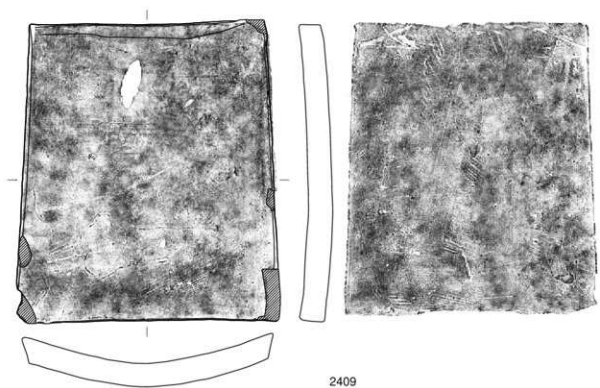


第150图 平瓦实测图(4)



2408

0 10cm



2409

第151図 平瓦実測図(5)

口に平行する緩弧状の凹線が一定量認められる。これが成形台から粘土板を脱着する際に引き上げる紐の痕跡と仮定すれば、この痕跡が残る面が成形台に密着した面と考えられる。したがって、凹状成形台と凸状成形台の両者の存在が想定されるが、どちらかといえば凹状成形台が使用された確率が高いと考えられよう。

さて、表面（凹面）については、中央の大部分は横方向の非常に丁寧なミガキ状ヘラケズリ調整が施され、両側端部は縦方向にヘラケズリ調整がなされている。一方、裏面（凸面）については、コビキ痕、布目痕や砂目痕の他に粗いハケ状工具痕などが存在し、仕上げが雑である。

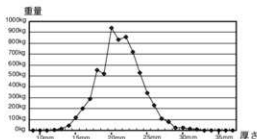
平瓦の側端部は垂直切りで切断され、上端部が面取りされる場合が多い。表面と側面で形成される角度は平均値で約75°（60°～90°の範囲で分布する）、側面と裏面で形成される角度は約120°（100°～145°の範囲で分布する）を計測する。

大部分の平瓦は、頭小口面と尻小口面ともに垂直切りで切断され、頭小口表面を幅広く面取りしたものが多く、この面取りは上位に葺かれる平瓦とうまく重なるように工夫されたものである。尻小口端面

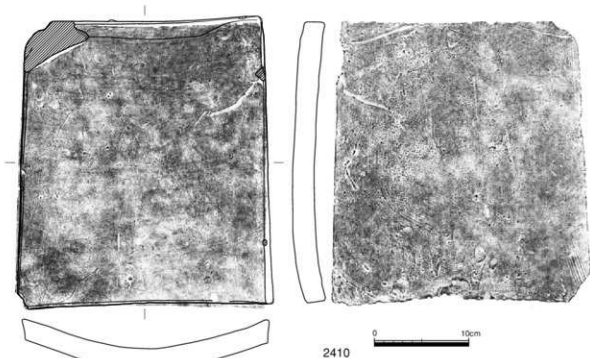
はヘラケズリ調整が施され、多量に砂や余分な粘土が付着する場合も認められる。

（3）平瓦の出土傾向

平瓦の規模は、長さは平均31cmで、大きく33cm前後、31cm前後、25cm前後に分布のピークが認められる。一方、厚さでは18mm、20mm、22mmの部分にピークが認められる（第153図）。



第153図 平瓦厚さ別出土重量図



第152図 平瓦実測図（6）

	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s
5													0.52	8.46	7.83			
6												45.26	63.56	53.59	30.99	0.03		
7										0.35	0.63	0.08	2.55	10.96	26.13	13.55		
8										0.43		0.64	1.53	17.07	11.26	42.37	0.39	
9							0.87	14.81	4.48			2.76	10.64	60.90	24.89	9.51		
10						1.87	5.99	128.20	263.01	7.06		4.04	65.89	47.04	11.68	3.93		
11						0.42	12.86	23.52	73.72	29.15	5.55	38.54	34.12	7.78				
12							12.69	35.74	110.66	169.51	112.92	35.73	21.13	1.85				
13			0.19	0.24	18.39	92.51	80.81	76.38	88.35	12.79								
14			1.89	1.13	27.73	51.19	22.32	73.92	18.99	3.15								
15			0.97	61.07	51.67	38.70	17.32	2.06	0.76									
16		8.48	65.05	23.66	0.69	3.26												
17		27.66	7.58															

第 154 図 丸瓦グリッド別出土量分布図 (単位は kg)

	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s
5														11.16	75.90			
6														114.76	111.12	0.60		
7												7.69	11.83	29.92	64.97	82.10	7.61	
8												12.75	8.73	41.01	34.64	90.26	7.84	
9							2.93	29.55	19.57	0.68	1.32	8.37	26.02	104.46	38.82	15.33		
10							40.73	467.96	576.85	20.06	1.46	17.81	120.09	103.28	22.12	6.26		
11							43.06	140.02	58.77	188.05	40.36	17.92	70.18	93.87	13.47			
12							66.45	109.51	305.81	301.11	338.69	64.36	45.02	2.30				
13			0.29	2.71	43.06	183.55	262.28	163.69	143.88	25.43								
14		0.06	6.49	7.98	63.88	156.53	58.10	198.65	47.39	9.61	17.32							
15		2.27	10.35	143.16	191.33	37.07	10.16	4.07										
16	1.92	32.21	134.65	58.99	2.45	7.73	1.95											
17	0.2	53.44	14.36	0.21	0.13													

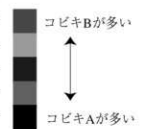
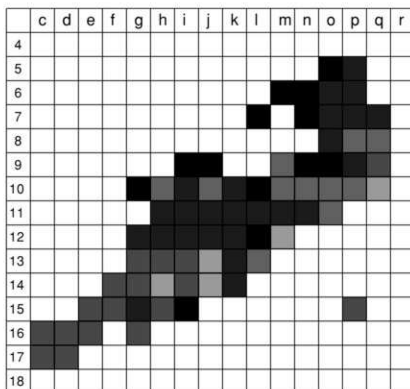
第 155 図 平瓦グリッド別出土量分布図 (単位は kg)

品目	重さ	個数	合計			平均	範囲	
2.1	11	13	480	17	19	480	480	
2.2			480			480	570	
2.3			9030			2430	9400	
2.4			4320	990		2520	7800	
2.5		770	2000	15120		9070	43200	
2.6		330	2320	300	4710	8550	4210	
2.7		1040	28200	15040	19200	63500		
2.8	430	10000	10410		25030	51000		
2.9	200	1000	19370	2440	4600	10000		
2.10						90	80	
2.11						350	350	
2.12						630	630	
2.13						80	80	
2.14	780	240	2240		5110	9200		
2.15		430	4260	100	5000	10000		
2.16					680	1110		
2.17		2800	11200	3000	8330	26130		
2.18	300	3340	404	404	7360	13500		
2.19			340			430	430	
2.20					640	640		
2.21					80	1830		
2.22		510	6290	7500	2670	17070		
2.23			1400	1000	4120	11260		
2.24	1320	19420	5640		15000	43370		
2.25		100			200	300		
2.26			680		190	870		
2.27		740	740	1200	3670	14810		
2.28					120	120		
2.29			1100	300	800	4400		
2.30					240	620		
2.31		210	140		570	730		
2.32			810	140	2420	10040		
2.33			9010	2240	2420	10040		
2.34		1370	29770	16700	17400	60000		
2.35	830	17000	5030		4530	24000		
2.36		210	4130	4010	1100	9510		
2.37			900	150	730	710	870	
2.38			1870	2130	1700	9000		
2.39	110	4130	40600	16700	800	60040	120200	
2.40	350	14000	10500	76110	4050	41450	26310	
2.41					4050	760		
2.42			500	1520	1400	430	4040	
2.43		120	6000	13000	13300	60000		
2.44			1000	10000	12030	870	15000	47040
2.45		110	780	4710	2410	1140	6610	
2.46			1000	2570	300	900	9000	
2.47					420	420		
2.48					1130	1260		
2.49		110	1100	1130	740	4300	4300	
2.50			240	140	1030	1120		
2.51		110	110	1000	1130	1030	2330	
2.52		300	3030	3030	230	3030	7370	
2.53			2930	3200	4930	20130		
2.54			730	170	2010	2630	5250	
2.55			1370	15000	6100	17420	35400	
2.56		1400	17200	2020	17220	34120		
2.57			840	2000	4350	7780		
2.58			2720	3410	760	4000	13000	
2.59			4740	6040	2920	10740	13140	
2.60	640	5020	40500	13000	47200	110000		
2.61	440	12740	58180	20200	540	76330	108010	
2.62	300	4900	40270	15130	230	54700	112020	
2.63		780	1500	10020	9220	28700		
2.64		1300	11900	4000	3200	11130		
2.65			730	640		440	1850	
2.66					190	190		
2.67					240	240		
2.68					440	1830		
2.69	1270	420	890	2000	5400	18300		
2.70		1720	9440	7370	10400	410	13000	93210
2.71		780	3660	11360	7470	660	35030	80810
2.72			7440	2740	8720	590	32990	26340
2.73	150	7530	30030	13040	13040	4930	14930	
2.74			1330	1670	4100	2440	17900	
2.75		140	770	490	630	1890		
2.76					30	1130		
2.77		360	2480	10620	2700	11530	5070	
2.78		260	4470	18500	15000	12670	51100	
2.79		1440	5230	4200	11300	23200		
2.80	1140	10510	20220	7210	450	34200	72020	
2.81			2260	2770	1760	3090	10000	
2.82				330		2620	3120	
2.83					440	440		
2.84			210	630	130	970		
2.85			9200	24760	4050	20960	43070	
2.86			2040	10000	9700	630	19700	51070
2.87			1100	14760	16400	2410	4130	38700
2.88			350	4910	4000	7200	17300	
2.89			190	850	170	900	2000	
2.90					130	760		
2.91			1470	4630	300	7100	8400	
2.92			5340	20440	8440	34040	40000	
2.93			1080	17110	4000	4190	25000	
2.94					660	660		
2.95					570	2360		
2.96		400	4010	4010	400	11520	72000	
2.97			1620	1620	520	4570	7480	
2.98	670	320	404	1410	4200	4700	9700	
2.99	8400	17130	101820	40730	14030	98410	266340	

品目	重さ	個数	合計			平均	範囲					
3.1	11	13	480	17	19	480	480					
3.2						7	4					
3.3						10	31	41				
3.4						11	3	24	28			
3.5						4	40	33	46	170		
3.6						7	7	11	7	40		
3.7						5	60	20	242	240		
3.8						4	47	18	265	333		
3.9	1	7	52	16		98	173					
3.10						8	4					
3.11						4	4					
3.12						11	11					
3.13						2	2					
3.14						1	3	4	11			
3.15	1	3	13	1		15	14					
3.16						11	33	11	126	181		
3.17						1	13	4	89	111		
3.18						1	1	4	7	2		
3.19						5	5					
3.20						1	1	2	4			
3.21						1	10	14	25	56		
3.22						1	8	2	7	40		
3.23						5	61	16	130	224		
3.24						1	1	2				
3.25						1	1	2				
3.26						3	17	3	1	5	79	
3.27						2	3	1	39	43		
3.28						1	1	3				
3.29						11	3	20	34			
3.30						11	45	36	141	273		
3.31						1	40	20	7	135		
3.32						1	13	4	14	36		
3.33						1	7	11	1	18	22	
3.34						5	4				33	
3.35						1	10	11	3	78	904	
3.36						1	34	29	159	3	407	1329
3.37						4	26					
3.38						1	5	2	3	16		
3.39						1	20	107	58	136	317	
3.40						4	40	23	1	140	214	
3.41						1	7	11	14	140	41	
3.42						1	3	5	9	17		
3.43						4	12	2	22	96		
3.44						1	3	40	3	24	42	
3.45						1	40	5	3	126	1304	
3.46						1	30	17	30	1	203	474
3.47						11	20	20	7	141		
3.48						5	4	17	16	46	64	
3.49						7	4	11	1	13	72	
3.50						6	45	9	124	164		
3.51						7	3	3	21	36		
3.52						1	10	1	62	83		
3.53						1	4	4	21	74		
3.54						5	42	142	41	547	773	
3.55						3	37	49	58	1	82	1137
3.56						2	17	179	41	1	603	884
3.57						4	4	11	1	12	142	
3.58						3	19	5	42	34		
3.59						4	4	1	5	10		
3.60						1	1	1	1	1		
3.61						3	24	7	4	65	94	
3.62						6	37	98	21	3	800	545
3.63						1	20	118	25	2	265	559
3.64						1	36	106	10	4	415	876
3.65						1	19	5	1	14	430	
3.66						2	4	8	27	33		
3.67						1	1	1	1	4	35	
3.68						1	11	38	6	117	262	
3.69						1	20	54	20	127	231	
3.70						4	18	5	93	120		
3.71						4	41	67	24	1	385	524
3.72						1	3	3	4	8	12	
3.73						1	1	1	1	2	3	
3.74												
3.75						1	1	1	1	1	3	
3.76						1	4	10	1	1	1	1
3.77						14	49	10	27	106	240	
3.78						1	5	5	5	1	15	125
3.79						1	1	1	1	5	75	
3.80						4	4	4	4	5	17	
3.81												

第7表 丸瓦の筒部径と厚さ別の出土量一覧表

破片数								重さ (単位はg)							
厚	径							厚	径						
	11	13	15	17	19	不明	総計		11	13	15	17	19	不明	総計
10						1	1	10						20	20
11						5	5	11						170	170
12			1			1	2	12			100			80	180
13		2	1	1	1	14	19	13		210	420	60	100	600	1390
14		7	9	2		58	76	14		1720	1380	550		3190	6840
15	1	9	6	2		139	157	15	200	1520	1220	190		9460	12590
16	2	26	36	4		256	324	16	690	4970	6900	520		18050	31130
17	4	38	54	7		347	450	17	790	8790	13580	1840		28020	53020
18	9	108	172	30	2	775	1096	18	1450	30650	46690	8760	480	69540	157570
19	2	61	115	27	1	508	714	19	750	14780	34690	7170	230	49050	106670
20	3	97	292	68		965	1425	20	900	26250	97640	24630		95490	244910
21	5	70	281	61	1	758	1176	21	1250	15310	90420	24290	210	81900	213380
22	4	75	382	99	3	895	1458	22	1330	19420	127060	40230	490	98290	286820
23	3	81	387	128	2	767	1368	23	910	21610	133540	56510	420	83000	295990
24	1	40	322	125	1	576	1065	24	210	10400	118490	54590	230	70880	254800
25		24	274	104		509	911	25		6600	116700	47270		68150	238720
26		21	229	98	2	322	672	26		4450	83220	44460	2600	45740	180470
27		12	104	78	2	173	369	27		2470	39530	40440	890	23630	106960
28		6	100	75	4	111	296	28		1280	33290	42700	3160	15860	96290
29		1	34	28	3	52	118	29		250	15100	21480	3370	8340	48540
30		3	38	30		50	121	30		380	16270	24390		9540	50580
31			16	16	1	17	50	31			6790	11120	870	2140	20920
32				9	10	1	11	32			3290	5760	1670	1070	11790
33		1	5	3		2	11	33		180	1240	1400		1600	4420
34				9	1		4	34			3530	260		370	4160
35							1	35						60	60
36							2	36			750				750
38							2	38			280	280			560
不明		16	107	34	1	3640	3798	不明		2140	21500	8390	110	201570	233710
総計	34	698	2986	1032	25	10957	15732	総計	8480	173380	1013620	467290	14830	985810	2663410



1マスは5mグリッドを示す。

第156図 丸瓦のコビキA・Bの出土量比分布図

出所地	厚	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45					
20		1	2	1	1	2	1	7	4	10	11	4	4	4	1	7																										
20		3	7	9	10	12	11	9	9	32	78	41	41	41	22	26	9	9	4	2	1	1																			98	506
20		1	4	8	9	24	32	41	38	115	99	79	90	41	28	17	6	3	3	2																				163	851	
20		1	3	4	16	34	31	31	82	84	530	82	77	31	42	21	12	5	10	1																				184	866	
20			1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1																				2	111	
20			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																				7	45	
20			1	2	2	8	12	11	21	35	30	16	11	5	5	5	5	5	5	1																				77	244	
20			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																				91	387	
20			4	4	11	30	31	41	37	75	46	87	39	25	21	8	2	2	1																					162	875	
20			7	13	11	43	39	60	53	93	83	80	45	26	20	11	5	3	2																					92	721	
20			4	3	8	5	14	4	9	8	10	7	3	1	2																									43	47	
20			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																					6	96	
20			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																					4	47	
20			2	4	11	10	21	27	39	16	24	12	5	9	2	1																								44	227	
20																																									20	21
20			2	15	14	17	28	25	42	27	22	27	19	8																										29	241	
20			1	4	12	57	55	55	52	65	74	47	25	17	5	5	1																							60	587	
20			2	2	6	10	8	4	7	5	3	1	3	2																										7	63	
20			2	1	4	7	2	5	7	8	1																													6	43	
20																																									4	4
20			4	2	9	16	11	23	28	31	33	27	13	11	8	2																								51	273	
20			1	1	3	8	4	12	27	20	30	15	12	9	3	2																								18	308	
20																																									2	4
20			1	1	2	2	5	5	13	19	15	12	15	10	3	5	2	1																						30	138	
20			1	7	3	8	12	26	62	39	88	30	68	31	20	3	5	9	6	1																				130	721	
20			2	2	7	5	16	29	18	46	26	30	21	17	6	5	4	2	1																					49	304	
20			2	7	7	1	1	4	2	6	8	4	3	11	11	3	3																							4	97	
20			4	11	10	25	25	28	52	54	48	28	21	13	12	2	2	1																						27	354	
20			1	13	19	85	207	255	323	485	377	506	626	556	304	190	136	48	18	8	3	5	1	1	1	1	1												115	1115		
20			2	4	16	48	104	104	324	452	398	540	512	432	302	170	73	37	31	20	2	7	2	1	1	1	1												1	514	4039	
20			1	3	5	8	12	17	18	26	30	30	29	12	4	7	2																								70	255
20																																									11	33
20			1	7	3	7	8	8	11	21	21	21	21	12	5	4	2																							12	126	
20			3	6	13	42	47	50	118	102	112	75	26	17	16	2	1																							79	744	
20			2	6	4	26	32	31	42	31	76	36	40	30	14	7	8	4	1																					9	611	
20			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																					1	19	156
20																																									1	45
11.20			1	5	7	1	6	5	13	4	3	7	3	4																										3	65	
11			1	3	9	20	32	47	46	42	48	44	28	24	12	12	8	4																						28	293	
11			1	8	17	49	64	76	115	91	89	111	118	103	31	33	21	5	6	1																				82	1126	
11	1/31		1	2	7	7	7	5	9	5	5	5	2	1																										8	64	
11			1	1	16	28	31	53	54	50	64	52	45	35	14	10	8																								77	544
11			4	6	18	36	64	107	103	122	109	102	127	119	47	37	32	10	3	2	1																			367	1709	
11			2	7	7	14	17	21	26	34	36	37	21	26	10	3	2	1																						87	387	
11			1	7	15	13	9	17	19	16	14	17	9	7	4	4																									46	195
11			1	6	18	23	31	49	49	39	62	36	49	23	26	10	3	4	1																						102	614
11			1	13	11	24	24	43	52	37	81	95	68	47	20	6	4	3	1																					107	685	
11			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																					1	31	261
11			2	8	10	24	22	23	44	111	75	87	58	16	9	3	7	2	1																					30	301	
11			1	3	13	15	24	31	79	90	106	121	122	117	62	44	27	7	6	2	1																			47	981	
11			1	7	13	29	113	165	174	254	379	523	265	212	153	107	46	20	8	7	5	3																		308	2036	
11			1	8	14	39	21	41	54	49	46	50	21	34	207	259	119	62	69	1																				1	297	613
11	1/1		4	16	52	112	155	233	234	284	474	361	315	203	146	78	41	22	16	6	4	1	2	1	1														612	3485		
11			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																					1	181	936
11			1																																							

7 飾瓦 (第157～161図2411～2489)

(1) 概要

飾瓦と分類できたものは総数で96区出土資料で147点(26.87kg)を数える。紋様の全容が判明するものは少なく、大部分は小破片となっている。飾瓦の分類については「清洲城下町遺跡Ⅶ」(鈴木編1997)で実施されており、今回もこの成果を踏襲して一部変更を加えて報告することとした。飾瓦は紋様部の製作方法によって大きく3類に分類される。A類は粘土板から削り出して製作するもの、B類は紋様の范型を押して製作するもの、C類は無紋のものである。今回はこれ以外に、上記の分類では区分できない小破片のうち金箔が残る資料など(2473・2474・2483～2485など)も一部紹介している。

(2) 飾瓦A類

今回出土した飾瓦A類は、平面形が方形または長方形のもので、43点以上が確認された。これらは紋様構成から8類に分けられる。

A 飾瓦A1類 (第159図2462～2468)

平行四辺形を交互に組み合わせた紋様構成のものである。平行四辺形紋の間の溝の部分に釘孔が穿孔されている(2462)。飾瓦A1類は厚さによっていくつかに細分され、厚さが40mm程度のもの(2462・2468)、32mm程度のもの(2463・2464・2466・2467)と厚さが25mm程度のもの(2465)に区分される。

B 飾瓦A2類 (第157図2411～2422)

幅広の突帯を交差させ亀甲紋を形作る紋様構成のものである。凹部は六角形と小三角形の形状となり、厚さは25mm程度を測る。幅広の突帯の上面に金箔が押されたもの(2411・2413・2415～2417)が多く、残存状況は不良で金箔片や下地の漆膜片がかすかに残る程度に過ぎない。六角形状の凹部の隅角部に釘孔が穿孔されている(2412・2416・2419・2421)。

C 飾瓦A3類 (第158図2461)

全体の紋様構成は復元することができないが、弧状の幅広い突帯を2列配置するものである。厚さは20mm以下の薄いもので、今回の調査では94A区に

比べあまり出土していない。

D 飾瓦A4類 (第159図2469)

木瓜紋を浮彫りで表現したものである。2469は最厚部が約40mmを測るもので、木瓜紋の上面に金箔が施されている。木瓜紋の外郭線部分は輪郭を描いたヘラ切りの痕跡が残存し、紋様部以外の下地部分や裏面にはヘラケズリ調整が施されていた。飾瓦の両端部は薄くなっており、隅角部に近い部分に穿孔されている。2472も飾瓦A4類の一部の可能性がある。

E 飾瓦A5類 (第157図2423～2438)

亀甲紋に四星形を組み合わせた紋様構成のものである。亀甲紋の間の溝の部分に釘孔が穿孔されている(2423～2430・2433・2436)。厚さは20mm以下の薄いものが多く、厚いもの(2438)でも25mm前後である。亀甲紋の凸面上に金箔が残存するもの(2427・2431・2432)が確認され、裏面はヘラケズリ調整が施される。端部はやや斜めに切断されている。

F 飾瓦A6類 (第158図2450・2451・2453)

全体の紋様構成は復元することができないが、剣かたばみ紋を配置すると考えられるものである。「清洲城下町遺跡Ⅶ」では、紋様の范型を押して製作したと考えて飾瓦B3類としたが、今回削り出された調整痕をみることでできたため、A6類に変更した。紋様の突帯以外の部分で穿孔されている。

G 飾瓦A7類 (第158図2455・2456)

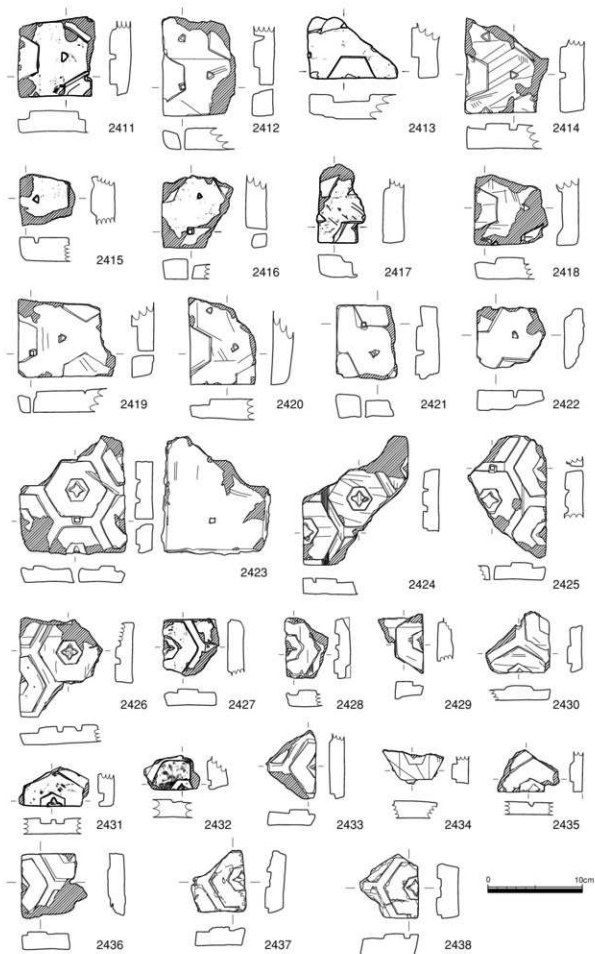
全体の紋様構成は復元することができないが、菱形状紋を配置するものである。厚さは20mm以下のもの(2455)と25mm程度を測るもの(2456)がある。

H 飾瓦A8類 (第159図2470)

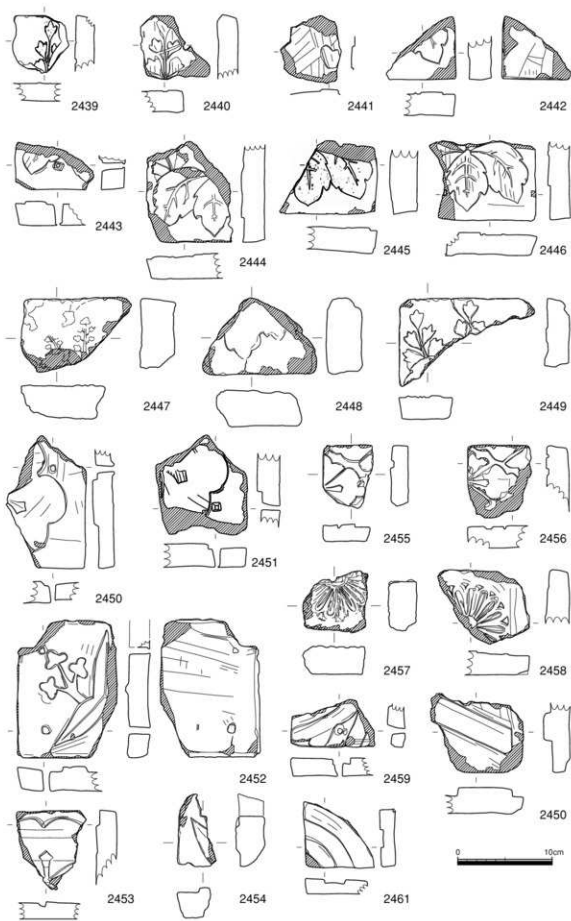
全体の紋様構成は復元することができないが、剣菱紋を配置するものである。表面には金箔が押された痕跡が残存する。

(3) 飾瓦B類

今回出土した飾瓦B類は、平面形が方形と推測されるもので、14点存在する。紋様構成から3類に分



第 157 図 飾瓦実測図 (1)



第158図 飾瓦実測図(2)

類でできる。

A 飾瓦B 1類 (第158図2439～2449)

五五桐紋のみを配置した紋様構成のものである。大部分が欠損したものばかりであるために、飾瓦B 1類か飾瓦B 2類かの判別は厳密にはできないが、ここでは桐紋が残存するものを飾瓦B 1類として報告する。桐の葉は欠刻が鋭い「鬼桐」状(2442～2446)で枝が短く花蕾の先端が尖っている(2439・2440・2449)。黒田分類B II b (黒田1993)に該当するだろう。桐紋の下に穿孔されたもの(2443)がある。厚さは25mm程度の薄いものと40mm弱の厚いものの二者がある。

B 飾瓦B 2類 (第158図2457・2458)

五七桐紋と菊紋を交互に配置する紋様構成のものである。菊紋は16単弁紋と考えられるが、桐紋は残存せず不明である。

C 飾瓦B 3類 (第160図2482)

全体の紋様構成は復元することができないが、木瓜紋を配置するものである。おそらく、平面形が長方形かつ横断面形が直角に屈曲するもの直角に折れ曲がった端面に紋様が施されたものと推測される。

8 鬼瓦 (第161～165図2490～2515)

(1) 概要

鬼瓦と分類できたもの(96区出土資料)は総数で27点を数える。紋様の全容が判明するものは少なく、大部分は小破片となっている。形状がある程度判明するものについて分類を行うと、次のように分けることができる。鬼瓦A類は偏平な粘土板に紋様部分を貼り付けたのみもの、鬼瓦B類は粘土板の表面に紋様を貼り付け裏側には外周部に厚い突帯を付けるもの、鬼瓦C類は破片全体が装飾的な形状となるものである。この分類は暫定的なものであり、取り上げた資料の中には鬼瓦でないものを誤認した可能性もあることをあらかじめ断っておく。

(2) 鬼瓦A類

鬼瓦A類は偏平な粘土板に紋様部分を貼り付けたのみのものであり、外周部端部の断面形はおおよそ

(4) 飾瓦C類

今回出土した飾瓦C類は全部で29点が出土した。これらは平面形や断面形から3類に区分できる。

A 飾瓦C 1類 (第161図2489)

平面形が方形となるものである。2489は半分以上が欠損する資料で孔が2個存在する。2475は、2489よりもやや大きく端部の断面形態も異なるもので、C 1類ではない可能性が残されている。

B 飾瓦C 2類

平面形が長方形となるものである。今回は明瞭なものは確認できなかった。

C 飾瓦C 3類 (第160図2478～2480)

平面形が長方形、横断面形が直角に屈曲するものである。屈曲部の状態で、内側が鈍角に折れるタイプ(2478・2479)と内側が直角に折れるタイプ(2480)に分けられる。

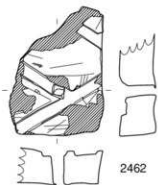
C 飾瓦C 4類 (第160図2481)

偏平な直方体の中央付近に穿孔されるものである。道具瓦の一種かも知れない。

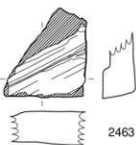
方形となっている。

2499は鬼瓦の中で唯一全体の形状をある程度復元できる資料である。幅約50cm、高さ約44cmの規模を持つ平面五角形の厚い粘土板の表面に紋様が施されるものである。紋様は上半部に幅約3cm、高さ約2cmの断面方形の突帯を2条傘形に貼り付け、下半部に3個の円形紋の沈線が刻まれたものである。上半部の突帯の上位が4ヶ所穿孔され、下半部の2個の円形紋の中心にも穿孔されている。円形紋は途中で途切れたりしており、きちんと装飾用に描かれたものとは考えにくく、その上に何らかの別の装飾を加えるための下絵である可能性を考えたい。裏面は突帯などの付属物はなく、ヘラズリ調整やナデ調整などが施されているに過ぎない。

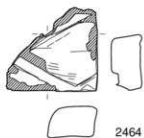
2490～2492などは2499に類似する資料群である。特に2492は左下円形紋の左下部分の破片と考えられ、2ヶ所で穿孔されている。2492の存在から少な



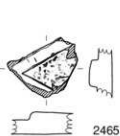
2462



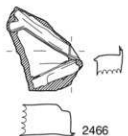
2463



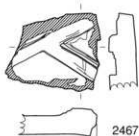
2464



2465



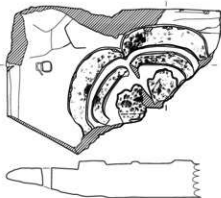
2466



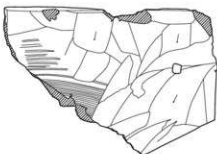
2467



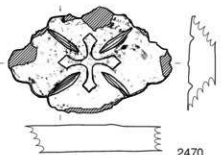
2468



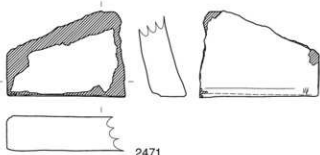
2469



0 10cm

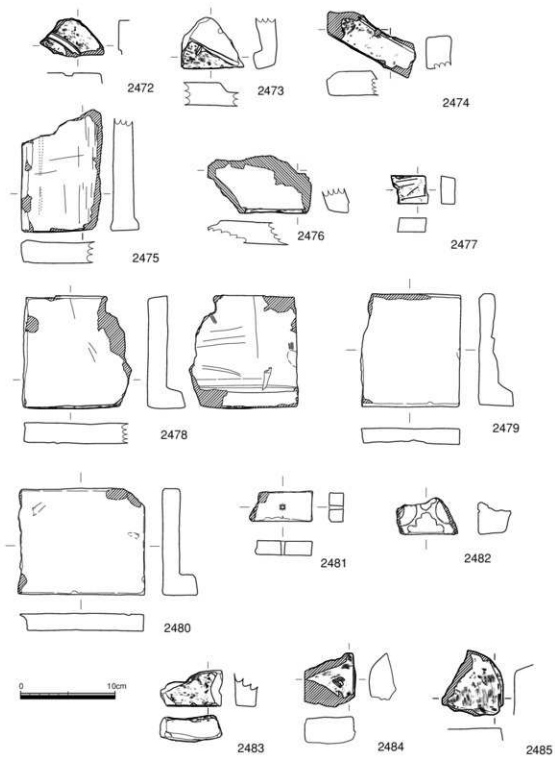


2470

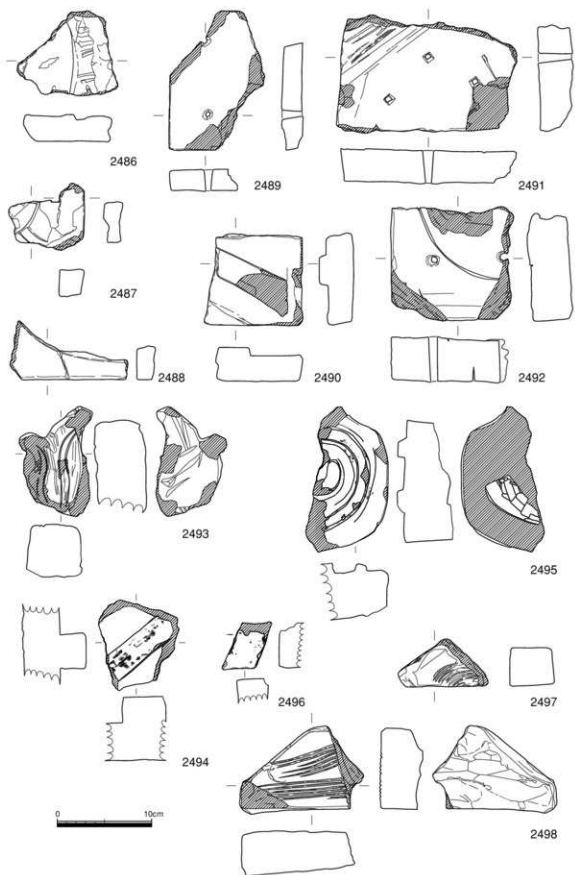


2471

第159图 饰瓦实测图(3)



第160図 飾瓦実測図(4)



第161図 飾瓦・鬼瓦実測図

くとも2499のような鬼瓦は一对以上が存在することが明らかである。2492の円形紋の沈線は非常に深く刻まれている。2490と2491と2494は2499とは形状が異なる可能性が高いものであるが、幅広の突帯が付く（付く痕跡が残っている）ものである。

(3) 鬼瓦B類

鬼瓦B類は粘土板の裏側には外周部に厚い突帯を付けるもので、外周部端部の断面形はL字状に屈曲する形となるものが大半を占める。

2495は鬼瓦右端部端部の破片と推測されるもので、表面は雲紋？（渦巻き状紋様）が施されている。表面の突帯上には金箔が押されており、裏面外周部の突帯は剥落している。2500は表面に植物状の彫刻が貼り付けられた鬼瓦である。紋様の正確なモチーフは不明で、裏側には中央部に鬼瓦を支えるための把手が付き右側外周部には突帯が付着していた。表面はきれいにミガキ調整が施されるのに対して、裏面は乱雑なヘラケズリ調整が施されている。2501は鬼瓦B類が特定できないが2500のように把手がつくことから鬼瓦B類として報告する。表面は剣かたばみ

紋が施されていると考えられる。2502と2503は把手本体である。2505と2506は鬼瓦B類の袖部分の破片と考えられる。先端が返り状に彎曲している。表面や側面は丁寧にミガキ調整がなされている。2513は鬼瓦B類の左側部分の比較的大きな破片資料である。表面は外側部分に突帯が存在し上位に紋様の痕跡が認められる。裏面は外周部に突帯が巡っており、その内側は粗くヘラケズリ調整されている。2508は外周の突帯部の裏側が彎曲するタイプで、他の鬼瓦B類とは異なる。表面には円形スタンプ紋が一列に並んでいる。

(4) 鬼瓦C類

鬼瓦C類は破片全体が装飾的な形状となるもので、様々な形状があるが、本当に鬼瓦か否か確認が持てないものが多い。

2493は側面部の雲紋先端部分の可能性が考えられるものである。表面には装飾の沈線が施される。2497と2498は三角形の平面形を持つ板状の製品で表面に繡描き紋が施される。

9 鱗瓦 (第165・166図2516～2528)

(1) 概要

鱗瓦と分類できたもの(96区出土資料)は総数で15点を数える。全形が判明するものは少なく、小破片が多い。ここで取り上げた資料の中には、鱗瓦でないものを誤認した可能性もあることを断っておく。

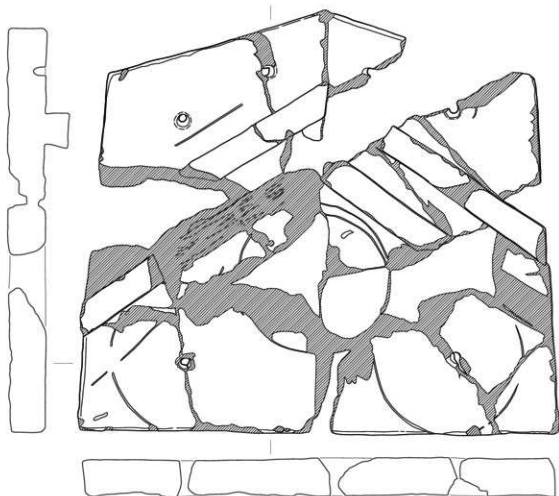
(2) 資料紹介

鱗瓦は体部、背鱗部、口部、鼻部、目部などが破片となって出土した。

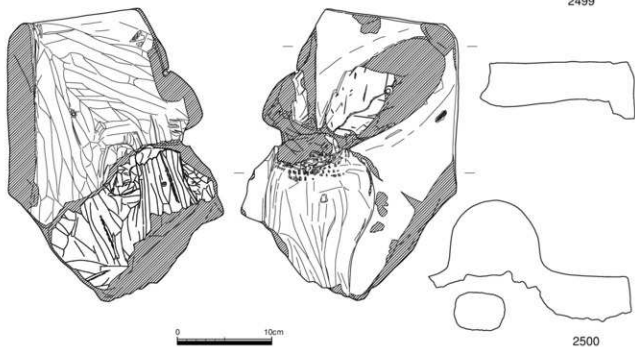
体部には表面に鱗紋が施されたもの(2516～2519・2527・2528)と、表面の粗いヘラケズリ調整が残存するもの(2520～2522)が存在する。前者に見られる鱗紋は全てスタンプで馬蹄形の沈線が連続して押印されたもので、鱗を貼り付けたものは存在しない。2527は下端部から尾部中央付近まで残存する資料である。粘土板によって本体が成形され、上

部にやや大きな鱗紋が施され、下部に別粘土を貼り付けて口角部が形作られている。尾部には円形の大きな孔が2ヶ所存在する。2528も、2527と同様に、下端部から尾部中央付近まで残存する資料である。粘土板によって本体が成形され、上部に小さな鱗紋が施され、下部に別粘土を少量貼り付けて口角部が形作られている。鱗の後面にも上部は鱗紋、下部は波状の突帯が装飾され、上部には鱗の突起が2個確認される。横断面形はいびつな楕円形を呈すると推測される。

背鱗部が残存するものは2528の他に2526がある。2526は帯状となる背鱗部に刻み紋が施されたものである。2524は鱗瓦の口部と思われる資料で、表面は同心円状に造形されている。2525は鱗瓦の鼻部と想定され、下端(鼻頭部?)は連弁状の形態で先端が尖っている。2523は鱗瓦の目部と考えられ、貼り付けられた目の輪郭が剥がれたものと推測される。

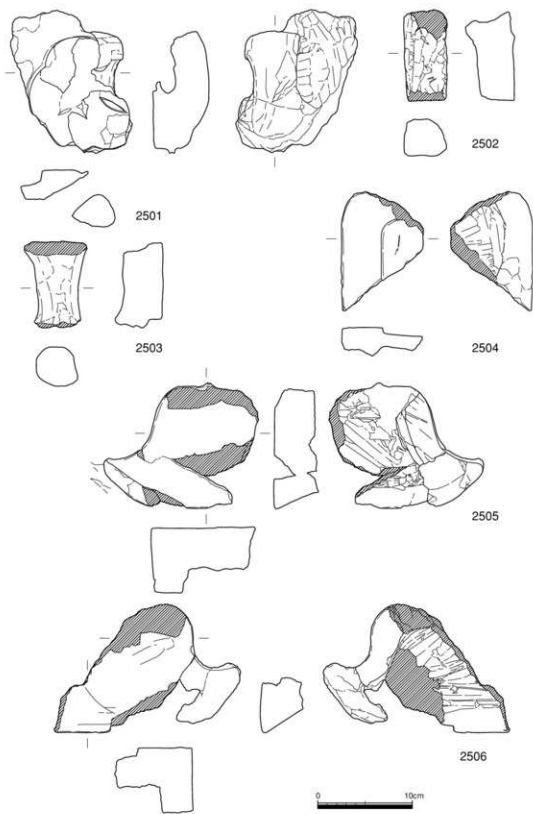


2499

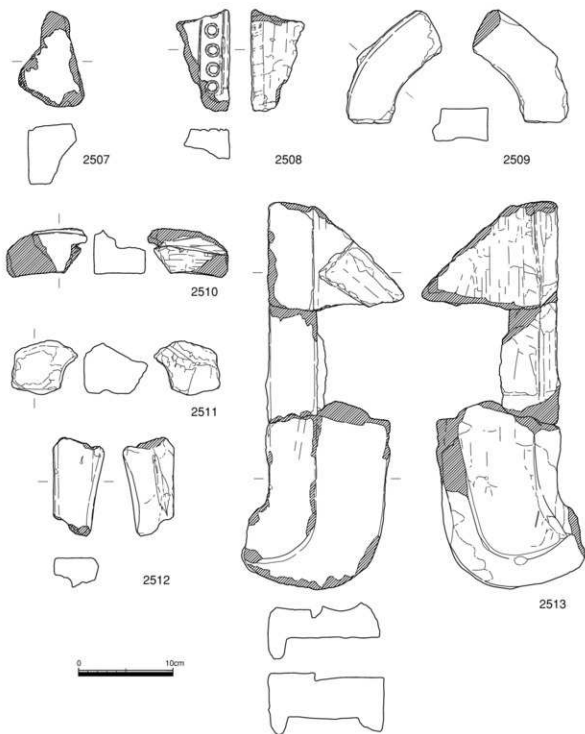


2500

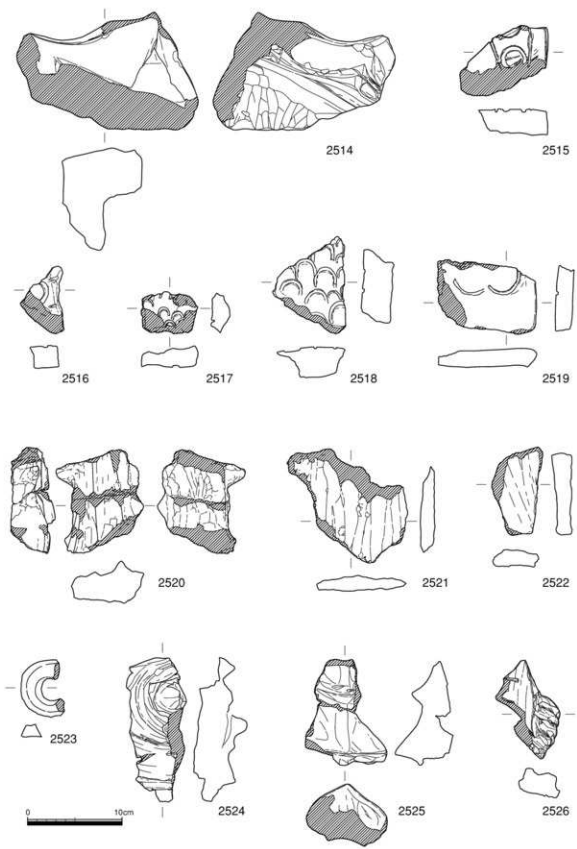
第162図 鬼瓦実測図(1)



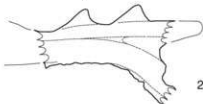
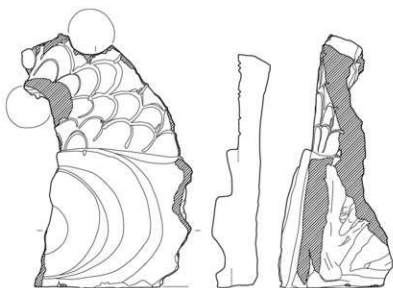
第 163 图 鬼瓦実測图 (2)



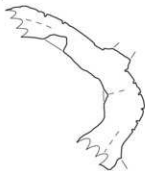
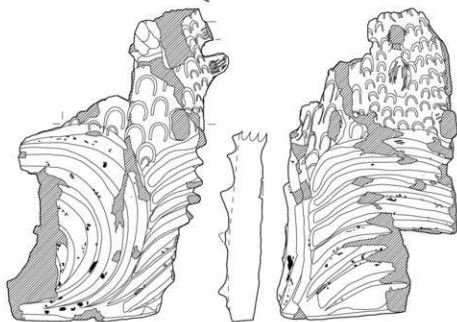
第164图 鬼瓦实测图(3)



第 165 图 盐瓦实测图 (1)



2527



2528

0 10cm

第166図 鯨瓦実測図(2)

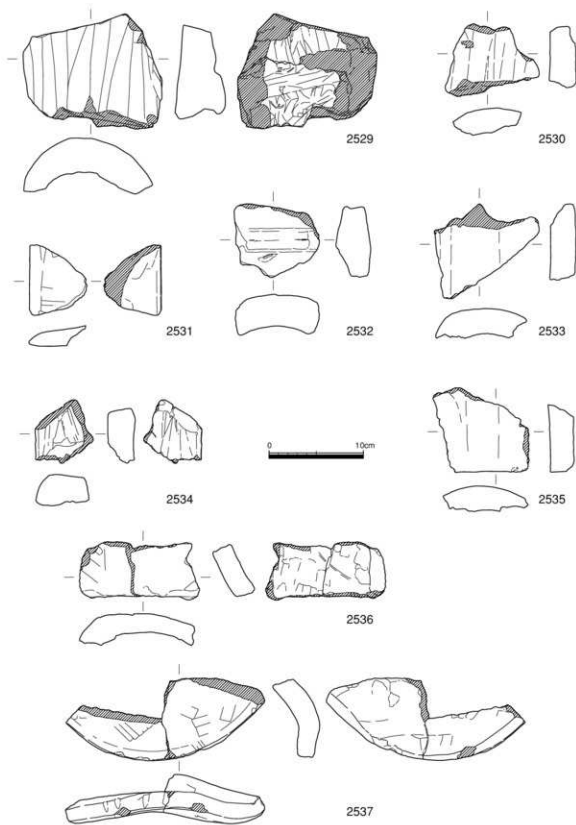
10 造形瓦類 (第167図2529～2537)

(1) 概要

飾瓦、鬼瓦や鯨瓦などと同定できないものを造形瓦類として一括して報告する。これらは、本来は特定の用途で使用された瓦類と考えられるが、現状の小破片では識別できないものである。96区の調査では総数で33点(4.2kg)が出土した。

(2) 資料紹介

2529～2536は体部の破片と推測されるもので、表面と思われる面にはヘラケズリ調整やミガキ調整などが施されている。2529と2530は縦方向に連続するミガキ(ヘラケズリ)調整によって曲面が形作られたものである。2533と2535はやや幅広い面が緩やかに彎曲しながら展開するものである。2537は外周部が波状に彎曲する平面形が円形と推測される板状瓦で、留蓋瓦と推測できるものである。



第 167 图 造形瓦類実測図 (1)

11 道具瓦 (第168～179図2538～2601)

(1) 概要

道具瓦には輪違い瓦、面戸瓦、伏間瓦や装斗瓦などがある。ここではこれらの種別に記述を進めていき、これに属さない種類の道具瓦については丸瓦系道具瓦と平瓦系道具瓦に区分して報告する。

(2) 輪違い瓦 (第168～171図2529～2553)

輪違い瓦は棟込瓦の一種で、丸瓦の形態を短く小形にした形状のものである。96区では933点(137kg)が出土しており、これらは大きく5類に分類できるが、個々の資料を見ていくと区分に迷うものが多く存在する。

A 輪違い瓦A類

行基葺丸瓦の形態を短くした形状のものである。製作方法は行基葺丸瓦とはほぼ同様で、今回の調査では確実な資料で132点、可能性のあるものまで含めて計算すると317点が出土した。裏面にコピキA手法が残存するものとコピキB手法が残存するものがある。頭部(斜めにヘラケズリ調整されたソケット状の部分)と胴部の形状から細分が可能である。

(A) 輪違い瓦A1類

胴部の長さが頭部の長さよりも長いもの(2538・2539・2541・2542)である。大部分が裏面に吊り紐痕が残存している。

(B) 輪違い瓦A2類

胴部の長さが頭部の長さとはほぼ同等のもの(2540)である。2540の内面にはコピキA手法の痕跡が見られる。

(C) 輪違い瓦A3類

胴部と頭部の境界が不明瞭なもの(2543)である。

B 輪違い瓦B類

丸瓦胴部のみを切断したような形状のもの(2546～2548)である。斜めにヘラケズリ調整された頭部を持たず、小口裏面のみに面取りが施されている。製作方法は丸瓦とはほぼ同様である。今回の調査では確実な資料で70点、可能性のあるものまで含めて計算すると115点が出土した。

C 輪違い瓦C類

平面形が六角形状になるものである。裏側面のヘラケズリ調整の範囲が広いものである。今回の調査では確実な資料で185点が出土した。頭部と尻部の裏面のヘラケズリ調整の形状から2類に細分ができる。

(A) 輪違い瓦C1類

裏側面でも頭部と尻部の裏面ヘラケズリ調整がほぼ接するものである。

(B) 輪違い瓦C2類

頭部と尻部の裏面ヘラケズリ調整が離れており、胴部をなすもの(2549～2552)である。大部分の輪違い瓦C類はこれに属する。

D 輪違い瓦D類

『清洲城下町遺跡Ⅶ』では上記の区分に合致しないものを輪違い瓦D類としたが、本稿では平面形が平行四辺形状になるもの(2544・2545)を輪違い瓦D類と分類する。丸瓦胴部のみを斜に平行な形で切断したような形状となる。左側に傾斜するもの(2544)と右側に傾斜するもの(2545)がある。

(3) 面戸瓦 (第172・173図2554～2562)

面戸瓦は瓦を葺いた場合に地葺瓦(平瓦)と棟瓦の間に見える隙間を埋める瓦の総称である。96区の資料では174点(19.1kg)が出土しており、全て蟹面戸瓦である。この他に2562のような変形の板状瓦が一点のみ存在し、これも面戸瓦としてここでは考えておくこととしたい。

A 縦断面による分類

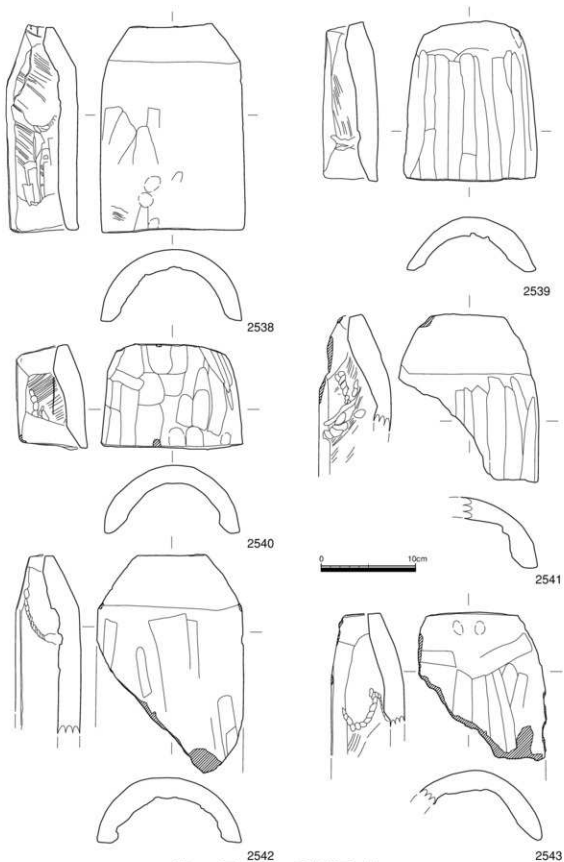
蟹面戸瓦は大棟下部に用いられる瓦で、ここでは縦断面の形状から大きく2類に区分できる。

(A) 蟹面戸瓦A類

蟹面戸瓦のうち、頭の断面形が1回屈曲するもの(2554～2557・2559～2561)である。このA類には頭部の端面は斜めになるもの(2554～2557・2559)と水平になるもの(2560・2561)がある

(B) 蟹面戸瓦B類

蟹面戸瓦のうち、頭の断面形が2回屈曲するもの



第168図 輪違い瓦実測図(1)

(2558)である。

B 裏面調整痕による分類

蟹面戸瓦は表面はヘラケズリ調整などを施して滑らかな面を形成するが、裏面は屋根に貼り込み易いように榫目を入れている場合が多い。この榫目の形状からも細分が可能である。

(A) 蟹面戸瓦1類

裏面に榫目を全く持たないもの(2554・2557・2558)である。

(B) 蟹面戸瓦2類

裏面に4～10本を1単位とする榫目が斜めに1回施されるものである。

(C) 蟹面戸瓦3類

裏面に4～10本を1単位とする榫目が「×」字形(2回)に施されるもの(2555・2556・2559)である。

(D) 蟹面戸瓦4類

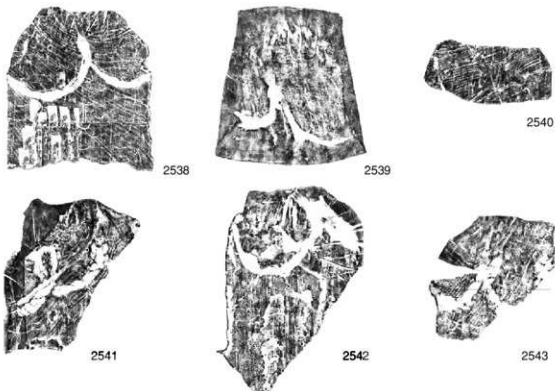
裏面に4～10本を1単位とする榫目が3回以上施されるものである。

(E) 蟹面戸瓦5類

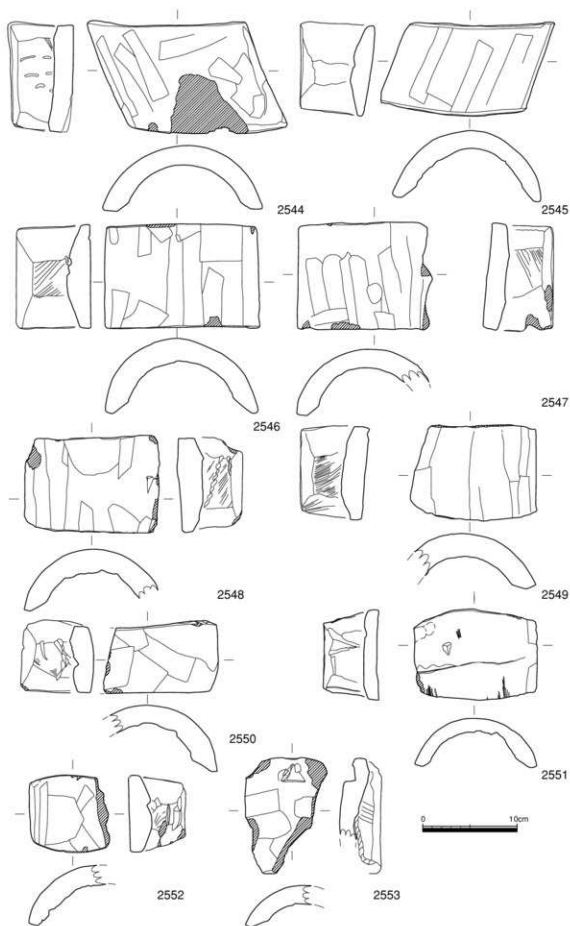
裏面に4～10本を1単位とする榫目が外周囲に並行する形で巡るもの(2560・2561)で、多くは内側にも榫目が認められる。「清洲城下町遺跡Ⅵ」では確認されなかったタイプである。

(4) 伏間瓦(第179図2601)

伏間瓦は最上段の両側の鬘斗瓦の上に伏せる瓦を指し、雁振瓦とも呼ばれる。96区の資料では49点(18.83kg)が出土しており、横断面が「く」字状に彎曲した形状のもののみが確認された。表面(凸面)は丁寧なヘラケズリ調整が施されるのに対し、裏面(凹面)にはコビキA手法の痕跡が明瞭に残存しているものである。ここでは、この凹面にコビキA手法が明瞭に残存する特徴を持つ小破片も、平瓦とは別に伏間瓦として分類した。2601は頭部に玉縁を持ち、尻部の裏面には玉縁部が重なりあうために部分的に削り取られている。



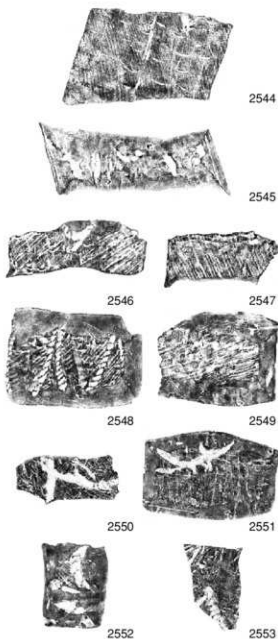
第169図 輪違い瓦実測図(2)



第170図 輪違い瓦実測図(3)

(5) 鬘斗瓦 (第178図2592～2596)

鬘斗瓦は棟込瓦の一種で平瓦を半分に半截した形状を呈する。したがって、大部分の資料では平瓦との識別は非常に困難である。今回の資料では12点(4.28kg)が確認された。側面の形態は、一方が平瓦



第171図 輪違い瓦実測図(4)

と全く同じように垂直切りで面取りが施される場合が多いのに対して、もう一方の側面はヘラケズリ調整がスムーズではないもの(2593)が多い。おそらく平瓦が半乾燥の状態の時に鬘斗瓦として切断されたものと推測される。この他に横断面形が台形に近いもの(2594)や平行四辺形に近いもの(2595・2596)なども存在する。2471は側面に金箔が押された瓦で、鬘斗瓦である可能性が考えられる。

(6) 丸瓦系道具瓦 (第174・175図2563～

2575)

丸瓦の形状をベースにした様々な形態の瓦を丸瓦系道具瓦として一括する。「清洲城下町遺跡Ⅷ」では小口面に着目して暫定的な分類を試みたが、ここでは全体の形状から分類を試みる。

A 丸瓦系道具瓦1類

丸瓦の玉縁部付近と胴部の2ヶ所を斜めに平行に切断されたもの(2563～2565・2569)である。裏面の調整痕などは通常の丸瓦とはほぼ同じ痕跡が残されており、丸瓦を作成した後に切断されて製作されたものと推測される。

B 丸瓦系道具瓦2類

丸瓦の胴部を斜めに切断し粘土板で仕切りを設けたいわゆる谷丸瓦と呼ばれるもの(2566)である。

C 丸瓦系道具瓦3類

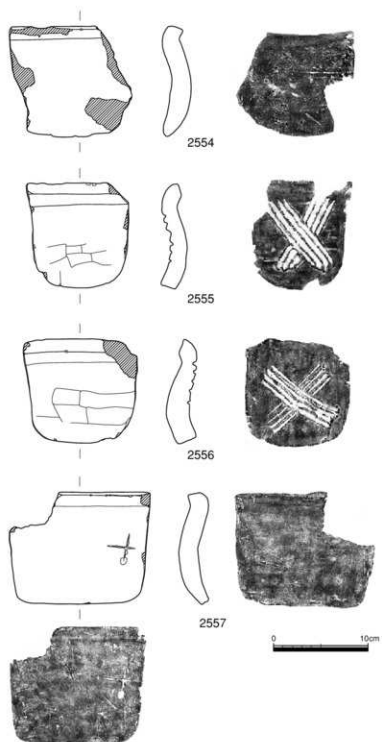
丸瓦の胴部の裏側を半円筒形にくり抜いたもの(2567)である。くり抜かれた部分は曲面を持ち、その部分に別の丸瓦が嵌るように作られたものと考えられる。

D 丸瓦系道具瓦4類

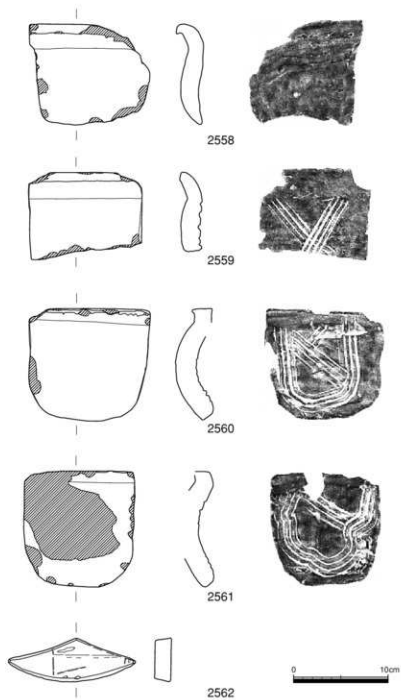
丸瓦の胴部が短く寸断されたもの(2568・2572)である。

E 丸瓦系道具瓦5類

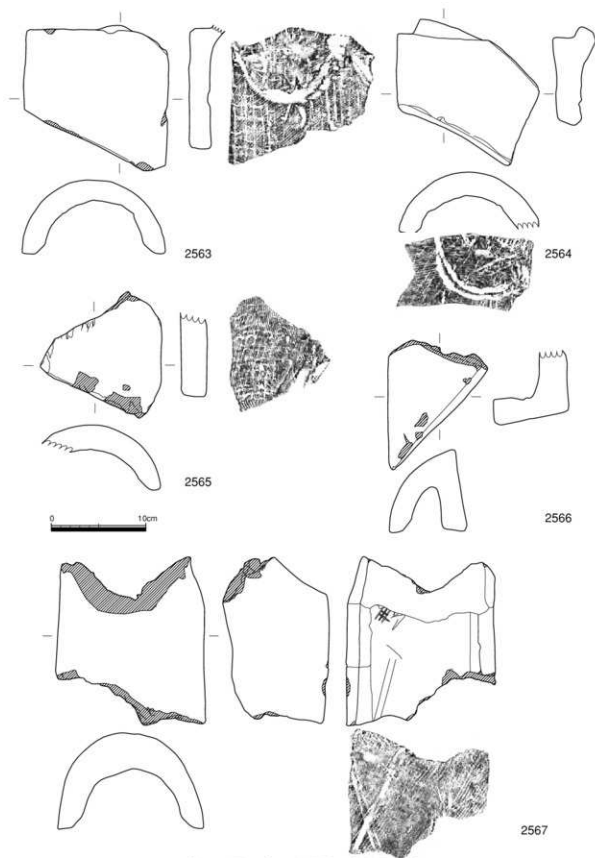
丸瓦系道具瓦4類と同様に丸瓦の胴部が寸断され、かつ玉縁部と尻小口部が平面円弧状に削り取られたもの(2571)である。



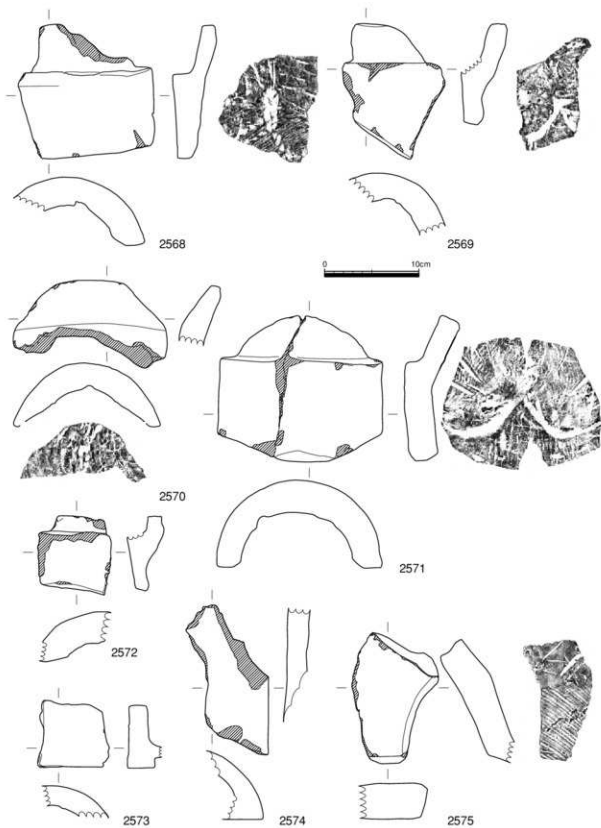
第172図 面戸瓦実測図(1)



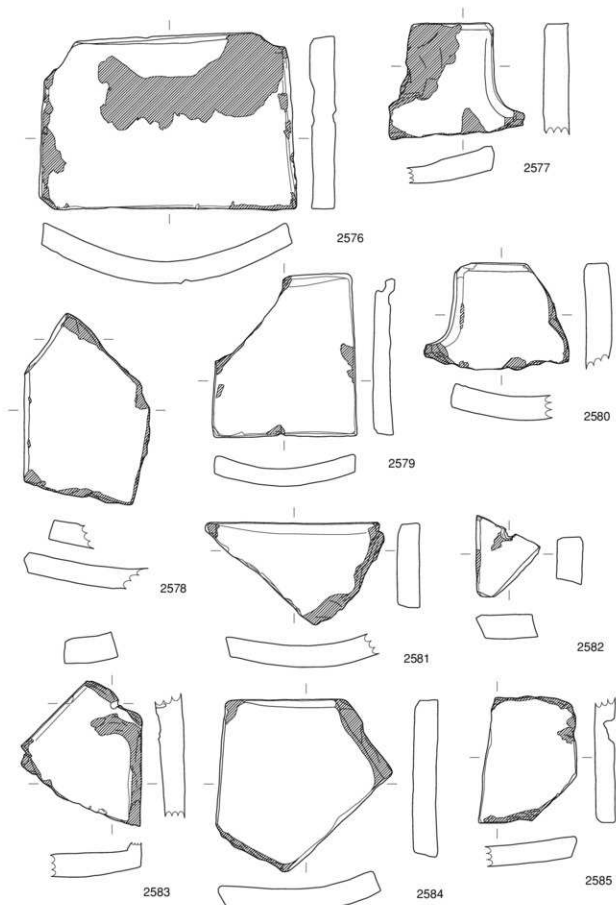
第 173 図 面戸瓦実測図 (2)



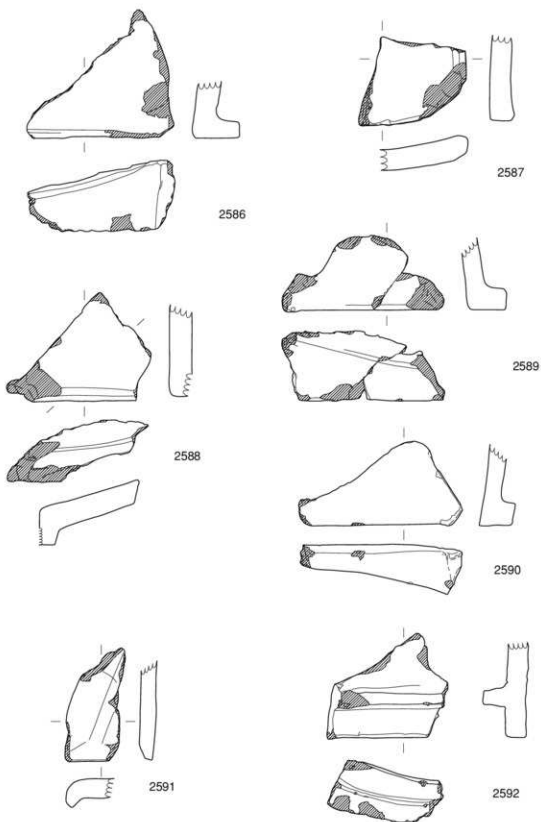
第 174 图 丸瓦系道具瓦实测图 (1)



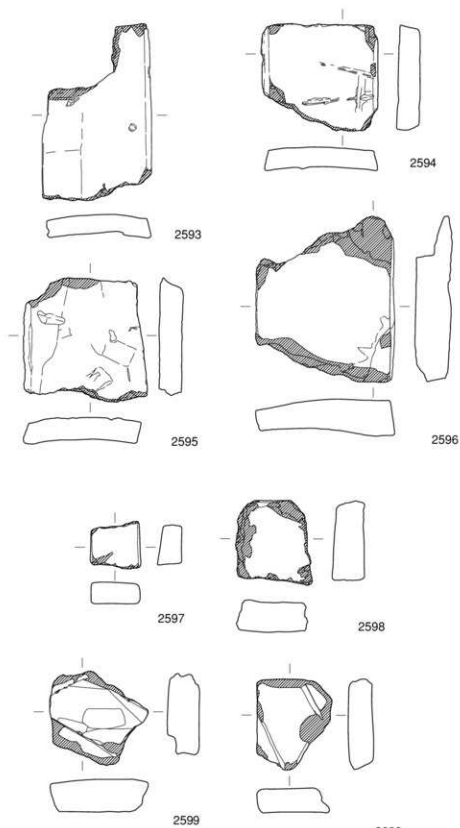
第 175 图 丸瓦系道具瓦实测图 (2)



第176图 平瓦系道具瓦实测图(1)



第 177 图 平瓦系道具瓦実測図 (2)



第178图 鬲斗瓦实测图

(7) 平瓦系道具瓦 (第176・177図2576～

2592)

平瓦の形状をベースにした様々な形態の瓦を平瓦系道具瓦として一括する。全体の形状が判明する資料は非常に少なく、このタイプの分類は難しい。ここでは『清洲城下町遺跡Ⅵ』と同様に、隅角部の加工に着目して分類した。

A 平瓦系道具瓦A類

隅角部を円弧状に内側に抉るもの(2577・2580)で

12 文字瓦 (第179図2602～2605)

文字瓦には刻書で記されたもの(2602・2603)と墨書で記されたもの(2604・2605)がある。全て平瓦に記されたもので、刻書は凹面に、墨書は凸面に記されていた。

ある。

B 平瓦系道具瓦B類

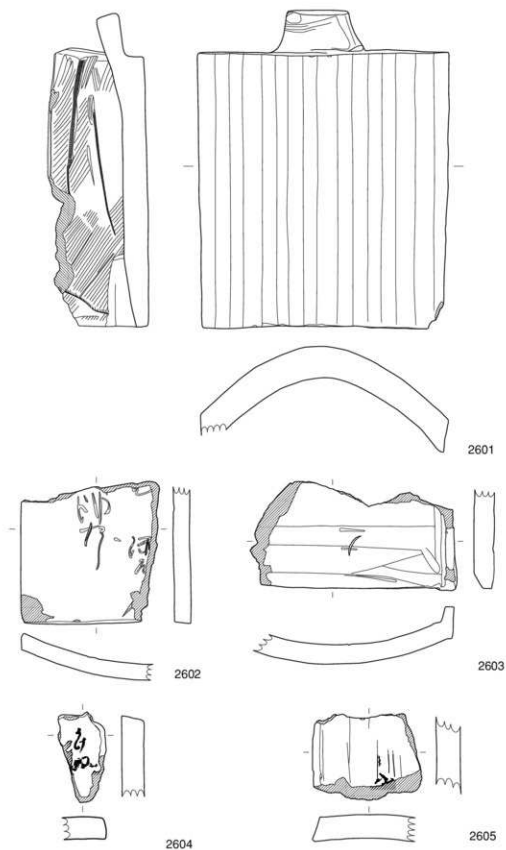
隅角部を直線状に角取りしたもの(2578)である。

C 平瓦系道具瓦C類

隅角部が鋭角に屈曲するもの(2581～2584)である。2583は鋭角となる隅角部に近い部分が穿孔され、一方の側部に水返しの付着した痕跡が残存する。

D 平瓦系道具瓦D類

平瓦の小口面をL字に屈曲させた形状のもの(2586・2589・2590)を新たに平瓦系道具瓦D類としておく。



第 179 図 伏間瓦・文字瓦実測図

(Ⅳ) 木製品

1 概要と分類の方法

今回の発掘調査から出土した木製品は、木胎漆器類や曲物桶や結桶などの容器、折敷や箸などの供膳具、下駄やへらなどの生活道具類、屋根板や枕や石垣の土台木などの土木建築部材、木簡などの多種多様なものが認められる。これらの遺物が出土する地点は、滞水状況を呈する特別な環境の遺構埋土中かあるいは自然流路の堆積物中などに限られており、全ての調査区で良好な状態で出土しているわけではない。ここで報告の対象となる調査区で木製品が大量に出土しているのは、96区とその下層の97C区および97B区の旧五条川に近接する調査区であり、99A区や99B区でもわずかに木製品が出土している。

2 木製品の資料紹介

(1) 96区

A 96区 SX01 出土木製品 (第180図 2606～2617)

96区SX01から出土した木製品には、木胎漆器類、下駄、羽子板、へら状木製品、折敷、建築部材などがある。木胎漆器類A類(2606・2607)は高台裏の削り込みが浅いもので、2607には鶴紋が描かれている。2608と2609は木胎漆器類Bで、2610は高台裏を除く内外面に赤色漆が塗布されたものである。

2611は一本作りの下駄で、下面中央部を平面方形状に抉り取って外周部を歯に作った製品である。2614はやや薄手の羽子板状木製品、2615は刃物状に刃部の一部を薄くしたへら状木製品である。2617は外周部に段差を持つ折敷で、平面形は方形の角を斜めに切断した不定八角形を呈している。段差の側面に榫板を接続するための穴が多数認められる。

B 96区 Tレンチ出土木製品 (第181図 2618～2638)

96区では石垣などの城下町期Ⅲ期の遺構の下層から城下町期Ⅰ期からⅡ期の遺構や包含層が確認されている。こうした下面の遺構から出土した資料は

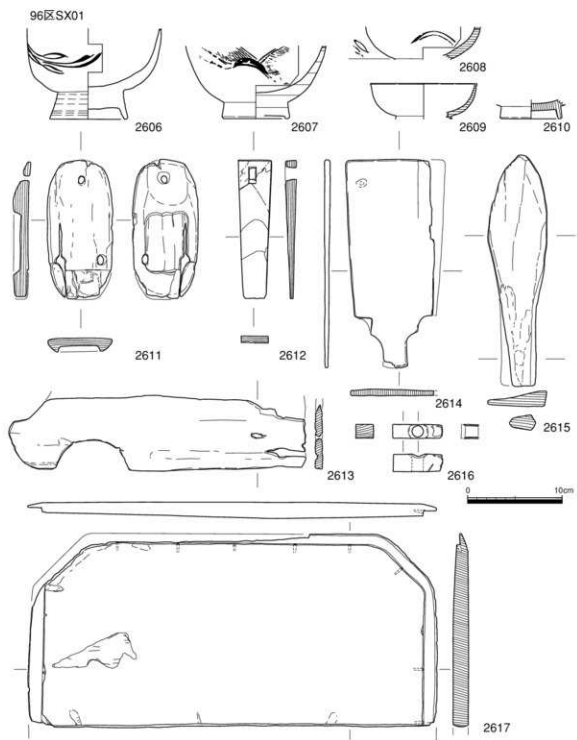
出土した地点や遺構が極めて限定されていることから、木製品の報告は調査区別、遺構別に一括出土資料として報告することとした。ただし、96区とその下層の97C区で確認された石垣の基礎構造となる土台木や枕については、内容が特殊であることなどから特別に別項目を立てて記述していきたい。

なお、木胎漆器類の器種分類の名称は筆者の論考(鈴木1992)に依拠して、高台が高い碗を碗A類、高台の低い碗を碗B類と呼ぶこととする。なお、漆器の漆膜分析は本書第Ⅳ章(Ⅱ)を参考にされたい。また、樹種については本書第Ⅳ章(Ⅰ)を参考にされたい。

97C区出土木製品として後述するが、96区の調査の段階で層位などを確認するために事前にトレンチを掘削しており、この際に出土した木製品をここでは報告したい。こうした理由は、97C区のように層位を厳密に区分していないために、97C区に合わせて報告することができなかったためである。

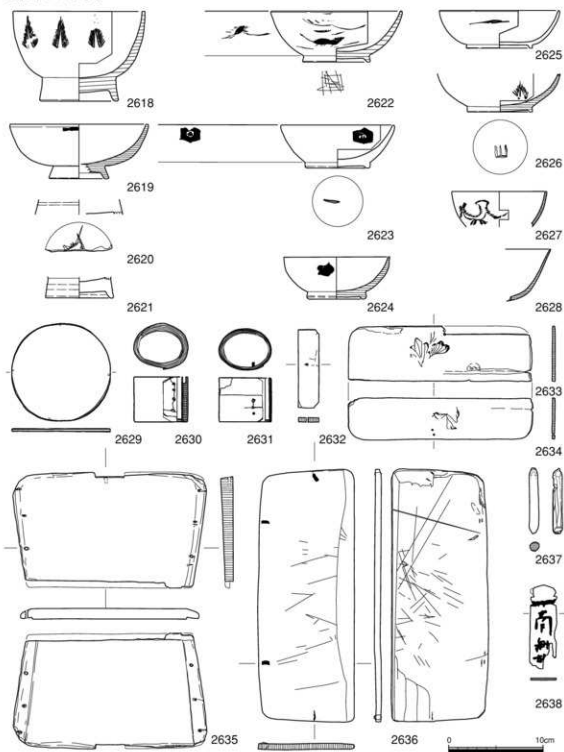
2618～2628は木胎漆器類で、2618～2621はA類、2622～2626はB類に属する。2618と2626には杉の木状の植物紋が描かれており、両者は碗A類と碗B類としてセットになっていた可能性を考慮することができる。2623には亀甲紋、2622には鶴紋と亀紋が対になって描かれている。2627は小振りの碗で鶴紋似紋?が施されている。木胎漆器の高台裏には漆を塗布した後に刻み込まれた傷がいくつかに見られる(2620・2622・2623・2626)。2623は一文字状に、2626は「ヨ」字状に、2622には多数の傷がランダムに施されていた。

2629は曲物桶底板で両端部に竹釘穴が認められるものである。一方、2630と2631は薄板を三重以上に巻いた小形の曲物桶側板で、底板は残存しない。2632は小形の箱物の部材と考えられ中央が穿孔されている。2633・2634・2636は折敷底板で、2636には



第180图 木製品実測図(1)

96区トレンチなど



第181図 木製品実測図(2)

側板を上位に接合させるための板皮が残存していた。また、2633・2634には表面に墨書の絵画(草花紋)が描かれており、両者をここで別材として実測したが同一個体である可能性も残される資料である。

2637は著状の細長い棒材を利用して作られた形代(人形)で、顔部が削り出されている。2638は卒塔婆または柿経で、頭部は五輪塔状に作られていた。表面に「南無妙」と記され、その上に横線が墨書されている。

(2) 97B区

A 97B区NR01出土木製品(第182図2639～2641)

97B区NR01から出土した木製品には、下駄、円板状木製品、折敷などが存在する。2639は露卯差歯下駄で後ろの差歯が欠損して遺存しない。2640は板の厚さが比較的厚い円板状の木製品で中央部に小孔が穿たれている。2641は折敷底板の断片と考えられる遺物で板材の隅角部が鈍角に切り取られている。

B 97B区NR02灰色粘土層出土木製品(第182図2642～2650)

97B区NR02灰色粘土層から出土した木製品には、木胎漆器類、折敷、箱物などが存在する。

2642～2646は木胎漆器椀である。2642・2643・2645・2646は外面が黒色漆の上に赤色漆で紋様を描き、内面は赤色漆が塗布されたものである。2642は椀A類で外面に亀甲紋が描かれている。2643・2645・2646は高台部が欠損しどの分類に属するか不明であるが、2643は亀甲紋と草花紋が、2645は木瓜紋、2646は鶴紋?が各々外面に描かれている。2644は内面と体部外面に赤色漆が塗布され、高台裏部分には黒色漆の上に赤色漆で「上」と記された高台の低い椀である。これらの椀類は清須城下町では通有に見られる形状と紋様構成であり、椀A類の高台裏の削り込みが少ないことから比較的古い段階に属する資料群と評価できる。

2647・2648・2650は折敷部材であるが、各材の大きさなどからみてこれらが同一個体である可能性は低いと考えられる。2647は折敷側板の一部、2648は折敷側板の側板同士の合わせ部の部材片、2650は遺

存状態が不良な折敷底板で、板の四隅が斜めに切り取られた形状となっている。2649は細長い板材に竹釘が一行に打ち付けられたもので、箱物部材の可能性が考えられる。

C 97B区NR02植物層出土木製品(第183～187図2651～2756)

97B区NR02植物層から出土した木製品には、木胎漆器類、曲物桶、折敷、箸、下駄、建築部材など多様な種類が認められる。

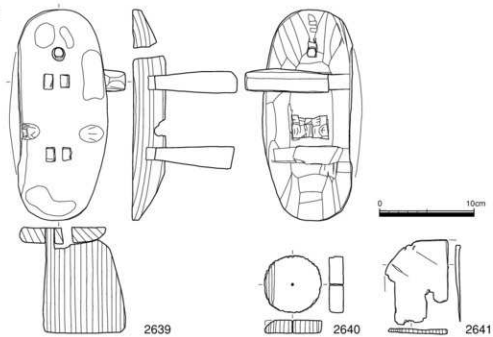
(A) 木胎漆器

2651～2657は木胎漆器で、2651と2652が椀A類、2653と2654は椀B類、2655と2656は椀C類に属し、2657は高台部が欠損して分類ができない。2651～2654と2657は内面が赤色漆、外面が黒色漆が塗布され、外面にモチーフを特定し難い紋様が描かれている。2655と2656は内面と体部外面に赤色漆が塗布され、高台裏部分には黒色漆の上に赤色漆で記号が書かれた高台の低い椀である。2655は口縁部が外反するタイプである。施紋のモチーフが吉祥紋系のもので推察され「清洲城下町遺跡Ⅱ」のS D 66に類似するもの(134など)が存在することから清須城下町の古い段階の資料と想定される。

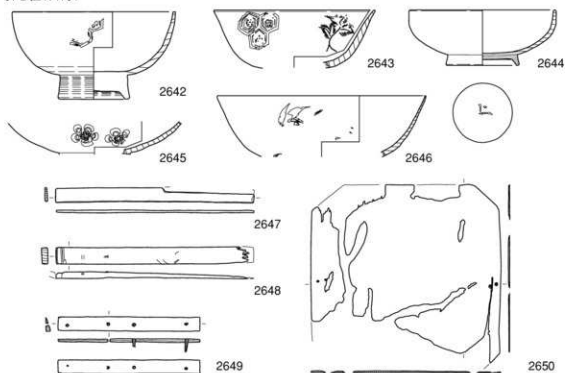
(B) 曲物桶

2658と2659は小形の曲物桶底板である。2658は隅丸方形の板材に3ヶ所2個ずつ孔が施されたもので、板の上位に円形曲物側板が板皮などによって接続される部材と推定される。一方、2659はさらに小形の小判状の平面形をもった板材で両端部に孔が穿たれている。おそらく板の外側に曲物側板を巻いた製品と推定される。2714は曲物桶柄杓で、底板は側板の内側にはめ込まれ板皮で綴じ合わされており、柄杓の先端を固定する部材は残存していない。おそらく棒材による固定具があったと推測されるものである。2747と2748は曲物桶そのものではないが、曲物桶などの容器を載せて吊り下げのための土台と推測される十字形木製品である。細長い板材を2枚十字に重ねた製品で、各板材の両先端が穿孔されており、この孔に吊り紐を通したものと思われる。板の表面はヤリガンナ状工具で調整されている。両者は2枚の板を重ね合わせる方法が異なり、2747は重複

97B区NR01

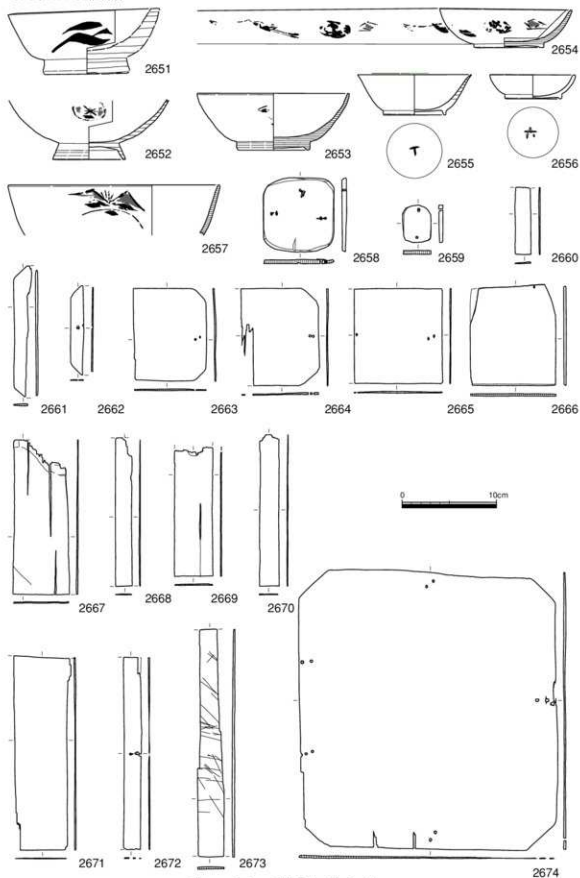


97B区NR01



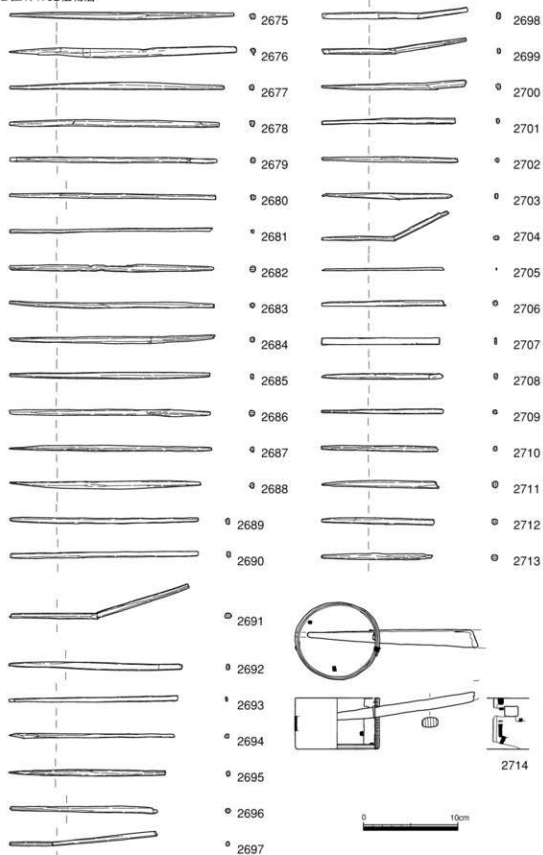
第182図 木製品実測図(3)

97B区NR02植物層



第183図 木製品実測図(4)

97B区NR02植物層



第184図 木製品実測図(5)

部分が斜め方向の配置に3個の孔を開けさらに十字の配置に穿孔されており、この孔を利用して板を固定したものと考えられる。一方、2748は板が重なる部分を段差に削り取ってそこに板材をはめ込んで重ねた「十字形相欠き継ぎ」がなされたものである。

(C) 折敷

折敷は底板のみが確認され、板材の厚さで2類に区分することが可能である。2660～2674は厚さが1～3mmと非常に薄い折敷底板およびその部材である。2665は平面形が正方形の折敷の完形品で両端辺中央部分が2個ずつ穿孔されている。2674は正方形の隅角部を切り取った不定八角形を呈するほぼ完形の折敷で、外周部分が5ヶ所で2個ずつ穿孔されている。両者とも穿孔された外周部分の上に方形の曲物側を載せたものと推測される。2661～2664・2666～2673も、2665と2674と同じような形状を呈していると推察される部材であり、2673は表面に無数の細かい傷が見られる。

一方、2743～2745は厚さが4mm以上と厚い折敷底板の部材である。全て表面に無数の細かい傷がつけられており、組板などに転用されていたものと考えられる。2744は一辺には3ヶ所穿孔され、残りの辺は縦じ合わせのための桜皮が残存していた。外周部は片面が斜めに削り取られている。2475も側板を固定するための桜皮が残されている。

(D) 箸

2675～2713は横断面形が方形や多角形となる箸で、大半は折損して全体の形状を止めないものである。全て、表面は何も塗布されていない白木の箸である。2756は長さが41cmを超える棒状製品で箸の可能性が考えられる。

(E) 下駄

2749と2750は一木作りの速歯下駄、2753は差歯下駄の歯部である。2749は平面形が長方形となるもので、清洲城下町遺跡の城下町期の下駄としては珍しいタイプである。2750は楕円形に近い平面形を呈するもので後部が欠損している。

(F) 建築部材など

建築部材と推定されるものも多数確認されている。2720は扁平な棒材で、一方の端部に溝が施され

ており、別材が組み合わされたものと思われる。建て具など組物の部材と想定される。2721と2722は一方の先端が鋭利に尖っており楔と考えられる。2721は先端が平面三角形形状に加工されており、2722は先端は切り離されたままの状態となっている。2738はほぼ正方形の厚い板材から円柱形部分が削り出されたものである。用途は不明である。2740～2742は釘が打ち込まれたと推測される孔が確認できる板材であり、板葺き屋根や壁板の部材とも考えられるものである。2741と2742は平面が長方形を呈している。

2735～2739は平面形が不定形となる木っ端材である。表面にはチョウナなどによる加工痕が残存し、端部は削り離されたままの状態となっている。鋸痕などは確認されなかった。これらは木材をチョウナなどで大きく削る際にできた端切れ材と推測され、このような材は97B区NR02植物層からは多量に出土している。このことからこの付近では木材の製材や加工が比較的大規模に行われ、その廃材が自然流路NR02に廃棄されたものと考察できる。

(G) その他の製品

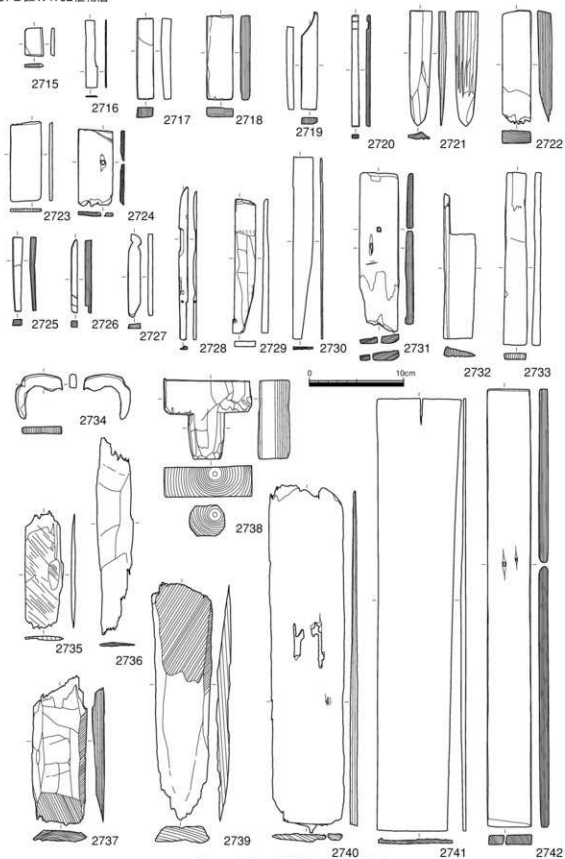
2727は一方の端部が平面「S」字状に削り出された細長い板材で形代である可能性が考えられる。2746はヘラ状木製品で刃部と柄部の境界部分が2個穿孔されている。一方の孔には植物製の釘材が残存していた。柄部よりも刃部の方が厚く、刃部先端はやや尖っている。2751は切匙の刃部で刃の先端も欠損している。2753はほぼ円柱形に作られた筥と思われ、側面は細かく削られている。

D 97B区NR02下層出土木製品 (第187図2757～2768)

97B区NR02下層から出土した木製品には、木胎漆器類、刀子柄部、折敷などが存在する。

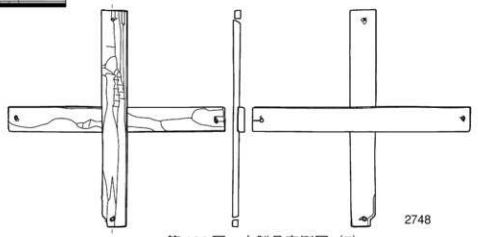
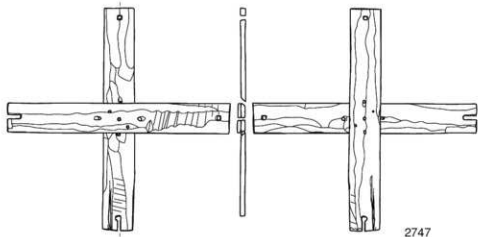
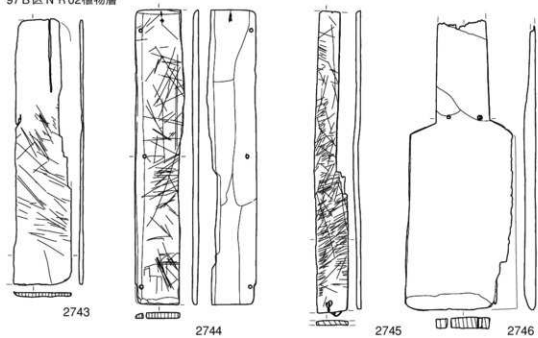
2757は高台部が残らない木胎漆器で、外面に鰻紋と亀紋が描かれている。2759は刀子柄部の部材と考えられ、中子が入る部分は段差状に凹んでおり、外面両端部には圧痕が残存する。同様な別材と共に中子を挟み込み外から両端部を金輪で締め付けたものと想定される。2762は二股に枝分かれた自然木であるが、杖杖の可能性が考えられるものである。2767と2768は折敷底板と考えられ、2768は外周

97B区NR02植物層



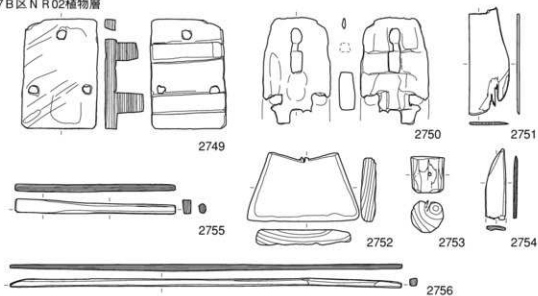
第185图 木製品実測图(6)

97B区N R02植物層

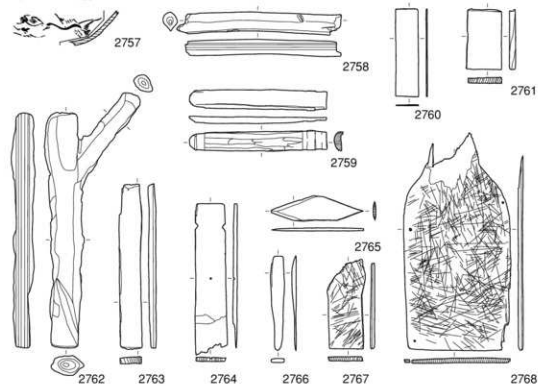


第186図 木製品実測図(7)

97B区NR02植物層



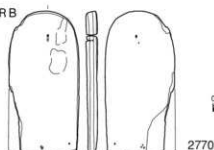
97B区NR02下層



97B区N RA



97B区N RB



0 10cm

第187图 木製品実測图(8)

部に側板をつけるための釘孔が残存している。両者とも表面全体に無数の細かな傷が認められる。

E 97B区NRA出土木製品 (第187図2769)

2769は平面がほぼ正方形となる板材で、一方の辺が薄くなっているものである。用途は不明。

F 97B区NRB出土木製品 (第187図2770)

2770は頭部が丸く加工された厚手の板材で、頭部に1ヶ所、尻部に2ヶ所釘孔状の穿孔が認められる。

(3) 97C区

A 97C区NR01出土木製品 (第188図2771)

97C区NR01から出土した木製品には、木胎漆器類がある。2771は木胎漆器椀で高台部が欠損するもので、外面は黒色漆が塗布されその上に赤色漆で桐紋が描かれている。桐紋は2種認められ、濃い赤色漆のみで描かれたものと濃い赤色漆で輪郭を描き朱色のような赤色漆で隙間が塗られたものが交互に配置されていた。桐紋が描かれた漆板は清須城下町では初めての事例である。

B 97C区SX01出土木製品 (第188図2772～2774)

97C区SX01瓦溜りから出土した木製品には、木胎漆器類と曲物桶がある。2772は木胎漆器椀B類で体部内外面に赤色漆が塗布された後に、外面には黒色漆によって扇紋が描かれている。高台部分には黒色漆が塗布されていた。2773は曲物桶底板で側板を縦じ合わせるための桜皮が残存していた。2774は小形の曲物桶の完形である。二重巻きされた側板の端部は斜めに切断され幅が狭くなっている。

C 97C区SW01出土木製品 (第188図2775・2776)

石垣97C区SW01から出土した木製品には、曲物桶底板(2776)と不明棒状木製品(2775)がある。2775はヤリガンナ状工具によって表面が削られた横断面が楕円形を呈する棒状製品で、用途は不明である。

D 97C区SX02出土木製品 (第188図2777・2778)

97C区SX02から出土した木製品には、木胎漆器椀B類(2777・2778)がある。2777は内面は赤色漆が、外面は黒色漆が各々塗布され、外面には赤色漆で紋

様が描かれている。2778は内外面とも黒色漆が塗布され外面には赤色漆で桐紋などが施されていた。2778の底部には漆塗布後に付けられた傷が残存する。

E 97C区SW02出土木製品 (第188図2779～2782)

石垣97C区SW02から出土した木製品には、木胎漆器類、結桶、ヘラ状木製品と箱物などがある。2779は外面にタガの圧痕が残り、内面には底板が嵌っていた痕跡が認められることなどから、結桶の側板と考えられるものである。側板の上半部に隅丸方形の大きな孔が存在し、その上位に木釘が打ち付けられていた。孔の存在する位置の両側は側面が削られて凹んでいる。大きな孔の存在から、棒材を渡して作る把手が付いた結桶の一部と推測される。内面にはヤリガンナによる加工痕が残存する。2780は刃部の頭部が半円形に作られ、刃部下端は直角に屈曲して柄部に至る形状で、柄部はばち状に開いている。刃部には細かな傷がわずかに認められる。2781は木胎漆器椀A類で、高台裏の削りが深く器壁が非常に薄くなっているものである。内面は赤色漆、外面は黒色漆が塗布されていた。2782は小形の箱物の側板と推定されるものである。内面と外面は黒色漆が塗布され、外面には赤色漆による若干の施紋が施されている。内面には横方向には溝が切り込まれており、両端部は斜めに削られていた。

F 97C区検出1出土木製品 (第189図2783～2809)

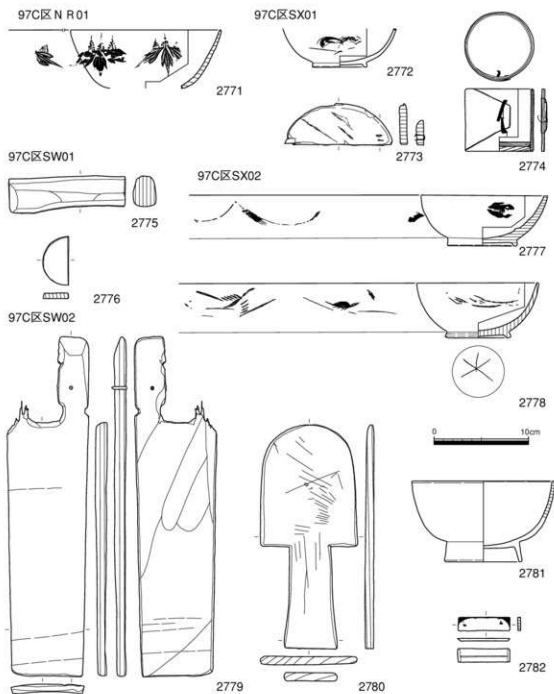
木胎漆器類、曲物桶、下駄、ヘラ状木製品など多様な製品がある。

(A) 木胎漆器類

2783～2786は木胎漆器椀で、全て内面が赤色漆、外面は黒色漆が塗布されていた。高台が残存する2784と2785は椀B類と分類でき、2783と2786は外面に赤色漆で施紋されていた。2784は器壁が他のものに比べ薄い特徴が認められる。

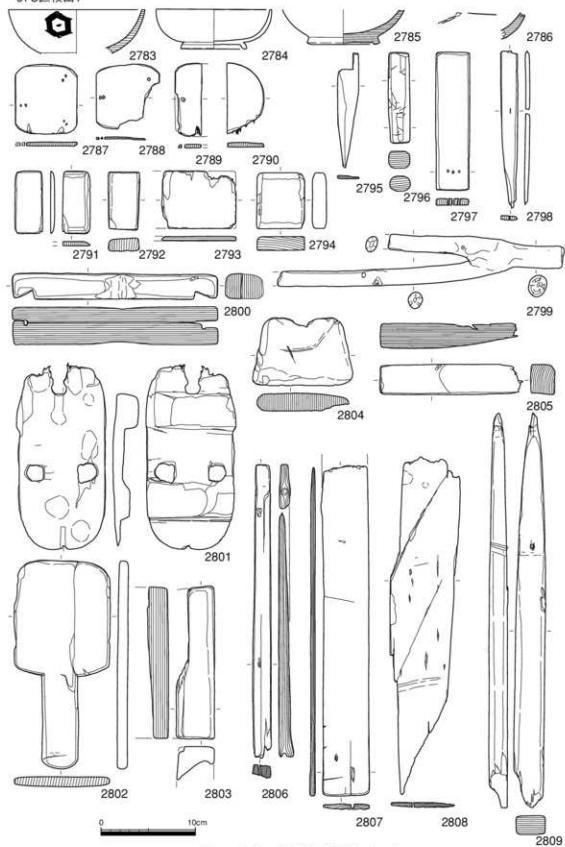
(B) 曲物桶

2787～2790は曲物桶底板である。2787～2789は平面が隅丸方形の板材に、推定3ヶ所が穿孔された小形のものである。2790は平面が円形と推定される



第188图 木製品実測図(9)

97C区検出1



第189図 木製品実測図(10)

底板で、半分が欠損していた。側板との接合のための付属物は確認されなかった。2809は柄杓の柄で、状況からみて本体は曲物桶であったと推測される。柄の先端は尖り桶の外側にはみ出していた痕跡を見出すことができる。

(C) 下駄

下駄は一本の連歯下駄(2801)と差歯下駄の歯(2804)が存在する。2801は小判形の平面形を持ち後歯がよく磨り減っている。2804は下駄本体に差し込むためのほぞが欠損している。

(D) その他の製品

2791は外周部が斜めに角が取られており、箱物の部材と推測される。2800は両端部が断面三角形に削り取られ、中央部が磨り減った角材であり、釣瓶の把手と考えられる。両端の削り込みに釣瓶の側板が嵌り釘で打ち止められていたと推測される。2802はへら状木製品で、刃部は平面が隅丸長方形となっている。2805は厚さが非常に厚い楔状木製品であり、先端が欠損する。2807・2808は所々に釘孔が見られる板目板材で、建築部材と推測される。

G 97C区検出2出土木製品(第190・191図 2810～2840)

97C区検出2から出土した木製品には木胎漆器類、折敷、木筒、結桶、建築部材などの製品がある。

(A) 木胎漆器類

2810～2819は木胎漆器類で、その多くが内面が赤色漆、外面は黒色漆が塗布されているものである。2810～2813は高台が高い碗Aで、2810は高台内の削り込みが深くしているのに対して、2811～2813は高台内の削り込みは浅い。2814～2818は高台が残存しない碗、2819は高台内を余り削らない皿である。体部外面に赤色漆で施紋されたものが多く、2817は亀紋が描かれている。高台内に傷が認められるもの(2810・2813)もある。

(B) 木筒

2820と2821は平面が長方形の薄い板材に墨書が記された木筒である。判読は難しく釈文を提示できないが、仮名混じりの文言であると考えられる。折敷の底板に文字を記したものと推測される。

(C) 折敷

折敷は、厚さが6mm前後と厚い板材が用いられたもの(2825～2827)であり、底板の側面に側板が釘で打ち止められているものと考えられる。2826は釘孔の配置から底板と側板が接合できたものである。底板は半分が欠損しているが、残存した部分では側面に合計で9ヶ所の釘孔が確認される。側板は2辺が残存しており、側板同士は接合は上下2ヶ所に木釘が使用されて止められていた。側板の高さは約1.6cmを測り、状況からみて折敷の平面形は一辺の長さが約29cmを測る正方形と推測される。2825は長辺が約30cmを測る板材で、折敷底板の一部と考えられる。側面に釘孔が残存しており、表面には夥しい数の細かな傷が存在する。規模などからみて、2826と同一個体または同一規模の折敷と想定される。2827は一端が欠損する折敷側板で、これも2826と同一個体であった可能性が考えられる。

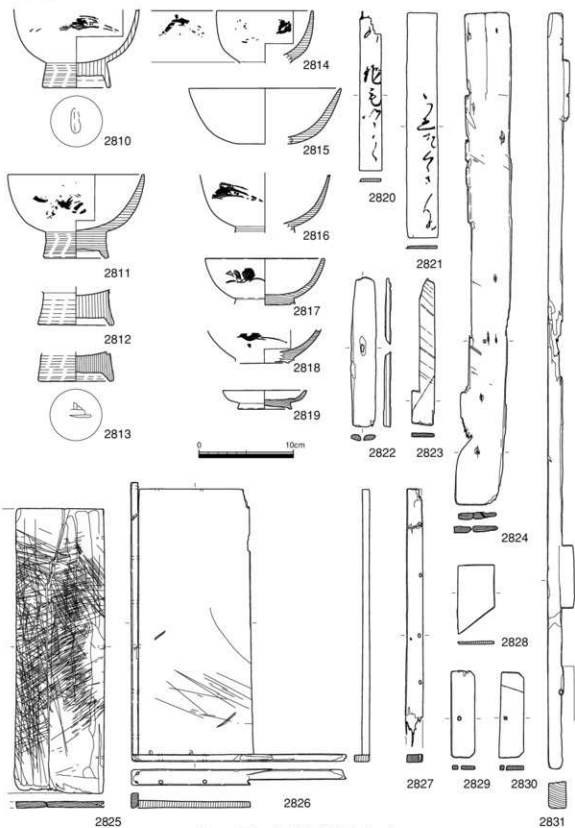
(D) 結桶

2832～2836は結桶側板である。板の厚さが1cm強とやや厚い彎曲した板材であり、内面に底板の圧痕が、外面にはタガの圧痕が各々残存している。内外面は丁寧に調整され加工痕を読み取ることができなかったが、側面は極めて平滑に仕上げられ、台鉋状の工具が使用されたものと推測される。2832～2834は上半部が欠損し規模を復元し得ないが、最も小さいもの(2833)でも高さは18cm以上を測ることから、結桶の中でも中規模のものと思われる。一方、2835と2836はほぼ全体が残存しており、側板の高さは2835が約13.5cm、2836が約15.3cmを測ることから、比較的小規模なものと評価される。両者は内面の上半部に刺突痕のような傷跡が多数残存しており、これは何らかの使用痕と思われる。2837も結桶側板の可能性のあるものであるが、横断面が彎曲していない。

(E) 建築部材

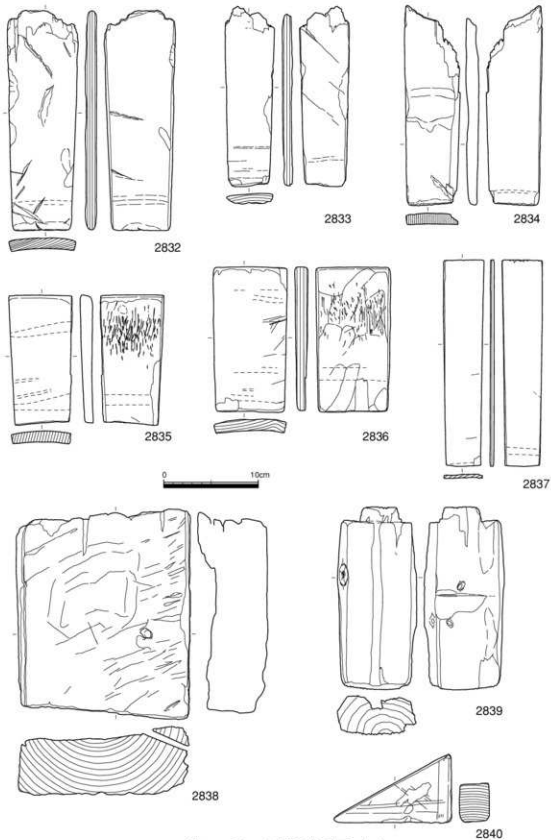
2824は長さが50cmを超える細長い板材でいくつかの釘孔と推測される孔が存在する。板葺き屋根や壁板の部材とも考えられるものである。2831は3ヶ所が方形に削り出された角柱状の棒材である。折損した削り出された張り出し部分には鉄釘が残存している。これは建具の一部の可能性が考えられるが、

97C区検2

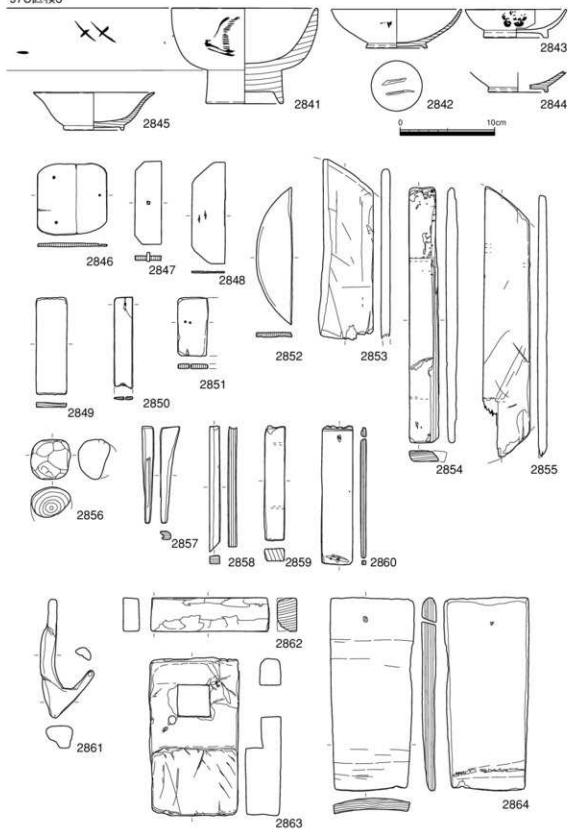


第190図 木製品実測図(11)

97B区検2



第191図 木製品実測図(12)



第192図 木製品実測図(13)

正確な用途は不明である。2838 は平面が約 18cm × 約 20cm の長方形を呈する厚さ約 7cm の厚手の板材で、材の中央部が何らかの圧痕などで凹んでいる。材には斜め方向に方形の孔が存在する。2838 は礎板または作業台などの機能が想定されるものである。2839 は横断面形が扁平な六角形を呈する短かい棒材で、一方の端部に平ほぞが存在し、片面に断面方形の溝が切られていた。建築材の端切れと推測される。2840 は平面が直角三角形を呈する厚手の板材で、これも建築材の端切れと推測される。

(F) その他の製品

2829 と 2830 は隅角部を斜めに切断された方形の板材の中央部が穿孔されたものである。

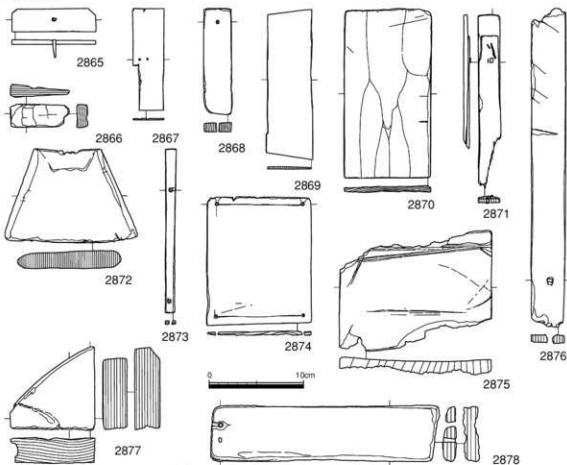
H 97C 区検出 3 出土木製品 (第 192・193 図 2841 ~ 2878)

木胎漆器類、曲物桶、折敷、結桶、建築部材などの製品がある。

(A) 木胎漆器類

2841 ~ 2845 は木胎漆器類である。2841 は内外面とも黒色漆が塗布され、外面には赤色漆で鶴紋と亀紋? が描かれている椀 A 類である。鶴紋は飛翔した鶴の羽が一枚一枚丁寧に描かれたものと、飛翔した鶴の全体が「×」字状に表現されたものの二種類が存在する。高台内はやや深く削られている。2842 ~ 2844 は内面が赤色漆、外面は黒色漆が塗布されているものである。2842 は高台内に「二」字状の傷が施された椀 B 類、2843 は外面の施紋が認められなかった皿、2844 は外面の施紋が認められなかった皿である。2845 は体部内外面が赤色漆が塗布され、高台は黒色漆が施された椀で、口縁部が強く外反している。

97C 区検出



第 193 図 木製品実測図 (14)

(B) 曲物桶

2846は隅丸方形の薄い板材で孔が3ヶ所施されている。おそらく円形の曲物桶が板の上部に付いたものと推測される。2852は円板状の材が欠損したもので、曲物桶の底板と考えられる。

(C) 折敷

2848は隅角部が斜めに切断された方形の板材で、板が薄く端部に桜皮が縫い綴じられた痕跡の孔が存在する。一方、2867は隅角部は斜めに切断されない方形の板材の一部で孔が2個穿たれている。2871は2枚の板材が桜皮によって縫い綴じられているものである。折敷の側板の合わせ部が遺存したものと推測される。

(D) 結桶

結桶は側板と底板が別々に出土している。2853と2855は結桶底板の一部で、2855の破断面に穴が2ヶ所開いている。これは別材による底板部材と接合させるための釘穴と考えられる。2854と2864は結桶側板である。2854は外面にタガの圧痕が残存し、内面の上位は丸く仕上げられ下部には底板がはまっていた圧痕が残っている。外面上半部には部分的に茶色付着物が残存し、漆が塗布されていたと推測される。2864は高さ20cm強の結桶側板で上部中央が穿孔されている。

(E) 箱物

2874は平面がほぼ正方形を呈する薄い板材で、四隅に孔が穿たれている。この孔を結ぶように兩個小口面に近い部分の表面に傷による直線が残存しており、このラインに沿って側板が接合されていたと考えられる。2847と2865は平面が長方形の板材の2ヶ所の隅角部が斜めに切り取られた製品で、中央部が穿孔されている。2865にはこの孔の部分に木釘が残っており、別材と接合させるための孔と考えられる。箱物の側板の可能性を考えておきたい。2873は細長い扁平な材で2ヶ所穿孔されており、これも箱物の部材と思われる。

(F) 建築部材

2863は長さが約17cmの角材で、材の半分以上は相欠き継ぎをするための平ほぞが加工されており、そのほぞの中央部に長方形の大きな孔が存在する。

2878は端部に2ヶ所穿孔された板材、2875は削り放たれた不定形材である。

(G) その他の製品

2856は球状にチョウナなどの工具によって成形された製品で、木毬と考えられる。2861は自然木の枝分かれた部分を利用して作られた鉤の手状の製品で、自在鉤の一部の可能性も考えられる。2866は楔、2872は差歯下駄の歯部である。

I 97C区検出4出土木製品 (第194・195図 2879～2923)

木胎漆器類、曲物桶、折敷、結桶、下駄、建築部材などの製品がある。

(A) 木胎漆器類

2879～2883は木胎漆器類である。2879～2882は内面が赤色漆で、外面は黒色漆が塗布されている。2879・2880・2882は外面に赤色漆で施され、2879は鳳状の紋様、2880は鶴紋と亀紋のセットが描かれているが、2882は紋様構成は特定できない。2880の亀紋は頭部や尾部や脚部が明瞭に見られるもので、鶴紋は飛翔する姿が描かれるタイプのものである。2879は椀A類、2880～2882は椀B類である。一方、2883は体部内外面が赤色漆が塗布され、高台は黒色漆が施された皿で、口縁部は短く逆ハの字状に開く。

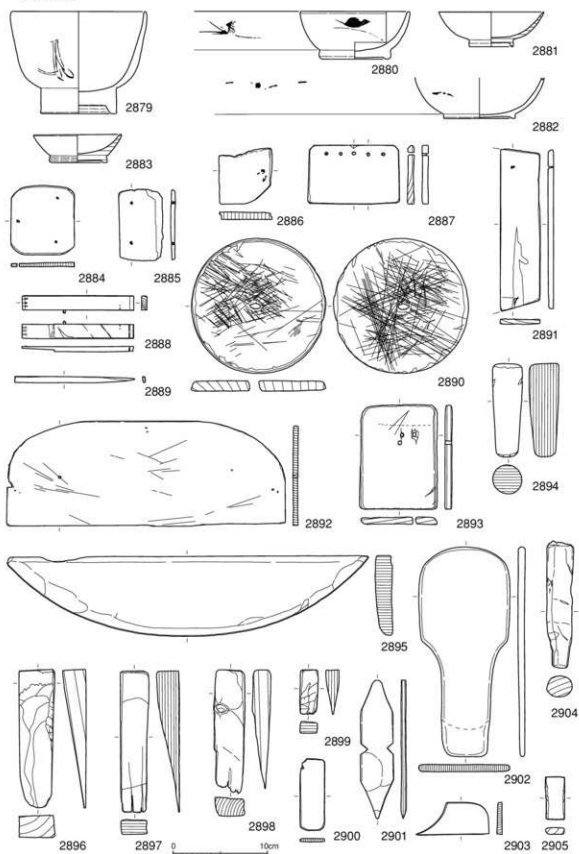
(B) 曲物桶

2884と2885は隅丸方形の薄い板材で、2884は孔が3ヶ所施されている。2888は直径が14cm強の円板で中央部が穿孔されていた。表面と裏面ともに多数の直線的な細かい傷が重なりあうように存在している。孔の存在が疑問であるが、ここでは曲物桶の底板と考えておきたい。2892は長楕円形(隅丸長方形)の比較的薄い板材で外周部付近に2個ずつ孔が穿たれている。板の上位に曲物側板が付いたものと考えられる。

(C) 折敷

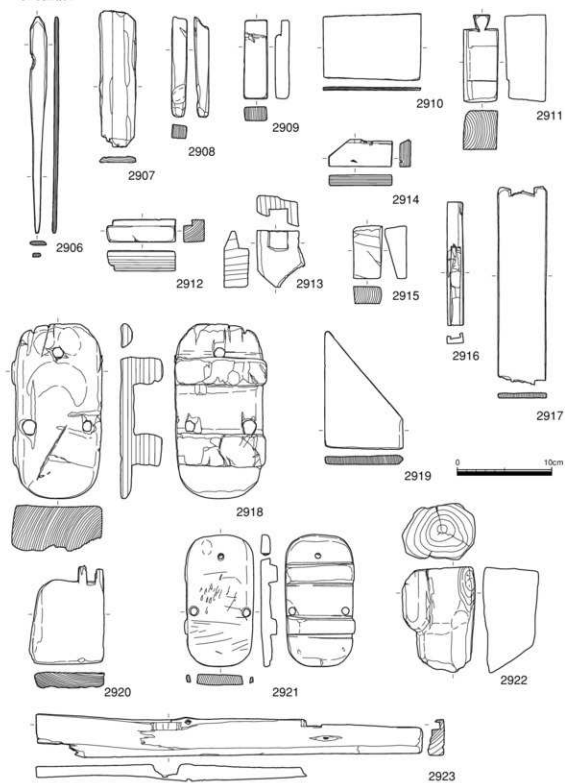
2886は隅角部が斜めに切断された方形の板材の一部で、桜皮が残存する。2891は平面が台形状に形作られた薄い板材で桜皮が残存する。このような形状の折敷は、本遺跡ではまだ発見されていないが、桜皮の存在などからここでは折敷であると想定しておく。

97C区検4



第194図 木製品実測図(15)

97C区検4



第195図 木製品実測図(16)

(D) 下駄

下駄は一本の連歯下駄(2918・2921)と差歯下駄の歯(2920)が存在する。2918・2921は小判形の平面形を持つもので、2921はやや小振りなものである。2820は半分程度が欠損している。

(E) 建築部材

2911は一辺が約4cmの角材で、両端部がきれいに切断されている。一方の端部は先端がばち状に開く「ありほぞ」が作られており、建築部材の一部と推測される。2912は一辺の角が直角に削られた「しゃくり面」が作られた角材である。2913は平面が方形の穴がくり抜かれており、ほぞ穴と考えられる。2917は下端部が欠損する板材で、上端部は平面「M」字状に切断されている。2922は枕状の材が短く切断された材で、端切れ材と思われる。2923は2ヶ所に平面方形の穴が穿たれた細長い板材で、建て具の部材の可能性も想定されよう。

(F) その他の製品

2887は平面が長方形の板材の端部付近に一列に配置された孔が5個存在する。用途は不明である。2894は戴頭円錐形の栓、2895は結桶底板の一部である。2896～2899は楔で、清洲城下町遺跡では井戸結桶のタガを締めるために使用される楔に類似している。2901は細長い六角形の中央部両側に切り込みが加えられた製品で、用途は詳らかにできない。2902はへら状木製品で刃部から柄部に向けて滑らかに削られ

ている。

J 97C区検出5出土木製品(第196図2924～2931)

曲物桶、折敷、結桶、箱物などの製品が出土した。2924は箱物の側板の一部で、別材との接合部分以外の外面と内面に黒色漆が塗布されていた。板材の両脇に別の側板材が斜めに組み合わさるように加工され、上位から木釘が打ち込まれていた。板材の下面にも底板と接合するための釘穴が認められる。2927は小規模な方形の折敷底板であり、2928と2929は円形の曲物桶底板である。2932も折敷底板と考えられるが、全体の形状を復元できない。2930は結桶の側板で底板の圧痕とタガの圧痕が残存する。

(4) 99A区

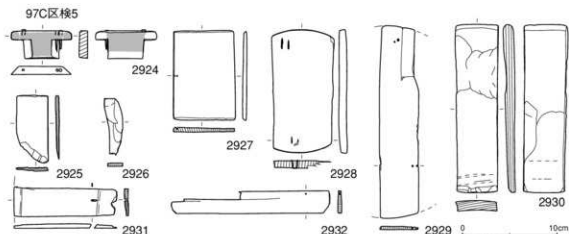
A 99A区SK248出土木製品(第197図2934・2936)

木胎漆器碗B類(2934)と結桶側板(2936)？が出土した。2934は体部と底部の外面に赤色漆による施紋が存在する。2936は非常に短く切断された板材で用途は不明であるが、上端部は結桶状に加工されていることから結桶側板の一部と推測した。

B 99A区SD11出土木製品(第197図2935)

2935は木胎漆器碗B類である。内面赤色漆、外面黒色漆が各々塗布されていた。

C 99A区SK33出土木製品(第197図2937)



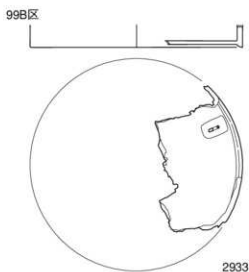
第196図 木製品実測図(17)

2937は先端が尖り基部の中央が突帯状に削り出された製品で、木製農具の部材の可能性が考えられるものである。

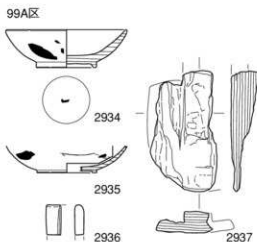
(5) 99B区

99B区から出土した木製品は木胎漆器類や曲物桶などの生活用具類が若干出土している他に、今回は図示できなかったが、井戸側の井戸結桶なども存在する。ここでは他の調査区と同様に遺構毎に記述を進める。

A 99B区SK291出土木製品 (第197図2933)



2933



2934

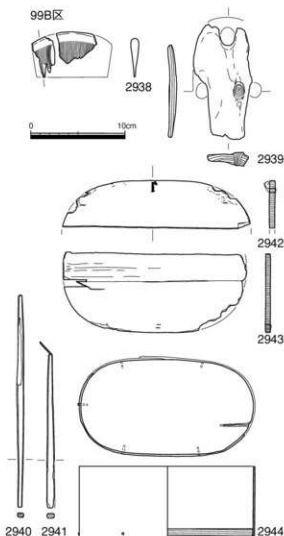
2935

2936



2937

2938



2939

2942

2943

2944

2933は木胎漆器曲物桶である。推定直径は26.8cmのやや大きな規模を持ち、器全体が茶色漆で塗布されていた。木質の遺存状態は不良で、厚く塗布された漆膜部分が良好に残存している。側板は一重に巻かれていたと推測され、底板は側板の内側にはめ込まれている。側板と底板の接合部分の状態は観察できなかった。底板の外面には1ヶ所脚が付いたと考えられる漆膜が方形に遺存しない部分があり、その中央には脚を固定したと思われる釘孔が認められる。本遺跡では類例を見ない製品であり、SK291の共存遺物からみて城下町期に属すると考えられる。

B 99B区SD20出土木製品 (第197図2938・

第197図 木製品実測図(18)

2940・2941)

2938は横櫛、2940と2941は箸で、全て一部が欠損している。

C 99B区SX01出土木製品 (第197図2939)

2939は一木作りの連菌下駄で孔部を中心に腐食が進み、本来の全体の形状は復元できないものである。

D 99B区包含層など出土木製品 (第197図2942～2944)

2942～2944は平面形が楕円形を呈する曲物桶である。2942と2943は底板が欠損したもので、外周部に側板を固定するための板皮が遺存している。両者は東壁を清掃した際に出土したもので、所属時期を特定することができない。2942は側板と底板が両方残存する曲物桶で、側板は一重巻で底板とは木釘などで止められていた。底板の厚さは比較的厚くなっている。

3 土台木

(1) 概要

石垣SW01の基礎構造となる土台木(胴木)は全部で30本が出土している。土台木は線路のレール状に組み合わさった状態で検出されており、横木(線路の枕木相当部分)と縦木(線路のレール相当部分)で構成される。これらの土台木は配置された部位によって形態が異なっており、横木は土台木中央部付近に2ヶ所の凹部を持つもの(土台木A類)、縦木は土台木両端部に相欠きほぞを設けるもの(土台木B類)となっている。ここでは土台木の類別毎に記述し、その主要なものについて図示し紹介していきたい。

(2) 土台木A類(第200・201図2949~2954)

土台木A類は土台木中央部付近に2ヶ所の凹部を持つもので、実際には横木として凹部を上面に配置されており、2ヶ所の凹部に各々2列の縦木の土台木が置かれていた。この土台木A類の凹部の幅は、縦木(土台木B類)の材の幅よりもかなり広く作られており、組み合わせる際には随分と余裕がある状態であった。

土台木A類は、木取りのあり方から3類に分類できる。A1類は丸太材をそのまま利用し多少の加工が施されているに過ぎないもの(2953)である。A2類は丸太材を縦方向に半載したものを利用しそれに多少の加工を加えて製作されたもの(2949~2951・2954)である。A3類は丸太材を縦方向に四分の一以上に分割した材を利用し、それに多少の調整が加えられたもの(2952)である。以下に具体的な6つの事例を紹介する。

2949は「胴木26」として取り上げられた、全長225cm、最大幅32cm、最大厚21cmの規模を持つA2類の土台木である。丸太材を半載した面を下にして配置されていた。上面に凹部を2ヶ所持ち、上面と両側面にはチョウナによる加工痕が残存していたが、一部に樹皮を除去した状態のままの部分がある。下面には鋸による加工痕が残存しており、一

方の端部から一気にもう一方の端部まで曳き切られていた。細かな節がいくつか残存する材が用いられていた。

2950は「胴木27」として取り上げられた、全長273cm、最大幅36cm、最大厚16cmの規模を持つA2類の土台木である。丸太材を半載した面を下にして配置されていた。上面に凹部を2ヶ所持ち、上面と両側面にはチョウナによる加工痕が残存していたが、一部に樹皮を除去した状態のままの部分がある。下面には鋸による加工痕が残存しており、両端部から曳き切られていた。細かな節がいくつか残存する材が用いられていた。

2951は「胴木28」として取り上げられた、全長285cm、最大幅28cm、最大厚16cmの規模を持つA2類の土台木である。丸太材を半載した面を下にして配置されていた。上面に凹部を2ヶ所持ち、上面と両側面にはチョウナによる加工痕が残存している。わずかに樹皮を除去した状態のままの部分がある。下面には鋸による加工痕が残存しており、両端部から曳き切られていた。細かな節がいくつか残存している。

2952は「胴木32」として取り上げられた、全長267cm、最大幅30cm、最大厚27cmの規模を持つA2類と推測される土台木である。一方の端部の木目が乱れているため正確な木取りを確認することができない。上面に凹部を2ヶ所持ち、上面のみチョウナによる加工痕が全体に残存していた。下面と両側面には鋸による加工(切断)痕が残存しており、一方の端部から一気にもう一方の端部まで曳き切られていた。下面は半分以上が遺存状態が不良で鋸痕が確認できなかった。また、一方の側面では斜めに割られていた。木目の状態が判然としないため正確に分類できないが、鋸痕が下面と両側面に残存することから、この3面が切断されて製材されたものと推測される。したがって、少なくとも丸太材を六分割以上に切り取った材を使用していたと考えられ、A3類と分類されよう。

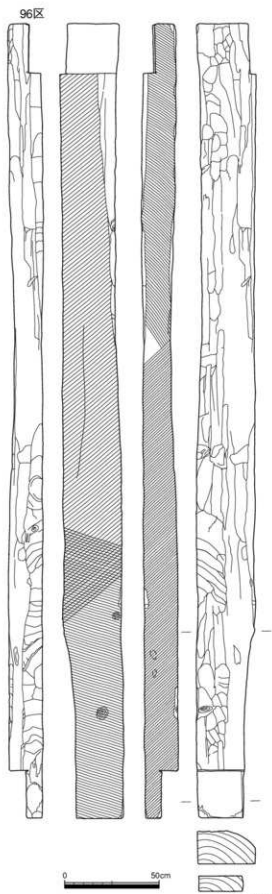
2953は「胴木33」として取り上げられた、全長

96区

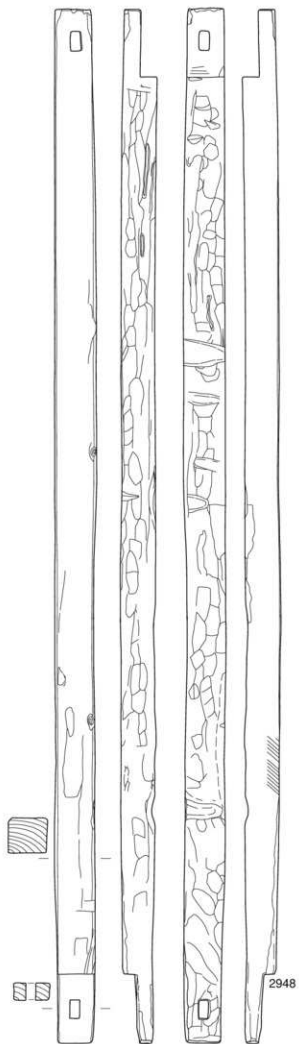


2945
第198図 土台木実測図(1)

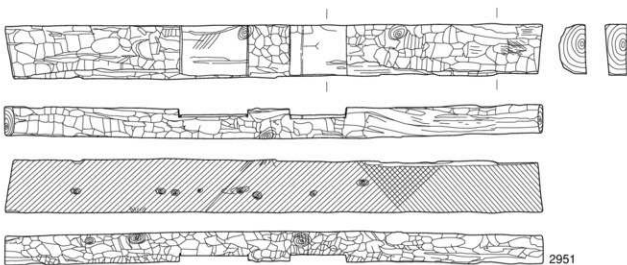
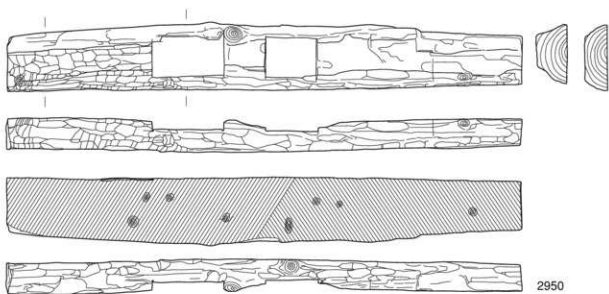
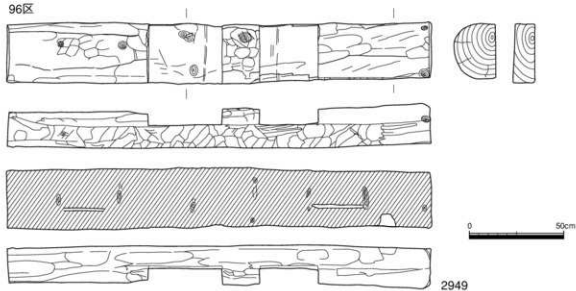
2946



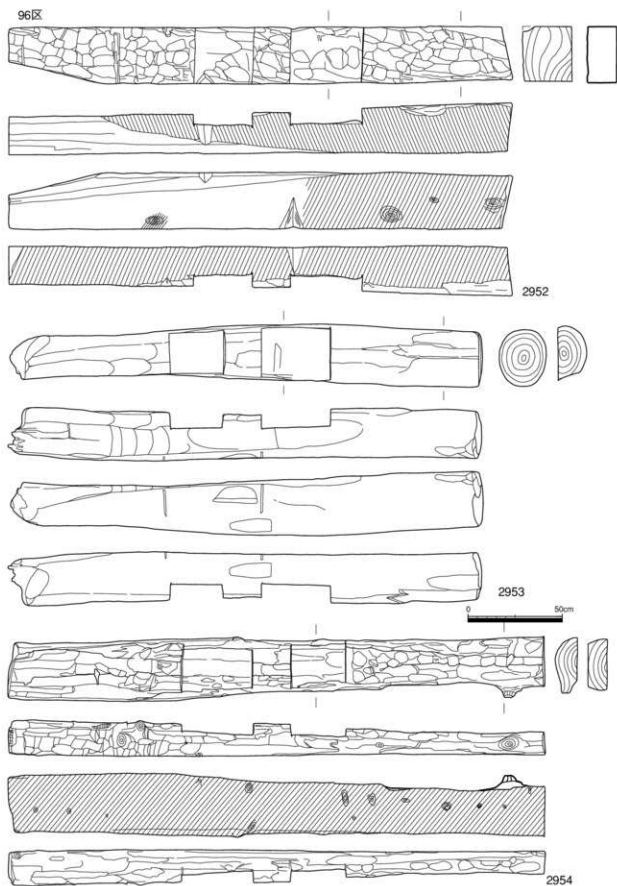
第199图 土台木实测图(2) 2947



96区



第200図 土台木実測図(3)



第201図 土台木実測図(4)

250cm、最大幅 30cm、最大厚 26cmの規模を持つA 1類の土台木である。凹部と反対側の部分を下にして配置されていた。上面に深さ約9cmの凹部を2ヶ所持ち、側面の一部などにチョウナによる加工痕が残存していたが、基本的には樹皮を除去した状態のままの部分が大部分である。節はあまり存在しない材が用いられていた。

2954は「胴木30」として取り上げられた、全長285cm、最大幅33cm、最大厚19cmの規模を持つA 2類の土台木である。丸太材を半裁した面を下にして配置されていた。上面に凹部を2ヶ所持ち、上面と両側面にはチョウナによる加工痕が残存していた。下面には鋸による加工痕が残存しており、一方の端部から一気にもう一方の端部まで曳き切られていた。一方の端部にはやや大きな節が、その他の部分には細かな節がいくつか残存する木材が用いられていた。

この他に、今回は図示できなかったが、実測可能な土台木は全部で17点存在する。ここでは、実測図を掲載しなかったものについては木取りの略図(第203図)を載せて報告しておきたい。これによると、胴木2・胴木3・胴木5・胴木13・胴木14・胴木20が土台木A 1類に属し、胴木4・胴木8・胴木10・胴木11・胴木12・胴木22・胴木25が土台木A 2類に所属し、胴木17・胴木19が土台木A 3類に分類される。各土台木は、土台木の分類に関わらず幅や厚さがそれほど違わず同じような規模で製作されていることから、これらのA 1類～A 3類の区分は原材である丸太材の規模によって決められていると推測される。すなわち原材が細いものはA 1類に属し、原材が著しく大きい場合はA 3類に属すると考えられよう。

(3) 土台木B類(第198・199・202図2945

～2948・2955)

土台木B類は土台木両端部に相欠きほぞを設けるもので、実際には縦木として横木の上面に置かれていた。全部で6本が存在する。この土台木B類のほぞは材の厚さのおよそ半分に加工されており、別の縦木(土台木B類)とちょうど組み合わせるようになる状態であった。断面が正方形または長方形の角

材が利用されている。

土台木B類は、ほぞ孔の有無で2類に分類できる。B 1類は材の両端部にはほぞ孔を設けるもの(2945・2948)である。B 2類は材の両端部にはほぞ孔を設けないもの(2946・2947・2955)である。土台木A類でみた製材の方法については、基本的には丸太材を縦方向に四分の一以上に分割した材を利用したものであり、この要素での分類は難しい。以下に具体的な5つの事例を紹介する。

2945は「横木東2」として取り上げられた、全長407cm、最大幅29cm、最大厚15cmの規模を持つB 1類の土台木である。上面と両側面にはチョウナによる加工痕が全体に隙間なく残存しており、下面には鋸による加工(切断)痕が残存している。下面の切断痕は一方の端部から一気にもう一方の端部まで曳き切られている状態が確認された。ほとんど節が残存しない材が用いられていた。調整痕からみて、2945は丸太材を半裁した材を利用し、上面や側面をチョウナで相当量削り取った製品と考えられる。組加工を施す際に切断し過ぎた鋸痕が残存している。ほぞ部に穿孔された孔は平面が長方形であるが、材に対してやや斜めに設けられている。両端のほぞは同じ面に作られている。

2946は「横木西3」として取り上げられた両端部が欠損するもので、残存長467cm、最大幅21cm、最大厚16cmの規模を持つB 2類の土台木である。上面と一方の側面にはチョウナによる加工痕が残存しており、一部に樹皮を除去した状態のままの部分が存在する。もう一方の側面には鋸による加工(切断)痕が残存している。下面は調整痕を見出すことが難しい状態であったが、木取り状態から推測すると下面も鋸による切断痕が存在していたと予想される。切断痕は一方の端部から材の途中まで曳き切られている状態であった。ほとんど節が残存しない材が用いられていた。調整痕からみて、丸太材を四分の一に分割された材を利用し、上面や側面をチョウナで相当量削り取った製品と考えられる。組加工を施す際に切断し過ぎた鋸痕が残存している。両端のほぞは異なる面に作られていた。

2947は「横木西1」として取り上げられた、全長

421cm、最大幅31cm、最大厚17cmの規模を持つB2類の土台木である。上面と一方の側面にはチョウナによる加工痕が残存しており、一部に樹皮を除去した状態のままの部分が存在する。もう一方の側面と下面には鋸による加工(切断)痕が残存している。鋸による切断痕は、両端部から曳き切られている状態が確認され、若干量の節が残存する材が用いられていた。調整痕からみて、丸太材を四分の一以上に分割された材を利用し、上面や側面をチョウナで相当量削り取った製品と考えられる。組加工を施す際に切断し過ぎた鋸痕が残存している。両端のほぞは異なる面に作られていた。

2948は「横木東1」として取り上げられた、全長549cm、最大幅21cm、最大厚19cmの規模を持つB1類の土台木である。上面と一方の側面にはチョウナによる加工痕が残存しており、一部に樹皮を除去した状態のままの部分が存在する。もう一方の側面と下面は遺存状態が不良で調整痕の判別が難しい状態であったが、わずかな痕跡から見て鋸による加工(切断)痕が残存していると判断することができる。若干量の節が残存する材が用いられていた。調整痕からみて、2948は丸太材を四分の一以上に分割され

た材を利用し、上面や側面をチョウナで相当量削り取った製品と考えられる。組加工を施す際に切断し過ぎた鋸痕が残存しており、両端のほぞは異なる面に作られていた。

2955は「横木東3」として取り上げられた一方の端部が欠損するもので、残存長248cm、最大幅18cm、最大厚19cmの規模を持つB2類の土台木である。上面と両側面にはチョウナによる加工痕が全体に隙間なく残存しており、下面には鋸による加工(切断)痕が残存している。下面の切断痕は両端部から曳き切られている状態が確認された。節が残存する材が用いられ、調整痕からみて、丸太材を六分の一以上に分割された材を利用し、上面や側面をチョウナで相当量削り取った製品と考えられる。組加工を施す際に切断し過ぎた鋸痕が残存している。

図示しなかったが「横木西2」として取り上げられた土台木は、残存長408cm、最大幅31cm、最大厚18cmの規模を持つB1類の土台木である。節が残存する材が用いられ、調整痕からみて、丸太材を半裁した材を利用し、上面や側面をチョウナで調整した製品と考えられる。組加工を施す際に切断し過ぎた鋸痕が残存している。

4 杭

(1) 概要

97C区(96区)の柵列からは、柵を構成する杭が多数出土している。これらについては柵列によって杭の形状などが異なっていることが判明している。したがって、ここでは道構別に代表的な資料を提示して記述を進めていきたい。

まず、杭を大きく横断面形態で2類に区分する。杭A類は横断面形が多角形状となるもの、杭B類は樹皮が付いた自然木のままの状態のもの(結果として横断面形は円形となる)に分けられる。

(2) SA01 出土杭(第204図2960)

SA01は大部分が杭B類で構成された柵列であり、その杭の具体例として2960を取り上げる。2960は直径が4~5cm、残存長が109cmを測る杭B類である。

下端部が鋭利に尖らせている他に加工痕は認められない。上端部は欠損している。

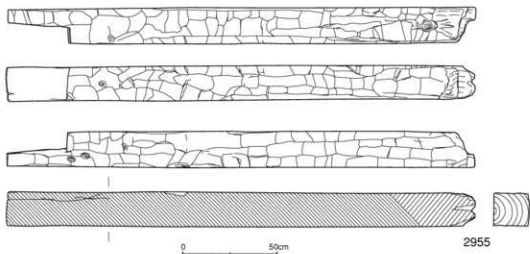
(3) SA04 出土杭(第204図2958・2959)

SA04は大部分が杭A類で構成された柵列で、その杭の具体例として2958・2959を取り上げる。2958は最大幅が約6cmで残存長が105cm、2959は最大幅が約8cmで残存長が106cmを測る杭A類である。両者は断面多角形を形作る杭の各側面はチョウナによって連続的に先端まで削られている。下端部は深く削ることにより鋭利に尖らせている。上端部の遺存状態は不良である。

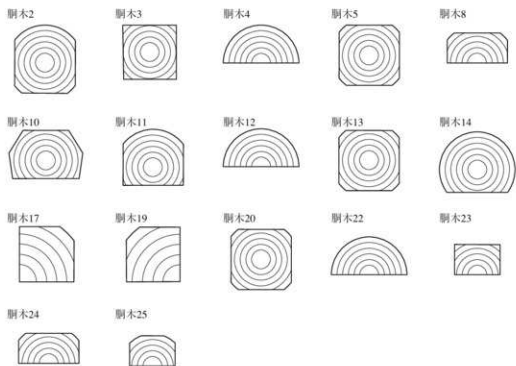
(4) SA05 出土杭(第204図2956・2957)

SA05は杭A類と杭B類で構成された柵列である。2956は最大幅が約6cmで残存長が94cm、2957は最

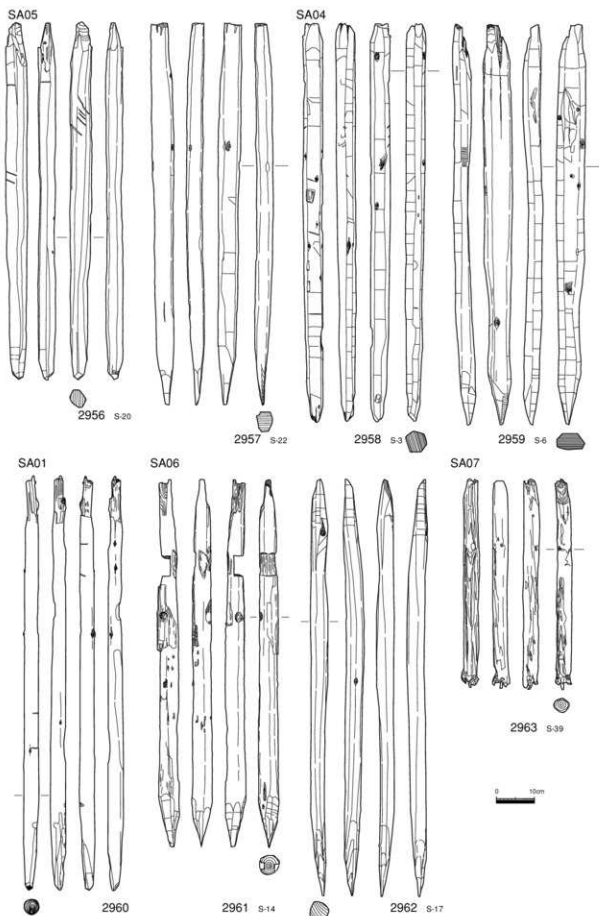
96区



第 202 図 土台木実測図 (5)



第 203 図 土台木断面模式図



第204图 杭实测图(1)

大幅が約7cmで残存長が101cmを測る杭A類である。両者の各側面は上端から下端までほぼ一気に削られており、割製法による成形かヤリガンナ状工具による加工が施されたと推測される。2956は下端部は短く先端を鋭利に加工し、2957は下端部は長く鋭利に尖らせている。2956は上端部も先端を尖らせている。

(5) SA06 出土杭 (第204図2961・2962)

SA06は大部分が杭A類で作られた構列で、具体的事例として2961・2962を取り上げる。2961は最大幅が約6cmで残存長が97cm、2962は最大幅が約6cmで残存長が110cmを測る杭A類である。両者は断面多角形を形作る杭の各側面は上端から下端までほぼ一気に削られており、割製法による成形かヤリガンナ状工具による加工が施されたと推測される。2961

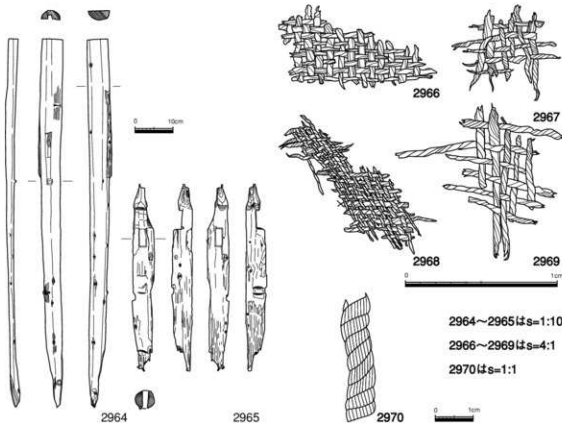
は上位に方形の溝を持つもので、転用材と推測される。2962は上端部もチョウナによって鋭利になっている。

(6) SA07 出土杭 (第204図2963)

SA07は杭A類と杭B類で構成された構列である。2963は残存長が55cmを測る杭B類である。先端がわずかに削られている。

(7) SA08 出土杭 (第205図2964)

SA08は大部分が杭A類などで構成された構列で、具体的事例として2964を取り上げる。2964は最大幅が約6cmで全長が97cmを測る杭A類である。断面多角形に形作った材を半載したものの先端を削って尖らせている。上端面はきれいに切断された状態である。



第205図 杭・布など実測図

5 繊維製品

(1) 概要

繊維製品は本来別項目を立てるべきところであるが、ここでは木製品の項目の中で報告することとしたい。繊維製品は97B区NR02から出土した青磁皿の内部に遺存していた。実測図を作成することができたものは4点存在する(2966～2969)。この他に同じ遺構から紐(2970)も出土している。

(2) 布

2966～2969は平編みされた粗い布状の製品であ

る。2966は太さが約0.4mmの糸を編んだ布で、長さにして約1cmが残存していた。2967は太さが約0.5mmの糸を、2969は太さが約0.6mmの糸を編んだ布である。2968は太さが約0.2mmの糸を編んだ布で、斜めに崩れた状態となっている。長さにして約1cmが残存していた。

(3) 紐

2970は長さが3.2cm残存する紐である。

(V) 石製品

1 概要

今回の発掘調査から出土した石製品は、五輪塔や宝篋印塔などの墓石類、石臼や硯などの生活道具類、砥石などの生産道具類などの多種多様なものが認められる。五輪塔や宝篋印塔などの墓石類や石臼は96区および97C区の石垣裏込めの栗石に混入して出土

したものが多く、その他の製品は99A区や99B区などで出土している。出土した地点や遺構は96区および97C区の墓石類や石臼を除くと多様でありかつ出土量は少量しかないことから、石製品の報告は種類別に報告することとした。

2 資料紹介

(1) 石臼

石臼には挽臼と茶臼の2種が存在する。

A 挽臼 (第206図 2971～2976)

挽臼には上臼(2971～2973)と下臼(2974～2976)があり、全て花崗岩製である。上臼は上面中央部が緩やかに凹んでいるもので、今回出土した資料は大部分が欠損しているがその中で孔を持つものは存在しなかった。下面には溝が彫られており、2971は主溝6本、副溝6本以上の6分割6溝?の目が刻まれていると推測される。2972と2973は目の構成を復元することができなかった。一方、下臼は扁平な円盤状の石材の上面に溝が彫られたものである。2974は8分割4溝の下臼と推定され、2975は7本以上の溝が刻まれていた。石の厚さは5cm程度のもの(2976)と8cm前後のもの(2974・2975)がある。いずれも溝が刻まれた面はよく磨耗しており溝が浅い傾向がある。

B 茶臼 (第209図 3003・3004)

茶臼は下臼の受け皿部分の破片のみが確認された(3003・3004)。両者とも受け皿の口縁部上端面が水平となり、裏面には鑿痕が残存している。安山岩製。

(2) 五輪塔

今回の調査では、組合せ五輪塔の部材と一石五輪塔の破片が認められた。大部分は組合せ五輪塔の部材で、空風輪と水輪が多く、火輪と地輪が若干量確認された。

A 空風輪 (第207図 2977～2985)

空風輪は、空輪の形状で分類すると、空輪の中央付近で最大径があり下に行くにつれて径が小さくなる1類(2977～2981・2983)、空輪の中央付近で最大径があるが下位の括れ部まで径がほとんど変わらない2類(2984・2985)、空輪の下位に最大径を持つ3類(2982)に区分される。また、空輪と風輪の大きさに着目すると、空輪の最大径の方が風輪よりも大きいA類(2980)、空輪と風輪の最大径がほぼ同一のB類(2977・2978・2981・2983・2985)、風輪の最大径の方が空輪よりも大きいC類(2979・2982・2984)に分類することも可能である。空輪の頂部の形状が普通に尖るものとやや突出するもの(2983)があり、前者のものが多数を占めている。風輪は逆裁頭円錐形となり最下部には半球形のほぞが削り出されている。全て花崗岩製である。

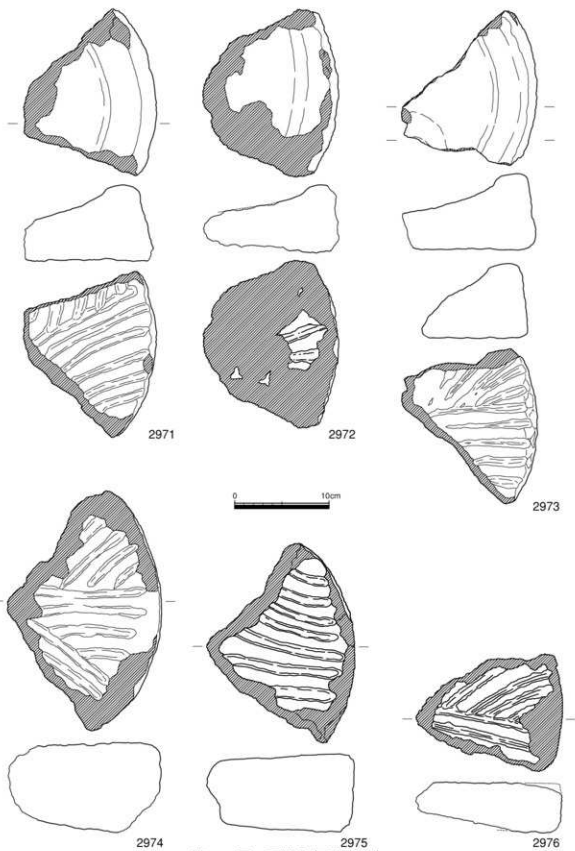
B 火輪 (第207図 2987)

火輪は非常に少なく、ここでは2987の資料を紹介する。2987は下面がほぼ平坦となるもので、自然石の面を利用したものではないタイプである。花崗岩製。

C 水輪 (第208図 2988～2993・2996)

水輪は縦断面形から2類に分類できる。1類は最大径がほぼ中央に位置する縦断面形が楕円形となるもの(2988・2989・2992・2993・2996)であり、2類は最大径がやや下方にある下彫れの形状となるもの(2990・2991)である。全て花崗岩製。2993は側面の一部に円形に一段高く削り出された部分が存在する水輪である。

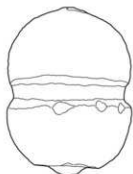
D 地輪 (第207図 2986)



第 206 図 石製品実測図 (1)



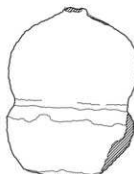
2977



2978



2979



2980



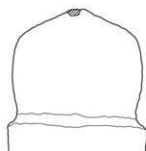
2981



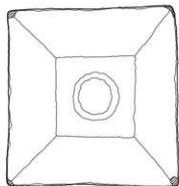
2982



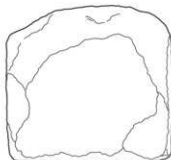
2983



2984



2985



2986



2987



第207図 石製品実測図(2)

地輪は2986の1点のみが確認されたが、上半部が欠損しており全体の形状を復元できない。一辺が約17cmの角柱状を呈すると思われ、花崗岩製である。

E 一石五輪塔 (第208図2994)

一石五輪塔は水輪と地輪が残存したと考えられる破片のみが確認された。一石五輪塔は清洲城下町遺跡では珍しいものである。

(3) 宝篋印塔

宝篋印塔には相輪部、塔身と相輪部の請花・伏鉢と推測されるものなどがある。

A 相輪部 (第209図2998)

2998は安山岩製の相輪部で上下端部が欠損する。相輪は8段が残存していた。

B 請花・伏鉢 (第208図2995)

2995は、宝篋印塔とは確定できないが、相輪部の請花・伏鉢と推測されるもので、花崗岩製であった。

C 塔身 (第209図2997)

2997は一辺が約13cmの立方体で上部に円柱状のはぞが付いている。正面には刻書で「為浄源堂 南無妙法蓮華經 長享二年九月十日」と記されている。長享二年は1488年である。上面と下面にはのみ痕が多数残存する。

(4) 砥石

砥石は石材の種類で大別されるが、今回の資料では凝灰岩製の仕上げ砥に相当するものが多い。石材や規模・形状から以下の5類に分類できる。1類は幅が4cmを超え、長さが6cmを超える比較的大きな扁平な凝灰岩製砥石である。2類は幅が3～4cm前後の扁平な凝灰岩製砥石、3類は幅が2cm前後の扁平な凝灰岩製砥石、4類は幅が1cm前後の細長い凝灰岩製砥石、5類は砂岩製砥石で平面形はばち形となるものである。

A 砥石1類 (第209図3005～3008)

全て上下端部が欠損し、全体の形状を復元できない。3005と3006の表面には細かい傷が残存しており、3007は使い込まれ中央部がやや凹んでいる。

B 砥石2類 (第209図3009～3014)

3014のみが厚くなっている他は厚さが1cm前後と薄いものである。3009は下端部がややばち形に広がっている。

C 砥石3類 (第209図3015～3017)

3015は角柱状の形状、3016はやや扁平な形状、3017は下端部がやや円弧状になるものである。

D 砥石4類 (第209図3019・3021・3022)

非常に細長い扁平な凝灰岩製砥石である。3019は平面が湾形を呈するものである。

E 砥石5類 (第209図3023)

3023は大部分が欠損し全体の形状を復元できないが、多角柱状の砂岩製砥石であったと推測される。

(5) その他の製品

A 硯 (第209図2999～3002)

硯はいずれも上端部(海部)が欠損したものである。2999は裏面に「正壽庵」と細かく刻書されていた。3002は中央部が著しく磨り減って凹んでいる。

B 軽石 (第209図3020)

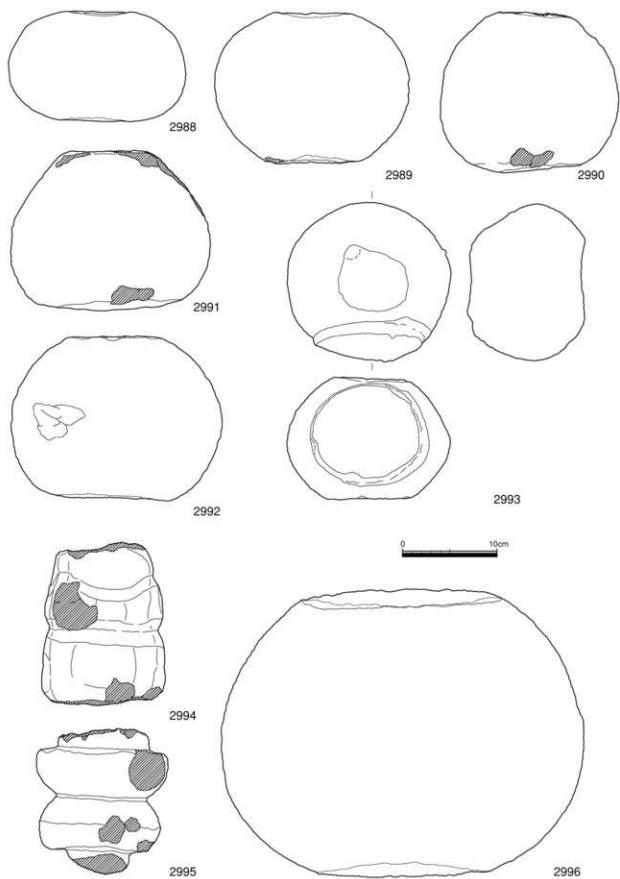
平面が半円形状で頂部に近い位置が穿孔されている。

C 火打ち石 (第209図3024)

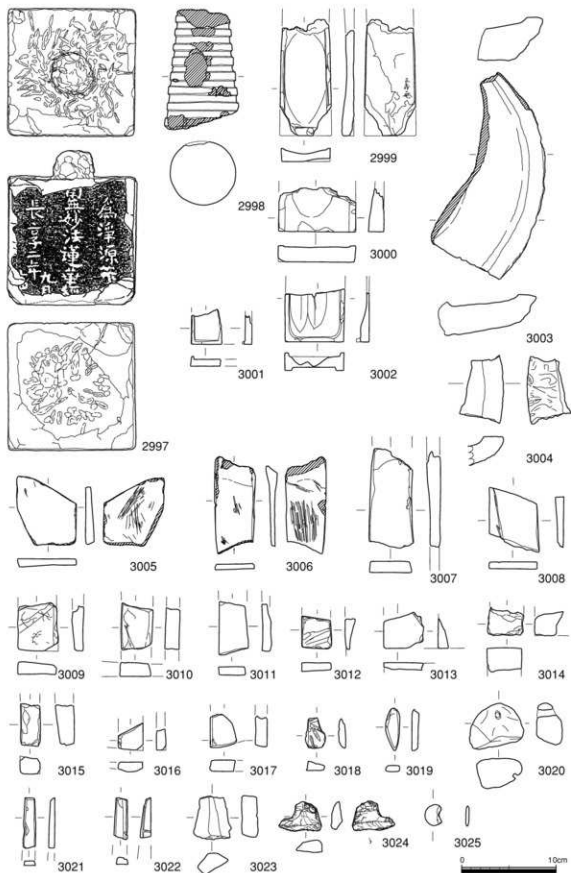
チャート製の火打ち石で、上端部に細かい使用痕が残存する。一部が鉄粉が付着し錆付いたためか茶色に変色していた。

D 碁石 (第209図3025)

3025は黒色の石材で円形に作られた碁石と考えられるもので、一部欠損していた。



第208図 石製品実測図(3)



第209図 石製品実測図(4)

(VI) 金属製品・金属関連遺物

1 概要と分析の方法

金属製品・金属関連遺物は全部で1862点が出土した。これらは材質から、鉄製品、銅製品、鉛製品、金属器製作に関連する鉄滓などの金属関連遺物に分けることができる。ここでは資料の紹介を材質毎に分けて行い、調査区別には記述しないこととした。

さて、金属製品・金属関連遺物については、まず全ての資料を選別抽出した後に、1点ずつ規模や着磁度とメタル反応について計測し発泡などの属性に

ついて肉眼観察を実施した。その具体的な内容は「門間沼遺跡」（石黒編1999）で実施した方法に準拠しており、同文献を参照されたい。その後、1800点を超える資料を全部図示することは難しいので、必要最低限の資料を選別し報告することとした。図示しなかった資料についてはCD-ROM掲載の一覧表を参照されたい。なお、甲冑類（小札と喉輪の月形）については磯村豊司氏のご教示を得た。

2 鉄製品

鉄製品には、小札、釘、鎌、火打鎌、刃物類、鎌先など様々な製品が存在する。

(1) 小札 (第210図3026～3041)

97B区NR02植物層から比較的多くの小札類が出土した。これらは形状から大きく4類に分類できる。1類は頭部が斜めに切断され孔が3列に配列される「小札頭三日札(こごねがしらみつめさね)」(3026～3032)、2類は頭部に半円形の山が3つ取り付き孔が3列に配列される「三山甚石頭三日札(みつやまごいしがしらみつめさね)」(3033～3036)、3類は頭部が平坦に切断され孔が3列に配列される「一文字頭三日札(いちもんじがしらみつめさね)」(3037)、4類は頭部が斜めに切断され孔が2列に配列される「本小札(ほんこごね)」(3039・3040)である。1類～3類の三日札は鉄札と革札を交互に重ね合わせて使用されるタイプである。1類は孔の形状がいびつであることや大きさなどからみて鎌倉時代に多い小札と考えられ、広島県嚴島神社蔵浅葱綾威鎧に使用される札に類似する。2類と3類は室町時代に多い小札と推測され、表面に付着する褐色固着物は木屑を使用した韋包(かわづつみ)の残欠の可能性がある。また3033のように縦断面が彎曲するものが存在することから見て腹部分に用いられた小札の可能性が高い。1類から3類の組み合わせから見て、鎌倉期の小札を利用して室町期の韋包腹巻の一部であった可能性

が大きいと言える。大阪府金剛寺藏蓮華包腹巻に類似すると思われる。4類は下幅が広く、室町時代のしころ部分の本小札と想定される。

97B区以外にも数点の小札が出土したが、まとまった出土状態を呈しておらず、詳細は復元し得ない。

(2) 喉輪の月形 (第210図3042)

前述の小札群が出土した地点では喉輪の月形も出土した。平面が馬蹄形を呈した鉄板の端部が外側に折り曲げられた製品で、表裏両面には厚く黒色漆が塗布されていた。漆塗りの外側には部分的に布が残存していた。部分的に土砂が固着して不明な部分があるが、内側の外周部に沿って孔が並んでおり、両端にも2個ずつ孔が穿たれていた。形状などから見ると室町時代に属すると考えられ、伝来する色々威胴丸大袖喉輪付の喉輪に類似するものと思われる。

(3) 釘 (第210図3043～3066)

釘は、長さが2～12cmくらいの範囲で分布しており、角柱状の鉄棒の頭部を扁平に一旦打ち伸ばした後に折り曲げて作成したものである。頭部が欠損したもの(3062など)や途中で折れ曲がったもの(3053など)があり、全体に土砂の固着が著しく遺存状態は不良である。3051は頭部を直角に折り曲げた鉄釘で、頭部の幅はそれほど打ち伸ばされていない。

一方、3054などは頭部が広く打ち伸ばされており、折り曲げた結果平面形が「T」字状となっている。

(4) 鎌 (第211図3067～3070)

鉄鎌と推測される遺物は全部で4点が確認された。3067と3068は99B区東壁から出土した鉄製品で、両者は本来は同一個体であった可能性が考えられる。3067は鎌の基部、3068は刃部が残存する資料であり、後者の刃部は平面が幅広い「Y」字状を呈するものである。3069は97C区の石垣遺構の下の堆積層から出土した鉄鎌で、刃部の平面形は中央部が括れる長方形、縦断面形は二等辺三角形になるもので、基部の先端も鋭利に尖った状態となっている。

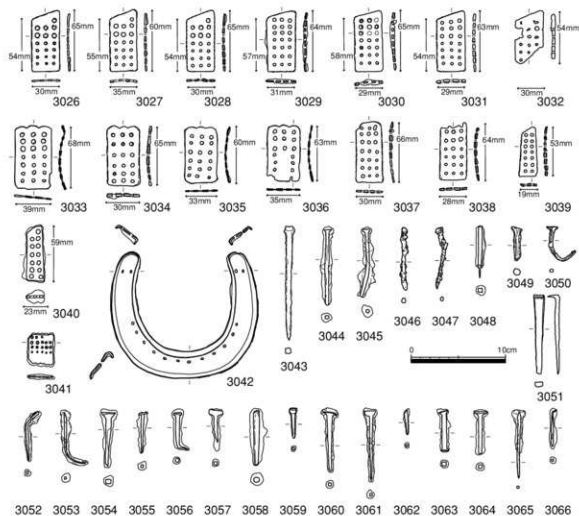
3070は固着が著しく破損した資料であるが、刃部の平面形は菱形となるものである。この他に鎌ではないが、二股刺突具(3071)も出土している。

(5) 火打鎌 (第211図3072～3075)

火打鎌には平面形態から2類に分類できる。1類は中央上部が突出するタイプ(3072～3074)で、3073には突出部に孔が1個穿たれていた。2類は両端部が上方に直角に折れ曲がり「コ」の字状を呈するタイプ(3075)である。

(6) 刃物類 (第211図3076・3084)

刃物類には刀子や包丁?などがあるが、刀子は刃



第210図 鉄製品実測図(1)

部が残存しておらず銅製の柄部が残るもので、ここでは報告しない。包丁と考えられる製品は3076などがある。3076の刃部の背は直線的になっている。

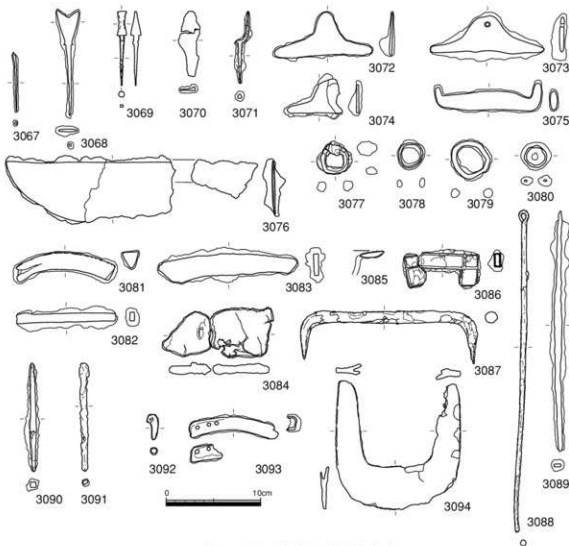
(7) 鋏先 (第211・212図 3094・3095)

鋏先は2点が確認され、両者とも97C区の石垣の裏込め部分や石垣の下層から出土している。3094は全長約13cm、幅約13cmの鋏先で、横断面はV字形を呈している。平面形は丸みを持った「コ」の字状になっており、刃部の一部が欠損する。3095は全長約40cm、幅約21cmの大鋏の鋏先で、横断面はV字形を呈している。平面形は馬蹄形に近いが、刃部の

幅は広く約22cmを測る。刃部の先端は丸くなっている。3095の内側には木製鋏身(3096)がはめ込まれていた。3096のやや上部には平面形が台形を呈する孔が存在し、そこに鋏柄が差し込まれたものと考えられる。3097は鋏身と鋏柄を固定するための楔と思われる。

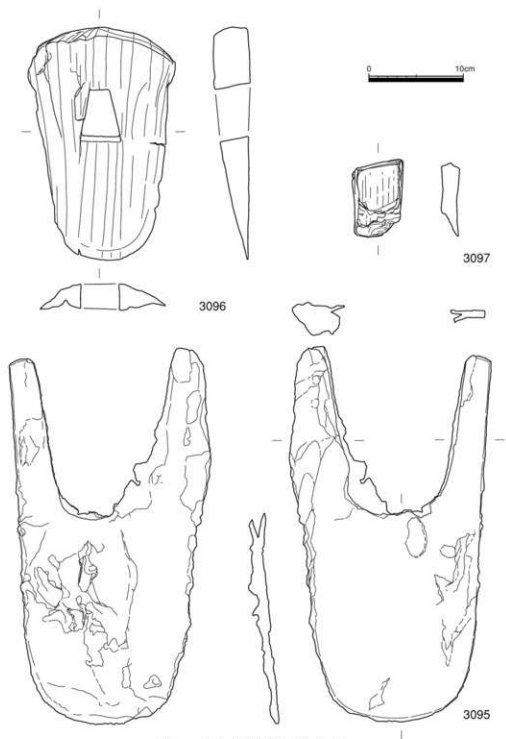
(8) その他の製品

3077～3080はリング状の鉄製品で、大きさから直径約3cmのもの(3077・3078・3080)と直径が4cm前後のもの(3079)がある。3085は容器の口縁部で外面に多量の煤が付着している。小破片のため口徑



第211図 鉄製品実測図(2)

を推定できないが、直径はかなり大きいものと推測され鉄鍋の口縁部と思われる。3087は非常に大きな鏝、3088は頭部が環状に曲げられた火箸である。



第212図 鉄製品実測図(3)

3 銅製品

銅製品には、鏡、飾金具、刀子、煙管、筭、銭貨など様々な製品が存在する。

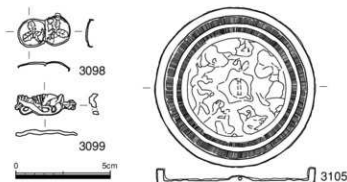
(1) 鏡 (第213図 3105)

3105は97B区NR00から出土した鏡で、面径は約8.5cmを測る小振りなものである。外周部はL字状に折れ、端部は断面方形となっている。裏面には二重の圏線が巡っており、その内側の紋様構成は遺存状態が不良であるため不明である。

(2) 飾金具 (第213図 3098・3099)

飾金具(目貫)としたものは3098と3099がある。3098は円形が2つ重複する形状で表面に草花紋が施されていた。3099は紋様のモチーフは不明である。

(3) 刀子 (第213図 3100～3104)



今回の調査では刀子の柄が4点出土している。これらの刃部は鉄製、柄部は銅製のものと考えられ、全て刃部が欠損している。3100は銅製柄部に刃部の中子付近がかろうじて残存し錆跡しているもの、3101は表面にモチーフが不明であるが、紋様が施されたものである。3104は刃物のはばきである。

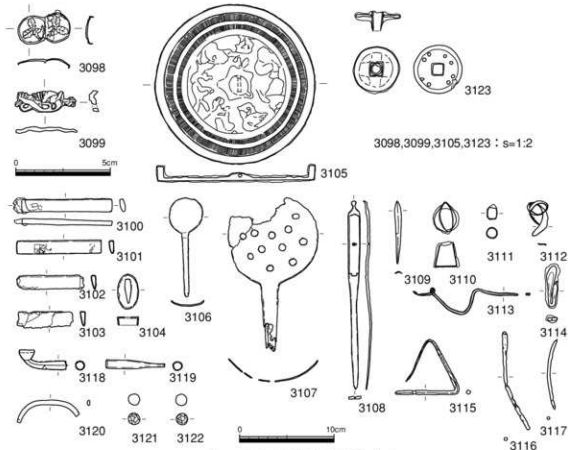
(4) 煙管 (第213図 3118・3119)

煙管は雁首(3118)と吸口(3119)が出土した。これらは宿場町期に属する遺物と想定される。

(5) 銭貨 (第214図 3124～3164)

銭貨は各調査区から国内銭と渡来銭が全部で86点出土している。ここでは、数枚がまとまった状態で出土したものを中心に報告する。

3126～3131は96区SX01の2層から出土した銭貨



第213図 銅製品実測図(1)

で、新寛永通寶などが出土している。

3138～3145は97B区NR02植物層から出土した一括資料で、巾着袋状のものに包まれた状態で出土したものである。遺存状態が不良なものも存在するが、全て渡来銭で構成されていたと推測され、洪武通寶や永樂通寶などが含まれている。3138は孔が所々開いており、3145は部分的に発泡した状態になっている。この他に97B区NR02植物層からは3146～3149なども出土している。3146は二次的に火を受けたためか表面が一部溶解して文字が不鮮明となっている天聖元寶である。3148は2枚が重複した状態で出土した資料で、うち1枚は洪武通寶である。

4 鉛製品 (第213図3121・3122)

鉛製品には鉄砲玉が存在する。径が約1.2cmを測

5 金属関連遺物 (第215・216図3165～3233)

今回の調査で出土した金属関連遺物には、椀型滓、炉底滓、流動滓、とりべ、銅塊、羽口など多様なものが存在する。これまで筆者等は金属関連遺物の出土分布から資料群のまとまりを見出し、また椀型滓などについて遺跡毎に分類を行いその組成から金属器生産の様相を検討してきた。ここではこうした検討は時間的な制約等から実施できなかったため、主要な資料について種別に報告するのみに止めたい。なお、今回の報告に際しては、金属関連遺物の分類や分析の方法について「門間沼遺跡」(石黒編1999)などの一連の文献に依拠して記述している。

(1) 椀型滓

椀型滓は鍛冶の段階に炉の底の部分に生まれる鉄滓である。炉の底の形を反映した平面が円形で断面が椀型の形状となる。これらは破割りされたものが多く、残存する部分の割合から2分の1割椀型滓、4分の1割椀型滓、8分の1割椀型滓、8分の1以下割椀型滓などに区分できる。形状や質感などから以下の5類に区分したが、今回の出土資料を全ては網羅していないことを断っておく。

椀型滓Aは最大長が5cm以下となる非常に小さな椀型滓(3219・3220)である。ガラス質は重く色調

3163・3164は99A区包含層中から出土した銭貨で、少なくとも5枚が重なった状態で確認された。このうち1枚は大破し全形を復元できず、2枚は文字を読み取ることができない状態であった。確実に銭種が判明するのは3163の大観通寶である。

(6) その他の製品

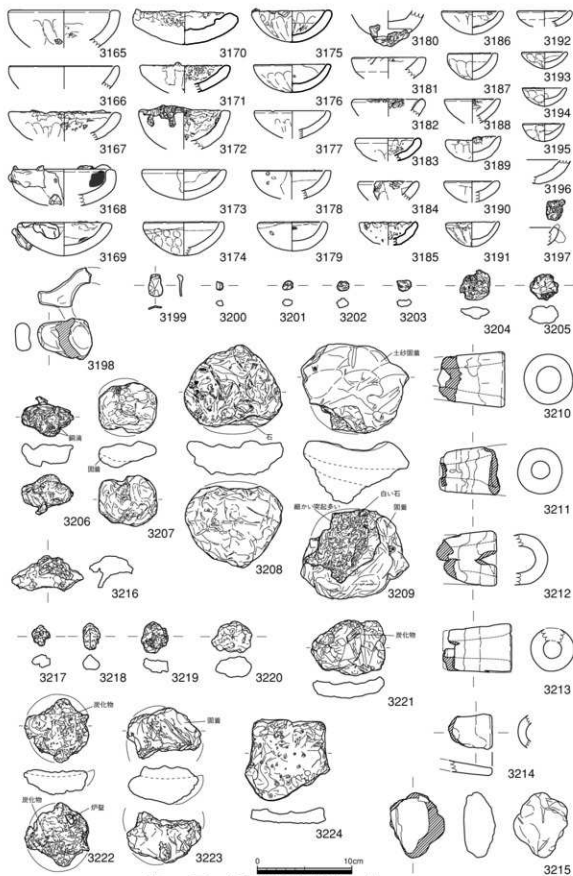
3106は斧で中央が穿孔されているものである。3106と3107は匙状の銅製品で、3107の皿部には多数の円形孔が存在する。3110は円筒形の容器、3123は銭種不明の銭貨に4ヶ所に2個ずつ計8個の小孔が穿たれている。

る球状を呈しており、表面は白色となっている。

は黒～黒褐色を呈している。3219と3220は上面に植物質痕が残存している。椀型滓Bは最大長が5～10cm程度の規模を持ち、厚さが2cm以下と薄いもの(3221)である。3221には木炭が付着する。椀型滓Cは重く色調は黒～黒褐色を呈している通常の規模の椀型滓で、表面がやや凹凸するもの(3207・3223)である。土砂の固着が著しいものが多い。椀型滓Dはやや重く色調は黒～黒褐色を呈し、表面に炭化物や白い石や炉壁片などが付着するもの(3208・3209・3222)である。土砂の固着が著しいものがある。3222は下面に炭化物や白い石や炉壁片などが付着し、上面には炭化物が付着するものである。椀型滓Eは表面の凹凸が激しいもの(3206)である。黒色の比較的に軽い質感の滑らかなガラス質を持ち、表面が赤紫色を呈し表面に銅滴が付着する。以上の観察から見て、椀型滓Eは銅製品生産に関わる滓と推測される。このタイプは99A区から多く出土している。ガラス質は質感が重い。

(2) 炉底滓

炉底滓は、椀型滓と同様に、炉の底の部分に生まれる鉄滓であるが、形状は板状となり椀型を呈していないものである。下面全体に炉材の土砂様のもの



第 215 図 金属関連遺物実測図 (1)

がびっしりと付着し、ねばりの非常に強い質感の滓が表面に広がっている状態などから、椀型滓とは区分して報告する。3224は着磁度3を測り、上面は黒～灰色滓が付着したものである。外面には粗砂礫を含む粘土が付着し表面に茶褐色の錆が浮いている。3229は97B区 NR01 灰色粘土から出土したもので260.9gを測る。下面に夥しい土砂の固着が認められ、これが母材と考えられる。上面には小石や木炭などが付着している。

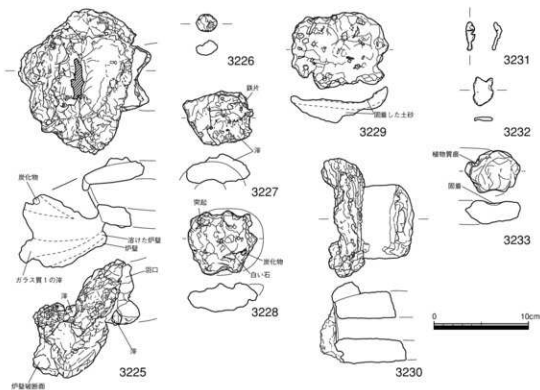
(3) 流動滓

流動滓は、一般には炉の内外で生成された流動状の鉄滓を指すが、ここでは椀型滓や再結合滓以外のものをいう。ガラス質の状態からAとBに分けられるが、ここではこの他に表面が赤紫色を呈し銅滴や緑青などが付着する銅製品生産工程の際に生成したと推測される流動滓Cを設定する。3217・3218は99B区SK180から出土した比較的気泡が大きく多いガラ

ス質を持つもので、流動滓Bに属する。3218は着磁度が3を計測するものである。3206は99A区SK94から出土した流動滓Cで全面赤紫色化し、凹部に緑青が残存する。銅滴も付着する。

(4) とりべ

とりべは丸底の椀型を呈する土器で、内面に滓などが付着し外面は被熱されている。内面に黄灰色付着物(3177など)や赤褐色付着物(3176など)が薄く付着する銅滓がわずかに認められるものや、銅滓や銅滴が比較的厚く付着するもの(3191など)などがある。口縁部付近が発泡するもの(3182など)や白い石が付着するもの(3185など)も見られる。口径は5～12cmに分布し、口径が小さいものは底部がやや尖る形状を持ち、口径が大きいものは口縁部が直立ぎみに立ち上がるものが多い傾向を読み取ることができる。3198は把手が付くとりべと推測されるものである。



第216図 金属関連遺物実測図(2)

(5) 銅塊

銅塊は99A区から多く出土している。白い石が付着するもの(3202)、炭化物が付着するもの(3204)や赤色付着物が見られるもの(3205)などがある。最大長が4cm以下の非常に小さいものばかりで、表面は凹凸が激しい。97B区では3226、95A区では3231の他に、鉛塊(3232)も認められた。97B区や95A区出土の銅塊は比較的滑らかな表面を呈している。

(6) 羽口

3210～3214は99A区で出土した羽口で、最大径が6cm前後と小振りなものが多い。表面に被熱痕が認められるが、先端が欠損するものが多いためか、滓が付着しているものはあまり見られない。

3226・3227・3230は97B区で出土した羽口で、最大径が8cm前後のものである。先端には多量の滓が付着している。3226は羽口先端部の下端に碗型滓が

連続しているもので、碗型滓の下面には溶融した炉壁が付着していた。碗型滓の中央部は灰黒色の緻密なガラス質を持ち、上半部はやや軽い質感のガラス質が載る。表面には白い石や炭化物が多量に認められる。羽口の上部には黒色から紫色のよく溶けたガラス質が見られる。

(7) 小結

今回の調査で特筆すべき調査成果は、銅製品生産に関わる99A区出土金属関連遺物であると考えられる。具体的には多量のとりべと共に、銅塊や流動滓C、やや小振りな羽口などが認められる。鋳型など破片は確認できなかったが、99A区では用途不明の粘土塊がやや多く出土しており、金属関連遺物との関連性が注目される。99A区付近で銅生産が行われていたとすれば、とりべや銅塊の大きさからみて小型の銅製品の生産(銅細工師)に関わる資料群ではないかと予想される。

(Ⅶ) 自然遺体

ここでは、今回の調査で出土した動植物遺体のうち動物の骨について取り上げる。種や部位の同定は、調査研究員堀本真美子が行い、この結果をもとに筆者が原稿を執筆した。なお、昆虫遺体については、森勇一氏の分析が本書に掲載されているので、合わせて参照されたい。

動物遺体は96区と99B区から合計で17件が確認

されており、ウシやウマなどの骨類とシジミの貝殻などが存在する。96区SX01出土動物遺体は城下町期Ⅲ期に属するもので、大型の動物遺体が多く見られる。99B区ではシジミが見られる他に、SK276からウマの右中足骨が出土しており、この骨には人工的な切断面が存在していた。

調査区	グリッド	遺構	日付	種	部位	備考
96区	Ⅲ G 10n	SX01	970131	不明		
96区	Ⅲ G 10o	SX01 2層	970131	不明		
96区	Ⅲ G 8o	SX01 2層	970131	ウマ	左尺骨	
96区	Ⅲ G 7o	SX01 2層	970131	不明	第2頸椎(近位)	
96区	Ⅲ G 6o	SX01 2層	970125	不明		
96区	Ⅲ G 10n	SX01 2層	970203	ウマ	右上腕骨	
96区	Ⅲ G 11n	SX01 2層	970123	不明		
96区	Ⅲ G 10i	TO1 下層	970312	魚骨	椎骨	
96区	Ⅲ G 10m	TO3	970117	不明		
96区	Ⅲ G 10m	TO3 SU02	970117	ウシ	歯	
96区	Ⅲ G 8o	TO4	970121	ウマ	左下顎骨 (M3,M2,M1,P4,P3,P2)	
96区	Ⅲ G 10m	検Ⅱ	970310	ウシ	右上腕骨	
96区	Ⅲ G 10m	検Ⅱ	970310	ウマ	右尺骨・橈骨	
96区	Ⅲ G 10n	検Ⅱ	970310	不明		
99B区	ⅧE5j	検Ⅱ	000225	シジミ	3個	
99B区	ⅧE13h	南トレンチ	000204	シジミ	2個	
99B区	ⅧE6k	SK276	000301	ウマ	右中足骨遠位端	切断面あり

第10表 動物遺体出土一覧表

(Ⅷ) 石垣に記された墨書

1 調査の経緯と調査方法

96区(97C区)で確認された石垣SW01では、これを構成する石垣石の表面に墨書が記されていたことが明らかとなっている。まず、96区を調査した時点で、石垣石23の正面(石垣の前面)に「貳」と判読できるのではないかと考えられた墨書が初めて確認された。ついで97C区の調査で、石垣を解体し石垣石の正面以外の面について墨書の有無を確認した結果、合計で19点の石垣石に墨書またはそれらしき痕跡を見出すことができた。この墨書については、当初からその史料的重要性が認識されており、多

くの研究者や調査研究員によって確認調査が行われた。1997年度に実施した石垣石の墨書の調査方法の概要を以下にまとめておく。

まず、石垣石に五条川に向かった面を正面として石番を打ち、詰石や栗石をはずしてから一つ一つ重機で取り上げていった。取り上げた石は現五条川堤防の上の空き地に並べ、水洗いをしたり、スポンジでたたいたりして土を落とした。検出状態での上面と側面をまず観察してから、重機で石を反転させて下面も確認作業を実施した。石の種類については堀木真美子(調査研究員)が石を取り上げるときに1つずつ観察し、必要に応じてサンプルを採取した。

石番	字の内容	字数	大きさ	縦×横	センチ	字の位置	種類	位置
1	文字か記号かわからない 墨付あり(墨である)	?		?		上面	砂岩	根石
2	3文字あり □ふ仁か? 仁は「に」か「太」かも	?		?		左側面	砂岩	根石
3	「いぬかい」 「ち□」	6	い2×4ぬ1.5×3か2×3 い2×3ち3×3			正面	砂岩	根石
4	□雑質	3	雑6×7 質4×4			下面	砂岩	根石
5	□□ 前の字は升か	2				上面	砂岩	根石
7	雑質(草書)	2	雑15×10 質17×12			右側面	砂岩	根石
7	□年(草書) 貳・未? 1と2とは字の手が違う	2	2字で 22×5			左側面		
8	墨書あり(1文字)	1		?		下面	砂岩	根石
9	□雑質	2	雑6×7 質4×4 雑の左肩に文字がある			上面	砂岩	根石
12	雑質	2	雑17×14 質 13×17			上面	砂岩	根石
12	孫一郎	3	孫4×3一1×4朗3×3			右側面		
13	六十五	3	六5×6.5十5×3五4×6			右側面	砂岩	根石
13	判読不能(墨書あり)	?		?		左側面		
16	判読不能(墨書あり)	2		?		右側面	砂岩	根石
16	判読不能(墨書あり)	1?		?		下面		
18	□□□	3	3文字とも字 真中は質 梵字かも。			左側面	砂岩	
18	判読不能(墨書あり)	?		?		下面		
19	雑質	2	雑5×4 質5×4			左側面	砂岩	
20	卒□ □□ □ 3つに分かれている	5?		?		下面	砂岩	
21	十□ (墨書あり)	2	十3×4			下面	砂岩	
23	雑□(行書)	2	雑9×6			正面	砂岩	
35	判読不能(墨書あり)	?	文字か記号かわからない			下面	砂岩	
35	判読不能(墨書あり)	?	々			左側面		
37	判読不能(墨書あり)	1		?		右側面	砂岩	
37	雑□	2	雑13×8			下面		
39	判読不能	?		?		下面	砂岩	

判読不可能・・・墨付はあるが、文字がはっきりと読めないものものをいう。

第11表 石垣墨書一覧表

調査は平成10年1月14日、22日、28日、30日、2月2日、28日、4月17日、5月22日の合計8回に及び、指導者の先生方をはじめとして多くの調査員の目で確かめた。墨書の文字の解説については最終的に福岡猛志氏・下村信博氏にご指導をお願いした。この時の調査成果は、早速浅井厚視(調査研究員)がまとめ、墨書に見られる「雑賀」「孫一郎」などの記述について詳細な検討を加えた論文(浅井1998)が発表されている。本報告は、この浅井がまとめた論文を基本的に踏襲したものであり、合わせて参照されたい。

石の各面の呼称であるが、石垣石などに番号(石番)を付した面を正面と設定し、それ以外の各面を

2 墨書の紹介

SW01の根石や石垣石は43個存在し、砂岩が37個、濃飛流紋岩が3個、チャートが2個、細粒花崗岩が1個、花崗岩が1個である。墨書が確認された19個の石は全て砂岩である。墨書は鮮明に観察できたものもいくつか存在したが、墨跡をかるうじて見い出せる程度のもも多く見られる。このため、墨書石垣石が全て砂岩であったことは、墨書を施す際に石材を選択して記していたと考えるよりも、石種による墨書の遺存状態の相違によるものかも知れない。

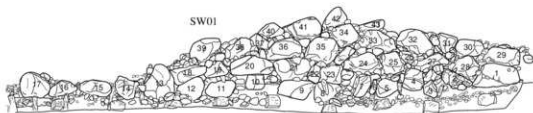
墨書は一面に記されるものと二面に記されるものがある。二面に墨書が施されているものが7点確認された。この中には「雑賀」と「孫一郎」と書かれたもの(石番12)、「雑賀」と「□年」と書かれたもの(石番7)などがある。また、一面だけに墨書が施されていたものが12点認められた。「雑賀」と書かれたもの(石番19)、「□雑賀」と書かれたもの(石

番4・9)、「雑□」と書かれたもの(23・37)、「いぬかい」や「ち□」と書かれたもの(石番3)、「十□」と書かれたもの(石番21)などがある。墨書らしきものが書かれ墨付けがあるものの、判読不可能なものも多数見つかった(石番1など)。

なお、96区で検出された石垣SW01は、現在五条川西岸の大手橋付近で愛知県建設部河川課によって移築復元されており、石垣石や根石の大部分は移築復元された石垣として用いられている。ただし、墨書が明瞭で記述内容が重要と考えられる石番3、石番7、石番12については、石垣石そのものを愛知県埋蔵文化財調査センターに持ち帰り、墨書部分の仮保存処理を行った後、遺物として保管している。このため移築復元した石垣の石番3、石番12、石番19に相当する部分は別石材が使用されている。

石に墨書が書かれた位置は正面が2点、上面が3点、下面が9点、右側面が5点、左側面が6点存在し、特に規則性は持たないようである。風雨にさらされることのない、目の届かない位置から多数見つかったことが読み取れる。また石垣遺構全体から考えると根石部分が10点、その一段上の石垣石部分が5点認められることから、石垣の下側の部分の残存状況が良好であったといえる。

個々の墨書の内容については第11表に、墨書の実際については第218～224図に示したので参照されたい。

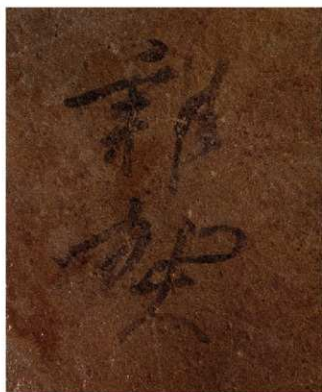


第217図 石垣SW01の石番対照図

石番 7



石番 12



第 218 図 石垣に記された墨書 (1)

石番1



石番2



石番3

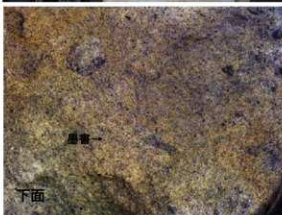
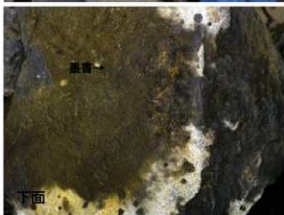


第219図 石垣に記された墨書(2)

石番 4



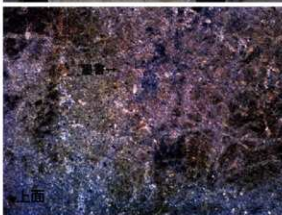
石番 8



石番 5



石番 9



第 220 図 石垣に記された墨書 (3)

石番 13



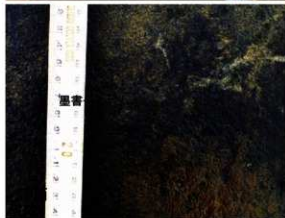
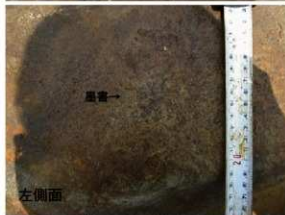
石番 16



石番 39



第 221 図 石垣に記された墨書 (4)



第222図 石垣に記された墨書(5)

3 考察

以下に今回の石垣の墨書に関して、浅井厚視氏の論考を再録する(一部鈴木が改変した)。

(1) 石垣の墨書の時期

これまでの発掘調査から清須城は、居館を中心とした城から、石垣や瓦葺建物を伴い、総構の城下町をもつ城へと変化したと考えられる。天正大地震後の天正14年(1586)、織田信雄が行った清須城の改修が画期となっている。この改修によって、清須城は4つの曲輪と天守をもつ城となり、本丸は石垣や総瓦葺建物で造られ、軒先は金箔瓦が施された黄金の城に生まれ変わった。石垣は軟弱な五条川沿いに造られたため、胴木と呼ばれる土台木の上に造られたことがわかった。その後、清須城の城主は天正~慶長の短い期間に豊臣秀次・福島正則・松平忠吉・徳川義直と代わった。豊臣秀次も城の改修を行ったとされている。今回見つかった石垣の墨書は信雄の行った改修に伴うものかそれ以降のものと考えられる。

とすれば、清須城の石垣は天正年間に造られた「野面積み」の石垣となる。先行の調査・研究から考えると、豊臣期の大坂城と同時期のものとなり、刻印と共に墨書がよく用いられた頃のものと考えられる。豊臣期の大坂城のように石垣普請を担当した大名なり家臣の人名が多く残っている時期と重なってくる。

(2) 地名としての「雑賀」

「墨書」の「雑賀」が、石材を切り出した場所か、石垣普請に従事した作業グループか、石材を運搬したグループか、普請奉行または工事責任者の出身地を示す地名とすれば、紀伊国雑賀庄(和歌山県和歌山市)以外には考えられない。例外として高知県松江市に雑賀町という地名があるが、これも紀州雑賀に由来した地名である。

雑賀は一般的には「さいが」とよばれる。雑賀孫一は「さいがまごいち」と通称でよばれている。しかし現在和歌山県和歌山市に残る地名は「雑賀町」

石番 20

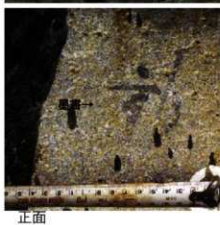


石番 21



第 223 図 石垣に記された墨書 (6)

石番 23



石番 35



石番 37



第 224 図 石垣に記された墨書 (7)

「雑賀屋町」「雑賀崎」「雑賀道」はいずれも「さいか」と呼ばれ、「小雑賀」のみ「ごさいか」と濁ってよんでいる。「万葉集」には「狭日鹿」と記され、また戦国時代の「山科言繼卿日記」でも「さいか」と書かれているので、「さいか」とよんだ方が正しい。

雑賀の地名の起源は「鋳処であって、刀鍛冶の技術のこと」「障処ということで障害のある険しい地名をさす」という両説があるが、一般的には鉄を鑄造するところという意味と考えられている。戦国時代に根来衆や雑賀衆を生み出す鉄砲生産や「雑賀鉢」とよばれる鉄砲が生産される下地はこの地名からも推測することができる(註1)。

(3) 人名としての「雑賀」

A 「雑賀」「孫一郎」とは

今回の「墨書」が、石材を切り出した人物か、石材を選搬した人物か、石垣普請に従事した人物か、割普請を担当した大名、大名の家臣、普請奉行または工事責任者の姓名をあらわしている可能性は非常に高い。「雑賀孫一郎」とひと続きで書かれていれば人名に違いないが、今回の墨書では「雑賀」「孫一郎」が分かれて書かれていただけに名字と断定することはできない。しかし「雑賀」が地名であれば、「雑賀住」「雑賀衆」と書かれることが多いだけに、名字と考えるのが自然のように考えられる。

雑賀を名字とするか、孫一郎を名前としている戦国期に登場した人物として、織田信秀の家臣「雑賀修理」、織田信雄の家臣「雑賀松庵」「雑賀猿」「山本孫一郎」、紀州雑賀衆「雑賀孫一郎」、「その他の雑賀氏」をあげることができる。

B 織田信秀の家臣「雑賀修理」

「信長公記」に「雑賀修理」という人が登場する。1554年の清須攻めで討ち死にしている。美濃出身の人物で「山科言繼卿日記」に書かれている「さいか右京進定直」と同一人物と考えられている。清須城の築城が天正大地震後の織田信雄の時期と考えると活躍した時期が早すぎると思われる(註2)。

しかし清須城の石垣が信長以前からのものであり、それを転用したと考えるならば、可能性が全くないわけではない。

C 織田信雄の家臣「雑賀松庵」「雑賀猿」

「織田信雄知行宛 奉行人連署奉書」に「雑賀松庵」と「雑賀猿」という人物が登場する。雑賀松庵は織田信雄の5人の奉行人の1人で、上級家臣に属している。1500貫を所領し、後に小牧・長久手の戦いでは、秀吉より人質を要求された重臣6人のうち1人でもある。松庵は信雄が南伊勢を領有していた時期(天正3年-)から信雄の代表的な奉行人として活躍した人物で、家臣全体の知行割決定に際しても信雄政権の重要な役割を果たした人物である。その姓からして、室町幕府の奉行人雑賀氏の系譜を引く可能性があると考えられている。雑賀猿は尾張国粟栗群と丹羽群に知行を得た人物である(註3)。

なお「孫一郎」という名前の家臣としては、山本孫一郎という人物が「分限帳」に記載されている。蟹江、鯉江(弥富町)で400貫の知行を所領している。

清須城の改修に際して、信雄が家臣に割普請を命じた可能性は高く、石垣の墨書が信雄の有力な奉行人である松庵なり、山本孫一郎のことを示しているとも考えることも十分にできる。

D 紀州雑賀衆「雑賀孫市」

この「雑賀」の墨書が見つかったとき、石山合戦以来信長と対峙した雑賀孫市ではないかと初め考えた。「孫一郎」の名前が確認されてからは、信長と対決した後、何らかの理由で信雄と手を結んだ証拠はないかとその思いを強めた。

雑賀孫市は謎に満ちた人物である。彼が石山合戦(1573年)で討ち死にしたのか、秀吉の雑賀攻め(1586年)で藤堂高虎によって謀殺されたのか、小田原攻め(1590年)にも参陣し、秀吉の鉄砲頭として生涯を終えたのか、さらに関ヶ原の戦い(1600年)では石田方につき、後に許されて水戸藩士となったのか諸説があってわからない。以下では孫市と考えられる3人の人物に分けて考えていく(註4)。

(A) 鈴木孫一重秀

石山合戦の侍大将として活躍したとされる孫一は彼である。孫一は信長の雑賀攻め(1577年)では雑賀衆の指導者として、徹底的に信長と交戦した。その後信長に近づき、土橋若大夫平次を滅ぼす際(1582

年には、信長の従兄弟の織田信張の助力を得ることとなる。孫一は信長が本能寺の変(1582年)で倒れると、後ろ盾を失って、実権を土橋氏に奪われ、雑賀を離れたようである。秀吉の雑賀攻め(1585年)では秀吉側につき、雑賀衆・根来衆を滅ぼす道案内の役を果たした。秀吉の雑賀攻めの後、孫一は姿を消した。

孫一と信張の関係については、「正月廿七日、紀州雑賀の鈴木孫一、同地の土橋平次を生害させ、…右の趣進申し上るの処、鈴木御見次として、織田左兵衛左大将(織田信張)として、根来、和泉遣わされ…」(『信長公記』)と記され、更に信長が信張に与えた書状の一節には「鈴木孫一參上、弥忠勤を抽んずべきの旨、神妙の由、能々其方に於いても、申し聞かせらるべく候」(『本願寺文書』)とあることによっても知ることができる。孫一を助けた織田信張は紀伊方面の軍政を担当し、後に織田信雄の有力な家臣となっている。『墨書』の「雑賀」「孫一郎」が鈴木孫一重秀であるとすれば、彼こそが信雄と孫一をつないだ人物と考えられ、彼の仲介によって清須城の石垣普請を手伝ったとも考えられる。

しかし、本人の署名のある文書や本人宛て所とする文書、同時代の覚書などから見る限り、彼は一貫して「鈴木孫一」「鈴木孫一入道」であり、重秀のことを「雑賀」姓や「孫一郎」という名で記した資料は未だに見つかっていない。

(B) 鈴木孫三郎重朝(雑賀孫市)

小田原攻めの陣立書(『伊達家文書』)に「鈴木孫一郎」、名護屋城の駐屯者を記した「名護屋古城記」に「鈴木孫三郎」とあるが、これは同一人物をさし、豊臣家の鉄砲頭として活躍した孫三郎重朝でないかと考えられる。

関ヶ原の戦いでは石田方につき、戦いの口火となった伏見城攻め(1600年)を行った。慶長11年(1606)には徳川家康に起用され、徳川頼房に付けられ、水戸藩の家老となった。孫三郎重朝は後に雑賀孫市とも雑賀孫一郎とも称したと言われている。『墨書』の「雑賀」「孫一郎」が孫三郎重朝であるとすれば、豊臣秀次の時代の清須城改修で石垣普請に辣腕を振

らったことが想像できる。

しかし、もし彼が豊臣秀次期の清須城の改修に関わっているとすれば、その前後の信頼できる文書と照らしてみると、姓名を「鈴木孫三郎」と書いていたように考えられる。

(C) 平井孫一郎義兼

和歌山市平井の蓮乗寺には雑賀孫市の墓と伝えられている「平井孫一郎」の墓碑が残っている。蓮乗寺には本願寺顕如から下付された方便法身像もあり、孫市本人かあるいはその縁者に賜った物と考えられる。小牧長久手(1584年)では雑賀衆の指導者として信雄・家康側に立ち、和泉国の背後から秀吉を牽制したと考えられる鈴木孫一郎は彼のことでないかと考えられる。

E その他の雑賀氏

その他雑賀姓を名乗った人物としては、毛利家の家臣である「雑賀三郎兵衛」「雑賀太郎」に繋がっていく地頭系の雑賀氏があげられる。また有力な雑賀衆の1人である「岡崎三郎大夫」(鈴木三郎兵衛重教)も雑賀姓を名乗っていた。

(4) まとめ

清須城の本丸付近から出土した石垣に書かれた墨書について考えてきたことをまとめたい。

A、織田信雄の清須城大改修に伴う石垣普請のものとして、「墨書」は墨書と刻印が共に施された時期のものであり、安土城、豊臣期の大坂城と同じ石垣に施された天正年間の墨書と考えることができる。

B、墨書の内容としては、大坂城や名古屋城などで見つかっている墨書・刻印と同じように石垣の割普請に関わった大名、家臣、普請奉行などの人名をあらわしていると考えることが有力ではないか。

C、「雑賀」「孫一郎」は人名を示し、織田信雄の有力な奉行人にあり、重臣であった雑賀松庵と考えられるのではないかと。

D、もし雑賀衆であったとすれば、織田信張を仲立ちとして織田信雄と関係のあった鈴木孫一重秀と考えることができるのではないかと。


註

- (1) 『和歌山県の地名』日本歴史地名大系（平凡社）『和歌山県地名大辞典』（角川書店）
- (2) 奥野高広『信長公記』（角川書店 1997年）
- (3) 加藤益幹『織田信雄の尾張・伊勢支配』（有光友学『戦国権力と地域社会』吉川弘文館 1986年）
- (4) 鈴木真哉『紀州雑賀衆 鈴木一族』（新人物往來社 1984年）『和歌山市史 本文編』

引用文献・主要参考文献

- 浅井厚裡 1999「清須城本丸付近の石垣の墨書—「雑賀」「孫一郎」について考える—」『年報平成10年度』（財）愛知県埋蔵文化財センター
- 石黒立人編 1999『門間沼遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第80集
- 小澤一弘 1987「清洲城下町出土の瓦について」『年報昭和61年度』（財）愛知県埋蔵文化財センター
- 小澤一弘編 1992『清洲城下町遺跡Ⅱ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第27集
- 小澤一弘編 1992『朝日西遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第28集
- 蟹江吉弘編 1996『清洲城下町遺跡Ⅵ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第65集
- 京都国立博物館 1989『日本の甲冑』
- 黒田慶一 1995「織豊期城郭から出土する桐紋瓦」『織豊城郭第2号』織豊期城郭研究会
- 鈴木とよ江 1992「瓦」『清洲城下町遺跡Ⅱ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第27集
- 鈴木正貴編 1990『清洲城下町遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第17集
- 鈴木正貴編 1994『清洲城下町遺跡Ⅲ・外町遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第50集
- 鈴木正貴編 1994『清洲城下町遺跡Ⅳ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第53集
- 鈴木正貴編 1995『清洲城下町遺跡Ⅴ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第54集
- 鈴木正貴編 1996「東海地方の内耳鍋・羽付鍋・釜」『鍋と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム
- 鈴木正貴編 1997『清洲城下町遺跡Ⅶ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第70集
- 鈴木正貴・藤山誠一 2000「愛知県における鉄器生産を考える（4）一朝日西遺跡を中心に」『研究紀要第1号』（財）愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター
- 鈴木正貴 2001「尾張の拠点城館遺跡出土の瀬戸美濃窯産陶器」『研究紀要第2号』（財）愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター
- （財）瀬戸市埋蔵文化財センター 1996『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界—その生産と流通—資料集』
- （財）瀬戸市埋蔵文化財センター 2001『戦国織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品』
- 赤羽一郎・中野晴久 1994「生産地における福年について」『「中世常滑焼」をおいて—資料集』日本福祉大学知多半島総合研究所
- 藤澤良祐 1993『瀬戸市史 陶磁史篇四』愛知県瀬戸市
- 藤澤良祐 1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要3』三重県埋蔵文化財センター
- 藤澤良祐 1998『瀬戸市史 陶磁史篇六』愛知県瀬戸市
- 藤澤良祐 2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第10輯』

IV 自然科学的分析·考察



(I) 清洲城下町遺跡出土木製品樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)・堀木真美子

1. はじめに

濃尾平野の西部、西春日郡清洲町に広がる清洲城下町遺跡から出土した木製品の樹種同定結果を報告する。今までにも、12世紀～20世紀の漆碗・漆皿・下駄・曲物・井戸側などの樹種調査が報告されている(鈴木編1990、小澤編1992、鈴木編1995)。そのうち漆器類に関してはトチノキとブナ属が多く、クリ・カバノキ属・ケヤキなど多種類の落葉広葉樹材が使用されている。漆器以外の木製品では、全体的にヒノキ属が圧倒的に多く使われていることが報告されている。また、武家屋敷と町屋では出土した樹種や器種に大きな差異は見られないが、時期が新しくなるにつれてトチノキの割合が増加する傾向が指摘されている。

今回の試料は、主に戦国時代(16世紀前半)の木製品である。町屋(庶民)の地域の調査区97B区から出土した66点と、本丸跡の調査区97C区から出土した109点である。製品の器種は、折敷・箱物・曲物・結桶・杓子(へら状)・下駄・建て具部材・建築部材・楔・不明板材・不明角材などである。また、清須城の石垣の下に敷かれていた16世紀後葉の土台木44点および杭133点の樹種同定結果も報告する。

2. 樹種同定の方法

材の組織標本は、片刃の剃刀を用いて材の横断面(木口)・接線断面(板目)・放射断面(柾目)の3方向を薄く剥ぎ取りスライドガラスの上に並べ、ガム

クロラールで封入し永久プレパラートとした。光学顕微鏡を用いてこれらの材組織を観察し同定を行った。一部試料については、製品の形状を損なう恐れがあるので3方向は採取できなかったものもある。刷木の多くは保存処理が行われていたので、破片を採取して水に浸けて放置し溶剤を貰った後に、同様に組織標本を作成した。

3. 結果

第14～19表に、各試料ごとの結果を示した。第12表では、刷木以外の木製品について器種別に使用樹種を集計した。また、庶民の生活域であった調査区97B区と本丸跡の調査区97C区では、検出樹種に差があるかどうかを比較した。第13表では、土台木に使われていた樹種とその点数を集計した。

・同定された樹種の材組織記載

モミ属 *Abies* マツ科 図版1 1a-1c(97C刷木29)

仮道管・放射柔細胞からなり、樹脂細胞は無い針葉樹材。傷害樹脂道が出現する(97C刷木6)。早材から晩材への移行はゆるやかである。放射柔細胞の壁は厚く、放射断面において接線壁に数珠状肥厚があり、上下端の細胞はときに山形になる。分野壁孔は小型のスギ型やヒノキ型で、1分野に1～4個、壁孔の配置は一定ではない。放射組織の細胞高は比較的高い。

モミ属は暖帯から温帯上部の山中に生育する常緑高木で、モミ・ウラジロモミ・シラベ・アオモリト

ドマツなどがある。材組織は類似性が高く、種類の識別はできていない。材質はやや軽軟で加工は容易であるが保存性は低い。

ツガ属 *Tsuga sieboldii* Carr. マツ科 第225図
2a-2c (97C駒木28)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞・放射仮道管からなる針葉樹材。傷害樹脂道が出現する(97C駒木16)。早材から晩材への移行は急で、晩材部の量は多く仮道管は厚く肥厚している。放射柔細胞の壁は厚く放射断面において接線壁に数珠状肥厚がある。放射組織の上下端には有縁壁孔を持つ放射仮道管がある。分野壁孔は小型のヒノキ型で、1分野に2~4個ある。

ツガ属は本州の福島県以南の暖帯から温帯下部の山地に普通のツガと、本州・四国・九州の温帯上部の深山に生育するコマツがあるが、材組織からは2種を区別することはできない。材は重硬で割裂性も大きく耐久性もよい。

アカマツ *Pinus densiflora* Sieb. et Zucc. マツ科
第225図 3a-3c (94A駒木A-6)

垂直と水平の樹脂道がある針葉樹材。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の量は多い。分野壁孔は窓状、放射組織の上下端には有縁壁孔を持つ放射仮道管があり、その内壁は鋸歯状の肥厚が発達している。

アカマツは低地から山地の陽光地や乾燥地に分布する針葉樹で、人間活動との関係が深く二次林の主要樹となる。材は耐水性に優れる。

マツ属複維管束亜属 *Pinus subgen. Diploxylon*
マツ科

マツ属複維管束亜属には、アカマツとクロマツが属する。放射仮道管内壁の肥厚の形状が、アカマツは鋭利な鋸歯状をなし、クロマツは比較的ゆるやかな山型の肥厚をなす。しかし組織の保存が悪いため、この特徴が不明であり2種を識別出来なかった試料である。

自然分布ではアカマツは内陸部に、クロマツは海

岸部に多いといわれている。

マツ属単維管束亜属 *Pinus subgen. Haploxyton*
第226図 4a-4c (97C駒木14)

垂直と水平の樹脂道がある針葉樹材。年輪幅は狭く、晩材部の量は少ない。分野壁孔は窓状、放射仮道管の内壁は平滑で肥厚が見られない。細胞壁は全般に薄く、放射組織の細胞高も低い。

マツ属単維管束亜属は、温帯から寒帯の山中に生育するいわゆる5葉松の仲間である。胴木に使われるほどの太く直立の幹材に成長する樹種は、コゴウマツ・チョウセンマツ・アマミゴヨウである。アカマツの材に比べやや軽軟である。

コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.
コウヤマキ科 第226図 5a-5c (97C-W-109)

仮道管・放射柔細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかである。分野壁孔は窓状、細胞壁は全般に薄く、放射組織は5細胞以下の背の低いものが多い。

コウヤマキは日本特産の1属1種の常緑高木で、福島県以南・四国・宮崎県の暖帯上部から温帯の山地に分布し、特に長野県の木曾、和歌山県の高野山に多い。材は耐久性・耐水性・耐蟻性に優れる。

スギ *Cryptomeria japonica* D. Don スギ科
第226図 6a-6b (97C-W-037) 7 (97C-W-065)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材の量が多く仮道管の壁は極めて厚い。分野壁孔は大きなスギ型、その孔口は水平に大きく開き、1分野に2~3個が水平に配置している。

スギは本州以南の暖帯から温帯下部の湿気のある谷間に生育する常緑高木である。材はやや軽軟で年輪界で堅さが不均一となるが加工は容易である。

クロベ *Thuja standishii* Carr. ヒノキ科 第227図 8a-8c (97C-W-036)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、仮道管の肥厚は

厚い。分野壁孔は小型のスキ型が多くヒノキ型も混じり、1分野に2～5個あり、2個以上ある分野が多く観察された。

クロバは本州・四国の温帯上部の山中に生育する常緑高木で、特に中部地方以北に多く分布する。材は耐朽性・切削性・割裂性にすぐれる。

ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科
第227図 10a-10c(97B-W-043) 11(97B-W-021)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材の量は少なく仮道管の肥厚は早材部との差が少ない。分野壁孔は大きなヒノキ型、その孔口はやや斜めに細く開き、1分野に2～4個、おもに2個が水平に整然と配列する。

ヒノキは本州の福島県以南・四国・九州のやや乾燥した尾根や岩上に生育し、材は耐久性・切削性・割裂性にすぐれる。

サワラ *Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.)

ヒノキ科 第227図 12a-12c(97C-W-042)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかまたは比較的急で、ヒノキに比べ晩材部の仮道管の肥厚が目立つ。分野壁孔は大きなヒノキ型であるが、その孔口はヒノキより大きく開き、孔口と壁孔縁の幅が同じくらいで、1分野に2～4個、おもに2～3個が水平に配列する。

サワラはヒノキより分布域は狭く、おもな分布域は東北南部から中部地方の沢沿いの岩上に生育する。材はヒノキよりやや軽軟で、滑らかさ・緻密さ・光沢などは劣る。

アスナロ *Thujaopsis dolabrata* sieb. et Zucc.

ヒノキ科 第228図 14a-14c(97C-W-150)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行は急または緩やかで、晩材の量は少なく仮道管の肥厚が目立つ。分野壁孔は小さなヒノキ型、1分野に2～5個、3～4個あるものが目立ち、壁孔の配置は不均一である。放射組織は

比較的低い。

アスナロは日本特産で1属1種である。本州・四国・九州の温帯の山中に生育する常緑高木である。材質は良く建築材として有用であるがヒノキよりやや劣る。

ヒノキ科 Cupressaceae

仮道管・放射組織・樹脂細胞からなる針葉樹材で、樹脂道や仮道管のらせん肥厚はない。壁孔の外形は丸いことからヒノキ科の材と思われるが、細胞壁が不朽しており分野壁孔の型などは確認できず、これ以上は分類群を絞ることができなかった試料である。

ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 第228図 15a-15c(97C) 胸木31外)

小型の管孔が単独または2～4個が複合し晩材部に向いゆるやかに径を減じる散孔材。年輪界では、4以上のやや小型の管孔が放射方向に複合して分布する傾向が見られた。道管の壁孔は密接な交互状、穿孔は単一である。放射組織は単列異性、道管との壁孔は大きく交互状に密在にする。

ヤナギ属は川岸や陽光地に生育する落葉広葉樹である。副木に使われるほどの大木に成長する樹種には、アカメヤナギ・ヤマネコヤナギ・エゾヤナギ・オノエヤナギゴメヤナギなどがある。材質は軽軟で切削は容易だが耐朽性は低い。

カバノキ属 *Betula* カバノキ科 第228図 16a-16c(97C) 胸木23)

中型の管孔が単独または2～3個が放射方向に複合して分布する散孔材。道管の壁孔の孔口は極めて小さく、穿孔は階段数が10～15本の階段穿孔。放射組織はほぼ同性、1～4細胞幅である。

カバノキ属は温帯から寒帯の山地の陽光地に生育する落葉高木または低木で、約9種がある。材は重硬で有用材である。

コナラ属アカガシ亜属 *Quercus subgen. Cyclobalanopsis* ブナ科 第229図 17a-17c(97C-W-147) 幅の広い集合放射組織を挟み小型・中型の単独の

管孔が放射方向に配列する放射孔材。道管の壁孔は小さく交互状、穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性、単列のものとして集合放射組織があり、道管との壁孔は大きく横状・交互状である。

アカガシ亜属は常緑性のいわゆるカシ類で、おもに暖温帯に分布する。材は丈夫で弾性や耐湿性があり、農具として用いられる代表樹種である。

コナラ属コナラ亜属コナラ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 第229図 18a-18c (97C駒木25)

年輪の始めに大型の管孔が1層配列し、その後は薄壁で角形の小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一である。放射組織は単列のものとして集合放射組織がある。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木で、いわゆるナラ類の中のカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワが属する。材は重硬であるが乾燥すると割れや狂いが出やすい欠点がある。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 第229図 19a-19c(横木東1b)

年輪の始めに大型の管孔が密に配列し除々に径を減じてゆき、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する。道管の穿孔は単一、放射組織は単列同性である。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に生育する落葉高木である。材は粘りがあり耐朽性にすぐれている。

ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 第230図 20a-20c (97C駒木19)

年輪の始めに中型の管孔が1～2層配列し、その後は小型や非常に小型の管孔が多数集合して塊状・斜状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、1～10細胞幅の紡錘形、上下端や縁に大型の結晶細胞がある。

ケヤキは暖帯下部から温帯の山中や川岸に生育する落葉高木である。材質は堅い。

カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.

カツラ科 第230図 21a-21c(94A駒木A-2)

小型で多角形の管孔が年輪内に密に配列し、管孔の占有面積が多い散孔材。道管の壁孔はまばらな交互状あるいは水平に開いた孔口の長さが不揃いの階段状、穿孔は横棒数が30～40本の階段穿孔。道管の内腔には弧状のチロースがあり、道管の先端部にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、1～2細胞幅、多列部の上下端や中間部に方形細胞や直立細胞が単列で1～3細胞層ある。

カツラは北海道から九州の暖帯から温帯の渓谷に生育する落葉高木である。材は均質でやや軽軟、割裂性・切削性は良いが保存性はあまり良くない。

サクラ属 *Prunus* バラ科 第230図 22a-22c(97C駒木17) 第231図 23a-23c(97C-W-107)

小型で丸い管孔が単独または2～4個が様々に複合して分布する散孔材。年輪の始めは管孔がやや大きく、管孔数も多い。道管の壁孔は対列状または交互状、穿孔は単一、内腔に細いらせん肥厚があり褐色の内容物がある。放射組織は異性、1～3細胞幅、縁辺部に直立細胞が連なり輪細胞の様に見える放射組織もあり、道管との壁孔は小型で密に配列する。大型で提灯のように膨らむ結晶細胞も観察された。97C-W-107は、全般に管孔が小さい。

サクラ属は暖帯から温帯の山地に生育する落葉広葉樹である。材は粘り気があり強く、保存性も高い。

センダン *Melia azedarach* var. *japonica* センダン科 第231図 24a-24c(97B-W-030)

年輪の始めに厚壁で大型の管孔が配列し、晩材部は小型の管孔が雑然と集合した塊が分布する。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔には厚く褐色の内容物があり、小道管には非常に細くこまかいらせん肥厚がある。放射組織はほぼ同性または上下端に方形細胞がある異性、約3細胞幅の紡錘形が多い。

センダンは、四国・九州以南の暖地の海岸付近に生育する落葉広葉樹である。本州では古くから栽培

されていたらしいが、本来の天然分布も不明な点がある樹種である。

カエデ属 *Acer* カエデ科 第231図 25a-25c(97C土台木10)

小型の管孔が単独または2～3個が放射方向に複合して均一に分布している散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織は同性、1～4細胞幅、道管との壁孔は交互状で密在している。

カエデ属は日本全土の暖帯から温帯の山地や谷間に生育する落葉広葉樹で、約26種と多くの変種が知られている。材は堅く緻密で割れにくく保存性は中程度である。

トチノキ *Aesculus turbinata* Blume トチノキ科 第232図 26a-26c(94A胴木A-3)

小型の管孔が単独または2～数個が複合して均一に分布する散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にらせん肥厚がある。放射組織は単列同性、層階状に配列し、道管の壁孔は交互状に密在する。

トチノキは北海道以南の温帯の谷間に生育する落葉高木である。材は軽軟で緻密で加工し易いが耐久性は低い。

ケンボナシ属 *Hovenia* クロウメモドキ科 第232図 27a-27c(97C胴木2)

年輪の始めに大型の管孔があり除々に径を減じてゆき、晩材部は単独または2～3個が放射方向に複合した非常に小型で厚壁の管孔が分布し、周囲状・翼状の柔組織が顕著な環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一である。放射組織は異性、1～5細胞幅、上下端や中間に方形細胞・直立細胞が単列であり、結晶細胞がある。

ケンボナシ属は暖帯の山中に生育する落葉高木である。本州・四国に分布するケンボナシと北海道から九州に広く分布するケンボナシがある。材質はよいほうで有用である。

カキノキ属 *Diospyros* カキノキ科 第232図

28a-28c(97C-W-135)

2個が放射方向に複合した厚壁の小型の管孔が疎らに分布している。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一である。放射組織は異性、1～2細胞幅、15細胞高前後で層階性があり、道管との壁孔は小型で交互状である。

カキノキ属は、伊豆半島以西の亜熱帯に分布する常緑小高木のトキワガキ、中国から渡来して栽培されているカキノキとマメガキがある。

散孔材 *diffuse-porous wood* 29(97C-W-113の木釘)

折敷の側板に埋まっていた木釘で、横断面しか採取できなかった。非常に小型で角形の管孔が均一に散在している。放射組織は1～4細胞幅、放射柔細胞は大きい事が判る。切片の一部では10細胞幅以上の放射組織が見られた。放射組織は節部や分枝部分で細胞幅が広がるが、この試料は木釘でありそのような部位を使用したとは思えないので、広い放射組織を持つ材と思われる。ウツギは木釘に使われる事が知られている。横断面のみではあるが、当該試料はウツギの材と類似性が高い。

4. まとめ

今までに調査された漆器類以外の木製品（井戸側・曲物・卒塔婆・人形・折敷・箸・杓子・へら・楔・箱・板など）は、ほとんどが針葉樹材であり、中でも圧倒的にヒノキ属が多く、次にコウヤマキも少ないながら井戸側や下駄から検出され、スギ1点が現代の井戸桶から検出されている（鈴木編1990、小澤編1992）。下駄にはモクレン属・ヤマグワなどの広葉樹材も使用されていたが、やはりヒノキ属が圧倒的に多い（鈴木編1990）。今回調査した戦国時代（16世紀前半）においても、土台木以外では様々な木製品にヒノキが圧倒的に多く使われていた事が判明した。また、ヒノキと同属のサワラも、ヒノキに次いで多く検出された。従って、全体的には16世紀前半

第12表 木製品における樹種利用の比較

樹種	97B		97C		97B		97C		97B		97C		97B		97C		97B		97C		97B		97C		合計
	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷	町敷		
アカマツ																								1	
コウヤマキ																								7	
スギ		1	1			3				1					2	1					1	1		9	
アロベ		1	1						1	1			2	3	2							2		13	
ヒノキ	12	8	2	11	3	1	5	6	2	1	1	2	10	6	1	3		1	3	2	1	6	2	4	98
サワラ	4	2		3		2				2	1	4	5		1						3	1		31	
アサナロ		2	1																		1	1	1	3	16
ヒノキ節							1								1									2	
アカガシ単葉																1								1	2
ナリ																								1	1
サクラ属																								1	1
センダン						1																		1	1
セキノキ属																								1	1
漆石研																								1	1
合計	18	13	3	15	3	4	7	8	3	4	4	8	17	15	3	6	3	1	6	2	10	10	4	10	178

の様々な木製品においても、ヒノキ属が多用されていた事が確認され、中でも特にヒノキが多用されていた事がより明らかになった。

刷木を除く木製品について、今回の調査から判明した特徴を次に列記する。

1. 検出された分類群は、アカマツ・コウヤマキ・スギ・クロベ・ヒノキ・サワラ・アサナロ・ヒノキ科の針葉樹8分類群、アカガシ亜属・クリ・サクラ属・センダン・カキノキ属・散孔材の広葉樹6分類群であった。点数的には、針葉樹材が使われていた製品が圧倒的に多い。特にヒノキの使用が圧倒的に多く、それ以外はサワラ・クロベ・アサナロ・スギ・コウヤマキ・アカマツの順に多い(第12表)。上位4種類はすべてヒノキ科の材であり、曲物・折敷・杓子などの身近な生活用具から、建て具・建築材・板材・角材などの居住に関連した材に至るまで、ヒノキを主としてヒノキ科の材が多く使われていた事が判った。

2. ただし結桶に関しては、サワラが多く検出された。岐阜城千畳敷遺跡の16世紀後半の井戸桶部材も、ヒノキよりサワラが多く使われていた(植田、2000)。まだ事例は少ないが、板材を組む桶類では、ヒノキよりサワラの方を選択使用していた可能性もある。

3. 調査区97B区と97C区では、使用樹種や樹種構成などに目立った違いはなかった。これは、漆器類の樹種構成や器種においても町屋と武家屋敷で差がなかった結果(小澤編1992)と、今回調査の木製品も共通している。

4. しかし、同様な木製品から検出される樹種の種類数は、97B区より97C区の方が常に1~3種類ほど多い傾向が見られた(第12表)。これは、97C区が本丸跡であることを考えると、使用材の供給地、材の用途の多様性、職人の多様性など、町屋より人と物(材)の出入りの多さが樹種構成にも反映しているのかも知れない。

5. 庶民の生活区域であった調査区97Bから出土した木屑3点はコウヤマキであったことから、この地区でもコウヤマキの材が運び込まれて、加工する作業が行われていた可能性が考えられる。

6. 木釘は調査数が少ないが、箱物ではヒノキであり、折敷では散孔材(ウツギの可能性あり)であった。清須城の石垣の下に敷かれていた土台木44点からは、モミ属・ツガ属・アカマツ・マツ属複雑管束亜属・マツ属単管束亜属・コウヤマキの針葉樹6分類、ヤナギ属・カバノキ属・コナラ節・クリ・ケヤキ・カツラ・サクラ属・カエデ属・トチノキ・ケンボシナ属10分類群、合計16分類群が検出された。ま

第13表 土台木の樹種

樹種	地区	土台木			杭				角杭	合計
		94A	97C	合計	97B	SA07	97C	合計	97C	
モミ属		1	7	8			2		2	10
ツガ属			5	5					0	5
アカマツ		2	2	4	2	17	60	79	18	101
マツ属複雑管束亜属		2		2					0	2
マツ属単純管束亜属			2	2					0	2
コウヤマキ			1	1					0	1
ヒノキ科				0			1	1	1	2
ヤナギ属			1	1	7	12		19		20
カバノキ属			4	4					0	4
コナラ節			1	1					0	1
アカガシ亜属				0	2	4		6		6
クリ			2	2				0	7	9
ケヤキ			1	1					0	1
カツラ		2		2					0	2
サクラ属			2	2					0	2
カエデ属			3	3					0	3
トチノキ			5	5					0	5
ケンボナンシ属			1	1					0	1
合計		7	37	44	11	35	61	107	26	177

た杭133点からは、モミ属2点、アカマツ97点、ヒノキ科2点、ヤナギ属19点、アカガシ亜属6点、クリ7点が検出された(第13表)。前述の木製品に多用されていたヒノキやサワラそしてその他のヒノキ科の材は、土台木や杭からは2点しか検出されなかった。土台木には、針葉樹(モミ属・ツガ属・マツ属など)と落葉広葉樹(カバノキ属・トチノキ・カエデ属など)の多種類の樹種が使われていて、その樹種構成は前述の木製品とは明らかに異なる選択性で調達されていた。モミ属・ツガ属・マツ属単純管束亜属・コウヤマキといった針葉樹や、カバノキ属・カツラ・トチノキ・カエデ属などの広葉樹は、中間温帯林から冷温帯林に多く生育する樹種である。このような樹種は、丘陵から低山地の二次林にはあまり見られず、まして今回の土台木に使用されていたような大木の木を大量には里山や二次林からは求められないであろう。まして大きな石垣の基礎となる太い土台木をつくるために、幹が太く直通の材が得られる大木が選定され、当遺跡より遠方地の山間

部から伐採され運ばれてきたと思われる。アカマツやアカマツを含むマツ属複雑管束亜属、コナラ節・クリ・ケヤキなどの二次林要素でもある樹種も含まれているが、これらも大木が選択されている。今回調査した土台木からは建築材に使われる事の多い、ヒノキやヒノキ科の針葉樹材やクリ・ケヤキ・コナラ節・クスギ節などの広葉樹材は意外と少なかった。

引用文献

- 鈴木正貴編1990「清洲城下町遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第17集。
 小澤一弘編1992「朝日西遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第28集。
 鈴木正貴編1995「清洲城下町遺跡V」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第54集。
 植田弥生2000「岐阜城千畳敷遺跡井戸遺構の樹種同定」『千畳敷Ⅲ(財)岐阜市教育文化振興事業団』

第14表 木製品の樹種同定結果(1)

樹種同定試料	調査区	グリッド	遺構	種別	樹種	図版番号
97B-W-001	97B	IVG10c	NR02植物層	差函下駄	ヒノキ	2749
97B-W-002	97B	IVG9b	NRA	不明板材	ヒノキ	2769
97B-W-003	97B	IVG11c	NR01下層	曲物地底板? 厚い	ヒノキ	2640
97B-W-004	97B	IVG11c	NR01下層	折敷底板	ヒノキ	2641
97B-W-005	97B	IVG9a	NRB(差込)	板草履	針葉樹	2770
97B-W-006	97B	IVG10c	NR02植物層	差函下駄	ヒノキ	2750
97B-W-009	97B	IVG10c	NR02植物層	不明板材	ヒノキ	2670
97B-W-010	97B	IVF11t	NR01	差函下駄の本体	ヒノキ	2639
97B-W-010	97B	IVF11t	NR01	差函下駄の前歯	ヒノキ	2639
97B-W-010	97B	IVF11t	NR01	差函下駄の後歯	ヒノキ	2639
97B-W-011	97B		NR02植物層	折敷底板	アスナロ	2665
97B-W-012	97B		NR02植物層	不明加工材(鋸具)	サワラ	2727
97B-W-013	97B		NR02植物層	へら	ヒノキ	2751
97B-W-014	97B		NR02植物層	楔	コウヤマキ	2721
97B-W-015	97B		NR02植物層	折敷底板	ヒノキ	2744
97B-W-016	97B	IVG10c	NR02植物層	不明加工材(鋸具)	ヒノキ	2734
97B-W-017	97B	IVG9d	NR02灰色粘土	折敷底板	サワラ	2647
97B-W-018	97B	IVG9d	NR02灰色粘土	折敷側板	ヒノキ	2648
97B-W-019	97B	IVG9d	NR02灰色粘土	建て具部材(角材)	クロベ	2649
97B-W-019	97B	IVG9d	NR02灰色粘土	019の木釘	ヒノキ	2649
97B-W-020	97B	IVG9c	NR02植物層	不明板材	ヒノキ	2724
97B-W-021	97B		NR02植物層	折敷底板	ヒノキ	2662
97B-W-022	97B		NR02植物層	建て具部材(角材)	ヒノキ	2720
97B-W-023	97B		NR02植物層	楔	ヒノキ	2722
97B-W-024	97B		NR02植物層	建築部材(板材)? ほぞ孔	サワラ	2732
97B-W-025	97B		NR02植物層	木屑	コウヤマキ	2736
97B-W-026	97B		NR02植物層	不明棒材(栓状)	ヒノキ	2755
97B-W-027	97B		NR02植物層	栓	アスナロ	2753
97B-W-028	97B		NR02植物層	木屑	コウヤマキ	2737
97B-W-030	97B		NR02植物層	下駄の歯	センダン	2752
97B-W-031	97B		NR02植物層	木屑	コウヤマキ	2738
97B-W-032	97B		NR02植物層	杓子(へら状)	ヒノキ	2669
97B-W-033	97B		NR02植物層	建築部材(栓状)?	コウヤマキ	2738
97B-W-034	97B	IVG9c	NR02植物層	不明板材(屋根)?	ヒノキ	2669
97B-W-036	97B	IVG9c	NR02植物層	不明板材(屋根)?	ヒノキ	2667
97B-W-037	97B	IVG9c	NR02植物層	折敷底板	ヒノキ	2745
97B-W-038	97B	IVG9c	NR02植物層	不明板材(屋根)?	サワラ	2740
97B-W-039	97B	IVG9c	NR02植物層	折敷底板	サワラ	2743
97B-W-041	97B	IVG10c	NR02植物層	方形曲物底板	ヒノキ	2658
97B-W-042	97B	IVG10c	NR02植物層	楔	スギ	2729
97B-W-043	97B	IVG10c	NR02植物層	折敷底板	ヒノキ	2674
97B-W-044	97B	IVG10c	NR02植物層	建築部材(板材)?	ヒノキ	2742
97B-W-045	97B	IVG9d	NR02灰色粘土	折敷底板	ヒノキ	2650
97B-W-047	97B	IVG10b	NR02下層	木簡上板材	ヒノキ	2764
97B-W-048	97B	IVG10b	NR02下層	刀子形代柄部	ヒノキ	2759
97B-W-050	97B	IVG10b	NR02下層	杓子(へら状)	ヒノキ	2768
97B-W-051	97B	IVG9c	NR02植物層	折敷底板	ヒノキ	2661
97B-W-052	97B	IVG9c	NR02植物層	折敷底板	ヒノキ	2663
97B-W-053	97B	IVG9c	NR02植物層	折敷底板	ヒノキ	2666
97B-W-054	97B	IVG9c	NR02植物層	折敷底板	ヒノキ	2664
97B-W-055	97B	IVG9c	NR02植物層	不明円盤状板材 穴2	ヒノキ	2659
97B-W-056	97B	IVG9c	NR02植物層	不明角材	サワラ	2725
97B-W-058	97B	IVG9c	NR02植物層	折敷脚部板?	ヒノキ	2719
97B-W-059	97B	IVG9c	NR02植物層	折敷底板	サワラ	2672
97B-W-060	97B	IVG9c	NR02植物層	折敷底板	サワラ	2671
97B-W-061	97B	IVG9c	NR02植物層	葉箸	ヒノキ	2756
97B-W-062	97B	IVG9c	NR02植物層	不明板材(屋根)	クロベ	2741
97B-W-065	97B	IVG9c	NR02植物層	曲物輪受台	スギ	2748

第15表 木製品の樹種同定結果(2)

樹種同定試料	調査区	グリッド	遺構	種別	樹種	図版番号
97B-W-066	97B	IVG9c	NR02植物層	曲物榫受台	ヒノキ	2747
97B-W-067	97B	IVG10b	NR02植物層	二股棒状製品	クリ	2762
97B-W-069	97B	IVG10b	NR02下層	不明加工板材	クロベ	2765
97B-W-072	97B	IVG10b	NR02植物層	折敷底板	アスナロ	2673
97B-W-074	97B	IVG10b	NR02植物層	不明板材	ヒノキ	2715
97B-W-077	97B	IVG10b	NR02植物層	不明加工板材	ヒノキ	2728
97B-W-078	97B	IVG9d	NR02植物層	不明加工板材	クロベ	2754
97B-W-079	97B	IVG9d	NR02植物層	不明加工板材	サワラ	2726
97C-W-031	97C	III G9f	SX02(検Ⅱ)	曲物底板 板皮	ヒノキ	2774
97C-W-032	97C	III G11i	検Ⅱ	木剛	ヒノキ	2820
97C-W-033	97C	III G11i	検Ⅱ	連南下駄	ヒノキ	2921
97C-W-034	97C	III G11i	検Ⅰ	連南下駄	ヒノキ	2801
97C-W-035	97C	III G12b	検Ⅱ	不明板材	ヒノキ	2822
97C-W-036	97C	III G10j	SW02構	結核側板 把手付き	クロベ	2779
97C-W-037	97C	III G10k 9k	SX02	杵子(へら状)	スギ	2780
97C-W-038	97C	III G11i	検Ⅱ	木剛	ヒノキ	2821
97C-W-039	97C	III G9j	検Ⅱ	結核側板	アスナロ	2864
97C-W-040	97C	III G11j	検Ⅰ	方形曲物底板	ヒノキ	2788
97C-W-041	97C	III G10j	検Ⅱ	方形曲物底板	ヒノキ	2846
97C-W-042	97C	III G10j	検Ⅱ	折敷底板	サワラ	2848
97C-W-043	97C	III G10j	検Ⅱ	折敷底板	ヒノキ	2847
97C-W-043	97C	III G10j	検Ⅱ	043の本釘	ヒノキ	2847
97C-W-044	97C	III G9f	SW別木筋	曲物底板	ヒノキ	2776
97C-W-045	97C	III G13g	検Ⅰ	曲物底板	ヒノキ	2790
97C-W-046	97C	III G11j	検Ⅱ	曲物底板	サワラ	2852
97C-W-048	97C	III G10j	検Ⅴ	楔?	サワラ	2925
97C-W-050	97C	III G10j	検Ⅰ	折敷底板	ヒノキ	2932
97C-W-051	97C	III G10k	検Ⅱ	方形曲物底板	ヒノキ	2885
97C-W-054	97C	III G11h	検Ⅱ	不明板材	サワラ	2910
97C-W-055	97C	III G10j	検Ⅱ	有孔曲物底板	クロベ	2890
97C-W-056	97C	III G13 f	検Ⅰ	箱物側板	ヒノキ	2797
97C-W-057	97C	III G10k	検Ⅱ	建て具部材(角材)	クロベ	2858
97C-W-059	97C	III G10k	検Ⅱ	不明角材 釘穴	サワラ	2859
97C-W-060	97C	III G10k	検Ⅱ	建て具部材(角材)	サワラ	2857
97C-W-062	97C	III G10k	検Ⅱ	箱物底板?	サワラ	2860
97C-W-064	97C	III G11h	検Ⅱ	不明板材	クロベ	2917
97C-W-065	97C	III G11h	検Ⅱ	建て具部材(角材)	スギ	2916
97C-W-066	97C	III G10j	検Ⅴ	箱物側板 漆	ヒノキ	2924
97C-W-066	97C	III G10j	検Ⅴ	066の本釘	ヒノキ	2924
97C-W-067	97C	III G10j	検Ⅱ	箱物底板	ヒノキ	2887
97C-W-067	97C	III G10j	検Ⅱ	067の本釘1	ヒノキ	2887
97C-W-067	97C	III G10j	検Ⅱ	067の本釘2	ヒノキ	2887
97C-W-068	97C	III G10j	検Ⅱ	杵子(へら状)	サワラ	2900
97C-W-069	97C	III G10j	検Ⅱ	粒	サワラ	2894
97C-W-070	97C	III G10j	検Ⅱ	楔	ヒノキ	2899
97C-W-071	97C	III G10j	検Ⅱ	楔	ヒノキ	2897
97C-W-072	97C	III G10j	検Ⅱ	棒状木製品	サワラ	2906
97C-W-073	97C	III G12b	検Ⅰ	不明加工板材	サワラ	2795
97C-W-075	97C	III G12b	検Ⅰ,検出(客土)	釣瓶把手	ヒノキ	2800
97C-W-076	97C	III G10j	検Ⅴ	曲物底板 板皮	サワラ	2928
97C-W-078	97C	III G10j	検Ⅴ	結核側板	ヒノキ	2930
97C-W-079	97C	III G10j	検Ⅱ	結核側板	サワラ	2835
97C-W-080	97C	III G10j	検Ⅱ	楔	ヒノキ	2896
97C-W-082	97C	III G10j	検Ⅱ	不明板材(箱物?)	ヒノキ	2893
97C-W-083	97C	III G10j	検Ⅱ	建築部材(角材)	ヒノキ	2912
97C-W-084	97C	III G10j	検Ⅱ	結核側板	スギ	2836
97C-W-085	97C	III G13g,13h	検Ⅰ,検Ⅱ	杵子(へら状)	サワラ	2802
97C-W-086	97C	III G10j	検Ⅱ	建築部材(角材)ほぞ穴	アカマツ	2913

第16表 木製品の樹種同定結果 (3)

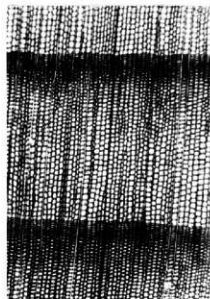
樹種同定試料	調査区	グリッド	遺構	種別	樹種	図版番号
97C-W-087	97C	ⅡG10j	検Ⅲ	建築部材(角材) 竊ほぞ	ヒノキ科	2911
97C-W-088	97C	ⅡG10j	検Ⅲ(SX02)	建て具部材(角材)	ヒノキ	2873
97C-W-089	97C	ⅡG10j	検Ⅲ(SX02)	建築部材(角材)	クロベ	2868
97C-W-091	97C	ⅡG10j	検Ⅲ(SX02)	折敷底板	スギ	2874
97C-W-092	97C	ⅡG10j	検Ⅲ(SX02)	椽	アカガシ亜属	2866
97C-W-096	97C	ⅡG10j	検Ⅲ	箱物側板?	ヒノキ	2865
97C-W-096	97C	ⅡG10j	検Ⅲ	096の木釘	ヒノキ	2865
97C-W-097	97C	ⅡG10j	検Ⅲ	折敷底板	ヒノキ	2867
97C-W-098	97C	ⅡG10j	検Ⅲ	建築部材(板材)?	クロベ	2876
97C-W-100	97C	ⅡG10j	検Ⅲ	折敷側板	ヒノキ	2871
97C-W-101	97C	ⅡG10j	検Ⅲ	結核側板	クロベ	2833
97C-W-102	97C	ⅡG11i	検Ⅲ	釣り(へら状)	ヒノキ	2902
97C-W-103	97C	ⅡG12h	検Ⅱ	不明板材(結核側?)	スギ	2837
97C-W-104	97C	ⅡG10j	検Ⅲ	方形曲物底板	ヒノキ	2884
97C-W-106	97C	ⅡG10j	検Ⅲ	不明加工板材	クロベ	2901
97C-W-107	97C	ⅡG11i	検Ⅲ	釣り手(分枝部分を利用)	サクラ属	2861
97C-W-108	97C	ⅡG10j	検Ⅲ	曲物底板(凸凹)	ヒノキ	2892
97C-W-109	97C	ⅡG10j	検Ⅲ	椽	コウヤマキ	2898
97C-W-110	97C	ⅡG11i	検Ⅱ	箱物底板?	アスナロ	2830
97C-W-112	97C	ⅡG10j	検Ⅲ	下駄の歯	ヒノキ	2920
97C-W-113	97C	ⅡG11i	検Ⅱ	折敷(底板)	ヒノキ	2826
97C-W-113	97C	ⅡG11i	検Ⅱ	113の側板	ヒノキ	2826
97C-W-113	97C	ⅡG11i	検Ⅱ	113の側板の木釘	散孔材	2826
97C-W-114	97C	ⅡG11h	検Ⅲ	建築部材(角材) 相欠ほぞ	サワラ	2863
97C-W-115	97C	ⅡG13g	検Ⅰ	不明板材(椽椽)	スギ	2808
97C-W-116	97C			柄杓の柄	ヒノキ	2809
97C-W-117	97C	ⅡG11i	検Ⅱ	不明板材(椽椽)	ヒノキ	2824
97C-W-118	97C	ⅡG13g	検Ⅱ	結核側板	サワラ	2834
97C-W-119	97C	ⅡG13g	検Ⅱ	結核側板	サワラ	2832
97C-W-120	97C	ⅡG10j	検Ⅲ	下駄の歯	ヒノキ	2872
97C-W-121	97C	ⅡG15e	検Ⅰ	下駄の歯	ヒノキ	2804
97C-W-122	97C	ⅡG11k	検Ⅱ	杵?	ヒノキ	2839
97C-W-123	97C	ⅡG10j	検Ⅲ	下駄	ヒノキ	2918
97C-W-125	97C	ⅡG13g,13h	検Ⅱ	建築部材(角材)	ヒノキ	2831
97C-W-126	97C	ⅡG13g	検Ⅱ	不明板材(礎板?)	ヒノキ	2838
97C-W-127	97C	ⅡG10j	検Ⅲ	不明角材	ヒノキ	2909
97C-W-129	97C	ⅡG11h	検Ⅲ	枕状製品	ヒノキ	2919
97C-W-130	97C	ⅡG11h	検Ⅲ	つまようじ?	サワラ	2889
97C-W-132	97C	ⅡG11h	検Ⅲ	建築部材(角材) ほぞ	アスナロ	2923
97C-W-133	97C	ⅡG11h	検Ⅳ	結核底板	サワラ	2895
97C-W-135	97C	ⅡG13h	検Ⅲ	球状製品	カキノキ属	2856
97C-W-136	97C	ⅡG10j	検Ⅳ	箱物底板?	ヒノキ	2927
97C-W-137	97C	ⅡG10j	検Ⅳ	折敷側板?	サワラ	2931
97C-W-138	97C	ⅡG10j	検Ⅳ	曲物底板	ヒノキ	2929
97C-W-139	97C	ⅡG10j	検Ⅰ	不明角材	ヒノキ	2796
97C-W-140	97C	ⅡG10h	検Ⅲ	不明板材(釣巻?)	サワラ	2891
97C-W-141	97C	ⅡG11j	検Ⅲ	方形曲物底板	ヒノキ	2851
97C-W-144	97C	ⅡG11j	検Ⅲ	箱物側板(漆残存)	スギ	2854
97C-W-147	97C	ⅡG0h	SW01	椽柄	アカガシ亜属	2775
97C-W-148	97C	ⅡG10j	検Ⅱ	折敷底板	ヒノキ	2825
97C-W-149	97C	ⅡG10j	検Ⅱ	折敷底板	ヒノキ	2827
97C-W-150	97C	ⅡG11i	検Ⅱ	折敷底板	アスナロ	2829
97C-W-154	97C	ⅡG11i	検Ⅲ	折敷底板	クロベ	2850
97C-W-156	97C	ⅡG11i	検Ⅲ	結核底板	サワラ	2855
97C-W-157	97C	ⅡG11i	検Ⅰ	箱物側板?	コウヤマキ	2806
97C-W-159	97C	ⅡG11i	検Ⅰ	方形曲物底板	サワラ	2787
97C-W-160	97C	ⅡG11i	検Ⅰ	方形曲物底板	ヒノキ	2789
97C-W-161	97C	ⅡG11i	検Ⅰ	不明板材(椽椽)	サワラ	2807

第17表 土台木の樹種同定結果

樹種同定試料	調査区	グリッド	道標	種別	樹種	図版番号
樹木 2	97C		SW01	土台木A類	ケンゴナシ属	
樹木 3	97C		SW01	土台木A類	ツガ属	
樹木 4	97C		SW01	土台木A類	アカマツ	
樹木 5	97C		SW01	土台木A類	ツガ属	
樹木 6	97C		SW01	土台木A類	モミ属	
樹木 8	97C		SW01	土台木A類	カバノキ属	
樹木 10	97C		SW01	土台木A類	カエデ属	
樹木 11	97C		SW01	土台木A類	カエデ属	
樹木 12	97C		SW01	土台木A類	アカマツ	
樹木 13	97C		SW01	土台木A類	トチノキ	
樹木 14	97C		SW01	土台木A類	マツ属種管束亜属	
樹木 16	97C		SW01	土台木A類	ツガ属	
樹木 17	97C		SW01	土台木A類	サクラ属	
樹木 19	97C		SW01	土台木A類	ケヤキ	
樹木 20	97C		SW01	土台木A類	モミ属	
樹木 22	97C		SW01	土台木A類	モミ属	
樹木 23	97C		SW01	土台木A類	カバノキ属	
樹木 24	97C		SW01	土台木A類	コウヤマキ	
樹木 25	97C		SW01	土台木A類	コナラ属	
樹木 26	97C		SW01	土台木A類	マツ属種管束亜属	2949
樹木 27	97C		SW01	土台木A類	ツガ属	2950
樹木 28	97C		SW01	土台木A類	ツガ属	2951
樹木 29	97C		SW01	土台木A類	モミ属	
樹木 30	97C		SW01	土台木A類	モミ属	2954
樹木 31a	97C		SW01	土台木A類	ヤナギ属	
樹木 31b	97C		SW01	土台木A類	クリ	
樹木 32	97C		SW01	土台木A類	モミ属	2952
樹木 33	97C		SW01	土台木A類	サクラ属	2953
横木 東2	97C		SW01	土台木B類	クリ	2945
横木 東3	97C		SW01	土台木B類	カバノキ属	2955
横木 東1	97C		SW01	土台木B類	トチノキ	2948
横木 西3	97C		SW01	土台木B類	トチノキ	2946
横木 西1	97C		SW01	土台木B類	モミ属	2947
横木 西2	97C		SW01	土台木B類	カバノキ属	
樹木 A-1	94A		SX01	土台木A類	マツ属種管束亜属	Ⅷ-980
樹木 A-2	94A		SX01	土台木A類	カワラ	Ⅷ-981
樹木 A-3	94A		SX01	土台木A類	トチノキ	Ⅷ-982
樹木 A-4	94A		SX01	土台木B類	トチノキ	Ⅷ-983
樹木 A-5	94A		SX01	土台木B類	アカマツ	Ⅷ-985
樹木 A-6	94A		SX01	土台木B類	アカマツ	Ⅷ-984
樹木 B-1	94A		SX01	土台木A類	モミ属	Ⅷ-987
樹木 B-2	94A		SX01	土台木A類	マツ属種管束亜属	Ⅷ-989
樹木 C-1	94A		SX01	土台木A類	カワラ	Ⅷ-986
樹木 6	94A		SX01	土台木A類	カエデ属	Ⅷ-988

第19表 杭の樹種同定結果(2)

標本同定試料	調査区	グリッド	遺構	種別	樹種
角杭 No.7	97C		SA04	杭八郎(角杭)	ヒノキ科
角杭 No.10	97C		SA04	杭八郎(角杭)	クリ
角杭 No.17	97C		SA04	杭八郎(角杭)	クリ
角杭 No.37	97C		SA08	杭八郎(角杭)	クリ
角杭 No.46	97C		SA08	杭八郎(角杭)	クリ
角杭 No.53	97C		SA08	杭八郎(角杭)	クリ
角杭 No.68	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.69	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.71	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.71	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.72	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.73	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.75	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.76	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.77	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.78	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.80	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.81	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.82	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.83	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.84	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.85	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.86	97C		SA047	杭八郎(角杭)	クリ
角杭 No.87	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
角杭 No.88	97C		SA047	杭八郎(角杭)	クリ
角杭 No.89	97C		SA047	杭八郎(角杭)	アカマツ
SX01サンプル下場4	97C		94ASX01?		アカマツ
SX01サンプル下場5	97C		94ASX01?		アカマツ
SX01サンプル下場7	97C		94ASX01?		ヤナギ属
SX01サンプル下場8	97C		94ASX01?		アカガシ系属
SX01サンプル下場10	97C		94ASX01?		ヤナギ属
横5杭A 1	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカマツ
横5杭A 2	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカマツ
横5杭A 3	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカマツ
横5杭A 4	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカマツ
横5杭A 5	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカマツ
横5杭A 6	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカマツ
横5杭A 7	97C		SA07	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
横5杭A 9	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカマツ
横5杭A 10	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカマツ
横5杭A 11	97C		SA07	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
横5杭A 12	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカマツ
横5杭A 13	97C		SA07	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
横5杭A 15	97C		SA07	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
横5杭A 16	97C		SA07	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
横5杭A 17	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカマツ
横5杭A 20	97C		SA07	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
横5杭A 22	97C		SA07	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
横5杭A 23	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカマツ
横5杭A 24	97C		SA07	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
横5杭A 25	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカガシ系属
横5杭A 27	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカガシ系属
横5杭A 28	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカマツ
横5杭A 29	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカマツ
横5杭A 30	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカマツ
横5杭A 40	97C		SA07	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
横5杭A 41	97C		SA07	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
横5杭A 42	97C		SA07	杭八郎(角杭)	アカマツ
横5杭S 21	97C		SA05	杭八郎(角杭)	モミ属
横5杭S 21F	97C		SA05	杭八郎(角杭)	モミ属
横5杭S 28	97C		SA05	杭八郎(角杭)	アカガシ系属
杭 1	97B		NR	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
杭 2	97B		NR	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
杭 3	97B		NR	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
杭 4	97B		NR	杭八郎(角杭)	アカガシ系属
杭 5	97B		NR	杭八郎(角杭)	アカマツ
杭 6	97B		NR	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
杭 7	97B		NR	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
杭 8	97B		NR	杭八郎(角杭)	アカガシ系属
杭 9	97B		NR	杭八郎(角杭)	アカマツ
杭 10	97B		NR	杭八郎(角杭)	ヤナギ属
杭 11	97B		NR	杭八郎(角杭)	ヤナギ属



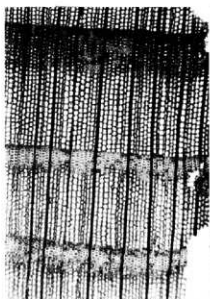
1a. モミ属 (横断面)
97C 桐木 29 bar:0.5mm



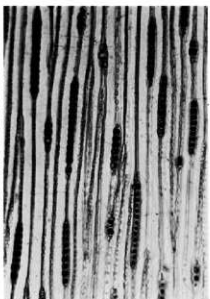
1b. モミ属 (接線断面)
bar:0.2mm



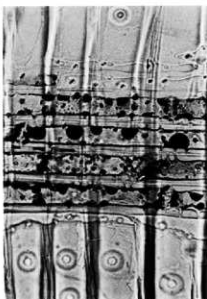
1c. モミ属 (放射断面)
bar:0.05mm



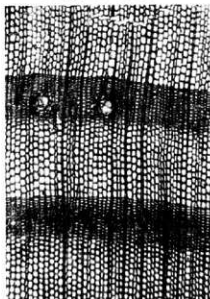
2a. ツガ属 (横断面)
97C 桐木 28 bar:0.5mm



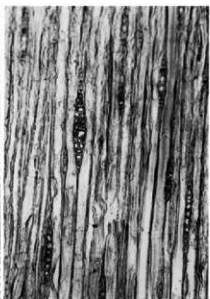
2b. ツガ属 (接線断面)
bar:0.2mm



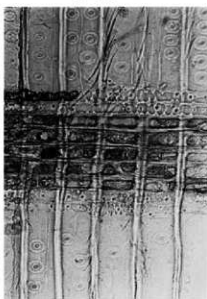
2c. ツガ属 (放射断面)
bar:0.05mm



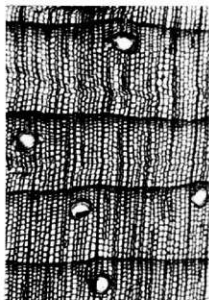
3a. アカマツ (横断面)
94A 桐木 A-6 bar:0.5mm



3b. アカマツ (接線断面)
bar:0.2mm



3c. アカマツ (放射断面)
bar:0.05mm



4a. マツ属単維管束亜属 (横断面)
97C 胴木 14 bar:0.5mm



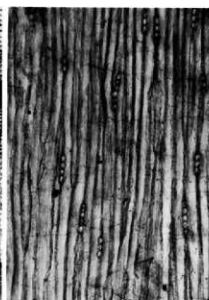
4b. マツ属単維管束亜属 (接線断面)
bar:0.2mm



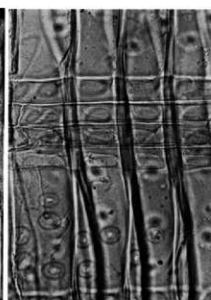
4c. マツ属単維管束亜属 (放射断面)
bar:0.05mm



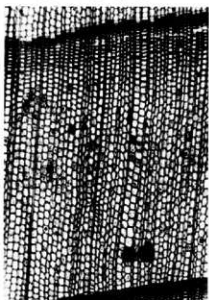
5a. コウヤマキ (横断面)
97C-W-109 bar:0.5mm



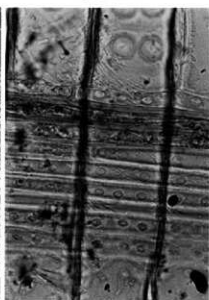
5b. コウヤマキ (接線断面)
bar:0.2mm



5c. コウヤマキ (放射断面)
bar:0.05mm



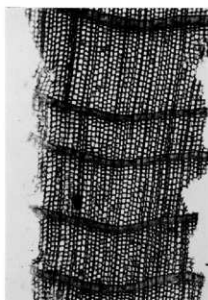
6a. スギ (横断面)
97C-W-037 bar:0.5mm



6b. スギ (放射断面)
bar:0.05mm



7. スギ (放射断面)
97C-W-065 bar:0.05mm



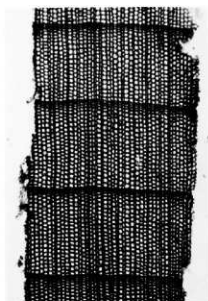
8a. クロベ (横断面)
97C-W-036 bar:0.5mm



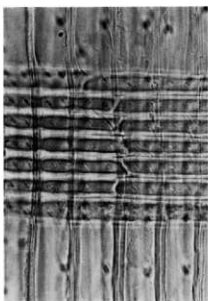
8b. クロベ (放射断面)
bar:0.05mm



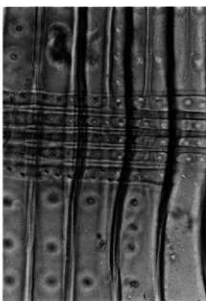
9. クロベ (放射断面)
97B-W-019 bar:0.05mm



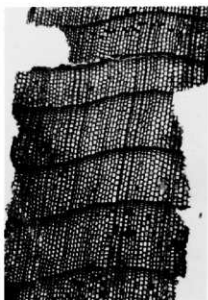
10a ヒノキ (横断面)
97B-W-043 bar:0.5mm



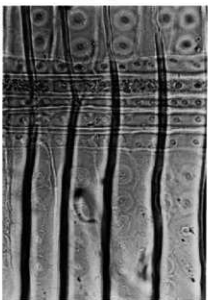
10b. ヒノキ (放射断面)
bar:0.05mm



11c. ヒノキ (放射断面)
97B-W-021 bar:0.05mm



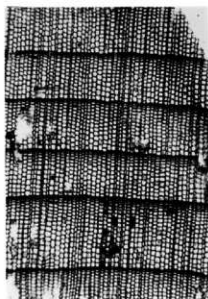
12a. サワラ (横断面)
97C-W-042 bar:0.5mm



12b. サワラ (放射断面)
bar:0.05mm



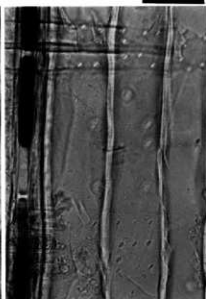
13. サワラ (放射断面)
97B-W-039 bar:0.05mm



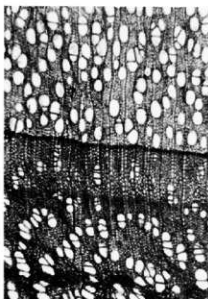
14a. アスナロ (横断面)
97C-W-150 bar:0.5mm



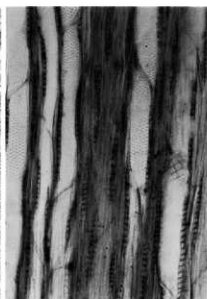
14b. アスナロ (接線断面)
bar:0.2mm



14c. アスナロ (放射断面)
bar:0.05mm



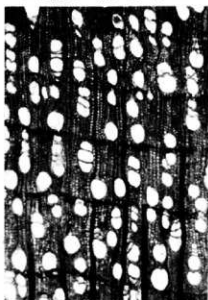
15a. ヤナギ属 (横断面)
97C 桐木 31 (外) bar:0.5mm



15b. ヤナギ属 (接線断面)
bar:0.2mm



15c. ヤナギ属 (放射断面)
bar:0.1mm



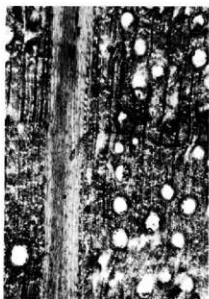
16a. カバノキ属 (横断面)
97C 桐木 23 bar:0.5mm



16b. カバノキ属 (接線断面)
bar:0.2mm



16c. カバノキ属 (放射断面)
bar:0.1mm



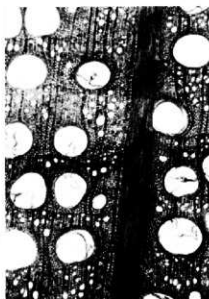
17a. アカガシ亜属 (横断面)
97C-W-147 bar:0.5mm



17b. アカガシ亜属 (接線断面)
bar:0.2mm



17c. アカガシ亜属 (放射断面)
bar:0.1mm



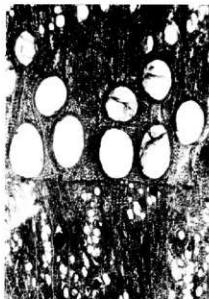
18a. コナラ節 (横断面)
97C 胴木 25 bar:0.5mm



18b. コナラ節 (接線断面)
bar:0.2mm



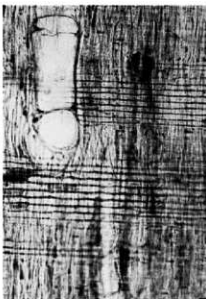
18c. コナラ節 (放射断面)
bar:0.1mm



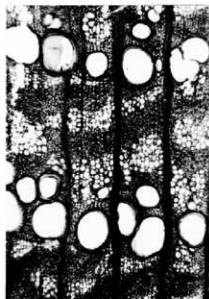
19a. クリ (横断面)
横木東 1 北 bar:0.5mm



19b. クリ (接線断面)
bar:0.2mm



19c. クリ (放射断面)
bar:0.2mm



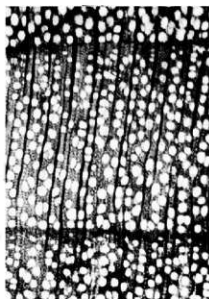
20a. ケヤキ (横断面)
97C 胴木 19 bar:0.5mm



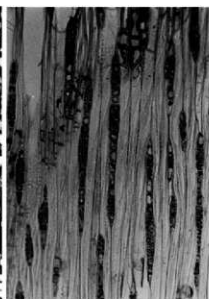
20b. ケヤキ (接線断面)
bar:0.2mm



20c. ケヤキ (放射断面)
bar:0.1mm



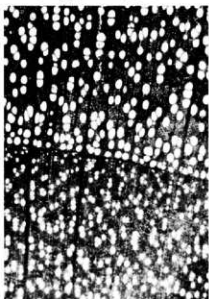
21a. カツラ (横断面)
94A 胴木 A-2 bar:0.5mm



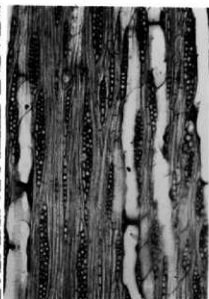
21b. カツラ (接線断面)
bar:0.2mm



21c. カツラ (放射断面)
bar:0.2mm



22a. サクラ属 (横断面)
97C 胴木 17 bar:0.5mm



22b. サクラ属 (接線断面)
bar:0.2mm



22c. サクラ属 (放射断面)
bar:0.1mm



23a. サクラ属 (横断面)
97C-W-107 bar:0.5mm



23b. サクラ属 (接線断面)
bar:0.2mm



23c. サクラ属 (放射断面)
bar:0.2mm



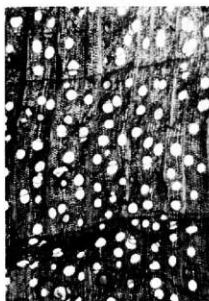
24a. センダン (横断面)
97B-W-030 bar:0.5mm



24b. センダン (接線断面)
bar:0.2mm



24c. センダン (放射断面)
bar:0.2mm



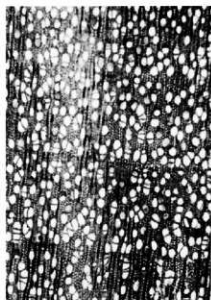
25a. カエデ属 (横断面)
97C 桐木 10 bar:0.5mm



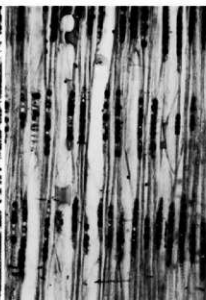
25b. カエデ属 (接線断面)
bar:0.2mm



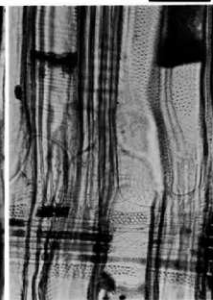
25c. カエデ属 (放射断面)
bar:0.1mm



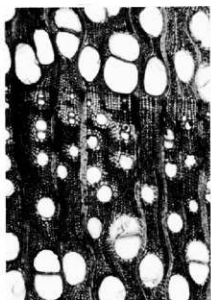
26a. トチノキ (横断面)
94A 胴木 A-3 bar:0.5mm



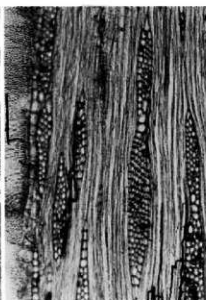
26b. トチノキ (接線断面)
bar:0.2mm



26c. トチノキ (放射断面)
bar:0.1mm



27a. ケンボナシ属 (横断面)
97C 胴木 2 bar:0.5mm



27b. ケンボナシ属 (接線断面)
bar:0.2mm



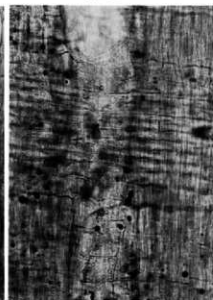
27c. ケンボナシ属 (放射断面)
bar:0.2mm



28a. カキノキ属 (横断面)
97C-W-135 bar:0.5mm



28b. カキノキ属 (接線断面)
bar:0.2mm



28c. カキノキ属 (放射断面)
bar:0.1mm

(Ⅱ) 清洲城下町遺跡出土漆器資料の材質と製作技法

くらしき作陽大学 北野信彦

1. はじめに

清洲城下町遺跡からは、清須城城郭および城下町関連の遺構や遺物が多数検出され、この中には漆器資料も多く含まれている。今回愛知県埋蔵文化財センターの御厚意により、これらの材質と製作技法について自然科学的手法を用いた調査を行う機会を得た。本報では、この調査結果を報告する。

2. 出土漆器資料の調査

一般に漆器の製作は、原木から木地をつくり挽き物・板物の形態にする「木胎製作」の工程と、その木胎に下地および漆を塗布し、蒔絵・漆絵等の加飾や研磨作業を行う「漆工」の工程からなっている。本報では、これら個々の出土漆器資料の生産技術面を調査する方法として、まず各資料の形態、漆塗り面の状況を表面観察した後、(1) 用材選択、(2) 木取り方法、(3) 漆塗り構造、(4) 色漆の使用顔料、(5) 蒔絵材料、等の項目別に自然科学的手法を用いた分析を行った。以下、その調査方法と調査結果を記す。

2.1 調査方法

2.1.1 用材選択 (樹種同定)

樹種の同定作業は、出土木材の細胞組織の特徴を生物顕微鏡で観察し、その結果を新材と比較することで行なわれる。試料は、カミソリの刃を用いて遺物本体をできるだけ損傷しないように、破切面など

リジナルでない面から木口、柀目、板目の三方向の切片を作成した。切片はサフランインおよびキシレンで、染色および脱水して検鏡プレパラートに仕上げた。

2.1.2 木取り方法

挽き物類である漆器資料の木取り方法の調査は、樹種同定の切片作成時に細胞組織の方向を生物顕微鏡で確認することで、同時に行なった。

2.1.3 漆塗り構造の分類

まず肉眼で漆器資料の漆塗り表面の状態を観察した後、簡易顕微鏡を用いた細部の観察を行なった。次に1mm×3mm程度の漆膜片を漆器資料から採取して合成樹脂(エポキシ系樹脂/アラルダイトGY1251JP、ハードナHY837)に包埋した後、断面を研磨して薄層プレパラートに仕上げた。その上で、漆膜の厚さ・塗り重ね構造・顔料粒子の大きさ・下地の状態等について各種顕微鏡による落射および透過観察を行った。

2.1.4 漆絵や蒔絵の加飾技法

今回調査を行った清洲城下町遺跡出土漆器資料には赤色系色漆による家紋や漆絵を施した加飾漆器は多いものの、蒔絵加飾を施した資料自体は含まれていなかった。しかし、参考資料群として掲載する大脇城遺跡・吉田城遺跡・名古屋城三の丸遺跡等の出土漆器資料には蒔絵加飾漆器が多く見出されるため、本報ではこの内容についても取り扱うこととする。さて、本報ではこれら加飾技法に関する調査として肉眼で漆絵や蒔絵加飾の塗り表面の状態を観察した

後、実体顕微鏡および金属顕微鏡を用いて、(1) 色漆の使用顔料や蒔絵粉の粒型と粒度、(2) 色漆や蒔絵粉の接着状態や劣化の状態、に関する細部観察を行った。

2.1.5 色漆の使用顔料および蒔絵材料の定性分析

色漆に用いられた顔料および蒔絵材料である金属粉の無機物に関する定性分析には、先の漆膜片をカーボン台に取り付け、走査電子顕微鏡（日立製作所 S-415 型）に、エネルギー分散型電子線分析装置（EPMA・電子線マイクロアナライザー：堀場製作所 EMAX-2000 型）を連動させて用いた。分析設定時間は 500 秒とした。

2.1.6 分析結果の集計方法

個々の漆器資料からもっとも一般的な 8 つ（A タイプ）もしくは 9 つ（B タイプ）の材質や製作技法上の優劣ランクの項目を抽出し、それぞれの比率を総個体数の中で計算する。この結果をレーダーチャート方式で図化するものである。

(Aタイプ集計方法)

レーダー中心軸・上の項目には一括出土漆器資料の加飾率（一括の総個体数の中で漆絵や家紋などの装飾を施した資料が占める割合）を取る。その右側にベンガラ・炭粉下地・ブナ材などのいわゆる廉価で簡素な量産型漆器資料の材質および製作技法上の特徴を取り、それと相対する左側には、朱・サビ下地・ケヤキやシオジ材などの優品資料の特徴を示す項目をとる。さらに中心軸・下にランク的にもケヤキやシオジ・ブナ材のほぼ中間に位置すると考えられるトチノキ材の占有比率（%）をそれぞれ配置した。この配置で示されるレーダーチャートは、その重点が右に寄るほどランク的に廉価な資料が多いことを、左に寄るほど優品資料の占める割合が高いことを示す。

(Bタイプ集計方法)

レーダー中心軸・上の項目には一括出土漆器資料

の加飾率（一括の総個体数の中で漆絵や家紋などの装飾を施した資料が占める割合）を取る。その右側にベンガラ・炭粉下地・スズ（Sn）粉・石黄（As₂S₃）粉などのいわゆる廉価で簡素な量産型漆器資料の材質および製作技法上の特徴をとり、それと相対する左側には、朱・サビ下地・金（Au）粉などの優品資料の特徴を示す項目をとる。さらに中心軸・下にランク的にもほぼ中間に位置すると考えられる銀（Ag）粉の占有比率（%）をそれぞれ配置した。

2.2 調査結果

今回、調査を行った漆器資料は、清須城本丸推定地や町屋跡推定地の城下町関連遺跡から検出された戦国時代～近世初頭期段階の椀・蓋・皿型を中心とした挽き物類の合計 83 点である。これらはいずれも、当時の基本的な飲食器である飯椀・汁椀・菜椀等に対応するものであろう。なお本報では、本資料の比較検討材料として、以前同様の調査を行う機会を得たが未発表であった愛知県埋蔵文化財調査センター所蔵の岩倉城遺跡 21 点、大脇城遺跡 167 点、勝川遺跡 6 点、豊橋吉田城遺跡 37 点、名古屋城三の丸遺跡 144 点の近世初頭期～江戸時代の各年代の出土漆器資料（計 375 点）の調査結果も併せて掲載する。

さて漆器資料は、おなじ飲食器である陶磁土器資料と比較して残存状況が脆弱なため、取り扱いに苦慮する場合が多く、かつ古窯跡のような生産地遺跡も検出されにくい。そのためか、これまで代表的な一部の資料の記述以外はあまり研究が進展してこなかった経緯がある。ところが漆器資料は、視点をかえてみると、木胎・塗り・加飾等の材質や製作技法に関する属性が多く、これらの品質は自然科学的手法による調査によって、より客観的にとらえやすい。そのためこのような漆器資料の生産技術面（ここでは材質と製作技法）を調査することは、個々の資料の性格を正確に把握する上で有効な方法であり、これらが出土した遺構・遺跡の性格自体を考え

る上でも意味があるものと考え(注1)。以下、各項目別の調査結果を述べる(第21～29表)。

2.2.1 用材選択

挽き物類である清洲城下町遺跡漆器資料の樹種には、ブナ科シイノキ14点、ブナ科ブナ属8点、ブナ科コナラ節2点、ブナ科クリ2点、バラ科サクラ亜属1点、カツラ科カツラ、ニレ科ケヤキなどのニレ科10点、トチノキ科トチノキ17点、カバノキ属ハンノキ6点、アサダなどのその他のカバノキ属5点、トネリコ属シオジ3点、モクレン科ホオノキ3点、等の広葉樹材12種類が確認された。これらの木材の組織、工作の難易、割れ狂い、色光沢、塗り等を考慮に入れて分類すると(第30表)に示ようになる(注2)。その上で本漆器資料の用材選択の傾向をみてみると、優材であるケヤキ材やシオジ材などと、加工や入手の容易さという大量生産の点からみて極めて一般性が高いと考えられる適材のトチノキ材やブナ・クリ・シイノキ・コナラ節等のブナ科材等の2つのグループに分かれた。これらの出現比率をみてみると、前者のニレ科やシオジ材が15.7%、後者のトチノキ材が20.5%、同ブナ科材が31.3%で、後者の占有比率が高かった(第239図)。筆者によるこれまでの全国115遺跡、合計16,009点の出土漆器資料の用材選択性に関する調査結果では、挽き物である漆器椀・蓋・皿類の樹種は、古い時期の資料に樹種の多様性が見られるが、江戸時代中期以降にはケヤキ(江戸時代前期段階ではシオジ材が多い)・トチノキ・ブナの3樹種の占有率が高く一般的となる。この結果を参考にして本資料の用材の使用状況をみてみると、シオジ・クリ・コナラ節など比較的近世の初期段階に出現がみられる樹種の占有率が高く、本遺跡出土漆器資料の基本的な年代観を考える上でも参考となろう。

2.2.2 木取り方法

資料は、横木地と堅木地に大別され、その大半は板目取りもしくは柎目取りの横木地であった。挽き

物類である近世出土漆器の木取り方法は、堅木地に比較して横木地を用いる例が大半であり、堅木地の場合も木芯を外した材を利用する例が一般的である(第233図)。これは木材の割れ狂い、収縮等を考慮に入れて漆器自体の品質を重視したため、不都合な木取り方法が自然淘汰された結果と考えている(注3)。本漆器資料の樹種を木取り方法との関係のみでみると、トチノキ材の場合は、横木地板目取り、ブナ材の場合は、横木地柎目取りの割合がかなり高い傾向が見出された。一般にトチノキは、芯を中心にして割れ狂いの多い赤味(心材)が広がり、表皮に近い部分にシラタとよばれる白い部分(辺材)がある。シラタは、多く取れても四寸(約12cm)程度しか利用できないので、椀木地ではおのずと椀を伏せたような形で木地を取る板目取りの方法が適している。一方、ブナは、芯に近いところまで利用が可能なので、木の狂いが少なく木地が多く取れる柎目取りの方法が適しているという口承資料が知られている(注3)。この点からも、本漆器資料の木胎製作の工程が、一貫してそれぞれの材の性質を考慮に入れた可能性が指摘される。

2.2.3 漆膜面の塗り構造

漆器表面の塗り技法は、大きく分けて無文様で地塗りのみの資料と、家紋等の漆絵文様を地外面に描く資料、さらには蒔絵等きわめて高度な漆工技法をもつ資料に分かれた。これらの漆膜面の塗り構造、特に、各漆器の堅牢性を知る目安となる木胎と漆塗り層との間の下地層を定性分析してみると、ピークがほとんど見出されない資料と、粘土鉱物もしくは珪藻土の構成要素に近いピークが認められる資料の2種類に分けられた。これらをさらに金属顕微鏡で観察することにより、前者を炭粉を柿渋などに混ぜて用いる炭粉下地、後者を細かい粘土もしくは珪藻土を生漆に混ぜて用いるサビ下地(堅下地もしくは本下地ともいう)であると認識した(注4)。

地の漆塗り層は、1層塗りから5～6層塗りまで

確認されたが、1～2層塗りだけの簡素で一般的な日用漆器の塗り構造を持つ資料が中心であった(注5)。そして蒔絵や漆絵等の加飾は、いずれも地の上塗り層の上に描かれていた(第234図)。その一方で、同じような赤色系漆を地塗りしたと思われる一括資料(通常漆工史の分野では寺社什物の流れをくむ漆器のグループであるという認識から根来手もしくは根来塗とも呼称される)も、塗り構造が極めて多岐にわたる事例や、明らかな塗り直し補修の痕跡や堅牢性を重視した布着せ補強や多層で複雑な塗り構造を有する資料が見出される等、品質の多様性が確認された(第240図)。

2.2.4 色漆の性質

赤色漆の使用顔料の定性分析及び顕微鏡観察を行った結果、それぞれベンガラ(酸化第二鉄 Fe_2O_3)、朱(水銀朱 HgS)、この両者の混合、の三種類の異なる顔料を用いた赤色漆であると理解した(第235図)。ベンガラ・朱ともに赤色系顔料としての歴史は古い。近世漆器の色漆顔料としては、通常近世初頭～江戸時代前期頃の資料では、朱を使用する事例が多い。その後の江戸時代中期以降には幕府朱座を中心とした純制物資であった朱に比較して、人造ベンガラの工業生産化により量産体制が確立するベンガラの方が廉価で一般的となるようである(注6)。

今回の調査結果でも、年代観が比較的古い清洲城下町遺跡や岩倉城跡資料では朱の使用が中心で占有率は高かった。この点も、本資料の帰属年代を考える上で参考となろう。その他の遺跡出土資料の場合では、簡素で一般的な塗り構造を持つ資料にはベンガラを、堅牢で複雑な多層塗り構造を持つ資料には朱を、また地内面にはベンガラを地外面の家紋等の加飾部分のみに朱を使用する等、明らかな朱・ベンガラの使い分け事例が見出された。これらの結果の背景には先の赤色顔料の調達や価格の問題が反映しているのであろう。

2.2.5 蒔絵粉の材質

表面観察において金粉(金箔)もしくは金泥(金彩)によるとみられる家紋や絵柄等の蒔絵加飾部分の定性分析を行った結果、Au(金)が認められる資料の他、Ag(銀)、As+S(石黄・硫化砒素:As₂S₃)のそれぞれ異なる材質が見出された(図3)。この事は、蒔絵加飾には、実際の金(Au)自体を用いる例の他、銀粉や代用金粉である錫粉・石黄粉、さらにはこれらの混合粉を使用する事例があったことを示している。

江戸期の各種文献資料には、漆器に蒔絵や梨子地等の加飾を施すこと自体が、寛文年間以降しばしば発せられる奢侈禁止令によって各社会階層毎に厳しく制限されていたことや、これら金・銀・錫等の材質別の蒔絵漆器に、明確な価格差が存在したこと等が、知られる。この点に関連して、各遺跡の蒔絵漆器資料の材質別使用比率の集計を行った。その結果、いずれの遺跡・年代の一括資料の場合でも、基本的には金(Au)自体を使用した蒔絵漆器は比較的少なく、大半は代用金粉である石黄粉、もしくは銀粉であった。筆者によるこれまでの近世蒔絵材料の調査結果では、金粉以外の蒔絵粉の材質は、石黄粉(江戸時代前期)→銀粉(江戸時代前～中期)→スズ粉(江戸時代後期)へと年代別に大きく使用状況が変化することが確認されている(注7)。今回の調査結果でも、大脇城跡遺跡出土資料では石黄粉を使用した資料のみであり、吉田城跡資料では銀粉が、名古屋城三の丸遺跡資料では銀粉および石黄粉を使用した資料がそれぞれ優勢であった(第237図)。これらの結果は、各遺跡出土漆器資料の帰属年代を考える上で何らかの示唆を与えてくれよう。

3. 考察

以上、前章では項目別に清洲城下町遺跡をはじめとする各遺跡各出土漆器資料の材質および製作技法の在り方をみた。その結果、清洲城下町遺跡出土漆器資料をはじめとする各一括資料は、木胎・塗り

技法・使用顔料ともに簡素な素材からなる極めて一般的で廉価な日常什器類から、吟味された素材からなる堅牢で複雑な漆工技法を有する優品資料に至るまで、幾つかのランク別のグループに分類された。さらに各遺跡別の一括資料の傾向を把握するため、最も一般的な8つの材質や製作技法上の優劣ランクの項目を抽出してそれぞれの比率を総出現数の中で集計した。その結果、各一括資料の基本的な様相は、いずれも基本的には極めて実用に即した生活什器類である飲食器類を中心としているものの、各遺跡別に若干の傾向の違いが認められた(第236図)。このような漆器資料のグループ毎の違いは、文化的背景を含むそれぞれの漆器資料の製作年代(年代観)、これら什器を使用しさらには投棄した使用階層の社会的・経済的背景(生活様式)、地域性、什器類の使用目的や方法、さらには個々の漆器生産地の製作技術の違い等、さまざまな条件が反映されたものであろう(第238図)(注8)。

今後の課題としては、まずは各漆器資料の器型分類との照合を行うこと。そのうえで陶磁器類をはじめとする他の共存遺物や遺構の性格との相互関連性を総合的に比較・検討していくことが、本出土漆器資料の性格を的確に理解する上で必要なことであると考える。

(謝 辞)

本調査を行なうにあたり、愛知県埋蔵文化財センターの鈴木正貴氏をはじめとする多くの方には、大変お世話になりました。厚く謝意を表します。

なお本報は、平成11～14年度文部省科学研究費基礎研究(C)『近世陶絵材料の劣化現象の把握とその保存に関する基礎的研究(研究代表者:北野信彦)』の成果の一部を含む。

(注)

(1) 北野信彦1993『日常生活什器としての近世漆器類の生産と消費』『食生活と民具』p.81-101、日本民具学会編 雄山閣出版

北野信彦2000『生産技術面からみた近世出土漆器の生産・流通・消費』『日本考古学 第9号』p.71-96、日本考古学協会、吉田弘文館、等を参照されたい。

(2) 橋本(1979)の調査では、近世以降のろくろ挽き物である漆器類の用材には、早晩材の組織の差が少ない広葉樹の散孔材もしくは環孔材ではあるが特性がある材を適材であるとしている。

橋本鉄男1979『ろくろ ものと人間の文化史31』法政大学出版局

北野信彦2000『近世出土漆器類の用材に関する一考察』『考古学と自然科学 第38号』p.47-66日本文化財科学会

(3) 須藤(1982)の調査によると、近世以降の近江系(小箱谷)木地師による挽き物類の木取り方法の場合、横木板目取りはトノキ地帯に、同根目取りはブナ地帯に定着し、その細かい技術は、個々の集団に受け継がれてきたとしている。

須藤 1982『日本人の生活と文化、暮らしの中の木器』日本観光文化研究所編 ぎょうせい

(4) サビ下地を用いた漆器の生産自体は、『延喜式』の髹漆技法をみるまでもなく、その歴史は古い。しかしその生産体制が地方の漆器生産においても普及・一般化するのには、漆器の需要とそれに伴う漆器生産量が増大化した江戸時代後期～幕末期以降のようである。この状況を知る事例として、近世輪島塗の台頭や、炭粉下地による廉価な日用漆器の生産では奥州会津・近江日野とともに三大生産地の一つといわれていた紀州黒江生産地へのサビ下地(堅地物)技術の導入などがあげられよう。

なお一部の資料については細かい粘土や珪藻土にかわ等に混ぜて用いる泥下地(堅下地・本下地より堅牢性に欠ける)の可能性もある。しかし出土資料のかわと生漆の明確な科学的識別が技術的に困難な現在、両者をまとめてサビ下地とした。

北野信彦1993『近世出土漆器資料の保存処理に関する問題点・I—文献史料からみた量産型漆に使用する混和剤を中心として—』『古文化財の科学第38号』p.65-79、古文化財科学研究会

(5) このような近世漆器の製作技法の在り方を示す民俗事例の1つに、新潟県糸魚川市大所の小椋丈助氏による実用にした近世木地師、漆器碗の製作技法に関する口承資料がある。それによると [上品] 布着せ補強 (碗の欠け易い縁や糸じりに麻布を巻く) ~ サビ下地 (紙の粉を生漆に混ぜたサビを二回塗布) ~ 下塗り (生漆) ~ 上塗り (生漆に赤色系顔料もしくは黒色系顔料を混ぜた赤色系漆もしくは黒漆) の工程をふみ、人一代は持つ堅牢なもの。[下品] 炭粉下地 (柳や松煙を稀液に混ぜて用いるサビ下地の代用下地) ~ 上塗り (生漆の使用量を節約するために偽漆である不純物を多く混入している粗悪な漆)。[中品] 下品とはほぼ同様の工程をふむが上塗りの漆を濃く塗布したりミガキを丁寧にしたたりする。下品よりかなり持ちが良い。などとしており、各漆器ランク別の工程をよく示している。

文化庁文化財保護部編1974『木地師の習俗 民俗資料選集2』国土地理協会

(6) 江戸時代における朱とベンガラの価格表を検討してみると、江戸時代前期段階には両者海外輸入品が多いためか、相対価格差はほとんど見られない。しかし江戸時代後期頃の段階では、両者に約30倍ほどの相対価格差が見られ、とりわけ朱の高値さと入手難さが指摘される。北野信彦2000『朱・ベンガラ 項目』『日本民俗大辞典(下巻)』福田アジオ編、吉川弘文館

(7) 寛延四年(1751)の『名古屋諸色直段集、寛延四年小買物諸色直段帳』には、漆器の体漆技法別の価格が記載されている。この史料では、布着せ蝸色塗(上品):常留塗(中品):常拭塗(下品)の相対価格差は、約51:3.4:1と算定される。

また、伊勢菰野藩土方家菩提寺である見性寺の見性寺文書には、伊勢桑名の塗物商ぬし興に提出させた見積書があるが、それによると家紋加飾に使用された金・銀・錫粉蒔絵の相対価格比率は、約18:6:1と算定される。いずれの事例からも生産技術面(ここでは材質や製作技法)の違いにより、漆器には明確な価格差が存在したことが理解される。

北野信彦・肥塚隆保2000『近世出土蒔絵漆器の材質・技法に関する調査』『考古学と自然科学 第38号』p.67-92、日本文化財科学会

(8) 北野信彦1993『近世武家社会における生活什器としての漆器資料』『総合郷土研究所紀要38巻』p.115-134、愛知大学

北野信彦1999『出土漆器資料からみた近世初頭から前期頃の城下町居住者の一性格』『総合郷土研究所紀要44巻』p.113-132、愛知大学

北野信彦2000『出土漆器資料からみた江戸市中における武家地関連遺跡の一性格』『総合郷土研究所紀要45巻』p.75-96、愛知大学

北野信彦2002『出土漆器資料からみた国元城下町における武家地関連遺跡の一性格』『総合郷土研究所紀要47巻』p.1-26、愛知大学、等を参照されたい。

(参考文献)

- 1) 沢口吾一1966『日本漆工の研究』美術出版社
- 2) 灰野昭郎1985『漆工(近世編)日本の美術8 第231号』至文堂
- 3) 光芸出版社編1978『うるし工芸辞典』

(引用文献)

参考資料となる近世尾張出土の個々の漆器資料の分析結果は、既刊の下記発掘調査報告書の項目を参照されたい。北野信彦1993『加飾漆器の製作技法』『名古屋城三の丸遺跡 IV』P259-267、(財)愛知県埋蔵文化財センター
北野信彦1995『出土漆器資料の製作技法』『清洲城下町遺跡 V』P124-139、(財)愛知県埋蔵文化財センター

第20表 清洲城下町遺跡出土漆器一覧表

分析番号	発掘番号	調査区	ア・ブ	遺物	日付	器種	内面	外面
1	2606	96	(Ⅰ)G7c	SX04 2層	970203	瓶A	赤	黒・文赤
2	2620	96	(Ⅰ)G11	T01	970120	瓶AaB	赤	黒
3		96	(Ⅰ)G7c	SX04 2層	970127	瓶?	赤	黒・文赤
4		96	(Ⅰ)G13k	SX04 2層	970206	瓶?	赤	黒
5	2627	96	(Ⅰ)G6c	北T	970120	瓶?	赤	黒・文赤
6	2628	96	(Ⅰ)G9c	瓶口	970110	瓶AaB	赤	黒・文赤
7	2623	96	(Ⅰ)G10c	T01 下層	970213	瓶B	赤	黒・文赤
8	2626	96	(Ⅰ)G10c	T01 下層	970212	瓶B	赤	黒・文赤
9	2619	96	(Ⅰ)G12k	T01	970120	瓶A?	赤	黒・文赤
10	2609	96	(Ⅰ)G9c	SX04 1層	970131	瓶B?	赤	赤
11	2640	96	(Ⅰ)G12	SX04 2層	970213	瓶B?	赤	赤
12	2644	96	(Ⅰ)G10c	T01 下層	970212	瓶B	赤	黒・文赤
13	2608	96	(Ⅰ)G12s	SX04 2層	970214	瓶B?	赤	黒・文赤
14	2621	96	(Ⅰ)G10c	T14 下層	970318	瓶B	赤	黒
15	2786	97c		瓶	971125	瓶AaB	赤	黒・文赤
16	2846	97c	(Ⅰ)G11	瓶口	971204	瓶AaB	赤	黒・文赤
17	2783	97c	(Ⅰ)G11b	瓶口	971203	瓶B	赤	黒
18	2819	97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971210	皿	赤	黒
19	2817	97c	(Ⅰ)G11	瓶口	971204	瓶B?	赤	黒・文赤
20	2784	97c	(Ⅰ)G11	瓶口	971203	瓶B	赤	黒
21		97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971209	?	赤	黒
22		97c	(Ⅰ)G11	瓶口	971204	瓶AaB	赤	黒・文赤
23		97c	(Ⅰ)G12g	瓶口	971203	瓶AaB	赤	黒・文赤
24		97c	(Ⅰ)G14a	瓶口	971202	?	赤	赤
25		97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971204	?	赤	赤
26		97c	(Ⅰ)G15d	瓶口	971202	?	赤	赤
27	2841	97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971211	瓶A	黒	黒・文赤
28	2848	97c	(Ⅰ)G9c	瓶口	971217	瓶B	赤	黒・文赤
29	2783	97c	(Ⅰ)G11b	瓶口	971204	瓶AaB	赤	黒・文赤
30	2812	97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971205	瓶	赤	黒
31	2813	97c	(Ⅰ)G11	瓶口	971204	瓶A	黒	黒
32	2840	97c	(Ⅰ)G11b	瓶口	971204	瓶A	赤	黒・文赤
33	2772	97c	(Ⅰ)G6c	SX01 下部	980109	瓶B	赤	赤・黒
34	2644	97B	(Ⅰ)G10c	N802移動層	980310	瓶B	赤	赤・黒・文赤
35	2757	97B	(Ⅰ)G10b	N802	980310	瓶AaB	黒	黒・文赤
36	2645	97B	(Ⅰ)G6d	N802灰色粘土	980310	瓶B	黒	黒・文赤
37	2656	97B	(Ⅰ)G9c	N802移動層	980310	皿	赤	赤
38	2835	97B	(Ⅰ)G9c	N802移動層	980310	瓶B	赤	赤・黒・文
39	2852	97B	(Ⅰ)G10c	N802移動層	980306	瓶B	赤	黒・文赤
40	2851	97B	(Ⅰ)G9c	N802移動層	980310	瓶B	赤	黒・文赤
41	2853	97B	(Ⅰ)G9c	N802移動層	980311	瓶B	赤	黒・文赤
42	2654	97B	(Ⅰ)G9c	N802移動層	980311	瓶B	赤	黒・文赤
43	2646	97B	(Ⅰ)G10c	N802灰色粘土	980309	瓶AaB	赤	黒・文赤
44	2643	97B	(Ⅰ)G10b	N802	980309	瓶AaB	赤	黒・文赤
45	2642	97B	(Ⅰ)G9c	N802	980309	瓶A	赤	黒・文赤
46	2857	97B	(Ⅰ)G10b	N802移動層	980309	瓶AaB	赤	黒・文赤
47		97B	(Ⅰ)G9c	N802移動層	980310	瓶?	赤	黒・文赤
48	2881	97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971210	瓶B	赤	黒
49	2879	97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971210	瓶A	赤	黒・文赤
50	2880	97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971210	瓶B	赤	黒・文赤
51		96	(Ⅰ)G10c	T01 下層	970130	瓶A	赤	黒・文赤
52		96	(Ⅰ)G9c	SX04 2層	970205	瓶A	赤	黒・文赤
53	2843	97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971209	皿	赤	黒・文赤
54	2781	97c	(Ⅰ)G10c	SX02 下層	980304	瓶A	赤	黒
55	2777	97c	(Ⅰ)G10c	SX02 下層	980304	瓶B	黒	黒・文赤
56		97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971209	?	赤	黒・文赤
57		97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971209	?	赤	黒・文赤
58		97c	(Ⅰ)G9c	N801移動層	980110	?	赤	赤
59	98B	(Ⅰ)G10c	N802炭化物	980306	瓶?	赤	黒・文赤	
60		96	(Ⅰ)G6c	北壁T	970120	?	赤	黒
61		96	(Ⅰ)G7c	SX04 2層	970128	瓶?	赤	赤
62		96	(Ⅰ)G13k	SX04 2層	970206	?	赤	黒
63		96	(Ⅰ)G10c	T01 下層	970312	?	赤	黒
64		96	(Ⅰ)G10c	SX04 2層	970204	瓶?	赤	黒・文赤
65		96	(Ⅰ)G11b	SX04 2層	970206	?	赤	赤
66		96	(Ⅰ)G7c	北壁T	970306	瓶?	赤	赤
67		96	(Ⅰ)G12g	SX01	970213	瓶?	赤	黒・文赤
68	2882	97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971211	瓶B	赤	黒・文赤
69	2842	97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971209	瓶B	赤	黒・文赤
70	2811	97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971211	瓶A	赤	黒・文赤
71	2782	97c	(Ⅰ)G9c	SX02	980119	瓶物	黒	黒・文赤
72	2815	97c	(Ⅰ)G13k	瓶口	971202	瓶AaB	黒	黒
73	2814	97c	(Ⅰ)G13k	瓶口	971203	瓶AaB	赤	黒・文赤
74	2771	97c	(Ⅰ)G10c	N801 下層	980310	瓶AaB	赤	黒・文赤
75		97c	(Ⅰ)G6c	SX01	980120	瓶AaB	赤	黒・文赤
76	2845	97c	(Ⅰ)G9c	瓶口	980114	瓶B	赤	赤・黒・文
77	2844	97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971209	瓶B	赤	黒
78	2883	97c	(Ⅰ)G10c	瓶口	971209	皿	赤	赤・黒・文
79	2778	97c	(Ⅰ)G9c	SX02	980119	瓶B	赤	黒・文赤
80	2888	97c	(Ⅰ)G11b	瓶口	971205	瓶物	?	?
81	2791	97c	(Ⅰ)G15d	瓶口	971202	瓶物	?	?
82		97c	(Ⅰ)G10c	SX02	980119	瓶物	黒	黒・文赤

第21表 清洲城下町遺跡出土漆器の調査結果

No.	器型	樹種	水取	表面塗料技法			漆層構造			使用原料			備考
				内	外	文様	内	外	内	外	文様		
1	瓶A	トナノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱	+	ペンダウ		
2	瓶AorB	トナノキ	A	赤	黒		I	I	朱				
3	瓶	カバノキ科	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
4	瓶	トナノキ	A	赤	黒		I	I	朱				
5	瓶	ブナ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
6	瓶AorB	トナノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
7	瓶B	セイノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱	+	ペンダウ		
8	瓶B	クリ	B	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
9	瓶A	ニシ料	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
10	瓶B	ウヤキ	A	赤	赤		V	V	朱				
11	瓶B	シオジ	B	赤	黒		I	I	朱				
12	瓶B	セイノキ	B	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
13	瓶B	セイノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱	+	ペンダウ		
14	瓶B	セイノキ	A	赤	黒		I	I	朱				
15	瓶AorB	オオノキ	B	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
16	瓶AorB	ハンノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
17	瓶B	セイノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
18	皿	ハンノキ	A	赤	黒		I	I	朱				
19	瓶B	ムクノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	ペンダウ	+	ペンダウ		
20	瓶B	ブナ	B	赤	黒		I	I	朱				
21	惣物破片	ブナ	B	赤	黒		I	I	朱				
22	瓶AorB	ハンノキ	B	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
23	瓶AorB	セイノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
24	惣物破片	ウヤキ	—	赤	赤		III	III	朱				
25	惣物破片	トナノキ	—	赤	黒		I	I	朱				
26	惣物破片	ウヤキ	B	赤	赤		III	III	朱				
27	瓶A	クリ	B	黒	黒	外給一赤	I	II	朱				
28	瓶B	クリ	B	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
29	瓶AorB	セイノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱	+	ペンダウ		
30	瓶A	シオジ	A	赤	黒		I	I	朱				
31	瓶A	ハンノキ	C	黒	黒		I	I	ペンダウ				
32	瓶A	ハンノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
33	瓶B	サタウ草履	B	赤	赤		I	I	朱				
34	瓶B	ブナ	B	赤	赤		I	I	朱				
35	瓶AorB	ブナ	B	黒	黒	外給一赤	I	II	朱				
36	瓶B	トナノキ	A	黒	黒	外給一赤	I	II	朱				
37	皿	クリ	A	赤	黒		I	I	朱				
38	瓶B	カバノキ科	A	赤	赤		I	I	朱				
39	瓶B	ハンノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
40	瓶A	セイノキ	B	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
41	瓶B	ブナ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
42	瓶B	コナウ節	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
43	瓶AorB	アサギ	B	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
44	瓶AorB	トナノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
45	瓶A	トナノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
46	瓶AorB	コナウ節	B	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
47	瓶	トナノキ	—	赤	黒	外給一赤	I	I	朱				
48	瓶B	トナノキ	B	赤	黒		I	I	朱				
49	瓶B	ウヤキ	—	赤	赤		III	III	朱				
49	瓶A	セイノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	ペンダウ				
50	瓶B	セイノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	ペンダウ				
51	瓶A	セイノキ	B	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
52	瓶A	セイノキ	B	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
53	皿	トナノキ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
54	瓶A	ブナ	B	赤	黒		V	V	朱				
55	惣物	トナノキ	A	黒	黒	外給一赤	I	II	朱				
56	惣物破片	トナノキ	B	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
57	惣物破片	セイノキ	B	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
58	惣物破片	カバノキ科	B	赤	赤		I	I	朱				
59	瓶	カバノキ科	B	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
60	惣物破片	ブナ	B	赤	黒		I	I	朱				
61	瓶	トナノキ	A	赤	赤		I	I	朱				
62	惣物破片	トナノキ	A	赤	黒		I	I	朱				
63	惣物破片	トナノキ	A	赤	黒		I	I	朱				
64	瓶	クリ	A	赤	黒	外給一赤	I	II	朱				
65	惣物破片	ウヤキ	—	赤	赤		V	V	朱				
66	瓶	シオジ	A	黒	黒		V	V	朱				
67	瓶	クリ	B	赤	黒		I	I	朱				
68	瓶B	広葉花材	—	赤	黒		I	I	朱				
69	瓶B	広葉花材	—	赤	黒		I	I	朱				
70	瓶A	クリ	B	赤	黒		I	I	朱				
71	皿	針葉樹材	—	黒	黒		V	V	朱				
72	瓶AorB	クリ	B	赤	黒		I	I	ペンダウ				
73	瓶AorB	オオノキ	A	赤	黒		I	I	朱				
74	瓶AorB	オオノキ	B	赤	黒	外給一赤	I	II	ペンダウ	+	ペンダウ		
75	瓶AorB	ウヤキ	B	赤	黒		I	I	朱				
76	反胎瓶	ウヤキ	B	赤	赤		III	III	朱				
77	瓶B	広葉花材	—	赤	黒		III	III	朱				
78	皿	トナノキ	B	赤	赤		I	I	朱				
79	瓶B	セイノキ	B	赤	黒	外給一赤	I	II	ペンダウ				
80	惣物破片	針葉樹材	—	黒	黒		I	I	朱				
81	惣物破片	針葉樹材	—	黒	黒		I	I	朱				
82	惣物破片	ヒノキ	—	赤	黒	外給一赤	I	II	ペンダウ				
83	惣物破片	針葉樹材	—	黒	黒		I	I	朱				

第22表 大脳城遺跡出土漆器の調査結果(1)

No.	部 型	製 種	本取	表面張り技法			使用原料			漆塗構造		備 考	
				内	外	文 様	内	外	文 様	内	外		
1	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤	ペンダラ			ペンダラ	I	II	
2	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤	ペンダラ			ペンダラ	I	II	
3.1	碗底片	トチノキ	A	赤	赤	外一筋一黄	ペンダラ	ペンダラ		As+S	I	II	
3.2	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤	ペンダラ			ペンダラ	I	II	
1.5	碗底片	クヤキ	B	赤	赤		朱	朱			III	IV	高台内底*
5	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤、黄	ペンダラ			朱、As+S	I	II	
6	碗底片	カワク	A	赤	赤		ペンダラ	ペンダラ			I	I	
7	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤、黄	ペンダラ			ペンダラ+As+S	I	II	*
7.2	碗底片	ブナ	B	赤	黒		朱+ペンダラ				I	I	
8	碗底片	ブナ	B	赤	黒						I	I	
9	碗底片	トチノキ	A	赤	赤		ペンダラ	ペンダラ			I	I	
10	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤	ペンダラ			ペンダラ	I	II	
10.2	碗底片	不明産材	A	黒	黒						I	I	
11	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ペンダラ				I	I	
12	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ペンダラ				I	I	高台内底
13	碗底片	サクラ葉	A	赤	黒		ペンダラ				I	I	
14	碗底片	トチノキ	A	黒	黒						I	I	
15.1	碗底片	カバノキ	A	赤	黒	外一筋一赤	ペンダラ			ペンダラ	I	II	
15.2	碗底片	カバノキ	A	赤	黒		ペンダラ				I	I	
15.3	碗底片	カバノキ	A	赤	黒		ペンダラ				I	I	
16	碗底片	ブナ	A	赤	赤		ペンダラ	ペンダラ			I	I	
17	碗底片	スゴノキ	B	赤	黒	外一筋一赤	ペンダラ			ペンダラ	I	II	
18	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ペンダラ	ペンダラ			I	I	*
19	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤	ペンダラ			ペンダラ	I	II	
20	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤	ペンダラ			ペンダラ	I	II	
21	碗底片	クヤキ	A	黒	黒						III	IV	
22	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ペンダラ				I	I	
23	碗底片	トチノキ	A	黒	黒		ペンダラ				I	I	
24	碗底片	ブナ	B	赤	黒		ペンダラ				I	I	
25	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤、黄	ペンダラ			ペンダラ+As+S	I	II	
26	碗底片	ブナ	A	赤	黒		朱				I	II	
27	碗底片	クリ	A	赤	黒		朱+ペンダラ				I	I	
28	碗底片	クリ	A	赤	黒		ペンダラ				I	I	
29	碗底片	ブナ	A	赤	黒	外一筋一赤	ペンダラ			ペンダラ	I	II	
30	碗底片	クリ	A	赤	黒		朱+ペンダラ				I	I	
31	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ペンダラ				I	I	
32	碗底片	ブナ	A	黒	黒		朱				I	I	
33	碗底片	ブナ	A	赤	黒		ペンダラ				I	I	
34	碗底片	シイノキ	A	赤	黒	外一筋一赤	朱+ペンダラ			朱	I	II	
35	碗底片	シイノキ	A	赤	黒	外一筋一赤	朱			朱	III	IV	
36	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ペンダラ				I	I	
37	碗底片	ブナ	B	赤	赤		朱	朱			I	I	
38	碗底片	ブナ	A	赤	黒	外一筋一赤	ペンダラ			ペンダラ	I	II	
39	碗底片	クリ	B	赤	黒		朱+ペンダラ				I	I	
40	碗底片	ヒノキ	一	黒	黒						I	I	
41	碗底片	クリ	B	赤	黒		ペンダラ				I	I	
42	碗底片	クリ	B	赤	黒		朱				I	I	
43	碗底片	クリ	B	赤	黒		朱+ペンダラ				I	I	
44	碗底片	ブナ	B	赤	黒	外一筋一黄	ペンダラ			As+S	I	II	
45	碗底片	ブナ	A	赤	黒		朱				I	I	
46	碗底片	クリ	A	赤	黒	外一筋一赤	朱+ペンダラ			朱	I	II	
47	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		朱+ペンダラ				I	I	
48	碗底片	クリ	A	黒	黒						I	I	
49	碗底片	ヒノキ	一	黒	黒						I	I	
50	碗底片	シイノキ	A	赤	黒	外一筋一赤	朱			朱	I	II	
51	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ペンダラ				I	I	
52	碗底片	サクラ葉	A	赤	黒		朱				I	I	
53	碗底片	ブナ	A	赤	黒		朱				I	I	
54	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ペンダラ				I	I	
55	碗底片	クリ	A	赤	黒		朱				I	I	
56	碗底片	ブナ	A	黒	黒	外一筋一赤				朱	I	II	
57	碗底片	トチノキ	A	黒	黒						I	I	
58.1	碗底片	シイノキ	A	赤	赤		朱	朱			III	IV	
58.2	碗底片	トチノキ	A	赤	赤		ペンダラ	ペンダラ			I	II	
59	碗底片	ブナ	B	赤	黒		朱				I	I	
60	碗底片	ハワ科	B	赤	黒	外一筋一赤	ペンダラ			ペンダラ	I	II	
61	碗底片	ブナ	B	赤	黒		朱+ペンダラ				I	I	
62	碗底片	クリ	B	赤	黒		朱+ペンダラ				I	I	
63	碗底片	クリ	A	赤	黒	外一筋一赤	朱+ペンダラ			朱	I	II	
64	碗底片	ホオノキ	A	赤	黒		ペンダラ				I	I	
65	碗底片	ヒノキ	A	一	黒						一	I	
66	碗底片	スゴノキ	A	赤	黒		朱				I	I	
67.1	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ペンダラ				I	I	

第23表 大脳城遺跡出土漆器の調査結果(2)

No.	部 型	製 種	本取	表面張り技法		使用原料			漆塗構造		備 考	
				内 面	外 面	内 面	外 面	文 様	内 面	外 面		
67-2	碗底片	フナ	A	赤 赤	赤 黒			ベンガラ	ベンガラ			
68	碗底片	クリ	B	赤 赤	黒			朱				
69	碗底片	クリ	B	赤 赤	黒			朱+ベンガラ				
70	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	赤			朱	朱			
71-1	碗底片	広敷孔材	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		朱		朱		
71-2	碗底片	サヤキ	A	赤 赤	赤			朱	朱		多層	多層
72	碗底片	クリ	B	赤 赤	黒			朱+ベンガラ				高台内照
73	碗底片	サヤキ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		朱+ベンガラ		朱+ベンガラ		
74	碗底片	クリ	A	黒	黒	片一筋一赤		朱+ベンガラ		朱+ベンガラ		
75	碗底片	クリ	B	赤 赤	黒	片一筋一赤		ベンガラ		朱		
76	碗底片	クリ	B	赤 赤	黒			ベンガラ				
77	碗底片	フナ	A	赤 赤	黒			朱+ベンガラ				
78	碗底片	クリ	B	赤 赤	黒			朱				
79	碗底片	シイノキ	A	黒	黒							
80	碗底片	フナ	B	赤 赤	赤			朱	朱			
81	碗底片	シヨジ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		朱		朱		
82	碗底片	シイノキ	A	黒	黒							
83	碗底片	フナ	B	赤 赤	黒			朱				
84	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	黒			ベンガラ				
85	碗底片	シイノキ	B	赤 赤	黒			朱+ベンガラ				
86	碗底片	フナ	B	赤 赤	赤			ベンガラ		ベンガラ		
87	碗底片	広敷孔材	B	赤 赤	黒	片一筋一赤		朱		朱		
88	碗底片	トチノキ	B	赤 赤	黒	片一筋一赤、黄		ベンガラ		ベンガラ、As+S		
89	碗底片	フナ	B	赤 赤	赤			ベンガラ		ベンガラ		
90	碗底片	クリ	A	赤 赤	黒			朱				
91	碗底片	広敷孔材	B	赤 赤	黒							
92	碗底片	クリ	A	赤 赤	黒			朱+ベンガラ				
93	碗底片	トチノキ	B	赤 赤	黒	片一筋一赤		ベンガラ		ベンガラ		
94	碗底片	シイノキ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		朱+ベンガラ		朱+ベンガラ		
95	碗底片	クリ	A	黒	黒							
96	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	赤			朱+ベンガラ	朱+ベンガラ		多層	多層
97	碗底片	フナ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		ベンガラ		ベンガラ		高台照赤字*
98	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	黒			ベンガラ		ベンガラ		
99	碗底片	フナ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		ベンガラ		ベンガラ		
100	碗底片	クリ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		朱		朱		
101	碗底片	サヤキ	B	赤 赤	赤			朱	朱		層	層
102	碗底片	フナ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤、黄		ベンガラ		朱、As+S		赤青せ層状*
103	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤、黄		ベンガラ		ベンガラ、As+S		
104	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	黒			ベンガラ		ベンガラ		
105	碗底片	フナ	B	赤 赤	黒	片一筋一赤		ベンガラ		ベンガラ		
106	碗底片	赤キノキ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		朱+ベンガラ		朱+ベンガラ		
107	碗底片	トチノキ	B	赤 赤	黒			ベンガラ				
108	碗底片	シイノキ	B	黒	黒							
109	碗底片	トチノキ	A	黒	黒							
110	碗底片	クリ	A	赤 赤	黒			朱				
111	碗底片	クリ	B	赤 赤	黒			朱				
112	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	黒			ベンガラ				
113	碗底片	フナ	A	黒	黒							
114	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	黒			ベンガラ				
115	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	赤			ベンガラ	ベンガラ			
116	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		朱+ベンガラ		朱		
117	碗底片	シイノキ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		朱		朱		
118	碗底片	トチノキ	A	黒	黒	片一筋一赤				朱		
119	碗底片	サクラ葉	B	赤 赤	黒	片一筋一赤		朱		朱		
120	碗底片	シイノキ	A	赤 赤	黒			朱				
121	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		ベンガラ		ベンガラ		
122	碗底片	フナ	B	赤 赤	黒	片一筋一赤		ベンガラ		ベンガラ		
123	碗底片	シイノキ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		朱		朱		
124	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	赤			ベンガラ	ベンガラ			
125	碗底片	クリ	B	赤 赤	黒			ベンガラ		ベンガラ		
126-1	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	赤			ベンガラ	ベンガラ			
126-2	碗底片	トチノキ	A	黒	黒							
127	碗底片	クリ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		ベンガラ		朱		
128	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		朱+ベンガラ		朱		
129	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	黒			ベンガラ				
130	碗底片	トチノキ	B	赤 赤	黒	片一筋一赤、黄		ベンガラ		ベンガラ、As+S		
131	碗底片	フナ	A	赤 赤	黒			ベンガラ				
132	碗底片	フナ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		ベンガラ		朱		
133	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	黒			ベンガラ				
134	碗底片	クリ	A	赤 赤	黒			朱				
135	碗底片	フナ	B	赤 赤	黒	片一筋一赤		朱		As+S		
136	碗底片	トチノキ	A	赤 赤	黒	片一筋一赤		ベンガラ		As+S		
137	碗底片	クリ	B	赤 赤	黒			ベンガラ				

第24表 大脇城遺跡出土漆器の調査結果(3)

No.	器型	樹種	木取	表面装り技法			使用原料			漆塗構造		備考
				内	外	文様	内	外	文様	内	外	
138	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤・金	ベンガラ		朱・As+S	Ⅰ	Ⅱ	
139	碗底片	ブナ	B	赤	黒	外一筋一赤	朱		朱	Ⅰ	Ⅱ	
140	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ベンガラ			Ⅰ	Ⅰ	
141	碗底片	ブナ	A	赤	黒	外一筋一赤	ベンガラ		ベンガラ	Ⅰ	Ⅱ	*
142	碗底片	クサキ	A	黒	黒					Ⅲ	Ⅳ	
143	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤・黄	ベンガラ		ベンガラ・As+S	Ⅰ	Ⅱ	*
145.1	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ベンガラ			Ⅰ	Ⅰ	
145.2	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ベンガラ		As+S	Ⅰ	Ⅱ	
146	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤・黄	ベンガラ		ベンガラ・As+S	Ⅰ	Ⅱ	
147	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤・黄	ベンガラ		ベンガラ・As+S	Ⅰ	Ⅱ	
148	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ベンガラ			Ⅲ	Ⅳ	
149	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ベンガラ			Ⅰ	Ⅰ	
150.1	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ベンガラ			Ⅰ	Ⅰ	
150.2	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤・黄	ベンガラ		ベンガラ・As+S	Ⅰ	Ⅱ	
151	碗底片	トチノキ	A	赤	赤			朱		Ⅰ	Ⅰ	
152	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ベンガラ			Ⅰ	Ⅰ	
153	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		ベンガラ			Ⅰ	Ⅰ	
154	碗底片	カエデ	A	黒	黒					Ⅰ	Ⅰ	
155	碗底片	シイノキ	A	黒	黒	外一筋一赤			朱	Ⅰ	Ⅰ	
156	碗底片	カバノキ	B	赤	黒					Ⅰ	Ⅰ	
157	碗底片	広敷花村	B	赤	黒	外一筋一赤	朱		朱	Ⅰ	Ⅰ	

No. は次の文献の番号と対応する。

北村和宏編 1999「大脇城遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第86集

第25表 岩倉城遺跡出土漆器の調査結果

No.	器型	樹種	木取	表面装り技法			使用原料			漆塗構造		備考
				内	外	文様	内	外	文様	内	外	
516	皿	トチノキ	A	赤	黒		朱			Ⅰ	Ⅰ	
517	皿	カエデ	C	赤	黒		朱			Ⅰ	Ⅰ	
518		トチノキ	A	赤	黒		朱			Ⅰ	Ⅰ	
519		クリ	A	赤	黒	外一筋一赤	朱		朱	Ⅰ	Ⅱ	
520		カツラ	A	赤	黒		朱			Ⅰ	Ⅰ	
521		トチノキ	A	黒	黒	外一筋一赤			朱	Ⅰ	Ⅱ	
522	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤	朱+ベンガラ			Ⅰ	Ⅱ	
523	碗底片	ハンノキ	B	黒	黒	内外一筋一赤			朱	Ⅱ	Ⅱ	
524	碗底片	クサキ	A	赤	赤		朱		朱	V	V	右寄せ残像
525.1	散面のみ	—	—	赤	赤		朱			多層	多層	右寄せ残像
525.2	碗底片	トチノキ	A	—	黒					—	Ⅰ	
526	碗底片	トチノキ	A	赤	黒		朱			Ⅰ	Ⅰ	
527	碗底片	広敷花村	B	赤	黒	外一筋一赤	朱		不明	Ⅰ	Ⅱ	
528	碗底片	トチノキ	A	赤	黒	外一筋一赤	朱			Ⅰ	Ⅱ	
529.1	散面のみ	—	—	赤	—		朱			多層	—	
529.2	散面のみ	—	—	赤	黒	外一筋一赤	朱			朱	Ⅰ	Ⅱ
530	碗底片	トチノキ	B	赤	黒		朱			Ⅰ	Ⅰ	
531	碗底片	シイノキ	A	赤	黒	外一筋一赤	朱		朱	Ⅰ	Ⅱ	
532		トチノキ	A	赤	黒		朱			Ⅰ	Ⅰ	
533	散面のみ	—	—	赤	—					Ⅲ	—	
534	碗底片	トチノキ	B	黒	黒		朱			Ⅰ	Ⅰ	

No. は保存処理番号である。

第26表 勝川遺跡他出土漆器の調査結果

No.	器型	樹種	木取	表面装り技法			使用原料			漆塗構造		備考
				内	外	文様	内	外	文様	内	外	
536	碗	ホオノキ	A	赤	黒	外一筋一赤	朱		朱	Ⅰ	Ⅱ	
537		ヒノキ	—	黒	—					Ⅰ	—	
538	碗?	ブナ	B	赤	—		ベンガラ			Ⅰ	—	
539	碗底片	クルミ科	A	黒	黒					Ⅰ	Ⅰ	
540	碗	コナラ類	A	赤	黒	外一筋一赤	朱		朱	Ⅰ	Ⅱ	
541	碗底片	—	—	赤	赤		朱		朱	Ⅲ	Ⅳ	右寄せ残像

No. は保存処理番号である。

第27表 吉田城遺跡出土漆器の調査結果

No.	器型	樹種	本取	表面張り技法				使用原料				漆塗構造		備考	
				内	外	文	縁	内	外	文	縁	内	外		
274.1	碗底片	クリ	B	赤	黒			朱+ベンガラ					I	I	
274.2	碗底片	ブナ	B	赤	黒			ベンガラ					I	I	
275	碗底片	トチノキ	B	黒	黒		外一縁一黒				Ag	I	II		
276	碗	クリ	B	黒	黒							I	I		
277.1	碗底片	クリ	B	赤	黒			ベンガラ				I	I		
278	割懸銅板	ヒノキ	一	赤	赤			ベンガラ	ベンガラ			V	V		
279	割懸銅板	針葉樹	一	赤	赤			ベンガラ	ベンガラ			I	I		
280	割懸銅板	ヒノキ	一	黒	黒				ベンガラ			I	I		
281	碗	クリ	B	赤	黒			ベンガラ				I	I		
282	碗	トチノキ	A	赤	黒			ベンガラ				I	I		
283	蓋	トチノキ	A	赤	黒			ベンガラ				I	I		第114図2
284	蓋	トチノキ	A	赤	黒		外一縁一黒	ベンガラ			Ag	I	II		第114図1
285	碗	トチノキ	A	赤	黒		外一縁一赤	ベンガラ			ベンガラ	I	I		第114図3
286	碗底片	ブナ	B	赤	黒			ベンガラ				I	I		
287	割懸銅板	ヒノキ	一	赤	黒			ベンガラ				I	I		
288	漆	ウメ	A	黒	黒							I	I		第117図31
289	舟輪部分	ホオノキ	B	赤	黒			ベンガラ				I	I		
290	蓋	トチノキ	A	赤	黒		外一縁一黒	ベンガラ			Ag	I	II		津波江の赤黒117図30
291	蓋	トチノキ	A	赤	黒		外一縁一黒	ベンガラ			Ag	I	II		
292	碗	ブナ	B	赤	赤			ベンガラ	ベンガラ			I	I		第117図27
293	碗	ブナ	B	赤	黒			ベンガラ				I	I		第117図29
294	碗	トチノキ	A	赤	黒			ベンガラ				I	I		
295	ブナ底碗	ブナ	B	赤	黒			ベンガラ				I	I		第117図28
296	碗	ブナ	B	赤	黒			ベンガラ				I	I		
297	漆	ウメ	一	黒	黒		内外一縁一金				Au	II	II		第118図45
298	碗	トチノキ	A	赤	黒		外一縁一赤	ベンガラ			ベンガラ	I	II		第118図40
299	碗or皿	サクラ草	A	赤	黒			朱鉄礬				I	I		
300	碗	サクラ草	A	赤	黒			朱				I	I		第118図41
301	碗	クリ	B	赤	黒			ベンガラ				I	I		第118図43
302	碗底片	クリ	B	黒	黒							I	I		
303	碗底片	広葉孔材	B	赤	赤			朱	朱			I	I		第118図42
304	舟輪部分	ブナ	A	赤	黒			ベンガラ				I	I		第114図4
305	漆	ホオノキ	B	赤	黒			ベンガラ				I	I		第114図5
306	自由銅板	ヒノキ	一	黒	黒							I	I		第115図6
307	割懸銅板	針葉樹	一	黒	黒							I	I		
308	自由銅板	針葉樹	一	黒	黒							I	I		第117図34
277.2	碗底片	トチノキ	B	赤	黒			ベンガラ				I	I		

備考の図版番号は小嶋廣也編1995「吉田城遺跡II」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第59集による。

第28表 名古屋城三の丸遺跡出土漆器の調査結果(1)

No.	器型	製種	本取	表面装り技法				使用原料				漆塗精査	備考		
				内	外	文	縁	内	外	文	縁				
4	碗	キヤキ	A	黒	黒										
5	碗	ヅナ	B	赤	黒	外-絵-赤・金		ベンガラ			朱・As+S	I	II		布着せ精査第14816
6	碗	一	一	黒	黒							II	III		第14813
7	碗	トキノキ	A	赤	黒	外-絵-金・黄		ベンガラ			Au, As+S	V	VI		第14814
8	碗	カフウ	A	赤	黒	外-絵-赤・金		ベンガラ			ベンガラ, Au	I	II		第14812
9	碗	ヅナ	B	赤	黒	外-絵-赤・金		ベンガラ			ベンガラ, Au	I	II		第14815
10	皿	トキノキ	A	赤	黒	外-絵-赤・金		ベンガラ			ベンガラ, Au	I	II		第14811
300	陶器			茶	一										
310				赤	黒			ベンガラ				I	II		
311	碗	トキノキ	A	赤	黒	外-絵-赤		ベンガラ			ベンガラ	I	II		
312	陶胎蓋			一	黒	外-絵-赤					Au		VI		
313				赤	茶			ベンガラ				I	I		
314				一	黒	外-絵-赤					ベンガラ		II		
315				赤	赤			朱		朱		III	V+VI		
316				赤	黒			ベンガラ				I			
317				赤	赤			朱		朱		V	V		布着せ精査
318				赤	黒			ベンガラ				I	I		
319				赤	黒	外-絵-金		朱			Au	V	VI		
320				赤	黒	外-絵-赤		ベンガラ			ベンガラ	I	II		
321				黒									V		
322				黒									多明		
323				黒									III		
324				赤	黒			ベンガラ				I	I		
325	碗or皿			黒	黒	外-絵-赤					ベンガラ	X	多明		
326				赤	赤			朱		朱		多明	多明		
327	碗破片?			赤	黒			ベンガラ					III		
328	碗破片?			赤	黒			ベンガラ					III		
329	碗or皿			赤	黒	外-絵-赤		ベンガラ			ベンガラ	II	II		
330				赤	黒	外-絵-赤		ベンガラ			ベンガラ	I	II		
331				赤	黒			ベンガラ				I	I		
332.1				赤	黒	外-絵-赤・黄		ベンガラ			ベンガラ・As+S	I	II		
332.2				赤	黒			朱				V+V			
333	碗or皿破片	広巻孔村	C	一	黒									I	
334	碗or皿破片			赤				ベンガラ踏み				II			
335				黒	黒	外-絵-金					Au		多明		
336	皿	キヤキ	B	黒	黒							V	V		
337				赤	黒	外-絵-緑		ベンガラ			Ag	I	II		
338				赤	黒			朱				III	III		
339				赤	黒			朱				X	V		
340				赤	黒	外-絵-赤		ベンガラ			ベンガラ	I	II		
341				赤	黒	外-絵-金		ベンガラ			Au	X	V+V		
342				赤	黒	外-絵-黄		ベンガラ			Ag	I	II		
343				赤	黒	外-絵-赤		朱			朱	III	III		
344				赤	黒	外-絵-赤		朱				V	V		
345				赤				朱				多明			
346				赤	黒	外-絵-金・黄					Au・As+S		III		
347	陶胎漆器			黒								一	一		
348				赤	黒			ベンガラ				I	I		
349				赤	黒			ベンガラ				多明			
350				茶				ベンガラ				I			
351	碗or皿破片			赤	黒	外-絵-赤		朱		朱		III	III		
352	碗破片			赤	赤	内外-絵-黒金		ベンガラ踏み	ベンガラ踏み		Au	II	II		
353				赤	黒	外-絵-緑		朱			As+S能	II	II		
354				赤	黒	外-絵-赤		ベンガラ			朱	III	III		
355				赤	茶			ベンガラ				I	I		
356	碗or皿破片			赤	黒	外-絵-赤		ベンガラ			ベンガラ	I	II		
357				赤				朱				III			
358.1				赤	黒			ベンガラ				V			
358.2				赤	黒			ベンガラ				I			
359	碗or皿			赤	黒	外-絵-赤		ベンガラ			ベンガラ	I	II		
360	皿?	広巻樹村	B	赤	一	内-絵-金		朱			Au	多明			布着せ精査
361				赤	黒	外-絵-黒				朱			V+VI		
362				赤	黒	外-絵-赤		ベンガラ			朱	I	II		
363				赤				朱				III			
364				赤				ベンガラ				I			
365				赤				ベンガラ踏み				I			
366				黒									V		
367				赤	黒	外-絵-赤		ベンガラ			朱	X	X		
368				赤	黒			朱				多明	多明		
369				赤	黒			ベンガラ				I	I		
370				赤	黒	外-絵-赤		ベンガラ			ベンガラ	I	II		
371				赤	茶	外-絵-赤		ベンガラ			ベンガラ	I	II		
372				赤	黒			ベンガラ				I	I		

[名古屋城三の丸遺跡(III)] 所収分

第29表 名古屋城三の丸遺跡出土漆器の調査結果(2)

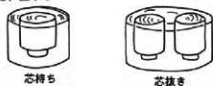
No.	器型	製種	本取	表面装り技法			使用原料			漆塗構造		備考
				内	外	文様	内	外	文様	内	外	
373				赤	茶	外-紅-赤	ベンガラ		ベンガラ	I	II	
374				赤	茶	外-紅-赤	ベンガラ		ベンガラ	I	-	
375				赤	茶	外-紅-赤	ベンガラ		ベンガラ	I	-	
376				赤	茶	外-紅-赤	ベンガラ		ベンガラ	I	II	
377	土師器											漆行着
378				赤	黒		ベンガラ			I	I	
379	栴藍			赤	黒	外-紅-黒	ベンガラ		Ag	I	II	
380	動物皮板			黒	黒					多層	多層	
381				赤	黒	外-紅-赤	ベンガラ		朱	I	II	
382				赤	黒		ベンガラ			I	I	
383				赤	黒	外-紅-赤	ベンガラ		朱	I	II	
384				赤			ベンガラ			I		
385				赤	黒	外-紅-赤	ベンガラ		ベンガラ	I	II	
386				赤	黒	外-紅-赤	ベンガラ		ベンガラ	I	II	
387				赤	黒	外-紅-赤・黄	ベンガラ		朱・AssS	I	II	
388.1				赤			ベンガラ			I		
388.2				黒	黒	外-紅-赤			朱		VI	
389				赤	黒	外-紅-赤	ベンガラ		ベンガラ	I	II	
390				赤	黒		ベンガラ			I	I	
391				赤	黒		ベンガラ			I	I	
392				赤	黒	外-紅-赤	ベンガラ		ベンガラ	I	II	
393				赤	黒	外-紅-黒	ベンガラ		Ag	I	II	
394				赤	黒		ベンガラ			I	I	
395				赤	黒	外-紅-黒	ベンガラ		Ag	I	II	
396				赤	黒		ベンガラ			I	II	
397	栴藍?	トチノキ	B	赤	黒	外-紅-黒	ベンガラ		Ag	I	II	
398	散面のみ			赤	黒		朱			多層		
399	椀			赤	黒		朱			II	X	
475				赤	黒		朱			III		
476				赤	黒		ベンガラ			I		
477	板瓦片	ヒノキ	-	黒	-					III		希少な層位
478.1	皿?			赤	黒	外-紅-黒・赤	ベンガラ		朱+ベンガラ	I	II	
478.2				黒							V	
479				赤	黒	外-紅-赤	ベンガラ		ベンガラ	I	II	
480				赤	黒		ベンガラ			I	I	
481				赤	黒	外-紅-黒	ベンガラ		Ag	I	II	
483				赤	黒	外-紅-赤・黄	ベンガラ		朱・AssS	I	II	
484				赤	黒		ベンガラ			I	II	
485				赤	黒		朱			V		
486				赤	黒	外-紅-赤	ベンガラ		朱	I	II	
487	動物皮片			赤	黒		ベンガラ			-		
488.1	板瓦片	スギ	-	黒	黒					I	I	
488.2				赤	黒	外-紅-黒	ベンガラ		Ag	I	II	
489	動物皮板	ヒノキ	-	黒	黒					多層	多層	
490.1				赤	黒	外-紅-赤	朱+ベンガラ		朱	I	II	
490.2				赤	赤		朱			V	V	
491	椀	カツラ	B	赤	茶	外-紅-赤・黄	ベンガラ		ベンガラ・AssS	I	II	
492				赤	茶		ベンガラ			I	I	
493				赤	黒		ベンガラ			I	I	
494				赤	茶	外-紅-赤	ベンガラ		朱+ベンガラ	I	II	
495				赤	赤	外-紅-黒	ベンガラ	ベンガラ		X	III	
496				黒							X	
497				赤	茶	外-紅-赤	ベンガラ		ベンガラ	I	II	
498				赤	茶	外-紅-黒	ベンガラ		Ag+AssS	I	II	
499				赤	黒		ベンガラ			V	V	
500				赤	黒		ベンガラ			I	I	
501				赤	黒		ベンガラ			I	I	
502				赤	茶	外-紅-黒	ベンガラ		Ag	I	II	
503				赤	茶	外-紅-黒	ベンガラ		Ag	I	II	
504	栴藍	ブナ	B	赤	黄	外-紅-黒	ベンガラ		Ag	I	II	
505				赤	黒	外-紅-赤	ベンガラ		ベンガラ	I	II	
506				赤	茶	外-紅-赤	ベンガラ		朱	I	II	
507	動物皮板	ヒノキ	-	黒	-					I		
508				赤	茶		ベンガラ			I	I	
509	栴藍?	トチノキ	A	赤	茶	外-紅-黒	ベンガラ		Ag	I	II	
510				赤	茶		朱+ベンガラ			X		
511				赤	茶		ベンガラ			V	V	
512	陶胎漆器			茶						I	I	
513				赤	茶		ベンガラ			I	I	
514	椀	針葉樹材		黒						I	I	
515	椀	ブナ	B	赤	黒	外-紅-赤	ベンガラ		ベンガラ	I	II	

備考の図版番号は金子健一編 1992「名古屋城三の丸遺跡(III)」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書による。

(1) 横木地



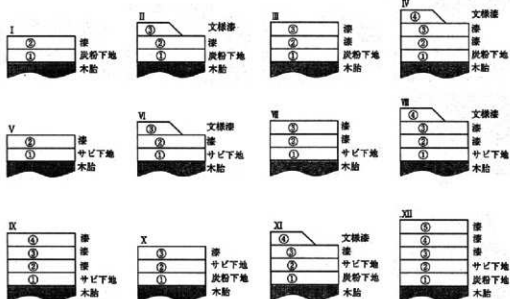
(2) 堅木地



1 横木地と堅木地の要領
(橋本鉄男『ろくろ ものと人間の文化史31』-1979-より原図引用)

2 近世会津木地師の木取りの方法
(須藤謙『日本人の生活と文化(木) 暮らしの中の木器』-1982-より原図引用)

第233図 近世以降の漆器(挽き物類)の木取り方法

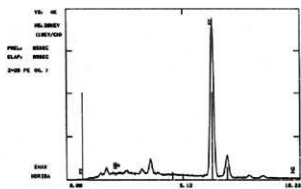


第234図 漆塗り構造の分類

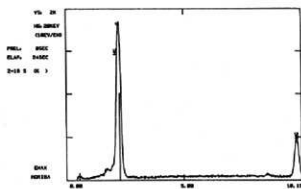
A 環孔材	a. ケヤキ系 ニレ、ケヤキ、シオジ、ハリギリ、クリ、ヤマグワなど	木目が明瞭に表れる。堅硬であるが韧性もあり、木皿など薄手の物に通ずる。
B 散孔材	b. サクラ、カエデ系 イタヤカエデその他のカエデ類、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、ミズメなど	白木で美しい光沢があり、白木地物にも適している。割れ狂いが少なく、やや堅さはあるが加工は容易。下地が少量で足りるので、塗り物にもっとも適する。
材	c. ブナ、トチノキ系 トチノキ、ブナ、ミズキ、カツラ、ホノノキなど	軟らかくて加工は容易であるが、乾燥が難しく狂いも多い。しかし、大量に入手できるので使用量は大きい。
	d. エゴノキ系 エゴノキ、アオハダなど	白い軽軟で加工が容易である。仕上げは見た目によく、彩色もし易いので、玩具、小物等に向いている。とくにエゴノキは大材を得られないが、入手が容易であり、割れにくいので使用に適する。

第30表 ろくろ挽き物の用材分類一覧表

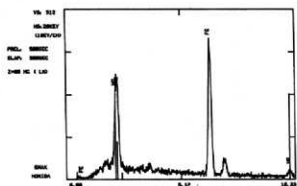
橋本鉄男『ろくろ ものと人間の文化史31』-1979-などを参考にして作成



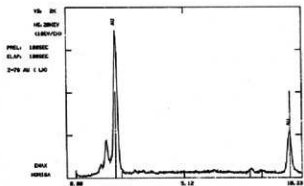
赤色系漆 ベンガラ (Pb₂O₃)



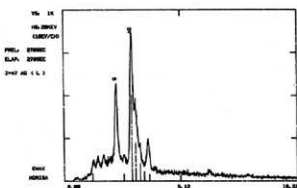
赤色系漆 朱 (HgS)



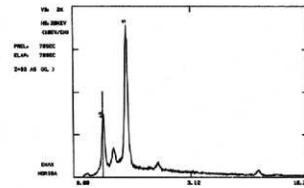
赤色系漆 朱+ベンガラ (HgS+Fe)



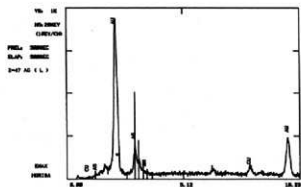
蒔絵加飾 (金彩) 金 (Au)



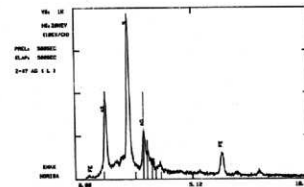
蒔絵加飾 (銀彩) 銀 (Ag)



蒔絵加飾 (金彩) 石黄 (As₂S₃)



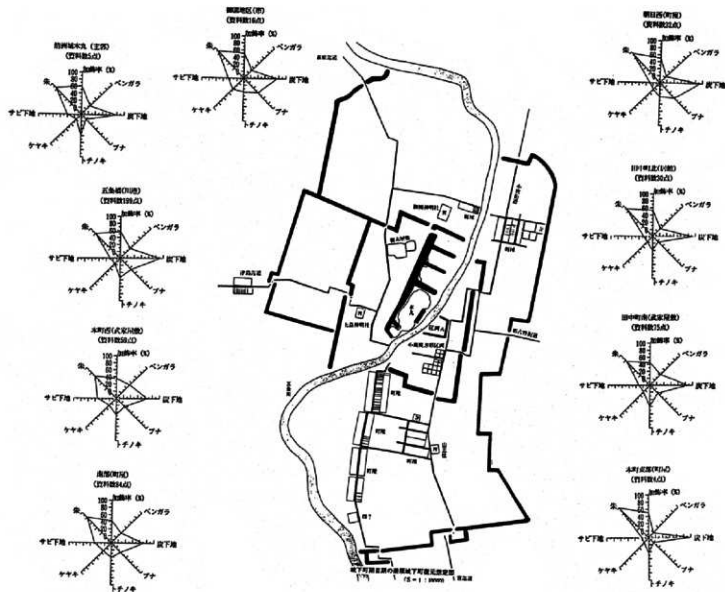
蒔絵加飾 (金彩) 金+銀 (Au+Ag)



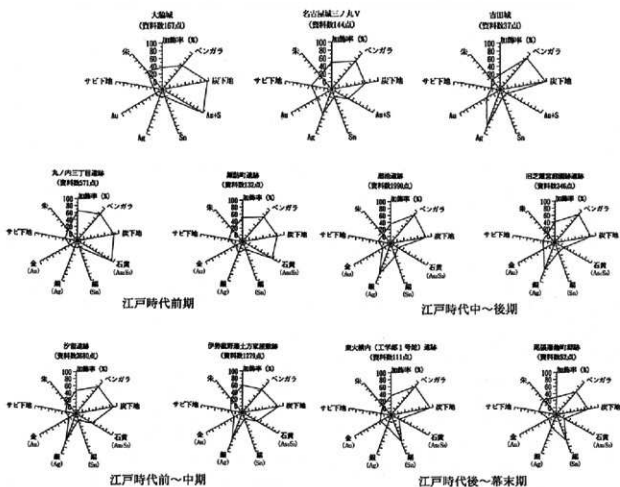
蒔絵加飾 (金彩) 銀+石黄 (Ag+As₂S₃)

第 235 図 電子線マイクロアナライザー (EPMA) の分析結果

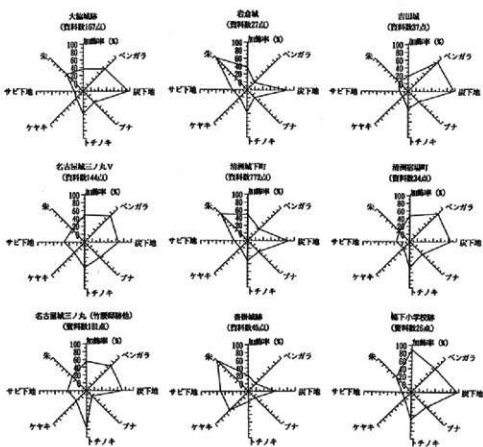
(図6) 本資料を含む各遺跡別の一括出土土漆器資料の組成 (集計例)



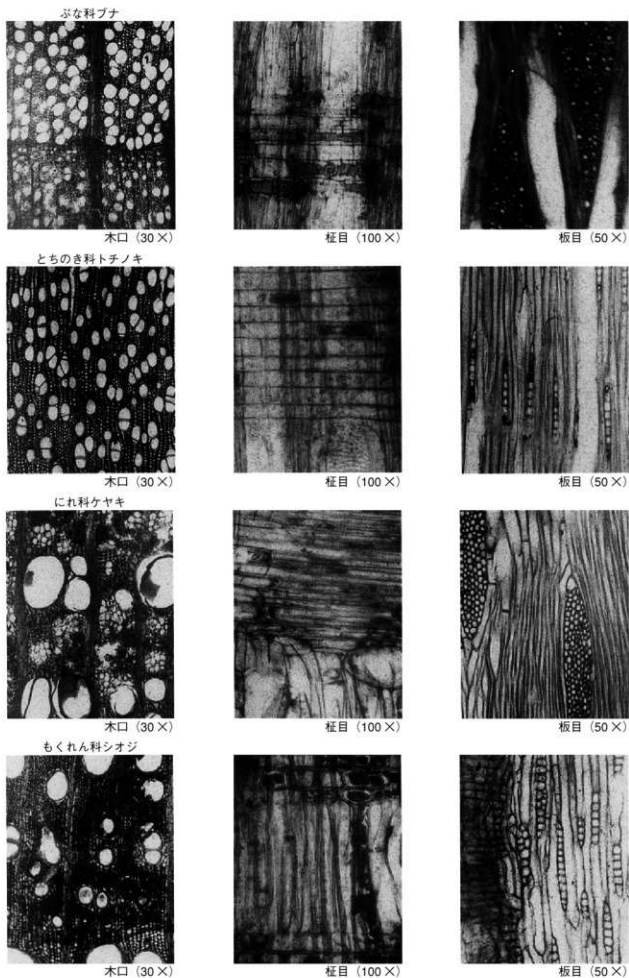
第 236 図 清洲城下町遺跡の地区別出土土漆器資料の組成 (集計例)



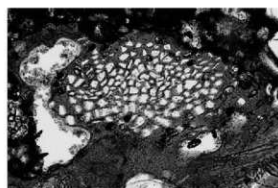
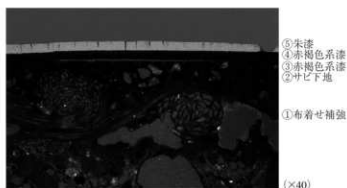
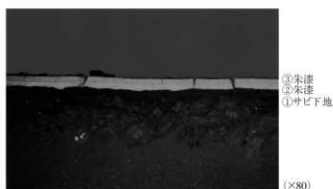
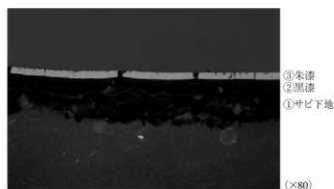
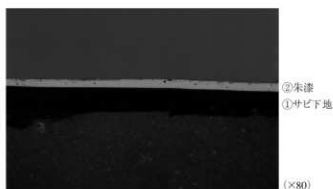
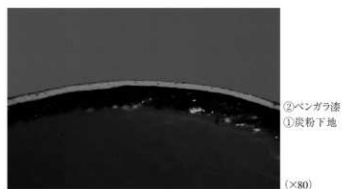
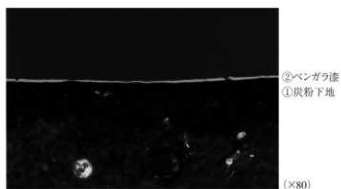
第 237 図 各遺跡における年代別の蒔絵粉材料の変遷 (集計例)



第 238 図 本資料を含む各遺跡別の一括出土漆器資料の組成 (集計例)



第 239 図 代表的な樹種の顕微鏡写真



第 240 図 赤色系漆（根来系漆器）の漆塗り構造（断面観察写真）

(Ⅲ) 清須城出土瓦の胎土分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

清須城出土瓦の胎土分析は、これまでに軒瓦を中心に70点の試料について行われており、一部の瓦当紋様分類と胎土との間に対応関係のあることが明らかにされている(鈴木編1997)。これにより、清須城の普請に際しては複数の瓦工人が動員された可能性があるという所見が出されている。

今回の報告では、前回の試料が出土した調査区に隣接する調査区から出土した瓦を試料として分析を行い、前回の試料との間で胎土の差異について検討する。発掘調査所見では、今回対象とした調査区から出土した軒瓦の紋様の組成は、前回の調査区から出土した軒瓦のそれとは異なっていることが判明しつつあり、このことからそれぞれの調査区から出土した瓦は、互いに異なる建物に使用されていた可能性があると考えられている。本分析では、瓦の胎土の様相を明らかにすることによって、この所見に対する検討資料を作成するものである。

1. 試料

試料は、96区から出土した軒瓦56点である。96区は前回の試料が出土した94A区の南東に接する部分で、清須城本丸の東側に相当する。発掘調査では石垣遺構が確認され、石垣の前面から大量の瓦が出土している。これらの瓦は出土状態から、16世紀末～17世紀初頭の清須城主郭に用いられた瓦であると考えられている。

今回の試料56点には試料番号1～56までが付されているが、そのうち試料番号1～25は軒丸瓦、試料番号26～56は軒平瓦である。各試料の分類型式、出土地点などは、分析結果を呈示した図1に併記する。

2. 分析方法

前回の分析では、胎土中の砂分の重鉱物組成を胎土の特徴とする重鉱物分析を行った。本分析でも、この方法に従う。処理方法は以下の通りである。

土器片をアルミナ製乳鉢を用いて粉砕し、水を加え超音波洗浄装置により分散、#250の分析篩により水洗、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた1/4mm～1/8mmの粒子をポリタンクステン酸ナトリウム(比重約2.96)により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて同定した。同定の際、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものを不透明鉱物とし、それ以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とした。鉱物の同定粒数は250個を目標とし、その粒数%を算出し、グラフに示す。グラフでは、同定粒数が100個未満の試料については粒数%を求めず主に産出鉱物を呈示するにとどめる。

3. 結果

(1) 胎土の分類

分析結果を第31表および第241図に示す。前回の分析では、斜方輝石の多い胎土A類と角閃石の多い

胎土B類とに2分したが、今回の結果でも、その分類は適用できる。ここではa類とb類とする。さらに、今回は、それぞれの胎土で少量の鉱物の種類と組成から、以下のような細分を試みた。

1) a1類

斜方輝石が多く、少量の単斜輝石を伴う。試料によっては微量のジルコンが含まれる。

2) a2類

a1類の組成に加えて微量の角閃石を伴う。

3) a3類

a2類に比べて角閃石の量比がやや高く、単斜輝石とはほぼ同量程度含まれる。

4) a4類

a3類に比べて単斜輝石は微量となり、単斜輝石に対する角閃石の量比が比較的高い。

5) a5類

斜方輝石と角閃石が同量程度に多く、少量の単斜輝石を伴う。

6) b1類

角閃石が多く、少量の斜方輝石、黒雲母、ジルコンを伴う。

7) b2類

b1類の組成に加えて、少量または微量のザクロ石を含む。

8) b3類

b2類の組成からジルコンがほとんど含まれない組成。

各試料の胎土分類結果については、第241図に併記する。

(2) 型式と胎土との対応関係

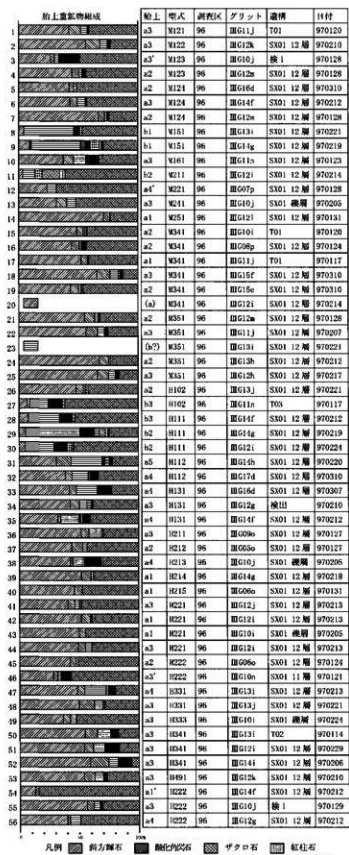
各型式ごとに上記の胎土分類を対応させた表を第32表に作成した。この表には、前回の94A区試料の分析結果から、今回と同様の基準で胎土を分類した結果も記載した。この表より、今回の試料においてもa類の胎土が圧倒的に多いことは前回と変わりはない。また、b類の胎土は、軒丸瓦のM151型式、M211

第31表 重鉱物分析結果

試料番号	カンラン石	斜方輝石	角閃石	黒雲母	ジルコン	ザクロ石	磁鉄石	電気石	不透明鉱物	その他	合計				
1	0	106	25	13	0	0	0	0	0	4	102	250			
2	1	141	30	15	0	0	2	0	0	0	6	35	250		
3	0	67	8	10	0	0	1	0	0	0	43	121	250		
4	0	112	15	8	0	0	2	1	0	0	11	155	250		
5	0	106	10	6	0	0	0	0	0	1	1	126	250		
6	0	108	15	17	0	0	1	0	0	0	3	106	250		
7	0	167	13	5	0	0	0	0	0	0	5	60	250		
8	0	11	1	105	0	13	5	1	0	0	0	1	113	250	
9	0	23	3	104	11	9	20	2	2	4	0	4	68	250	
10	0	94	21	26	4	0	3	1	0	0	1	20	80	250	
11	0	5	0	15	0	0	10	22	0	4	3	0	91	150	
12	0	60	2	19	1	0	0	1	0	0	1	0	166	250	
13	0	79	22	19	0	0	0	0	0	0	0	0	130	250	
14	0	178	13	0	0	1	1	0	0	0	0	2	35	250	
15	0	122	13	3	0	0	5	0	0	0	0	0	107	250	
16	0	111	16	5	0	0	2	0	0	0	0	0	10	106	250
17	0	131	13	1	0	0	3	0	0	0	0	0	102	250	
18	0	164	27	18	0	0	4	0	0	0	0	5	32	250	
19	0	108	17	8	0	0	4	0	0	0	0	0	113	250	
20	0	50	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	29	86	
21	0	138	21	8	0	0	3	0	0	0	0	0	80	250	
22	0	141	24	15	0	0	0	0	0	0	0	7	63	250	
23	0	12	0	4	0	1	1	1	0	0	0	0	4	12	
24	0	169	19	3	0	0	2	8	0	0	0	0	2	53	250
25	0	165	23	14	0	0	0	0	0	0	0	0	8	40	250
26	0	120	15	4	0	0	6	2	0	0	1	1	101	250	
27	0	8	3	19	0	14	0	3	0	0	0	0	75	122	
28	0	19	0	66	26	2	7	0	0	0	0	0	10	250	
29	0	13	0	115	0	29	11	13	2	5	3	0	58	250	
30	0	12	0	61	0	27	10	4	0	1	1	2	132	250	
31	0	78	31	65	2	5	0	10	2	0	0	6	51	250	
32	0	97	14	34	2	0	4	0	0	0	2	17	80	250	
33	0	105	15	44	0	9	2	0	2	1	1	20	51	250	
34	0	107	19	16	0	0	9	0	0	1	0	4	94	250	
35	0	81	6	38	0	4	3	0	0	1	1	17	99	250	
36	0	130	16	27	0	1	3	0	0	0	1	72	250		
37	0	110	23	9	0	2	2	0	0	0	0	0	104	250	
38	0	107	5	22	0	2	3	0	0	1	0	34	76	250	
39	0	130	20	1	0	0	6	0	0	0	0	1	90	250	
40	0	115	17	0	0	2	1	0	0	0	0	0	115	250	
41	0	102	14	10	0	0	2	0	0	0	4	0	118	250	
42	0	136	19	1	0	0	3	0	0	0	0	1	96	250	
43	0	125	13	2	0	0	0	0	0	0	0	0	115	250	
44	0	123	15	14	0	0	0	0	0	0	0	0	98	250	
45	0	106	12	5	0	0	2	0	1	0	0	1	123	250	
46	0	71	9	7	2	0	3	0	0	2	18	138	250		
47	0	121	15	45	0	0	4	0	0	0	2	16	47	250	
48	0	125	31	18	0	0	4	0	0	0	0	2	70	250	
49	0	91	15	13	0	0	2	0	0	0	0	1	128	250	
50	0	137	25	28	0	1	0	0	0	0	0	17	42	250	
51	0	135	19	24	0	1	0	0	2	0	0	30	39	250	
52	0	148	38	20	0	0	0	0	1	0	0	28	15	250	
53	0	135	22	18	0	0	1	1	0	1	0	8	64	250	
54	0	32	7	1	0	0	2	0	0	0	0	0	208	250	
55	0	141	14	13	1	0	0	0	0	0	0	5	78	250	
56	0	100	5	22	0	1	0	0	0	0	0	0	122	250	

型式、軒平瓦のH102型式およびH111型式にのみ認められる。これらの型式のうち、M151型式およびH111型式は、ともに前回の分析でもb類の胎土である。

細分した胎土a類と瓦の型式との間では、個々の



第241図 胎土重鉱物組成

型式の試料数が少ないこともあり、特に明瞭な対応関係は認められない。すなわち、一つの型式の中に複数種の胎土が混在している状況が認められる。このことは、細分したb類の胎土においても同様である。

(3) 96区出土試料と94A区出土試料との比較

第32表に示したように、いずれの型式も複数種の胎土が混在しており、96区試料と94A区試料とが全く重なることはなく、一部に共通し

た胎土が認められるという状況である。その中で、M121、M211、H112、H221、H331の各型式においては、96区試料と94A区試料とで重なる胎土が認められない。

4. 考察

結果の項で述べたように、96区試料と94A区試料との間に特に明瞭な胎土の差異は認められない。また、上述したようにいくつかの型式においては、両区で異なる胎土を示す型式も存在するが、これらにしても試料数を増やした場合に、共通する胎土が見出される可能性がある。すなわち、胎土分析結果からは、紋様から推定されるほどの両区の違いを指摘することはできない。考古学的所見により瓦の使用された建物が異なっていたとしても、おそらく瓦の

第32表 瓦の型式と胎土

種類	大きさ	型式	a1	a2	a3	a4	a5	b1	b2	b3	Z
軒丸瓦	大型	M121			●○G	○					
		M122	○	○	●○	○					
		M123	○	●	●						
		M124		●●	●						
		M151						●●	●○		
	中型	M161			●○						
		M211							●		
		M221		○		●○					○
		M241		○	●○						
		M251	●								
小型	M341	●	●●●	●○							
	M351			●○							
軒平瓦	大型	H102		●○	○						●
		H111			○			○	●●○	○	
		H112		○			●				
		H131		○		●●	●				
		H211	○		●		○				
	中型	H212		●							
		H213		○		●○					
		H214	●								
		H215	●●								
		H221	●●		●●			○			
	小型	H222		●	●○						
		H331	○	○	●		●				
		H333			●						
		H341		○	●●●○						
		H491		○	●○						
H222	●		●								

a1-Zは胎土の分類（Zは今回の分析では認められなかったジルコンの多い組成）
●：96区出土試料 ○：94A区出土試料 G（a3類の組成にザクロ石が加わった組成）

生産供給体制は変わらなかったことを今回の分析結果は示唆している。

なお、a類の胎土は、以前の報告でも述べたように、尾張地域で生産されたことを示す「兩碑石型」に相当する。これまで清須域における瓦の生産供給地の主体が尾張地域にあるという見解は、今回の分析結果においても変わらない。ただし、今回細分した各胎土が、それぞれ尾張地域内での産地の違いを示すものかあるいは、瓦工人の違いを示すものであるかについては、現時点では判断できない。

一方、前回の報告において西三河地域で作られた可能性が高いとしたb類の胎土は、今回の試料でも前回と同様の型式に認められたが、今回は、さらに別の型式（M211、H102）でも認められている。b類の胎土を持つ瓦の存在は、清須域の普請に際して複

数の技術だけではなく、西三河地域の材料あるいは西三河地域の製品も使用されたことを示唆しており、当時の様相を考える際の重要なポイントとなる。今回の分析により、b類の胎土は、複数の型式において認められ、しかも、これらの型式は、HI02型式ではa類とb類、M211型式ではb類とZ類というように他の胎土との混在が認められることも判明した。したがって、分析例の増加によっては、また異なる瓦生産供給の様相が推定される可能性はある。今後はさらに、瓦の時期の変遷と胎土との対応関係を探るなど、清須城の普請に関わる瓦の生産供給体制の時期的な変化についても検討する必要がある。

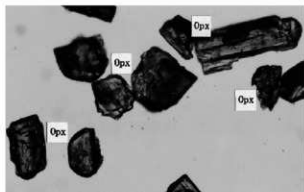
引用文献

鈴木正貴編 1997『清洲城下町遺跡Ⅵ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第70集

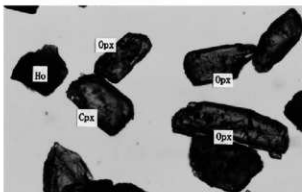
第33表 重鉍物分析試料一覧

番号	型式	調査区	デリッド	産地	日付	分析重量
1	M121	96	ⅡG11j	T01	970120	32.3
2	M122	96	ⅡG12k	SX01 2層	970210	75.3
3	M123	96	ⅡG16j	Ⅱ上	970128	31.4
4	M123	96	ⅡG12m	SX01 2層	970128	34.7
5	M124	96	ⅡG16d	SX01 2層	970110	37.7
6	M124	96	ⅡG14f	SX01 2層	970212	36
7	M124	96	ⅡG12m	SX01 2層	970128	69.3
8	M151	96	ⅡG13i	SX01 2層	970221	52.8
9	M151	96	ⅡG14g	SX01 2層	970219	73.1
10	M161	96	ⅡG11a	SX01 2層	970123	49.7
11	M211	96	ⅡG12i	SX01 2層	970214	31.8
12	M211	96	ⅡG07p	SX01 2層	970128	41.2
13	M241	96	ⅡG10j	SX01 2層	970205	36.9
14	M251	96	ⅡG12i	SX01 2層	970131	40.2
15	M341	96	ⅡG18k	T01	970120	75.9
16	M341	96	ⅡG08p	SX01 2層	970124	48
17	M341	96	ⅡG11j	T01	970117	46
18	M341	96	ⅡG15f	SX01 2層	970310	41.3
19	M341	96	ⅡG15e	SX01 2層	970310	54.2
20	M441	96	ⅡG12i	SX01 2層	970214	8
21	M151	96	ⅡG12m	SX01 2層	970128	43.5
22	M151	96	ⅡG11j	SX01 2層	970207	41.1
23	M151	96	ⅡG13i	SX01 2層	970221	4.5
24	M151	96	ⅡG13b	SX01 2層	970212	48.1
25	M151	96	ⅡG12b	SX01 2層	970217	54.8
26	HI02	96	ⅡG13j	SX01 2層	970221	39.4
27	HI02	96	ⅡG11a	T01	970117	36
28	HI11	96	ⅡG14f	SX01 2層	970212	37.4
29	HI11	96	ⅡG14g	SX01 2層	970219	41.5
30	HI11	96	ⅡG12i	SX01 2層	970224	40.4
31	HI12	96	ⅡG14b	SX01 2層	970220	45
32	HI12	96	ⅡG17d	SX01 2層	970110	57.7
33	HI31	96	ⅡG16d	SX01 2層	970307	59.9
34	HI31	96	ⅡG12g	検出	970210	46.6
35	HI31	96	ⅡG14f	SX01 2層	970212	58.9
36	H211	96	ⅡG08o	SX01 2層	970127	54.2
37	H212	96	ⅡG06o	SX01 2層	970127	32.2
38	H213	96	ⅡG10j	SX01 2層	970205	35.3
39	H214	96	ⅡG14g	SX01 2層	970218	64.1
40	H215	96	ⅡG06o	SX01 2層	970131	75.8
41	H221	96	ⅡG12j	SX01 2層	970213	35.8
42	H221	96	ⅡG12i	SX01 2層	970213	34
43	H221	96	ⅡG18k	SX01 2層	970205	64.7
44	H221	96	ⅡG12i	SX01 2層	970213	45.2
45	H222	96	ⅡG06o	SX01 2層	970124	34.5
46	H222	96	ⅡG10h	SX01 1層	970121	42.9
47	H331	96	ⅡG13i	SX01 2層	970213	41.2
48	H331	96	ⅡG13j	SX01 2層	970221	37.4
49	H333	96	ⅡG18k	SX01 2層	970224	40.7
50	H341	96	ⅡG13i	T02	970114	50
51	H341	96	ⅡG12i	SX01 2層	970229	45.3
52	H341	96	ⅡG14i	SX01 2層	970206	36
53	H491	96	ⅡG12k	SX01 2層	970210	57.1
54	H222	96	ⅡG14f	SX01 2層	970212	32.9
55	H222	96	ⅡG10j	Ⅱ上	970129	40.8
56	H222	96	ⅡG12g	SX01 2層	970212	34.7

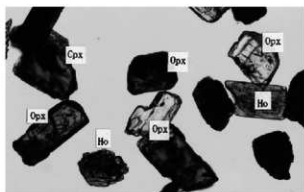
第 242 図 胎土中の重鉱物



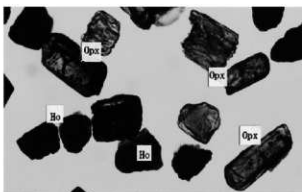
1.a1 類 (14; M251 96 III G12l SX01 12 層)



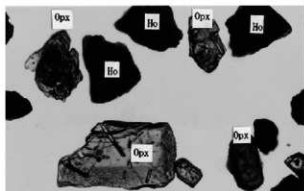
2.a2 類 (24; M351 96 III G13h SX01 12 層)



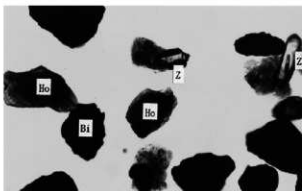
3.a3 類 (50; H341 96 III G13i T02)



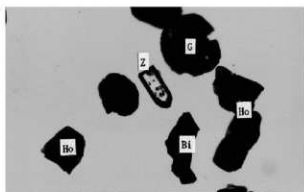
4.a4 類 (33; H131 96 III G16d SX01 12 層)



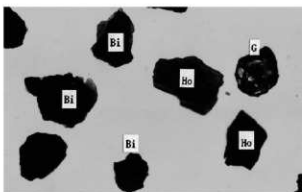
5.a5 類 (31; H112 96 III G14h SX01 12 層)



6.b1 類 (9; M151 96 III G14g SX01 12 層)



7.b2 類 (29; H111 96 III G14g SX01 12 層)
Opx: 斜方輝石, Cpx: 単斜輝石, Ho: 角閃石,
Bi: 黒雲母, Z: ジルコン, G: ザクロ石.



8.b3 類 (28; H111 96 III G14f SX01 12 層)

0.5mm

(IV) 清洲城下町遺跡出土瓦の胎土・金箔分析

— X線回折試験及び化学分析試験 —

(株) 第四紀 地質研究所 井上 巖

1. 実験条件

1-1 試料

分析に供した試料は第34表胎土性状表に示す通りである。X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉砕し、粉末試料として実験に供した。化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

1-2 X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製JDX-8020X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。Target:Cu, Filter:Ni, Voltage:40kV, Current:30mA, ステップ角度:0.02° 計測時間:0.5秒

1-3 化学分析

元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧:15kV、分析法:スプリント法、分析倍率:200倍、分析有効時間:100秒、分析指定元素10元素で行った。

2. X線回折試験結果の取扱い

実験結果は第34表胎土性状表に示す通りである。第34表右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示されており、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。X線回折試験

結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に見える各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。電子顕微鏡によって得られたガラス量とX線回折試験で得られたムライト (Mullite)、クリストバライト (Cristobalite)等の組成上の割合とによって焼成ランクを決定した。

2-1 組成分類

1) Mont-Mica-Hb三角ダイアグラム

第243図に示すように三角ダイアグラムを1~13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。Mont, Mica, Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として14にいれ、別に検討した。三角ダイアグラムはモンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb)のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント (%)で表示する。モンモリロナイトは $\text{Mont}/(\text{Mont}+\text{Mica}+\text{Hb}) \times 100$ でパーセントとして求め、同様にMica, Hbも計算し、三角ダイアグラムに記載する。三角ダイアグラム内の1~4はMont, Mica, Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。位置分類についての基本原則は第243図に示す通りである。

2) Mont-Ch, Mica-Hb菱形ダイアグラム

第244図に示すように菱形ダイアグラムを1~19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。モンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb)、緑泥石 (Ch)の内、a)

3成分以上含まれない、b) Mont, Chの2成分が含まれない、c) Mica, Hbの2成分が含まれない、の3例がある。菱形ダイアグラムはMont-Ch, Mica-Hbの組合せを表示するものである。Mont-Ch, Mica-HbのそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、Mont/Mont+Ch*100と計算し、Mica, Hb, Chも各々同様に計算し、記載する。菱形ダイアグラム内にある1-7はMont, Mica, Hb, Chの4成分を含み、各辺はMont, Mica, Hb, Chのうち3成分、各頂点は2成分を含んでいることを示す。位置分類についての基本原則は第244図に示すとおりである。

2-2 焼成ランク

焼成ランクの区分はX線回折試験による鉱物組成と、電子顕微鏡観察によるガラス量によって行った。ムライト (Mullite) は、磁器、陶器など高温で焼かれた状態で初めて生成する鉱物であり、クリストバライト (Cristobalite) はムライトより低い温度、ガラスはクリストバライトより更に低い温度で生成する。これらの事実に基づき、X線回折試験結果と電子顕微鏡観察結果から、土器胎土の焼成ランクをI~Vの5段階に区分した。

- 焼成ランクⅠ：ムライトが多く生成し、ガラスの単位面積が広く、ガラスは発砲している。
- 焼成ランクⅡ：ムライトとクリストバライトが共存し、ガラスは短冊状になり、面積は狭くなる。
- 焼成ランクⅢ：ガラスのなかにクリストバライトが生成し、ガラスの単位面積が狭く、葉状断面をし、ガラスのつながりに欠ける。
- 焼成ランクⅣ：ガラスのみが生成し、原土（素地土）の組織をかなり残している。ガラスは微少な葉状を呈する。
- 焼成ランクⅤ：原土に近い組織を有し、ガラスは殆どできていない。

以上のI~Vの分類は原則であるが、胎土の材質、すなわち、粘土の良悪によってガラスの生成量は異

なるので、電子顕微鏡によるガラス量も分類に大きな比重を占める。このため、ムライト、クリストバライトなどの組合せとよく異なる焼成ランクが出現することになるが、この点については第1表の右端の備考に理由を記した。

3. X線回折試験結果

3-1 タイプ分類

第34表胎土性状表には清洲城下町遺跡出土の瓦を記載してある。この結果に基づいて第3表タイプ分類一覧表を作成した。第36表に示すように瓦の胎土はAタイプだけである。

Aタイプ：Mont, Mica, Hb, Chの4成分に欠ける。焼成温度が低い瓦は $n\text{Al}_2\text{O}_3 \cdot m\text{SiO}_2 \cdot l\text{H}_2\text{O}$ （アロフェン質ゲル）で構成される。高温で焼成された瓦は鉱物が熱により分解し、ガラスに変質しているために4成分が検出されない。

焼成温度が低い瓦（ムライトとクリストバライトが検出されない）はMont, Mica, Hb, Chの4成分が検出されないことから推察して、高温で焼成された瓦も同じ胎土であろう。

3-2 石英 (Qt) - 斜長石 (Pl) の相関について

土器胎土中に含まれる砂の胎土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作ると言うことは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地の砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。第245図Qt-Pl図に示すようにI~IVの4グループに分類された。

Iグループ：軒丸瓦が集中する。

IIグループ：飾瓦と鬼瓦が集中する。

Ⅲグループ：軒平瓦が集中し、16の鬼瓦が混在する。

Ⅳグループ：軒丸瓦が集中する。

軒丸瓦は2タイプ、軒平瓦は1、飾瓦と鯉瓦で1タイプ、鬼瓦-16は軒平瓦と同じグループ、軒平瓦-9は軒丸瓦と同じグループに入り、この2個は異質である。

4. 化学分析結果

第35表化学分析表に示すように、清洲城下町遺跡の瓦を化学分析した。分類結果に基づいて第246図SiO₂-Al₂O₃図、第247図Fe₂O₃-MgO図、第248図K₂O-CaO図を作成した。

4-1 SiO₂-Al₂O₃の相関について

第246図SiO₂-Al₂O₃図に示すようにIとⅡの2グループに分類される。Iグループには軒丸瓦の1と2、Ⅱグループにはこの2個を除く軒丸瓦、軒平瓦、飾瓦と鬼瓦が集中する。このことは石英(Qt)と斜長石(P1)の相関では4グループに分類されたが胎土の主体である粘土の組成は2タイプしかないということである。その大半はⅡグループに属し、素地土と同じで混和材としての砂の混合率が異なることを意味している。

4-2 Fe₂O₃-MgOの相関について

第247図Fe₂O₃-MgO図に示すように、SiO₂-Al₂O₃の相関と同様にIとⅡの2グループに分類される。Iグループには軒丸瓦、軒平瓦、飾瓦、鬼瓦の大半が集まり、Ⅱグループには軒丸瓦の1と2が集中する。

4-3 K₂O-CaOの相関について

第248図K₂O-CaO図に示すように、IとⅡの2グループに分類される。Iグループには軒丸瓦の1と2、Ⅱグループにはこの2個を除く軒丸瓦、軒平瓦、飾瓦と鬼瓦が集中する。軒平瓦の10はK₂Oの値が高くいくぶん異質に見える。

5. 瓦の金箔の化学分析

第35表化学分析表には瓦の金箔の分析値がのって

いる。分析値に基づいて第249図Au-Ag図を作成した。金(Au)と銀(Ag)の比率は第7図に示すように直線的であり、金にたいして銀を混入する比率はランダムではなく一定の比率で行われていることがわかる。最も金の含有量が高いものは金100%であり、6、12、

14の3個が該当する。金が88~100%の領域にはほとんどの瓦が含まれる。銀の含有率が高くなるにしたがっていくぶんすんだ金色となり、100%に向かって黄金色が強くなるものであろう。軒丸瓦の3は銀が20%近く含まれており、いくぶん品質が低い。軒平瓦の8は15%の銀と15%の鉛(Pb)を混入した低品位のものである。

6. まとめ

1) 瓦の胎土はAタイプだけである。低温で焼成されたものと高温で焼成されたものがともに同じタイプをしており、基本的にはMont, Mica, Hb, Chの4成分を含まない粘土を使用しているものであろう。

2) X線回折試験に基づくQt-P1相関では軒平瓦、飾瓦は1つのグループに集中し、軒丸瓦は2グループに分かれて分布する。鬼瓦は軒平瓦と同じグループに属し、関連性が何われる。軒丸瓦1と2は明らかに異なるグループを形成し、異質である。

3) 化学分析結果では軒丸瓦の1と2を除く軒丸瓦、軒平瓦、飾瓦・鬼瓦は粘土成分が同じで1つのグループに属し、砂の混同比による分類はいくぶん異なる。基本となる粘土は同じで砂の混合比を変えて軒丸瓦、軒平瓦、飾瓦を製作していることになる。

4) 瓦の金箔の分析では金と銀の混同比には一定の比率があり、その関係は直線的である。銀が10~0%すなわち金が90~100%の範囲にあるものがほとんどである。軒平瓦の10は鉛15%、銀15%の低品位の金箔で、軒丸瓦3は銀を20%含む低品位の金箔である。このように見てくると金箔には多くの種類があることがわかる。

第35表 化学分析表

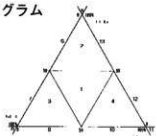
試料番号	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	No	Total	備 考
清洲城下町-1	0.77	0.28	25.00	61.82	2.69	0.72	0.86	0.19	5.58	0.08	99.99	軒丸瓦 (金箔) M151形式
清洲城下町-2	1.07	0.47	25.62	61.26	2.82	0.86	0.63	0.39	6.87	0.00	99.99	軒丸瓦 (金箔) M152形式
清洲城下町-3	0.12	0.47	24.28	65.60	3.00	0.17	1.11	0.00	5.05	0.39	99.99	軒丸瓦 (金箔) M122a形式
清洲城下町-4	0.27	0.31	22.62	68.92	2.93	0.00	0.75	0.00	4.05	0.15	100.00	軒丸瓦 (金箔) M161形式
清洲城下町-5	0.16	0.28	24.70	66.13	3.25	0.11	0.97	0.20	3.97	0.22	99.99	軒丸瓦 (金箔) 新形式
清洲城下町-6	0.26	0.51	25.33	65.55	2.68	0.22	0.93	0.00	4.52	0.01	100.01	軒丸瓦 (金箔) 不明形式 (鳥糞瓦)
清洲城下町-7	1.07	0.33	23.56	66.72	3.19	0.38	0.82	0.00	3.85	0.08	100.00	H102b形式
清洲城下町-8	0.23	0.14	24.86	66.70	2.11	0.14	1.07	0.05	4.70	0.00	100.00	軒平瓦 (金箔) H101形式
清洲城下町-9	0.36	0.22	22.74	68.99	3.25	0.16	0.68	0.00	3.60	0.00	100.00	軒平瓦 (金箔) H112形式
清洲城下町-10	0.39	0.34	24.17	64.29	5.49	0.20	0.75	0.00	4.08	0.31	100.02	軒平瓦 (金箔) H213形式
清洲城下町-11	0.23	0.50	25.58	64.09	2.91	0.18	0.88	0.10	4.64	0.28	99.99	軒平瓦 (金箔) H214形式
清洲城下町-12	0.21	0.50	26.48	62.98	3.32	0.16	0.74	0.22	5.58	0.00	99.99	軒平瓦 (金箔) H3337形式
清洲城下町-13	0.47	0.40	22.80	66.24	3.06	0.22	0.97	0.26	5.58	0.00	100.00	飾瓦 (金箔) A1型
清洲城下町-14	0.58	0.25	22.04	69.18	3.46	0.21	0.69	0.19	3.25	0.14	99.99	飾瓦 (金箔) A4型
清洲城下町-15	0.57	0.30	26.09	66.72	2.94	0.00	0.78	0.00	2.99	0.00	99.99	飾瓦 (金箔) A5型
清洲城下町-16	0.23	0.62	24.07	65.06	2.93	0.11	0.94	0.15	5.54	0.38	100.01	鬼瓦 (金箔)
清洲城下町-17	0.00	0.40	23.98	66.84	2.50	0.00	0.89	0.01	4.86	0.52	100.00	鯉瓦 (金箔)
	Ag	Au	Hg	Pb								
清洲城下町-1	6.67	93.33	0.00	0.00					100.00			軒丸瓦 (金箔) M151形式
清洲城下町-2	2.52	97.48	0.00	0.00					100.00			軒丸瓦 (金箔) M152形式
清洲城下町-3	19.47	80.53	0.00	0.00					100.00			軒丸瓦 (金箔) M122a形式
清洲城下町-4	5.87	94.13	0.00	0.00					100.00			軒丸瓦 (金箔) M161形式
清洲城下町-5	9.92	90.08	0.00	0.00					100.00			軒丸瓦 (金箔) 新形式
清洲城下町-6	0.00	100.00	0.00	0.00					100.00			軒丸瓦 (金箔) 不明形式 (鳥糞瓦)
清洲城下町-7	4.72	95.28	0.00	0.00					100.00			軒平瓦 (金箔) H101形式
清洲城下町-8	15.33	84.67	0.00	15.50					100.00			軒平瓦 (金箔) H112形式
清洲城下町-9	4.88	95.12	0.00	0.00					100.00			軒平瓦 (金箔) H12形式
清洲城下町-10	11.58	88.42	0.00	0.00					100.00			軒平瓦 (金箔) H213形式
清洲城下町-11	0.00	99.01	0.00	0.99					100.00			軒平瓦 (金箔) H214形式
清洲城下町-12	0.00	100.00	0.00	0.00					100.00			軒平瓦 (金箔) H3337形式
清洲城下町-13	2.14	97.86	0.00	0.00					100.00			飾瓦 (金箔) A1型
清洲城下町-14	0.00	100.00	0.00	0.00					100.00			飾瓦 (金箔) A4型
清洲城下町-15	7.88	92.12	0.00	0.00					100.00			飾瓦 (金箔) A5型
清洲城下町-16	7.60	92.40	0.00	0.00					100.00			鬼瓦 (金箔)
清洲城下町-17	10.01	89.99	0.00	0.00					100.00			鯉瓦 (金箔)

第36表 タイプ分類一覧表

試料 No	タイプ 分類	備 考
清洲城下町-1	A	軒丸瓦 (金箔) M151形式
清洲城下町-2	A	軒丸瓦 (金箔) M152形式
清洲城下町-3	A	軒丸瓦 (金箔) M122a形式
清洲城下町-4	A	軒丸瓦 (金箔) M161形式
清洲城下町-5	A	軒丸瓦 (金箔) 新形式
清洲城下町-6	A	軒丸瓦 (金箔) 不明形式 (鳥糞瓦)
清洲城下町-7	A	軒平瓦 (金箔) H102b形式
清洲城下町-8	A	軒平瓦 (金箔) H101形式
清洲城下町-9	A	軒平瓦 (金箔) H112形式
清洲城下町-10	A	軒平瓦 (金箔) H213形式
清洲城下町-11	A	軒平瓦 (金箔) H214形式
清洲城下町-12	A	軒平瓦 (金箔) H3337形式
清洲城下町-13	A	飾瓦 (金箔) A1型
清洲城下町-14	A	飾瓦 (金箔) A4型
清洲城下町-15	A	飾瓦 (金箔) A5型
清洲城下町-16	A	鬼瓦 (金箔)
清洲城下町-17	A	鯉瓦 (金箔)

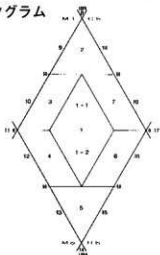
第243図 三角ダイアグラム
位置分類図

14 記載不能



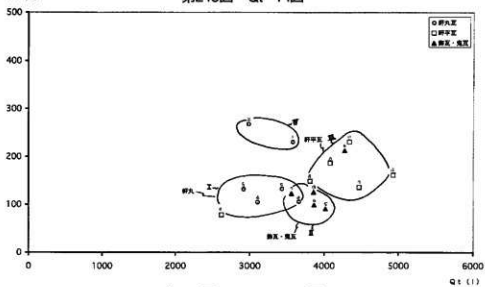
第244図 菱形ダイアグラム
位置分類図

20 記載不能



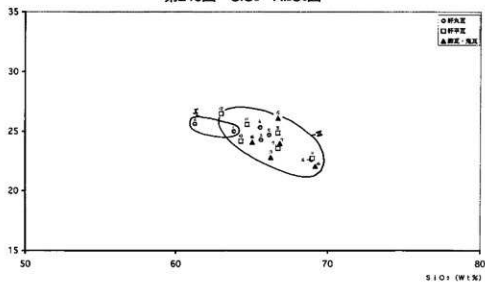
Pt (t)

第245図 Qt-Pt図

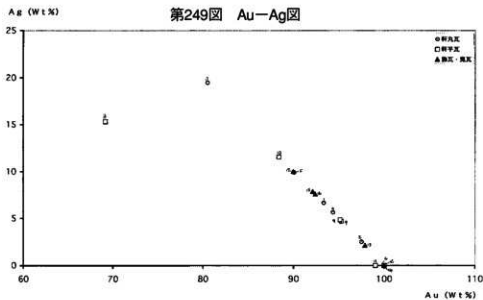
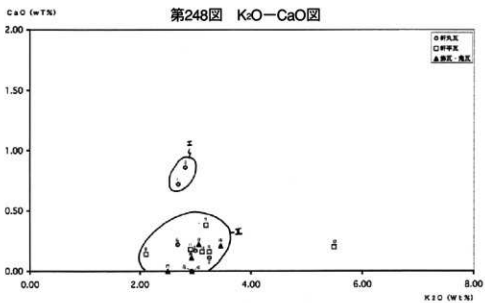
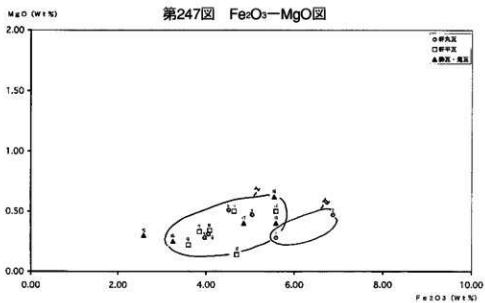


Al₂O₃ (wt%)

第246図 SiO₂-Al₂O₃図



SiO₂ (wt%)





試料No.1



試料No.2



試料No.3



試料No.4

第250図 胎土・金箔分析試料(1)



試料No.5



試料No.6



試料No.7



試料No.8

第251図 胎土・金箔分析試料 (2)



試料No.9



試料No.10



試料No.11



試料No.12

第252図 胎土・金箔分析試料 (3)



試料No.13

試料No.14



試料No.15

試料No.16

第253図 胎土・金箔分析試料(4)

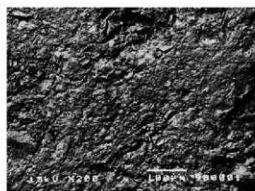


試料No.17

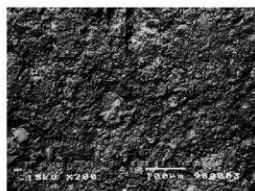
第254図 胎土・金箔分析試料(5)

試料No.	図版番号	種別	型式	金箔押の部位	タイプ分類
清洲城下町-1	7-697	軒丸瓦(金箔押)	M151型式	凹部金箔	A
清洲城下町-2	7-696	軒丸瓦(金箔押)	M151型式	凹部金箔	A
清洲城下町-3		軒丸瓦(金箔押)	M122型式	周縁区金箔?	A
清洲城下町-4		軒丸瓦(金箔押)	M161型式	凹部金箔	A
清洲城下町-5		軒丸瓦(金箔押)	不明型式	凹部金箔	A
清洲城下町-6		軒丸瓦(金箔押)	不明型式	区金箔	A
清洲城下町-7	3237	軒平瓦(金箔押)	H102b型式	周縁区金箔	A
清洲城下町-8		軒平瓦(金箔押)	H101型式	外区金箔	A
清洲城下町-9		軒平瓦(金箔押)	H112型式	中心飾り金箔	A
清洲城下町-10		軒平瓦(金箔押)	H213型式	中心飾り金箔	A
清洲城下町-11		軒平瓦(金箔押)	H214型式	中心飾り及び外区金箔	A
清洲城下町-12		軒平瓦(金箔押)	H331型式	中心飾り及び外区金箔	A
清洲城下町-13		飾瓦(金箔押)	A1類	突部金箔	A
清洲城下町-14	2469	飾瓦(金箔押)	A4類	突部金箔	A
清洲城下町-15		飾瓦(金箔押)	A5類	突部金箔	A
清洲城下町-16		飾瓦(金箔押)		突部金箔	A
清洲城下町-17		鯉瓦(金箔押)		口角部金箔?	A

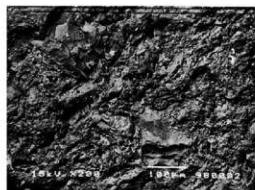
第37表 胎土・金箔分析試料一覧表



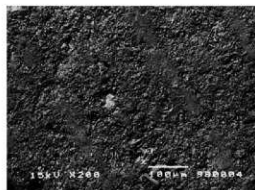
試料No.1



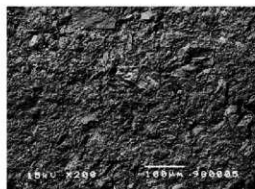
試料No.3



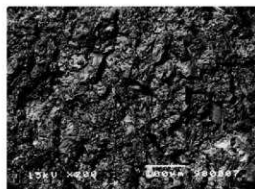
試料No.2



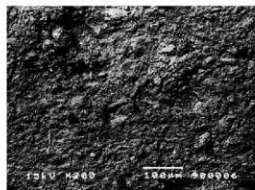
試料No.4



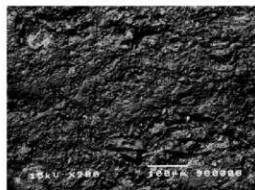
試料No.5



試料No.7

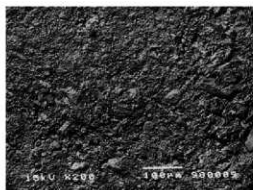


試料No.6



試料No.8

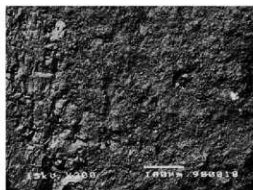
第255図 胎土の顕微鏡写真(1)



試料No.9



試料No.11



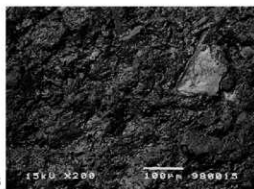
試料No.10



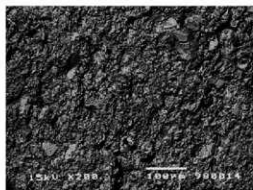
試料No.12



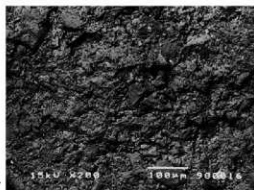
試料No.13



試料No.15

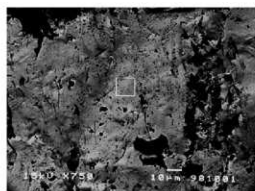


試料No.14

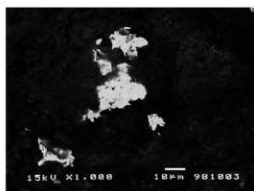


試料No.16

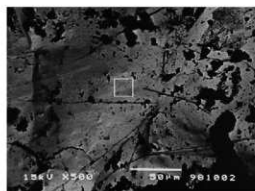
第256図 胎土の顕微鏡写真(2)



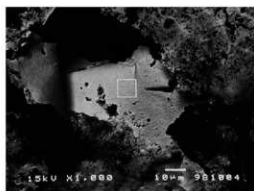
試料No.1



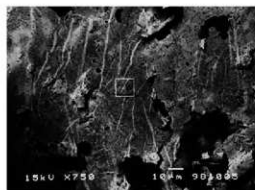
試料No.3



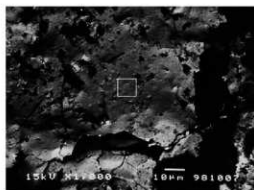
試料No.2



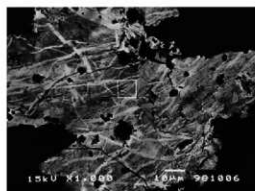
試料No.4



試料No.5



試料No.7

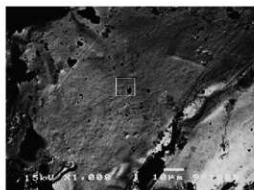


試料No.6

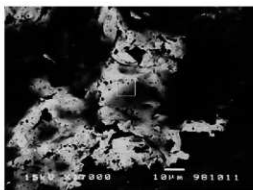


試料No.8

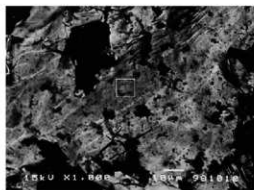
第257図 金箔の顕微鏡写真(1)



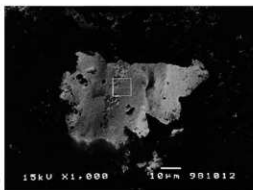
試料No.9



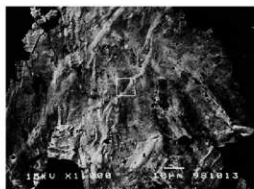
試料No.11



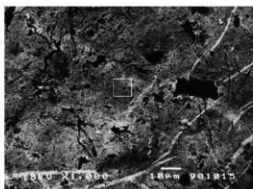
試料No.10



試料No.12



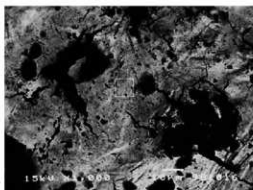
試料No.13



試料No.15



試料No.14



試料No.16

第258図 金箔の顕微鏡写真(2)

(V) 清洲城下町遺跡から産出した貯穀性昆虫とその意義

森 勇一

1. はじめに

清洲城下町遺跡は、庄内川水系五条川の河畔に位置し、標高約5mの自然堤防帯に立地している。行政的には、愛知県西春日井郡清洲町の中心部のほぼ全城、および同新川町・春日町の一部が含まれる。

本遺跡は、1586(天正13)年に発生した天正地震の影響を強く受け、この地震を契機に城館の大改修が行われた。そのため、整地層を境に遺物包含層が二分され、下半部に清洲城下町遺跡前期(主に16世紀前半)、上半部に同後期(16世紀後半～17世紀前半)の地層が堆積している。そして、これらを宿場町として栄えた時期(江戸時代前期～後期)の遺物包含層が被覆している。

2. 分析試料

昆虫化石の分析試料は、1999年3月に実施された五条川左岸の2調査区(I KJ99A区およびI KJ99B区)より採取した(第259図)。

試料1は、五条川にかかる長者橋北側の99A区内の一辺約2mの方形土坑(SK248)を埋積する腐植質シルト層中より採取したものである。本調査区からは、畑作地と推定される畝状遺構を伴う江戸時代前期の遺物包含層が検出されており、この下位より用途不明の方形ないし円形の土坑と大小の溝跡が多数確認されている。なお、昆虫分析試料を採取した地層からは、中世後期(16世紀末～17世紀初頭)の遺物が発見されている。

試料2は、長者橋を挟んで南側の99B区南端の幅約3mの溝(SD20)を埋積する植物片混じり砂質シルト層より検出されたものである。本溝からも中世後期(16世紀後半)の考古遺物が確認されている。

分析試料の湿潤重量は、試料1が3.2kg、試料2が4.8kgであった。昆虫化石は、流水下で水洗篩別法により抽出した。なお、試料2については、一部ブロック割り法を併用し、同定は1点ずつ顕微鏡下で現生標本と比較しながら実施した。

3. 結果

分析試料からは、試料1より246点、試料2より132点、計378点の昆虫化石が検出された(表1)。なお、これらの産出点数はいずれも節片数ないし破片数を示したものであり、生息していた当時の個体数を表していない。

試料ごとの特徴種をみると、試料1では、コクゾウ(ムシ) *Sitophilus zeamais* (56点)、ノコギリヒラタムシ *Oryzaephilus surinamensis* (33点)を中心に、コクヌスト *Tenebroides mauritanicus* (5点)、コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* (4点)など、貯蔵された穀物を加害する貯穀性昆虫を多産した。ほかに、食肉性ないし雑食性の地表性歩行虫であるオサムシ科 *Carabidae* (28点)や、ハネカクシ科 *Staphylinidae* (29点)などが認められ、アリ科 *Formicidae* が頭部を中心に計11点見いだされた。

試料2では、マメ科植物をはじめ各種畑作物や果樹などを加害するヒメコガネ *Anomala rufocuprea* (29

点) や、ヒメコガネを含む分類群であるサクラコガネ属 *Anomala* sp. (8点)、同じくコガネシ科 Scarabaeidae (6点) などの食植性昆虫と、地表性で食糞性甲虫であるエンマコガネ属 *Onthophagus* sp. (10点)、地表性で主に双翅目の幼虫などを捕食するエンマシ科 Histeridae (5点) が比較的多く検出され、これにコガムシ *Hydrochara affinis* (6点)、ガムシ *Hydrophilus acuminatus* (5点)、マメガムシ *Regimbaria attenuata* (5点)、ゲンゴロウ科 Dytiscidae (5点) などの水生昆虫が伴われた。

4. 考察

試料1

筆者は、これまで15年間にわたって日本各地の先史～歴史時代の遺物包含層中より昆虫化石を抽出し、出現昆虫の組成変化から、気候変動や農耕の歴史、人為による自然改変の様子などについて調査・報告してきた(森, 1994・1997a・1999ほか)。しかるに、従来の研究成果では、清洲城下町遺跡から得られたような顕著な貯穀性昆虫は確認されたことがなかった。

試料1より最も多く発見されたコクゾウは、体長2.3～3.5mm(平均2.8mm)、褐色ないし濃褐色のオサゾウムシ科 Rhynchophoridaeに属する穀物の重要害虫である。清洲城下町遺跡から産出した化石標本は、鞘翅の黄色斑紋が大型で輪郭が不明瞭であり、前胸背板の形状が前方に向かって狭まるなどの特徴(安富・梅谷, 1983)から、コクゾウに同定され、また近縁種のコクゾウ *Sitophilus orizae*とも識別される。両種とも分布は全世界に及び、日本ではコクゾウがコクゾウより少なく、世界的にはむしろコクゾウの方が少ないとされる(安富・梅谷, 1983)。コクゾウはコメやトウモロコシ、コクゾウはコムギでよく生育するとされる。三重県一志郡雄野町の津村善博氏(三重県立博物館次長)宅では、収穫した米を

300Kg入りのブリキ缶に玄米の状態では保存しているが、乾燥が十分でない場合や湿気の多いところで保管するとコクゾウが発生しやすいという(第261図写真1)。秋に収穫した米に、翌年夏までにコクゾウが現れることがあり、米が上げれば古いほど発生する確率が高いということである。

ノコギリヒラタムシは、ヒラタムシ科 Cucujidaeに属し、穀物および菓子などの穀物加工品の害虫として世界的に知られる(安富・梅谷, 1983、日本家屋害虫学会編, 1995)。体長3mm内外、褐色で光沢がなく、鞘翅全面に黄褐色の短毛を密布する。前胸背板の両側縁に、ノコギリのような歯状突起を有する特徴から識別される。清洲城下町標本は、前胸背板の特徴や、鞘翅の形状・鞘翅表面の黄褐色の短毛などにより同定される。本種は完全な穀粒では生育できず、倉庫などでは隅にたまった穀粉やゴミなどの中に見いだされるという(安富・梅谷, 1983)。前述の津村氏宅から採集されたコクゾウの標本約100頭の中に、計4頭のノコギリヒラタムシが混じっているのを確認することができた(第261図写真2)。

試料1より計5点産出したコクヌストは、コクヌスト科 Trogositidaeに属し、濃褐色で体長は6～10mmである。成虫、幼虫ともに穀類や他の穀類害虫を食べて生活する。日本全土をはじめ、全世界に広く分布する。

コクヌストモドキは赤褐色、体長3～4mmで前種より小型である。試料中より4点見いだされた。本種は穀物害虫として最も普遍的な種類とされ、小麦粉などの穀粉をはじめ、菓子・パン類などの害虫として世界的に知られている。成虫は倉庫内では、木材や麻袋・紙袋の下で越冬する(日本家屋害虫学会編, 1995)。愛知県一宮市千秋町の中村嘉彦氏宅では、玄関横の納戸に8俵(480Kg)入りのブリキ缶が計4缶あり、これらに収穫後の玄米が保管してあるが、5月末から6月下旬にかけてよくコクヌストモドキ(第261図写真3)が発生するという。中でも発生

多い1畝は風呂場に近く、一年を通じ温度・湿度ともに高い傾向にある(第261図写真4)。同じ畝で盛夏のころコクゾウの発生も認められるとのことである。筆者が訪れた2002年6月21日には、昨年収穫した米が畝の底付近にわずかに残っており、これを掻き出すとコクヌストモドキが米粒1000粒に1頭ぐらゐの割合で検出された。なお、貯蔵畝内には米粒以外に穀粉も認められた。

中世後期の清洲城下町遺跡の土坑(SK248)内より、多種類の貯蔵性昆虫が検出されたことから、本調査区周辺にかけらのエサとなる穀類が存在したことは確かだろう。昆虫化石を産出した土坑そのものが、穀物貯蔵と関わる遺構であった可能性も否定できないが、おそらく土坑が一種のホールトラップのような役割を果たし、風などの営力により生きたままあるいは死後土坑内に落下した昆虫が今日までその化石片をとどめたものと考えられる。とすれば、清洲城下町遺跡の本調査区周辺のどこかに穀物を多量に蓄えた施設があり、そこが貯蔵性昆虫の発生源となっていたことが容易に想像される。

清洲城下町は「関東の巨鎮」といわれ、一説に5万人とも10万人ともいわれる巨大な人口を擁する中世都市であったとされる。こうした人々の生活には、多量の食糧とそれらを運搬する陸路や水路、食糧貯蔵施設の存在が不可欠だったに違いない。しかし、これまでの調査では、中世後期のころ、99A調査区はもとより、清洲城下町遺跡一帯にどのような建物が存在し、どのような町並みが展開していたか、具体的に明らかにする資料は著しく乏しかった。

一方、江戸時代に描かれたとされる尾張名所図会によれば、五条川に面した本調査区付近にはクラヤシキという記述があり、今回得られた貯蔵性昆虫の存在からこうした蔵屋敷に併設された穀物倉庫が実在した可能性が指摘され、中世都市「清洲」の実像を解明するうえで重要である。

清洲城下町遺跡から最も多く産出したコクゾウは、

玄米ないし白米の穀粒に発生することから、本遺跡内に脱穀後の米が貯蔵されていたことは確かであろう。また、ノコギリヒラタムシやコクヌストモドキは、各種穀物の穀粉に由来することより貯蔵された穀物に穀粉化したものが存在したか、さもなくば何らかの穀粉が貯蔵されていた可能性も考えられる。

試料2

昆虫化石の検出点数が必ずしも多くなく、そこから多くの情報を引き出すことは困難であるが、清洲城下町遺跡の中世後期の溝(SD20)内から検出された昆虫群集は、従来濃尾平野内の大毛沖遺跡(森、1996)や大毛池田遺跡(森、1997b)などをはじめ、同時代(中世)における日本各地の溝や土坑中より得られた群集組成とよく共通するものであるといえる(森、1999)。

すなわち、成虫がマメ科植物や果樹・各種畑作物の葉を加害し、幼虫がこれらの根を食害する畑作指標昆虫としてのヒメコガネの多産は、わが国の中世(鎌倉～室町時代)の昆虫群集の重要な特徴の一つである(森、1997a)。そして、ほぼ同様の生態を有するマメコガネやサクラコガネ属が本遺跡の昆虫群集に伴われたことは、こうした共通性をさらに補強するものであろう。

畑作指標昆虫が、清洲城下町遺跡の溝中から産出したことは、畑作物が遺跡周辺に植栽されていたことを強く示唆するものであるが、同時に中世の人々が山林開発を精力的に行ったことの反映であるとも考えられる。このような食植性昆虫は、本来、山林や雑木林内の林縁部を構成する小灌木などの葉を加害していたものであるが、この時期、人々が人家周辺に果樹や畑作物を多数植栽したことにより、これらを加害するようになったと推定される。

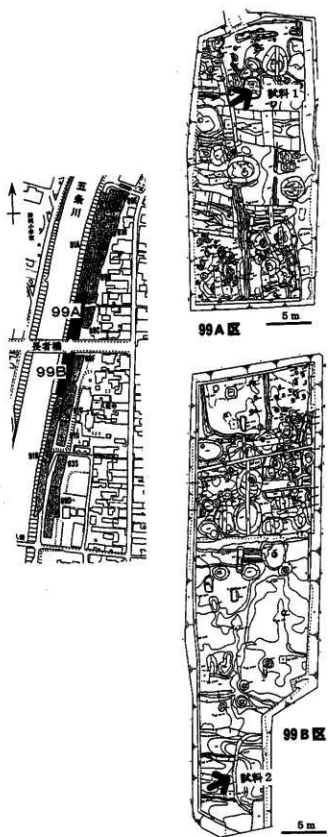
また、食植性・水生昆虫であるガムシやコガムシ・マメガムシなどの産出からは、溝内に水生植物が繁茂していた可能性が考えられる。

5. おわりに

本報告を草するにあたり、以下の皆さんにお世話になった。記して感謝申し上げる。廣田早和子氏(信州大学)・津村善博氏(三重県立博物館)・中村嘉彦氏(営農家)・牧田健男氏(愛知県立明和高等学校)

文 献

- 森 勇一1994「昆虫化石による先史～歴史時代における古環境の変遷の復元」『第四紀研究』33(5)
- 森 勇一1996「愛知県一宮市大毛沖遺跡から得られた昆虫群集について」『大毛沖遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第66集
- 森 勇一1997a「虫が語る日本史—昆虫考古学の現場から—(2)」『インセクタリウム』2
- 森 勇一1997b「畑作農村地帯を特徴づける愛知県大毛池田遺跡(中世)の食植性昆虫について」『大毛池田遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第72集
- 森 勇一1999「昆虫化石よりみた先史～歴史時代の古環境変遷史」『歴博国際シンポジウム「過去1万年間の陸域環境の変遷と自然災害史」』国立歴史民俗博物館研究報告第81集、国立歴史民俗博物館
- 森 勇一2000「愛知県清洲城下町遺跡(中世)から産出した貯穀性昆虫について」『家屋害虫(日本家屋害虫学会誌)』22
- 森 勇一2001「先史～歴史時代の地層中より産出した都市型昆虫について」『家屋害虫(日本家屋害虫学会誌)』23
- 日本家屋害虫学会編1995『家屋害虫事典』井上書院、東京
- 安富和男・梅谷献二1983「原色図鑑衛生害虫と衣食住の害虫」全国農村教育協会、東京



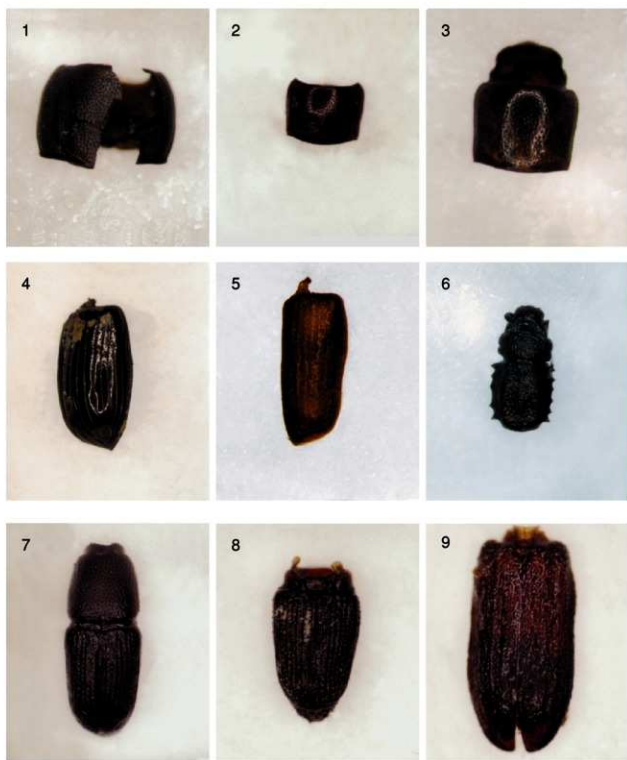
第 259 図 昆虫分析試料の採取地点
 Fig.1 Collecting points of insect analytical samples

第38表 清洲城下町遺跡出土の昆虫化石分析結果

生態	科名	学名	SK248	SD20	総計	
水生	食肉性	ゲンゴロウ科	Dytiscidae	W1 A2	W1 A1	5
		ケンゲンゴロウ族	Hydrophilini		W2	2
		オオヒズスマシ	Dianetus orientalis Mader		W1	1
	食性	コガシナヒズスマシ	Phedysus intermedius Sharp		T1	1
		ガムシ科	Hydrophilidae	W1	T1 L2	4
		ガムシ	Hydrophilus acuminatus Motschulsky		A2 L3	5
		コガムシ	Hydrochara affinis Sharp		W3 L3	6
		ヒメガムシ	Sternodiplos rufipes Fabricius		L3	3
		マメガムシ	Rygmatura attenuata Fabricius		W5	5
		ヤマトガムシ	Ceolostoma stultum Walker	P1	P2	3
腐食性	ネタイハムシ亜科	Donaciinae	W2		2	
地棲性	食肉性	エンマコガネ属	Onthophagus spp.		W1 A2 L7	10
		マダコガネ	Aphodius rcticus Motschulsky	W2		2
		エンマムシ科	Histeridae		P1 A1 L3	5
	食性	オヤムシ科	Carabidae	H1 M25 A2	W2 M2 H2 P1 T1 A2 L1	39
		ゴミムシ亜科	Harpalinae		O1	1
		ナガゴミムシ属	Phrosotrichus sp.		P1	1
		ヒズギワゴミムシ属	Rembolus sp.		W1	1
		モンコヒズギワゴミムシ属	Echynus sp.	W1		1
		ナガヒョウタンゴミムシ	Scarites arvicola pacificus Bates		W1	1
		ヤマトクツクゴミムシ	Lachnospira japonica Bates		W1	1
ハネカタン科	Staphylinidae	W6 P3 A18 T2	W2 T1	32		
陸棲性	コジゴミムシゴマシ	Tetraphyllus jamaiger Marscul		W3	3	
	コガネムシ科	Scarabaeidae	L2	W2 H1 A1 L2	8	
	ヤマトコガネ属	Anomala sp.		H1 A1 L6	8	
	ヒメコガネ	Anomala rufescens Motschulsky	W3	W11 H2 S4 P2 T2 A2 L9	32	
	アオドウガネ	Anomala albopilosa Hope	W1		1	
	コガネムシ	Mimela splendens Gyllenhal		L1	1	
	マメコガネ	Pypilla japonica Newman		L1	1	
	ヒメモンショコガネ	Agapanis amida Lewis		W1	1	
	クロコガネ	Heterichia kinoshitaensis Brenke		L1	1	
	カミキリムシ科	Cerambycidae		L2	2	
食性	クワガタムシ科	Lucanidae		T1	1	
	ゾウムシ科	Cuculitidae	W4 H2 A1	W1 H2 L3	13	
	コタゾウムシ	Stenophorus eximus Motschulsky	W26 H14 P7 A5 PW3 一部分1		56	
	ヒラタムシ科	Cucujidae		W1	1	
	ノコギリヒラタムシ	Oxytaenilus sibiricus Linnaeus	W16 H7 P9 T1		33	
	コクヌスト	Tenebrionides mauritanicus Linnaeus		P1	1	
	コクヌストモドキ	Tribolium castaneum Herbst		P2	2	
	ホソヒメコクヌストモドキ	Lybia exigua Masedon		HP1	1	
	キクイムシ科	Scydidae		W1	1	
	コメツキムシ科	Elmidae		W1	1	
不明甲虫	ハムシ科	Chrysomelidae		A1 L3	3	
	不明甲虫	Non identified beetles	W9 H5 M1 P9 T1 A4 L4 O16	P1 T1 L3 G5	54	
	アリ科	Formicidae	H7 T2 A2		11	
	ハチ目	Diptera	A1		1	
	ハチ目	Hymenoptera	A2		3	
	総計		239		371	

(採出部位凡例)

W(Wings)；前翅 H(Head)；頭部 T(Thorax)；胸部 A(Abdomen)；腹部 P(Pronotum)；前胸背板
S(Scutellum)；小盾板 L(Legs)；脚関節 M(Mandible)；大顎 O(Other)；部位不明



第 260 図 清洲城下町遺跡から産出した貯穀性昆虫の顕微鏡写真

1. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* (Herbst) 前胸背板 幅0.64mm
2. コクヌストモドキの仲間 *Tribolium* genus et species indet. 前胸背板 幅0.38mm
3. ホソヒメコクヌストモドキ *Lyphia exigua* Mauseul 前胸背板および頭部 幅0.75mm
4. マグソコガネ *Aphodius rectus* Motschulsky 右上翅 長さ3.6mm
5. コクゾウ *Sitophilus zeamais* Motschulsky 右上翅 長さ1.75mm
6. ノギリヒラタムシ *Oryzaephilus surinamensis* Linnaeus 前胸背板および頭部 長さ1.45mm
7. コクゾウ *Sitophilus zeamais* Motschulsky 左右上翅および前胸背板 長さ3.0mm
8. コクゾウ *Sitophilus zeamais* Motschulsky 左上翅 長さ1.8mm
9. ノギリヒラタムシ *Oryzaephilus surinamensis* Linnaeus 左上翅 長さ1.64mm



(写真1) コクゾウの顕微鏡写真
(津村善博氏宅にて採集)



(写真2) ノコギリヒラタムシの顕微鏡写真
(津村善博氏宅にて採集)



(写真3)
コクヌストモドキの顕微鏡写真
(中村嘉彦氏宅にて採集)



(写真4)
玄米貯蔵用のブリキ缶

第 261 図 現在の貯蔵性昆虫

(VI) 清須城伝本丸を中心とした土木構築物について

—主として石垣・土台木—

北垣聰一郎

はじめに

北方より南行する五条川(旧清洲川)を中心に広がる自然堤防帯は、近年「清洲城下町遺跡」として発掘調査が継続して行われている。本稿ではこのうち清須城主郭群の一部と推定されている伝「本丸」遺跡を中心とした土木構築物についてふれようと思う。

清須城は15世紀初頭から尾張守護斯波氏の治めるところとされ、16世紀中葉には織田信長の居城となる。その後、織田信忠、同信雄のあと、天正18年(1590)には豊臣秀次が支配した尾張領主となる。そして慶長5年(1600)には徳川氏の領するところとなり(松平忠吉・家康4男)、同15年(1610)徳川義直(家康9男)の名古屋築城、慶長18年(1613)の「清須越」の終了ともない、清須城は事実上、終焉をむかえる。

本稿でとり扱う清須城とは、明治17年に書写された「地籍字分全図」の「清洲村」項のうち、字「古城」相当箇所であり(第262図)、また、17世紀後半の成立と伝える「清須村古城絵図」(蓬左文庫蔵)に描写する清須城をさす。「清須村古城絵図」に注記をほどこす清須城の「本丸」の「水堀」一帯(第263図)が、本稿での調査対象区の94A区と96区(A・B)、そして97C区である(第262図・264図)。

なお、本稿で用いる用語としての「石垣」とは、「石を積む」行為を名詞化した積み方としての「石積み」に対して、一定の技術をもつ構造物の意にとらえて

いる。

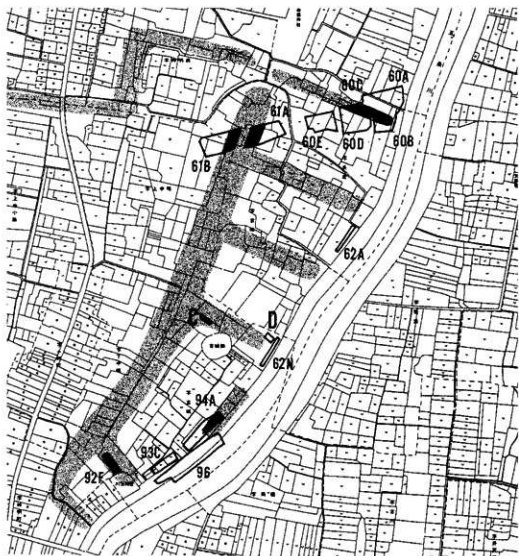
1. 94A区の土木構築物(石垣、土台木)遺構

第264図によれば、遺構は北東部の94A区(SX01)から南西方向の96区(SX01)(A・B面)にかけての石垣遺構と、その両者の間にある97C区(SD03)の台地状張り出し遺構が存在する。まず本節では94A区の土木構築物について述べたい。なお、引用資料は「清洲城下町遺跡Ⅵ」に所収のSX01地点の引用図番号にもとづきながら紹介し、検討を試みる(以下、Ⅵ第〇図とする)。なおこのSX01は、城下町前期の遺構SX02の整地後その一部を利用したものである。

さて、第265図での遺構(A・B・C・D地点をふくめた)の長さとは、約27m。C地点からD地点にかけては直角に折れ約5m、計32mを測る。後述するように、この折れは「入角」(いりずみ)であろう。第265図の状況からみて、A地点の北端から9mばかり(A-1地点)は、Ⅵ第10図(平面)、11図(立面)によると、幅1m強、厚さ約80cm程度のぐり石層(5~20cmの粒状)を敷く。その前方に約30cmの空間を残しながら、直径10cm内外、長さ130cm内外の杭木列が不規則な間隔で、土層内に打たれている。注目すべきは、杭木列にそって階段状の溝(内堀状遺構)を通すことであろう。しかも、この内堀状遺構は粘性土を盛る基礎構成をしたのち、内堀に掘り直すことである。この内堀は第265図のD地点の下層を通り、南方の96区SX01(A面)に到達する。

第265図のA-1地点に接して南へ伸びるA-2地点の特徴は、基礎造成をした内堀ぞいに不規則に重なりあう杭木列が存在する。またⅥ第13図とⅥ第14図から、水につかる湿地といった軟弱地盤の石垣構築に使われる1本の短い土台木(長さ2.1m)(Ⅵ第15図)と、それにのる築石(角石、角脇石ではない)が観察できる。もともと、①～⑤の築石のうち、土台木が確実に支えるのは⑧の築石のみで、Ⅵ第11図での②～⑥の例から、すでに原位置を移動して「浮き

石」状を呈している。これは⑤の築石がA-1地点に存在した築石ではなく、A-2地点の土台木ともなう築石であったことにはかならない。A-1地点の裏ぐり石層ともない存在したはずの石垣築石は、何らかの理由から、A-2地点以前に抜き取られた可能性が強い。さらに付け加えるなら、Ⅵ第10図でふれたように、ぐり石層と杭木列との間にみられる約30cm幅の規則的な空間である。これは土台木の存在をうかがわせる。



第262図 清須城本丸地点の発掘調査区位置図(明治17年作成地籍図を利用)(1:5000)



第263図 清須村古城絵図（蓬左文庫蔵）と調査区推定地点（矢印）

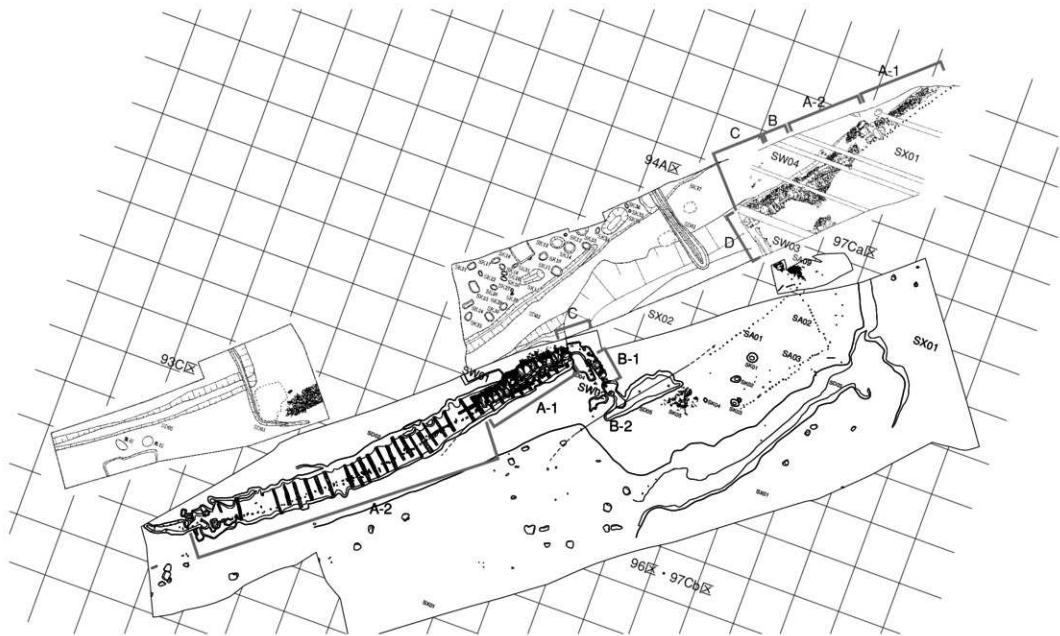
ところでA-2地点の土台木であるが、本来なら杭木列の後ろに並列して配置されてよいものである。逆に杭木列に直交する隅角「出角」状を構成する意識をうかがわせるが、だとすれば、この土台木は後述するC地点、D地点に残存する土台木との関係で検討すべきものといえよう（第265図）。

また、A-2地点のトレンチ（第265図・Ⅶ第12図（a～a'））から、次のことが確認できる。ひとつはA-1地点と同様、内堀はあらかじめ盛土補強による基礎造成が実施されていたことで、なかでも裏ぐり石層は標高2.4mで基底幅が1.0m、さらに標高3.1mまで裏ぐり石層が存在していたことである。

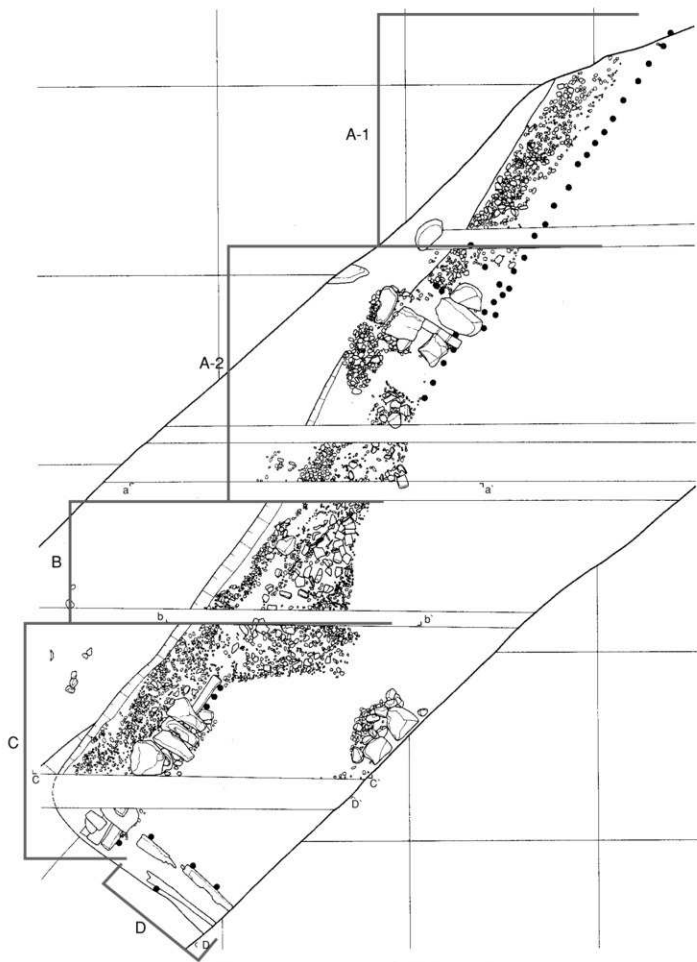
<B地点>

A地点とB地点との土層の違いは、A地点が地盤の軟弱さを克服するために基礎造成を実施したことに対し、B地点では、安定した地山層を確保できたことである（Ⅶ第16図）。裏ぐり層（12層）の入る基底は標高2.0mで地山掘削角度は約50度に近く、推定天端にむけて裏ぐり幅は広く設けられたであろう。

報告書が述べるように、B地点の状況については（Ⅶ第17図）、残存する礎石はわずかに1石のみ、しかも、すでに原位置にはない。さらに土台木列も存在しない。しかし、裏ぐりのラインは、いずれもA地点と土台木のあるC地点のラインに接続する可能



第264图 93C・94A・96・97C区遺構配置図(1:400)



第 265 図 94A 区石垣・土台木 (1 : 100)

黒丸は杭

性が強く、土台木列の存在した蓋然性は高いだろう。

<C地点>

94A区のみで、土台木遺物としての石垣、裏ぐり層、土台木、杭木を総合的に観察できる唯一の箇所だといえる。まず第265図において、土台木先端部にそって濃密に詰る裏ぐり層が、また土台木の厚み出しを防止する杭木列や土台木上にある築石列が観察できる。以下はそれぞれについての検討である。

(石垣)

Ⅷ第19図・第20図・第24図により、石垣遺構は自然石の築石の一部が二段積みで約4.5mにわたり土台木上に9石分が残存する。もともと、築石は⑤をのぞき、原位置より若干前方へ移動したことがうかがえる。その理由のひとつは、自然石(野面)を用いた築石の築き方とは、まず左右の隣接する石面どうしの「二番」にあて、さらに胴部どうしを接することで築石の動きを固定することからはじめる。築石⑨・⑧にはすでに空隙が生じている(Ⅷ第19図)。また③・②・①の築石(根石部分にあたる)の石尻は土台木からはずれ据わらない。これは石垣技術の基本に合致しないといえる(第274図写真1)。

次に第一段目の築石⑦・⑥・⑤・④の場合である。土台木はⅧ第18図に示されるように、「地形根切」をして安定基盤を設けて設置する。土台木の前方向への傾きは、上にある築石の尻部を上げ、孕み出しや崩壊の原因になるからである。そうしたところから、土台木が根石列にあたる。Ⅷ第18図のうち、見直し図として紹介された土台木上の築石④の石面の下端は少し下がり、それにひきかえ石尻が土台木から浮く状況がうかがえる(第274図写真2)。なお、この場合の土台木の標高は1.8mの位置にある。C地点南端の土台木上にある築石⑦(折損)⑥(Ⅷ第19図)のうち、⑥の石面は、逆に10cm突出する例である(第274図写真4)。以上の観察を通じて、築石は地震、あるいは人為的な解体で、原位置から移動したものであろうか。そのことに関連して報告者は、杭に根石

を支える機能があった可能性を説かれている。さらに再考の余地があるだろう。

ところで、二段積みされた石垣であるが(Ⅷ第19図・第21図)、勾配角度を固定するための介石(副介石、尻介石)のうち、尻介石が観察できないことも特徴的である。とくに④と上段の⑤の自然石を用いることで発生する空隙を、ぐり石と大ぶりの詰石のみで調整している(第274図写真3)。また各築石の控え長さは、⑦(折損)を除き110cmをこえ安定してはいる。積み方は一段目、二段目の各築石の天端面が揃うところから「布積み」状を呈するものの詳細は不明である。石垣の成立時期については、天正4年(1585)段階の地震による増砂を整地した後に地形根切をすところから、天正14年以降であることは確かであろう(Ⅷ第18図の6と8)。

(土台木遺構)

C地点で検出された土台木遺構は、きわめて特徴的な構造物である。それをⅧ第22図に求めると、長さ2.7~2.5m×径(タテ、ヨコ)30cmもの3本(a,b,c)、また長さ5.1m×径20cmもの(d)、長さ3.5m×径20cmもの(e)、長さ4.7m×径20cmもの各3本、計6本を残し、4列組みを構成する。このうちのa,b,cは調査によれば、ほぼ同位置に凹部の切り込みを有している。何らかの転用材であろう。また、eやdにも先端部に鼻ぐり状のホソ穴を抜く。土台木の運搬法との関連が考えられる。

江戸時代土台木は副木・ほうしけたと称し、各地の河川普請や、湿潤低地などに一般的に用いられた(ささら土台・はねかけ土台・そろばん土台等)。なかでも、城郭への使用については江戸時代に成立した「石垣秘伝之書」「石塙書」「後藤家文書」の技術書や、さらには、各地の城郭石垣の発掘調査で構造が明らかにされている(江戸・駿府・名古屋・大坂・高槻・広島等)。

例えば寛永年間、細川氏が助役普請として参加した江戸城では最大級のもので、表土台(木)、裏土台

(木)の規模は、400間で一番土台となる表土台木は123本、長さ3間、末口差渡し(踏面の径)1尺4寸～5寸、築石の控え幅に応じて表土台に併列して後方に敷く二番土台の裏土台木は末口差渡し9寸～6尺1間とする以外に変わりはない(細川家永青文庫蔵)。こうした前・後2本からなる組土台は、接合する土台木の本口と末口にそれぞれ喰い違いの継ぎ口加工をほどこし、それにホゾ穴を設けて杭木を差し込み固定した。また一番土台から直交する末口径5寸以上、長さ7尺以上の敷ささら木を水平に数多く敷くことで水掘、河川といった軟弱地盤の補強をはかったのである。

しかし、c地点に残存する土台木4列組みには、本来土台下に敷くささら木が存在しない。また土台木どうしの本口、末口を合わせるための喰い違い加工面がない。当然おこりうる不等沈下についての対策は乏しいといわねばならぬ。もっとも一番土台に口径の大きい転用材を使うことで石尻を下げる効果を期待しているが(Ⅷ第22図・第274図写真2)、一方で補助材の三番土台に転用材を使う意味は不明である。

<杭木列>

杭木はA地点、B地点をあわせて68本がA-2地点の土台木の先端にそって一列に打ち込まれている(第265図)。杭木の頭径は約10cm、長さは平均して1.30mはある。杭列の間隔は30～40cmを前後するもので、その打ち方も個人々の自由裁量にまかされていたらしい(Ⅷ第11図)。注意すべきは、A地点の杭木4・9・11・15の存在である。Ⅷ第20図での土台木天端ライン(2.0m)より杭頭は高いのである。このことはA,B地点に土台木列がかつて存在していたこと、また、一番築石が斜の杭頭上を支えることの不合理性を説明する材料とならないか。

だとすれば、第265図でのA地点に一列にならぶ杭列や裏ぐり層、B地点での杭列と一部残存する裏ぐり層の存在は、この箇所にも3列組み、あるいは

4列組み土台木の可能性を示唆するものだといえよう。

<D地点>

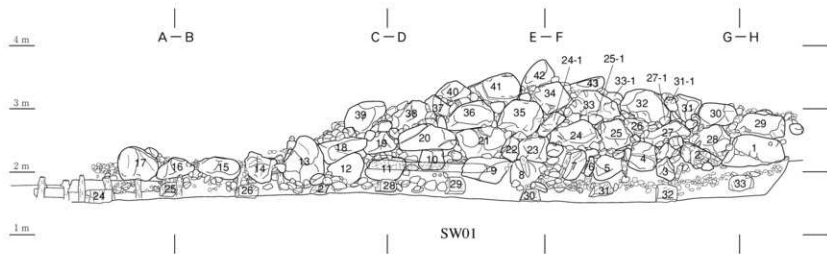
C地点南端であるが、これは前述したようにA地点・B地点からC地点にむけ一直線にのびる土台木列と石垣、そして杭木列が予想できる。土台木列はここで直角に折れD地点を構成する(第265図)。土台木3本とそれは止める杭木の存在するところから、C・D地点の交点は隅角部(入角)であろう(Ⅷ第24図)。もっとも、A・B・C地点とD地点とで構成された掘り込みコーナー(内堀・SX01)は、D地点の2ヶ所のトレンチ(第265図D-D'・Ⅷ第24図E-E')によって、D地点の土台木、杭列を設けるための大規模な、基礎造成であったことがわかる(Ⅷ第23図・第27図)。またそれによればB、D地点の土台木の天端面(Ⅷ第27図)は、C地点のそれ(Ⅷ第20図)に比して、約10cmは高い。工程作業、ないしは時間差をさすものであろうか。また、石垣の鉛直高はC地点の例(Ⅷ第20図)から2.9m、しかし、裏ぐり層はきわめて薄いことがうかがえる。

<小結>

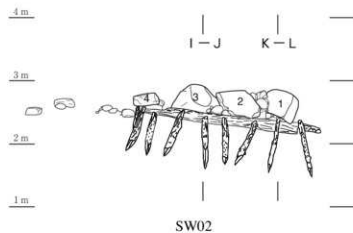
以上の検討を通じて94A区は石垣と土台木、杭列とによるコーナー部(入角)による(旧五条川への)張り出し面と内堀を有する平面プランとしても類例のない土木遺構であったことが推定できる。またその成立時期は少なくとも、天正14年(1586)以降だとされているところから、今後同様の事例検証にとってひとつの基準指標になるだろう。

2. 96区の土木構造物(土台木・石垣)遺構

この遺構はA地点の石垣遺構(A-1)と、石垣はすでに解体されて存在しないが、その南側に隣接して土台木列だけが残存する遺構(A-2)、さらにまた、A-1との接続が予想されるB・C地点について述べるものである。これらの遺構もまた、清須城伝本丸の東



第 266 图 SW01 立面图 (1 : 80)



第 267 图 SW02 立面图 (1 : 80)

Y-29.365

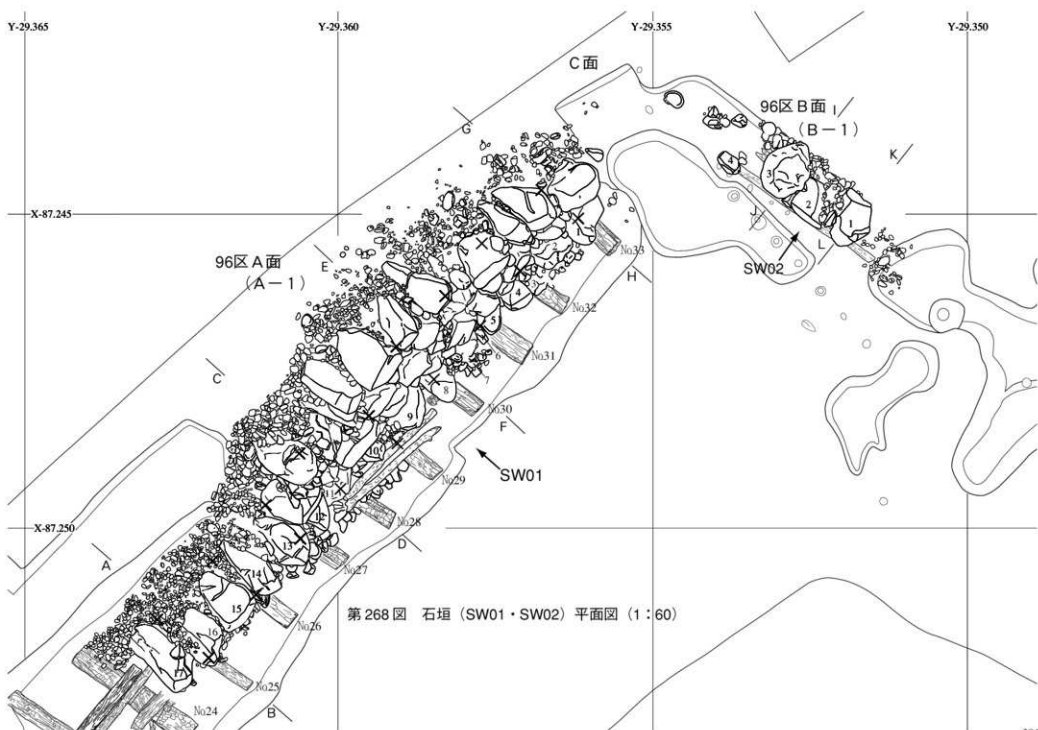
Y-29.360

Y-29.355

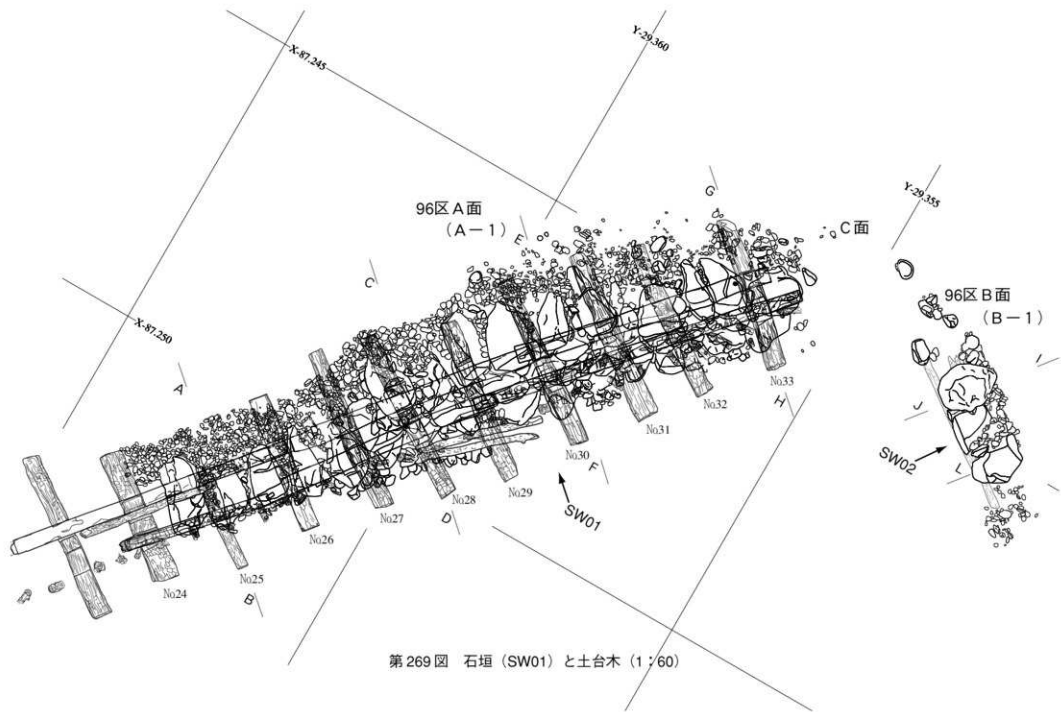
Y-29.350

X-87.245

X-87.250



第268図 石垣 (SW01・SW02) 平面図 (1:60)



第 269 図 石垣 (SW01) と土台木 (1:60)

側護岸、旧五条川(旧清洲川)沿いに展開された石垣であったことがうかがえる。

<A地点>

A地点での圧観は、何といても現在のところ他に類例をみない土台木遺構であろう。もっとも、それに加えて注目すべきものに長さ約11mにわたる残存する石垣遺構がある(第266図)。築石は3、4段分が残存し、本高さ(鉛直高)は土台木天端(高さ1.9m)から上方に1.9mを測る。築石は43石分、いずれも自然石が大半を占める。なかでも築石の石面形状は方形、方形崩し、長方形崩し、三角形の大・小を採用する。その最大のものは長さ1.0m、平均して70cm内外で、その控えはとくに長いものではなく、平均すると1.0cm内外のものが多い。また第266図では、「雑」と墨書された築石(23)が検出されており、この遺構が少なくとも慶長期かそれ以前であることをうかがわせる。また積み方は二石が傾くように重なる「あものり」(あん入りの餅、二段重ねの意)の築石(12~18)や24-1、38を除き、他はおおむね石面の長軸を水平になるように配石されている。もっとも横目は通らない。いわゆる乱積みである。またその勾配についてはE-F断面から60度が求められる(本報告書第9図)。

なかでも次述する特異な土台木構造物上に配架する一番築石(一段目の意)は、捨石とぐり石上に直接搭える根石部分に相当する。とくに一番築石13の縦石や、1の築石は最大級で6・3といった最小のものまでが存在する。この結果一番築石列は高さが揃わない。ここで興味深いものは一番築石のうち8・9・10・11・12である。とくに8・9・10はそれぞれ50cm・40cm・30cmと大きく前方へ突出する(第266図)。しかも二番築石23・21・20以降の勾配は変化し、60度に近い(第275図写真5)。それに対して、一番石7・6・5以下は孕みは顕著であるものの勾配はほぼ一定する(第275図写真5・6)。

以上を要約すれば、①勾配と一体化した一番築石

1~7の箇所、②8~11の根石状遺構に上積みされた箇所の問題に大別できる。このうち①の8・23・24・1・34の上下は、②の7の真上にかぶる傾向がうかがえる(第266図)。第266図の石垣には少なくとも二時期の積み直しが想定できるのである。つまり、一番築石の1~7が第I期、大きく前方へ突出した8~11の根石状築石を第II期の改修とみる。また12~17については二番石がすでに喪失してはいるものの、築石は8~11に近い。縦石13もまた、慶長期以前、なかでも、文禄・天正期に各地の城郭例に採用されている例に近い(安土・岡山・肥前名護屋・甲府他多数)。

また、内部構造としての石面に多用される詰石は、とくに1~7に目立つ(第268図)。これは石面がのちの元和・寛永期にいたり、加工石が主流に変化するからである。また石垣の背後に使う介石の使用が乏しいことであろう。介石には角石・角脇石・築石の控えの胴部、さらには石尻部の下端に水平に配する片平状の小型石をいい、副介石、尻介石として使用されることが多い。それらは石材を固定する目的と、石面の勾配角度を調整するための役割がある。また石尻部分に詰める裏ぐり石(栗石)は裏土層との境目から入れるが、主として排水機能をもつ。近年、境目に築石一段ないし一層(小石2、3段)ごとく大ぶりの石塊を一列に配し、裏土のぐり石への流入防止、裏土固めの機能をもつ事例が報告されている(岩国・丸亀・甲府・仙台・金沢等の城郭例)。当石垣には観察できない。

ところで第266図の立面に示す築石に必要なぐり石は、川原石の大・小を用いているが、石尻から50~60cm程度の幅でつき固めている。しかし、川原石による副介石の代用はわずかに認められるものの、介石はなきに等しい。介石を用いない理由として、①高い石垣を必要としなかったこと。②修改築をくり返したこと。③急いだ普請工事であったこと。などがあげられよう。

いわゆる「高石垣」（11間以上をさす）については、最近「のり返し」石垣の実例が各地の城郭で明らかになりつつある（拙稿「伝統技術からみた城郭石垣の勾配について」（『関西大学考古学研究室開設50周年考古学論叢』所収、平成15年4月刊行予定）、「のり返し」とは石垣の基礎高1間分の底辺幅を基準に、1間上がるごとに一定の割合減率をもって、底辺幅を減少させることをいう。その結果1間ごとでは傾斜角の矩（のり）であったものが、最終の完成した天端面では、全体としての「反り」を生む技法である。現在のところ、江戸・二条・大坂・熊本・高知・金沢・甲府・仙台の各城郭で確認されている。少なくとも慶長期以降の主要な城郭石垣には、従来からの矩（のり）とともに使用されていた。

次に介石を通じてみた清須城伝本丸石垣の①・②・③について検討する。①については本報告書第9図E-F断面でみた石垣は60°前後の勾配はとるが、1間ごとの「のり返し」はみられない。それは当石垣が「のり返し」以前の形態である傾斜角だけの矩（のり）を使ったことと、旧五条川の護岸的な役割をも担うからであろうか。近世の河川普請に一般的な勾配は傾斜角で、本高さも比較的低い。石垣の初源形態であった可能性もあるだろう。②については前述したように、I期・II期の修改修が十分考えられるところである。ところで城郭普請とはきわめて短期間で計画的に工事の完了を必要とする。そうした状況を改めて第266図に求めるなら、石材の大小の不統性と逆に裏ぐり石の共通性がうかがえる。従って当石垣遺構は、天正13年（1585）の大地震による噴砂整地後の翌14年以降を上限とし、その下限については前述した理由にもとづき慶長期とみなしたい。したがって当遺構は、天正・文禄・慶長期にまたがる技術的特徴を内包した石垣と考えられる。なお、B面石垣については後述する。

<96区A面石垣遺構にともなう土台木構造>

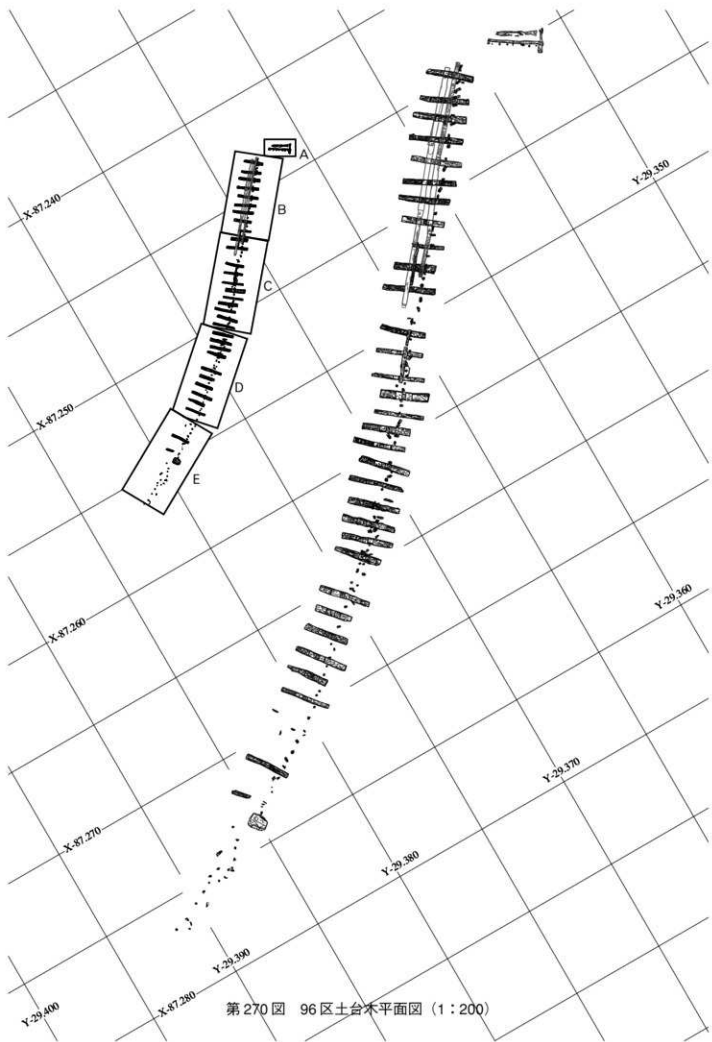
現在のところ、全国でも類例のない土台木構造物、

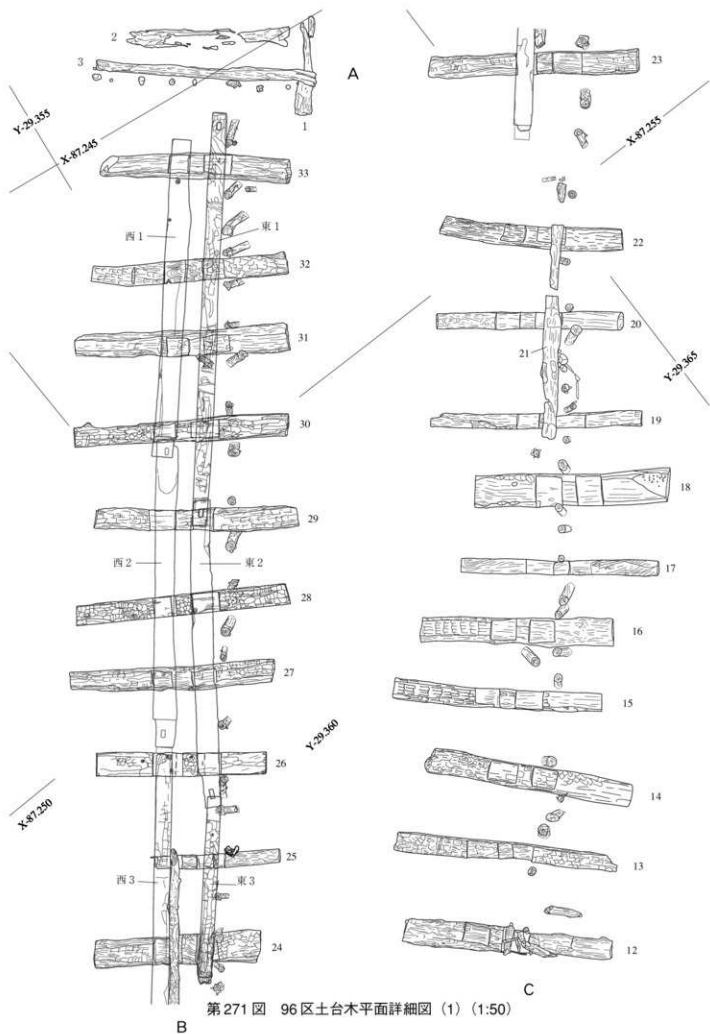
それが当96区A地点の土台木とささら木を組み合わせた構造物である（第268図の下方に第269図が存在）。しかし、実測直前の前夜の河川増水により、前後3本の2組みの土台木は翌朝には浮上し、原位置からはわずかに移動し、ささら木構造だけが現状をとどめていたのは惜まれる（第269図）。なお、本報告書写真図版4は増水直前の土台木である。

まず土台木の構造、とくに現状をとどめるささら木からみよう。これは前述した第265図94A区C地点の事例とは全く異なるもので、鉄道軌道の枕木とレールの関係に近い。つまり、レールが一、二番土台木で枕木がささら木に相当する（第268・269図）。ささら木（胴木No.19～28）の本口（木材の幹の口径にあたる）は、幅30～40cm、厚さは約20cmに対して控えの長さは最大で2.8m、最小で2.4m、平均すると2.6mの規格性の高いものである。ささら木の上端面には本口から末口へむけ、約80cmの位置に幅80cm内外の枠取りをし、それに前・後35cm内外で、深さが5～6cmのくり込み加工をほどこしている。土台木を前・後の枠内にはめ込みほぼ中央に築石をのせ、安定をはかろうとした。

ところで興味深い事実がある。それは石垣されたささら木本口のいくつかに不陸が認められることであろう（第266図）。そこでまずささら木と土台木がセットで完存する箇所として胴木No.24・第275図写真7を確認する。次にその本口（天端）の高さ（標高1.75m）を基準に水準線を胴木No.33へむけ通す。その結果はNo.28、29、33の本口は浮き上がり、逆にNo.30、32では沈下する傾向を観察することができる。このことは、石垣の解体作業以前に本口と土台木上に不等沈下現象がおこっていたことにはかならない。前述した第266図の石垣の孕み出しの大きな原因のひとつであろう。

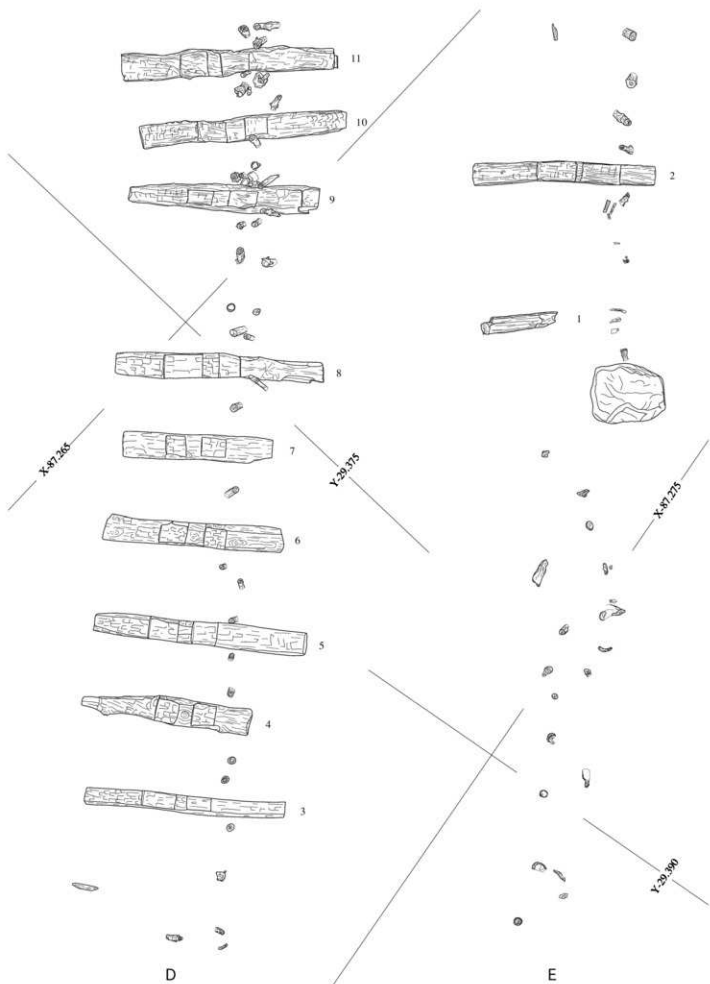
次に第268図からささら木上にある土台木列の復元を試みたい。まず、ささら木1本ごとの本口からくり込み枠までの長さ、末口から枠までの長さ





第 271 图 96 区土台木平面详细图 (1) (1:50)

B



第272図 96区土台木平面詳細図(2)(1:50)

それぞれ2点おさえ、それに×印をつける。ささら木上の2つの×印は、本来そこに位置したであろう一番土台木、二番土台木の外枠となるはずである。前掲第275図写真6をまじえて土台木の位置を復したのが第269・271図となる。土台木の位置は現存する胴木No.24での2本組みをもとに北端のささら木(胴木No.33)までとする。第268図によってささら木(胴木No.33)の枠内の×印2点を定め、胴木No.24での2本の土台木(第275図写真7)とを見通し線をつなぐ。一番土台木とささら木を固定する枕木の存在も検討材料となる。この作業で復元した土台木列が第269・271図となる。

この結果、胴木No.33での×印2ヶ所は土台木の配架が出来るかどうか微妙な位置にあるものの、No.24にいたるささら木の×印は推定土台木ライン(外端)にそわない。これでは土台木はささら木上で安定せず、石垣は構築できないだろう。おそらく、第269図もまた、増水時の影響を受けたものといわざるを得ない。

以上の検討を通じて、石垣遺構に配されたささら木に組む土台木(第275図写真7)、さらには枕木役割と仕組みがほぼ明らかにできたように思う。

<A-2地点 土台木遺構>

胴木No.24～33に引続き南部にのびる長さ50mに近い土台木遺構(実はささら木)が存在する(第270・271図)。すでに抜きとり痕となっているもの6本(概数)をふくめ23本が確認されている。掘えの長さは2.7m内外が中心で、その他は前述したものと変わらない。その配列も1間あたり2本程度で、おそらく現場設工者の判断にゆだねられた作業であったものと思われる。もっともこの工区でのささら木もまた第269図と同様の増水の影響は若干あったのであろうが、全体として旧状を保っているとみなしてよいだろう。

ここでひときわ注目されるのはささら木と一番(前面)土台木を固定するための枕木列である(第

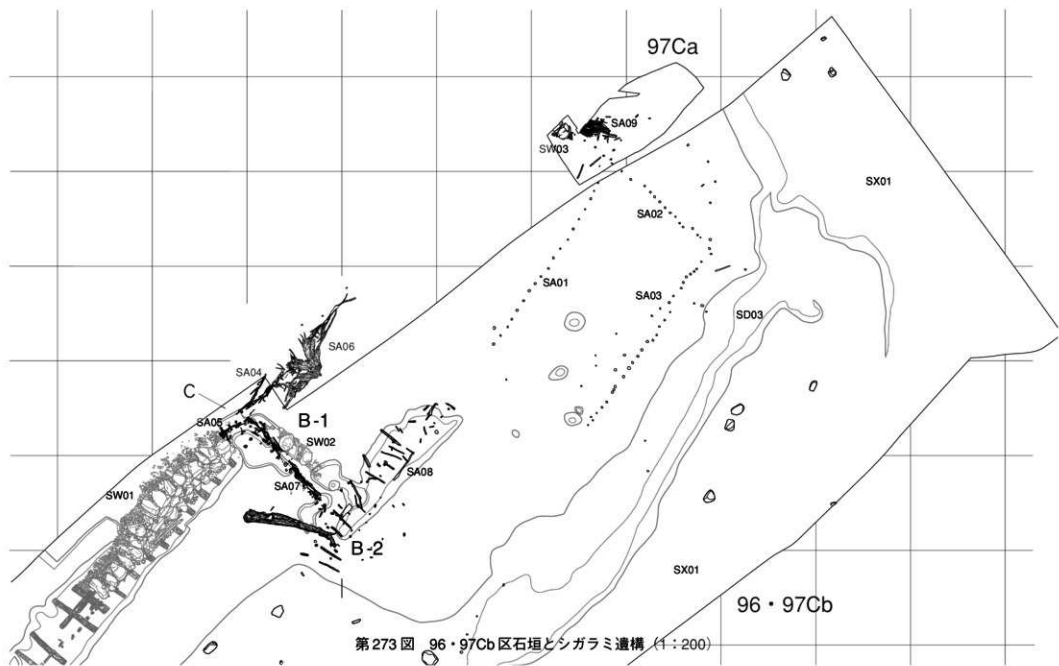
271図)。それはささら木のNo.24から数えて9番目(No.14)まで直線状に南行する枕木が、13番以降でわずかに西側へふり、No.23へむけ直進し(第276図写真8)、さらにNo.3とNo.2との間でさらにわずかにNo.1方向にふる(第270～272図)。このように原位置に固定された枕木列の方向性は土台木自体の方向性を指向している。こうしたわずかに湾曲した積み方を「しのご積み」と呼称する(第270図C・D・E)。短い直線を重ねた鈍角(90度以上)積みをいう。しのご積みもまた、天正・文禄期を中心に、自然地形を活用する山城の石垣に多用する技術のひとつである。実は本来は河川に用いられる技術を山岳城郭に採用した可能性もなくはない。

以上、96区A面の土木構造物(石垣遺構・土台木遺構)について述べたのであるが、ふれておくべき点があとひとつある。第264図に示されているように、A面の土台木構造物に隣接してゆるやかな畚状ラインが北方の97C区の台地形へと続く(第276図写真9)。土台木列はこの畚状に盛土造成されたなかに埋設されていたのである。土台木列は旧五条川の平時の水位では浸水は全くないものの、増水時には上層の石垣に及び(第266図)、97C区の台地形もその流路になることも予想できるところである。では、土台木列を埋設した理由は何か。

それには、一定幅の溝をつくり、それに量産にみあう規格性の高いささら木を枕木状に配することで、常時湿润状態を確保したものと私は考えている。現在のところ、全国に類例のない清須城伝本丸部の土台木列は、河川の護岸としての役割を担いながら機能したものでなかろうか。

<96区B・C地点土台木遺構>

第268・271図によると、96区B地点には4・3・2・1の築石と前・後2本の土台木が検出した(第267・268図)。一番土台木は長さが約3mに近く、その口径は厚さ20cm、幅15cmあり、本口・末口には喰違いの継口がある。したがって左右に土台木が延長さ



第273図 96・97Cb区石垣とシガラミ遺構 (1:200)

れた可能性はなくはない。もっとも第267図での96区B面によれば、4の築石を受ける一番土台木上端は標高が約2.6m、1の築石のそれは、標高約2.2mの不陸が生じている。また土台木固定のため長さ60cm平均の杭木も存在する(第267図)。しかし、ささら木は存在しない。また第268図でのB-1に配された4個の各築石は、A-1地点と同様自然石でその控えの長さは0.6~1.0cmになる。裏ぐり石は控えを埋める程度残存する。背後には土塁状の構造物が不可欠となる。

では、このB-1地点の石垣構築の目的は何であろうか。結論からいえば前掲第264図96区A-1の石垣ラインと直交する入角構造が必要だからであろう(B-1・Cの交点)。同様にB地点にはこの石垣と土台木構造物のほか、第273図のようにさらに前方に石垣遺構と交錯する杭木列が存在する(B-2・第276図写真10)。この杭木列はその後の発掘調査で、97C区の台地状張出し遺構の三方を仕切る大規模土木施設(長さ2mをこえる多数の杭木列、それにかませるシガラミ)の構造物であることが判明した(本報告書第15図)。これは第273図B-1の石垣遺構に先行するもので、湿潤地の開拓や河川普請などに用いられた伝統技術である(最近では江戸汐留遺跡)。軟弱な湿潤地の、張出し状台地の補強施設として注目される。

また第264図B-1石垣の土台木は、標高2.6~2.2mの上下幅にあって、A-1土台木から、少なくとも一段分底上げすることで、台地上のC地点に到達し、石垣構造としての体裁をなす入角部が成立する。当然のことであるが、裏ごめ石をもつ石垣にはコーナー部(隅角部)と、背後を受ける構造物(裏ごめ石・裏土層)を必要とすることはいうまでもない。後出するB-1の石垣遺構は、伝統的なわが国の土木技術に支えられて機能したといえよう。

3. 結語

清須城伝本丸東側護岸部に残された、土木構造物を中心に検討を加えた。第264図での94A区(A-1・2)については、ささら木を採用しない土台木の3本組み、4本組みが用いられた。それは軟弱湿潤地形を盛土で改良したものの、不等沈下など構造的には弱い難点を補うかたちで、大量の杭木列を使用したのもであろう。前述したように、96区の土台木は、全国でも類例のない長さを、規格したささら木を用いている。この特徴は一般的に江戸期に多用される2本組みの組土台と異なり、築石を中央部に配石してバランスを重視する。また積み方として「しのぎ角」を採用した。しのぎ角は早く天正・文禄・慶長期に採用された技術である。

94A区と96区での土台木構造(第264図)では、明らかに94A区が構造的には劣る。しかし、普請工期は短縮できる。そうしたことで96区は、あらたな河川災害への防止策として、護岸の機能を合わせもつ新しい技術の採用だといえないか。もっとも、94A区では、96区で採用したささら木を転用するが、それを採用した時期の新・旧については定かではない。

最後に提起しておきたい課題のひとつに、第264図94A区C・D地点、さらには96区B-1地点・C地点におけるそれぞれの「入角」の問題がある。両者はいずれも石垣構成上出角に対する構造体として、不可欠の構成要素である。97C区の張出し状台地遺構はそうしたことで重要であろう。ではなぜ台地形を必要とするのか。それは清須城の平面プランと関係する。清須城は主郭と旧五条川をはさみ、西側対岸部に城内機構の中心があったとされる。張出し台地遺構は、町屋をふくむ対岸の字「馬橋」に直面する位置にある。馬橋の呼称からみて、あるいは張出し状台地遺構が、「舟入り」とは別の施設として機能していた可能性も検討する必要があるかもしれないだろう。

(完)



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4

第 274 図 94A 区石垣・土台木写真



写真5



写真6



写真7

第275図 96区石垣・土台木写真(1)



写真 8



写真 9



写真 10

第 276 図 96 区石垣・土台木写真 (2)

V まとめ

これまでに、遺構、遺物、様々な分析結果を記述してきたが、ここではここで得られた成果をまとめ、清洲城下町遺跡全体の中でどのように位置付けられ、どのような意義付けができたかを整理して、まとめたい。まずは調査区毎に調査結果を整理し、そ

(I) 95A・B区

95A・B区は清洲城下町遺跡の南部地区に相当し、清須城下町の南端に所在する。95A・B区の東側を既に発掘調査と整理報告が行われており、城下町期Ⅲ期の町屋と櫓に類する区画などが存在したと想定した(鈴木編1995)。

95A・B区では、SD04とSD101、SD102とSD107という2組の平行して走る溝が確認された。SD04とSD101は南北方向とはややずれる方位、SD102とSD107はほぼ東西方向となるもので、両者は全く異なる方位の基準を持っていると考えられる。SD04とSD101はⅣSD8024とⅣSD8028に連続する溝と考えられ、道路ⅣSF8001の延長部分を構成すると推測される。また、SD102とSD107はⅣSD8025に連続する溝と想定され、東西方向に細長い長方形の区画(Ⅳ区画8005；城下町期Ⅲ-1期)を形成していると思われる。Ⅳ区画8005は南北方向で約20mの規模を持ち、その内部には多数の土坑などがあることから、

(II) 96・97C区

96・97C区は清洲城下町遺跡の本丸地区に相当し、清須城城郭東端部に該当する。本丸地区は92F区、93C区、94A区などが発掘調査され、既に報告書が刊行されている(鈴木編1997)。94A区では石垣が発見され大量の瓦が確認されており、96・97C区で検出された石垣やそれに伴う遺構群との関連性が問題となる。

第277図に93C区・94A区・96区・97C区を合成

の後に個別の問題点に若干言及することとする。なお、既報告の遺構番号は掲載された各報告書の略称に遺構番号を組み合わせて記述した(例として「清洲城下町遺跡Ⅳ」のSD8024は「ⅣSD8024」と表記する)。

屋敷(居住域)であったと想定される。加えてSD107の南側には井戸SE101などの遺構が存在すること、およびSD102の北側でも多くの土坑などが分布することなどから、Ⅳ区画8005の南北両側にも区画溝は確認できないものの屋敷の存在が想像できる(北側の区画を区画8014、南側の区画を区画8015と設定する)。Ⅳ区画8005と区画8014・8015は、Ⅳ区画8007～8010の配置と類似することからみて、幅15～20m程度の長方形区画が連続して配置される屋敷が展開したと考えられ、この状況から町屋が広がっていたと推定されよう。90Fa区でⅣSD8025はⅣSD8028に切られていることが判明しており、細長い長方形区画(町屋)が廃絶した後(城下町期Ⅲ-2期)に道路ⅣSF8001が構築されたと考えられる。ⅣSF8001に連動する区画8012も町屋廃絶後に形成されていたこととなり、大きな地割の変更と屋敷構成の組み換えが行われていたと評価される。

した遺構図を掲載した。この図を用いて遺構変遷の概要を記述する。

1 清須城成立以前

まず、城下町期よりも古い段階では、遺構が明確には確認されなかったものの、古瀬戸製品などの遺物が相当量出土している。96区出土資料で古瀬戸製品の時期別組成を算出すると(第40表参照)、四(三)

耳壺は古瀬戸前期・中期・後期を通じて一定量が出土していること、皿類や壺類などは古瀬戸後期から出土量が多くなっていることなどが分かる。一方、同時期に生産・流通していた山茶碗類について同様のデータを計算すると（第39表参照）、第4型式から第11型式まで一定量出土していることが明らかとなる反面、総出土破片数が古瀬戸製品よりも少ないことが判明した。

こうした状況から、96区の様相は2期に分けて考えることができる。まず、古瀬戸中期以前では四(三)耳壺や瓶子といった器種に限定されていることから、墓域など一般的な居住域とは異なる空間が96区付近に展開していたことが推定される。一方、古瀬戸後期段階には、供膳具が一定量見られるようになり、96区付近が居住域として利用され始めていたことが想定される。

このように清須城本丸推定地の城郭構築以前の様相が、出土遺物という傍証でしか論ずることができないが、それでもある程度具体的な推測ができたという成果は極めて重要であるといえよう。

2 城下町期前期（Ⅰ・Ⅱ期）

城下町期前期（Ⅰ・Ⅱ期）で確認された遺構には、溝状遺構SX02が存在する。SX02は、旧五条川と微妙に方位を違えながら平行し、掘削がはっきりしない状態の幅約7mの溝である。西側に展開する区画を区切る溝として理解されるが、区画の性格については今回の調査でも明らかにすることができなかった。出土遺物は土師器皿が比較的多い傾向を見て取ることができるが、大量に使用され廃棄されたという状況ではなさそうである。

このSX02が城下町期Ⅰ期の段階である程度埋積した後で、かつ石垣が構築される以前の遺構として5条の欄列群が存在する。欄列という遺構の形態上、明確に遺構に伴う遺物を検出することは事実上不可能に近く、実際SX02埋積以降、SW01構築以前ということ以外に時期の絞り込みはできなかった。SA04～SA09は全体として、幅約7m、長さ約24mの細長い長方形の空間を形成するかのよう配置されており、およそSX02の上位に位置している。欄列は枕

にしがらみが伴う構造であること、溝SX02の上位にあること、旧五条川に隣接することなどから、流路の締め切りや護岸施設であった可能性も考えられるだろう。SA08は約10m程構築されたのみで、北にはこれ以上展開しないことからみて、これらの欄列は長方形空間の両端を基礎固めしようとした構築物と考えられる。これらは、角杭による欄列が丸枕列によって補修された状況も観察されており、いくつかの段階を経ていることも推測される。

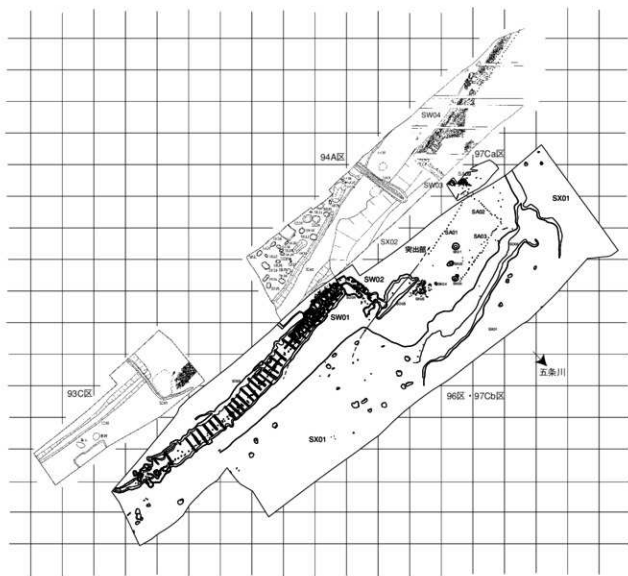
以上の所見から、城下町期Ⅱ期を前後する段階に、幅約7m、長さ約24mの細長い長方形の空間を形成し基礎固めするような欄列が構築されたといえよう。問題は、幅約7m、長さ約24mの細長い長方形の空間が何を意味していたのかであろう。状況からみて、河川（五条川）に面する張り出し状施設であることが想定されるが、これ以上の復元に際しては未だ十分な調査ができていない状態である。

3 城下町期後期（Ⅲ期）

城下町期後期（Ⅲ期）には石垣と内堀が構築され、清須城本丸に瓦葺建造物が建設されるようになる。石垣はSW01とSW02が確認され、遺構配置から見て94A区で検出されたSW03とSW04とは一連の構築物であったことが想定される。石垣の構築時期は少なくともSW04は天正地震（天正13年11月発生）以降であると確認されており、SW01～04は全て天正14（1586）年に以降に構築されたと推定されよう。

SW04の基礎構造はSW01とは異なり土台木を筏状に並べられており、SW01とSW04の構築事情が異なっていたことが考えられる。しかし、両者とも使用された材に着目すると、土台木A類と土台木B類の2種に限定されている点が共通であり、単に組み立て方が異なっているだけに過ぎない。したがって、土台木の調達自体はSW01～04については同時に行われていた可能性が高く、石垣を普請する際に技術者の相違などの理由により組み立て方が異なってしまったものと思われる。

さて、ほぼ同時期に構築されたと推測される石垣群SW01～04を全体の平面プランで概観すると、旧五条川流路に沿う形で北東から南西に広がっており、



第 277 図 本丸東側遺構配置図

中央付近で五条川に向かって突出部を形成するかのように入角となっている。南西部は基礎構造の規模を小さくしながらのき角で西側へ角度を振り、おそらく92F区で検出された内堀北肩に連続すると予想される。突出部(張り出し部)は石垣SW01とSW04の前面よりも一段高く作られ、突出部を護岸するかのように作られた石垣SW02とSW03もSW01とSW04より高い位置に所在している。

突出部前面にコ字状に展開する杭列SA01～SA03は、遺構の時期を特定することが極めて難しい。丸杭が使用されていたことから城下町期Ⅲ期に属する遺構であると仮定するならば、杭列SA02とSA03から一回り外側で突出部の掘削に至り、これより東側は五条川に向かうことからみて、突出部とSA01～03は一連の遺構であると考えられることもできる。

こうした遺構群は、清須城域郭の東端部に当たることから、基本的には城郭の外郭線を防御あるいは荘厳に飾るための施設であるといえる。石垣は高さが約4m位と復元され、突出部付近の川に面する部分をより荘厳に構築されていた。瓦類の出土状況は突出部周辺で大量に見られることが判明しており、この瓦が使用された建物付近で廃棄されたと仮定するならば、突出部付近にかなり大規模な瓦葺建造物が存在したことが予想される。また瓦の種類は、軒瓦に着目すると大形のもの(M100番台とH100番台の型式)と小形のもの(M300番台とH300番台の型式)に分けられ、小形のものは多門櫓などの庇か渡槽の軒先に利用された可能性が考えられる。小形のものが渡槽に利用されたものと仮定するならば、石垣の

(Ⅲ) 97B区

97B区は清洲城下町遺跡の五条橋地区に相当し、清須城域郭の対岸に該当する。既に発掘調査された61A区、63B区、93A区などに隣接しており、この部分については報告書が刊行されている(鈴木編1994・鈴木編1995)。61A区、63B区、93A区では城下町期から宿場町期の遺構が確認され、城下町期Ⅰ期では旧五条川とその付近の小規模な遺構群が、城下町期Ⅱ・Ⅲ期では旧五条川が埋積した後に小規模な溝や土坑などが発見された。また、宿場町期では

上位に小形瓦が使用された渡槽が展開し、突出部に規模の大きな多門櫓または城門のような建造物が存在したことが想像できる。問題は突出部の意義付けであろう。

ここで、清須城に関連する絵図を確認しておきたい。まず「春日井郡清須村古城絵図」に着目する。96区などに該当する部分は、本丸と記された郭から川に向かって張り出した部分が2ヶ所存在し、それに挟まれた部分は「水堀」と記述され水色に塗られている。この記載からみて、検出された遺構は南側の張り出し部分と水堀と位置付けられるが、突出部の性格付けに寄与できる情報を読み取ることまではできない状況である。次に「清須古城之図」では堀が三重に階段状に描かれており、96区などに該当する部分がどこに相当するか判別が難しい状態である。最後に白杵市図書館蔵の「尾州清須之古城図」について検討する。これは高田徹氏の指摘によってようやく筆者もその存在を知ることができた図面で、筆者が清須城を考察する上では初めて使用する資料である。96区などに該当する部分は「二」と記された堀で囲まれた郭の東側に相当すると考えられ、そこはちょうど土橋状に堀が途切れた状態に描かれている。この絵図の記述を信用すれば、検出された突出部は出入り口施設の可能性が高くなるだろう。

以上、現段階で提示できる材料と仮説をいくつか提示した。現状は決定的な結論を出す状態ではないが、今後とも様々な可能性を考慮しながら清須城域郭の復元を試みていく必要があるだろう。

町屋敷に伴う井戸などの遺構が確認されている。

調査の結果、97B区では調査区の大部分は旧五条川と推測される自然流路が確認された。流路内からは護岸の構列などが存在しており、流路内からは様々な種類の遺物が多数出土した。具体的な性格を特定することは難しいが、この付近での人々の活動が城下町期Ⅰ期の段階から活発であったことが追認されよう。旧流路ではない南東部では、土坑や溝、井戸などが確認されている。この中でSD01・02がIV

SD4031やⅣSD4033と対応する溝になる可能性がある。この他の井戸SE01などの遺構は宿場町期に属すると推測される。

(Ⅳ) 99A・99B区

99A・99B区は清洲城下町遺跡の本町地区および南部地区に相当し、隣接する89C区、89F区、91A区、91B区などが既に発掘調査されており、報告書が刊行されている（鈴木編1994・鈴木編1995）。99A区では、89C区や91A区などの成果からみると、城下町期Ⅰ・Ⅱ-1期には武家屋敷と推定される区画6006の内部、城下町期Ⅱ-2期以降は町屋と推定された区画6024などに相当すると考えられた。また、99B区では、89F区や91B区などの成果からみると、城下町期Ⅱ期以前には顕著な遺構は認められず、城下町期Ⅲ期以降には町屋と推定された区域と想定されている。

99A・99B区では城下町期Ⅰ期などに属する古い遺物が若干量存在するものの、遺構と遺物の大部分は城下町期Ⅲ期に属するものであった。99A区では、ほぼ東西方向に走る幅約4mの溝SD13と幅2m前後を測る溝SD14が検出されている。出土遺物からみて城下町期Ⅲ期に属するこの溝群は、89F区で確認されたⅣSD7002と平行することからみて、SD13とSD14の間は道路、SD14とⅣSD7002との間が屋敷と想定される区画と考えることができる。SD13の北側とSD14の南側では、多数検出された井戸の配置の方向が微妙に異なっていることなどから、SD13とSD14で構成される道路を境に地割が異なっている可

能性が指摘できよう。99A区のSD11や99B区のSD01・SD11のように、SD14の南側でおおよそ南北方向に走る溝が存在することを積極的に取り上げれば、これらの溝はSD13とSD14で作る道路に面して細長い区画が設定され、短冊型地割の町屋を推定することもできよう。99B区SD11の南側では井戸が多数確認され、これらは大きく分布のまとまりを3ヶ所で認めることができる。99B区SD11の南側では、東西方向に細長い区画が南北方向に並ぶ屋敷を想定することができ、これが短冊型地割の町屋であると解釈することもできる。

こうした遺構配置からみた屋敷の推測は、あくまで推測でしかなく別の仮説を提示することも可能である。しかし一方で、遺物などから見たい99A区と99B区の評価でも町屋であったことを窺わせる資料が存在する。99A区では、小形のとりべや銅滴、羽口などの銅製品生産（銅細工師の存在）を推定させる資料が多数出土している。また、99A区SK248では貯穀性昆虫遺体が多数確認され、米を商う商人の存在が近隣に想定される成果も得られている。こうしたことから、遺構から想定復元された屋敷には様々な職種の商職人が生活を営んでいたことが明らかとなってきたといえる。

報告書抄録

ふりがな	きよすじょうかまちいせき 8							
書名	清洲城下町遺跡Ⅶ							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第99集							
編著者名	宮腰健司、鈴木正貴、北垣聰一郎、北野信彦、堀木真美子、植田弥生、森勇一、(株)バリノ・サーヴェイ、井上巖							
編集機関	愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町前々須新田野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2002年 8月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
きよすじょうかまち 清洲城下町 いせき 遺跡	にしかがいでん 西春日井郡 きよすちょうこじょうほか 清洲町古城他	23346	21002	35度 2分 58秒	136度 6分 57秒	19951101 ～ 20000331	8500㎡	河川改修
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
清洲城下町 遺跡	城館	戦国時代	石垣と基礎構造、 内堀、溝、土坑、 井戸、自然流路 など	瀬戸美濃窯産陶器、 土師器、瓦、 土台木など木製品、 石器・石製品、 金属製品および その関連遺物など		清須城城郭東側 の石垣とその基 礎構造物 清須城下町の町 屋遺構		

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第99集

清洲城下町遺跡Ⅷ

本文編

2002年8月31日

編集・発行 財団法人愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 サンメッセ株式会社

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第99集

きよ す じょう か まち
清洲城下町遺跡 VIII

資料編

2002

財団法人愛知県教育サービスセンター

愛知県埋蔵文化財センター

資料編目次

付表	2
遺構一覽表	3
遺物一覽表	9
軒丸瓦一覽表	57
軒平瓦一覽表	81
金属製品・金属関連遺物一覽表	97
CD-ROM 掲載表一覽	129
図版	131
図版（遺構図版）	132
写真図版	143

遺構一覧表凡例

この一覧表は、本書掲載の遺構図に収録された全遺構を調査区毎にまとめたものである。

1. 遺構番号は、本書掲載遺構図の番号で、各調査区毎で調査時に使用した表記をそのまま使用している（ただし99A・B区の第2面遺構については1000番台の表記に変更した：例SK01→SK1001等）。遺構記号は次の通りである。

SK：土坑、SD：溝、SW：石垣、SX：その他の遺構、NR：自然流路、P：ピット

2. グリッドは、国土座標（平面直角座標）第Ⅴ系（旧基準「日本測地系」）によって100mグリッドと5mグリッドを設定した。グリッドの名称は上2桁が100m、下2桁が5mグリッドを示している。1桁目ローマ数字—100mグリッドの南北方向の位置、2桁目大文字アルファベット—100mグリッドの東西方向の位置、3桁目算用数字—5mグリッドの南北方向の位置、4桁目小文字アルファベット—5mグリッドの東西方向の位置を各々示す。

3. 長軸、短軸、深さは、検出された遺構の規模をm単位で計測したものである。数値の前に記された「残」は残存した部分のみの計測値を示している。

4. 時期は、出土遺物等の検討から、城下町期と宿場町期に区分し下記のように細分した。詳細は「清洲城下町遺跡Ⅴ」（鈴木編1995）を参照されたい。

城Ⅰ期：城下町期Ⅰ期

城Ⅰ-1期：城下町期Ⅰ-1期（15世紀後葉～16世紀初頭）

城Ⅰ-2期：城下町期Ⅰ-2期（16世紀前葉）

城Ⅱ期：城下町期Ⅱ期

城Ⅱ-1期：城下町期Ⅱ-1期（16世紀中葉）

城Ⅱ-2期：城下町期Ⅱ-2期（16世紀後葉～1586年）

城Ⅲ期：城下町期Ⅲ期

城Ⅲ-1期：城下町期Ⅲ-1期（1586年～17世紀初頭）

城Ⅲ-2期：城下町期Ⅲ-2期（17世紀初頭～17世紀前葉）

宿場町期（17世紀中葉～19世紀中葉）

遺物一覧表凡例

1. 図版番号（遺物番号）は、本文掲載の実測図の番号である。遺物の収納もこの図版番号によって整理されている。

2. 遺構番号は、本書掲載遺構図の番号である。

3. 時期は、各遺物の生産地の編年による位置付けを略称で記入した。瀬戸美濃窯産陶器については大部分を藤澤良祐氏に鑑定いただいた。ただし、もし誤謬等があればその責は筆者（鈴木）にある。

4. 法量はcm単位で記入した。数値の前に記された「残」は残存した部分のみの計測値を、数値の前に記された「推」は復元推定値を各々示している。

5. 調整痕や使用痕については「内面」と「外面」に区分して記入した。

6. 胎土は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帳」に準じた色調を記入した。

95A・B区

道橋番号	アロード	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
SK001	並D19-20s	横36	1.76	0.48	95B	
SK001	並D17-19s	9.50	1.00	0.13		
SK002	並D18-20p	横13.10	1.30	0.26	城壁-2期	95A
SK003	並D1-3p	横6.64	1.00	0.47		95A
SK004	並D1-4s,7s,7s,7s	横11.95	0.94	0.24	城壁-2期	95A
SKD101	並D11-13s	横8.20	0.82	0.04	城壁-2期	95B
SKD102	並D15m,n,o	横9.80	2.64	0.57	城壁-2期	95B
SKD103	並D15m	横9.96	0.48	0.11	95B	
SKD104	並D15-16s	横2.48	0.52	0.07	95B	
SKD105	並D16m	横2.30	0.50	0.07	95B	
SKD106	並D18s	横1.74	0.50	0.22	95B	
SKD107	並D19m,n,o	横8.46	1.60	0.19	城壁-2期	95B
SKD108	並D20m,n,o	横9.20	1.40	0.29	城壁-2期	95B
SKD109	並D1-2m,n,o	横7.90	1.20	0.10	城壁-2期	95B
SKD110	並D2m,n	横1.28	0.62	0.12	城壁-2期	95B
SKD501	並D19-1s	横18.0	1.40	0.30		
SKD502	並D10s	横6.2	2.00			
SKD503	並D12-3s	横10.0		0.70		
SK001	並D17s,p	横1.65	1.28	0.16	95A	
SK002	並D17s,p	2.34	1.48	0.19	95A	
SK003	並D17s,o	横2.08	2.35	0.08	95A	
SK004	並D18s	横0.48	0.62	0.13	95A	
SK005	並D17-18s	0.94	0.66	0.35	城壁-2期	95A
SK006	並D18s,o	横0.62	0.92	0.11	城壁-2期	95A
SK007	並D18s	1.08	0.90	0.10	95A	
SK008	並D18s	1.18	0.88	0.09	95A	
SK009	並D18s	1.12	0.86	0.59	95A	
SK010	並D18s	1.36	1.30	0.22	城壁-2期	95A
SK011	並D18s	0.90	0.52	0.24	95A	
SK012	並D18p	0.64	0.60	0.31	95A	
SK013	並D18p	横1.30	1.30	0.11	95A	
SK014	並D18-19s,p	2.98	1.76	0.15	95A	
SK015	並D18p	1.36	1.06	0.46	95A	
SK016	並D18p	0.64	0.56	0.14	95A	
SK017	並D18p	横0.42	0.52	0.05	95A	
SK018	並D12-3p	1.50	1.16	0.64	95A	
SK019	並D18p	0.60	0.70	0.04	95A	
SK020	並D12-3p	横1.08	2.32	0.20	城壁-2期	95A
SK021	並D18p	1.06	0.66	0.02	95A	
SK022	並D18p	1.22	1.02	0.94	城壁-2期	95A
SK023	並D18p	1.08	0.74	0.28	95A	
SK024	並D18p	0.62	0.46	0.07	95A	
SK025	並D18p	横0.60	0.70	0.21	城壁-2期	95A
SK026	並D18p	横0.64	0.58	0.27	城壁-2期	95A
SK027	並D18p	0.96	0.96	0.07	城壁-2期	95A
SK028	並D18p	横0.50	0.64	0.32	95A	
SK029	並D18p	0.64	0.50	0.11	95A	
SK030	並D18-4p	横0.60	0.88	0.30	95A	
SK031	並D14p	横0.70	0.86	0.26	95A	
SK101	並D11s	横0.80	0.94	0.38	城壁-2期	95B
SK102	並D11-12s	0.62	0.52	0.13	95B	
SK103	並D11-12s	1.00	0.68	0.35	95B	
SK104	並D12s	0.82	0.68	0.34	城壁-2期	95B
SK105	並D12s	0.78	0.58	0.29	95B	
SK106	並D12s	0.24	0.24	0.12	95B	
SK107	並D12-13s	0.60	0.52	0.36	城壁-2期	95B
SK108	並D12-13s	0.98	0.90	0.39	城壁-2期	95B
SK109	並D12-13s	0.64	0.62	0.16	城壁-2期	95B
SK110	並D13s	0.48	0.44	0.09	95B	
SK111	並D13s,n	1.78	1.26	0.65	城壁-2期	95B
SK112	並D13s	0.74	0.54	0.27	95B	
SK113	並D13-14s	0.92	0.76	0.49	95B	
SK114	並D14s,n	0.62	0.38	0.22	95B	
SK115	並D14s	0.38	0.36	0.21	95B	
SK116	並D14s	0.34	0.24	0.13	95B	
SK117	並D14m,n	0.62	0.45	0.20	95B	
SK118	並D14s	0.42	0.38	0.16	95B	
SK119	並D14s	0.78	0.66	0.46	95B	
SK120	並D14m	0.84	0.68	0.30	95B	
SK121	並D14s	1.30	1.12	0.30	95B	
SK122	並D14-15s	横0.70	0.78	0.32	95B	
SK123	並D14s	横0.62	1.64	0.46	95B	
SK124	並D14-15s	横0.60	1.22	0.47	城壁-2期	95B

道橋番号	アロード	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
SK125	並D15s	横1.74	0.76	0.22	95B	
SK126	並D15s	横1.14	1.06	0.48	城壁-2期	95B
SK127	並D15s	横1.86	1.16	0.45	城壁-2期	95B
SK128	並D15-16s	1.52	1.12	0.28	95B	
SK129	並D16s	横0.60	1.20	0.33	城壁-2期	95B
SK130	並D16s	横0.52	0.60	0.08	城壁-2期	95B
SK131	並D16s	0.56	0.46	0.11	95B	
SK132	並D16s,o	0.90	0.38	0.21	95B	
SK133	並D15m,n	1.10	0.90	0.15	城壁-2期	95B
SK135	並D16m,n	0.86	0.52	0.37	95B	
SK136	並D16m	1.00	0.80	0.31	城壁-2期	95B
SK137	並D16m	1.20	0.78	0.37	城壁-2期	95B
SK138	並D16m	0.80	0.62	0.15	95B	
SK139	並D16s	0.54	0.40	0.03	95B	
SK140	並D16s	1.40	0.86	0.33	城壁-2期	95B
SK141	並D16s,o	1.38	0.76	0.15	城壁-2期	95B
SK142	並D16m	横1.06	0.78		95B	
SK143	並D16m	0.96	0.84	0.18	95B	
SK144	並D16-17s	1.12	0.82	0.26	城壁-1期	95B
SK145	並D17s	横0.80	1.00		95B	
SK146	並D17s	1.04	0.89	0.59	城壁-2期	95B
SK147	並D17s	0.72	0.60	0.32	95B	
SK148	並D16m	横0.49	0.42	0.05	95B	
SK149	並D16m,17s,o	横0.76	0.74	0.31	城壁-2期	95B
SK150	並D16m,17s,o	0.94	0.82	0.28	95B	
SK151	並D17s	0.90	0.78	0.27	城壁-2期	95B
SK152	並D17s	0.52	0.20	0.18	城壁-2期-1	95B
SK153	並D17s	0.82	0.48	0.24	城壁-2期	95B
SK154	並D17s	1.22	1.02	0.49	95B	
SK155	並D17m,n	0.92	0.78	0.22	95B	
SK156	並D18m,n	0.64	0.48	0.17	95B	
SK157	並D17-18s	0.60	0.32	0.17	95B	
SK158	並D18s	0.80	0.68	0.23	城壁-2期	95B
SK159	並D17s	1.20	0.86	0.49	95B	
SK160	並D17-18s	横1.50	0.74	0.42	95B	
SK161	並D18s	横0.90	0.96	0.52	城壁-2期	95B
SK162	並D18s	1.08	0.68	0.42	城壁-2期	95B
SK163	並D18s	0.42	0.32	0.15	95B	
SK164	並D18s	横0.96	0.66	0.45	95B	
SK165	並D18s	0.66	0.52	0.38	95B	
SK166	並D18-19s	0.74	0.74	0.51	95B	
SK167	並D19s	0.54	0.54	0.17	95B	
SK168	並D19m,n	0.80	0.76	0.41	95B	
SK169	並D20s	1.36	1.08	0.18	城壁-2期	95B
SK170	並D20s	1.10	0.70	0.33	95B	
SK171	並D18s	横1.24	0.80	0.04	95B	
SK172	並D18s	1.24	1.08	0.26	95B	
SK173	並D18s	0.58	0.52	0.27	95B	
SK174	並D18s	0.92	0.74	0.18	95B	
SK175	並D1-2s	横0.78	0.78	0.13	95B	
SK176	並D18s	横0.22	0.30	0.05	95B	
SK177	並D18s	0.96	0.84	0.25	95B	
SK178	並D18s	1.32	1.10	0.34	95B	
SK179	並D14s	1.60	1.56	0.40	95B	
SK180	並D14-15s	2.20	1.78	0.50	城壁-2期	95B
SK181	並D14-15s	2.12	1.60	0.37	城壁-2期	95B
SK182	並D16s,o	1.60	1.32	0.47	城壁-2期	95B
SK183	並D16m,n	横1.54	1.42	0.64	城壁-2期	95B
SK184	並D16m	横1.54	1.46	0.48	城壁-2期	95B
SK185	並D18s	1.72	1.32	0.24	95B	
SK186	並D16m	2.06	1.08	0.14	95B	
SK187	並D17m,n	0.42	0.38	0.03	95B	
SK188	並D16-17s	1.16	1.12	0.26	95B	
SK189	並D16-17s	横1.80	1.14	0.40	城壁-2期	95B
SK190	並D16s	横0.46	0.90	0.16	95B	
SK191	並D18-19s	3.04	1.35	0.11	城壁-2期	95B
SK192	並D16s,o	横1.72	1.50	0.40	城壁-2期	95B
SK193	並D15-16s	横1.10	1.70	0.46	城壁-2期	95B
SK194	並D15m,n,16s	1.96	0.84	0.39	城壁-2期	95B
SK195	並D12s	横0.22	0.38	0.09	95B	
SK196	並D12s	0.86	0.60	0.23	95B	
SK197	並D12s	0.56	0.52	0.23	城壁-2期	95B

遺構一覧表

遺構番号	アゾッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
SK198	㊦ D2c	0.96	0.58	0.20		95B
SK199	㊦ D2c	0.98	0.84	0.39	城塞期	95B
SK200	㊦ D2c	0.20	0.18	0.04		95B
SK201	㊦ D2c	0.40	0.32	0.10		95B
SK202	㊦ D2c	0.82	0.84	0.28	城塞二期	95B

遺構番号	アゾッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
SK203	㊦ D2c	0.60	0.58	0.20		95B
SK204	㊦ D2c-a	0.90	0.84	0.13		95B
SK205	㊦ D2c	0.80	0.44	0.29	城塞期	95B
SK206	㊦ D12.13a	0.94	1.90	0.66		95B
SK207	㊦ D13a	1.80	1.70	0.62	城塞二期	95B

96区

遺構番号	アゾッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
S001	㊦ G9-14a-e	0.90	1.35			96
S003	㊦ G9-12a-j	28.00	4.40	0.98	城下町Ⅰ・Ⅱ期	96
S004	㊦ G9-10k	3.60	1.60	0.13		96
S005	㊦ G9-10k.l	9.10	2.70	0.25		96

遺構番号	アゾッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
SK01	㊦ G9a	1.12	1.00	0.31		96
SK02	㊦ G9a	1.10	0.72	0.29		96
SK03	㊦ G9a	0.95	0.71	0.17		96
SK04	㊦ G9f	0.98	0.70	0.55		96

97B区

遺構番号	アゾッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
SK01	㊦ G11c	1.85	1.42	0.85	城下町Ⅰ期	97B
SK01	㊦ G11d,e	0.85	1.30	0.46	城下町Ⅰ期	97B
SK02	㊦ G11d,e	0.60	0.25	0.22		97B
SK03	㊦ G10.11.12c,d,e	12.25	0.58	0.28		97B
SK04	㊦ G10c,d	0.82	0.95	0.14		97B
SK05	㊦ G10.11c,d	0.80	1.95	0.26		97B
SK01	㊦ G11.12b	0.90	0.80	0.09	城下町Ⅰ・Ⅱ期	97B
SK02	㊦ G12b	0.90	0.59	0.07	城下町Ⅰ期	97B
SK03	㊦ G12b,c	0.65	0.48	0.10		97B
SK05	㊦ G12c	0.67	0.55	0.22		97B
SK06	㊦ G12c	1.11	0.60	0.33	城下町期	97B
SK07	㊦ G12c	0.63	0.55	0.06		97B
SK08	㊦ G11.12c	0.63	0.58	0.12	城下町前期	97B
SK09	㊦ G11c	0.70	0.61	0.12		97B
SK10	㊦ G12c	0.93	0.35	0.14	城下町Ⅰ期	97B

遺構番号	アゾッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
SK11	㊦ G12c	0.45	0.30	0.14		97B
SK12	㊦ G12c	0.40	0.38	0.10	城下町Ⅰ期	97B
SK13	㊦ G12c	0.80	0.65	0.19	城下町Ⅰ期	97B
SK14	㊦ G11.12d	3.15	0.76	0.74	城下町Ⅰ期	97B
SK16	㊦ G11.12c	3.55	2.70	0.50	城下町Ⅰ期	97B
SK17	㊦ G10.11d,e	5.13	1.25	0.28	城下町Ⅰ期	97B
P01	㊦ G12c	0.45	0.35	0.22		97B
P02	㊦ G12c	0.35	0.38	0.25		97B
P03	㊦ G12c	0.90	0.48	0.19		97B
P04	㊦ G12d	0.55	0.43	0.18		97B
P05	㊦ G11d	0.63	0.42	0.08		97B
P06	㊦ G11d	0.25	0.20	0.07		97B
P07	㊦ G11d	0.35	0.33	0.15		97B
P08	㊦ G11d	0.40	0.35	0.26		97B
P09	㊦ G10.11d	0.40	0.38	0.07		97B

99A区

遺構番号	アゾッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
SK01	㊦ E15-10aa,210aa	0.92	0.14	-	宿禰町期	99A区Ⅰ
SK01	㊦ E15-16a	0.60	1.14	0.58	城塞二期	99A区Ⅰ
SK02	㊦ E15-14k.l	0.76	2.44	0.63	城塞二期	99A区Ⅰ
SK03	㊦ E15-14a	0.90	0.80	0.48	城塞二期	99A区Ⅰ
SK04	㊦ E15	0.76	1.76	0.51	城塞二期	99A区Ⅰ
SK05	㊦ E15k	0.76	1.28	0.29	城塞二期	99A区Ⅰ
SK06	㊦ E15-12a	0.64	0.36	0.19	城塞期	99A区Ⅰ
SK07	㊦ E15-11a	0.60	0.38	0.18	城塞期	99A区Ⅰ
SK08	㊦ E9-11f,9-10b	0.86	0.32	0.10	城下町期	99A区Ⅰ
SK09	㊦ E15	0.80	0.28	0.11	城下町期	99A区Ⅰ
SK10	㊦ E15	0.72	1.70	0.36	城塞期	99A区Ⅰ
SK11	㊦ E15-14k.l,14m	0.18	3.58	1.12	城塞二期	99A区Ⅰ
SK12	㊦ E15-13k.l	0.40	2.80	0.65	城塞二期	99A区Ⅰ
SK13	㊦ E15-12m,n	0.80	4.94	1.19	城塞二期	99A区Ⅰ
SK14	㊦ E15-11m	0.68	1.68	0.70	城塞期	99A区Ⅰ
SK01	㊦ E15a	0.42	0.36	0.52	城塞二期	99A区Ⅰ
SK02	㊦ E15a	0.20	0.60	0.30	城塞期	99A区Ⅰ
SK03	㊦ E15a	0.60	0.58	0.34	城塞二期?	99A区Ⅰ
SK04	㊦ E15a	0.68	0.26	0.08		99A区Ⅰ
SK05	㊦ E15-16a	0.66	0.60	0.21	城下町期	99A区Ⅰ
SK06	㊦ E15a	0.50	0.46	0.27	城下町期	99A区Ⅰ
SK07	㊦ E15a	0.80	0.52	0.17	城下町期	99A区Ⅰ
SK08	㊦ E15a	0.48	0.72	0.35	城塞期	99A区Ⅰ
SK11	㊦ E15a	0.88	0.52	0.25	城塞期	99A区Ⅰ
SK12	㊦ E15a	0.74	0.90	0.39	城塞期	99A区Ⅰ
SK13	㊦ E15a	0.82	0.80	0.28	城塞期	99A区Ⅰ
SK14	㊦ E15a	0.98	1.98	0.40	城塞期	99A区Ⅰ
SK16	㊦ E15a	0.40	0.58	0.17	城下町期	99A区Ⅰ
SK17	㊦ E15a	0.60	0.66	0.38	城塞期	99A区Ⅰ
SK18	㊦ E15a	0.40	0.30	0.14		99A区Ⅰ
SK20	㊦ E15a	1.64	0.60	0.78	城塞二期	99A区Ⅰ
SK22	㊦ E15k	0.72	1.32	0.40	城塞期	99A区Ⅰ

遺構番号	アゾッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
SK24	㊦ E15-16a	0.96	0.62	0.39	城塞期	99A区Ⅰ
SK25	㊦ E15a	0.76	0.60	0.23	城塞二期	99A区Ⅰ
SK26	㊦ E15a	0.32	0.36	0.14		99A区Ⅰ
SK27	㊦ E15a	1.10	1.02	0.35	城塞期	99A区Ⅰ
SK28	㊦ E15a	0.32	0.32	-	城下町期?	99A区Ⅰ
SK29	㊦ E16a	-	-	0.36	宿禰町期?	99A区Ⅰ
SK30	㊦ E15a	0.48	1.42	-	城塞期	99A区Ⅰ
SK31	㊦ E15-16a	0.74	0.42	0.87	城塞二期	99A区Ⅰ
SK32	㊦ E15a	1.84	1.72	0.80	城塞二期	99A区Ⅰ
SK33	㊦ E15a	0.80	0.68	0.22	城塞期	99A区Ⅰ
SK34	㊦ E15a	0.60	0.80	0.58	宿禰町期?	99A区Ⅰ
SK36	㊦ E16a	0.24	0.56	0.20		99A区Ⅰ
SK37	㊦ E16a	0.94	0.56	0.32	城下町期	99A区Ⅰ
SK38	㊦ E16a	0.32	0.58	0.27		99A区Ⅰ
SK39	㊦ E15a	0.54	0.50	0.41	城下町期	99A区Ⅰ
SK40	㊦ E15a	0.40	0.78	0.15	城塞期	99A区Ⅰ
SK41	㊦ E16k.l	0.62	1.50	0.21	城塞期	99A区Ⅰ
SK42	㊦ E16a	0.36	0.90	0.14	城下町期	99A区Ⅰ
SK43	㊦ E15a	0.80	0.60	0.18	城塞期	99A区Ⅰ
SK44	㊦ E15-16k.l	3.68	3.10	2.08	城塞二期	99A区Ⅰ
SK45	㊦ E15a	0.48	0.42	0.29	城下町期	99A区Ⅰ
SK46	㊦ E15a	0.90	0.78	0.29	城下町期	99A区Ⅰ
SK47	㊦ E15a	0.46	0.60	0.39	城下町期	99A区Ⅰ
SK48	㊦ E15a	0.54	0.46	0.29	城塞期	99A区Ⅰ
SK49	㊦ E15a	0.64	0.58	0.42	城下町期	99A区Ⅰ
SK50	㊦ E15a	0.32	0.28	0.14		99A区Ⅰ
SK51	㊦ E15a	0.60	0.54	0.14	城下町期	99A区Ⅰ
SK52	㊦ E15k.l	0.90	0.76	0.24	城下町期	99A区Ⅰ
SK53	㊦ E15a	0.80	0.74	0.66	城塞期	99A区Ⅰ
SK54	㊦ E15a	0.76	0.94	0.96	城下町期	99A区Ⅰ
SK55	㊦ E15a	0.64	0.54	0.20	城下町期	99A区Ⅰ
SK56	㊦ E15a	0.70	0.60	0.17	城下町期	99A区Ⅰ

遺構番号	アゾド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
SK57	葎E11	埴0.62	0.64	0.21		99A1層目
SK58	葎E11	埴0.48	0.44	0.20	城下前期	99A1層目
SK59	葎E11	埴0.38	0.42	0.27	城下前期	99A1層目
SK60	葎E11	0.52	0.44	0.32	城下前期	99A1層目
SK61	葎E11	0.62	0.52	0.16	城下前期	99A1層目
SK62	葎E4-15k	0.60	0.60	0.17		99A1層目
SK63	葎E4-15l	0.54	0.48	0.12		99A1層目
SK64	葎E4-1	0.50	0.44	0.19	城下前期	99A1層目
SK65	葎E4k	埴0.24	0.34	0.28	城下前期	99A1層目
SK66	葎E4k	0.62	0.60	0.57		99A1層目
SK67	葎E4k	0.64	0.52	0.22	城下前期	99A1層目
SK68	葎E4-15m	2.72	2.54	1.98	遺跡不明?	99A1層目
SK69	葎E4-15la	1.82	1.42	0.57	城下前期	99A1層目
SK70	葎E15m	埴0.30	0.44	0.22		99A1層目
SK71	葎E4-15l	2.66	2.02	0.30	城下前期	99A1層目
SK72	葎E11	埴0.46	0.56	0.11	城下前期	99A1層目
SK73	葎E15m	埴0.50	埴0.80	-	城下前期	99A1層目
SK74	葎E4k	埴0.34	0.84	0.17	城下前期	99A1層目
SK77	葎E1-14d, 14e	埴0.84	2.22	0.35	城下前期	99A1層目
SK79	葎E1-14d, 14f	埴0.74	2.80	0.19	城下前期	99A1層目
SK80	葎E11	埴1.36	埴0.40	-		99A1層目
SK81	葎E11	埴0.28	0.56	0.16	遺跡不明?	99A1層目
SK82	葎E11	0.60	0.60	0.22	城下前期	99A1層目
SK83	葎E11	埴0.26	0.32	0.18		99A1層目
SK84	葎E11	0.34	0.26	0.13		99A1層目
SK85	葎E11	埴0.46	0.60	0.12	城下前期	99A1層目
SK86	葎E11	0.54	0.44	0.21	城下前期	99A1層目
SK87	葎E11	1.10	0.90	0.28	城下前期	99A1層目
SK88	葎E2-13j	1.10	0.60	0.25	城下前期	99A1層目
SK89	葎E2-13k, j	埴1.34	埴1.12	0.59	遺跡不明?	99A1層目
SK90	葎E2k, j	1.94	0.90	0.13	城下前期?	99A1層目
SK91	葎E2k, 13	埴4.48	2.58	0.21	遺跡不明?	99A1層目
SK92	葎E11	0.70	0.58	0.10	城下前期	99A1層目
SK93	葎E2-13i	0.46	0.34	0.14	城下前期	99A1層目
SK94	葎E2k, j	埴1.68	2.00	0.79	城下前期	99A1層目
SK95	葎E2k, j	埴1.68	埴0.82	0.33	城下前期	99A1層目
SK96	葎E1-12i	埴0.86	2.96	0.50	遺跡不明?	99A1層目
SK97	葎E11	1.88	1.90	0.31	城下前期	99A1層目
SK98	葎E15m	埴0.36	0.88	0.15	城下前期	99A1層目
SK99	葎E11	1.68	0.68	0.47	城下前期	99A1層目
SK100	葎E14m	0.80	0.56	0.16	城下前期	99A1層目
SK101	葎E11	1.26	0.58	0.13	城下前期	99A1層目
SK102	葎E11	0.86	0.66	0.14	城下前期	99A1層目
SK103	葎E11	埴0.49	0.68	0.22	城下前期	99A1層目
SK106	葎E14m	埴1.52	埴0.52	0.28	城下前期	99A1層目
SK107	葎E1-14d	埴1.80	埴0.9	0.26	城下前期	99A1層目
SK108	葎E11	1.12	0.94	0.26	城下前期	99A1層目
SK109	葎E2k, j	埴1.34	埴0.90	0.42	城下前期	99A1層目
SK110	葎E11	0.40	0.32	0.10	城下前期	99A1層目
SK111	葎E11	0.48	0.42	0.13	城下前期	99A1層目
SK112	葎E11	埴0.82	0.84	0.26	遺跡不明?	99A1層目
SK113	葎E11	埴1.12	1.04	0.34	城下前期	99A1層目
SK114	葎E1-12i	埴3.50	2.72	0.35	城下前期	99A1層目
SK116	葎E11	1.12	0.86	0.20	城下前期	99A1層目
SK118	葎E11	0.30	0.28	0.11	城下前期	99A1層目
SK119	葎E11	0.34	0.50	0.13	城下前期	99A1層目
SK120	葎E11	0.54	0.42	0.06	城下前期	99A1層目
SK121	葎E11	埴0.22	0.52	0.11	城下前期	99A1層目
SK122	葎E11	埴0.84	0.60	0.22	城下前期	99A1層目
SK123	葎E11	埴0.60	埴0.30	0.11	城下前期	99A1層目
SK124	葎E11	埴0.56	0.64	0.15	城下前期	99A1層目
SK125	葎E11	1.08	0.68	0.33	城下前期	99A1層目
SK126	葎E11m	埴0.56	0.74	0.24	城下前期	99A1層目
SK127	葎E11	0.46	0.36	0.10	城下前期	99A1層目
SK128	葎E11	0.48	0.34	0.08	城下前期	99A1層目
SK129	葎E11	埴1.22	0.84	0.52	城下前期	99A1層目
SK130	葎E11-11	埴1.20	埴1.12	0.59	城下前期	99A1層目
SK131	葎E11	埴0.74	埴0.44	0.10		99A1層目
SK151	葎E11m	埴1.86	埴1.14	0.12	城下前期	99A2層目
SK152	葎E13-16m	埴0.64	2.28	0.26	城下前期	99A2層目
SK153	葎E13-16m	埴1.28	1.20	0.18	城下前期	99A2層目
SK154	葎E11m	0.48	0.40	0.05		99A2層目
SK156	葎E14m	0.82	0.46	-		99A2層目
SK157	葎E1-16f	埴1.18	埴1.54	0.31	城下前期	99A2層目

遺構番号	アゾド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
SK158	葎E15-16f	埴5.06	埴1.00	0.29	城下前期	99A2層目
SK159	葎E15	埴0.60	0.64	0.12		99A2層目
SK160	葎E15	0.34	0.34	0.30	城下前期	99A2層目
SK161	葎E15	0.68	0.48	0.20	城下前期	99A2層目
SK162	葎E16f,m	埴1.72	3.54	0.34	城下前期	99A2層目
SK164	葎E14m	埴1.00	埴0.62	0.23	城下前期	99A2層目
SK167	葎E15	0.66	0.44	0.13	城下前期	99A2層目
SK168	葎E15	1.12	0.78	0.28	城下前期	99A2層目
SK169	葎E15	0.92	0.42	0.46	城下前期	99A2層目
SK170	葎E15	埴0.40	0.34	0.16		99A2層目
SK171	葎E15	0.64	0.62	0.30		99A2層目
SK172	葎E4-15l	0.70	0.48	0.25	城下前期	99A2層目
SK173	葎E11	0.40	0.38	0.19	城下前期	99A2層目
SK174	葎E15k	埴0.94	0.60	0.27	城下前期	99A2層目
SK175	葎E4-15k	0.90	0.54	0.22	城下前期	99A2層目
SK176	葎E14k	0.22	0.20	0.10	遺跡不明?	99A2層目
SK177	葎E14k	0.26	0.24	0.09		99A2層目
SK178	葎E14k	0.32	0.30	0.11		99A2層目
SK179	葎E14k	0.86	0.80	0.41	城下前期	99A2層目
SK180	葎E15m	埴1.94	1.08	0.33	城下前期	99A2層目
SK181	葎E15	埴0.32	0.32	0.09		99A2層目
SK182	葎E4-15la	埴1.72	2.18	2.14	城下前期	99A2層目
SK183	葎E13-14k, 14l	埴2.86	埴0.52	0.09	城下前期	99A2層目
SK184	葎E14	埴1.66	0.72	0.28	城下前期	99A2層目
SK185	葎E15m	埴2.20	2.48	0.31	城下前期	99A2層目
SK186	葎E15m	2.38	2.36	0.56	城下前期	99A2層目
SK187	葎E15m, 16m	埴0.92	1.52	0.47	城下前期	99A2層目
SK188	葎E15m	埴0.92	埴0.48	0.08		99A2層目
SK189	葎E14m, 15l	埴0.78	1.42	0.35	城下前期	99A2層目
SK190	葎E14	埴0.28	0.42	-	城下前期	99A2層目
SK196	葎E13k	埴0.74	1.26	0.41	城下前期	99A2層目
SK197	葎E14m	-	-	0.29	城下前期	99A2層目
SK198	葎E12m	埴1.36	1.60	0.44	城下前期	99A2層目
SK199	葎E2k, j	埴0.98	1.80	0.74	城下前期	99A2層目
SK203	葎E1-12i	埴2.28	4.08	1.57	城下前期	99A2層目
SK207	葎E13-14m, n	2.94	2.84	1.44	城下前期	99A2層目
SK210	葎E13-14m	3.62	0.50	0.23		99A2層目
SK211	葎E13	1.68	1.80	0.26		99A2層目
SK214	葎E13	1.04	0.76	0.33	城下前期	99A2層目
SK215	葎E12-13n	1.72	1.70	0.31	城下前期	99A2層目
SK217	葎E12-13m, n	埴1.14	0.46	0.19		99A2層目
SK219	葎E11	埴0.96	埴0.66	0.50	城下前期	99A2層目
SK220	葎E11	埴2.56	0.42	0.21	城下前期	99A2層目
SK221	葎E12-13ra	4.00	3.50	0.67	城下前期	99A2層目
SK222	葎E11	0.88	0.76	0.30		99A2層目
SK223	葎E11	0.76	0.56	0.23		99A2層目
SK224	葎E10m	0.66	0.44	0.26		99A2層目
SK225	葎E11	埴0.90	1.60	0.20		99A2層目
SK226	葎E10m	1.14	1.12	0.35		99A2層目
SK227	葎E11	埴1.10	0.86	0.52	城下前期	99A2層目
SK228	葎E10m	埴0.30	0.24	0.05	城下前期	99A2層目
SK229	葎E10-8m	埴1.20	埴0.70	0.19	城下前期	99A2層目
SK231	葎E10-8m	埴1.38	1.52	0.32		99A2層目
SK232	葎E10m	0.82	0.58	0.42		99A2層目
SK233	葎E11m	埴0.32	0.50	0.13		99A2層目
SK234	葎E11m	埴1.36	0.46	0.19		99A2層目
SK235	葎E11m	0.76	0.54	0.14	城下前期	99A2層目
SK236	葎E11m	0.94	0.74	0.16		99A2層目
SK237	葎E11a, o	1.42	0.76	0.19	城下前期	99A2層目
SK238	葎E11a	0.76	0.72	0.11		99A2層目
SK239	葎E10-11a, o	埴2.30	3.42	0.09		99A2層目
SK240	葎E10m, o	埴1.94	0.14	0.17	城下前期	99A2層目
SK241	葎E10m	1.56	0.76	0.17		99A2層目
SK242	葎E10-8m	埴0.98	0.58	0.08	城下前期	99A2層目
SK243	葎E10m, o	埴0.30	0.18	0.24	城下前期	99A2層目
SK244	葎E10-8m	3.58	0.90	0.23	城下前期	99A2層目
SK245	葎E10-8m, n	3.80	1.06	0.15		99A2層目
SK246	葎E10m	0.38	0.36	0.07		99A2層目
SK247	葎E10m	0.50	0.44	0.20		99A2層目
SK248	葎E10-11m	2.90	2.82	0.53	城下前期	99A2層目
SK249	葎E11a	2.32	2.10	0.24	城下前期	99A2層目
SK250	葎E10-11a	埴1.78	3.26	1.57	城下前期	99A2層目
SK251	葎E10-11a	埴0.54	0.66	0.13		99A2層目
SK252	葎E11a	1.50	0.62	0.27		99A2層目

道橋番号	アロード	長軸(m)	短軸(m)	深5(m)	時期	調査区
SK253	貫E10-11m	0.76	1.08	0.37	城下町期	99A2期目
SK254	貫E10m	0.76	0.40	0.15		99A2期目
SK255	貫E10m	1.14	0.52	0.17		99A2期目
SK256	貫E10m	1.60	1.44	0.17	城下町期	99A2期目
SK257	貫E10m.0	2.14	1.48	0.25	城下町期	99A2期目
SK258	貫E10m	1.00	0.76	0.22		99A2期目
SK259	貫E10m	0.78	0.58	0.31		99A2期目
SK261	貫E10m	0.28	0.24	0.10		99A2期目
SK262	貫E10m	0.52	0.42	0.19		99A2期目
SK263	貫E10m	0.70	0.58	0.18		99A2期目
SK264	貫E10m	0.96	0.66	0.14		99A2期目

道橋番号	アロード	長軸(m)	短軸(m)	深5(m)	時期	調査区
SK265	貫E10m	0.58	0.40	0.17		99A2期目
SK266	貫E15.1	1.00	0.96	0.09		99A2期目
SK267	貫E15m	1.00	0.46	0.12		99A2期目
SK268	貫E15m	0.52	0.38	0.32		99A2期目
SK269	貫E15-16k	0.38	0.32	0.15		99A2期目
SK270	貫E16	1.00	0.29	0.46	0.16	99A2期目
SK271	貫E15m	1.30	0.96	0.47		99A2期目
SK272	貫E15m	1.12	0.52	0.39		99A2期目
SK273	貫E15m	1.00	1.00	0.28		99A2期目
SK274	貫E15m	1.00	0.54	0.50	0.50	99A2期目
SK275	貫E15-16m	1.00	0.30	0.56	0.03	99A2期目

99B区

道橋番号	アロード	長軸(m)	短軸(m)	深5(m)	時期	調査区	
SK001	貫E2-4j,k	1.07	0.42	0.26	0.56	伝馬町期?	99B1期目
SK002	貫E3-4k	1.06	0.76	0.70	0.22	伝馬町期?	99B1期目
SK003	貫E3k	1.04	0.82	0.60	0.58	城上1期	99B1期目
SK004	貫E4b-A-5j	1.04	0.92	0.90	0.19	伝馬町期?	99B1期目
SK005	貫E5k	1.04	0.94	1.06	0.23	城上2期	99B1期目
SK006	貫E5-6k	1.04	0.96	0.68	0.14	伝馬町期?	99B1期目
SK007	貫E6b-1j,k	1.04	1.46	0.98	0.18	伝馬町期?	99B1期目
SK011	貫E2-4i,j	1.11	0.94	1.22	0.35	城上3期	99B2期目
SK012	貫E2-3k,j	1.04	0.94	0.94	0.30	城上3期	99B2期目
SK013	貫E5k	1.07	0.56	0.68	0.32	城上3期	99B2期目
SK015	貫E6-7h,i	1.04	1.10	0.76	0.25	城下町期	99B2期目
SK016	貫E6-7h,i	1.04	0.36	0.52	0.14	城下町期	99B2期目
SK017	貫E6-10g,h	1.04	0.50	1.22	0.28	城下町期	99B2期目
SK018	貫E7h,i	1.04	0.40	1.28	0.32	伝馬町期?	99B2期目
SK019	貫E4-5h,i	1.04	0.72	1.10	0.40	伝馬町期?	99B2期目
SK020	貫E11-12g,h	1.04	0.60	4.18	0.59	伝馬町期?	99B2期目
SK022	貫E12-13g,h	1.04	1.18	3.00	0.47	伝馬町期	99B2期目
SK001	貫E2s	1.06	0.36	0.84	0.13		99B1期目
SK002	貫E2s	0.48	0.40	0.07			99B1期目
SK003	貫E2s	1.06	0.34	0.34	0.09	城下町期	99B1期目
SK004	貫E2-3s	0.72	0.72	0.06			99B1期目
SK005	貫E3s	0.76	0.70	0.08			99B1期目
SK006	貫E3s	0.34	0.28	0.03	城上3期		99B1期目
SK007	貫E3s	1.04	2.06	2.06	0.05	伝馬町期?	99B1期目
SK008	貫E3s	1.04	1.52	1.56	0.12	伝馬町期?	99B1期目
SK009	貫E3s	0.38	0.38	0.03			99B1期目
SK010	貫E3s	0.26	0.26	0.04	城下町期		99B1期目
SK011	貫E3s	0.74	0.60	0.13	城下町期		99B1期目
SK012	貫E5-6s	0.96	0.62	0.27			99B1期目
SK013	貫E3s	0.52	0.52	0.07			99B1期目
SK014	貫E3s	0.64	0.54	0.10			99B1期目
SK015	貫E3s	0.34	0.28	0.04			99B1期目
SK017	貫E3s	1.08	0.60	0.17	城上3期		99B1期目
SK018	貫E3s	0.62	0.88	0.04			99B1期目
SK019	貫E3s	1.00	0.32	0.32	0.06	城下町期	99B1期目
SK020	貫E2s	1.00	0.30	0.56	0.06	城下町期	99B1期目
SK021	貫E2s	0.42	0.32	0.08			99B1期目
SK022	貫E2s	1.00	0.64	1.14	0.16	城下町期	99B1期目
SK023	貫E2s	0.42	0.40	0.05	城下町期		99B1期目
SK024	貫E2s	0.36	0.34	0.02			99B1期目
SK025	貫E2s	0.46	0.46	0.07			99B1期目
SK026	貫E2s	0.52	0.42	0.06	城上1期?		99B1期目
SK027	貫E2s	0.24	0.20	0.05	城下町期		99B1期目
SK028	貫E2s	0.40	0.32	0.11	城上3期		99B1期目
SK029	貫E2s	0.46	0.46	0.07	城下町期		99B1期目
SK030	貫E2s	1.00	0.28	0.38	0.17		99B1期目
SK031	貫E2s	0.78	0.56	0.34	城上2期		99B1期目
SK032	貫E2s	1.78	1.72	0.10	城上2期?		99B1期目
SK033	貫E2s	1.38	1.34	0.31	城上3期		99B1期目
SK034	貫E2s	1.00	0.54	0.44	-	城上3期	99B1期目
SK035	貫E2s	1.00	0.70	0.48	0.11	城下町期	99B1期目
SK037	貫E2s	1.22	0.94	0.16	城上1期		99B1期目
SK038	貫E2s	1.00	0.56	0.70	0.14	城上2期?	99B1期目
SK039	貫E2s	1.00	0.66	0.68	0.12	城下町期	99B1期目
SK040	貫E2s	1.00	0.36	0.82	0.13	城上3期	99B1期目
SK041	貫E2s	0.42	0.28	0.35	城上1期?		99B1期目
SK042	貫E2s	0.32	0.32	0.05	城下町期		99B1期目

道橋番号	アロード	長軸(m)	短軸(m)	深5(m)	時期	調査区	
SK43	貫E2s	1.00	0.78	0.30	0.23	城下町期	99B1期目
SK44	貫E2s	0.60	0.54	0.32			99B1期目
SK45	貫E2s	0.38	0.32	0.06			99B1期目
SK46	貫E2s	0.90	0.86	0.31	城上3期		99B1期目
SK47	貫E2s	0.36	0.30	0.08	城下町期		99B1期目
SK48	貫E2s	0.60	0.50	0.11	城下町期		99B1期目
SK49	貫E2s	1.00	0.66	0.44	0.30	城上3期	99B1期目
SK50	貫E2s	1.00	0.56	0.82	0.10	城上2期?	99B1期目
SK51	貫E2s	0.92	0.78	0.13	伝馬町期?		99B1期目
SK52	貫E2s	0.32	0.30	0.06			99B1期目
SK53	貫E2s	0.22	0.20	0.08			99B1期目
SK54	貫E2s	0.40	0.32	0.16	城上3期		99B1期目
SK55	貫E2s	0.52	0.52	0.07			99B1期目
SK56	貫E2s	0.42	0.38	0.07			99B1期目
SK57	貫E2s	0.60	0.28	-			99B1期目
SK58	貫E2s	0.74	0.42	0.22	城上1期		99B1期目
SK59	貫E2s	0.60	0.60	0.34	城上3期		99B1期目
SK60	貫E2s	0.62	0.54	0.15	城上3期?		99B1期目
SK61	貫E2s	0.64	0.36	0.11	城上3期		99B1期目
SK62	貫E2s	0.66	0.58	0.23	城上3期		99B1期目
SK63	貫E2s	0.46	0.44	0.07	城下町期		99B1期目
SK64	貫E2s	0.44	0.40	0.09	城下町期		99B1期目
SK65	貫E2s	0.74	0.50	0.11	城上1期?		99B1期目
SK66	貫E2s	0.60	0.50	0.07	城下町期		99B1期目
SK67	貫E2s	1.12	0.82	0.64	城上2期		99B1期目
SK68	貫E2s	0.32	0.30	0.52	城上1期?		99B1期目
SK69	貫E2s	0.44	0.24	0.06			99B1期目
SK70	貫E2s	0.44	0.40	0.09			99B1期目
SK71	貫E2s	0.46	0.30	0.11			99B1期目
SK72	貫E2s	1.00	0.50	0.44	0.02		99B1期目
SK73	貫E2s	0.32	0.30	0.06			99B1期目
SK74	貫E2s	0.28	0.32	0.05			99B1期目
SK75	貫E2s	1.00	0.34	0.32	0.07		99B1期目
SK76	貫E2s	0.38	0.28	0.05			99B1期目
SK77	貫E2s	0.50	0.48	0.08			99B1期目
SK78	貫E2s	0.58	0.52	0.01			99B1期目
SK79	貫E2s	0.90	0.64	0.59	城上3期		99B1期目
SK80	貫E2s	0.60	0.60	0.08			99B1期目
SK81	貫E2s	1.00	0.42	0.68	0.14		99B1期目
SK83	貫E2s	0.64	0.50	0.19			99B1期目
SK84	貫E2s	1.12	1.08	0.20	伝馬町期?		99B1期目
SK85	貫E2s	0.62	0.40	0.07			99B1期目
SK86	貫E2s	1.00	1.14	0.13			99B1期目
SK87	貫E2s	0.48	0.42	0.09	城上3期		99B1期目
SK88	貫E2s	1.00	0.38	0.44	0.09		99B1期目
SK89	貫E2s	1.00	0.72	0.66	0.44	伝馬町期?	99B1期目
SK90	貫E2s	1.00	0.30	1.00	0.24	城上2期?	99B1期目
SK91	貫E2s	0.30	0.28	0.08			99B1期目
SK92	貫E2s	4.00	3.14	2.00	城上2期		99B1期目
SK93	貫E2s	1.00	0.54	0.27	城下町期		99B1期目
SK94	貫E2s	0.26	0.24	0.07			99B1期目
SK95	貫E2s	0.52	0.38	0.10	城下町期		99B1期目
SK96	貫E2s	1.94	1.84	0.42	城上3期		99B1期目
SK97	貫E2s	1.00	0.52	0.48	0.43	城上3期	99B1期目
SK98	貫E2s	1.00	0.64	1.14	0.91	城上2期	99B1期目
SK99	貫E2s	1.00	0.90	0.29	城上2期		99B1期目
SK100	貫E2s	1.00	1.06	1.40		伝馬町期?	99B1期目

道構番号	アソッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
SK101	WE6a	沖0.20	0.54	0.43	城塞-2期	9901号地
SK102	WE3-4k	沖1.24	0.54	0.35	城塞期	9901号地
SK103	WE3h	沖0.74	0.60	0.17	城塞-2期	9901号地
SK104	WE6a	沖2.58	沖1.28	0.51	城塞-2期	9901号地
SK105	WE6a	沖2.26	沖1.38	0.07	城塞-2期	9901号地
SK106	WE6a	沖1.82	沖1.14	-	城塞期	9901号地
SK107	WE3-4j	2.98	2.04	0.16	城塞期	9901号地
SK108	WE6a,j	沖1.02	沖0.76	0.29	前埴町期?	9901号地
SK109	WE6b	沖0.40	沖0.30	0.13	-	9901号地
SK110	WE6a,j	1.18	1.16	0.32	前埴町期	9901号地
SK111	WE5b	沖0.30	0.24	0.08	-	9901号地
SK114	WE5-6b	沖0.66	1.54	0.75	前埴町期?	9901号地
SK115	WE5b	沖0.42	0.38	0.06	城下町期	9901号地
SK116	WE5-6b	沖0.72	0.94	0.60	城塞期	9901号地
SK117	WE5b	沖0.64	0.66	0.10	-	9901号地
SK118	WE5b	沖0.90	0.62	0.15	城塞期	9901号地
SK119	WE5-6b,j	0.84	0.62	0.09	-	9901号地
SK120	WE6a,j	0.90	0.80	0.05	城塞期	9901号地
SK121	WE5b	沖0.40	1.36	0.24	城塞期	9901号地
SK122	WE5b	0.64	0.46	0.08	-	9901号地
SK123	WE5b	1.02	0.70	0.43	-	9901号地
SK124	WE5b	沖0.34	0.32	0.11	-	9901号地
SK125	WE5b	沖0.30	0.28	0.16	-	9901号地
SK126	WE5b	0.54	0.44	0.16	-	9901号地
SK127	WE5-6j	2.54	0.70	0.23	城塞期	9901号地
SK128	WE5b	沖0.90	1.30	0.24	城塞期	9901号地
SK129	WE5b	0.40	0.30	0.27	城下町期	9901号地
SK130	WE5b,j	0.66	0.60	0.24	城塞期	9901号地
SK131	WE5b,j	2.54	2.46	0.66	城塞-1期	9901号地
SK132	WE5b,j	沖0.78	1.60	1.00	-	9901号地
SK133	WE5b,j	沖1.72	沖0.62	0.09	-	9901号地
SK134	WE6a	0.38	0.22	0.05	-	9901号地
SK135	WE6a	1.04	0.40	0.05	城塞期	9901号地
SK136	WE6a	1.50	1.42	0.30	城塞期	9901号地
SK137	WE6a,j	沖1.52	沖1.14	0.18	城塞期	9901号地
SK138	WE6a,j	沖0.68	1.12	0.52	城下町期	9901号地
SK139	WE5-6a,j	沖0.80	1.48	0.18	城下町期	9901号地
SK140	WE5b,j	沖1.40	2.80	0.16	前埴町期?	9901号地
SK141	WE6a	沖1.08	1.40	0.76	城塞-2期	9901号地
SK142	WE6a	沖0.48	0.54	0.09	城下-2期?	9901号地
SK143	WE6a	沖0.26	0.38	0.05	-	9901号地
SK144	WE5b	沖0.30	沖0.18	-	城塞期	9901号地
SK145	WE5b	沖0.32	沖0.50	-	-	9901号地
SK147	WE6a	0.62	0.62	0.11	城下町期	9901号地
SK148	WE6a	1.59	0.79	0.42	城塞期	9901号地
SK149	WE6a	沖1.12	0.40	0.31	城下町期	9901号地
SK150	WE6a	沖0.68	0.68	0.18	城塞期	9901号地
SK151	WE6a	沖0.20	0.62	0.09	-	9901号地
SK152	WE6a	0.36	0.28	0.11	-	9901号地
SK153	WE6a	沖0.30	0.22	0.16	-	9901号地
SK154	WE6a	沖0.40	0.30	0.18	城下町期	9901号地
SK155	WE6b	1.20	1.20	0.30	城塞期	9901号地
SK156	WE6b	沖0.98	0.74	0.29	前埴町期?	9901号地
SK157	WE6b	沖0.78	0.92	0.14	城塞期	9901号地
SK158	WE6b	沖0.62	1.96	0.43	城塞期	9901号地
SK159	WE6b	沖0.32	0.74	0.12	-	9901号地
SK160	WE6a	0.54	0.38	0.13	-	9901号地
SK161	WE6a,j	0.90	0.70	0.28	城塞期	9901号地
SK162	WE6a,j	沖0.80	沖0.72	0.12	城下町期	9901号地
SK163	WE6a-Sk	沖0.24	0.68	0.15	城塞-2期	9901号地
SK164	WE6a-Sk	沖0.30	0.64	0.36	前埴町期?	9901号地
SK165	WE6a	沖0.74	1.52	0.20	城塞-2期	9901号地
SK166	WE6a	沖0.50	0.36	0.13	城塞期	9901号地
SK167	WE6a	沖0.40	0.26	0.08	-	9901号地
SK168	WE6a	沖0.98	1.64	0.64	城塞期	9901号地
SK169	WE6a	沖1.30	沖0.86	0.34	城下町期	9901号地
SK170	WE6a	1.52	0.86	0.18	城塞期	9901号地
SK171	WE6a	沖0.38	0.60	0.07	城塞期	9901号地
SK172	WE6a	0.84	0.74	0.23	城塞期	9901号地
SK173	WE6-6j	1.92	0.82	0.45	前埴町期?	9901号地
SK174	WE6-6a	2.10	1.40	0.44	城塞-2期	9901号地
SK175	WE6-6a	沖1.40	3.24	0.43	前埴町期?	9901号地
SK176	WE6j	沖1.00	1.00	0.84	前埴町期?	9901号地
SK177	WE6-6j	1.08	1.06	0.24	-	9901号地

道構番号	アソッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
SK179	WE5c	沖5.02	1.18	0.11	城塞-2期	9901号地
SK180	WE5c	沖2.26	1.78	1.15	前埴町期?	9901号地
SK181	WE5c-A	沖2.00	沖1.52	0.18	城下町期	9901号地
SK182	WE6a	0.40	0.26	0.13	城塞期	9901号地
SK183	WE6a	沖0.70	沖0.56	0.26	城下町期	9901号地
SK184	WE6a	沖0.68	沖0.82	0.49	前埴町期?	9901号地
SK185	WE5c	沖0.90	0.54	0.29	-	9901号地
SK186	WE6a	0.32	0.32	0.14	-	9901号地
SK187	WE6a	1.00	0.42	0.24	-	9901号地
SK188	WE6a	0.70	0.64	0.08	-	9901号地
SK190	WE6b	沖0.62	1.16	0.52	城塞期	9901号地
SK191	WE6b	沖1.82	3.26	0.99	前埴町期?	9901号地
SK201	WE2-S	7.80	0.80	0.00	城下町期	9902号地
SK202	WE3h,j	1.82	1.70	0.60	前埴町期?	9902号地
SK203	WE3h	0.46	0.34	0.08	-	9902号地
SK204	WE3h	0.64	0.36	0.25	-	9902号地
SK205	WE3h	沖0.30	0.28	0.11	-	9902号地
SK206	WE2-Sj	沖0.72	沖0.20	0.09	-	9902号地
SK207	WE3h	0.52	0.40	0.36	-	9902号地
SK208	WE3h	0.60	0.36	0.36	-	9902号地
SK209	WE3h	0.54	0.54	0.22	-	9902号地
SK210	WE3h	0.46	0.38	0.22	城塞期	9902号地
SK211	WE3h	0.64	0.26	0.12	-	9902号地
SK212	WE3h	0.44	0.30	-	-	9902号地
SK213	WE3h	0.42	沖0.22	0.10	-	9902号地
SK214	WE3h	0.30	0.26	0.06	-	9902号地
SK215	WE2h	0.38	0.30	0.11	-	9902号地
SK216	WE2h	沖0.14	0.30	-	-	9902号地
SK217	WE3h	0.48	0.42	0.18	城下町期?	9902号地
SK218	WE3h	0.28	0.26	0.06	-	9902号地
SK219	WE3h	0.28	0.18	0.13	城塞-1期	9902号地
SK230	WE3h	0.58	0.52	0.30	-	9902号地
SK231	WE3h,j	0.36	0.20	0.08	-	9902号地
SK232	WE3h	0.32	0.30	0.08	-	9902号地
SK233	WE3h	0.28	0.22	0.06	-	9902号地
SK234	WE3h	0.42	0.34	0.11	-	9902号地
SK235	WE3h	0.64	0.62	0.06	-	9902号地
SK236	WE3h	0.50	0.36	0.13	-	9902号地
SK237	WE3h	0.46	0.34	0.28	-	9902号地
SK238	WE3h	0.26	0.24	0.29	-	9902号地
SK239	WE3h	0.68	0.42	0.34	-	9902号地
SK240	WE3h	0.62	0.42	0.22	-	9902号地
SK241	WE3h	沖0.26	沖0.38	0.21	城下町期	9902号地
SK242	WE3-6h	0.28	0.26	0.07	-	9902号地
SK243	WE3-6h	1.24	0.92	0.15	城下町期	9902号地
SK244	WE6a,j	沖0.58	1.0	0.83	城下町期	9902号地
SK247	WE6a	沖0.84	沖0.60	0.26	城塞期	9902号地
SK249	WE6a	1.00	0.46	0.94	城塞-2期	9902号地
SK250	WE6a	沖0.90	0.70	0.24	城下町期	9902号地
SK251	WE6a	0.86	0.76	0.25	城下町期	9902号地
SK252	WE6a	0.58	0.52	0.26	-	9902号地
SK258	WE6a	1.28	1.08	0.33	城塞期	9902号地
SK259	WE6a	沖0.50	0.80	0.22	-	9902号地
SK260	WE6a	沖0.88	沖0.60	-	-	9902号地
SK271	WE3-6j	1.98	0.82	0.14	-	9902号地
SK274	WE5c	2.16	1.70	1.04	前埴町期?	9902号地
SK275	WE6a	沖1.40	沖0.76	0.27	城塞期	9902号地
SK276	WE6a-A	3.92	1.14	0.64	前埴町期?	9902号地
SK277	WE6a	沖1.00	沖0.68	0.24	城下町期	9902号地
SK278	WE6a	1.58	1.00	0.84	城塞-2期	9902号地
SK279	WE6a	1.46	1.48	0.83	前埴町期?	9902号地
SK280	WE5-6k	沖0.86	3.42	0.81	前埴町期?	9902号地
SK282	WE6a-A	沖1.44	沖0.84	0.82	城塞期	9902号地
SK283	WE6a	沖1.20	0.66	0.20	城塞期	9902号地
SK284	WE6a	沖1.32	1.02	0.14	城塞期	9902号地
SK285	WE5k-A	1.50	1.10	0.53	城塞期	9902号地
SK287	WE6a-Sk	沖0.40	沖0.68	0.32	-	9902号地
SK288	WE6a	沖1.00	沖0.54	0.22	城塞期	9902号地
SK289	WE6a	沖0.90	2.34	0.97	前埴町期?	9902号地
SK290	WE5c	1.76	1.60	0.85	城塞期	9902号地
SK291	WE5c	1.48	1.36	0.56	城塞-2期	9902号地
SK292	WE5c	0.56	0.36	0.10	-	9902号地
SK293	WE5-6k	沖2.30	沖1.78	0.26	城下町期	9902号地
SK294	WE6a	沖0.50	沖0.50	0.22	城下町期	9902号地

遺構一覧表

遺構番号	アソート	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
SK295	ⅧE6	Ⅷ0.50	0.82	0.17		9902号区
SK296	ⅧE7	3.62	3.02	0.31		9902号区
SK299	ⅧE6	1.72	0.92	0.17		9902号区
SK300	ⅧE7b	2.10	1.14	0.24		9902号区
SK301	ⅧE8b	2.02	1.06	0.52		9902号区
SK304	ⅧE6b-1	Ⅷ3.16	2.76	0.62	縄文期	9902号区
SK305	ⅧE9-10b	3.12	1.72	0.13		9902号区
SK306	ⅧE9b	Ⅷ2.48	1.18	0.18		9902号区
SK307	ⅧE6b-1	2.72	2.06	0.54	城下町期	9902号区
SK309	ⅧE5	0.80	0.60	0.16		9902号区
SK310	ⅧE5	Ⅷ1.00	0.88	0.43	城下町期	9902号区
SK311	ⅧE5b-1.0b	Ⅷ1.40	1.64	0.17	城下町期	9902号区
SK313	ⅧE5	Ⅷ0.76	0.62	0.13		9902号区
SK314	ⅧE6b-1	Ⅷ0.70	0.98	0.10		9902号区
SK315	ⅧE6b-1	4.40	3.58	0.55	城下町期	9902号区
SK316	ⅧE5-6c-1	5.10	4.00	1.85	城下町期	9902号区
SK317	ⅧE4-5c-1	Ⅷ0.78	Ⅷ0.48	0.48	城下町期	9902号区
SK318	ⅧE5c-1	Ⅷ0.74	Ⅷ0.62	0.16		9902号区
SK319	ⅧE5-6c	Ⅷ2.82	3.42	0.49	縄文期	9902号区

遺構番号	アソート	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区
SK320	ⅧE5-6c	Ⅷ0.98	Ⅷ0.84	0.30	城下町期?	9902号区
SK321	ⅧE6a	Ⅷ0.72	1.24	0.45	城下町期?	9902号区
SK322	ⅧE6j	2.80	2.56	0.81	城下町期?	9902号区
SK324	ⅧE6j-A	Ⅷ1.62	2.06	0.70		9902号区
SK325	ⅧE6	1.22	1.20	1.20	縄文期	9902号区
SK326	ⅧE6j-A	Ⅷ1.54	1.46	0.40		9902号区
SK327	ⅧE9-10b	1.14	1.14	0.44		9902号区
SK328	ⅧE10b-1	1.26	1.26	0.35	城下町期	9902号区
SK329	ⅧE6	Ⅷ0.94	Ⅷ0.66	0.24	城下町期	9902号区
SK330	ⅧE5	0.80	0.52	0.27		9902号区
SK331	ⅧE7	3.30	0.84	0.49	城下町期	9902号区
SK332	ⅧE7b-1	2.04	1.80	0.32	縄文期	9902号区
SK333	ⅧE7	2.30	2.04	0.33		9902号区
SK334	ⅧE7	Ⅷ1.46	1.90	0.37		9902号区
SK335	ⅧE8	0.64	0.58	0.19		9902号区
SK336	ⅧE10b	1.22	1.04	0.44	城下町期	9902号区
SK337	ⅧE10b	1.26	0.76	0.24		9902号区
SK338	ⅧE5	0.16	0.14	-		9902号区

遺物番号	調査区	遺物番号	所在地	遺物	時期	1/1000	最高(m)	最低(m)	内容	備考	備考	備考	備考	
1	95A	SK05	土師器	煎餅釜	前期	最大径12.8	残高3.2		ヨコナテ、ハタ	ヨコナテ、ハタ、スズ付着、煎餅中土、表面が土に埋蔵する	5YR3/3黄			
2	95A	SK10	土師器	煎餅釜	前期	最大径15.0	残高3.0		ヨコナテ、ハタ、スズ付着、中土、土に埋蔵、字文あり	ヨコナテ、ハタ、スズ付着、ヨコナテ、ハタ、スズ付着、ハタ文字あり	5YR3/3黄			
3	95A	SK20	瀬戸瓦器類	磁磚	大型4号		残高8.0	32.6	鉄粉	鉄粉、磁粉、灰成土	7.5YR3/3白			
4	95A	SK22	土師器	煎餅(灰)	最大径42.2	最大径32.9			煎餅中土	煎餅中土	09YR3/2黄い表面			
5	95A	SK25	土師器	内耳鍋	煎餅	最大径26.4	残高3.1		ヨコナテ、ハタ、土に埋蔵	ヨコナテ、煎餅中土、スズ付着、ハタ文字あり、灰成土	09YR3/2黄い表面			
6	95A	SK26.27	土師器	内耳鍋	煎餅	最大径25.8	残高2.8		ヨコナテ、ハタ、土に埋蔵	ヨコナテ、煎餅中土、スズ付着、ハタ文字あり	09Y3/2黄い表面			
7	95A	SK26	土師器	内耳鍋	煎餅	最大径13.0	残高3.0		ハタ	ヨコナテ、ハタ、煎餅中土	2.5YR3/3黄			
8	95A	SK01	常陸陶器	菓子鉢	煎餅、加工煎餅	最大径4.9	最大径4.8	最大径1.3	鉄粉、自然釉	鉄粉、自然釉	7.5YR3/3白			
9	95A	SK01	瀬戸瓦器類	付付	煎餅		残高2.9		長石釉、煎餅釉	煎餅釉、ヘラケズリ、磨削	7.5YR3/3白			
10	95A	SK01	瀬戸瓦器類	磁磚	大型4号	最大径27.2	残高2.6		鉄粉	鉄粉	2.5YR3/2白			
11	95A	SK02	瀬戸瓦器類	天目茶碗	大型4号	最大径12.0	残高2.7		鉄粉	鉄粉、磁粉	7.5YR3/3白	5YR3/3黄		
12	95A	SK02	瀬戸瓦器類	天目茶碗	大型4号	最大径10.8	残高2.5		鉄粉	鉄粉、磁粉	7.5YR3/3白			
13	95A	SK02	瀬戸瓦器類	天目茶碗	煎餅	最大径12.7	残高2.7		鉄粉	鉄粉、磁粉	7.5YR3/3白			
14	95A	SK02	瀬戸瓦器類	内耳茶碗	大型4号	最大径16.6	残高2.0	5.8	鉄粉	鉄粉	7.5YR3/3白			
15	95A	SK02	瀬戸瓦器類	磁磚	大型1号		残高2.6		鉄粉、磁目	鉄粉	09YR3/4黄表面			
16	95A	SK02	常陸陶器	飯盛皿	茶碗	最大径12.6	残高2.1		磁粉	自然釉、磁粉、スズ付着	2.5YR3/3白			
17	95A	SK02	常陸陶器	小皿	煎餅	最大径4.5	残高4.8		磁粉	灰成土、磁粉、煎餅	NA05/1			
18	95A	SK02	瀬戸瓦器類	磁磚	煎餅	最大径4.4	残高4.6		鉄粉	鉄粉	7.5YR3/3白			
19	95A	SK04	瀬戸瓦器類	天目茶碗	煎餅	最大径10.7	残高2.4		鉄粉	鉄粉	7.5YR3/3白			
20	95A	SK04	瀬戸瓦器類	煎餅釜	大型4号	最大径16.8	残高2.1		鉄粉	鉄粉	7.5YR3/3白			
21	95A	SK04	瀬戸瓦器類	土師瓦器	土師4号	最大径11.6	残高2.4		長石釉	長石釉	7.5YR3/3白			
22	95A	SK04	瀬戸瓦器類	磁磚	大型4号		残高2.3		鉄粉	鉄粉	09YR3/4黄表面	黄口		
23	95A	SK04	瀬戸瓦器類	磁磚	煎餅	最大径4.1	残高2.1		鉄粉	鉄粉	7.5YR3/3白			
24	95A	SK04	瀬戸瓦器類	磁磚	大型4号	最大径30.2	残高2.0		鉄粉	鉄粉	09YR3/4黄表面			
25	95A	SK04	瀬戸瓦器類	磁磚	大型4号	最大径31.8	残高2.1		鉄粉	鉄粉	2.5YR3/2白			
26	95A	SK04	土師器	内耳内鍋	煎餅	最大径30.0	残高2.5		ハタ	ヨコナテ、煎餅中土、スズ付着	2.5YR3/2白	7.5YR3/3白		
27	95A	T	瀬戸瓦器類	煎餅釜	大型4号	最大径16.4	残高2.0	5.8	鉄粉	鉄粉、灰成土埋蔵	2.5YR3/2白			
28	95A	T	瀬戸瓦器類	土師瓦器	土師4号	最大径11.0	残高2.7	6.7	長石釉	長石釉、土師中土	7.5YR3/3白			
29	95A	北沢1	土師器	ワケリ調整器	煎餅	最大径11.8	残高1.1	2.1	ヨコナテ、スズ付着	ヨコナテ、煎餅中土、スズ付着	2.5YR3/2白	19YR3/3黄		
30	95A	北沢1	土師器	調整器	ワケリ調整器	最大径6.2	残高2.5		ナテ、煎餅中土	ナテ、煎餅中土、煎餅中土	09Y3/2黄い表面			
31	95A	北沢1	瀬戸瓦器類	磁磚	大型	最大径17.7	残高2.7	6.8	鉄粉	鉄粉、磁粉、ヘラケズリ	7.5YR3/3白			
32	95A	T	瀬戸瓦器類	土師瓦器	土師4号	最大径20.6	残高2.4	16.6	鉄粉	鉄粉、土師中土	7.5YR3/3白			
33	95A	北沢1	土師器	調整器	大型4号	最大径24.2	残高2.0		鉄粉	鉄粉	2.5YR3/2白			
34	95A	T	瀬戸瓦器類	磁磚	大型4号	最大径37.2	残高2.3		鉄粉、磁目(1単位9本以上)	鉄粉、磁目(1単位9本以上)	2.5YR3/2白	09YR3/4黄表面		
35	95A	T	土師器	煎餅	煎餅	最大径14.8	残高2.7		ヨコナテ、ハタ	ヨコナテ、ナテ、スズ付着	7.5YR3/4黄表面			
36	95A	北沢1	土師器	煎餅釜	煎餅	最大径11.6	残高2.9		ヨコナテ、ハタ、ヘラケズリ、調整器、スズ付着、部分に灰成土埋蔵する	ヨコナテ、ハタ、ヘラケズリ、調整器、スズ付着、部分に灰成土埋蔵する	7.5YR3/3白			
37	95B	SD10	瀬戸瓦器類	天目茶碗	大型4号	最大径11.8	残高2.1		鉄粉	鉄粉、磁粉	7.5YR3/3白	09YR3/2白		
38	95B	SD10	瀬戸瓦器類	天目茶碗	大型4号	最大径11.0	残高2.4		長石釉	鉄粉、長石釉かけ、磨削	2.5YR3/3黄			
39	95B	SD10	瀬戸瓦器類	小皿	大型4号	最大径7.3	残高4.0	3.3	鉄粉	1.調整器底土埋蔵、鉄粉、赤土埋蔵、鉄粉	7.5YR3/4黄表面			
40	95B	SD10	土師器	ワケリ調整器	煎餅	最大径10.9	残高2.1	5.8	ヨコナテ	ヨコナテ、煎餅中土	09Y3/2黄い表面	09YR3/4黄表面		
41	95B	SD10	瀬戸瓦器類	磁磚	大型4号		残高2.4		鉄粉	鉄粉	7.5YR3/4黄表面			
42	95B	SD10	瀬戸瓦器類	磁磚	大型4号		残高2.6		鉄粉	鉄粉	7.5YR3/4黄表面			
43	95B	SD10	中国青磁	皿	調整器底土	最大径9.3	残高4.0		青磁	青磁、灰成土埋蔵、青磁	NA05/1			
44	95B	SD10	瀬戸瓦器類	天目	大型4号	最大径26.6	残高2.6	13.0	鉄粉	鉄粉(調整器)、ヘラケズリ、磨削(軸山あり)	7.5YR3/3白	09YR3/4黄表面		
45	95B	SD10	常陸陶器	飯盛皿	煎餅	最大径12.8	残高2.9		自然釉、磁粉、ナテ	自然釉、磁粉、ナテ	09YR3/4黄表面			
46	95B	SD10	常陸陶器	菓子鉢	煎餅		残高2.9		磁粉	磁粉	2.5YR3/2白	7.5YR3/3黄		
47	95B	SD10	瀬戸瓦器類	磁磚	煎餅	最大径11.2	残高2.0	11.2	鉄粉、磁目(1単位6本以上)	鉄粉、磁目(1単位6本以上)	7.5YR3/4黄表面			
48	95B	SD10	土師器	内耳鍋	煎餅	最大径22.6	残高2.2		ヨコナテ、ハタ	ヨコナテ、煎餅中土、スズ付着	5YR3/3黄			
49	95B	SD10	土師器	煎餅釜	煎餅	最大径30.0	残高2.2		ヨコナテ、ハタ、土に埋蔵	ヨコナテ、ハタ、スズ付着、ヨコナテ、ハタ、スズ付着、ハタ文字あり、土に埋蔵	5YR3/3黄			
50	95B	SD10	土師器	内鍋	煎餅	最大径16.6	残高2.8		ヨコナテ、ナテ、スズ付着	ヨコナテ、煎餅中土、スズ付着	09YR3/4黄表面	09YR3/4黄表面		
51	95B	SK02	土師器	天目茶碗	煎餅	最大径20.6	残高2.5		ヨコナテ、ハタ文字あり	ヨコナテ、煎餅中土、ヘラケズリ	5YR3/3黄			
52	95B	SD10	土師器	煎餅釜	煎餅	最大径15.2	残高2.9		ヨコナテ、ハタ	ヨコナテ、ナテ、調整器、スズ付着	5YR3/3黄			
53	95B	SD10	土師器	煎餅釜	煎餅	最大径13.8	残高3.1		ヨコナテ、ハタ、ヘラケズリ	ヨコナテ、スズ付着、煎餅中土	5YR3/3黄			
54	95B	SD10	土師器	ワケリ調整器	煎餅	最大径10.8	残高2.0	7.4	ナテ付着、ヨコナテ	ナテ付着、ヨコナテ	09YR3/2白			
55	95B	SK109	土師器	ワケリ調整器	煎餅	最大径10.6	残高2.1	5.2	ヨコナテ	ヨコナテ、煎餅中土	09YR3/2白			
56	95B	SK111	瀬戸瓦器類	天目茶碗	煎餅	最大径10.8	残高2.6		鉄粉	鉄粉	7.5YR3/3白			
57	95B	SK111	瀬戸瓦器類	天目茶碗	煎餅	最大径11.0	残高2.3		鉄粉	鉄粉	7.5YR3/3白			
58	95B	SK111	瀬戸瓦器類	内耳茶碗	煎餅	最大径9.4	残高2.3	1.5	5.2	鉄粉、磁粉	鉄粉、土に埋蔵	7.5YR3/3白		
59	95B	SK126	土師器	ワケリ調整器	煎餅	最大径10.6	残高2.2	2.2	5.2	ヨコナテ、スズ	ヨコナテ、スズ、調整器	2.5YR3/2白		
60	95B	SK30	土師器	ワケリ調整器	煎餅	最大径11.0	残高1.9	4.8	ヨコナテ	ヨコナテ、煎餅中土	2.5YR3/2白	09YR3/4黄表面		
61	95B	SK140	土師器	調整器	調整器	最大径4.6	残高1.1		一方ナテ	煎餅中土	7.5YR3/3白			
62	95B	SK144	土師器	ワケリ調整器	調整器	最大径11.7	残高2.7	2.7	5.2	ヨコナテ	ヨコナテ、煎餅中土	09Y3/2黄い表面	09YR3/4黄表面	
63	95B	SK144	土師器	調整器	調整器	最大径11.4	残高2.9	7.6	長石釉	長石釉、調整器	7.5YR3/3白			
64	95B	SK149	瀬戸瓦器類	天目茶碗	煎餅	最大径11.8	残高2.4	2.6	6.6	鉄粉	鉄粉、磁粉	7.5YR3/3白		

遺物一覧表

図号番号	調査区	遺物番号	産地・材質	器種	時期	口径(mm)	最高(mm)	底径(mm)	内径	特徴	備考
65	95B	SK151	瀬戸・美濃陶器	西内付 大型茶碗	前期		高さ1		長石釉	長石釉	7.5YR3/0白
66	95B	SK153	美濃陶器	茶碗	前期		高さ1.7	底1.0	黒鉛(燐)顔料ヘラタズリ、赤十字	黒鉛(燐)顔料ヘラタズリ、赤十字	2.5YR6/0黄 2.5YR6/0黄
67	95B	SK158	上野陶器	ロウソク燭臺具	前期	直径10.4	1.8	高さ2	コナナテ	コナナテ、目録表記載のもの取付取	5YR3/0に似た黄
68	95B	SK160	瀬戸・美濃陶器	志野小鉢	大型4帖	直径5.6	3.7	高さ2.8	長石釉	長石釉、ヘラタズリ	7.5YR3/0白
69	95B	SK160	瀬戸・美濃陶器	志野大皿	笠型1	9.2	5.0	1.7	長石釉	長石釉、ヘラタズリ	10YR6/25白
70	95B	SK182	瀬戸・美濃陶器	志野白付片持	大型4帖				長石釉顔料	長石釉	2.5YR3/0白
71	95B	SK182	瀬戸・美濃陶器	志野大皿	笠型1	直径4	1.3	高さ5.6	長石釉	長石釉	NA005白
72	95B	SK182	上野陶器	茶碗	前期				コナナテ	赤十字、ヘラ、調整不明	10YR3/0黄 10YR6/0黄
73	95B	SK183	上野陶器	ロウソク燭臺具	前期	直径10.2	2.2	高さ4	コナナテ	1周縁部へら付、コナナテ、目録表記載	7.5YR3/0黄
74	95B	SK184	上野陶器	茶碗	前期	直径14.8		高さ9.3	コナナテ、ヘラ、調整不明	コナナテ	10YR6/0黄
75	95B	SK192	上野陶器	ロウソク燭臺具	前期	直径9.8	2.0	高さ3.0	赤十字付、コナナテ	赤十字付、コナナテ、目録表記載	2.5YR3/0黄
76	95B	SK194	上野陶器	茶碗	前期	直径11.4		高さ2.8	コナナテ、ヘラ、調整不明	コナナテ	10YR3/0黄 2.5YR6/0黄
77	95B	SK194	上野陶器	ロウソク燭臺具	前期	直径10.4	2.1	高さ4.8	赤十字付、コナナテ	赤十字付、コナナテ、目録表記載	10YR3/0に似た黄
78	95B	SK197	上野陶器	ロウソク燭臺具	前期	直径10.6		高さ1.8	コナナテ	コナナテ、目録表記載のもの取付取	2.5YR2/0白
79	95B	SK202	瀬戸・美濃陶器	長石茶碗	笠型2	直径11.8		高さ3	鉄釉	鉄釉、黄鉛	7.5YR3/0 7.5YR6/0黄
80	95B	SK202	上野陶器	ロウソク燭臺具	前期	直径9.6	2.4	高さ4	コナナテ	コナナテ、目録表記載	2.5YR2/0白
81	95B	SK202	上野陶器	ロウソク燭臺具	前期	直径10.6	2.2	高さ4	コナナテ	コナナテ、目録表記載	2.5YR3/0黄
82	95B	SK205	上野陶器	赤十字燭臺具	前期	4.8	1.2		一方向コナテ	調整不明	2.5YR3/0黄
83	95B	SK207	瀬戸・美濃陶器	志野大皿	笠型1	直径11.8		高さ6	長石釉顔料	長石釉顔料	NA005白
84	95B	SK207	瀬戸・美濃陶器	志野大皿	笠型1	直径10.4	0.6	高さ4.0	長石釉、シミ	長石釉、黄鉛、ヘラタズリ	2.5YR3/0黄 2.5YR6/0黄
85	96	SK01 100	信楽陶器	茶碗	前期	直径15.8		高さ1	コナナテ	コナナテ	10YR3/0
86	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径13.8		高さ2.4	コナナテ	コナナテ	2.5YR3/0黄
87	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径16.4		高さ2.0	コナナテ	コナナテ	10YR3/0
88	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径19.0		高さ1.4	コナナテ	コナナテ	NA005
89	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径11.6		高さ2	コナナテ	コナナテ	10YR3/0
90	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径15.8		高さ2.6	コナナテ	コナナテ、ヘラタズリ	10YR3/0
91	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径2.0		高さ7.8	コナナテ	コナナテ、ヘラタズリ	2.5YR3/0黄 10YR3/0
92	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径2.5		高さ11.6	コナナテ	コナナテ、自然釉、ヘラタズリ	7.5YR3/0
93	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径9.6		高さ3.5	コナナテ	コナナテ、自然釉	7.5YR3/0
94	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径11.4		高さ9.9	コナナテ	コナナテ、自然釉	5YR3/0
95	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径2		高さ7.6	コナナテ	コナナテ	10YR3/0 2.5YR3/0黄
96	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径2		高さ2	コナナテ	ヘラタズリ、コナナテ	NA005 NA005
97	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径4		高さ2	コナナテ、自然釉	コナナテ、自然釉、あじき	5YR6/0
98	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径4		高さ4.6	自然釉、コナナテ	コナナテ	7.5YR3/0
99	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径16.6		高さ3	コナナテ、ヘラ	コナナテ、ヘラ	10YR6/25白
100	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗(急須)	前期	直径14.4		高さ2.7	黄鉛、コナナテ	黄鉛、コナナテ	NA005
101	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径14.0		高さ2	黄鉛、コナナテ	黄鉛、コナナテ	10YR3/0
102	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径19		高さ2	黄鉛、コナナテ	黄鉛、コナナテ	10YR3/0
103	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径11.4		高さ9	黄鉛、黄鉛	黄鉛、自然釉、調整	7.5YR3/0
104	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径12.6		高さ4	黄鉛、黄鉛	黄鉛、黄鉛	7.5YR3/0
105	96	SK01 100	美濃赤土系陶器	茶碗	前期	直径12.6		高さ6	黄鉛、自然釉	黄鉛、自然釉	5YR3/0
106	96	SK01 200	美濃赤土系陶器	茶碗	前期	直径2.6		高さ0	黄鉛	黄鉛、黄鉛、調整	5YR3/0 10YR3/0
107	96	SK01 200	美濃赤土系陶器	茶碗	前期	直径2.8		高さ4.8	黄鉛	黄鉛、目録表記載	7.5YR3/0
108	96	SK01 200	美濃赤土系陶器	茶碗	前期	直径2.4		高さ4.2	自然釉	黄鉛、目録表記載	7.5YR3/0
109	96	SK01 200	美濃赤土系陶器	茶碗	前期	直径4.6		高さ2	自然釉	黄鉛、目録表記載	7.5YR3/0
110	96	SK01 200	美濃赤土系陶器	茶碗	前期	直径20.6		高さ2	黄鉛	黄鉛	10YR4/0
111	96	SK01 200	美濃赤土系陶器	茶碗	前期	直径2.8		高さ11.6	黄鉛	黄鉛	10YR3/0 10YR6/0黄
112	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径11.0		高さ3	黄鉛	黄鉛	NA005
113	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径9.3		高さ3	黄鉛、自然釉	黄鉛、黄鉛	7.5YR3/0
114	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径9.9		高さ3	黄鉛、自然釉	黄鉛、黄鉛、目録表記載	7.5YR3/0
115	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径2.4		高さ4.4	黄鉛、黄鉛	黄鉛、目録表記載	2.5YR3/0黄
116	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径2.1		高さ3.6	黄鉛、黄鉛	黄鉛、目録表記載	5YR3/0黄
117	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径3.7		高さ3.7	黄鉛	黄鉛、目録表記載	10YR6/25白
118	96	SK01 100	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径2.7		高さ2.7	黄鉛	黄鉛	7.5YR3/0
119	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径3		高さ3	黄鉛	黄鉛	7.5YR3/0
120	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径7.3		高さ4.6	黄鉛、黄鉛	黄鉛	10YR3/0
121	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径33.2		高さ7	黄鉛	黄鉛	5YR3/0
122	96	SK01 100	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径35.4		高さ9.9	黄鉛	黄鉛、ヘラタズリ	7.5YR3/0
123	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径3		高さ3	黄鉛	黄鉛	10YR3/0
124	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径3.3		高さ3	黄鉛	黄鉛	7.5YR3/0
125	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径3.5		高さ11.4	黄鉛	黄鉛、黄鉛	7.5YR3/0
126	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径12.2		高さ2.5	黄鉛	黄鉛、目録表記載	2.5YR2/0白
129	96	SK01 200	信楽陶器	茶碗	前期	直径2		高さ2	黄鉛、自然釉	黄鉛、自然釉	NA005
130	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径4.2		高さ2	黄鉛、黄鉛	黄鉛	7.5YR3/0
131	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径4.9		高さ2	黄鉛、黄鉛	黄鉛、ヘラタズリ	10YR6/0黄
132	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径3.7		高さ3	黄鉛、黄鉛	黄鉛	NA005
133	96	SK01 200	瀬戸・美濃陶器	茶碗	前期	直径4.3		高さ2	黄鉛、黄鉛	黄鉛、黄鉛、調整	7.5YR3/0

図号番号	調査区	遺構番号	築地・村名	築	号	形状(mm)	最高(mm)	底径(mm)	内	出	物	部	類	土	備	考
134	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	出立巻	古瀬戸中層		Φ9.2			底面、指ヤスミ、ナシ	瓦類、沈箱			7.5Y3/03白	
135	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	出立巻	古瀬戸中層					底面、ナシ	瓦類			7.5Y3/03白	
136	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	出立巻	古瀬戸中層		Φ1.9			底面、指ヤスミ	瓦類、印文			N7060白	
137	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	出立巻	古瀬戸中層		Φ5.2				瓦類			N7060白	
138	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口	古瀬戸中層		Φ4.3	Φ6.0			瓦類	ヘラタズリ		NA005白	
139	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口	古瀬戸中層		Φ5.4	Φ6.7		底面、指ヤスミ	瓦類、ヘラタズリ			7.5Y7/03白	
140	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	無地			Φ4.4	Φ6.2		底面	瓦類、意匠縁取り			7.5Y3/03白	
141	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	無地	古瀬戸		Φ1.5	Φ6.6		底面、コナナシ	瓦類、意匠縁取り(継ぎ)			7.5Y3/03白	
142	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	無地	古瀬戸中層		Φ4.4	Φ6.6			瓦類、底面、目取本切縁			7.5Y3/03白	
143	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口小巻	古瀬戸中層		Φ5.6	Φ8.8		底面、瓦類	瓦類、底面、目取本切縁			7.5Y7/03白	
144	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	四角巻	古瀬戸中層		Φ5.3	Φ6.4		底面、自然釉	瓦類、底面			7.5Y7/03白	
145	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	四角巻	古瀬戸中層		Φ2.8	Φ6.8			瓦類、底面			7.5Y7/03白	
146	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	四角巻	古瀬戸中層		Φ3.0	Φ6.2		底面	瓦類、底面			7.5Y7/03白	
147	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	四角巻	古瀬戸中層		Φ3.3	Φ6.6		底面	瓦類、底面			10YR4/04黄青	
148	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	四角巻	古瀬戸中層		Φ5.8	Φ6.2		底面、目取本切縁	瓦類、底面、目取本切縁			10YR4/02黄	
149	96	SX01	198	瀬戸瓦遺陶器	四角巻	古瀬戸中層		Φ5.6	Φ6.2		底面、ナシ、ハテ	瓦類、底面			7.5Y7/03白	
150	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	四角巻	古瀬戸中層		Φ6.3	Φ11.6		底面、底縁縁スリキ	瓦類、底面、ヘラタズリ			2.5Y3/03黄	
151	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	四角巻	古瀬戸中層		Φ7.5	Φ8.7			瓦類、底面			50P7/04黄緑	
152	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	四角巻	古瀬戸中層		Φ7.8	Φ8.8		底面、指ヤスミ	瓦類、底面			7.5Y3/03白	
153	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ5.4			底面	瓦類、底面			7.5Y3/03白	
154	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ11.2	Φ4.3		底面	瓦類、底面			10YR4/03黄 10YR4/03白	
155	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ11.2	Φ4.1		底面	瓦類、底面			7.5Y3/03白	
156	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ12.6	Φ4.6		底面	瓦類、底面			7.5Y3/03白	
157	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ12.6	Φ2.5		底面	瓦類			5Y7/03白	
158	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ11.6	Φ4.9		底面	瓦類、底面			5Y8/03白	
159	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ1.1	Φ2.2		底面	瓦類、ヘラタズリ、ナシ・底縁			7.5Y3/03白	
160	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	瓦類	惣巻1寸		Φ5.5			底面	瓦類			2.5Y3/03白	
161	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ1.7	Φ6.6		底面	瓦類			7.5Y3/03白	
162	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ2.1	Φ4.4		底面	瓦類、スス付着			2.5Y3/03白	
163	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ2.1	Φ4.0		底面	瓦類、底面、底縁			7.5Y3/03白	
164	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ1.9	Φ2.9		底面	瓦類、底面			7.5Y3/03白	
165	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ6.8	Φ2.4		底面	瓦類、底面			2.5Y3/03白	
166	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ1.3	Φ6.4		底面	瓦類、ヘラタズリ			NA005白	
167	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ2.0	Φ6.4		底面	瓦類			7.5Y3/03白	
168	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	瓦類	古瀬戸中層		Φ1.7	Φ2.2		底面	瓦類			7.5Y3/03白	
169	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ1.5	Φ1.5		底面、瓦類	瓦類、底面、ヘラタズリ			7.5Y3/03白	
170	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	瓦類	古瀬戸中層		Φ10.6	2.5	Φ6.0	底面	瓦類、輪ノコシ縁			50P7/04黄緑	
171	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	瓦類	古瀬戸中層		Φ10.6	2.6	Φ6.0	底面	瓦類			2.5Y3/03白	
172	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	内丸大巻	古瀬戸中層		Φ10.0	2.3	Φ5.4	底面、瓦類	瓦類、輪ノコシ縁			7.5Y3/03白	
173	96	SX01	290	北濃型土師陶器	無地	古瀬戸中層		Φ10.0	2.6	Φ4.0	底面	瓦類、目取本切縁			N7060白	
174	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	瓦類	古瀬戸中層		Φ9.6	2.2	Φ5.0	底面、輪ノコシ縁	瓦類、輪ノコシ縁			2.5Y3/03黄 5Y8/03白	
175	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	(意匠) 瓦	古瀬戸中層		Φ1.2	Φ4.8		底面	瓦類、輪ノコシ縁			7.5Y3/03白	
176	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	瓦類	古瀬戸中層		Φ10.2	Φ2.3	Φ4.8	底面、ナシ・付着、底縁ノコシ縁	瓦類、目取本切縁			5Y7/03白	
177	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	瓦	古瀬戸中層		Φ9.9	Φ6.8		底面、印文	瓦類、輪ノコシ縁			7.5Y3/03白	
178	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ11.6	Φ3.3		底面	瓦類、高台内縁縁取、ヘラタズリ			7.5Y3/03白	
179	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ10.8	Φ2.5	Φ5.0	底面	瓦類、目取本切縁			10YR4/03黄 10YR4/03白	
180	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	無地	古瀬戸中層		Φ1.9			底面、瓦類、底面、目取本切縁	瓦類、底面、目取本切縁			7.5Y7/03白	
181	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	水口大巻	古瀬戸中層		Φ11.8	2.6	Φ6.6	底面	瓦類、底面			5Y7/03白	
182	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	瓦類	古瀬戸中層		Φ10.4	Φ2.1		底面、底面、底縁ノコシ縁	瓦類、目取本切縁			50P6/04黄	
183	96	SX01	290	中回青磁	無地	最良窯跡		Φ2.9	Φ5.4		底面、底面、底面	青磁類、底面			50P7/04黄緑	
184	96	SX01	290	中回青磁	無地	最良窯跡		Φ1.8	Φ5.5		底面、底面、底面	青磁類、底面			50P7/04黄緑	
185	96	SX01	290	中回青磁	底面付	最良窯跡		Φ3.0			底面、底面、底面	青磁類、底面			NA005白	
186	96	SX01	290	中回青磁	無地	最良窯跡		Φ2.0			底面、底面、底面	青磁類、底面			50P7/04黄緑	
187	96	SX01	290	中回白磁	無地	最良窯跡		Φ1.8	Φ6.2		底面	白磁類			NA005白	
188	96	SX01	290	中回白磁	無地	最良窯跡		Φ1.4	Φ6.0		底面	白磁類			NA005白	
189	96	SX01	290	中回白磁	底面付	最良窯跡		Φ1.4	Φ6.0		底面	白磁類			NA005白	
190	96	SX01	290	中回青磁	無地	最良窯跡		Φ3.1			底面	青磁類			NA005白	
191	96	SX01	290	中回青磁	無地	最良窯跡		Φ10.4	2.0	2.2	底面	青磁類、底面			NA005白	
192	96	SX01	290	中回青磁	無地	最良窯跡		Φ2.4	Φ5.0		底面	白磁類、底面			NA005白	
193	96	SX01	290	中回青磁	無地	最良窯跡		Φ1.7	Φ10.0		底面	青磁類			NA005白	
194	96	SX01	290	土師器	内野型切縁	新窯		Φ1.4			底面	土師器			10YR4/03黄 10YR4/03白	
195	96	SX01	290	土師器	内野型	新窯		Φ5.5			底面	土師器			10YR4/03白	
196	96	SX01	290	土師器	内野型	新窯		Φ4.1			底面	土師器			2.5Y3/03白	
197	96	SX01	290	土師器	コナリ調整縁	新窯		11.3	2.4	Φ0	ナシ・付着、コナナシ	ナシ・付着、コナナシ、目取本切縁			2.5Y3/03黄	
198	96	SX01	290	瀬戸瓦遺陶器	無地	古瀬戸(意匠)		Φ1.3	Φ4.4		底面	瓦類			7.5Y3/03白	
199	96	SX01	290	土師器	底面付調整縁	新窯		Φ1.2			底面	土師器			10YR4/03黄 2.5Y3/03白	
200	96	SX01	290	土師器	コナリ調整縁	新窯		Φ6.6	1.4	Φ4.2	底面	土師器			2.5Y3/03白	
201	96	SX01	290	土師器	底面付調整縁	新窯		14.5	1.2		底面	土師器			7.5Y3/03白	
202	96	SX01	290	土師器	底面付調整縁	新窯		5.8	1.1		底面	土師器			10YR4/03白	
203	96	SX01	290	土師器	底面付調整縁	新窯		Φ5.8	1.1		底面	土師器			10YR4/03白	
204	96	SX01	290	土師器	底面付調整縁	新窯		Φ7.6	1.1		底面	土師器			2.5Y3/03白	

遺物一覧表

報告番号	調査区	遺構番号	遺構・材質	器 種	号 数	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	内 径	外 径	備 考	備 考
205	96	SX01-20	土師器	赤土下段蓋	A類	径5.4	1.0		赤土下	赤土下	10YR6/20白	
206	96	SX01-20	土師器	赤土下段蓋	A類	径5.5	1.1		赤土下	赤土下	10YR6/20白	
207	96	SX01-20	土師器	赤土下段蓋	A類	径5.6	0.9		赤土下	赤土下	10YR6/20白	
208	96	SX01-20	瓦器	灰胎		径34.2	径4.4		表面いぼし	表面いぼし、灰胎変形多量、遺跡ス テンズ、ヘラツズで取り出し た器(瓦)	NA005白	
209	96	SX01-20	土師器	土師	全長6.3	径大12.1			赤土下	赤土下	7.5YR6/0	
210	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝	大形、加工跡	径大12.8	径大12.7		菅大野2	横溝、横目	7.5YR6/0	
211	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	小形	管7、加工跡	径大12.0	径大12.0		菅大野4	横溝	7.5YR6/0	
212	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	折縁浅鉢	土師	径大14.7	径4.1		灰胎	灰胎	5YR6/0	
213	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	折縁浅鉢	土師	径大14.7	径4.0		灰胎	灰胎	7.5Y7/0	
214	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	折付付大甕	土師	径大14.7	径4.5		灰胎	灰胎	7.5Y7/0	
215	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	大甕	大形4	径4.7	径2.7		灰胎	灰胎	7.5YR6/0	
216	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	大甕	大形3?	径2.2	径1.7		灰胎(横目)	灰胎(横目)	7.5YR6/0	
217	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	口元有深底	大形1	径13.6	径4.0		灰胎、裏胎	灰胎、裏胎?	10YR6/0	
218	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	大甕	大形4	径33.6	径2.7		灰胎	灰胎	7.5YR6/0 10YR6/0	
219	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	折付付大甕	土師	径大14.7	径4.1		灰胎	灰胎	7.5YR6/0	
220	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝	土師	径大14.7	径4.8		灰胎	灰胎	10YR6/0	
221	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝	大形2?	径2.9	径1.9		灰胎	灰胎	10YR6/0	
222	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝	土師	径大14.7	径4.5		灰胎	灰胎	7.5YR6/0	
223	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝大甕	土師	径大14.7	径4.0		灰胎	灰胎	7.5YR6/0	
224	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝	大形1	径4.1	径4.1		灰胎	灰胎	10YR6/0	
225	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝	土師	径大14.7	径4.2		灰胎、口縁部黒染、 横目	灰胎	7.5YR6/0	
226	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝	土師	径大14.7	径4.2		灰胎、口縁部黒染、 横目	灰胎	7.5YR6/0	
227	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝	大形4	径4.3	径4.3		灰胎	灰胎	7.5YR6/0	
228	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝	大形2	径4.2	径4.2		灰胎、横目	灰胎	7.5YR6/0	
229	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝	土師	径大14.7	径4.8		灰胎、口縁部黒染	灰胎、スス付着	10YR6/20白	
230	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝	土師	径大14.7	径4.5		灰胎	灰胎	7.5YR6/0	
231	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝	大形3	径33.0	径4.5		灰胎、口縁部黒染、 横目(口径12cm)	灰胎	10YR6/0	
232	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝	大形4	径30.0	径2.2		灰胎、横目	灰胎	7.5YR6/0	
233	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝	大形4	径27.2	径4.5		灰胎、横目	灰胎、スス付着	10YR6/0	
234	96	SX01-20	常陸陶器	甕	高胎	径4.0	径4.0		自然胎、裏胎	裏胎	7.5Y7/0	
235	96	SX01-20	常陸陶器	甕	高胎	径4.0	径4.0		裏胎	裏胎	5YR6/0	
236	96	SX01-20	常陸陶器	甕	高胎	径4.5	径4.5		裏胎	裏胎、自然胎	2YR5/0	
237	96	SX01-20	常陸陶器	甕	高胎	径4.7	径4.7		自然胎、裏胎	裏胎	NA005	
238	96	SX01-20	常陸陶器	甕	高胎	径13.0	径4.4		自然胎、裏胎	裏胎	7.5Y7/0	
239	96	SX01-20	常陸陶器	甕	高胎	径4.7	径4.7		裏胎	裏胎	10YR6/0	
240	96	SX01-20	常陸陶器	甕	高胎	径4.1	径4.1		裏胎	裏胎、自然胎	10YR6/0	
241	96	SX01-20	常陸陶器	甕	高胎	径4.2	径4.2		裏胎	裏胎、自然胎	10YR6/0 7.5YR6/0	
242	96	SX01-20	常陸陶器	甕	高胎	径28.6	径4.6		裏胎(横目)、自然胎	裏胎(横目)、自然胎	NA05 10YR6/0	
243	96	SX01-20	常陸陶器	甕	高胎	径4.4	径4.4		裏胎	裏胎	5YR6/0 5YR6/0	
244	96	SX01-20	常陸陶器	甕	高胎	径4.0	径4.0		自然胎、裏胎	裏胎	10YR6/0	
245	96	SX01-20	常陸陶器	大甕	高胎	径4.6	径4.6		自然胎、裏胎	裏胎	10YR6/0 7.5YR6/0	
246	96	SX01-20	常陸陶器	灰胎	高胎	径4.8	径4.8		裏胎	裏胎、ヘラツズ付	2YR5/0	
247	96	SX01-20	常陸陶器	甕	高胎	径13.4	径4.9		裏胎	裏胎	5YR6/0	
248	96	SX01-20	常陸陶器	甕	高胎	径21.2	径4.6		自然胎、裏胎	裏胎	NA05 10YR6/0	
249	96	SX01-20	常陸陶器	甕	高胎	径29.0	径4.1		裏胎、自然胎	裏胎	7.5YR6/0	
250	96	SX01-20	常陸陶器	甕	高胎	径28.0	径4.5		自然胎、裏胎	裏胎	7.5YR6/0	
251	96	SX01-20	常陸陶器	甕?	高胎	径4.0	径4.0		径12.0	赤土下	5YR6/0 2YR6/0	
252	96	SX01-20	瀬戸陶器	赤土下	管8	径9.8	径4.9		透明胎	透明胎、裏胎	7.5YR6/0	
253	96	SX01-20	瀬戸陶器	横溝	管8	径9.2	径4.4		灰胎	灰胎、裏胎	7.5YR6/0	
254	96	SX01-20	不明陶器	丸蓋	管11	径15.4	径4.7	径4.6			2.5YR6/0	
255	96	SX01-20	瀬戸瓦遺陶器	横溝	管11	径10.4	径4.6	径4.8			NA05	
256	96	SX01-20	常陸陶器	直立高胎	管9	径12.0	径5.2	径4.0			2.5YR6/0	
257	96	SX01-20	常陸陶器	丸蓋	管10	径10.0	径4.6	径4.6			NA05	
258	96	SX01-20	不明陶器	小形	管7	径7.8	径3.3	径3.2			7.5YR6/0	
259	96	SX01-20	常陸陶器	折縁浅鉢	管9	径10.7	径4.2	径4.2			NA05	
260	96	SX01-20	不明陶器(土)	折縁浅鉢	管9	径10.7	径4.2	径4.2			NA05	
261	96	SX01-20	常陸陶器	直高台甕	管8	径7.3	径4.4	径4.2			7.5YR6/0	
262	96	SX01-20	常陸陶器	直高台甕	管8	径10.0	径2.1	径4.0			7.5YR6/0	
263	96	SX01-20	常陸陶器	直高台甕	管8	径11.0	径2.5	径4.4			7.5Y7/0	
264	96	SX01-20	常陸陶器	丸蓋	管5	径13.0	径2.1	径4.0			5YR6/0	
265	96	SX01-20	瀬戸陶器	小甕	管8	径15.2	径4.1	径4.0			2.5YR6/0 7.5YR6/0	
266	96	SX01-20	瀬戸陶器	小甕	管8	径9.0	径4.0	径4.0			7.5YR6/0	
267	96	SX01-20	常陸陶器	直蓋	管8	径5.4	径4.4	径4.4			NA05	
268	96	SX01-20	常陸陶器	直蓋	管8	径5.5	径4.5	径4.5			NA05	
269	96	SX01-20	瀬戸陶器	小甕	管8	径10.4	径4.9	径4.4			7.5YR6/0	
270	96	SX01-20	瀬戸陶器	大甕	管8	径22.0	径4.1	径4.0			7.5YR6/0	
271	96	SX01-20	瀬戸陶器	二枚鉢	管8	径36.0	径4.4	径4.4			7.5Y7/0	

図号番号	調査区	遺物番号	産地・材質	器種	時期	寸法(cm)	重量(g)	底径(cm)	内径	外径	備考	出土	備考
272	96	SX01-29	瀬戸・陶器	磁瓶	室町10	葎40.0	葎4.2		鉄軸	鉄軸		2.5YK320	
273	96	SX01-28	瀬戸・陶器	土瓶	室町11小間	葎10.8	葎3.5-葎4.5	11.4	鉄軸	鉄軸、蓋筋、ヘラタビ		10YK64(表裏背)	
274	96	SX01-29	土師器	磁瓶		葎36.4	葎4.4		ココナテ、ヘラタビ、フタ、蓋筋不明	ココナテ、スリ付蓋、ヘラタビ		2.5YK320 10YK20(底)	
275	96	SX01-28	瀬戸・陶器	磁瓶		葎39.2	葎4.1		ココナテ、蓋筋不明	ココナテ、スリ付蓋、ヘラタビ		5YK320(底)	
276	96	SK07	瀬戸・美濃陶器	天目茶碗	古瀬戸(後)中層	葎12.0	葎1.4		鉄軸	鉄軸		5YK320	
277	96	701.55.02	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	5.3	1.2		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		10YK62(底)	
278	96	701.55.03	土師器	ココナテ(蓋裏)	B類	7.4	1.6	3.3	フタ付蓋、ココナテ	フタ付蓋、ココナテ、鉄軸(表裏背)		10YK63(表裏背)	
279	96	701.55.00	土師器	ココナテ(蓋裏)	B類	葎11.0	1.9	葎4.0	ココナテ	ココナテ、鉄軸(表裏背)		2.5YK320	
280	96	701.55.00	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.6	1.3		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		5YK320	
281	96	701.55.00	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.4	1.3		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		2.5YK320	
282	96	701.55.00	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.4	1.3		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		10YK62(底)	
283	96	701.55.00	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.5	1.3		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		10YK62(底)	
284	96	701.55.00	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.3	1.0		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		10YK63(表裏背)	
285	96	701.55.00	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.5	1.2		ココナテ、銅網	ココナテ、蓋サヤ		2.5YK320	
286	96	96-7	瀬戸・美濃陶器	天目茶碗	古瀬戸(後)中層	葎11.5	葎0.6x葎4.0	4.0	鉄軸	鉄軸、蓋筋、鉄軸(表裏背)		2.5YK320 2.5YK320	
287	96	96-7	瀬戸・美濃陶器	天目茶碗	大層1		葎4.4		鉄軸	鉄軸		2.5YK320	
288	96	96-7	瀬戸・美濃陶器	天目茶碗	大層1		葎1.2	4.7	鉄軸	鉄軸		7.5YK320	
289	96	96-7	瀬戸・美濃陶器	台付碗	大層1	葎11.0	葎3.3		鉄軸	鉄軸		2.5YK320	
290	96	96-7	瀬戸・美濃陶器	茶碗	大層1(中)		葎2.0	葎0.0	鉄軸	鉄軸、輪付タン組		7.5YK320	
291	96	96-7	尾道(赤土)美濃陶器	茶碗	中層	葎9.8	葎2.4	葎1.8	高脚	高脚、鉄軸(表裏背)		5Y71(底)	
292	96	96-7	瀬戸・美濃陶器	茶碗	古瀬戸(後)中層	葎14.0	葎3.6	葎6.0	高脚、銅目	高脚、鉄軸(表裏背)		10YK63(表裏背) 10YK62(底)	
293	96	96-7	中国(白)	白磁(土師器)		葎16.0	葎2.6		白磁軸	白磁軸		10YK320	
294	96	96-7	中国(青磁)	青磁(茶碗)	義経堂系	葎13.8	葎3.8		青磁軸	青磁軸、片取脚付茶		7.5YK320(底) 10YK62(底)	
295	96	96-7	瀬戸・美濃陶器	土師(有蓋)土師(有蓋)中層		葎10.6	葎4.2		高脚、鉄軸	高脚、鉄軸、灰土下		5Y71(底)	
296	96	96-7	瀬戸・美濃陶器	土師(有蓋)中層		葎13.0	葎4.7		鉄軸、高脚	鉄軸		5Y71(底)	
297	96	96-7	瀬戸・美濃陶器	赤瀬戸大層	古瀬戸(後)中層	27.0	葎0.0		鉄軸、高脚	鉄軸、蓋筋、ヘラタビ		10YK63(表裏背)	
298	96	96-7	安芸(赤土)美濃陶器	茶碗	高脚	葎4.0			高脚	高脚		7.5YK320 7.5YK320	
299	96	96-7	瀬戸・美濃陶器	茶碗	古瀬戸(後)中層		葎4.6		鉄軸	鉄軸		10YK320(底)	
300	96	96-7	瀬戸・美濃陶器	赤瀬戸大層	古瀬戸(後)中層		葎4.1		鉄軸	鉄軸		10YK64(表裏背)	
301	96	96-7	瀬戸・美濃陶器	磁瓶	古瀬戸(後)中層	葎34.0	葎3.1		鉄軸	鉄軸		10YK63(表裏背)	
302	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎13.8	2.2	葎0.0	ココナテ	ココナテ、鉄軸(表裏背)		5YK320	
303	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	B類	葎11.7	2.2 2.5	葎5.6	ココナテ	ココナテ、鉄軸(表裏背)		10YK63(表裏背)	
304	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	B類	葎11.4	1.9	葎1.6	ココナテ	ココナテ、鉄軸(表裏背)の裏に灰		10YK62(底)	
305	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	B類	葎10.6	1.6	葎1.4	ココナテ	ココナテ、鉄軸(表裏背)の裏に灰		10YK62(底)	
306	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	B類	葎10.8	1.4	葎1.6	ココナテ	ココナテ、鉄軸(表裏背)		2.5YK320	
307	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	B類	葎11.8	1.8	葎0.8	ココナテ	ココナテ、鉄軸(表裏背)		2.5YK320	
308	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	B類	葎12.0	2.1	葎1.4	ココナテ	ココナテ、鉄軸(表裏背)		2.5YK320	
309	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	B類	葎10.8	1.9	葎1.0	ココナテ	ココナテ、鉄軸(表裏背)		10YK63(表裏背)	
310	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	B類	葎12.0	1.9	葎1.0	ココナテ	ココナテ、鉄軸(表裏背)		10YK62(底)	
311	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	B類	葎11.0	1.6	葎0.8	ココナテ	ココナテ、鉄軸(表裏背)の裏に灰		10YK63(表裏背)	
312	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎11.0	1.7	葎0.8	ココナテ	ココナテ、鉄軸(表裏背)		2.5YK320	
313	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎11.6	2.5	葎0.0	ココナテ	ココナテ、鉄軸(表裏背)		2.5YK320	
314	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎11.6	2.3	葎1.0	ココナテ	ココナテ、鉄軸(表裏背)		2.5YK320	
315	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	B類	葎9.4	1.3	葎0.8	ココナテ、土ふり	ココナテ、鉄軸(表裏背)		2.5YK320	
316	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	B類	葎7.3	1.4	葎1.7	フタ付蓋、ココナテ	フタ付蓋、ココナテ、鉄軸(表裏背)		10YK320(底)	
317	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	B類	葎8.4	1.4	葎4.0	フタ付蓋、ココナテ	フタ付蓋、ココナテ、鉄軸(表裏背)		2.5YK320	
318	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎6.0	1.2		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		7.5YK320(表裏背)	
319	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.4	1.3		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		2.5YK320	
320	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.3	1.3		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		2.5YK320	
321	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.8 5.8	1.2		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		2.5YK320	
322	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.6 6.3	1.3		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		2.5YK320	
323	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.9 6.1	1.6		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ(手の平型)		2.5YK320	
324	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎6.0	1.4		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		10YK62(底)	
325	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.4 5.6	1.2		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ(手の平型)		10YK62(底)	
326	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.6 6.0	1.3		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ(手の平型)		7.5YK320(表裏背)	
327	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.7 6.0	1.2		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		2.5YK320	
328	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.3 5.7	1.2		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		2.5YK320	
329	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.3	1.1		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		10YK62(底)	
330	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.6	1.2		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		10YK62(底)	
331	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.7	1.0		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		2.5YK320	
332	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.6	1.0		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		2.5YK320	
333	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎6.0	1.1		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ(手の平型)		5YK320	
334	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.8 5.8	1.3		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		10YK63(表裏背) 10YK62(底)	
335	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎6.4	1.2		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ(手の平型)		2.5YK320	
336	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.7	1.3		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ、ナデ		2.5YK320	
337	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.8	1.1		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		10YK62(底)	
338	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.8	0.7		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ(手の平型)		10YK62(底)	
339	96	96-7	土師器	ココナテ(蓋裏)	A類	葎5.9	1.1		ココナテ	ココナテ、蓋サヤ		5YK320	
340	96	96-7	土師器	土師	残片(大)	葎14.7		葎最大層1.8		蓋サヤ		10YK320(底)	
341	96	96-7	土師器	土師	葎最大層1.8		葎最大層1.4			蓋サヤ		2.5YK320	

遺物一覧表

国名番号	調査区	遺物番号	産地・材質	器種	時期	口径(mm)	底径(mm)	底径(mm)	内容	備考	出土	備考	
342	96	96-7	瀬戸・美濃陶器	陶鉢	鎌倉末頃	最大径5.8	最大径0.9	最大径1.8	底面、縁部内面	鉄粉、粉ヤス	25X30(表)		
343	96	96-7	土師器	土師	古			最大径1.5	1.5	ナガ、粉ヤス	75X30(表)		
344	96	96-7	土師器	土師	古			最大径1.5	最大径1.3	粉ヤス	75X30(表)		
345	96	96-7	土師器(瓦)	筒瓦(筒?)	古			最大径2.4		表面は若干ひよれている。破損箇所あり	10X35(裏)		
346	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	天目茶碗	古瀬戸(中頃)	11.2	6.3	8.4	3.9	鉄粉、鉄粒	75X30(表)		
347	97B	N802団色粘土	瀬戸・美濃陶器	天目茶碗	古瀬戸(中頃)	直径10.2		最大径10.2		鉄粉、鉄粒、赤い鉄粉	75X30(表)		
348	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	天目茶碗	古瀬戸(中頃)	直径11.8		最大径11.8		鉄粉、鉄粒、鉄粉	75X30(表)		
349	97B	N802団色粘土	瀬戸・美濃陶器	天目茶碗	古瀬戸(中頃)	直径13.0		最大径13.0		鉄粉	75X30(表)		
350	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	天目茶碗	古瀬戸(中頃)	直径12.0		最大径12.0		鉄粉	75X30(表)		
351	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	天目茶碗	古瀬戸(中頃)			最大径13.5	3.4	鉄粉	鉄粉、鉄粒	25X30(表)	
352	97B	N802団色粘土	瀬戸・美濃陶器	天目茶碗	大型	12.8		最大径12.8		鉄粉	75X30(表)		
353	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	平碗	古瀬戸(中頃)	直径14.4		最大径14.4		灰粉	鉄粉、鉄粒、ススけている	75X30(表)	
354	97B	N802団色粘土	瀬戸・美濃陶器	土師瓦	大型			最大径13.4	6.0	鉄粉、一部鉄粒	10X30(裏)		
355	97B	N801団色粘土	瀬戸・美濃陶器	香炉	古瀬戸(中頃)	直径10.2		最大径10.2	最大径4.2	鉄粉、鉄粒、黄色にススけている	75X30(裏)		
356	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	香炉	古瀬戸(中頃)	直径7.7		最大径4.7	4.2	鉄粉、鉄粒、自然色、鉄粒赤粉	25X30(表)		
357	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	香炉	古瀬戸(中頃)	10.6		最大径4.2	5.0	鉄粉、鉄粒、黄褐色	75X30(表)		
358	97B	N801群物等	瀬戸・美濃陶器	煎茶碗	古瀬戸(中頃)	直径2.8		最大径2.8	4.4	灰粉、鉄粒、鉄粒赤粉	25X30(表)		
359	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	煎茶碗	古瀬戸(中頃)	9.8		最大径2.9	5.2	灰粉、鉄粒、ススけている	25X30(表)		
360	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	煎茶碗	古瀬戸(中頃)	直径2.8		最大径2.8	3.8	灰粉、鉄粒	鉄粉、鉄粒、鉄粒赤粉	75X30(表)	
361	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	煎茶碗	古瀬戸(中頃)	9.4		最大径2.8	4.6	灰粉、黄褐色、少しススけている	75X30(表)		
362	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	煎茶碗	大型	直径8.6		最大径8.6	最大径2.7	鉄粉、鉄粒	75X30(表)		
363	97B	N802群物等	美濃系土師器	碗	中頃	直径10.4		最大径2.7	4.2	灰粉	鉄粉、鉄粒赤粉	75X30(表)	
364	97B	N802団色粘土	美濃系土師器	碗	中頃	直径10.8		最大径3.0	4.0	灰粉、ナール付	75X30(表)		
365	97B	N802団色粘土	美濃系土師器	碗	中頃	直径10.0		最大径2.7	4.0	灰粉	鉄粉、鉄粒赤粉	75X30(表)	
366	97B	N802団色粘土	瀬戸・美濃陶器	煎茶碗	中頃	直径10.0		最大径3.2	4.8	灰粉	鉄粉、鉄粒赤粉	10X30(裏)	
367	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	煎茶碗	大型	直径11.0		最大径2.6	最大径	灰粉	鉄粉	75X30(表)	
368	97B	N802団色粘土	瀬戸・美濃陶器	煎茶碗	大型	直径11.4		最大径2.6	最大径	灰粉	鉄粉、鉄粒赤粉	75X30(表)	
369	97B	N801団色粘土	瀬戸・美濃陶器	煎茶碗	古瀬戸(中頃)	直径15.8		最大径3.2	6.6	灰粉、鉄粒、鉄粒	鉄粉、鉄粒、鉄粒赤粉	N760(表)	
370	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	煎茶碗	古瀬戸(中頃)	直径13.6		最大径3.9	6.0	灰粉、鉄粒、鉄粒	鉄粉、鉄粒	10X30(裏)	
371	97B	N801団色粘土	瀬戸・美濃陶器	煎茶碗	古瀬戸(中頃)			最大径4.0	6.6	5.2	鉄粉	鉄粉	10X30(裏)
372	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	煎茶碗	古瀬戸(中頃)	4.0		最大径6.6	5.2	鉄粉	10X30(裏)		
373	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	菓子	古瀬戸(中頃)	4.0		最大径2.6	灰粉	鉄粉	75X30(表)		
374	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	菓子	古瀬戸(中頃)	最大径4.3		最大径4.3	最大径4.0	鉄粉	鉄粉、鉄粒、ススけている	25X30(表)	
375	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	菓子	古瀬戸(中頃)	7.0		最大径4.4	9.6	灰粉、コブナガ、ナール付	鉄粉、鉄粒、ススけている	75X30(裏)	
376	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	菓子	古瀬戸(中頃)	4.8		最大径3.3	3.7	鉄粉、鉄粒	鉄粉、鉄粒、少しススけている	25X30(表)	
377	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	菓子	1区(有蓋)	直径11.6		最大径4.3	最大径	(1区)蓋面、蓋心、蓋心裏、鉄粉、鉄粒	10X30(裏)		
378	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	菓子	古瀬戸(中頃)	最大径9.6		最大径9.6	最大径	鉄粉、鉄粒、鉄粒赤粉	75X30(表)		
379	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	菓子	古瀬戸(中頃)	最大径3.3		最大径3.8	最大径	鉄粉、鉄粒、黄色付着物あり、鉄粒赤粉	75X30(表)		
380	97B	N802団色粘土	瀬戸・美濃陶器	花籠	大型	直径10.6		最大径10.6	最大径	鉄粉	75X30(表)		
381	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	香炉	古瀬戸(中頃)	直径10.7		最大径10.7	最大径	鉄粉、鉄粒、ナール付、鉄粒赤粉、ススけている	10X30(裏)		
382	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	香炉	古瀬戸(中頃)	直径20.4		最大径18.4	最大径	鉄粉、土師面内面	75X30(裏)		
383	97B	N802団色粘土	瀬戸・美濃陶器	筒瓦(瓦)	古瀬戸(中頃)	直径18.4		最大径18.4	最大径	鉄粉	75X30(表)		
384	97B	N802団色粘土	瀬戸・美濃陶器	筒瓦	古瀬戸(中頃)	直径16.4		最大径16.4	最大径	鉄粉、鉄粒	75X30(表)		
385	97B	N802団色粘土	瀬戸・美濃陶器	筒瓦	古瀬戸(中頃)	直径16.4		最大径16.4	最大径	鉄粉	25X30(表)		
386	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	筒瓦	古瀬戸(中頃)	直径14.2		最大径14.2	最大径	鉄粉	75X30(表)		
387	97B	N802団色粘土	瀬戸・美濃陶器	筒瓦	古瀬戸(中頃)	直径14.4		最大径14.4	最大径	鉄粉、鉄粒	75X30(表)		
388	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	筒瓦	古瀬戸(中頃)	直径12.2		最大径12.2	最大径	鉄粉、鉄粒	75X30(表)		
389	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	筒瓦	古瀬戸(中頃)	直径12.4		最大径12.4	最大径	鉄粉	25X30(表)		
390	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	筒瓦	古瀬戸(中頃)	直径10.2		最大径10.2	最大径	鉄粉、鉄粒(1区)20%	鉄粉	75X30(表)	
391	97B	N801団色粘土	瀬戸・美濃陶器	筒瓦	古瀬戸(中頃)	直径10.0		最大径10.0	最大径	鉄粉	10X30(裏)		
392	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	筒瓦	古瀬戸(中頃)	直径10.3		最大径10.3	最大径	鉄粉	75X30(表)		
393	97B	N801団色粘土	瀬戸・美濃陶器	筒瓦	古瀬戸(中頃)	直径10.3		最大径10.3	最大径	鉄粉、1区鉄粉わずかに付着	10X30(裏)		
394	97B	N802団色粘土	瀬戸・美濃陶器	筒瓦	古瀬戸(中頃)	直径10.5		最大径10.5	最大径	鉄粉、1区鉄粉わずかに付着	25X30(表)		
395	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	筒瓦	古瀬戸(中頃)	直径10.2		最大径10.2	最大径	鉄粉、鉄粒(1区)23%	鉄粉	25X30(表)	
396	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	筒瓦	古瀬戸(中頃)	直径11.5		最大径9.5	最大径	鉄粉、少し鉄粉、鉄粒(1区)44%、1区ナール付	鉄粉、ナール付、鉄粒赤粉	10X30(裏)	
397	97B	N802群物等	瀬戸・美濃陶器	筒瓦	古瀬戸(中頃)	直径10.0		最大径10.0	最大径	鉄粉	75X30(表)		
398	97B	N802群物等	土師器	コブナガ調整器	中頃	直径14.6		最大径2.9	7.0	コブナガ、一部ススけている	10X30(裏)		
399	97B	N802群物等	土師器	コブナガ調整器	中頃	直径14.0		最大径3.1	最大径	コブナガ	コブナガ、鉄粒赤粉	5X7(裏)	
400	97B	N802群物等	土師器	コブナガ調整器	中頃	直径11.0		最大径2.2	最大径	コブナガ	コブナガ、鉄粒赤粉	25X30(表)	
401	97B	N802群物等	土師器	コブナガ調整器	中頃	直径12.0		最大径2.5	最大径	コブナガ	コブナガ、鉄粒赤粉	25X30(表)	
402	97B	N802群物等	土師器	コブナガ調整器	中頃	直径12.0		最大径2.1	最大径	コブナガ	コブナガ、鉄粒赤粉	25X30(表)	
403	97B	N802群物等	土師器	コブナガ調整器	中頃	直径12.8		最大径2.5	最大径	コブナガ、ナール付	コブナガ、鉄粒赤粉	25X30(表)	
404	97B	N802群物等	土師器	コブナガ調整器	中頃	直径14.8		最大径3.2	最大径	コブナガ、黄色のしみ	コブナガ、鉄粒赤粉の散見あり	5X2(裏)	

図物番号	調査区	遺物番号	所在地・材質	器 種	時期	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	内 容	特 徴	備 考
405	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	11.6	2.4	2.6	6.1	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型のもち取付	5Y710R白
406	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	13.3	2.3	2.4	6.2	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	2.5YK29R白
407	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	14.5	3.2	7.4	7.4	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	10YK29R白
408	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	11.2	2.2	5.0	5.0	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	10YK29R白
409	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	11.0	1.5	6.2	6.2	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	2.5Y729R白
410	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	13.1	2.4	6.4	6.4	ヨコナテ、上ごころごと あるタイプである	ヨコナテ、上ごころごと あるタイプ	10YK27白-1黄
411	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	15.0	2.4	6.9	6.9	ヨコナテ、上端スス けている	ヨコナテ、羽根本型	5YK35R白
412	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	13.2	2.2	6.8	6.8	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	10YK29R白
413	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	10.8	1.9	7.5	7.5	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	2.5YK29R白
414	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	11.2	2.1	6.6	6.6	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	5YK29R白
415	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	13.8	2.7	6.7	6.7	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	2.5Y729R白
416	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	15.0	2.5	6.6	6.6	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	10YK29R白
417	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	12.0	2.4	6.5	6.5	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	10YK29R白
418	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	12.4	2.2	6.9	6.9	ヨコナテ、チホ付 有	ヨコナテ、チホ付、羽根本 型	10YK29R白
419	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	11.0	2.2	6.4	6.4	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	2.5YK29R白
420	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	12.2	2.4	6.6	6.6	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型のもち取付 有	10YK29R白
421	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	?	10.2	5.4	ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型のもち取 付有	5YK35R白	
422	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	14.6	2.5	6.8	6.8	ヨコナテ、縦溝のため 赤褐色化	ヨコナテ、羽根本型のもち取 付有	5YK35R白
423	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	?	10.2	6.0	ヨコナテ、チホ付 有	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	7.5YK35白 2.5Y729R	
424	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	11.8	2.3	6.5	6.5	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	2.5YK29R白
425	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	10.8	2.4	5.8	5.8	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	2.5YK29R白
426	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	14.8	2.8	7.4	7.4	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	2.5Y710R白
427	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	11.8	2.3	4.5	4.5	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	2.5YK29R白
428	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	A型	16.8	10.2	ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	5YK29R白	
429	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	10.9	2.0	2.2	6.3	ヨコナテ	ヨコナテ、裏面「1」?、羽根 本型のもち取付有	2.5YK29R白
430	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	13.4	10.2	ヨコナテ、裏面	ヨコナテ	ヨコナテ、裏面	2.5YK29R白	
431	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	11.8	2.4	5.2	5.2	ヨコナテ、裏面「5」上	ヨコナテ、羽根本型	10YK29R白
432	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	10.0	9.2	ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ、裏面、羽根本 型	2.5Y729R白	
433	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	11.4	1.8	5.8	5.8	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型、裏面	2.5YK29R白
434	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	10.8	2.0	5.4	5.4	ヨコナテ	ヨコナテ、裏面「上」、羽根 本型	2.5YK29R白
435	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	10.8	2.0	5.6	5.6	ヨコナテ	ヨコナテ、裏面「上」、羽根 本型	2.5YK29R白
436	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	A型	6.6	1.1	ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ、チホ付、底面	5Y710R白	
437	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	7.0	1.8	4.0	4.0	ヨコナテ、チホ付 有	ヨコナテ、チホ付、羽根本 型	10YK27白-1黄
438	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	10.0	1.5	6.6	6.6	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型	7.5YK29R白
439	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	8.4	1.3	1.8	4.8	ヨコナテ	ヨコナテ、羽根本型のもち取 付有	5YK35R白
440	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	前期	8.4	1.4	6.4	6.4	ヨコナテ	ヨコナテ、チホ付有?、羽根 本型	5YK35R
441	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	A型	6.1	0.7	1.2	羽根ナシ	ヨコナテ	ヨコナテ、チホ付ナシ	2.5YK35R白
442	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	A型	6.8	1.3	羽根ナシ	ヨコナテ	ヨコナテ、チホ付有、ヨコナ テ、チホ付ナシ	2.5YK29R白	
443	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	A型	6.6	1.2	羽根ナシ	ヨコナテ	ヨコナテ、チホ付有、チホ付 ナシ(平)	5YK35R白	
444	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	A型	6.6	1.3	羽根ナシ	ヨコナテ	ヨコナテ、チホ付有	2.5YK29R白	
445	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	A型	6.9	1.3	羽根ナシ	ヨコナテ	ヨコナテ、チホ付有	2.5Y710R白	
446	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	A型	6.5	1.2	羽根ナシ	ヨコナテ	一方内ハケのみヨコナ テ	10YK29R白 7YK35R	
447	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	A型	6.2	1.2	羽根ナシ	ヨコナテ	羽根ナシ	5Y710R白	
448	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	A型	6.0	6.4	1.3	羽根ナシ	ヨコナテ	ヨコナテ、チホ付有	5Y710R白
449	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	A型	5.9	6.4	1.2	羽根ナシ	ヨコナテ	ヨコナテ、チホ付有	2.5Y710R白
450	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	A型	6.4	1.2	羽根ナシ	ヨコナテ	ヨコナテ、チホ付有 [平の平]	5YK35R	
451	97B	N802-群物群	土師器	ワケ口調整器	A型	6.8	1.4	羽根ナシ	ヨコナテ	一方内ハケのみヨコナ テ	2.5YK35R赤褐色	
452	97B	N801	中国青磁	地持丸瓶	最良空室	14.0	10.5	青磁瓶	青磁瓶	青磁瓶、片取裏面付	7.5Y710R白	
453	97B	N802-群物群	中国白磁	瓶	最良空室	10.3	6.6	白磁瓶、流筋	白磁瓶、流筋	白磁瓶、流筋	NK605白	
454	97B	N802-群物群	中国青磁	瓶	最良空室	10.9	4.6	青磁瓶	青磁瓶	青磁瓶、高台裏面付	NT605白	
455	97B	N802-群物群	中国白磁	瓶	最良空室	10.3	6.8	白磁瓶、流筋	白磁瓶、流筋	白磁瓶、流筋	NK605白	
456	97B	N802-群物群	中国青磁	瓶	最良空室	10.3	4.8	青磁瓶	青磁瓶	青磁瓶、流筋	NT605白	
457	97B	N802-群物群	中国青磁	瓶	最良空室	10.2	6.0	青磁瓶	青磁瓶	青磁瓶、高台裏面付、白磁 瓶	NK605白	
458	97B	N801-群物群	中国青磁	樽	最良空室	10.2	青磁瓶	青磁瓶	青磁瓶	青磁瓶	7.5YK35R	
459	97B	N802	中国青磁	樽	最良空室	10.4	青磁瓶	青磁瓶	青磁瓶	青磁瓶	NK605白	
460	97B	N802-群物群	中国青磁	樽	最良空室?	10.3	青磁瓶	青磁瓶	青磁瓶	青磁瓶	NK605白 10YK29R	
461	97B	N802-群物群	中国青磁	樽	最良空室	12.8	4.0	10.0	青磁瓶	青磁瓶	NK605白	
462	97B	N802-群物群	土師器	内耳罎	前期	11.0	10.3	ヨコナテ、ハ、全 体に赤み付有	ヨコナテ、ハ、全 体に赤み付有	ヨコナテ、ハ、全 体に赤み付有	10YK29R赤褐色	
463	97B	N802-群物群	土師器	内耳罎	前期	24.0	13.2	ヨコナテ、ハ、丁 字ナシ、コナ付 有	ヨコナテ、ハ、丁 字ナシ、コナ付 有	ヨコナテ、ハ、丁 字ナシ、コナ付 有	10YK29R赤褐色	
464	97B	N802-群物群	土師器	内耳罎	前期	22.0	10.2	ヨコナテ、ハ、コ ナ付有	ヨコナテ、ハ、コ ナ付有	ヨコナテ、ハ、コ ナ付有	2.5YK35R白	
465	97B	N802-群物群	土師器	内耳罎	前期	26.0	10.5	ヨコナテ、ハ、コ ナ付有	ヨコナテ、ハ、コ ナ付有	ヨコナテ、ハ、コ ナ付有	10YK29R赤褐色	
466	97B	N802-群物群	土師器	内耳罎	前期	26.0	18.1	ヨコナテ、調整 有	ヨコナテ、調整 有	ヨコナテ、調整 有	10YK29R赤褐色	
467	97B	N802-群物群	土師器	内耳罎	前期	11.0	10.4	ヨコナテ、ハ、コ ナ付有	ヨコナテ、ハ、コ ナ付有	ヨコナテ、ハ、コ ナ付有	10YK29R赤褐色	

遺物一覧表

国号番号	遺物名	遺物番号	所在地	遺物種別	時期	長さ(cm)	幅(cm)	底径(cm)	内容	備考	出土	備考
468	97B	N802下層	土師器	内耳罐		長12.0	幅9.9		コソナテ、ハクオモリ ヘウケタテリ、コソナテ	コソナテ、曹オケテ、洗刷、スス 付着、ヘウケタテリ	9803(1)赤土層 9803(2)赤土層	
469	97B	N802中層	土師器	内耳罐		長22.0	幅10.3		コソナテ、ハク	コソナテ、洗刷、曹オケテ、ヘウ ケタテリ、スス付着	108(1)赤土層	
470	97B	N802下層	土師器	内耳罐		長21.0	幅9.4		コソナテ、ヘウケタテリ	コソナテ、洗刷、曹オケテ、スス 付着	258(2)白土層 258(3)赤土層	
471	97B	N802中層	土師器	内耳罐		長29.2	幅12.4		無蓋、コソナテ	コソナテ、曹オケテ、スス付着、 洗刷、ヘウケタテリ	57(1)赤土層	
472	97B	N802中層	土師器	内耳罐		長22.27.0	幅13.8		コソナテ、曹オケテ、スス付着 ヘウケタテリ、コソナテ	コソナテ、スス付着、洗刷、曹オ ケテ、ヘウケタテリ	258(2)赤土層	
473	97B	N802中層	土師器	内耳罐		長30.0	幅12.6		コソナテ、ハク、赤土 付着	コソナテ、曹オケテ、洗刷、スス 付着	258(1)赤土層	
474	97B	N802中層	土師器	内耳罐		長25.0	幅13.3		コソナテ、ハク、コソ ナテ	コソナテ、洗刷、曹オケテ、スス 付着、ヘウケタテリ、スス付着	9803(1)赤土層 9803(2)赤土層	
475	97B	N802中層	瀬戸瓦器類	大形煎餅形器	古瀬戸(灰)焼		幅5.7		灰釉(ハクオモリ)	灰釉、洗刷	59(1)赤土層	
476	97B	N802中層	瓦器	瓦葺		22.6	26.4	29.4	ナテ、ハク、曹オケテ	ゴテテ、粉目、一部にススあり	258(1)赤土層	
477	97B	N802中層	瓦器	方形大磚		19.0	23.6	34.0	1面紅土色	ゴテテ、ナテ	258(1)赤土層	
478	97B	N801北	瀬戸瓦器類	文土瓦葺	古瀬戸(灰)焼	長11.0	幅5.3	幅5.0	灰釉	灰釉、磨蝕、トコナシ	758(1)赤土層 258(3)赤土層	
479	97B	N801北	瀬戸瓦器類	文土瓦葺	古瀬戸(灰)焼	長11.6	幅5.2	幅4.1	灰釉	灰釉、磨蝕	258(2)赤土層 258(1)赤土層	
480	97B	N801北	瀬戸瓦器類	文土瓦葺	古瀬戸(灰)焼	長11.4	幅5.1	幅4.0	灰釉	灰釉、磨蝕	108(1)赤土層	
481	97B	N801北	瀬戸瓦器類	文土瓦葺	古瀬戸(灰)焼	長11.8	幅5.9	幅3.6	灰釉	灰釉、磨蝕	9803(1)赤土層 258(3)赤土層	
482	97B	N801南	瀬戸瓦器類	文土瓦葺	古瀬戸(灰)焼	長11.0	幅5.2	幅5.0	灰釉	灰釉、磨蝕	758(1)赤土層 758(2)赤土層	
483	97B	N801	瀬戸瓦器類	文土瓦葺	古瀬戸(灰)焼	長11.4	幅6.0	幅5.0	灰釉	灰釉、磨蝕	258(2)赤土層 258(3)赤土層	
484	97B	N801北	瀬戸瓦器類	平焼	古瀬戸(灰)焼	長18.0	幅5.6		灰釉	灰釉、磨蝕	758(1)赤土層 258(3)赤土層	
485	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	大形1		幅5.7	幅5.5	灰釉	灰釉、磨蝕、紅土色付着	108(1)赤土層	
486	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	中形1	幅5.0	幅3.2	幅3.0	灰釉	灰釉、紅土色付着	758(1)赤土層	
487	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	中形2	幅5.6	幅2.5	幅2.8	灰釉	灰釉、紅土色付着	258(4)赤土層	
488	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	中形3	幅5.4	幅2.6	幅2.1	灰釉	磨蝕、ナテ付着	758(1)赤土層	
489	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	中形4	幅5.3	幅2.3	幅2.4	灰釉	磨蝕、紅土色付着	59(1)赤土層	
490	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	中形5	幅5.8	幅2.2	幅2.0	灰釉	磨蝕、紅土色付着	9804(1)赤土層 9804(2)赤土層	
491	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	中形6	幅5.0	幅2.6	幅2.6	灰釉	磨蝕、紅土色付着	758(1)赤土層	
492	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	中形7	幅5.6	幅2.8	幅2.4	灰釉	磨蝕、紅土色付着	258(1)赤土層	
493	97B	N801南	瀬戸瓦器類	瓦葺具	中形8	幅5.0	幅2.8	幅2.8	灰釉	磨蝕、ナテ付着	258(2)赤土層 258(3)赤土層	
494	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	中形9	幅5.0	幅2.7	幅2.6	灰釉	磨蝕、ナテ付着	758(1)赤土層	
495	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	中形10	幅5.4	幅2.3	幅2.2	灰釉	磨蝕、ナテ付着	9807(1)赤土層	
496	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	中形11	幅5.0	幅2.4	幅2.3	灰釉	磨蝕、紅土色付着	758(1)赤土層	
497	97B	N801南	瀬戸瓦器類	瓦葺具	中形12	幅5.4	幅2.4	幅2.0	灰釉	磨蝕、紅土色付着	758(1)赤土層	
498	97B	N801南	瀬戸瓦器類	瓦葺具	中形13	幅5.0	幅2.8	幅2.8	灰釉	磨蝕、紅土色付着	758(1)赤土層	
499	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	中形14	幅5.0	幅2.7	幅2.8	灰釉	磨蝕、紅土色付着	758(1)赤土層	
500	97B	N801南	瀬戸瓦器類	瓦葺具	中形15	幅5.0	幅2.9		灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕	258(2)赤土層	
501	97B	N801北	瀬戸瓦器類	平焼	古瀬戸(灰)焼	長14.4	幅3.2	幅2.2	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕	758(1)赤土層	
502	97B	N801下層	瀬戸瓦器類	煎餅形器	古瀬戸(灰)焼	長10.4	幅3.2	幅3.0	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕、紅土色付着	758(1)赤土層	
503	97B	N801下層	瀬戸瓦器類	煎餅形器	古瀬戸(灰)焼	長2.7	幅2.9	幅5.5	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕、紅土色付着	258(1)赤土層	
504	97B	N801北	瀬戸瓦器類	煎餅形器	古瀬戸(灰)焼	長11.9	幅3.4	幅3.6	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕	9806(1)赤土層	
505	97B	N802中層	瀬戸瓦器類	煎餅形器	古瀬戸(灰)焼	幅5.0	幅3.0	幅4.1	灰釉、磨蝕	全体にスス 付着している	758(1)赤土層	
506	97B	N801南	瀬戸瓦器類	煎餅形器	古瀬戸(灰)焼	幅5.0	幅3.0	幅4.3	灰釉、磨蝕	スス少し付着	758(1)赤土層	
507	97B	N801北	瀬戸瓦器類	煎餅形器	古瀬戸(灰)焼	幅5.0	幅2.7	幅3.0	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕、紅土色付着	758(1)赤土層	
508	97B	N801下層	瀬戸瓦器類	煎餅形器	古瀬戸(灰)焼	幅5.4	幅2.5	幅4.4	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕、紅土色付着	758(2)赤土層	
509	97B	N801北	瀬戸瓦器類	煎餅形器	古瀬戸(灰)焼	幅5.3	幅2.6	幅3.2	灰釉	磨蝕、紅土色付着	758(1)赤土層	
510	97B	N801	瀬戸瓦器類	煎餅形器	古瀬戸(灰)焼	幅5.0	幅2.2	幅2.7	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕	758(1)赤土層	
511	97B	N801北	瀬戸瓦器類	煎餅形器	古瀬戸(灰)焼	幅5.4	幅3.3	幅3.2	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕あり、磨蝕、紅土色付着	9807(1)赤土層	
512	97B	N801北	瀬戸瓦器類	煎餅形器	古瀬戸(灰)焼	幅5.8	幅4.0	幅4.0	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕、紅土色付着	758(1)赤土層	
513	97B	N801	瀬戸瓦器類	煎餅形器	古瀬戸(灰)焼	幅5.4	幅4.6	幅4.6	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕、紅土色付着	758(1)赤土層	
514	97B	N801北	瀬戸瓦器類	煎餅形器	古瀬戸(灰)焼	幅5.0	幅3.2	幅4.0	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕	258(1)赤土層	
515	97B	N801	瀬戸瓦器類	正許鉄紀丸瓦	惣型1	長12.6	幅3.0	幅7.4	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕、ビニル付	758(1)赤土層	
516	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	大形1	幅11.8	幅2.8	幅3.0	灰釉、白点	灰釉、軸トコナシ	758(1)赤土層	
517	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	惣型2	幅12.1	幅3.2	幅4.4	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕、磨蝕、ヘウケタテリ	758(2)赤土層	
518	97B	N801	瀬戸瓦器類	瓦葺具	惣型3	幅6.4	幅4.4	幅4.1	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕	9808(1)赤土層	
519	97B	N801	瀬戸瓦器類	瓦葺具	惣型4	幅5.0	幅5.0	幅3.0	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕	9807(1)赤土層	
520	97B	N801南	瀬戸瓦器類	瓦葺具	惣型5	幅12.8	幅3.8	幅4.0	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕	258(1)赤土層	
521	97B	N801南	瀬戸瓦器類	瓦葺具	惣型6	幅12.7	幅3.2	幅3.0	灰釉	磨蝕、磨蝕付に磨蝕、紅土色付着	258(2)赤土層	
522	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	惣型7	幅12.3	幅3.0	幅3.0	灰釉	磨蝕、スス少し付着	258(3)赤土層	
523	97B	N801北	瀬戸瓦器類	瓦葺具	惣型8	幅6.3	幅4.6	幅4.0	灰釉、磨蝕	灰釉、磨蝕	N800(1)	
524	97B	N801	瀬戸瓦器類	瓦葺具	惣型9	幅2.8	幅3.7	幅4.1	灰釉	磨蝕、磨蝕	59(1)赤土層	
525	97B	N801南	古瀬戸(灰)焼	陶瓦	最大長21.5	最大幅10.3	最大厚2.3				9807(1)赤土層	
526	97B	N801	中国産	加文瓦	龍泉窯系	長24.0	幅6.7		赤磁釉	赤磁釉	758(1)赤土層	
527	97B	N801	中国産	瓦葺具	龍泉窯系		幅3.2		赤磁釉	赤磁釉	N800(1)	
528	97B	N801	中国産	瓦葺具	龍泉窯系		幅2.0		赤磁釉	赤磁釉	758(1)赤土層	
529	97B	N801	中国産	瓦葺具	龍泉窯系	幅6.1	幅5.2		赤磁釉	赤磁釉、高台痕跡、高台内磨蝕	258(1)赤土層	
530	97B	N801下層	中国白磁	磁瓦葺	龍泉窯系	長12.6	幅2.4		白磁釉	白磁釉、磨蝕付に磨蝕	N800(1)	
531	97B	N801北	中国白磁	磁瓦葺	龍泉窯系	長12.6	幅3.3	幅2.7	白磁釉	白磁釉、高台痕跡	N800(1)	
532	97B	N801	中国産	特殊瓦	龍泉窯系	幅11.7	幅2.9	幅3.3	赤磁釉、磨蝕	赤磁釉、磨蝕、ヘウ(シク)ナ テ付着	758(1)赤土層	

国名番号	調査区	遺構番号	所在地・材質	器種	時期	口径(mm)	底径(mm)	高さ(mm)	内径(mm)	内容	備考	出土番号
533	97B	N801	中国青化	甗	新石器時代	直径	4.9	94.0		黄色	黄化、高台隆起部、高台直縁部	N801G1
534	97B	N801-S001	中国青化	甗	新石器時代	直径	4.4	94.4		黄色	黄化、高台隆起部、高台直縁部	N801G1
535	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	10.2	1.9	5.4	コトクワ	コトクワ、調整器	2.5YR62(白)
536	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.2	2.3		コトクワ、ターム付着	コトクワ、調整器のもね既片	2.5YR62(白) 2.5YR63(黄)
537	97B	N801G1	新石器時代	調整器	新石器時代	直径	11.4	2.3	直径7.2	コトクワ、ターム付着	コトクワ、ターム付着、調整器	7.5YR63(白)
538	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.8	2.3	直径6.0	コトクワ	コトクワ、調整器	2.5YR62(白) 2.5YR63(黄)
539	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.8	2.6	直径6.0	コトクワ	コトクワ、調整器	2.5YR62(白)
540	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.8	1.8	5.6	コトクワ	コトクワ、調整器	2.5YR62(白) 2.5YR63(黄)
541	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	11.8	2.5	6.4	コトクワ	コトクワ、調整器のもね既片	2.5YR62(白)
542	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.8	1.8	直径5.8	コトクワ、全体にシム	コトクワ、調整器	2.5YR62(白) 5YR63(黄)
543	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.8	2.1	直径7.8	コトクワ	コトクワ、調整器のもね既片	2.5YR62(白)
544	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.8	2.2	7.0	コトクワ	コトクワ、調整器	10YR62(白)
545	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	11.8	2.0	直径5.8	コトクワ	コトクワ、調整器	10YR63(黄)
546	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.2	2.2	直径6.0	コトクワ	コトクワ、調整器	10YR62(白) 2.5YR63(黄)
547	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.4	2.0	5.8	コトクワ	コトクワ、調整器	10YR62(白)
548	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.2	2.0	直径5.2	コトクワ	コトクワ、調整器	7.5YR63(黄)
549	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	11.2	2.2	直径5.4	コトクワ	コトクワ、調整器	10YR62(白)
550	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	10.8	2.1	直径6.0	コトクワ	コトクワ、調整器	10YR63(黄)
551	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	13.0	2.2	直径6.8	コトクワ	コトクワ、調整器	2.5YR62(白)
552	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	11.0	2.3	6.0	コトクワ、ススけている	コトクワ、調整器	10YR62(白)
553	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	11.8	2.3	5.4	コトクワ	コトクワ、調整器	2.5YR62(白)
554	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	13.8	2.5	直径6.0	コトクワ	コトクワ、調整器	10YR62(白)
555	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	11.8	2.1	6.0	コトクワ	コトクワ、調整器	10YR63(黄)
556	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	13.2	2.3	直径6.0	コトクワ、シムあり	コトクワ、調整器	7.5YR63(黄)
557	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.0	2.3	直径6.0	コトクワ、黒いシム	コトクワ、黒いシム(ターム)付着、調整器	10YR62(白)
558	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.8	2.0	6.0	コトクワ	コトクワ、調整器	10YR63(黄)
559	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.0	1.8	直径5.0	コトクワ	コトクワ、調整器のもね既片	2.5YR62(白)
560	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.3	2.5	5.9	コトクワ、ススけている	コトクワ、調整器のもね既片	10YR62(白)
561	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	10.1(11.0)	2.1(2.2)	5.1(4.7)	コトクワ、ススけている	コトクワ、調整器のもね既片	2.5YR62(白)
562	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	9.4	1.9	4.8	コトクワ、黒いシム	コトクワ、黒いシム(ターム)付着、調整器	2.5YR62(白) 7.5YR63(黄)
563	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	15.8	2.7	直径6.0	コトクワ	コトクワ、調整器	7.5YR63(黄)
564	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	15.8	2.5	9.6	コトクワ	コトクワ、調整器	7.5YR63(黄) 黄
565	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	13.8	2.3	6.2	コトクワ	コトクワ、調整器	5YR63(黄)
566	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	15.0	0.2	1.1	コトクワ	コトクワ、調整器	10YR63(黄)
567	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.8	2.7	5.8	コトクワ	コトクワ、調整器	7.5YR63(黄)
568	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	15.2	1.8	6.8	コトクワ、中縁部スス	コトクワ、調整器	10YR63(黄)
569	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	8.0	1.4	4.2	コトクワ	コトクワ、全体黒色化、調整器	2.5YR64(灰)
570	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	8.0	1.5	4.4	コトクワ、ターム付着	コトクワ、ターム付着、調整器	10YR63(黄) 10YR62(白)
571	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	7.8	0.1	直径6.0	コトクワ	コトクワ、調整器	2.5YR62(白)
572	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	7.8	1.5	4.4	コトクワ、ターム付着	コトクワ、ターム付着、調整器	2.5YR62(白)
573	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	11.8	0.2	直径5.0	コトクワ、ススけている	コトクワ、ススけている、調整器	10YR62(白)
574	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	13.8	2.4	6.8	コトクワ	コトクワ、調整器	10YR63(黄) 10YR62(白)
575	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.8	2.1	直径6.2	コトクワ	コトクワ、調整器、黄赤	2.5YR62(白)
576	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	15.0	2.9	6.8	コトクワ	コトクワ、調整器	2.5YR62(白)
577	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	12.0	2.3	5.0	コトクワ	コトクワ、調整器のもね既片	2.5YR62(白)
578	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	13.0	2.5	直径6.2	コトクワ、黄赤(赤?)	コトクワ、調整器	10YR63(黄) 10YR62(白)
579	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	6.0	1.0	直径6.0	コトクワ	コトクワ、調整器	2.5YR62(白)
580	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	5.8	1.0	直径6.2	コトクワ	コトクワ、調整器	10YR63(黄)
581	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	7.6	0.8	直径5.4	コトクワ	コトクワ、調整器	10YR62(白)
582	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	7.4	2.2	直径6.0	コトクワ、一方角サ	コトクワ、調整器	5YR63(黄) 2.5YR63(黄)
583	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	6.8	1.2	直径6.2	コトクワ、ターム付着	コトクワ、調整器	10YR62(白)
584	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	7.0	1.1	直径6.8	コトクワ	コトクワ、調整器	10YR63(黄)
585	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	7.6	1.1		コトクワ、一方角サのみコトクワ	コトクワ、調整器(手の跡)	10YR62(白)
586	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	6.1	1.2		コトクワ	コトクワ、調整器(手の跡)、ススけた	2.5YR62(白) 10YR62(黄)
587	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	6.0	1.1		コトクワ	コトクワ、調整器	5YR63(黄)
588	97B	N801	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	5.9	1.8		コトクワ	コトクワ、調整器	10YR62(白)
589	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	6.4	1.3		コトクワ	コトクワ、調整器	10YR62(白)
590	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	6.7	0.9	1.7	コトクワ	コトクワ、調整器	2.5YR63(黄)
591	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	6.7	1.5		コトクワ	コトクワ、調整器	10YR62(白)
592	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	6.5	1.4		コトクワ、黒縁あり	コトクワ、調整器	2.5YR63(黄)
593	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	6.4	1.6		コトクワ	コトクワ、調整器、調整器、調整器	7.5YR63(黄) 調整器
594	97B	N801G1	土師器	コトクワ調整器	新石器時代	直径	6.8	1.5		コトクワ	コトクワ、調整器	2.5YR63(黄)

遺物一覧表

国名番号	調査区	遺物番号	所在地・材質	器名	時期	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	内容	備考	数量	備考
503	97B	N801下層	土師器	黒土クマシメ	前期	径16.8	径5.3		ココナテ	ココナテ、一部ススけている	2,550(2)	199463R
506	97B	N801	土師器	仏蘭具	古銅(?)銅器類	径8.8	径4.9	4.4	ココナテ	ココナテ、銅板金付物、ココナテ、銅板金付物	10,900(3)	199463R
507	97B	N801(瓦片物)	土師器	仏蘭具	古銅(?)銅器類		径2.8	4.0	ココナテ	ココナテ、銅板金付物	2,550(2)	
508	97B	N801(瓦片物)	土師器	仏蘭具		径9.0	径4.0		ココナテ	ココナテ	10,900(3)	199463R
509	97B	N801(瓦片物)	土師器	仏蘭具		径8.6	径4.5		ココナテ	ココナテ	2,550(2)	
600	97B	N801	土師器	蓋	A期	3.8	径0.9		ココナテ	ココナテ、銅板金付物	10,900(3)	199463R
601	97B	N801(瓦片物)	土師器	銅器		径4.2	径1.6		ココナテ	ココナテ、スス少し付着	10,900(3)	199463R
602	97B	N801出	瀬戸瓦器類	鉢	古銅(?)銅器類	径5.3			瓦類、瓦類	瓦類、瓦類	7,500(3)	199463R
603	97B	N801出	瀬戸瓦器類	鉢	土器?			径0.9			10,900(3)	199463R
604	97B	N801出	瀬戸瓦器類	鉢	古銅(?)銅器類	径2.5		径0.9	瓦類	瓦類、瓦類、ヘラクズリ、銅板金付物	7,500(3)	
605	97B	N801	瀬戸瓦器類	向付漆器	古銅(?)銅器類	径30.2	径10.3		瓦類、瓦類	瓦類、瓦類、ヘラクズリ	2,550(2)	
606	97B	N801	瀬戸瓦器類	瓦	古銅(?)銅器類		径1.4	径2.8	瓦類、瓦類	瓦類、瓦類	5,900(3)	
607	97B	N801出	瀬戸瓦器類	燈台	古銅(?)銅器類	径10.6	径4.8		瓦類	瓦類、瓦類、ヘラクズリ銅器	2,550(2)	
608	97B	N801	瀬戸瓦器類	鉢	古銅(?)銅器類	径9.6	径3.3		瓦類	瓦類	2,550(2)	
609	97B	N801出	瀬戸瓦器類	四(三)耳蓋	古銅(?)銅器類	径12.5	径3.3		瓦類、瓦類	瓦類、瓦類	2,500(2)	199463R
610	97B	N801(瓦片物)	瓦器	瓦類				径1.7	ココナテ	ミソネ	10,900(3)	199463R
611	97B	N801出	瓦器類	蓋	瓦類	径39.0	径19.9		瓦類、瓦類	瓦類	NA005	
612	97B	N801出	瀬戸瓦器類	17区瓦器類	古銅(?)銅器類	径0.8	径1.8	径1.8	瓦類、瓦類、(1)銅器類(銅板金付物)	瓦類、ヘラクズリ、瓦類、銅板金付物、銅板金付物のヘラクズリ	2,550(2)	
613	97B	N801出	瓦器類	蓋	瓦類	径51.0	径8.1		瓦類、瓦類	瓦類、瓦類	10,900(3)	199463R
614	97B	N801出	瀬戸瓦器類	鉢	古銅(?)銅器類	径29.0	径7.5		瓦類、瓦類	瓦類、瓦類、土器類	7,500(3)	
615	97B	N801菓子箱	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径6.2			漆、陶器、磁石	漆、陶器	7,500(3)	199463R
616	97B	N801	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径6.9			磁器、磁石	磁器	7,500(3)	
617	97B	N801	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径4.2			磁器	磁器	2,550(2)	
618	97B	N801(瓦片物)	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径26.6	径2.1		磁器	磁器	2,550(2)	
619	97B	N801	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径26.4	径2.5		磁器、磁石	磁器、磁石(1)磁板(2)	7,500(3)	
620	97B	N801	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径29.2	径3.9		磁器	磁器、金具(みかた)に入っている	5,900(3)	
621	97B	N801出	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径29.2	径6.7		磁器	磁器	7,500(3)	
622	97B	N801	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径30.6	径3.6		磁器	磁器	2,550(2)	
623	97B	N801出	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径31.0	径3.3		磁器、磁石	磁器	7,500(3)	
624	97B	N801(瓦片物)	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径9.2	径0.9	径0.2	磁器、磁石	磁器、銅板金付物、銅板金付物の器蓋	7,500(3)	
625	97B	N801出	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径36.6	径1.0		磁器	磁器	2,550(2)	
626	97B	N801(瓦片物)	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径32.6	径3.3		磁器、スス付物、磁石	磁器	7,500(3)	
627	97B	N801(瓦片物)	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径32.0	径2.0		磁器	磁器	7,500(3)	
628	97B	N801(瓦片物)	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径32.4	径2.4		磁器	磁器	7,500(3)	
629	97B	N801	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径32.6	径0.6		磁器、磁石	磁器、1)磁器器蓋	2,550(2)	
630	97B	N801出	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径31.0	径6.7		磁器、磁石	磁器	7,500(3)	
631	97B	N801(瓦片物)	瀬戸瓦器類	磁器	古銅(?)銅器類	径32.4	径3.3	径0.2	磁器、磁石	磁器、銅板金付物、銅板金付物の器蓋	7,500(3)	
632	97B	N801	土師器	内耳鍋		径19.5	径6.7		ココナテ、ハテ	ココナテ、蓋	2,500(2)	199463R
633	97B	N801(瓦片物)	土師器	内耳鍋		径21.0	径7.9		ハテ	ココナテ、蓋サヤ、瓦類、スス付物	7,500(3)	199463R
634	97B	N801出	土師器	内耳鍋		径21.0	径0.3		ココナテ、ハテ	ココナテ、蓋サヤ、瓦類、スス付物、ヘラクズリ	7,500(3)	199463R
635	97B	N801(瓦片物)	土師器	内耳鍋		径22.0	径11.0		ココナテ、ハテ、ヘラクズリ	ココナテ、蓋、スス付物、蓋サヤ、ヘラクズリ	7,500(3)	199463R
636	97B	N801	土師器	内耳鍋		径24.0	径5.4		スス付物、ハテ	ココナテ、蓋サヤ、瓦類	2,500(2)	199463R
637	97B	N801(瓦片物)	土師器	内耳鍋			径4.1		ハテ	サヤ、蓋サヤ、スス付物	2,550(2)	
638	97B	N801(瓦片物)	土師器	内耳鍋		径26.4	径0.9		ハテ	ココナテ、蓋、スス付物、蓋サヤ、ヘラクズリ	7,500(3)	199463R
639	97B	N801	土師器	内耳鍋		径24.0	径13.2		ヘラクズリまたはハテ	蓋サヤ、スス、瓦類、スス付物、ヘラクズリ	7,500(3)	199463R
640	97B	N801(瓦片物)	土師器	内耳鍋		径27.0	径7.5		瓦類、調整不明	ココナテ、蓋サヤ、瓦類、スス付物	7,500(3)	199463R
641	97B	N801(瓦片物)	土師器	煎茶釜		径14.2	径0.4		1.ススあり、ココナテ、ハテ、蓋サヤ	ココナテ、ハテ、ココナテ、スス付物	10,900(3)	199463R
642	97B	SD01	中国青銅	煎	銅器	径10.8	径2.1		白銅類	白銅類	7,500(3)	
643	97B	SD01	中国青銅	煎	銅器	径14.6	径3.8		青銅類	青銅類	9,900(3)	199463R
644	97B	SD01-N801出	瀬戸瓦器類	煎(三)耳蓋	古銅(?)銅器類	径12.4	径8.8		瓦類、瓦類、瓦類	瓦類、瓦類、ヘラクズリ、スス付物、瓦類	10,900(3)	199463R
645	97B	SK14(瓦片物)	瀬戸瓦器類	煎		径1.2	径3.6		瓦類	瓦類	7,500(3)	
646	97B	SK14下層	瓦器類(漆器類)	煎		径1.2	径3.8		ココナテ、自然物	ココナテ、自然物	7,500(3)	
647	97B	SK14下層	瀬戸瓦器類	煎		径0.2	径2.2		瓦類、瓦類	瓦類、瓦類	2,550(2)	
648	97B	SK14(瓦片物)	中国青銅	煎(蓋)	銅器	径23.8	径10.3		瓦類類、ソコ	瓦類類、ソコ	7,500(3)	199463R
649	97B	SK14(瓦片物)	瀬戸瓦器類	煎		径1.8	径2.8		瓦類	瓦類	7,500(3)	
650	97B	SK14	瀬戸瓦器類	煎			径1.8		瓦類	瓦類	10,900(3)	199463R
651	97B	SK14	瀬戸瓦器類	煎			径1.2		瓦類	瓦類	7,500(3)	
652	97B	SK14下層	瀬戸瓦器類	煎			径1.2		瓦類	瓦類	2,550(2)	
653	97B	SK14(瓦片物)	瀬戸瓦器類	煎漆器		径4.4			瓦類、瓦類	瓦類、瓦類	7,500(3)	
654	97B	SK14	土師器	17区調整器	銅器	径12.6	径2.3		ココナテ	ココナテ、銅板金付物	2,550(2)	
655	97B	SK14下層	土師器	17区調整器	銅器	径11.8	径1.9		ココナテ	ココナテ、銅板金付物	10,900(3)	199463R
656	97B	SK14	土師器	17区調整器	銅器?	径11.4	径2.3	径0.8	ココナテ、銅板金付物	ココナテ、銅板金付物、銅板金付物の右側器蓋	7,500(3)	

図号番号	調査区	遺構番号	地域・村名	部 類	材 質	寸法(cm)	重量(g)	底径(cm)	内 径	外 径	備 考
657	97B	SK415(白物)	土師器	ロウロコ調器	丸瓶		25.2	3.8	ココナテ	ココナテ、副杯本型模	15903(器) 59803(器)
658	97B	SK415(白物)	土師器	ロウロコ調器	丸瓶	直径12.4	2.5	直径5.7	ココナテ	ココナテ、副杯本型模	99803(器) 99803(器)
659	97B	SK415(白物)	土師器	ロウロコ調器	丸瓶	直径13.0	2.5	直径6.0	ココナテ	ココナテ、副杯本型模	109803(器)
660	97B	SK414(下)	土師器	ロウロコ調器	丸瓶	直径12.8	22.7	直径7.2	ココナテ、ナール付	ココナテ、副杯本型模	2599(器)表裏
661	97B	SK414(下)	土師器	内注器	丸瓶	直径10.0	26.7		ココナテ、ハテ	ココナテ、器オケム、スス付	7599(器)表裏
662	97B	SK01	土師器	ロウロコ調器	A瓶	直径6.8	1.2	直径5.0	ココナテ	ココナテ、器オケム	2599(器)表裏
663	97B	SK02	瀬川美濃陶器	磨製器	丸瓶	直径11.4	2.8	直径6.6	鉄胎	鉄胎、鍍金、ヘラツク子	2599(器)表裏
664	97B	SK06	土師器	ロウロコ調器	丸瓶	直径12.0	22.1		ココナテ	ココナテ、副杯本型模	109803(器)表裏
665	97B	SK06	土師器	ロウロコ調器	丸瓶	直径7.8	21.5		ココナテ	ココナテ、1層部ナール付、副杯本型模	2599(器)表裏
666	97B	SK06	土師器	ロウロコ調器	丸瓶	直径7.6	21.6	直径4.2	ココナテ	ココナテ、副杯本型模	2599(器)表裏
667	97B	SK08	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径11.8	24.7		鉄胎	鉄胎	7599(器)白
668	97B	SK08	土師器	ロウロコ調器	丸瓶	直径11.8	2.0		ココナテ	ココナテ、副杯本型模	2599(器)表裏
669	97B	SK08	土師器	ロウロコ調器	丸瓶	直径10.0	21.6		ココナテ	ココナテ	109803(器)表裏 1299(器)白
670	97B	SK10	瀬川美濃陶器	鉄胎	丸瓶	直径5.5			鉄胎	鉄胎	7599(器)白
671	97B	SK12	瀬川美濃陶器	平鉢	丸鉢	直径3.3			鉄胎、鍍金	鉄胎、鍍金	7599(器)白
672	97B	SK13	土師器	内注器	丸鉢	直径2.0			ココナテ、泥附、スス付	ココナテ、泥附	109803(器)表裏
673	97B	SK17	土師器	ロウロコ調器	A瓶	直径6.0	16.0	直径5.6	ココナテ	ココナテ、器オケム	109803(器)白
674	97B	SK17	瀬川美濃陶器	鉄胎	丸鉢	直径5.6	20.0		鉄胎、鍍金	鉄胎、鍍金	7599(器)白
675	97B	SK15	瀬川美濃陶器	日用小器	丸鉢	直径7.1	3.7	直径4.0	鉄胎、鍍金	鉄胎、鍍金	2599(器)白
676	97B	SK16	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	最大径12.5	最大径12.2	最大径12.1	高台	鉄胎、鍍金、副杯本型模	7599(器)白
677	97B	SK16(下)	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径9.2	21.9		鉄胎	鉄胎	109803(器)白
678	97B	SK16(下)	中河倉庄	丸瓶	磨製器	直径11.6	21.6		鉄胎	鉄胎、鍍金	SK005(器)
679	97B	SK16(下)	中河倉庄	丸瓶	磨製器	直径10.8	22.8	直径10.6	鉄胎	鉄胎、副杯本型模	7599(器)白
680	97B	SK16(下)	中河倉庄	丸瓶	磨製器	直径10.8	22.7	直径10.8	鉄胎	鉄胎、副杯本型模	7599(器)白
681	97B	SK00	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径10.8	6.1	直径6.2	透明模	透明模、鍍金	7599(器)白
682	97B	SK00	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径7.7	3.2	直径4.2	鉄胎	鉄胎、鍍金、裏面施ナール付、副杯本型模	7599(器)白
683	97B	SK00	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径10.8	3.0	直径5.1	鉄胎、輪ナール付	鉄胎、輪ナール付	7599(器)白
684	97B	SK00	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径8.6	2.9	直径4.8	鉄胎	鉄胎、鍍金(スス付)、副杯ヘラツク子付	59803(器)
685	97B	SK00	中河倉庄	丸瓶	磨製器	直径11.8	22.2		白磁胎	白磁胎	SK005(器)
686	97B	SK00	中河倉庄	丸瓶	磨製器	直径8.6	22.5		鉄胎(黒色)	鉄胎(黒色)	59803(器)
687	97B	SK00	中河倉庄	丸瓶	磨製器	直径10.0	22.1		白磁胎、輪先	白磁胎、高台部鍍金	SK005(器)
688	97B	SK00	中河倉庄	丸瓶	磨製器	直径11.8	22.0		白磁胎	白磁胎	SK005(器)
689	97B	SK00	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径14.8	23.6		鉄胎、鍍金	鉄胎、1層部裏面施ナール付、副杯本型模	85903(器) 2599(器)表裏
690	97B	SK00	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径17.6	10.9	直径17.1	白磁胎	白磁胎、1層部裏面施ナール付、副杯本型模	2599(器)表裏
691	97B	SK00	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径23.8	23.5	直径18.8			59803(器)
692	97B	SK00	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径9.8	5.5	直径4.0	鉄胎	鉄胎、高台部鍍金、副杯ヘラツク子付	7599(器)白
693	97B	SK00	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径10.6	4.2	直径7.5	鉄胎	鉄胎、高台部鍍金	7599(器)白
694	97B	SK00	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径11.8	23.7		鉄胎	鉄胎、鍍金	7599(器) 99803(器)表裏
695	97B	SK00	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径14.0	4.3	直径5.6	鉄胎、丸形部	鉄胎、丸形部、鉄胎	7599(器)白
696	97B	SK00	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径10.4	4.4	直径4.4	鉄胎(丸形部)	鉄胎(丸形部)、高台部鍍金	SK005(器)
697	97B	NRA	関西系陶器?	丸瓶	丸瓶	直径12.8	23.6		透明模	透明模、1層部裏面施ナール付、副杯本型模	7599(器)白
698	97B	NRA	尾山系 381丁	山岳系	丸瓶	直径14.2	5.1	直径6.8	自然釉若干	自然釉若干、ココナテ、高台部若干付、副杯本型模	7599(器)白
699	97B	NRA	尾山系 381丁	山岳系	丸瓶	直径12.2	20.2	直径7.0	自然釉、ココナテ、一方向のナール、ナール	ココナテ、高台部若干付、副杯本型模	59803(器)
700	97B	NRA	尾山系 381丁	山岳系	丸瓶	直径9.8	3.0	直径3.8	透明模、ココナテ若干	自然釉(1層部裏面施ナール付)、副杯本型模(表裏スス付)	SK005(器)
701	97B	NRA	関西系 381丁	山岳系	丸瓶	直径10.4	2.6		丸形部	透明模、つまみ部鍍金、丸形部	SK005(器)
702	97B	NRA	関西系 381丁	山岳系	丸瓶	直径1.8	7.0	直径4.8	透明模	透明模、副杯(1層部裏面施ナール付)、副杯本型模	SK005(器)
703	97B	NRA	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径6.6	1.4	直径4.4	丸一層部	丸一層部、ナール、副杯本型模	109803(器)表裏
704	97B	NRA	尾山系 381丁	山岳系	丸瓶	直径4.2	2.8	直径4.4	ココナテ	ココナテ、副杯本型模	7599(器)白
705	97B	NRA	中河倉庄	丸瓶	磨製器	直径11.4	2.5	直径6.8	着色	着色、高台部鍍金	SK005(器)
706	97B	NRA	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径10.4	2.1	直径5.0	鉄胎	鉄胎、裏面施ナール付、副杯ヘラツク子付	109803(器)白
707	97B	NRA	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径22.8	24.1		長石釉調器	長石釉、鍍金	2599(器)白
708	97B	NRA	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径16.1	14.0		鉄胎	鉄胎、ヘラツク子、鍍金、ナール、副杯ヘラツク子付	7599(器)白
709	97B	NRA	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径30.8	23.1		鉄胎(緑釉施し)	鉄胎(緑釉施し)	7599(器)白
710	97B	NRA	瀬川美濃陶器	丸瓶	丸瓶	直径3.6					7599(器)白
711	97B	NRA	土師器	丸瓶	丸瓶	直径10.0	23.7		ココナテ、ハテ	ココナテ、器オケム、スス付	59803(器)
712	97B	NRA	尾山系 381丁	山岳系	丸瓶	直径5.2			ココナテ	ココナテ	7599(器)白
713	97B	NRA	尾山系 381丁	山岳系	丸瓶	直径8.2	20.7		鉄胎、鉄胎	鉄胎、裏面施ナール付、副杯ヘラツク子付	SK005(器)
714	97B	NRA	尾山系 381丁	山岳系	丸瓶	直径4.8	23.0		着色	着色(裏面や着色部施ナール付)、副杯本型模	109803(器)表裏 1299(器)白
715	97B	NRA	尾山系 381丁	山岳系	丸瓶	直径10.2	6.3	直径4.2	鉄胎	鉄胎、高台部鍍金	7599(器)白
716	97B	NRA	尾山系 381丁	山岳系	丸瓶	直径8.8	5.4	直径3.4	鉄胎	鉄胎、高台部鍍金	7599(器)白
717	97B	NRA	尾山系 381丁	山岳系	丸瓶	直径10.6	5.0	直径4.0	透明模	透明模、染付、透明模	SK005(器)
718	97B	NRA	尾山系 381丁	山岳系	丸瓶	直径9.2	24.8		鉄胎	鉄胎、鉄胎	2599(器)白
719	97B	NRA	尾山系 381丁	山岳系	丸瓶	直径5.8	23.2		着色	着色、高台部鍍金、高台部白磁胎	7599(器)白
720	97B	NRA	尾山系 381丁	山岳系	丸瓶	直径10.6	5.6	直径3.6	鉄胎	鉄胎、副杯本型模	2599(器)白

遺物一覧表

図号番号	調査区	遺構番号	所在地・材質	器種	時期	口径(cm)	底径(cm)	底径(cm)	内径	高さ	重量	備考	
721	97B	NBR遺跡56	瀬戸美濃陶器	磁輪蓋		9.2	2.4	4.4	灰釉、一部ナール黄	灰釉、一部ナール黄、蓋部、口縁、赤銅	1079g(原)		
722	97B	NBR遺跡56	瀬戸美濃陶器	磁輪蓋		8.6	3.1	3.4	灰釉	灰釉、蓋部、口縁赤銅	759g(原)		
723	97B	NBR	瀬戸美濃陶器	蓋類		9.4	1.8	2.0	蓋部	蓋部、口縁赤銅	970g(原)		
724	97B	NBR遺跡56	瀬戸美濃陶器	蓋類	大正17	10.0	2.3	4.6	蓋部	蓋部、口縁赤銅	1079g(表裏)		
725	97B	NBR	瀬戸美濃陶器	瓦瓶丸蓋		11.0	2.6	5.8	灰釉	灰釉、高台蓋部	739g(原)		
726	97B	NBR遺跡56	瀬戸美濃陶器	瓦瓶ソコ蓋		11.8	3.2	6.4	灰釉	灰釉、高台蓋部	NA055(白)		
727	97B	NBR遺跡56	中河倉組	瓦	戦前	8.2	0.7		赤銅	蓋部(口縁部、蓋部、蓋部)	1079g(原)		
728	97B	NBR	瀬戸美濃陶器	瓦瓶丸蓋		11.2	2.8	7.2	灰釉、口縁	灰釉、蓋部、口縁赤銅	579g(原)		
729	97B	NBR遺跡56	瀬戸美濃	瓦		11.8	0.7		灰釉、赤付	灰釉	739g(原)		
730	97B	NBR遺跡56	瀬戸美濃	瓦瓶丸蓋		11.6	3.2	5.8	灰釉、赤付	灰釉、高台蓋部、灰釉	739g(原)		
731	97B	NBR遺跡56	瀬戸美濃	蓋類		4.0	2.3	2.6	灰釉	灰釉、蓋部、口縁赤銅	259g(原)		
732	97B	NBR遺跡56	瀬戸美濃	蓋		8.8	2.3		ナール黄、蓋部、口縁赤銅	灰釉、蓋部	739g(原)		
733	97B	NBR遺跡56	瀬戸美濃	蓋		8.9	1.2		蓋部	灰釉	NT065(白)		
734	97B	NBR遺跡56	瀬戸美濃	瓦瓶付蓋類		0.4	6.0	6.0	蓋部	蓋部、蓋部、口縁赤銅	739g(原)		
735	97B	NBR 5802(3)	瀬戸美濃陶器	蓋類		4.0			蓋部	蓋部	259g(原)		
736	97B	NBR 5802(3)	室津遺跡	蓋					灰釉、ココナテ	灰釉、ココナテ	100g(17.700g(原))		
737	97B	NBR 5802(3)	瀬戸美濃陶器	鉢類	古瀬戸(中)期	20.6	12.5	13.1	9.0	灰釉、黒目(口縁)赤銅	蓋部、口縁赤銅、口縁赤銅	739g(原)	口
738	97B	NBR	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅		11.6	6.3	4.6	蓋部	蓋部、蓋部、口縁赤銅、ナール黄	2397g(原)		
739	97B	S01	瀬戸美濃陶器	蓋類		10.6	0.2	5.0	蓋部	蓋部(口縁部、蓋部)	NT065(白)		
740	97B	S01	瀬戸美濃陶器	志野蓋		10.0		7.8	長石釉、緑銅	長石釉、蓋部	739g(原)		
741	97B	S01	土師蓋	ワケ調整皿	A類?		0.3	6.8	ココナテ	ココナテ、口縁赤銅	739g(17.6g(原))		
742	97B	S01	土師蓋	ワケ調整皿	A類?		0.3	6.8	ココナテ、全周にナール黄付着、蓋部赤銅	ココナテ、全周にナール黄付着、蓋部赤銅	739g(原)		
743	97B	S01	土師蓋	ワケ調整皿	B類?		0.3	6.8	ココナテ、全周にナール黄付着、蓋部赤銅	ココナテ、全周にナール黄付着、蓋部赤銅	739g(原)		
744	97B	S01	室津陶器(赤銅)	蓋		55.4	4.0	10.9	ココナテ、黒オス	ココナテ	1079g(表裏)		
745													
746													
747													
748													
749													
750													
751													
752													
753													
754													
755													
756	99A	SK33	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正3期	10.7	5.6	4.2	灰釉(ワケ付)	灰釉(ワケ付)、ナール黄、ナール黄	259g(原)		
757	99A	SK133	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正3期	11.6	6.1	3.6	蓋部	蓋部、ナール黄	739g(原)		
758	99A	SK140	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正3期	11.3	6.2	3.4	蓋部	蓋部、赤銅にナール黄	739g(原)		
759	99A	SK13	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正3期	11.8	6.3	3.0	蓋部	蓋部、ナール黄	739g(原)		
760	99A	SK153	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正3期	11.6	5.4	4.2	蓋部	蓋部、ナール黄	739g(原)		
761	99A	SK133	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正3期	11.8	5.8	3.2	蓋部	蓋部、蓋部	739g(原)		
762	99A	SK1	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正3期	11.8	6.2	4.4	蓋部	蓋部、赤銅にナール黄	259g(原)		
763	99A	SK68-182	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正3期	12.2	6.2	4.9	蓋部	蓋部、蓋部	259g(原)		
764	99A	SK25	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正3期	11.2	5.5	4.8	蓋部	蓋部、蓋部	259g(原)		
765	99A	SK221	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正3期	12.1	5.6	4.4	蓋部	蓋部、蓋部、口縁赤銅	739g(原)		
766	99A	SX01	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正4期	10.6	5.7	4.1	蓋部	蓋部、蓋部	259g(原)		
767	99A	SD03	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正4期	12.2	5.9	4.8	蓋部	蓋部、蓋部、口縁赤銅	1079g(17.6g(原))		
768	99A	SK	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正4期	11.6	5.9	4.6	蓋部	蓋部、蓋部	NT065(白)		
769	99A	T	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正4期	11.2	5.5	2.3	蓋部	蓋部、蓋部	739g(原)		
770	99A	SK69	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正4期	11.4	5.8	3.4	蓋部	蓋部、蓋部	739g(原)		
771	99A	SK248	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正4期	12.4	0.4		蓋部、長石釉	蓋部(長石釉)、蓋部、口縁赤銅	NA055(白)		
772	99A	SD02	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正2	12.0	0.4		蓋部	蓋部、蓋部	259g(原)		
773	99A	S01	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正3期	11.8	6.6	4.6	蓋部	蓋部、蓋部	739g(原)		
774	99A	SD10	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正3期	11.6	5.7	6.0	4.3	蓋部	蓋部、赤銅にナール黄	739g(原)	
775	99A	SD12	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正3期	12.2	5.5	6.0	4.3	蓋部	蓋部、ナール黄、ナール黄	1079g(17.6g(原))	
776	99A	SD12	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正4期	11.2	5.8	4.3	蓋部	蓋部、蓋部	259g(原)		
777	99A	SD10	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正4期	12.5	5.5	4.3	蓋部	蓋部、蓋部	739g(17.6g(原))		
778	99A	SD11	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正4期	10.9	5.0	5.4	4.1	蓋部	蓋部、蓋部	739g(原)	
779	99A	SD03	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正4期	11.4	6.0	3.4	蓋部	蓋部、蓋部	739g(原)		
780	99A	SK1	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正4期	11.4	6.2	3.0	蓋部	蓋部、蓋部	259g(原)		
781	99A	SK37	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正4期	11.9	6.1	4.4	蓋部	蓋部、蓋部	739g(17.6g(原))		
782	99A	SD11	瀬戸美濃陶器	瓦片赤銅	大正4期	0.2	9.0	4.6	灰釉、印花	灰釉、蓋部、ヘラケ式	739g(原)		
783	99A	SX01	瀬戸美濃陶器	小口(赤銅)	大正4			6.0	灰釉(引出し)	灰釉(引出し)、蓋部、口縁赤銅	739g(原)		
784	99A	SK182	瀬戸美濃陶器	瀬戸(赤銅)	大正4	0.2	4.8		灰釉(引出し)	灰釉(引出し)、蓋部、口縁赤銅	739g(原)		
785	99A	SD02	瀬戸美濃陶器	小瓶	大正4期	7.4	3.8	3.7	長石釉	長石釉、蓋部、ヘラケ式	739g(原)		
786	99A	SD04	瀬戸美濃陶器	小瓶	大正4期	5.8	2.4	2.6	長石釉	長石釉、蓋部	739g(原)		
787	99A	SX01	瀬戸美濃陶器	小口(赤銅)	大正3	6.2	2.7	2.4	蓋部(灰釉)	蓋部(灰釉)、蓋部	739g(原)		
788	99A	SK97	瀬戸美濃陶器	小口(赤銅)	大正3	5.7	3.2	2.8	蓋部	蓋部、蓋部	739g(原)	Not	
789	99A	SK41	瀬戸美濃陶器	小口(赤銅)	大正4	6.1	2.8	3.0	蓋部	蓋部、蓋部(引出し)	739g(17.6g(原))		
790	99A	SK89	瀬戸美濃陶器	小口(赤銅)	大正4	5.4	2.6	2.6	灰釉、蓋部(引出し)	灰釉、蓋部(引出し)、ヘラケ式として使用、蓋部	739g(原)		

発掘番号	遺物名	遺物番号	形状・材質	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	内径	外径	重量	備考	
791	99A	SK126	瀬戸瓦器陶器	小口直縁碗	大型4	底5.2	3.1	2.4	鉄物	鉄物、蓋物	7.95X26(白)	
792	99A	SK114	瀬戸瓦器陶器	正野小碗	大型4		底4.9	3.2	長石類	長石類(うす手)	7.95X26(白)	
793	99A	SK129	瀬戸瓦器陶器	小碗	大型3		底4.3	3.4	鉄物	鉄物	7.95X26(白)	
794	99A	SK44	瀬戸瓦器陶器	小碗	大型4	底7.8	3.5	3.3	長石類、ビロン類*	長石類、蓋物、磁器、磁器+セラミズリ類、 ナシロン類*	7.95X26(白)	
795	99A	SK71	瀬戸瓦器陶器	小碗	大型4	底8.8	4.5	底4.0	長石類	長石類、蓋物、磁器+セラミズリ類	7.95X26(白)	
796	99A	併?	瀬戸瓦器陶器	小鉢	大型3	底6.4	底3.2		鉄物	鉄物	7.95X26(白)	
797	99A	併?	瀬戸瓦器陶器	小鉢	大型3	底4.8	3.7	3.3	鉄物	鉄物、蓋物、磁器+セラミズリ類	10900(灰青銅)	
798	99A	SD10	瀬戸瓦器陶器	小鉢	大型3	底5.6	2.9	2.2	鉄物	鉄物、蓋物	7.95X26(白)	
799	99A	SD0140.10	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型3		底4.8		鉄物	鉄物、蓋物	7.95X26(白)	
800	99A	SK68	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型3		底4.4	4.8	鉄物	磁瓶、ナジ、付高付、蓋物、磁器+セラミズリ類	5950(灰)	
801	99A	SK151	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型3	底11.3	5.9	6.0	4.0	鉄物	鉄物、蓋物、蓋物、蓋物、磁器+セラミズリ類	7.95X26(白)
802	99A	SK68	瀬戸瓦器陶器	中瓶類	大型3	底11.0	底6.5			蓋物+柄(鉄物)	5950(灰)	
803	99A	SK182	瀬戸瓦器陶器	筒形瓶	大型3		底7.2	底6.0	鉄物	鉄物、蓋物、ナジ	7.95X26(白)	
804	99A	SK27	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型3+4	底16.8	底6.7			鉄物	7.95X26(白)	
805	99A	SK34.153	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型3+4	底11.0	底4.0			鉄物	7.95X26(白)	
806	99A	SD01	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型3+4	底10.4	底3.3(3.3)	4.3	鉄物	鉄物、蓋物	7.95X26(白) No.2	
807	99A	SK68	瀬戸瓦器陶器	筒形瓶	大型3+4	底10.5	底6.9			鉄物	7.95X26(白)	
808	99A	SK68(53.182)	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型4	底10.0	底7.9	5.6	鉄物	鉄物、蓋物、ナジ、セラミズリ類	7.95X26(青銅)	
809	99A	SK182	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型4	底13.5	底6.0	6.0	鉄物	鉄物、蓋物、磁器+セラミズリ類	7.95X26(白)	
810	99A	SK221	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型4	底9.9	底5.9	5.5	長石類	長石類(磁器+) 磁器+セラミズリ類、蓋物、磁器+セラミズリ類	7.95X26(白)	
811	99A	SD11	瀬戸瓦器陶器	口直縁碗	大型4	底10.8	底4.3		鉄物	鉄物、蓋物	7.95X26(白)	
812	99A	SD12	瀬戸瓦器陶器	筒形瓶	大型1	底10.0	底6.3		鉄物	鉄物	2985(5790)(赤銅)	
813	99A	SD10	瀬戸瓦器陶器	筒形瓶	大型4	底11.2	底6.0	5.0	鉄物	鉄物、蓋物	7.95X26(白)	
814	99A	SD10	瀬戸瓦器陶器	筒形瓶	大型3	底10.0	底6.0	5.0	鉄物	鉄物、蓋物	2.95X26(白)	
815	99A	SD01	瀬戸瓦器陶器	正野丸瓶	大型4	底10.2	底5.5	5.8	長石類	長石類、蓋物、磁器+セラミズリ類	7.95X26(白)	
816	99A	SK71	瀬戸瓦器陶器	正野丸瓶	大型4	底11.2	底5.2		長石類	長石類、蓋物、磁器+セラミズリ類	7.95X26(白)	
817	99A	SD03	瀬戸瓦器陶器	正野(丸)瓶	大型4				長石類	長石類	2.95X26(表)	
818	99A	SK71	瀬戸瓦器陶器	正野丸瓶	大型4	底12.0	底6.5		長石類	長石類	7.95X26(白)	
819	99A	SK44	瀬戸瓦器陶器	正野丸瓶	大型4	底12.0			長石類	長石類	7.95X26(白)	
820	99A	SK130	瀬戸瓦器陶器	正野丸瓶	大型4	底12.0	底5.4		長石類	長石類、蓋物、磁器+セラミズリ類	7.95X26(白)	
821	99A	SD03	瀬戸瓦器陶器	正野鉄瓶丸	大型4	底11.4	底7.3	底4.8	長石類	長石類、蓋物、磁器+セラミズリ類	7.95X26(白)	
822	99A	SK90	瀬戸瓦器陶器	筒形丸瓶	大型1	底10.0	底6.9	4.5	鉄物(陶磁土)	鉄物(陶磁土)、蓋物	10900(灰)	
823	99A	SK34.SD64	瀬戸瓦器陶器	正野鉄瓶丸	大型1	底11.8	底5.6		長石類	長石類	7.95X26(白)	
824	99A	SK182	瀬戸瓦器陶器	筒形瓶	大型4		底9.8		鉄物、鉄物	鉄物、鉄物	7.95X26(白)	
825	99A	SK44	瀬戸瓦器陶器	正野丸瓶	大型1+2	底10.0	底4.4		長石類	長石類	7.95X26(白)	
826	99A	SK68	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型1	底11.8	底5.9		長石類	長石類、蓋物、磁器+セラミズリ類	7.95X26(表)	
827	99A	併?				底11.6	底7.2	4.7			2.95X26(表)	
828	99A	SD12	瀬戸瓦器陶器	正野丸瓶	大型3	底12.0			長石類、ビロン類*	蓋物、磁器+セラミズリ類	7.95X26(白)	
829	99A	SK71	瀬戸瓦器陶器	丸瓶?	大型2		底5.0		鉄物	磁器、磁器+セラミズリ類	7.95X26(白)	
830	99B	SD03	瀬戸瓦器陶器	丸瓶?	大型1		底4.1	4.8	長石類	長石類	2.95X26(表)	
831	99A	SK221	瀬戸瓦器陶器	正野丸瓶	大型1	底12.0	底6.0	5.1	長石類	長石類	2.95X26(白)	
832	99A	SD12	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型4	底11.0	底4.8		長石類	長石類、蓋物、入スゲている	7.95X26(白)	
833	99A	SD01	瀬戸瓦器陶器	正野丸瓶	大型4	底12.5	底6.2		長石類	長石類	2.95X26(表)	
834	99A	SD04	瀬戸瓦器陶器	筒形瓶	大型1	底11.0	底7.3		陶磁器	陶磁器	7.95X26(白)	
835	99A	併?	瀬戸瓦器陶器	筒形瓶	大型1	底9.0	底2.6	底2.4	鉄物、蓋物	鉄物、蓋物、磁器+セラミズリ類	2.95X26(白)	
836	99A	SK35	瀬戸瓦器陶器	筒形丸瓶	大型1	底9.6	底2.1	底3.8	鉄物、蓋物	鉄物、蓋物、磁器+セラミズリ類	2.95X26(白)	
837	99A	SD15	瀬戸瓦器陶器	筒形丸瓶	大型1	底12.4	底2.7	4.6	鉄物、蓋物	鉄物、蓋物、磁器+セラミズリ類	7.95X26(白)	
838	99A	SK31	瀬戸瓦器陶器	筒形丸瓶	大型1	底10.0	底2.4	6.0	鉄物、印花	鉄物、磁器+セラミズリ類	7.95X26(白)	
839	99A	SK108	瀬戸瓦器陶器	筒形丸瓶	大型1+3	底10.8	底2.8	5.8	鉄物	鉄物、蓋物、ナジ、ナシロン類	7.95X26(白)	
840	99A	SK35	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型1	底10.5	底2.9	6.0	鉄物	鉄物、蓋物	10900(灰)	
841	99A	SK34.SD01	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型3	底10.6	底2.3	5.8	鉄物	鉄物、蓋物、磁器+セラミズリ類	7.95X26(白)	
842	99A	SK39	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型1	底10.0	底2.3	底3.6	鉄物、印花	鉄物	2.95X26(表)	
843	99A	SK39	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型1	底10.2	底2.7	5.8	鉄物	鉄物、磁器+セラミズリ類	No.1	
844	99A	SK12	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型3	底10.1	底2.3	5.4	鉄物	鉄物、磁器+セラミズリ類	7.95X26(白)	
845	99A	X301	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型1	底10.3	底2.3	5.6	金銅	金銅	2.95X26(表)	
846	99A	SD01	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型1	底8.8	底1.8	5.1	鉄物	鉄物、ビロン+残存する	7.95X26(白)	
847	99A	SK91.SD12	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型3	底10.0	底2.0	5.6	鉄物	鉄物、磁器+セラミズリ類	2.95X26(白)	
848	99A	SK151	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型3	底10.2	底2.6	5.8	鉄物	鉄物、磁器+セラミズリ類	2.95X26(白)	
849	99A	SD03	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型3	底9.6	底2.0	5.2	鉄物	鉄物、磁器+セラミズリ類	2.95X26(白)	
850	99A	併?	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型1	底13.9	底2.4	底2.2	鉄物(陶磁土)	鉄物(陶磁土)、磁器+セラミズリ類	2.95X26(表)	
851	99A	SD01	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型4	底7.8	底1.6	底3.0	鉄物	鉄物、磁器+セラミズリ類	10900(灰+表)	
852	99A	SK33	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型?	底9.4	底2.2	底3.6	鉄物	鉄物	7.95X26(白)	
853	99A	X302	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型1	底9.4	底2.1	底3.4	鉄物	鉄物、蓋物(磁器+セラミズリ)	7.95X26(白)	
854	99A	SK33	瀬戸瓦器陶器	筒形瓶	大型1	底10.0	底2.4	5.6	鉄物、ナシロン類*	鉄物、ナシロン類	2.95X26(白) No.1	
855	99A	SD01	瀬戸瓦器陶器	丸瓶	大型2	底9.8	底2.1	底3.0	鉄物	鉄物、磁器+セラミズリ類	7.95X26(白)	
856	99A	SD01	瀬戸瓦器陶器	筒形瓶	大型2	底10.8	底2.2	6.0	鉄物、ナシロン類*	鉄物、磁器+セラミズリ類	7910(5790)(青銅)	
857	99A	SK165	瀬戸瓦器陶器	筒形瓶	大型2	底7.2	底2.1	4.9	鉄物	鉄物、磁器+セラミズリ類	2.95X26(白)	
858	99A	SK13	瀬戸瓦器陶器	筒形瓶(陶器)	大型3	底10.2	底2.8	5.6	鉄物	鉄物、内面に鉄線1+ホムリ	2.95X26(白)	
859	99A	SK182	瀬戸瓦器陶器	筒形瓶	大型2	底9.6	底2.1	底3.8	鉄物	鉄物、蓋物、蓋物、蓋物	7.95X26(白)	

遺物一覧表

国名番号	遺品名	遺物番号	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	底径(cm)	底径(cm)	内容	備考	数量	備考
860	99A	SK30	瀬戸美濃陶器	横筒	大塚3期	直径10.2	2.5	直径8	鉄瓶、トナリ瓶×2枚	鉄瓶、高台置き瓶、蓋筒、回収ヘラ×2枚	7.5YK02R(白)	
861	99A	北原	瀬戸美濃陶器	内丸鉢蓋	大塚3	直径11.0	2.0	直径6	鉄瓶、蓋筒	鉄瓶、横筒蓋、蓋筒	2.5YK02R(白)	
862	99A	SD11	瀬戸美濃陶器	反り皿	大塚3後	8.9	2.1	2.3	5.1	鉄瓶	鉄瓶、回収ヘラ×3枚	2.5YK02R(白)
863	99A	SK108	瀬戸美濃陶器	内丸大壺	大塚3後	10.0	2.1	6.0	鉄瓶、蓋筒	鉄瓶、輪トナリ瓶	7.5YK02R(白)	
864	99A	SK31	瀬戸美濃陶器	内丸大壺	大塚3後	10.0	2.1	6.0	鉄瓶、蓋筒(輪ふとり)	鉄瓶、輪トナリ瓶、横筒にも輪がかる	7.5YK02R(白)	
865	99A	SK34-SD01	瀬戸美濃陶器	内丸大壺	大塚3	直径10.8	2.4	5.4	鉄瓶、蓋筒(輪ふとり)	鉄瓶、横筒蓋、輪トナリ瓶	7.5YK02R(白)	
866	99	SK94-219	瀬戸美濃陶器	内丸大壺	大塚3後	9.6	2.2	2.7	鉄瓶、蓋筒(輪ふとり)	鉄瓶、蓋筒蓋(輪ふとりより)、輪トナリ瓶	7.5YK02R(白)	
867	99A	SX01	瀬戸美濃陶器	内丸大壺	大塚3	直径10.8	2.5	直径6	鉄瓶、蓋筒	鉄瓶、横出、蓋筒	7.5YK02R(白)	
868	99A	SD12	瀬戸美濃陶器	内丸大壺	大塚3後	直径11.4	2.4	直径7	鉄瓶、蓋筒(輪ふとり)	鉄瓶、輪トナリ瓶	7.5YK02R(白)	
869	99A	87	瀬戸美濃陶器	内丸大壺	大塚3後	直径9.2	2.0	直径7	鉄瓶、蓋筒(輪ふとり)	鉄瓶、輪トナリ瓶	7.5YK02R(白)	
870	99A	SK112	瀬戸美濃陶器	丸壺	大塚3期	直径10.4	4.0	2.4	鉄瓶、輪トナリ瓶	鉄瓶、輪トナリ瓶	7.5YK02R(白)	
871	99A	SK25	瀬戸美濃陶器	内丸大壺	大塚3後	直径10.0	2.6	直径10	鉄瓶、蓋筒(輪ふとり)	鉄瓶、高台置き瓶	7.5YK02R(白)	
872	99A	SD03	瀬戸美濃陶器	横丸大壺	大塚4	直径14.0	2.4	直径7	鉄瓶、蓋筒(輪ふとり)	鉄瓶	2.5YK02R(白)	
873	99A	SK41	瀬戸美濃陶器	横丸壺	大塚4			7.0	鉄瓶、蓋筒(輪ふとり)	鉄瓶、輪トナリ瓶	7.5YK02R(白)	
874	99A	SD12	瀬戸美濃陶器	丸壺	大塚3後	直径10.2	2.4	直径2	鉄瓶	鉄瓶、輪トナリ瓶蓋筒の残存片	2.5YK02R(白)	
875	99B	SK09	瀬戸美濃陶器	内丸大壺	大塚3後	9.6	2.2	6.0	鉄瓶、蓋筒	鉄瓶、輪トナリ瓶	2.5YK02R(白)	
876	99A	SD03	瀬戸美濃陶器	内丸大壺	大塚3後	直径14.4	2.8	直径7	鉄瓶、蓋筒(輪ふとり)	鉄瓶、ヘラ×2枚、輪トナリ瓶	5Y10R(白)	
877	99A	SD15	瀬戸美濃陶器	反り皿	大塚3後	10.0	2.4	5.8	鉄瓶	鉄瓶(その上に黒色漆塗を塗布)、輪トナリ瓶	2.5YK02R(白)	
878	99A	SD03	瀬戸美濃陶器	内筒内丸壺	大塚4期	10.5	2.2	6.0	鉄瓶、蓋筒	鉄瓶、ヘラ×2枚	7.5YK02R(白)	
879	99A	SD10	瀬戸美濃陶器	内筒内丸壺	大塚4期	10.6	2.1	6.2	鉄瓶、蓋筒(輪ふとり)	鉄瓶、ヘラ×2枚、輪トナリ瓶	2.5YK02R(白)	
880	99A	SX01	瀬戸美濃陶器	折縁壺	大塚3後	直径10.6	2.8	5.8	鉄瓶、トナリ瓶×2、よこ蓋(欠けている)	鉄瓶、ヘラ×2枚	7.5YK02R(白)	
881	99A	SK197	瀬戸美濃陶器	ひび壺	大塚3後	6.9	2.8	3.2	鉄瓶	鉄瓶、よこ蓋	2.5YK02R(白)	
882	99A	SK34	瀬戸美濃陶器	折縁壺	大塚4期	直径11.0	2.0	直径6	鉄瓶	鉄瓶、ヘラ×2枚	7.5YK02R(白)	
883	99A	SX01	瀬戸美濃陶器	折縁壺	大塚4期	10.4	2.9	6.0	鉄瓶	鉄瓶、ヘラ×2枚	2.5Y10R(白)	
884	99A	SK88-SD12	瀬戸美濃陶器	折縁壺	大塚3後	10.3	2.2	5.4	鉄瓶、印瓦文	鉄瓶、輪トナリ瓶	5Y10R(白)	
885	99A	SK130	瀬戸美濃陶器	折縁内丸壺	大塚4期	10.2	1.8	6.0	鉄瓶、蓋筒(輪ふとり)	鉄瓶、輪トナリ瓶	7.5YK02R(白)	
886	99A	SK91	瀬戸美濃陶器	折縁内丸壺	大塚4期	10.1	2.0	5.0	鉄瓶、蓋筒(輪ふとり)	鉄瓶、輪トナリ瓶(不定型)	7.5YK02R(白)	
887	99A	87	瀬戸美濃陶器	折縁内丸壺	大塚3後	10.8	2.4	5.8	鉄瓶、蓋筒(輪ふとり)	鉄瓶、輪トナリ瓶	7.5YK02R(白)	
888	99A	SK184	瀬戸美濃陶器	折縁内丸壺	大塚3後	10.7	2.2	6.0	鉄瓶、蓋筒(輪ふとり)	鉄瓶、輪トナリ瓶	7.5YK02R(白)	
889	99A	87	瀬戸美濃陶器	折縁内丸壺	大塚3後	11.2	2.3	6.1	鉄瓶、蓋筒(はてがらかけない)	鉄瓶、蓋筒	2.5YK02R(白)	No.100
890	99A	SK94	瀬戸美濃陶器	折縁内丸壺	大塚4期	直径11.4	2.1	6.0	鉄瓶、蓋筒(輪ふとり)	鉄瓶	2.5YK02R(白)	
891	99A	87	瀬戸美濃陶器	志野大壺	大塚4後	直径13.8	2.6	直径7	長石瓶	長石瓶	2.5K02R(白)	
892	99A	SK125	瀬戸美濃陶器	志野大壺	大塚4後	直径11.4	2.0	直径6	長石瓶	長石瓶、トナリ瓶×3、回収ヘラ×2枚	7.5YK02R(白)	No.1
893	99A	SK94	瀬戸美濃陶器	志野大壺	大塚4後	12.8	2.3	6.8	長石瓶、ビン瓶×2	長石瓶、トナリ瓶×3、回収ヘラ×2枚	2.5YK02R(白)	No.2
894	99A	SK22	瀬戸美濃陶器	志野大壺	大塚4後	12.0	1.6	6.8	長石瓶、ビン瓶×2	長石瓶、ヤマト付蓋、トナリ瓶×2、回収ヘラ×2枚	5YK02R(白)	
895	99A	SK248	瀬戸美濃陶器	志野大壺	大塚4後	直径12.2	2.2	7.0	長石瓶、ビン瓶×2	長石瓶、蓋筒、回収ヘラ×2枚	7.5YK02R(白)	
896	99A	SX01	瀬戸美濃陶器	志野大壺	大塚4後	直径11.0	2.1	直径4	長石瓶、ビン瓶×2	長石瓶、蓋筒、回収ヘラ×2枚	7.5YK02R(白)	
897	99A	SD12	瀬戸美濃陶器	志野大壺	大塚4後	12.0	1.9	7.6	長石瓶、ビン瓶×2	長石瓶、トナリ瓶×2、蓋筒、回収ヘラ×2枚	2.5YK02R(白)	
898	99A	SD01	瀬戸美濃陶器	志野大壺	大塚4後	12.0	2.5	6.4	長石瓶、蓋筒、ビン瓶×2	長石瓶、蓋筒、高台置き瓶、回収ヘラ×2枚	2.5YK02R(白)	
899	99A	SK71	瀬戸美濃陶器	志野大壺	大塚4後	直径10.5	2.4	直径6	長石瓶	長石瓶、回収ヘラ×2枚	7.5YK02R(白)	
900	99A	SD01	瀬戸美濃陶器	志野大壺	大塚2	11.6	2.4	6.8	長石瓶、高台置き瓶×2	長石瓶、高台置き瓶、回収ヘラ×2枚	2.5YK02R(白)	
901	99A	SK130	瀬戸美濃陶器	志野鉄絵大壺	大塚4後	直径12.0	2.3	直径4	長石瓶、蓋筒、ビン瓶×2	長石瓶、回収ヘラ×2枚	7.5YK02R(白)	
902	99A	87	瀬戸美濃陶器	志野鉄絵壺	大塚4後	直径11.6	2.1	6.0	長石瓶、ビン瓶×2	長石瓶、輪トナリ瓶、蓋筒、回収ヘラ×2枚	7.5YK02R(白)	
903	99A	SX01	瀬戸美濃陶器	志野鉄絵壺	大塚2	直径12.2	2.4	直径7	長石瓶、ビン瓶×2	長石瓶、高台置き瓶	7.5YK02R(白)	
904	99B	SK92	瀬戸美濃陶器	志野鉄絵壺	大塚4後	直径12.5	3.0	直径6	長石瓶、ビン瓶×2	長石瓶、トナリ瓶×3、回収ヘラ×2枚、蓋筒	2.5YK02R(白)	
905	99A	SX02	瀬戸美濃陶器	志野鉄絵壺	大塚4後	直径11.6	2.7	直径7	長石瓶、ビン瓶×2	長石瓶、蓋筒、トナリ瓶×2	7.5YK02R(白)	2.5YK02R(白)
906	99A	SK91	瀬戸美濃陶器	志野鉄絵大壺	大塚4後	12.0	2.5	6.8	長石瓶、蓋筒	長石瓶、トナリ瓶×2、回収ヘラ×2枚	7.5YK02R(白)	
907	99A	SD03	瀬戸美濃陶器	志野鉄絵壺	大塚4後	15.0	4.0	10.2	長石瓶	長石瓶、トナリ瓶×2	2.5YK02R(白)	
908	99A	SD03	瀬戸美濃陶器	志野鉄絵壺	大塚4後	直径12.5	3.0	直径7	長石瓶、輪トナリ瓶	長石瓶、ヘラ×2枚、横筒、蓋筒	7.5YK02R(白)	
909	99A	SD04	瀬戸美濃陶器	志野鉄絵壺	大塚4後	9.0	1.8	5.6	長石瓶、口蓋ヤマト付蓋	長石瓶、トナリ瓶×2	10YK02R(白)	
910	99A	SD12	瀬戸美濃陶器	志野鉄絵壺	大塚4後	直径11.6	2.5	直径7	長石瓶、ビン瓶×2	長石瓶、高台置き瓶、トナリ瓶×2、ヘラ×2枚	7.5YK02R(白)	
911	99A	SK40	瀬戸美濃陶器	蓋筒壺	大塚1	10.4	2.4	4.2	蓋筒	蓋筒、ちやみ付付蓋筒、蓋筒(横出)×4枚	5YK02R(白)	
912	99A	SX01	瀬戸美濃陶器	蓋筒壺	?	9.6	2.0	4.3	蓋筒	蓋筒、蓋筒、回収ヘラ×2枚	5YK02R(白)	
913	99A	SK39	瀬戸美濃陶器	蓋筒壺	?	9.5	2.4	4.9	蓋筒	蓋筒、回収ヘラ×2枚	5YK02R(白)	5YK02R(白)

図号番号	調査区	遺物番号	産地・材質	器種	時期	口径(mm)	底径(mm)	底径(mm)	内径	外径	備考	出土番号	備考
914	99A	SK89	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	9.4	1.8	4.7	底径、同心円脚線(凸線) 4巻	高脚、凹形赤彩		79A20(白) 99B6(赤)	No.6
915	99A	SK25	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.6	2.6	5.3	高脚脚線、同心円脚線(凸線) 5巻	高脚脚線、凹形赤彩		109A6(赤)	
916	99A	SK68	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.6	2.3	5.5	高脚脚線、同心円脚線(凸線) 3巻	高脚脚線、一部にターム付着、幾手よく白多、凹形赤彩		59B3(赤黄灰)	
917	99A	併7	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	9.8	2.1	4.9	ターム付着、底径、同心円脚線(凸線) 2巻	ターム付着、高脚、凹形赤彩		2.59B3(赤)	No.104
918	99A	SK90	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	9.7	1.9	4.6	底径、同心円脚線(凸線) 2巻	高脚、凹形赤彩		2.59B3(赤)	
919	99A	SK94	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	9.8	1.8	4.4	底径、同心円脚線(凸線) 4巻	高脚、凹形赤彩		109A29(赤)	
920	99A	SK248	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	9.4	2.0	5.0	高脚脚線、同心円脚線(凸線) 3巻、全体にターム付着	高脚脚線、凹形赤彩		2.59B3(赤)	
921	99A	SK25	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	9.7	2.3	4.3	ターム付着、底径、同心円脚線(凸線) 4巻	ターム付着、高脚、凹形赤彩		10977(白)	
922	99A	SK107	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.6	2.4	5.4	高脚(表面は褐色に着色)同心円脚線(凸線) 4巻	高脚脚線、凹形赤彩		7.59B3(赤)白多	
923	99A	SK31	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.6	1.7	5.4	高脚脚線、同心円脚線(凸線) 5巻	高脚脚線、ターム付着あり、凹形赤彩		59B6(赤)	
924	99A	SK94	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	9.7	1.7 2.0	5.0	高脚脚線、同心円脚線(凸線) 5巻	高脚脚線、凹形赤彩		59B6(赤)	
925	99A	SK94	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	9.6	1.6	4.3	高脚脚線、同心円脚線(凸線) 4巻	高脚脚線、凹形赤彩		59B6(赤)	
926	99A	SK02	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.0	2.2 2.3	4.4	高脚脚線、同心円脚線(凸線) 4巻	わずかにターム付着、高脚脚線、凹形赤彩		5.9A229(赤)	
927	99A	SK353	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.6	2.0	5.0	高脚脚線、同心円脚線(凸線) 5巻、全体にターム付着(土質赤褐色)	高脚脚線、凹形赤彩		59B5(赤)	
928	99A	SK41	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.2		4.8	底径、同心円脚線(凸線) 3巻	高脚、凹形赤彩		90A(白) 7.59B6(赤)	
929	99A	SK249	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	11.8		5.7	高脚脚線、底径多巻、同心円脚線(凸線) 4巻	高脚脚線、凹形赤彩		7.59B6(赤)	
930	99A	SD12	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.0	2.1	5.2 5.5	高脚脚線、同心円脚線(凸線) 4巻	高脚脚線、凹形赤彩		59B3(白)白多	
931	99A	SK01	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	9.5	2.5	4.3	高脚脚線、同心円脚線(凸線) 4巻、わずかにターム付着	高脚脚線、凹形赤彩		5A9(赤) 7.59B3(赤)	
932	99A	併7	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	9.2		4.8	わずかにターム付着、底径、同心円脚線(凸線) 4巻	わずかにターム付着、高脚、凹形赤彩		59B3(赤)	
933	99A	併7	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.6	2.3	5.2	高脚脚線、同心円脚線(凸線) 4巻	高脚脚線、凹形赤彩		N499	
934	99A	併7	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.3	2.1	5.6	高脚脚線、同心円脚線(凸線) 4巻	全体ターム付着、高脚脚線、凹形赤彩		59A229(赤)	
935	99A	SK25	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.2	2.0	5.2	高脚脚線、同心円脚線(凸線) 4巻、部分的にターム付着	高脚脚線、部分的にターム付着、凹形赤彩		59B6(赤)	
936	99A	SD01	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.0	1.2	5.4	高脚脚線、同心円脚線(凸線) 4巻	高脚脚線、凹形赤彩		109A1(赤)	
937	99A	SK91	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.4	1.9	4.3	高脚脚線、一部にターム付着、同心円脚線(凸線) 4巻	高脚脚線、一部にターム付着、凹形赤彩		7.59B3(赤)白多	
938	99A	SK114	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	大型4巻	10.9	2.7	5.4	わずかにターム付着、底径、高脚、同心円脚線(凸線) 4巻	わずかにターム付着、高脚、凹形赤彩		2.59B3(赤)	
939	99A	SK97	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	大型4巻	10.7	2.6 2.7	5.7	底径、同心円脚線(凸線) 4巻、全体にターム付着	底径、全体にターム付着、凹形赤彩		59B2(白)	
940	99A	SK31	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	大型4巻	11.3	2.6	5.5	底径、ターム付着、同心円脚線(凸線) 4巻、部分的にターム付着	底径、ターム付着、凹形赤彩		79B8(赤) 99B6(赤)	
941	99A	SK97	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	大型4巻	11.0	2.6 2.7	4.9	底径、同心円脚線(凸線) 4巻、多量のターム付着	底径、多量のターム付着、高脚、凹形赤彩		2.59B3(赤)	
942	99A	SK113	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	大型4巻	10.8	2.5	5.0	底径、同心円脚線(凸線) 4巻、中央までだけ	底径、凹形赤彩		2.59B2(白)	
943	99A	併7	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	大型4巻	10.6	3.0	4.0	底径、底径、高脚、同心円脚線(凸線) 5巻	ターム付着、底径、高脚一部剥離する、凹形赤彩		7.59B2(白)	
944	99A	SD11	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.4	2.3	5.0	高脚脚線、ターム付着	高脚脚線、ターム付着、凹形赤彩		59B2(赤) 59B3(赤)	
945	99A	SD11	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.4	2.4	5.0	高脚脚線、ターム付着	高脚脚線、ターム付着、凹形赤彩		219B(赤) 99B8(赤)	
946	99A	SK02	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	9.9	1.5 1.9	4.3	高脚脚線、ターム付着	高脚脚線、ターム付着、凹形赤彩		597(赤)	
947	99A	SK94-SK219	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	9.6	2.1	4.7	高脚脚線、ターム付着	高脚脚線、ターム付着、凹形赤彩		59B4(赤)	
948	99A	SK10	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	10.2	2.1	5.0	高脚脚線、ターム付着	高脚脚線、ターム付着、凹形赤彩		59B7(白)白多	
949	99A	SD12	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	9.8	2.0	4.9	高脚脚線、ターム付着	高脚脚線、凹形赤彩		59B6(赤)	
950	99A	SD12	瀬戸瓦器陶器	高脚盤	?	11.7	2.2 2.3	5.6 5.5	高脚脚線	高脚脚線、凹形赤彩		7.59B4(赤) 7.59B3(赤)	
951	99A	SK31	瀬戸瓦器陶器	高脚/円付	大型4	11.4	4.7	5.3	高脚/脚線、同心円脚線(凸線) 4巻	高脚/脚線、ハタケラズ子、軸トランジエ		109B8(赤)	
952	99A	SK31 39	瀬戸瓦器陶器	高脚/円付	大型4	11.8	4.8	5.7	高脚/脚線、トランジエ	高脚/脚線、軸トランジエ		7.59B3(白)	
953	99A	SK68	瀬戸瓦器陶器	円付	大型4	11.7	4.8	5.2	高脚/脚線? (軸トランジエ)	高脚/脚線? (軸トランジエ)、凹形ハタケラズ子(軸トランジエ)		7.59B3(白)	
954	99A	SK71	瀬戸瓦器陶器	円付	大型3巻	10.8	3.6	5.4	底径	底径、着色		7.59B3(白)	
955	99A	SK89	瀬戸瓦器陶器	高脚/円付	大型4	9.8	1.9 2.0	5.0	底径(裏面)ハタケラズ子	底径(裏面)ハタケラズ子、凹形ハタケラズ子		7.59B3(白)	
956	99A	SK71	瀬戸瓦器陶器	高脚/円付	大型4巻	10.2	5.5	5.7	高脚/脚線	高脚/脚線、トランジエ		109B8(赤) 5.9B3(赤)	
957	99A	SK71	瀬戸瓦器陶器	高脚/円付	大型4	10.5	5.8	5.8	高脚/脚線? (底径)	高脚/脚線? (底径)ハタケラズ子、高脚脚線		7.59B3(白)	

遺物一覧表

図号番号	調査区	遺物番号	産地・材質	器種	時期	寸法(cm)	最高(cm)	底径(cm)	内容	備考	出土	備考
958	99A	SK313	瀬戸(美濃陶器)	表裏面内付	大器4		28.7	5.8	径13.0	表裏面7割、縁部、底面、縁部による破損	表裏面7割、ヘラズリ、トナン痕	2.5YR6/2R(白)
959	99A	SD1140	瀬戸(美濃陶器)	表裏面内付	大器4	10.8	5.3	6.0	表裏面7割、印文	表裏面7割、ヘラズリ、縁トナン痕、印文ハナクズリ痕		7.5YR6/1R(白)
960	99A	SD10	瀬戸(美濃陶器)	内付	大器4			6.2	表裏面7割	表裏面7割、ヘラズリ、縁部		7.5YR6/1R(白)
961	99A	SK130	瀬戸(美濃陶器)	内付	大器4		7.5	5.1	表4.5	表裏面7割、縁部	表裏面7割、ヘラズリ、トナン痕	10YR6/2R(白)
962	99A	SD01	瀬戸(美濃陶器)	志野(輪島内付)	大器4		12.5	3.3	7.2	長石焼、磨面にによる破損(一部「鑑定」)	長石焼、トナン痕?、印文ハナクズリ痕	7.5YR6/1R(白)
963	99A	SK71	瀬戸(美濃陶器)	内付内付	大器4		6.0	表6.0	長石焼	長石焼、縁部、300ヘラズリ		2.5YR6/2R(白)
964	99A	SK182100	瀬戸(美濃陶器)	小鉢7	大器1.3		11.0	5.2	表6.0	表裏面7割、磨面	表裏面7割、コソケテ、磨面、縁トナン痕、印文ハナクズリ痕	10YR6/2R(白)
965	99A	SK71	瀬戸(美濃陶器)	内付	大器4		20.2	9.2	表10	長石焼縁部	長石焼縁部、長石焼、トナン痕?	7.5YR6/0R
966	99A	SK130	瀬戸(美濃陶器)	志野内付	大器4		17.2	6.8	11.0	長石焼縁部	長石焼、コソケテ(成形後縁部を削ぎ、コソケテ磨き、コソケテ磨き、トナン痕?)、及足みり、印文ヘラズリ	2.5YR6/2R(白)
967	99A	SX01	瀬戸(美濃陶器)	梅津織田内付	登壇1			9.1		鉄粉?	鉄粉?	2.5YR7/6R(小赤)
968	99A	SK41	瀬戸(美濃陶器)	志野内付	大器4			8.7		長石焼縁部(見立部)	長石焼縁部(見立部)	10YR6/4R(黄赤)
969	99A	SK68715X01	瀬戸(美濃陶器)	志野(津内付)	登壇1		21.2	7.0		長石焼7割	長石焼7割、トナン痕?	7.5YR6/1R(白)
970	99A	SK68715X01	瀬戸(美濃陶器)	志野(大器)	大器4		28.8	5.5	表18.1	長石焼縁部	長石焼縁部、印文ヘラズリ痕	10YR6/4R(黄赤)
971	99A	SD01	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器4		29.0	5.5	表16.0	長石焼縁部、トナン痕	長石焼、トナン痕	7.5YR6/1R(白)
972	99A	SK71	瀬戸(美濃陶器)	大器	登壇1					長石焼	長石焼	10YR6/1R(白)
973	99A	SK08	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器4			9.2		鉄粉	鉄粉、磨面内付	10YR6/0R(黒)
974	99A	SD03	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器4		27.0	9.4		長石焼縁部	長石焼、ヘラズリ?	10YR6/4R(黄赤)
975	99A	SK71	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器4		14.8	3.3	表7.5	長石焼	長石焼、磨面、長石焼	2.5YR6/1R(白)
976	99A	SK44	瀬戸(美濃陶器)	大器	登壇1			9.9		長石焼縁部	長石焼(表裏が染み透る)	NA05(白)
977	99A	SK44	瀬戸(美濃陶器)	大器	登壇1		31.8	9.5		長石焼	長石焼	NA05(白)
978	99A	SD05	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器3		27.6	9.4		磨面(縁部)	磨面(縁部ヘラズリ)	SP70(黄赤)
979	99A	SD0140	瀬戸(美濃陶器)	志野内付	大器4			9.5		長石焼縁部(見立部)	長石焼縁部(見立部)	7.5YR6/1R(白)
980	99A	SD1	瀬戸(美濃陶器)	大器				9.4		磨面(輪ムネとリ)、磨面	磨面(輪ムネとリ)、磨面	7.5YR6/1R(白)
981	99A	SX01	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器3			9.3		高野焼縁	高野焼縁、ヘラズリ	NA05(白)
982	99A	SX01	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器3		26.6	5.4	表6.0	磨面、ムネとリ	磨面(うすナリ、ヘラズリ)	NA420(黒)
983	99A	SX01	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器3			9.2		高野焼縁	高野焼縁	10YR6/4R(黄赤)
984	99A	SD10	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器3		29.0	9.4		鉄粉	鉄粉、灰染め	7.5YR6/4R(黄赤)
985	99A	SD03	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器3		31.4	9.2		鉄粉	鉄粉	10YR6/3R(黄赤)
986	99A	SK71	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器3		32.0	9.3		鉄粉	鉄粉	7.5YR6/4R(黄赤)
987	99A	SK248	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器3			9.2	表14.0	高野焼縁	高野焼縁、ヘラズリ	N700(白)
988	99A	SD12	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器3		31.4	9.2	表13.0	磨面	磨面、ヘラズリ	10YR6/2R(白)
989	99A	SK31	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器3		32.9	9.2	表14.6	磨面	磨面、ヘラズリ	7.5YR6/4R(黄赤)
990	99A	SD01	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器3		31.4	9.3	表14.6	磨面、トナン痕あり	磨面、ヘラズリ	7.5YR6/4R(黄赤)
991	99A	SK44	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器3		31.4	9.3	表14.2	磨面	磨面、磨面(輪ムネとリ)	2.5YR6/1R(白)
992	99A	登?	瀬戸(美濃陶器)	内付縁部	大器17(登?)		18.8	9.2		灰染	灰染	10YR6/3R(黄赤)
993	99A	SK207	瀬戸(美濃陶器)	内付縁部	大器17(登?)			9.2		灰染	灰染	5YR6/1R(白)
994	99A	SK227	瀬戸(美濃陶器)	内付縁部	大器17(登?)		11.6	9.4		灰染	灰染	N715(白)
995	99A	登?	瀬戸(美濃陶器)	内付縁部	大器17(登?)		26.0	9.5		灰染	灰染、コソケテ	7.5YR6/1R(白)
996	99A	SK152	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器3		32.0	9.5		鉄粉、文様文、染灰染め(内付)	鉄粉	10YR6/6R(黄赤)
997	99A	SD13	瀬戸(美濃陶器)	大器	大器3		24.4	9.1		鉄粉	鉄粉、ヘラズリ	7.5YR6/3R(黄赤)
998	99A	登?	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3		31.6	9.3		鉄粉	鉄粉、ヘラズリ?、影がぼんぼん	10YR6/4R(黄赤)
999	99A	SD03	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3		32.8	9.5		鉄粉	鉄粉	2.5YR6/2R(白)
1000	99A	SK01	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3		34.0	9.6		鉄粉、鉄粉	鉄粉、ヘラズリ	10YR6/4R(黄赤)
1001	99A	SK165	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3		28.6	9.8		鉄粉	鉄粉	2.5YR6/1R(白)
1002	99A	SK69SD10	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器		29.2	9.4		鉄粉	鉄粉	10YR6/4R(黄赤)
1003	99A	SD03	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3		29.5	9.6		鉄粉	鉄粉、縁部	10YR6/3R(黄赤)
1004	99A	SD02	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3		21.8	9.6		鉄粉	鉄粉、縁部	7.5YR6/4R(黄赤)
1005	99A	登?	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3		28.2	9.7		輪ムネとリの磨面、鉄粉	鉄粉、ヘラズリ	10YR6/2R(白)
1006	99A	SK166	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3			9.2	表9.6	鉄粉	鉄粉、ヘラズリ	10YR6/4R(黄赤)
1007	99A	SK94	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3			9.4	表10.8	磨面?、トナン痕あり	磨面?、磨面内付	7.5YR6/4R(黄赤)
1008	99A	SD03	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3		46.0	9.2		鉄粉	鉄粉、ヘラズリ	7.5YR6/4R(黄赤)
1009	99A	SK68	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器17(登?)		25.6	9.2		鉄粉、磨面	鉄粉	7.5YR6/1R(白)
1010	99A	SD01	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器17(登?)		23.0	9.2		鉄粉、磨面	鉄粉	7.5YR6/1R(白)
1011	99A	SK68	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3			9.3		鉄粉、磨面	鉄粉	10YR6/2R(白)
1012	99A	SD12	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3		17.6	9.4		鉄粉、磨面(1号付?)	鉄粉	7.5YR6/3R(黄赤)
1013	99A	SD014040	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3		27.4	11.1	表11.0	鉄粉、磨面(1号付140)、磨面	鉄粉、磨面縁部	7.5YR6/1R(白)
1014	99A	SD02	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3		27.1	9.7		鉄粉、磨面(1号付186?)	鉄粉	2.5YR6/3R(黄赤)
1015	99A	SK68184182	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3		28.8	12.2	表10.0	鉄粉、磨面(1号付158)、磨面	鉄粉、磨面縁部、磨面小鉢	10YR6/4R(黄赤)
1016	99A	SX01	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3		30.6	9.4		鉄粉、磨面(1号付146)	鉄粉	10YR6/2R(白)
1017	99A	SD1	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3		26.9			鉄粉	鉄粉	7.5YR6/4R(黄赤)
1018	99A	SD01	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3			9.4		鉄粉、磨面	鉄粉	7.5YR6/1R(白)
1019	99A	SD12	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器3		28.0	9.5		鉄粉	鉄粉	7.5YR6/1R(白)
1020	99A	SD1	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器2			9.7		鉄粉、磨面	鉄粉	7.5YR6/4R(黄赤)
1021	99A	SX01	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器2		31.2	9.5		鉄粉、磨面(1号付216?)	鉄粉	7.5YR6/4R(黄赤)
1022	99A	SK41	瀬戸(美濃陶器)	縁部	大器2		27.4	9.4		鉄粉、磨面(1号付216?)	鉄粉	10YR6/3R(黄赤)

国名番号	調査区	遺物番号	産地・材質	器種	時期	口径(mm)	底径(mm)	底厚(mm)	内径	特徴	出土	備考
1023	99A	SK63	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器3期	直径25.0	9x2.2		磁鉢		7.5YR3(白)	
1024	99A	SD01	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器3期	直径27.0	9x2.5		磁鉢、底心焼き筋、縁目(口径10.5)	磁鉢	2.5YR3(赤)	
1025	99A	SD01	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器3期	直径27.4	9x4.7		磁鉢、縁目(口径12.5)	磁鉢	2.5YR3(白)	
1026	99A	SD01	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器3期	直径30.2	12.6	11.0	磁鉢、縁目(口径16.6、11.0)(口径10.5)	磁鉢、縁裏あり、底心赤褐色	7.5YR3(赤)	
1027	99A	SD11	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器3期	直径28.0	9x2.6		磁鉢、縁目(口径14.5)	磁鉢	10YR3(赤)	
1028	99A	SD01	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器3期	直径31.0	9x6.2		磁鉢	磁鉢	7.5YR3(赤)	
1029	99A	SD03	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径32.6	9x5.2		磁鉢、縁目(口径9.5以上)	磁鉢	10YR3(赤)	
1030	99A	SK125	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器3期	直径29.6	9x4.0		磁鉢、縁目	磁鉢	10YR3(赤)	
1031	99A	SK130	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器3期	直径30.8	9x5.2		磁鉢、縁目(口径11.5以上)	磁鉢	7.5YR3(白)	
1032	99A	SK01	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器3期	直径31.7			磁鉢、縁目	磁鉢	2.5YR3(白)	
1033	99A	SK01	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器3期	直径35.0	9x9.6		磁鉢、縁目(口径15.5)	磁鉢	2.5YR3(白)	
1034	99A	SK25.31	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径29.0	9x6.9		磁鉢、底心黒ムラ、縁目(口径13.5)	磁鉢	7.5YR3(白)	
1035	99A	SK26	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径31.0	9x7.0		磁鉢、縁目(口径14.5)	磁鉢	7.5YR3(白)	
1036	99A	SK31	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径33.0	9x7.5		磁鉢、縁目(口径17.5)	磁鉢	7.5YR3(白)	
1037	99A	SK107.184	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径27.2	10.8	9.4	磁鉢、縁目	磁鉢、底心赤褐色	10YR3(赤)	
1038	99A	SK221.SD03	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器3期	直径30.6	9x4.3		磁鉢、縁目(口径9.5以上)	磁鉢	10YR3(赤)	
1039	99A	SK34	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器3期	直径30.6	9x4.0		磁鉢、縁目	磁鉢	7.5YR3(赤)	
1040	99A	SD01	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器3期	直径33.2	9x3.0		磁鉢、縁目(口径11.5)	磁鉢	7.5YR3(白)	
1041	99A	SK91	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器3期	直径31	9x2.3		磁鉢、縁目(口径12.5以上)	磁鉢	10YR3(赤)	
1042	99A	SK71	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器3期	直径27.7			磁鉢	磁鉢	2.5YR3(赤)	
1043	99A	SK71	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径30.8	9x3.1		磁鉢	磁鉢	7.5YR3(白)	
1044	99A	SK01	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径29.4	9x3.3		磁鉢、縁目	磁鉢	2.5YR3(白)	
1045	99A	SD03	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径29.3	9x3.3		磁鉢、縁目	磁鉢	10YR3(赤)	
1046	99A	SK68	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径27.4			磁鉢、縁目(口径12.5)	磁鉢	10YR3(赤)	
1047	99A	SD01	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径32.4	13.6	11.2	磁鉢、縁目(口径20.5、9.5)(口径11.5、口径9.5)	磁鉢、底心赤褐色、底心赤褐色	10YR3(赤)	
1048	99A	SK01	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径36.8	9x6.0		磁鉢、縁目(口径11.5)	磁鉢	2.5YR3(白)	
1049	99A	SD03	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径34.2	9x4.3		磁鉢	磁鉢	10YR3(赤)	
1050	99A	SK125	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径27.0	9x3.2		磁鉢	磁鉢	7.5YR3(白)	
1051	99A	SK49	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径32.6			磁鉢	磁鉢	2.5YR3(白)	
1052	99A	SK91	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径32.0			磁鉢、縁目	磁鉢	7.5YR3(白)	
1053	99A	SK106(SD01)	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径34.4	15.3	11.0	磁鉢、縁目(口径20.5)	磁鉢、ヘラクズリ	10YR3(赤)	
1054	99A	SK166(SD11)	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	大器4期	直径32.6	14.0	10.6	磁鉢、縁目(口径20.5、9.5)(口径11.5、口径9.5)	磁鉢、ヘラクズリ、底心赤褐色	10YR3(赤)	
1055	99A	SK71.72	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	器型1	直径27.6	9x3.2		磁鉢、縁目の方向不明	磁鉢	7.5YR3(赤)	
1056	99A	SD03	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	器型2	直径31.4	9x4.7		磁鉢	磁鉢	2.5YR3(白)	
1057	99A	SD01	瀬戸瓦葺陶器	磁鉢	器型1	直径33.0	9x3.6		磁鉢	磁鉢	7.5YR3(白)	
1058	99A	T	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器4期(不明)	直径12.4	9x3.4		筒形、底心焼き筋、底心	筒形	10YR3(赤)	
1059	99A	SK106	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器10-4	直径16.4	9x3.3		筒形、筒形	筒形	7.5YR3(白)	
1060	99A	SD01	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器4期(不明)	直径15.6	9x3.1		筒形、筒形	筒形	2.5YR3(赤)	
1061	99A	SK72	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器	直径16.4	9x4.8		筒形、口縁の自然焼、底心赤褐色、底心	筒形	2.5YR3(赤)	
1062	99A	SD04	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	器型	直径15.6	9x4.1		筒形、筒形	筒形	7.5YR3(白)	
1063	99A	SK7	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器3期(不明)	直径12.4	9x4.3		筒形、筒形、筒形	筒形、ヘラクズリ	2.5YR3(白)	
1064	99A	SK7	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	器型1	直径12.9	9x4.3		筒形、筒形	筒形、底心赤褐色、筒形、口径11.5以上(口径9.5)	2.5YR3(白)	
1065	99A	SD01	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器	直径12.4	9x4.2	10.5	筒形	筒形、筒形、筒形、筒形、筒形	2.5YR3(赤)	
1066	99A	SD11	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器	直径12.4	4.9	7.6	筒形	筒形、若干スチ付着、筒形赤褐色	5YR7(白)	△1-埋
1067	99A	SD02	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器	直径11.4	9x3.8		筒形	筒形	2.5YR3(赤)	
1068	99A	SK01	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器	直径19.0	6.7	10.0	筒形	筒形、筒形赤褐色	7.5YR3(白)	
1069	99A	SD03	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器4期(不明)	直径29.6	9x3.1		筒形	筒形	10YR3(赤)	
1070	99A	SK26.23	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器4期-4	直径26.2	9x11.8		筒形	筒形	10YR3(赤)	
1071	99A	SD10(SD10)	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	器型1	直径24.4	24.1	11.2	筒形	筒形、ヘラクズリ	7.5YR3(白)	
1072	99A	SK08	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器1	直径11.4	9x2.0		筒形	筒形	2.5YR3(白)	
1073	99A	SD01	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器4	直径16.6	9x4.0		筒形	筒形、筒形(底心赤褐色あり)	7.5YR3(白)	
1074	99A	SD12	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器	直径12.9	9x2.5		筒形	筒形	2.5YR3(白)	
1075	99A	SK00	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器3	直径10.6	2.8		筒形	筒形、筒形赤褐色	2.5YR3(赤)	
1076	99A	SK31	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器3期-4	直径12.0	9x3.3		筒形	筒形	7.5YR3(白)	
1077	99A	SD02	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器3期	直径12.9	9x2.9	10.4	筒形	筒形、平底あり、平底凹形、ナブ、底心、ヘラクズリ	7.5YR3(白)	
1078	99A	SD	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器4期(不明)	直径9.6	9x2.4		筒形	筒形、少ムラ	7.5YR3(赤)	
1079	99A	SK7	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器1	直径11.6	9x4.6		筒形	筒形、筒形、筒形、筒形	7.5YR3(白)	
1080	99A	SK182.69	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器3期-4	直径14.2			筒形、ナブ	筒形(若干ムラ)、筒形ヘラクズリ	7.5YR3(白)	
1081	99A	SK31	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器1	直径10.6			筒形	筒形	2.5YR3(白)	
1082	99A	SK24	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器4期(不明)	直径13.7	9x3.5		筒形	筒形、筒形、筒形、筒形	2.5YR3(白)	
1083	99A	SK7	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器	直径13.4	9x4.6		筒形	筒形、底心赤褐色	2.5YR3(白)	
1084	99A	SK7	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器	直径10.8	9x2.3		筒形	筒形	10YR3(赤)	
1085	99A	SK125	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	不明(不明)	直径10.4	9x1.9	10.0	筒形	筒形	7.5YR3(白)	
1086	99A	SK68	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器3	直径11.5	9x4.7		筒形	筒形	10YR3(赤)	
1087	99A	SD02	瀬戸瓦葺陶器	筒形容器	大器不明	直径12.0	9x4.5		筒形	筒形、筒形、筒形赤褐色	10YR3(赤)	

国名番号	調査区	遺物番号	所在地	種類	時期	11cm(㎝)	最高(㎝)	底径(㎝)	内容	備考	出土	備考
1151	99A	SK20	土師器	ワケ口蓋器	前期	底7.2	1.6	3.8	ナール付着、ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1黒褐色	
1152	99A	SK20	土師器	ワケ口蓋器	前期	底7.4	1.6	3.8	ナール付着、ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1153	99A	SK20	土師器	ワケ口蓋器	前期	底8.0	1.8	底19	ナール付着、ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1154	99A	SK20	土師器	ワケ口蓋器	前期	底7.0	1.5	底14	ヨコナテ	ヨコナテ、ナール付着、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1155	99A	SK20	土師器	ワケ口蓋器	前期	底7.8	1.8	底10	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1156	99A	SK23	土師器	ワケ口蓋器	前期	底8.0	1.6	底40	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1157	99A	SK23	土師器	ワケ口蓋器	前期	底7.8	1.7	底18	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1158	99A	SK24	土師器	ワケ口蓋器	前期	7.9	1.2	5.8	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1159	99A	SK31	土師器	ワケ口蓋器	前期	底7.0	1.4	底12	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、ナール付着、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1160	99A	SK31	土師器	ワケ口蓋器	前期	底7.8	1.7	4.0	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1灰青	
1161	99A	SK31	土師器	ワケ口蓋器	前期	底6.9	1.5	底14	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1162	99A	SK33	土師器	ワケ口蓋器	前期?	底9.0	1.5	底40	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1灰青	
1163	99A	SK33	土師器	ワケ口蓋器	前期	7.5	1.7	4.1	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1灰-黄褐色	
1164	99A	SK37	土師器	ワケ口蓋器	前期	7.8	1.4	4.4	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1165	99A	SK40	土師器	ワケ口蓋器	前期	底8.4	1.7	4.8	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1灰-黄褐色 全体が黒色化する	
1166	99A	SK90	土師器	ワケ口蓋器	前期	8.0	1.6	4.4	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1167	99A	SK203	土師器	ワケ口蓋器	前期	底7.8	1.2	3.8	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、副杯痕のち瓶状片、ナール付着	2.5YR3/1赤褐色	
1168	99A	SK94	土師器	ワケ口蓋器	前期	底7.7	1.6	底16	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1灰青	
1169	99A	SK94	土師器	ワケ口蓋器	前期	底7.8	1.5	底14	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	10Y3/1灰青	
1170	99A	SK184	土師器	ワケ口蓋器	前期	7.6	1.7	4.4	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1灰青	
1171	99A	SK198	土師器	ワケ口蓋器	前期	底7.8	1.8	底10	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1灰青	
1172	99A	SK112	土師器	ワケ口蓋器	前期	底9.0	1.5	底18	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1黒褐色	
1173	99A	SK219	土師器	ワケ口蓋器	前期	7.8	1.6	4.0	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、ナール付着、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1174	99A	SK221	土師器	ワケ口蓋器	前期	底7.2	1.7	底26	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1175	99A	SK221	土師器	ワケ口蓋器	前期	底7.8	1.4	底18	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1灰青	
1176	99A	SK01	土師器	ワケ口蓋器	前期	9.0	2.0	4.5	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、ナール付着、副杯痕	10YR3/1灰青	
1177	99A	SK01	土師器	ワケ口蓋器	前期	7.8	1.7	4.5	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1灰青	
1178	99A	SK01	土師器	ワケ口蓋器	前期	底11.4	1.9	底14	ヨコナテ、少し黒褐色あり	ヨコナテ、副杯痕	SK005白 2.5YR3/1赤褐色	
1179	99A	SK01	土師器	ワケ口蓋器	前期?		底12	5.5	ヨコナテ、黄褐色や孔あり	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1灰白	
1180	99A	SK003	土師器	ワケ口蓋器	前期	11.0	2.7	6.2	ヨコナテ	ヨコナテ、2.5YR3/1赤褐色	7YR3/1黄褐色	
1181	99A	SK003	土師器	ワケ口蓋器	前期	底11.0	2.7	6.1	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1182	99A	SK004	土師器	ワケ口蓋器	前期	10.6	2.0 2.2	6.0	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1灰青	
1183	99A	SK010	土師器	ワケ口蓋器	前期	底10.8	2.5	底46	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1184	99A	SK010	土師器	ワケ口蓋器	前期	底11.2	2.2	5.9	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	7.5YR3/1灰-黄褐色	
1185	99A	SK010	土師器	ワケ口蓋器	前期	底11.0	3.0	底64	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1186	99A	SK011	土師器	ワケ口蓋器	前期	底11.2	2.0	底40	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕、表面が黒化する	2.5YR3/1赤褐色	
1187	99A	SK011	土師器	ワケ口蓋器	前期	底11.2	2.3	6.7	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1188	99A	SK011	土師器	ワケ口蓋器	前期	底11.8	2.3	7.4	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1189	99A	SK012	土師器	ワケ口蓋器	前期	底14.0	2.1	8.6	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1190	99A	SK012	土師器	ワケ口蓋器	前期	15.2	2.3	10.0	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕のち瓶状片	2.5YR3/1赤褐色	
1191	99A	SK29	土師器	ワケ口蓋器	前期?	底12.3		底18	ヨコナテ、狭いナール	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1灰-黄褐色	
1192	99A	SK30	土師器	ワケ口蓋器	前期	底9.2	1.6	底16	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1灰青	
1193	99A	SK31	土師器	ワケ口蓋器	前期	底10.6	1.9	底62	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1194	99A	SK71	土師器	ワケ口蓋器	前期	底12.2	6.8	底27	ヨコナテ、若干ナール付着	ヨコナテ、副杯痕のち瓶状片	10YR3/1灰青	
1195	99A	SK99	土師器	ワケ口蓋器	前期	8.8	2.2	3.5	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1196	99A	SK99	土師器	ワケ口蓋器	前期	8.9	2.2	3.7	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、ナール付着、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1197	99A	SK90	土師器	ワケ口蓋器	前期	底11.0	1.9	7.2	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕のち瓶状片	2.5YR3/1赤褐色	
1198	99A	SK90	土師器	ワケ口蓋器	前期	12.0	1.7	8.2	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕のち瓶状片	10YR3/1灰青	
1199	99A	SK90	土師器	ワケ口蓋器	前期	9.8	1.6	7.0	ヨコナテ	ヨコナテ、若干黒化する	2.5YR3/1赤褐色	
1200	99A	SK91	土師器	ワケ口蓋器	前期	底9.4	2.1	3.8	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕	2.5YR3/1赤褐色	
1201	99A	SK90	土師器	ワケ口蓋器	前期	9.8	1.7	7.2	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕のち瓶状片	2.5YR3/1赤褐色	
1202	99A	SK97	土師器	ワケ口蓋器	前期	底10.6	2.1	底14	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、副杯痕のち瓶状片	10YR3/1灰青	
1203	99A	SK100	土師器	ワケ口蓋器	前期	底11.6	2.1	底44	ヨコナテ、全体が黒色化	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1黒褐色	
1204	99A	SK112	土師器	ワケ口蓋器	前期	底13.4	底12		ヨコナテ	ヨコナテ	10YR3/1灰青	
1205	99A	SK94	土師器	ワケ口蓋器	前期	10.8	2.1	5.2	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、ナール付着、副杯痕のち瓶状片	10YR3/1灰青	
1206	99A	SK94	土師器	ワケ口蓋器	前期	底10.8	2.1	底18	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕のち瓶状片	5YR3/1黄褐色	
1207	99A	SK94	土師器	ワケ口蓋器	前期	底11.6	2.2	底66	ヨコナテ、黄色染有物(黒粉?)	ヨコナテ、副杯痕のち瓶状片、黄色染有物(黒粉?)	10YR3/1灰白	
1208	99A	SK94	土師器	ワケ口蓋器	前期	11.1	2.1	5.5	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、副杯痕	10YR3/1灰青	
1209	99A	SK94	土師器	ワケ口蓋器	前期	底10.4	2.4	底10	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕のち瓶状片	10YR3/1灰青	
1210	99A	SK25	土師器	ワケ口蓋器	前期	底10.8			ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、ナール付着	2.5YR3/1赤褐色	
1211	99A	SK184	土師器	ワケ口蓋器	前期	底10.4	1.9	5.0	ヨコナテ	ヨコナテ、副杯痕のち瓶状片	2.5YR3/1赤褐色	

遺物一覧表

国号番号	調査区	遺物番号	所在地	材質	器種	時期	寸法(cm)	最高(cm)	底径(cm)	内径	外径	重量	備考
1212	99A	SK219	土師器	ワケリ調整器	銅		直径12.0	1.8	直径0	ワケリナ	ワケリナ、銅板付	2.55X10.5	2.55X10.5
1213	99A	SK301	土師器	ワケリ調整器	銅		直径13.2	2.3	直径7	ワケリナ	ワケリナ、銅板付	2.55X10.5	2.55X10.5
1214	99A	SK201	土師器	ワケリ調整器	銅		直径11.3	2.3	直径3	ワケリナ	ワケリナ、銅板付	7.55X6.45	7.55X6.45
1215	99A	SK204	土師器	ワケリ調整器	銅		直径10.8	2.2	直径6	ワケリナ	ワケリナ、銅板付	10.8X3.5	10.8X3.5
1216	99A	SK204	土師器	ワケリ調整器	銅		直径11.0	1.7	直径4	ワケリナ	ワケリナ、銅板付	10.8X3.5	10.8X3.5
1217	99A	SK212	土師器	ワケリ調整器	銅	銅?	直径10.2	1.7	直径4	ワケリナ	ワケリナ、銅板付 ワケリナ、銅板付	2.55X10.5	2.55X10.5
1218	99A	SK212	土師器	ワケリ調整器	銅		直径12.4	3.0	直径4	ワケリナ、ネール付	ワケリナ、ネール付、銅板付	2.55X10.5	2.55X10.5
1219	99A	SK212	土師器	ワケリ調整器	銅		直径10.8	1.6	直径7	ワケリナ、ネール付	ワケリナ、ネール付、銅板付	10.8X2.5	10.8X2.5
1220	99A	SK190	土師器	ワケリ調整器	銅	銅?	直径11.4	2.3	直径4	ワケリナ、全体黒く ススびている	ワケリナ、銅板付	7.55X10.5	7.55X10.5
1221	99A	SK153	土師器	ワケリ調整器	銅		直径11.4	2.9	直径6	ワケリナ	ワケリナ、銅板付 ワケリナ、銅板付	10.8X2.5	10.8X2.5
1222	99A	SK116	土師器	ワケリ調整器	銅	銅?	直径9.8	1.3	直径7	ワケリナ	ワケリナ、銅板付 ワケリナ、銅板付	10.8X3.5	10.8X3.5
1223	99A	SK199	土師器	ワケリ調整器	銅		直径9.4	2.1	直径6	ワケリナ、底面にナ メ付	ワケリナ、銅板付 ワケリナ、銅板付	2.55X10.5	2.55X10.5
1224	99A	SK204	土師器	ワケリ調整器	銅		直径10.0	2.1	直径6	ワケリナ、ネール付	ワケリナ、銅板付 ワケリナ、銅板付	2.55X10.5	2.55X10.5
1225	99A	SK212	土師器	ワケリ調整器	銅	銅?	直径12.0	2.1	直径4	ワケリナ	1面黒くナメ付、ワケリナ、 銅板付	5.5X10.5	5.5X10.5
1226	99A	SK31	土師器	ワケリ調整器	銅	銅?	直径10.0	0.2	直径4	ワケリナ	ワケリナ、銅板付	10.8X3.5	10.8X3.5
1227	99A	SK214	土師器	ワケリ調整器	銅	銅?	直径12.8	1.8	直径5	ワケリナ	ワケリナ、銅板付	10.8X3.5	10.8X3.5
1228	99A	SK31	土師器	ワケリ調整器	銅	銅?	直径11.4	2.3	直径7	ワケリナ、ネール付	ワケリナ、銅板付	7.55X6.45	7.55X6.45
1229	99A	SK31	土師器	ワケリ調整器	銅	銅?	直径11.4	2.2	直径5	ワケリナ	ワケリナ、銅板付	10.8X3.5	10.8X3.5
1230	99A	SK211	土師器	ワケリ調整器	銅		直径10.5	3.2	直径4	ワケリナ	ワケリナ、銅板付	2.55X10.5	2.55X10.5
1231	99A	SK212	土師器	ワケリ調整器	銅		直径11.0	2.9	直径5	ワケリナ	ワケリナ (黒い) 1面黒くナ メ付、銅板付、全体が ススびている	10.8X2.5	10.8X2.5
1232	99A	SK31	土師器	ワケリ調整器	銅		直径11.8	6.4	直径4	ワケリナ	ワケリナ、銅板付	7.55X10.5	7.55X10.5
1233	99A	SK31	土師器	ワケリ調整器	銅		直径11.4	6.8	直径4	ワケリナ、ネール付	ワケリナ、銅板付	7.55X10.5	7.55X10.5
1234	99A	SK18	土師器	ワケリ調整器	銅		直径9.6	1.4	直径8	ワケリナ、ネール付	ワケリナ、銅板付	2.55X10.5	2.55X10.5
1235	99A	SK88	土師器	ワケリ調整器	銅		直径12.0	5.0	直径7	ワケリナ	ワケリナ、ネール付、銅板付	10.8X2.5	10.8X2.5
1236	99A	SK31	土師器	ワケリ調整器	銅		直径10.0	2.0	直径5	ワケリナ	ワケリナ、ネール付、銅板付 ワケリナ、銅板付	10.8X3.5	10.8X3.5
1237	99A	SK221	土師器	ワケリ調整器	銅		直径11.0	3.5	直径4	ワケリナ	ワケリナ、銅板付	7.55X10.5	7.55X10.5
1238	99A	SK201	土師器	ワケリ調整器	銅		直径12.1	6.8	直径7	ワケリナ	ワケリナ、銅板付	7.55X10.5	7.55X10.5
1239	99A	SK204	土師器	ワケリ調整器	銅		直径12.4	8.2	直径7	ワケリナ、表面全体が ススびている (ナメ付 付部分)	ワケリナ、銅板付、表面全体 がススびている (ナメ付 付部分)	10.8X3.5	10.8X3.5
1240	99A	SK204	土師器	ワケリ調整器	銅		直径11.6	6.5	直径7	ワケリナ、ネール付	ワケリナ、銅板付	7.55X10.5	7.55X10.5
1241	99A	SK114	土師器	ワケリ調整器	銅		直径11.6	11.6	直径7	ワケリナ	ワケリナ、銅板付	10.8X3.5	10.8X3.5
1242	99A	SK201	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.6	1.5	直径1	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	10.8X2.5	10.8X2.5
1243	99A	SK201	土師器	ワケリ調整器	銅		直径3.3	4.5	直径2	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1244	99A	SK201	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.9	5.4	直径3	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	7.55X6.45	7.55X6.45
1245	99A	SK201	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.7	1.3	直径1	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1246	99A	SK201	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.8	1.0	直径1	一方ワケリ (子の平盤?)、 鉄ササユ	鉄ササユ (子の平盤?)、鉄ササユ	7.55X6.45	7.55X6.45
1247	99A	SK201	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.6	1.4	直径1	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1248	99A	SK201	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.4	1.0	直径1	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	7.55X6.45	7.55X6.45
1249	99A	SK201	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.9	0.9	直径1	ワケリナ、鉄ササユ、 ネール付	ワケリナ、鉄ササユ	7.55X6.45	7.55X6.45
1250	99A	SK201	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.3	4.8	直径1.3	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1251	99A	SK202	土師器	ワケリ調整器	銅		直径5.4	0.7	直径3	ワケリナ	ワケリナ、鉄ササユ	7.55X10.5	7.55X10.5
1252	99A	SK202	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.3	4.8	直径0.7	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	10.8X3.5	10.8X3.5
1253	99A	SK205	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.5	4.6	直径1.0	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	7.55X6.45	7.55X6.45
1254	99A	SK203	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.7	1.0	直径1	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	10.8X3.5	10.8X3.5
1255	99A	SK203	土師器	ワケリ調整器	銅		直径0.9	1.1	直径1	ワケリナ、一方ワケリ	ワケリナ、鉄ササユ (子の平盤?)	7.55X6.45	7.55X6.45
1256	99A	SK203	土師器	ワケリ調整器	銅		直径0.9	1.0	直径1	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1257	99A	SK204	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.7	4.8	直径1.0	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1258	99A	SK210	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.8	1.1	直径1	一方ワケリ、ネール付	ワケリナ、ネール付	10.8X2.5	10.8X2.5
1259	99A	SK210	土師器	ワケリ調整器	銅		直径5.0	5.1	直径1.2	一方ワケリ	鉄ササユ	10.8X3.5	10.8X3.5
1260	99A	SK210	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.7	1.2	直径1	一方ワケリ	鉄ササユ	2.55X10.5	2.55X10.5
1261	99A	SK211	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.6	4.7	直径1.0	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1262	99A	SK211	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.2	1.4	直径1	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1263	99A	SK211	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.3	4.8	直径1.0	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1264	99A	SK211	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.6	1.0	直径1	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1265	99A	SK213	土師器	ワケリ調整器	銅		直径6.0	1.1	直径1	ワケリナ	ワケリナ、銅板付	10.8X3.5	10.8X3.5
1266	99A	SK88	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.7	1.0	直径1	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	10.8X3.5	10.8X3.5
1267	99A	SK71	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.5	1.7	直径1	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1268	99A	SK71	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.7	4.9	直径1.0	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1269	99A	SK71	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.7	5.0	直径1.1	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1270	99A	SK71	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.4	4.8	直径1.1	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1271	99A	SK71	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.7	5.0	直径1.3	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1272	99A	SK71	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.5	4.7	直径1.2	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1273	99A	SK71	土師器	ワケリ調整器	銅		直径4.9	1.1	直径1	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1274	99A	SK71	土師器	ワケリ調整器	銅		直径5.1	1.4	直径1	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5
1275	99A	SK71	土師器	ワケリ調整器	銅		直径5.2	0.8	直径1	一方ワケリ	鉄ササユ (子の平盤?)	2.55X10.5	2.55X10.5

調査番号	調査区	遺構番号	所在地・材質	形 態	尺 寸	埋 深	底 深	内 容	備 考	
1276	99A	SK71	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.2×4.7	1.1	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	10YR6/3赤黄青
1277	99A	SK71	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.4×5.0	1.0	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	2.5YR6/3赤黄
1278	99A	SK71	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.1×4.4	1.5	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	2.5YR6/3赤黄
1279	99A	SK71	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.2×5.2	1.1	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	2.5YR6/3赤黄
1280	99A	SK71	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.7	1.1	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	10YR6/2赤白
1281	99A	SK87	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.7×5.1	0.7~1.1	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	2.5YR6/3赤黄
1282	99A	SK89	土師器	赤コト印面蓋器	C型			一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	2.5YR6/3赤黄
1283	99A	SK112	土師器	赤コト印面蓋器	C型	5.4		一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	7.5YR6/3赤黄
1284	99A	SK94	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.7	1.1	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	7.5YR6/3赤黄
1285	99A	SK125	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.1×4.7	1.3	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	2.5YR6/3赤黄
1286	99A	SK125	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.3×4.9	1.0	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	10YR6/3赤黄青
1287	99A	SK125	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.0×4.4	1.3	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	10YR6/3赤黄青
1288	99A	SK125	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.4×5.7	1.2	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	2.5YR6/3赤黄
1289	99A	SK125	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.4×4.7	1.0	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	10YR6/3赤黄青
1290	99A	SK125	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.6×4.8	1.2	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	10YR6/3赤黄青
1291	99A	SK125	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.2×4.6	1.0	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋?)	7.5YR6/3赤黄
1292	99A	SK125	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.8×5.2	1.2	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	10YR6/3赤黄青
1293	99A	SK125	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.4×4.8	1.2	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	10YR6/3赤黄青
1294	99A	SK125	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.4×4.8	1.2	一方開テ	蓋付オス。	10YR6/3赤黄青
1295	99A	SK125	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.3×4.6	1.2	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	10YR6/3赤黄青
1296	99A	SK125	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.2×4.7	1.4	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	10YR6/2赤白
1297	99A	SK125	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.3×4.5	1.1	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	2.5YR6/3赤黄
1298	99A	SK165	土師器	赤コト印面蓋器	C型	5.8		一方開テ	蓋付オス。	2.5YR6/3赤黄
1299	99A	SK198	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.1×4.2	1.2	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	10YR6/2赤白
1300	99A	SK221	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.2×4.6	1.0	一方開テ	蓋付オス。	10YR6/2赤白
1301	99A	SK221	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.7×4.9	1.0	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	7.5YR6/3赤黄
1302	99A	SK301	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.5×5.1	1.0	ナゲ1(方向?)	子の平蓋?	10YR6/3赤黄青
1303	99A	SK301	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.5×5.2	0.9	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	10YR6/3赤黄青
1304	99A	SK301	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.2×4.6	1.3	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	7.5YR6/3赤黄
1305	99A	SK001	土師器	赤コト印面蓋器	C型	5.1	0.9	一方開テ	蓋付オス。(子の平蓋)	2.5YR6/3赤黄
1306	99A	SK011	土師器	赤コト印面蓋器	C型	4.5×4.7	1.0	別開テ	蓋付オス。	10YR6/2赤白
1307	99A	SK125	土師器	赤コト印面蓋器	C100類	4.3×4.5	0.9	一方開テ	蓋付オス。(内面紅じりぬぐ)	2.5YR6/3赤黄
1308	99A	SK011	土師器	内瓦蓋				コトナテ、黒色化す		5YR7/4に多い
1309	99A	SK001	土師器	内瓦蓋		20.8	08.9	コトナテ、コトナテ、蓋付オス、スス付着		10YR6/3赤黄青
1310	99A	SK001	土師器	内瓦蓋		23.2	06.0	コトナテ、コトナテ		10YR6/3赤黄青
1311	99A	SK001	土師器	内瓦蓋		22.6	06.0	コトナテ、コトナテ		10YR6/3赤黄青
1312	99A	SK010	土師器	内瓦蓋		18.4	05.1	ハテ		10YR6/3赤黄青
1313	99A	SK010	土師器	内瓦蓋		23.2	05.5	コトナテ、ハテ		7.5YR6/7赤
1314	99A	SK71	土師器	内瓦蓋		34.0	03.0	コトナテ、スス付着、ハテナテ、ハテ		10YR6/3赤黄青
1315	99A	SK215	土師器	内瓦蓋		28.0	05.8	コトナテ、ハテ		10YR6/2赤白
1316	99A	SK215	土師器	内瓦蓋		28.0	05.7	コトナテ、ハテ、今や黒色化して、今やスス付着		10YR6/3赤黄青
1317	99A	SK011	土師器	内瓦蓋		25.4	05.1	ハテ、内面スス付着		5YR6/3赤黄 10YR6/3赤黄
1318	99A	SK010	土師器	内瓦蓋		17.0	09.8	コトナテ、ハテ?、コトナテ		2.5YR6/3赤黄
1319	99A	SK011	土師器	内瓦蓋		22.0	06.0	ハテ、スス付着		5YR6/3赤黄
1320	99A	SK012	土師器	内瓦蓋		20.4	03.1~2	ハテ、コトナテ		7YR6/3赤黄 10YR6/3赤黄
1321	99A	SK011	土師器	内瓦蓋		23.0	11.2	コトナテ、ハテ		2.5YR6/3赤黄
1322	99A	SK68	土師器	内瓦蓋		21.0	05.1	コトナテ、ハテ		5YR6/3赤黄
1323	99A	SK129	土師器	内瓦蓋		19.8	07.1	コトナテ、ハテ		5YR6/3赤黄
1324	99A	SK301	土師器	内瓦蓋		17.8	08.7	コトナテ、ハテ		7.5YR6/3赤黄 10YR6/3赤黄
1325	99A	SK94	土師器	内瓦蓋			06.8			7.5YR6/3赤黄
1326	99A	SK001	土師器	内瓦蓋			06.8			7.5YR6/3赤黄
1327	99A	SK184	土師器	内瓦蓋			05.7			10YR6/3赤黄青
1328	99A	SK002	土師器	他物		29.8	06.2	コトナテ、ハテ、少し平		2.5YR6/3赤黄
1329	99A	SK004	土師器	他物		35.0	06.3	コトナテ、ハテ		7.5YR6/3赤黄(10YR6/3赤黄)
1330	99A	SK004	土師器	他物		28.2	05.3	ハテ、黒いシミあり		2.5YR6/3赤黄
1331	99A	SK012	土師器	他物		30.0	7.1	ハテ、黒色化す		7.5YR6/3赤黄
1332	99A	SK31	土師器	他物		28.8	06.1	コトナテ、ハテ		7.5YR6/3赤黄
1333	99A	SK94	土師器	他物		30.0	05.8	コトナテ、ハテ		7.5YR6/3赤黄 10YR6/3赤黄
1334	99A	SK125	土師器	他物		29.4	7.3	コトナテ、ハテ、コトナテ、内面(12?)焼色		10YR6/3赤黄
1335	99A	SK107	土師器	他物		30.0	06.8	コトナテ、ハテ、裏面焼色		7.5YR6/3赤黄
1336	99A	SK112	土師器	他物		29.4	06.4	コトナテ、ハテ		5YR6/3赤黄
1337	99A	SK198	土師器	他物		30.0	6.1	コトナテ、ハテ、黒いシミ付着		10YR6/3赤黄
1338	99A	SK203	土師器	他物		27.8	06.4	コトナテ、ハテ		7.5YR6/3赤黄
1339	99A	SK31	土師器	他物		23.6	06.0	コトナテ、ハテナテ		7.5YR6/3赤黄

遺物一覧表

調査番号	調査区	遺構番号	所在地	材質	器種	時期	口径(mm)	底径(mm)	底径(mm)	内径	外径	備考	出土	備考
1340	99A	SK33	土師部	磁器			93.3			ヨコナテ、ハク	ヨコナテ、スス付着、指ササ、ハナクズ付		10YR6/3灰青	
1341	99A	SK91	土師部	磁器			93.0			ヨコナテ、ハク	ヨコナテ、指ササ、ハナクズ付		10B6/1に白い皮	
1342	99A	SK219	土師部	磁器			94.3			ヨコナテ	ヨコナテ、指ササ、ハナクズ付、スス付着		7.5YR6/4灰青	
1343	99A	SD03	土師部	磁器	近世?		93.2			ヨコナテ、ハク	ヨコナテ、指ササ、スス付着		5YR6/6黄	
1344	99A	SK129	土師部	磁器			93.9			ヨコナテ、ハク	ヨコナテ、指ササ、スス付着		7.5YR7/4に白い皮	
1345	99A	SK01	土師部	磁器			93.2			ヨコナテ、ハク	ヨコナテ、指ササ、スス付着		10YR6/3灰青	
1346	99A	SK130	土師部	磁器	古伊勢島小?		94.0			ヨコナテ、ハナクズ付のヨコナテ	ヨコナテ、ハナクズ付		7.5YR6/3黄	9YR6/3黄 9YR6/4黄
1347	99A	SK112	土師部	磁器			23.6	6.7		ヨコナテ、ハク、表面磨損、口がまたはまたスス付着	ヨコナテ、指ササ、ハナクズ付、スス付着		9YR6/3黄 2YR6/3黄	
1348	99A	SK71	土師部	磁器			31.4			ヨコナテ、ハク	指ササ、スス付着		10YR6/3灰青	
1349	99A	SD03	土師部	磁器			27.8	96.3		ヨコナテ、ハク	ヨコナテ、指ササ、ハナクズ付、スス付着		5YR6/6黄	
1350	99A	SD03	土師部	磁器			27.2	93.3		ヨコナテ、ハク	ヨコナテ、指ササ、スス付着		7.5YR7/4に白い皮	
1351	99A	SD04	土師部	磁器			30.0	93.9		ヨコナテ、ハク、黒色の土着	ヨコナテ、指ササ、ハナクズ付		7.5YR6/3黄	10YR6/3黄
1352	99A	SD04	土師部	磁器			22.8	93.0		ヨコナテ、ハク	ヨコナテ、スス付着に付着、指ササ		7.5YR7/4に白い皮	
1353	99A	SD04	土師部	磁器			36.0	93.0		ハク、口が付着	表面磨損、ヨコナテ、指ササ、スス付着、ハナクズ付		7.5YR7/4に白い皮	
1354	99A	SD11	土師部	磁器			42.6	99.8		ハク	表面磨損、ヨコナテ、指ササ、スス付着、ハナクズ付		7.5YR7/4 2.5YR6/3黄	
1355	99A	SD11	土師部	磁器			42.4	94.8		ハク	ヨコナテ、指ササ、スス付着		7.5YR7/4に白い皮	
1356	99A	SK79	土師部	磁器				94.4		ヨコナテ、ハク、少しスス付着	ヨコナテ		10YR6/3灰青	
1357	99A	SK108	土師部	磁器				95.6		ヨコナテ、ハナクズ、ハナクズ付	ヨコナテ、スス付着		6YR6/2白 2.5YR6/3黄	
1358	99A	SD04	土師部	磁器			33.2	94.7		指ササ、ヨコナテ、ハク	ヨコナテ、スス付着、ハク、スス付着、指ササ、ハナクズ付		2.5YR7/2白	
1359	99A	SK104	土師部	磁器	有彩色		22.1	99.6		ハク、ヨコナテ?	表面磨損、指ササ、ハナクズ付、スス付着		10YR6/2白	
1360	99A	SD11	土師部	磁器			34.0	93.8		ハク、黒色化する	ヨコナテ、ハク、ヨコナテ		5YR6/4黄	
1361	99A	SK01	土師部	磁器			31.6	93.4		ヨコナテ、ハナクズ付、指ササ	ヨコナテ		7.5YR6/3黄	
1362	99A	SK129	土師部	磁器			34.2	93.2		ヨコナテ、ハナクズ付	ヨコナテ、ハナクズ、タテハク、スス付着		7.5YR6/4灰青	
1363	99A	SK133	土師部	磁器				99.1		ハク、黒色化する、ハナクズ付	ヨコナテ、スス付着、指ササ、ハナクズ付		7.5YR6/3灰青	
1364	99A	SD03	土師部	磁器	六角斗		18.0	94.6		ヨコナテ、口が有り、表面磨損	ヨコナテ、指ササ、ハナクズ付		7.5YR6/3黄 2YR6/3黄	
1365	99A	SD03	土師部	磁器	六角斗			94.4		ヨコナテ、ハク	指ササ		7.5YR7/4に白い皮	
1366	99A	SD10	土師部	磁器	六角斗			96.2		ヨコナテ、ハナクズ付、指ササ、ハナクズ付	ヨコナテ、サテ		10YR6/3灰青	
1367	99A	SK221	土師部	磁器	六角斗			94.3		表面全体が剥離する	表面全体が剥離する		7.5YR6/4灰青	
1368	99A	SK107	土師部	磁器	六角斗			96.8		ヨコナテ、ハク	ヨコナテ、黒染、黒染する(器をはずした状態で)		7.5YR6/3黄 7.5YR7/6黄	
1369	99A	SK213	土師部	磁器	六角斗		37.0	92.1		ヨコナテ	ヨコナテ、穿孔		10YR6/3灰青	
1370	99A	SD10	土師部	磁器	六角斗?			93.7		ヨコナテ、ハク	黒染(器?)		7.5YR6/3 7YR6/3	
1371	99A	SK31	土師部	磁器	六角斗			96.7		指ササ、ヨコナテ、ハク	ハナクズ付、指ササ		10YR6/3灰青	
1372	99A	8	東海部	漆	高床		56.0	99.7		高床、指ササ	高床(1面磨損わずかに自然剥)		9A0/3 7YR6/3に白皮	
1373	99A	SK203	東海部	漆	高床					高床、1面磨損わずかに自然剥、指ササ		9Y6/3 7.5YR7/6黄		
1374	99A	SD03	東海部	漆	高床			94.4		高床	高床		2.5Y6/6黄 5YR6/6黄	
1375	99A	SD02	東海部	漆	高床			93.9		高床	高床、ハナクズ付、砂目		5YR6/6黄 6G0/3黄	
1376	99A	SD02.1.8K107	東海部	漆	高床			94.0	20.6	高床、ヨコナテ	高床、ハナクズ付、表面磨損、砂目		5YR7/6黄	
1377	99A	高T	東海部	漆	高床			95.0	16.0	高床、ヨコナテ	高床、ハナクズ付、表面磨損、砂目		7.5Y6/3黄	
1378	99A	高T	東海部	漆	高床			28.2	95.4	高床、ヨコナテ	高床、ヨコナテ、ハナクズ付、指ササ		7.5YR7/6黄	
1379	99A	SK68	東海部	漆?	高床			94.0	21.8	高床、ヨコナテ	高床、指ササ、ハナクズ付、表面磨損、砂目		2.5YR6/3黄	
1380	99A	SK68	東海部	漆	高床		24.6	23.0	19.8	高床、ヨコナテ、指ササ、ハク、ハナクズ付	高床、ヨコナテ、ハナクズ付、表面磨損、砂目		2.5YR6/6黄	
1381	99A	SK71	東海部	漆	高床			95.1		高床	高床		2.5Y6/3黄	
1382	99A	SD13	東海部	漆	高床			93.0		自然剥、高床	自然剥、高床		9Y6/3黄	
1383	99A	SK01	東海部	漆	高床			20.4	93.3	高床(わずかに自然剥)	高床(わずかに自然剥)		5A0/3	
1384	99A	SD05	東海部	漆	高床			93.8	12.0	高床	高床、ハナクズ付、砂目		2.5Y6/3黄 5YR6/6黄	
1385	99A	SK31	東海部	漆	高床			10.6	93.9	高床、指ササ	1面磨損する、自然剥		7.5YR6/4に白い皮	
1386	99A	SD01	東海部	漆	高床		20.8	31.2	93.0	高床、指ササ	自然剥		10Y5/1 2.5YR6/6黄	
1387	99A	SD01	東海部	漆	高床			28.2	96.4	高床	1面自然剥、高床		7.5Y6/3黄	
1388	99A	SK117	東海部	漆	高床			26.2	92.3	高床、ヨコナテ、指ササ、ハナクズ付	自然剥、高床、ハナクズ付		5YR6/3黄 7.5Y6/3黄	7.5Y6/3黄
1389	99A	SD01	東海部	漆	高床			26.8	99.0	ヨコナテ、指ササ	高床、一面自然剥		10YR7/1白	
1390	99A	8?	東海部	漆	高床			21.0	92.2	自然剥、指ササ	高床		2.5Y6/6黄	
1391	99A	SK33	東海部	漆	高床			36.8	92.0	高床、指ササ、ハナクズ付	高床、指ササ、ハナクズ付		5YR6/3黄 5G0/3黄	
1392	99A	SD11	東海部	漆	高床			36.6	92.6	高床(磨損)	高床(磨損)、自然剥		7.5Y7/1 9Y/1	
1393	99A	高T	中四部	漆	高床			93.0	8.2	高床	高床、高床		5A0/3白	
1394	99A	8?	中四部	漆	高床			31.6	92.6	高床	高床		5A0/3白	
1395	99A	SK183	中四部	漆	高床			12.0	93.0	高床	高床		5A0/3白	

国名番号	調査区	遺構番号	遺地・材質	器種	時期	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	内容	備考	出所	備考		
1306	99A	SK34	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径13.8		91.9	青磁胎	青磁胎、磁面に本色唐行	7.5YR3/0白			
1307	99A	SK37	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径15.6		91.6	青磁胎	青磁胎、劃花文あり	7.5YR3/0白			
1308	99A	SK31	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径12.6		91.4	青白磁胎	青白磁胎	SK005白			
1309	99A	SK201	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径11.0		92.4	白磁胎	磁面に本色唐行	10YR6/3黄青			
1400	99A	SK37	中国青花	磁器	景徳鎮型素		直径16.6	91.7	青磁胎	青磁胎、磁胎	SK005白			
1401	99A	SK301	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径10.3	2.8	91.2	白磁胎	高台磁胎高台	7.5YR3/0白			
1402	99A	SK201	中国青花	磁器	高台白磁	直径11.3	3.7	4.8	白磁胎	磁胎	2.5YR3/0白			
1403	99A	トレンテ	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径12.6	3.4	7.2	白磁胎	高台磁胎高台	SK005白			
1404	99A	SK202	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径11.4	2.5	91.8	白磁胎	高台磁胎高台	SK005白			
1405	99A	SK37	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径3.0	3.0	92.5	白磁胎	高台磁胎高台	SK005白			
1406	99A	SK25	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径12.6	6.7	4.3	青瓷	青瓷、高台磁胎高台、高台が若干 剥落	SK005白			
1407	99A	SK36	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径	直径2	91.1	青瓷	青瓷、高台磁胎高台、カンナズ 子腹	SK005白			
1408	99A	SK39	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径	直径2	91.9	青瓷	青瓷、高台磁胎高台	SK005白			
1409	99A	SK31	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径	直径2	91.3	青瓷	青瓷、高台磁胎高台	SK005白			
1410	99A	SK301	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径12.0		91.0	青瓷	青瓷	SK005白			
1411	99A	SK301	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径12.3		91.6	青瓷	青瓷	SK005白			
1412	99A	SK301	中国青花	磁器	景徳鎮型素			91.8	青瓷	青瓷、白磁胎	SK005白			
1413	99A	SK31	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径16.0		91.0	青瓷	青瓷	SK005白			
1414	99A	SK35	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径12.0	2.6	6.0	青瓷	青瓷、高台磁胎高台	SK005白			
1415	99A	SK37	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径12.0	2.6	6.6	青瓷	青瓷、高台磁胎高台	SK005白			
1416	99A	SK37	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径13.4	2.7	7.4	青瓷	青瓷、高台磁胎高台	SK005白			
1417	99A	SK37	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径8.9		91.7	青瓷	青瓷	SK005白			
1418	99A	SK25	中国青花	磁器	景徳鎮型素	直径11.8		92.0	青瓷	青瓷	10YR6/29白			
1419	99A	SK31(SK30)	中国青花	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径3	7.0	青瓷	青瓷、高台磁胎高台、カンナズ 子腹	SK005白			
1420	99A	SK34	中国青花	瓦器	景徳鎮型素	直径13.0	2.8	7.2	青瓷	青瓷、高台磁胎高台	SK005白			
1421	99A	SK10	中国青花	瓦器	景徳鎮型素	直径12.0		91.3	青瓷	青瓷	SK005白			
1422	99A	SK37	中国青花	瓦器	景徳鎮型素	直径13.2	2.9	7.0	青瓷	青瓷、高台磁胎高台	SK005白			
1423	99A	SK68	中国青花	瓦器	景徳鎮型素	直径12.0		91.1	青瓷	白磁胎	SK005白			
1424	99A	SK210	中国青花	瓦器	景徳鎮型素	直径12.0		91.2	青瓷	青瓷	SK005白			
1425	99A	SK31	中国青花	瓦器	景徳鎮型素	直径12.0		91.1	青瓷	青瓷	SK005白			
1426	99A	SK33	中国青花	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径2	91.7	青磁胎	白磁胎、高台磁胎高台	SK005白			
1427	99A	SK37	中国青花	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径2	91.8	4.8	青瓷	青瓷、高台磁胎高台	10YR6/29白		
1428	99A	SK34	中国青花	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径2	91.7	8.0	青瓷	青瓷、高台磁胎高台	SK005白		
1429	99A	SK310	中国青花	瓦器	景徳鎮型素	直径11.4	2.7	7.0	青瓷	白磁胎、高台磁胎高台、磁胎に 唐草	SK005白			
1430	99A	SK31	中国青花	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径2	5.4	青瓷	青瓷、高台磁胎高台	SK005白			
1431	99A	SK312	中国青花	瓦器	景徳鎮型素	直径13.0	2.9	7.8	青瓷	青瓷、高台磁胎高台	SK005白			
1432	99A	SK37	中国青花	瓦器	景徳鎮型素	直径22.8		91.2	青瓷	青瓷	10YR6/29白			
1433	99A	SK129	中国青花	文様	三彩小皿			90.9	磁胎	磁胎	SK005白			
1434	99A	SK37	朝鮮土器陶器	器種		直径	直径2	91.8	透明胎	透明胎、目取	7YR6/3黄青			
1435	99A	SK37	朝鮮土器陶器	器種		直径	直径2	91.2	透明胎	透明胎、高台磁胎高台、自然色	SK10黄赤			
1436	99A	SK204	朝鮮土器陶器	器種		直径	直径2	91.6	自然胎	自然胎(あるいは透明胎)	SK005白			
1437	99A	SK31(72500)	中国青花	瓦器	景徳鎮型素	直径19.4		91.0	磁胎	磁胎	7YR6/29白			
1438	99A	SK37	中国白磁	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径2	91.4	4.0	白磁胎	白磁胎、磁胎	7.5YR3/0白		
1439	99A	SK41	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	5.6	4.2	灰胎	灰胎、黄胎、目取赤黄胎、目取ハ ナズ子腹	SK005白		
1440	99A	SK201	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	5.9	6.1	4.1	灰胎	灰胎、黄胎、目取目取赤黄胎、目取ハ ナズ子腹	10Y6/3灰	
1441	99A	SK212	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	6.4	4.0	灰胎	灰胎、黄胎、目取ハナズ子腹	7.5YR3/0白		
1442	99A	SK212	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	6.4	4.0	灰胎	灰胎、黄胎、ハナズ子腹	7.5YR3/0白		
1443	99A	SK212	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	6.4	5.9	3.6	灰胎	灰胎、黄胎、目取ハナズ子腹	2YR6/3黄赤	
1444	99A	SK203	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	6.9	3.6	灰胎	灰胎、黄胎、目取目取赤黄胎、目取ハ ナズ子腹	7.5YR3/0白		
1445	99A	SK204	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	5.1	3.8	灰胎	灰胎、黄胎、目取ハナズ子腹	2YR6/3黄赤		
1446	99A	SK212	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	6.7	4.4	灰胎	灰胎、黄胎	2.5YR3/0白		
1447	99A	SK301	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	7.2	4.4	灰胎	灰胎、黄胎、目取ハナズ子腹	7.5YR3/0白		
1448	99A	SK204	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	7.3	4.2	灰胎	灰胎、黄胎、目取ハナズ子腹	9YR6/3黄赤		
1449	99A	SK203	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	7.0	3.4	灰胎	磁胎、目取ハナズ子腹	9YR6/3黄赤		
1450	99A	SK212	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	6.8	5.7	灰胎	灰胎、黄胎	SK005白		
1451	99A	SK212	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	6.4	6.2	灰胎	灰胎、黄胎	2YR6/3黄赤		
1452	99A	SK206	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	6.2	6.7	灰胎	灰胎、黄胎	7.5YR3/0白		
1453	99A	SK204	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	6.2	6.2	灰胎	灰胎、黄胎	2YR6/3黄赤		
1454	99A	SK203	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	6.2	6.1	灰胎	灰胎、黄胎	10YR6/3黄赤		
1455	99A	SK210	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	6.2	6.0	灰胎	灰胎、黄胎、目取目取赤黄胎、目取ハ ナズ子腹	5Y7/1灰白		
1456	99A	SK212	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	5.8	3.6	灰胎	灰胎、黄胎	5Y7/1灰白		
1457	99A	SK68	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	6.8	6.8	灰胎	灰胎	2.5Y7/29黄		
1458	99A	SK208	佛湾陶器	瓦器	景徳鎮型素	直径	直径1	6.0	6.0	白灰胎	白灰胎が剥けている。軸も剥け ている	2.5YR6/3黄		
1459	99A	SK301	佛湾陶器	瓦器	白色陶器	直径	直径1	6.6	3.6	灰胎	灰胎(黄色)	2.5YR6/3黄		
1460	99A	SK212	佛湾陶器	瓦器	白色陶器	直径	直径1	6.2	3.6	灰胎	灰胎(黄色)	2.5YR6/3黄		
1461	99A	SK207	佛湾陶器	瓦器	白色陶器	直径	直径1	6.4	6.4	灰胎	白灰胎(黄色)	2.5YR6/3黄		
1462	99A	SK37	佛湾陶器	器種		直径	直径1	6.0	6.0	灰胎	灰胎、黄胎剥落あり	10B47/3黄		
1463	99A	SK272	佛湾陶器	器種		直径	直径1	6.4	6.4	灰胎	灰胎、黄胎剥落あり	SK005白		

発掘番号	調査区	遺構番号	所在地・村名	遺 物	号 数	口径(cm)	底径(cm)	底深(cm)	内 径	外 径	備 考	上 巻	備 考
1334	99B	S301	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大型3段	100	4.7	4.2	長石釉、ゼン焼	長石釉、トナシ焼	3段、1段ヘラケ 文付	7.5YR6/3白	
1335	99B	S301	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大型3段	11.0			長石釉	長石釉、赤山焼	3段、1段ヘラケ 文付	2.5YR2/0	
1336	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	惣型1	8.2	4.6	2.6	長石釉	長石釉、赤山焼	1段ヘラケ 文付	7.5YR6/3白	
1337	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	惣型1	10.0			長石釉	長石釉、赤山焼	1段ヘラケ 文付	10YR6/4黄	
1338	99B	SK10520	瀬戸美濃陶器	丸瓶	惣型1	10.4		4.5	鉄釉	鉄釉、赤山		10YR6/4黄	
1339	99B	S201	瀬戸美濃陶器	丸瓶	惣型1	11.8	94.3		長石釉	長石釉、赤山		7.5YR6/3白	
1340	99B	S202	瀬戸美濃陶器	丸瓶	惣型1	11.0	94.4		長石釉	長石釉、赤山		7.5YR6/3白	
1341	99B	S203	瀬戸美濃陶器	丸瓶	惣型1	10.6	94.0		長石釉	長石釉、赤山		7.5YR6/3白	
1342	99B	S202	瀬戸美濃陶器	丸瓶	惣型1	10.8	7.1	4.8	長石釉	長石釉、赤山		7.5YR6/3白	
1343	99B	善地壱	瀬戸美濃陶器	瀬戸煎茶瓶	大型4	92.4			鉄釉(付出葉)	鉄釉、付出葉、1段ヘラケ 文付	8A00/0		
1344	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	丸瓶	惣型1	92.5	5.6	鉄釉	鉄釉、付出葉	1段ヘラケ 文付	2.5YR2/0		
1345	99B	T	瀬戸美濃陶器	煎茶瓶	古瀬戸丸瓶	93.0	5.3	鉄釉	鉄釉、付出葉	1段ヘラケ 文付	2.5YR2/0		
1346	99B	SK105X02	瀬戸美濃陶器	志野茶瓶	大型4段	11.8	7.2	2.6	長石釉	長石釉、赤山、1段ヘラケ 文付	7.5YR6/3白		
1347	99B	善地壱	瀬戸美濃陶器	小次郎茶瓶	大型3段	7.0	93.0		鉄釉	鉄釉、赤山		7.5YR6/3白	
1348	99B	S207	瀬戸美濃陶器	小瓶	大型3段	8.0	92.7		鉄釉	鉄釉		7.5YR6/3白	
1349	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	小(丸)瓶	大型3段	8.2	3.6	2.8	鉄釉	鉄釉、赤山		2.5YR2/0	
1350	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	小丸瓶	大型4	91.8	3.0	鉄釉	鉄釉、赤山	1段ヘラケ 文付	7.5YR6/3白		
1351	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	小瓶	惣型1	7.2	4.1	3.1	5.1	5.1	鉄釉	鉄釉、赤山	1段ヘラケ 文付
1352	99B	S301	瀬戸美濃陶器	小次郎茶瓶	大型4	97.6	92.3		鉄釉(赤山焼)	鉄釉(赤山焼)		7.5YR6/3白	
1353	99B	T	瀬戸美濃陶器	志野小瓶	大型4段	7.2	2.5	3.4	長石釉	長石釉、トナシ焼	1段ヘラケ 文付	7.5YR6/3白	
1354	99B	S205	瀬戸美濃陶器	志野小瓶	大型4段	8.0	4.9	4.2	長石釉	長石釉		7.5YR6/3白	
1355	99B	善地壱	瀬戸美濃陶器	志野小瓶	大型4段	10.0	4.7	2.8	長石釉	長石釉、赤山焼	赤山	7.5YR6/3白	
1356	99B	SK195	瀬戸美濃陶器	小瓶	大型4	8.8	93.2		鉄釉	鉄釉		10YR6/2黄	
1357	99B	SK203	瀬戸美濃陶器	丸瓶	惣型1	92.1		2.1	長石釉	長石釉、赤山		2.5YR2/0	
1358	99B	SK1134610	瀬戸美濃陶器	小瓶	惣型1	8.2	92.6		長石釉	長石釉、赤山		10YR6/2黄	
1359	99B	SK194	瀬戸美濃陶器	小瓶	大型4段	7.0	3.4	2.2	鉄釉	鉄釉、赤山		7.5YR6/3白	
1360	99B	SK201	瀬戸美濃陶器	小瓶	大型4	7.6	2.9	2.4	鉄釉	鉄釉、赤山		7.5YR6/3白	
1361	99B	SK297	瀬戸美濃陶器	小瓶	大型1	92.1	5.4		鉄釉	鉄釉、赤山		7.5YR6/3白	
1362	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	丸瓶	古瀬戸丸瓶	11.3	2.1	2.1	鉄釉	鉄釉、赤山		7.5YR6/3白	
1363	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	餅(口14段)	大型1	12.2	91.7		鉄釉	鉄釉、赤山		7.5YR6/3白	
1364	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	煎茶瓶	大型1	10.6	2.2	2.1	鉄釉	鉄釉、赤山		7.5YR6/3白	
1365	99B	SK194	瀬戸美濃陶器	煎茶瓶	古瀬戸丸瓶		5.4		鉄釉	鉄釉、赤山		7.5YR6/3白	
1366	99B	S301	瀬戸美濃陶器	煎茶瓶(丸)	大型3段	10.3	2.5	2.8	鉄釉	鉄釉、トナシ		7.5YR6/3白	
1367	99B	SK106	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	10.8	2.1	8.0	鉄釉	鉄釉、トナシ		7.5YR6/3白	
1368	99B	善地壱	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	10.5	2.7	10.0	鉄釉	鉄釉、トナシ		7.5YR6/3白	
1369	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	9.6	1.8	2.8	鉄釉	鉄釉、ゼン		2.5YR2/0	
1370	99B	S202	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	8.5	1.7	4.8	鉄釉	鉄釉、ゼン		2.5YR2/0	
1371	99B	T	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	10.1	2.1	6.4	鉄釉	鉄釉、トナシ		7.5YR6/3白	
1372	99B	S202	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	8.6	2.0	2.8	鉄釉	鉄釉、ゼン		7.5YR6/3白	10YR6/3
1373	99B	善地壱	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	8.3	1.7	2.8	鉄釉	鉄釉、高台	高台、1段ヘラケ 文付	7.5YR6/3白	
1374	99B	善地壱	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	10.2	2.2	2.6	鉄釉	鉄釉、トナシ		7.5YR6/3白	
1375	99B	S301	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型4段	9.4	1.9	2.8	鉄釉	鉄釉、トナシ		7.5YR6/3白	
1376	99B	善地壱	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	8.0	1.9	2.0	鉄釉	鉄釉、トナシ		7.5YR6/3白	
1377	99B	S202	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型4段	9.2	1.7	2.4	鉄釉	鉄釉、ゼン		7.5YR6/3白	
1378	99B	S202	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	8.8	1.9	2.5	鉄釉	鉄釉、ゼン		7.5YR6/3白	
1379	99B	北野	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3	10.3	2.4	4.8	鉄釉	鉄釉、トナシ		7.5YR6/3白	
1380	99B	善地壱	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型4段	8.8	1.5	4.6	鉄釉	鉄釉、ゼン		7.5YR6/3白	
1381	99B	善地壱	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	7.5	2.8	4.5	鉄釉	鉄釉、トナシ		2.5YR2/0	
1382	99B	善地壱	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	6.4	1.5	3.6	鉄釉	鉄釉、高台	高台、赤山	2.5YR2/0	
1383	99B	S301	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	10.5	2.3	2.8	鉄釉	鉄釉、トナシ		10YR6/3黄	
1384	99B	善地壱	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3	9.6	2.5	2.8	鉄釉	鉄釉、トナシ		7.5YR6/3白	
1385	99B	S202	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型4	11.3	2.5	2.8	鉄釉	鉄釉(透明釉に近い)、 ゼン		7.5YR6/3白	
1386	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	10.5	2.2	2.8	鉄釉	鉄釉、トナシ		7.5YR6/3白	
1387	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型4段	8.6	1.8	2.6	鉄釉	鉄釉(志野野)		2.5YR2/0	
1388	99B	S301	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	9.9	1.8	2.1	鉄釉	鉄釉、トナシ		2.5YR2/0	
1389	99B	北野	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	10.1	1.8	2.8	鉄釉	鉄釉、トナシ		10YR6/3黄	
1390	99B	S201	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	10.1	1.8	2.8	鉄釉	鉄釉、トナシ		7.5YR6/3白	
1391	99B	SK121	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	14.2	1.4	7.8	鉄釉	鉄釉、トナシ		10YR6/3黄	
1392	99B	善地壱	瀬戸美濃陶器	煎茶瓶(丸)	大型4段	10.8	91.9		鉄釉	鉄釉(高台)、スラ付 文付		7.5YR6/3白	
1393	99B	善地壱	瀬戸美濃陶器	煎茶瓶(丸)	大型3段	11.1	2.5	8.0	鉄釉	鉄釉(高台)、スラ付 文付		10YR6/3黄	
1394	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	煎茶瓶(丸)	大型4段	11.4	2.8	2.2	鉄釉	鉄釉(高台)、スラ付 文付		7.5YR6/3白	
1395	99B	善地壱	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型4	11.8	92.7		鉄釉	鉄釉		7.5YR6/3白	
1396	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	丸瓶	大型3段	10.2	2.6	3.7	鉄釉	鉄釉、トナシ		10YR6/2黄	
1397	99B	S302	瀬戸美濃陶器	ひた盤	大型3段	11.3	2.6	2.7	鉄釉	鉄釉、トナシ		7.5YR6/3白	
1398	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	ひた盤	大型3段	10.4	2.7	2.9	鉄釉	鉄釉、トナシ		7.5YR6/3白	
1399	99B	餅7	瀬戸美濃陶器	ひた盤	大型3段	10.6	2.5	2.9	鉄釉	鉄釉、トナシ		2.5YR2/0	
1400	99B	S202	瀬戸美濃陶器	内丸丸	大型3段	10.4	2.0	2.6	鉄釉	鉄釉、赤山		7.5YR6/3白	

遺物一覧表

国号番号	調査区	遺物番号	所在地・材質	器種	時期	口径(cm)	底径(cm)	底径(cm)	内容	備考	出土	備考
1601	99B	柄?	瀬戸瓦器陶器	内丸九郎	大型3段	9.8	2.3	5.2	灰釉、蓋筋、スリット イテ	灰釉		7.97X19(白)
1602	99B	蓋地物	瀬戸瓦器陶器	内丸九郎	大型3段	10.6	2.1	3.4	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		57X19(白)
1603	99B	柄?	瀬戸瓦器陶器	内丸九郎	大型3段	9.7	1.8	4.5	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		7.57X19(白)
1604	99B	SK02	瀬戸瓦器陶器	内丸九郎	大型3	径10.4	2.5	径6.3	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、付台付?、輪トナリ		7.97X19(白)
1605	99B	SK02	瀬戸瓦器陶器	内丸九郎	大型3段	径6.4	2.0	径7.6	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		2.97X29(白)
1606	99B	蓋地	瀬戸瓦器陶器	内丸九郎	大型3段	径9.8	2.3	径5.7	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		2.97X29(白)
1607	99B	SK02	瀬戸瓦器陶器	内丸九郎	大型3段	径10.8	2.0	径6.2	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		2.97X29(白)
1608	99B	SD07	瀬戸瓦器陶器?	内丸九郎?	?	径1.5		径6.2	灰釉?、内丸?	灰釉、蓋筋		
1609	99B	SK02	瀬戸瓦器陶器	輪式蓋	大型4	径14.8	3.1	径8.8	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		No.74~
1610	99B	蓋地	瀬戸瓦器陶器	折縁蓋	大型3段	径10.0	2.1	径5.6	灰釉	灰釉、蓋筋、輪トナリ		7.97X19(白) 27X19(灰)
1611	99B	SK01	瀬戸瓦器陶器	折縁蓋	大型3段	9.8	2.3	6.2	灰釉	灰釉、輪トナリ		7.97X19(白)
1612	99B	西岸	瀬戸瓦器陶器	折縁蓋	大型3段	10.4	2.8	6.0	灰釉	灰釉、輪トナリ		2.97X29(白)
1613	99B	SK194	瀬戸瓦器陶器	折縁内丸蓋	大型3段	径10.0	2.3	径4.8	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、高台縁付、輪トナリ		2.97X19(白)
1614	99B	SK02	瀬戸瓦器陶器	折縁蓋	大型3段	径11.2	2.8	径5.9	灰釉、印花	灰釉、輪トナリ		57X19
1615	99B	SK02	瀬戸瓦器陶器	折縁内丸蓋	大型4段	10.6	2.3	6.0	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		7.97X19(白)
1616	99B	SK02	瀬戸瓦器陶器	内丸折縁蓋	大型3段	径8.7	2.2	径4.9	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、高台縁付、輪トナリ		7.97X19(白)
1617	99B	柄?	瀬戸瓦器陶器	内丸折縁蓋	大型4段	径9.8	2.1	径6.0	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		NT09(白)
1618	99B	SK01	瀬戸瓦器陶器	折縁蓋	大型3段	10.5	2.3	6.0	灰釉、印花あり	灰釉、輪トナリ		7.97X19(白)
1619	99B	蓋地物	瀬戸瓦器陶器	折縁内丸蓋	大型3段	10.0	1.8	6.0	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		2.97X29(白)
1620	99B	蓋地物	瀬戸瓦器陶器	折縁内丸蓋	大型4段	径10.6	2.3	径5.8	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		2.97X19(灰)
1621	99B	蓋地	瀬戸瓦器陶器	折縁内丸蓋	大型4段	9.7	1.7	4.7	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		7.97X19(白)
1622	99B	柄?	瀬戸瓦器陶器	折縁蓋	大型3段	11.0	2.4	5.8	灰釉、印花	灰釉、輪トナリ		2.97X29(灰)
1623	99B	SD06	瀬戸瓦器陶器	折縁内丸蓋	大型4段	径10.9	1.8	径6.3	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		2.97X29(白)
1624	99B	蓋地	瀬戸瓦器陶器	折縁内丸蓋	大型4段	9.7	1.5	5.0	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		107X29(白)
1625	99B	柄?	瀬戸瓦器陶器	内丸蓋	大型4			7.4	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ?		2.97X29(白)
1626	99B	SD20	瀬戸瓦器陶器	蓋	大型3段	10.8	2.3	5.4	灰釉	灰釉、輪トナリ		86X19
1627	99B	SD20	瀬戸瓦器陶器	蓋	大型3段	10.9 11.3	2.4 2.6	5.7	灰釉	灰釉、輪トナリ、不貞目(破 損)灰釉が中心		NT09(白)
1628	99B	SK289	瀬戸瓦器陶器	丸蓋	大型3段	10.1	2.2	5.2	鉄釉	鉄釉、輪トナリ		7.97X19(白)
1629	99B	SK106	瀬戸瓦器陶器	丸蓋	大型3段	径9.8	1.9	径5.6	灰釉	灰釉、輪トナリ		2.97X19(白)
1630	99B	SK184	瀬戸瓦器陶器	丸蓋	大型3段	径10.6	2.2	径6.0	灰釉、印花等が観察す る	灰釉、輪トナリ		2.97X29(白)
1631	99B	SK291	瀬戸瓦器陶器	丸蓋	大型3段	径10.7	2.3	径5.8	灰釉、蓋縁あり	灰釉、輪トナリ		NT11(明色)
1632	99B	SK271	瀬戸瓦器陶器	丸蓋	大型3段	9.3	1.9 2.3	5.3	灰釉	灰釉、ヘラズリ、蓋筋(輪山3 とり)、スリイテ、土片蓋?		2.97X19(灰)
1633	99B	SK102	瀬戸瓦器陶器	丸蓋	大型4段	9.4	1.9 2.0	3.4	灰釉	灰釉、取り出し前付、輪トナリ		2.97X19(白)
1634	99B	SK141	瀬戸瓦器陶器	丸蓋	大型4段	9.4	2.1	4.9	灰釉	灰釉、輪トナリ		NT11(白)
1635	99B	SK104	瀬戸瓦器陶器	丸蓋	大型4段	9.6	1.8 1.9	5.7	灰釉	灰釉、トナリ付?		57X19 2.97X29(灰)
1636	99B	SK293	瀬戸瓦器陶器	丸蓋2段	大型3段	10.8	2.5	6.1	鉄釉、輪トナリ	鉄釉、蓋筋、輪トナリ		7.97X19(白)
1637	99B	SK285	瀬戸瓦器陶器	丸蓋	大型3段	径9.8	2.5	6.0	鉄釉、トナリ付?	鉄釉、輪トナリ		2.97X19(白)
1638	99B	SK168	瀬戸瓦器陶器	丸蓋	大型3	10.4	2.6 2.7	5.3	鉄釉、トナリ付?	鉄釉、蓋筋、ヘラズリ		2.97X19(灰)
1639	99B	SK184	瀬戸瓦器陶器	内丸丸蓋	大型3段	径10.0	2.4	径6.2	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		770X19(白) 2719(白)
1640	99B	SK191	瀬戸瓦器陶器	内丸丸蓋	大型3段	径9.4	1.8	径5.2	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		2.97X19(白)
1641	99B	SK175-278	瀬戸瓦器陶器	内丸丸蓋	大型3段	径9.6	2.4	径6.0	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		2.97X19(灰)
1642	99B	SK184	瀬戸瓦器陶器	内丸丸蓋	大型3段	径10.0	2.2	径5.6	灰釉	灰釉、蓋筋、印花		2.97X29(白)
1643	99B	SK146	瀬戸瓦器陶器	輪式蓋	大型4段			径6.8	灰釉、印花、輪トナリ 筋、蓋筋(輪山3とり)	灰釉、ヘラズリ、輪トナリ		7.97X19(白)
1644	99B	SK175	瀬戸瓦器陶器	瓦牛蓋	大型3段	径11.0	2.6	径6.4	灰釉、印花	灰釉		7.97X19(白)
1645	99B	SK127-148-156	瀬戸瓦器陶器	内丸丸蓋	大型3段	10.3	2.2	6.0	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		7.97X19(白)
1646	99B	SK191	瀬戸瓦器陶器	内丸丸蓋	大型3段	10.1	2.2	5.8	灰釉、ナール付、蓋 筋	灰釉、輪トナリ		2.97X19(灰)
1647	99B	SK194	瀬戸瓦器陶器	内丸丸蓋	大型3段	径9.6	2.3	6.0	灰釉、蓋筋	灰釉、うす灰釉、輪トナリ		2.97X29(白)
1648	99B	SK191	瀬戸瓦器陶器	瓦牛蓋	大型3段	径10.8	2.7	径5.6	灰釉	灰釉、輪トナリ		7.97X19(明色)
1649	99B	SK280	瀬戸瓦器陶器	折縁内丸蓋	大型4段	10.3	1.9	5.8	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、ヘラズリ、輪トナリ		7.97X19(白)
1650	99B	SK21-289	瀬戸瓦器陶器	折縁内丸蓋	大型4段	径10.2	2.7	径5.8	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		7.97X19(白)
1651	99B	SK175-276	瀬戸瓦器陶器	折縁内丸蓋	大型4段	径10.4	2.4	径5.5	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、輪トナリ		57X19
1652	99B	SK275	瀬戸瓦器陶器	折縁内丸蓋	大型4段	10.8	2.1	6.0	灰釉、蓋筋(輪山3と り)	灰釉、蓋筋、ヘラズリ、輪トナ リ		2.97X29(白)
1653	99B	SK249	瀬戸瓦器陶器	折縁内丸蓋	大型4段	径10.8	2.0	6.3	灰釉、ソサあり、蓋筋 (輪山3とり)	灰釉、ヘラズリ、輪トナリ		2.97X19(白)
1654	99B	SK274	瀬戸瓦器陶器	折縁内丸蓋	大型4段	径10.9	1.9	径6.0	灰釉、ソサあり、蓋筋 (輪山3とり)	灰釉、ヘラズリ、輪トナリ		7.97X19(白)
1655	99B	SK105	瀬戸瓦器陶器	折縁内丸蓋	大型4段	11.2	2.2 2.3	5.9	灰釉	灰釉、ソサあり、蓋筋 (輪山3とり)		2.97X29(白)

国名番号	遺物番号	遺物番号	所在地	遺物	時期	口径(mm)	底径(mm)	高さ(mm)	内容	備考	出土	備考	
1656	99B	SK260	瀬戸美濃陶器	前内内式平蓋	大型4組	107	2.4	5.4	灰釉、蓋面(粘土より)に土が付着、輪子に土着	灰釉、輪子に土着	59A16区		
1657	99B	SK106	瀬戸美濃陶器	前内内式平蓋	大型4組	106	1.7	5.5	灰釉、すずみり、蓋面(粘土より)	灰釉、蓋面、ヘラツクリ、輪子に土着	7.99B3区白		
1658	99B	SK244	瀬戸美濃陶器	前内式	大型4組	9.8	2.1	5.1	灰釉	灰釉、ヘラツクリ、蓋面	7.99B3区白		
1659	99B	SK291	瀬戸美濃陶器	前内式	大型4組	10.4	2.6	5.5	灰釉	灰釉、輪子に土着	7.99B3区白		
1660	99B	SK100-195	瀬戸美濃陶器	前内式?	大型4組	11.4	2.7	6.0	蓋面(磨粒1.5倍程度、粘土着)	蓋面(磨粒1.5倍程度粘土着のみ)に土着	NA095		
1661	99B	SD20	瀬戸美濃陶器	前内式	大型?	10.3	2.7	5.3	蓋面、同心円模様(凸線)1.5倍	全周にサークル付着、蓋面(1.5倍程度)に土着、蓋面(1.5倍程度)	ST095白		
1662	99B	併?	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	10.6		4.6	蓋面、同心円模様(凸線)1.7倍(1.5倍程度)	蓋面、同心円模様	109A3区黄緑		
1663	99B	T	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	10.0	2.1	2.2	5.0	蓋面、同心円模様(凸線)1.8倍	1.5倍-2.5倍にサークル付着、蓋面模様、同心円模様	2.99B6区黄	
1664	99B	併?	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	10.6	2.0	2.1	4.6	蓋面模様、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面模様、土が付着、同心円模様	109A3区	
1665	99B	併?	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	10.0	1.9	2.1	5.0	蓋面、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面、同心円模様	2.99B3区白	
1666	99B	兼装	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	10.2	2.3	2.4	5.6	蓋面模様、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面模様、同心円模様	2.99B2区黄	
1667	99B	SD30	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	11.4	2.8	3.0	5.2	蓋面、サークル付着、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面、同心円模様	ST095白	
1668	99B	SD22	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	10.4	2.2	5.0	蓋面模様、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面模様、同心円模様	2.99B7区黄		
1669	99B	SK02	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	10.0	2.5	5.2	蓋面模様、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面模様、同心円模様	7.99B3区黄		
1670	99B	SD01	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	10.0	2.5	5.2	蓋面模様、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面模様、1.5倍-2.5倍にサークル付着、同心円模様	ST095白		
1671	99B	西内	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	10.0	2.5	5.2	蓋面模様、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面模様、同心円模様	NA095白		
1672	99B	SD03	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	9.4	2.4	3.8	蓋面模様、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面模様、蓋面にサークル付着、同心円模様	89A5区黄		
1673	99B	併?	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	10.2	2.1	5.0	蓋面模様、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面模様、蓋面にサークル付着、同心円模様	7.99B2区白		
1674	99B	SK02	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	11.0	2.1	5.0	蓋面、もやみ状模様(凸線)1.8倍	蓋面、一部土が付着、同心円模様	109A3区黄		
1675	99B	T	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	10.0	2.1	5.3	蓋面模様、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面模様、同心円模様	109A4区白		
1676	99B	併?	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	10.0	1.9	5.4	蓋面模様、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面模様、土が付着、同心円模様	109A4区黄		
1677	99B	兼装	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	10.5	2.4	2.5	4.6	蓋面模様、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面模様、同心円模様	NA095	
1678	99B	併?	瀬戸美濃陶器	前内式?	大型4組	9.8	2.2	2.3	4.6	蓋面、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面、同心円模様	59A3区黄	
1679	99B	SD30	瀬戸美濃陶器	前内式?	大型4組	5.0	2.1	4.6	サークル付着、蓋面、同心円模様(凸線)1.8倍	サークル付着、蓋面、同心円模様	7.99B3区白		
1680	99B	SK02	瀬戸美濃陶器	前内式?	大型4組	10.8	2.6	3.4	4.8	蓋面、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面、同心円模様	109A4区黄	
1681	99B	SK02	瀬戸美濃陶器	前内式?	大型4組	12.0	3.4	5.2	蓋面、サークル付着、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面、同心円模様	7.99B3区白		
1682	99B	併	瀬戸美濃陶器	前内式?	大型4組	10.6	1.0	2.6	5.6	蓋面、同心円模様(凸線)1.8倍	蓋面、蓋土が付着、同心円模様	59A1区白	
1683	99B	SK194	瀬戸美濃陶器	前内式?	?	9.7	2.2	2.4	3.2	蓋面(磨粒)	蓋面(磨粒)、表面に白色粘土が付着する、同心円模様	NA095	
1684	99B	SK20	瀬戸美濃陶器	前内式?	大型?	9.0	1.7	3.5	蓋面、磨粒は不明	蓋面、同心円模様	2.99A6区黄		
1685	99B	併?	瀬戸美濃陶器	前内式?	大型4	10.4	2.0	4.0	蓋面	蓋面、同心円模様	109A4区黄		
1686	99B	SK275	瀬戸美濃陶器	前内式?	大型?	9.5	2.5	4.8	蓋面(磨粒)、サークル付着	蓋面(磨粒)、サークル付着、同心円模様	89G6区黄		
1687	99B	SK148	瀬戸美濃陶器	前内式?	大型?	9.9	2.2	4.6	蓋面模様	蓋面模様、同心円模様	7.99B3区白		
1688	99B	SK194-195	瀬戸美濃陶器	前内式?	大型?	10.3	2.4	5.0	蓋面(磨粒)	蓋面(磨粒)、蓋面に一部付着している	7.99B6区黄		
1689	99B	SK194	瀬戸美濃陶器	前内式?	大型?	9.0	2.5	5.0	蓋面(磨粒)	蓋面(磨粒)、同心円模様	2.99B6区黄		
1690	99B	SK02	瀬戸美濃陶器	前内式?	大型?	10.6	2.1	5.4	蓋面	蓋面、同心円模様	2.99B3区白		
1691	99B	SD20	瀬戸美濃陶器	志野九郎	志野1.5倍(1.5倍程度)	12.0	2.6	7.1	長石釉(灰野野)	長石釉、トンチン2+	NA095白		
1692	99B	SK02	瀬戸美濃陶器	志野九郎	大型4組	11.2	2.2	6.8	長石釉	長石釉、トンチン2+ (5.5倍)はトンチン釉、同心円模様	109B3区白		
1693	99B	SK02	瀬戸美濃陶器	志野九郎	大型4組	10.5	2.4	2.6	5.8	長石釉	長石釉、トンチン2+、蓋面	7.99B3区白	
1694	99B	SK02	瀬戸美濃陶器	志野九郎	大型4組	11.7	2.2	2.3	7.0	長石釉、トンチン2+	長石釉、サークル(土)付着、蓋面、蓋面(ヘラツクリ)、トンチン2+	7.99B3区白	
1695	99B	兼装	瀬戸美濃陶器	志野九郎	大型4組	11.4	2.2	6.6	長石釉、トンチン2+	長石釉、輪子に土着、同心円模様	7.99B3区白		
1696	99B	SK02	瀬戸美濃陶器	志野九郎	大型4組	11.8	2.4	6.6	長石釉、トンチン2+	長石釉、蓋面、蓋面(ヘラツクリ)、トンチン2+	7.99B3区白		
1697	99B	T	瀬戸美濃陶器	志野九郎	大型4組	12.6	2.6	5.0	長石釉、トンチン2+	長石釉、トンチン2+	7.99B3区白		
1698	99B	併?	瀬戸美濃陶器	志野九郎	大型4組	10.4	2.5	5.0	長石釉	長石釉、同心円模様	7.99B3区白		
1699	99B	SD20	瀬戸美濃陶器	志野九郎	大型4組	10.5	1.9	6.0	長石釉、トンチン2+	長石釉、トンチン2+、同心円模様	7.99B3区白		
1700	99B	SD20	瀬戸美濃陶器	志野九郎	大型4組	11.7	2.2	6.5	長石釉、トンチン2+	長石釉、輪子に土着、同心円模様	ST095白		
1701	99B	SK01	瀬戸美濃陶器	志野九郎	大型4組	9.2	1.8	6.2	長石釉	長石釉、トンチン2+、同心円模様	7.99B3区白		
1702	99B	SK02	瀬戸美濃陶器	志野九郎	大型4組	10.6	1.8	5.0	長石釉、トンチン2+	長石釉、蓋面、蓋面(ヘラツクリ)、トンチン2+	2.99B3区白		
1703	99B	SK01	瀬戸美濃陶器	志野九郎	大型4組	12.0	2.5	5.7	長石釉	長石釉、トンチン2+	7.99B3区白		
1704	99B	SK105SK02	瀬戸美濃陶器	志野九郎	大型4組	8.8	1.7	5.4	サークル(土)付着、長石釉、トンチン2+	サークル(土)付着、長石釉、トンチン2+、蓋面、蓋面(ヘラツクリ)	7.99B3区白		
1705	99B	SD13	瀬戸美濃陶器	志野九郎	大型4組	12.0	2.9	6.8	長石釉	長石釉、トンチン2+、蓋面、同心円模様	109A2区白		

遺物一覧表

国名番号	調査区	遺物番号	産地・材質	器種	時期	口径(mm)	底径(mm)	底径(mm)	内容	備考	出土	備考	
1706	990	S201	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	底11.8	2.4	底7.0	長石釉	長石釉、トナシ瓶口、蓋部、副杯、ハナズクリ付	7.5YR6/3白		
1707	990	S202	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	10.8	2.1	6.6	長石釉	長石釉、トナシ瓶口、蓋部、副杯、ハナズクリ付	7.5YR6/3白		
1708	990	SK163SX02	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	10.6	2.2	6.4	長石釉、ビシ瓶口	長石釉、トナシ瓶口、副杯、ハナズクリ付	7YR6/3白	700000010017-7(表)に同様のものあり	
1709	990	東KT	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	変型1心2	底11.8	2.0	6.8	長石釉、ビシ瓶口	長石釉、副杯、ハナズクリ付	7.5YR6/3白		
1710	990	東T	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	変型1	12.0	2.6	7.0	長石釉	長石釉、蓋部、副杯、ハナズクリ付	8A05/0		
1711	990	豊地壺	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	変型1心2	11.0	1.9	6.4	長石釉、ケールのしめ込み付	長石釉、トナシ瓶口	7.5YR6/3G	5Y4/3K	
1712	990	SX02	瀬戸美濃陶器	志野壺	大形4段	底11.5	2.4	底6.6	長石釉	長石釉、トナシ瓶口、副杯、ハナズクリ付	2.5YR6/2白		
1713	990	東T	瀬戸美濃陶器	志野壺	大形4段	底11.8	2.3	7.2	長石釉	長石釉、トナシ瓶口、蓋部、副杯、ハナズクリ付	2.5YR6/2白		
1714	990	SK174	瀬戸美濃陶器	志野壺	大形4段	底12.4	2.6	底7.5	長石釉	長石釉、トナシ瓶口、高台蓋部、ハナズクリ付	7.5YR6/3白		
1715	990	SK180	瀬戸美濃陶器	志野壺	大形4段	12.0	2.3	6.8	長石釉、ビシ瓶口	長石釉、トナシ瓶口、高台蓋部、ハナズクリ付	7.5YR6/3白		
1716	990	東T	瀬戸美濃陶器	志野壺	3段(1心2)	底11.2	2.0	底6.0	長石釉、ビシ瓶口	長石釉、トナシ瓶口、ハナズクリ付	2.5YR6/2白		
1717	990	東T	瀬戸美濃陶器	志野壺	大形4段	底11.6	2.8	底6.2	長石釉	長石釉、蓋部、ハナズクリ付の古杯残部、トナシ瓶口	2.5YR6/2白		
1718	990	SK1082GXS01	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	底11.6	2.8	底6.2	長石釉、ビシ瓶口	長石釉、高台蓋部、トナシ瓶口2ヶ、蓋部、トナシ瓶口	7.5YR6/3G	7.5YR6/3白	
1719	990	SK276	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	12.4	2.8	6.8	長石釉	長石釉、蓋部が入っている、ハナズクリ付	7.5YR6/3白		
1720	990	SK291	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	11.2	1.9	6.6	長石釉、ビシ瓶口	長石釉、トナシ瓶口、蓋部、ハナズクリ付	2.5YR6/2白		
1721	990	SK191	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	変型1	底11.4	2.4	底7.0	長石釉	長石釉、ハナズクリ付	5YR6/3白		
1722	990	SK100	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	底12.6	2.5	底7.2	長石釉、1線帯蓋部、ハナズクリ付	長石釉、トナシ瓶口、ハナズクリ付	8YR6/2		
1723	990	SK180	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	11.6	2.4	6.6	長石釉、ビシ瓶口	(1線部一部欠、スリ付、長石釉、トナシ瓶口2ヶ、ハナズクリ付)	5YR6/2白		
1724	990	SK231.080	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	10.8	2.2	7.4	長石釉、ビシ瓶口	長石釉、蓋部、高台内一室蓋部、ハナズクリ付	7.5YR6/2白		
1725	990	SK104	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	底11.4	2.1	底6.6	長石釉、ビシ瓶口	長石釉、トナシ瓶口、蓋部、副杯、必受部のみハナズクリ付	2.9YR6/3白		
1726	990	SK291.079	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	底12.8	2.8	底7.2	長石釉	長石釉、ハナズクリ付	7.5YR6/2白		
1727	990	SK184	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	変型1	底12.2	3.0	底7.2	長石釉、ビシ瓶口、長石釉蓋部	長石釉、蓋部、ハナズクリ付	7.5YR6/3白		
1728	990	SK176	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	底12.0	2.8	底7.6	長石釉、ビシ瓶口	長石釉、輪トナシ瓶口	7.5YR6/3白		
1729	990	S200	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	底11.6	2.8	7.0	長石釉、ビシ瓶口	長石釉、蓋部、副杯、ハナズクリ付、トナシ瓶口	7.5YR6/3白		
1730	990	S202	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	11.8	3.2	6.0	長石釉、ビシ瓶口	長石釉、高台蓋部、トナシ瓶口2ヶ	2.5YR6/2白		
1731	990	SX02	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	12.0	2.4	6.0	長石釉、ビシ瓶口	長石釉、トナシ瓶口2ヶ、蓋部、副杯、必受部	7.5YR6/2G		
1732	990	東	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	大形4段	12.8			長石釉	長石釉	2.5YR6/2白		
1733	990	S017	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	変型1	底11.2	2.7	底6.6	長石釉	長石釉、トナシ瓶口1ヶ、蓋部、副杯、ハナズクリ付	7.5YR6/3白		
1734	990	西P	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	変型1	底11.8	2.5	底7.0	長石釉、ビシ瓶口	長石釉、トナシ瓶口1ヶ、副杯、ハナズクリ付	8A05/0		
1735	990	SX02	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	変型1	底11.8	2.8	底7.1	長石釉、ビシ瓶口	長石釉、トナシ瓶口2ヶ、副杯、ハナズクリ付	7.5YR6/3白		
1736	990	S200	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	変型1	底12.0	2.4	底7.0	長石釉	長石釉、副杯、ハナズクリ付	7.5YR6/3白		
1737	990	S200	瀬戸美濃陶器	志野丸瓶	変型2心3小間	底12.2	3.0	7.0	長石釉、輪トナシ瓶口	蓋部、副杯、ハナズクリ付	5YR6/3G	2.5YR6/2白	
1738	990	T	瀬戸美濃陶器	蓋部/内付	大形4	11.2	3.5	6.0	灰釉、緑釉、黒釉、赤釉	灰釉、トナシ瓶口1ヶ、副杯、ハナズクリ付	7.5YR6/2G		
1739	990	SX02	瀬戸美濃陶器	蓋部/内付	大形4	9.8	2.8	2.9	3.8	灰釉、白花(緑釉の彫刻あり)	灰釉、副杯、ハナズクリ付、トナシ瓶口1ヶ	7.5YR6/3白	
1740	990	S201	瀬戸美濃陶器	内付	大形3心4	底7.9		底5.9	灰釉	灰釉(黄釉成入蓋部、副杯、必受部)	7.5YR6/3白		
1741	990	SK194	瀬戸美濃陶器	蓋部/内付	大形4	6.4	6.4	7.2	灰釉	灰釉、白花、黒釉と緑釉の内蓋部	8YR6/2G		
1742	990	SX01	瀬戸美濃陶器	蓋部/内付	大形4	6.3	6.3	6.6	灰釉	灰釉	2.5YR6/2白		
1743	990	SX02	瀬戸美濃陶器	内付	大形4	10.8	5.4	8.7	灰釉	灰釉、蓋部、ナシ、副杯、ハナズクリ付	8YR6/3黄青		
1744	990	S201	瀬戸美濃陶器	志野内付	大形4段	底8.4		底5.7	長石釉	長石釉、蓋部、長石釉、トナシ瓶口2ヶ	7.5YR6/3白		
1745	990	東	瀬戸美濃陶器	志野内付	変型1	7.8	2.7	4.4	長石釉	長石釉、蓋部、副杯、ハナズクリ付	7.5YR6/3白		
1746	990	SK112	瀬戸美濃陶器	内付	大形4段	7.6	6.8	6.0	長石釉	長石釉、蓋部、赤釉、黒釉、輪トナシ瓶口、副杯、必受部	2.5YR6/2G		
1747	990	S201SX03	瀬戸美濃陶器	内付	大形4段	17.0	5.0	15.0	長石釉、輪トナシ瓶口	長石釉、副杯、ハナズクリ付、蓋部、赤釉、黒釉、輪トナシ瓶口	8YR6/3黄青		
1748	990	SK180	瀬戸美濃陶器	内付	大形4	底6.0	3.8		灰釉	灰釉	2.5YR6/2白		
1749	990	SK279	瀬戸美濃陶器	内付	大形3	底9.7			赤釉	赤釉	2.5YR6/2白		
1750	990	SK192	瀬戸美濃陶器	赤釉	大形3心4	底1.0	4.2	4.2	赤釉	赤釉、副杯、ハナズクリ付	2.5YR6/2G		
1751	990	SK192	瀬戸美濃陶器	赤釉	大形3心4	底6.0	4.2	4.2	灰釉	灰釉、替えあり	2.5YR6/2G	8YR6/3黄青	
1752	990	SX01	瀬戸美濃陶器	蓋部/内付	大形3心4	底1.8	4.2	4.2	灰釉	灰釉	7.5YR6/3白		
1753	990	東T	瀬戸美濃陶器	志野内付	大形4段	9.6	7.0	8.4	長石釉	長石釉、輪トナシ瓶口	7.5YR6/3白		
1754	990	東T	瀬戸美濃陶器	蓋部/内付	大形4				灰釉	灰釉	2.5YR6/2白		
1755	990	SK173	瀬戸美濃陶器	内付	大形4段	9.6	6.4		灰釉	灰釉	2.5YR6/2G	8YR6/3黄青	
1756	990	SK163SX02	瀬戸美濃陶器	内付	大形4段	10.4	6.4	10.5	長石釉	長石釉	2.5YR6/2G		
1757	990	SK136	瀬戸美濃陶器	内付	大形4段	底11.6	7.1	7.8	長石釉	長石釉、蓋部、ハナズクリ付	7.5YR6/3白		
1758	990	SK100	瀬戸美濃陶器	内付	大形4段	底8.6	2.6	3.0	長石釉	長石釉、蓋部	2.5YR6/2白		
1759	990	SK1082S0	瀬戸美濃陶器	内付	大形4段	底9.8	2.8	底5.8	長石釉	長石釉、蓋部	2.5YR6/2白		
1760	990	SK291	瀬戸美濃陶器	内付	変型1	底11.3	3.4	4.3	長石釉	長石釉、ハナズクリ付	7.5YR6/3白		

発掘年度	調査区	遺構番号	築地・材質	形 態	位 置	11[m]西	最高[m]	底面[m]	内 容	特 徴	出 土 物	備 考
1761	990	SK191	瀬戸瓦葺陶器	付行	壁型1		11.18	4.9	壁67	鉄釘下敷跡、瓦類	瓦類、瓦筋、ヘラタビ	7.9YK19白
1762	990	SK173	瀬戸瓦葺陶器	瓦葺り付録	大器4		10.76	2.5	壁56	瓦葺り付録	2.5YK3赤表	
1763	990	SK194	瀬戸瓦葺陶器	付行	大器4		12.14	1.9	壁64	瓦類、ビン線付ト	瓦類、ヘラタビ	7.9YK19白
1764	990	SK180	瀬戸瓦葺陶器	瓦葺り付行	大器4付		10.18	2.90	瓦石組筋付	瓦石組、輪かた土葺	2.5YK29白	
1765	990	SK112	瀬戸瓦葺陶器	板敷	壁型1			10.1				7.9YK19白
1766	990	SX01	伊織部瓦葺	壁型1					鉄釘	瓦石組筋付(瓦または緑釉焼成し、瓦筋、ヘラタビ)	7.9YK19白	
1767	990	T	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器104		12.76	4.5	壁120	瓦類	瓦類、瓦筋、瓦筋付、陶器(高台、ヘラタビ)	10YK63瓦葺表
1768	990	SX01	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器104		12.66	10.2	鉄釘	鉄釘、ヘラタビ	10YK63瓦葺表	
1769	990	SK103261	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器104		12.92	5.8	壁116	鉄釘、輪かた土葺	10YK63瓦葺表	
1770	990	S200	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器104		12.16	10.9	鉄釘	鉄釘	7.9YK63瓦葺表	
1771	990	BT	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器(埋納)		10.18	10.04	鉄釘	鉄釘、印文あり	鉄釘、瓦筋、ヘラタビ	7.9YK63瓦葺表
1772	990	普地塼	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器104		11.76	10.5	鉄釘	鉄釘	10YK29白	
1773	990	SX01	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器104		12.20	10.40	鉄釘	鉄釘	7.9YK63瓦葺表	
1774	990	普	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器3		12.74	5.4	壁10	瓦筋	瓦筋、瓦筋ヘラタビ	NSM6
1775	990	SK2427NS302	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器104		12.56	5.5	壁114	鉄釘、トタン板	鉄釘、ヘラタビ、トタン板	10YK63瓦葺表
1776	990	SX01	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器4		12.16	10.2	鉄釘	鉄釘	7.9YK29白	
1777	990	普地塼	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器4		12.76	10.3	瓦類	瓦類	10YK63瓦葺表	
1778	990	普地塼	瀬戸瓦葺陶器	大(大器)	大器4		12.68	5.7	壁170	瓦類、瓦筋	瓦類	2.5YK29白
1779	990	SX02	瀬戸瓦葺陶器	瓦葺り大器	大器4				瓦類、瓦筋	瓦類、瓦筋	10YK63瓦葺表	
1780	990	普地塼	瀬戸瓦葺陶器	瓦葺り	大器4付		11.68	10.2	瓦石組	瓦石組、瓦筋、瓦筋付、印文	瓦石組、瓦筋	10YK63瓦葺表
1781	990	T	瀬戸瓦葺陶器	瓦葺り付録	大器4付		11.70	2.5	壁100	瓦石組筋付、ビン線付	瓦石組、瓦筋(輪かた土葺)、瓦筋ヘラタビ	2.5YK29白
1782	990	普?	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器4		10.4		瓦類	瓦類、瓦筋付埋まり	10YK29白	
1783	990	普地塼	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器4				瓦類	瓦類、一部瓦筋、瓦筋ヘラタビ	10YK63瓦葺表	
1784	990	普地塼	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器			10.9	瓦類(緑釉筋付)	瓦類、瓦筋	7.9YK29白	
1785	990	普?	瀬戸瓦葺陶器	壁	大器3		12.8	5.6	19.0	瓦石組筋付	瓦石組、瓦筋、瓦筋ヘラタビ、種別不明(瓦筋付には瓦筋付埋まり+埋まり)	10YK63瓦葺表
1786	990	SK174	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器4		10.5		鉄釘	鉄釘	2.5YK29白	
1787	990	SK174	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器104		10.50		鉄釘	鉄釘、ヘラタビ	7.9YK29白	
1788	990	SK276	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器3		11.9		壁110	瓦筋筋付、ヘラタビ	5YK66表	
1789	990	SK176	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器104		10.2		壁120	鉄釘	鉄釘、高台埋納	2.5YK3赤表
1790	990	SK46	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器4		12.63	5.3	壁118	瓦類(瓦葺り筋付)、トタン板	瓦類(瓦葺り筋付)、一部瓦筋	7.9YK29白
1791	990	普?	瀬戸瓦葺陶器	大器	大器3		12.84	4.3	壁82	瓦筋筋付	瓦筋筋付、ヘラタビ	9YK63瓦葺表
1792	990	SK163	瀬戸瓦葺陶器	付行	大器4		11.8	11.2	壁110	瓦石組筋付	瓦石組、ヘラタビ	2.5YK29白
1793	990	SK67	瀬戸瓦葺陶器	瓦葺り	大器4		11.58	8.5	壁106	瓦石組筋付	瓦石組、トタン板、ヘラタビ	7.9YK29白
1794	990	SX01	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器1			10.6	鉄釘、瓦筋	鉄釘、瓦筋	7.9YK63瓦葺表	
1795	990	S208	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器1		10.4		鉄釘、瓦筋	鉄釘、瓦筋	2.5YK29白	
1796	990	S200	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器3		10.2		鉄釘、瓦筋	鉄釘、瓦筋	2.5YK3赤表	
1797	990	S203	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器3		12.8	11.700-106	10.6	鉄釘、瓦筋(11単位10本、10.5単位10本)	鉄釘、瓦筋(10単位10本)	2.5YK3赤表
1798	990	S203	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器3		12.08	10.8	鉄釘、瓦筋(11単位12本以上)	鉄釘、瓦筋(11単位12本以上)	10YK74C-1(表葺)	
1799	990	SX02	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器3			10.6	鉄釘、瓦筋、スチ付	鉄釘、瓦筋	10YK63瓦葺表	
1800	990	S200	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器3		10.6		鉄釘、瓦筋(11単位12本)	鉄釘	7.9YK19白	
1801	990	S206	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		12.6	10.2	鉄釘、瓦筋	鉄釘、瓦筋	7.9YK19白	
1802	990	普?	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		12.84	10.4	鉄釘、瓦筋	鉄釘、13埋納部	10YK19白	
1803	990	SX02	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		12.76	10.6	鉄釘	鉄釘	7.9YK63瓦葺表	
1804	990	SX02	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		10.3		鉄釘	鉄釘、13埋納部	7.9YK19白	
1805	990	SX02	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		10.2		鉄釘	鉄釘	10YK29白	
1806	990	SX01	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		12.72	10.3	鉄釘	鉄釘	7.9YK19白	
1807	990	S200	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器3		12.96	10.7	鉄釘、瓦筋(11単位14本)	鉄釘	2.5YK29白	
1808	990	普?	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器3		13.16	10.7	鉄釘、瓦筋(11単位10本以上)	鉄釘	2.5YK29白	
1809	990	S206	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器3		12.74	10.4	鉄釘、瓦筋	鉄釘、13埋納部	10YK63瓦葺表	
1810	990	SX01	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器3		13.14	10.6	鉄釘、瓦筋(11単位17本以上)	鉄釘	7.9YK19白	
1811	990	SX02	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		12.72	10.4	鉄釘、瓦筋(11単位11本以上)	鉄釘	7.9YK63瓦葺表	
1812	990	SX02	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		12.96	10.6	鉄釘	鉄釘	7.9YK19白	
1813	990	SK270	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		13.16	12.0	壁96	鉄釘、瓦筋(11単位14本、9.9単位10本)	鉄釘、瓦筋(10単位)	2.5YK29白
1814	990	SK195	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		12.94	10.6	鉄釘、13埋納部	鉄釘	10YK29白	
1815	990	SK67	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		12.80	10.4	鉄釘、瓦筋	鉄釘	7.9YK3赤表	
1816	990	普?	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		12.96	10.6	鉄釘、瓦筋	鉄釘、瓦筋	7.9YK29白	付1
1817	990	SK276	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器1		10.3	10.6	8.8	鉄釘、瓦筋(11単位20本、11単位12本、瓦筋一本)	鉄釘、瓦筋(10単位)	7.9YK19白
1818	990	S200	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		13.38	10.4	鉄釘、瓦筋	鉄釘	5YK74C-1(表葺)	
1819	990	S200	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		13.20	10.2	鉄釘	鉄釘	7.9YK19白	
1820	990	SX01	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		13.1	10.1	鉄釘	鉄釘、13埋納部	7.9YK19白	
1821	990	SX02	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		13.0	10.0	鉄釘、瓦筋	鉄釘	10YK29白	
1822	990	SX02	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器4		13.8	10.8	鉄釘、瓦筋(11単位10本以上)	鉄釘	10YK19白	
1823	990	SK194	瀬戸瓦葺陶器	埋納	大器3		13.00	10.6	鉄釘、瓦筋(11単位10本)	鉄釘	7.9YK19白	

遺物一覧表

図号(船名)	調査区	遺物番号	産地・材質	器種	時期	口径(mm)	底径(mm)	底付(mm)	内径	特徴	備考	出土	備考
1824	99B	SK177	瀬川式陶器	磁器	大型3段	底28.4	底9.9			磁瓶、腹目(1段目9本以上)	磁瓶	2.5YR6/3赤褐色	
1825	99B	SK131	瀬川式陶器	磁器	底29.0	底4.8				磁瓶	磁瓶	7.5YR6/3白	
1826	99B	SK274	瀬川式陶器	磁器	底22.5	底4.8				磁瓶、腹目(1段目3本5分目以内、1段目)	磁瓶	7.5YR6/3白	
1827	99B	SK100SX02	瀬川式陶器	磁器	大型4段	30.6	底9.6			磁瓶、腹目(1段目28.5分目以内)	磁瓶、ヘラタズリ	2.5YR6/3赤褐色 7.5YR6/3白	
1828	99B	SK67.270	瀬川式陶器	磁器	大型4段	底34.0	底6.3			磁瓶、腹目(1段目21.0)	磁瓶	10YR6/4赤褐色	
1829	99B	SZ020	瀬川式陶器	磁器	大型4段	底33.0	底4.6			磁瓶	磁瓶	7.5YR6/3赤褐色	
1830	99B	探7	瀬川式陶器	磁器	大型4段	底34.6	底6.2			磁瓶、腹目(1段目21.0)	磁瓶、片貝入り	10YR6/4赤褐色	
1831	99B	SK49	瀬川式陶器	磁器	底30.0	底9.5				磁瓶、腹目(1段目27.5分目以内、見込み器として作成する)	磁瓶、回転赤切敷	7.5YR6/3白	
1832	99B	BU7502.040	瀬川式陶器	磁器	大型4段	底30.0	15.5	10.2		磁瓶、腹目(1段目27.5分目以内、6分目程度)	磁瓶、一部黒割(輪ふきとり)、回転赤切敷	10YR6/2赤褐色	
1833	99B	SK177.260500	瀬川式陶器	磁器	底29.0	12.4	12.5			磁瓶、腹目(1段目9本6分目)	磁瓶、回転赤切敷	7.5YR6/3赤褐色	
1834	99B	SK195	瀬川式陶器	磁器	大型4段	底31.0	10.3	10.2 10.5		磁瓶、腹目(1段目23本10分目以上)	磁瓶、黒割、回転赤切敷	7.5YR6/3白	
1835	99B	SK104	瀬川式陶器	磁器	底26.0	底4.1				磁瓶、腹目	磁瓶	5YR7/6黄褐色	片貝
1836	99B	SK179	瀬川式陶器	磁器	底29.2	底3.3				磁瓶	磁瓶	7.5YR6/3白	
1837	99B	SK141	瀬川式陶器	磁器	底21.0	底2.0				磁瓶	磁瓶	10YR6/4赤褐色	
1838	99B	探7	瀬川式陶器	磁器	底32.2	底2.6				磁瓶、腹目(1段目10本以上)	磁瓶	7.5YR6/3白	
1839	99B	SK100.180	瀬川式陶器	磁器	底32.8					磁瓶、腹目(1段目10本以上)	磁瓶、ヘラタズリ	7.5YR6/3白	
1840	99B	SK260	瀬川式陶器	磁器	底34.7	底4.5				磁瓶、腹目	磁瓶	7.5YR6/3赤褐色	
1841	99B	T	瀬川式陶器	磁器	底37.6	底9.9				磁瓶、腹目(1段目12本以上)	磁瓶	7.5YR6/3白	片貝
1842	99B	SK67	瀬川式陶器	磁器	底37.0					磁瓶、腹目(1段目11.0)	磁瓶、ヘラタズリ	7.5YR6/3白	
1843	99B	探7	瀬川式陶器	磁器	底36.0	14.6	11.4			磁瓶、腹目(1段目20.5分目以上、6分目程度)	磁瓶、ヘラタズリ、回転赤切敷	10YR6/4赤褐色	
1844	99B	SZ020	瀬川式陶器	磁器	底22.5-7	底16.1	底8.9			磁瓶、腹目(1段目10本以上)	磁瓶、ヘラタズリ	2.5YR6/3白	
1845	99B	SZ020	瀬川式陶器	磁器	大型3段	底38.0	底3.7			磁瓶、腹目	磁瓶	7.5YR6/3白	
1846	99B	SZ020	瀬川式陶器	磁器	大型3段	底32.8	底6.3			磁瓶、腹目(1段目24.7)	磁瓶	7.5YR6/3白	
1847	99B	SX01	瀬川式陶器	磁器	底28.0	底4.4				磁瓶、腹目	磁瓶	2.5YR6/3赤褐色	
1848	99B	SK104	瀬川式陶器	磁器	底27.8	底6.1				磁瓶、1段目器の中程度、腹目(1段目14.0)	磁瓶	10YR6/4赤褐色	
1849	99B	SZ04	瀬川式陶器	磁器	大型3段	底34.2	14.0	10.8		磁瓶、腹目(1段目22.5分目以内、器底)	磁瓶、回転赤切敷、一部黒割	7.5YR6/3白	
1850	99B	豊地場	瀬川式陶器	磁器	大型3段	底29.2	底9.0			磁瓶、腹目(1段目17.5分目以内)	磁瓶	7.5YR6/3白	
1851	99B	探7	瀬川式陶器	磁器	底21	底9.9				磁瓶、腹目(1段目10.5分目以内)	磁瓶、ヘラタズリ	10YR6/4赤褐色	
1852	99B	SK104	瀬川式陶器	磁器	大型3段	底4.5				磁瓶、腹目	磁瓶	10YR6/4赤褐色	
1853	99B	SX02	瀬川式陶器	磁器	大型3段	底3.1				磁瓶	磁瓶	7.5YR6/3白	
1854	99B	SZ05	瀬川式陶器	磁器	大型3段	底3.3				磁瓶	磁瓶	7.5YR6/3白	
1855	99B	SZ020	瀬川式陶器	磁器	大型3段	底4.0				磁瓶、腹目	磁瓶、1段目器底端	10YR6/4赤褐色	
1856	99B	SX02	瀬川式陶器	磁器	大型3段	底6.3				磁瓶、腹目(1段目27.0)	磁瓶、片貝入り	7.5YR6/3白	
1857	99B	SZ020	瀬川式陶器	磁器	底28.8	底3.6				磁瓶、腹目	磁瓶	10YR6/4赤褐色	
1858	99B	SZ06	瀬川式陶器	磁器	底30.2	底3.1				磁瓶	磁瓶	7.5YR6/3白	
1859	99B	探7	瀬川式陶器	磁器	大型3段	底31.2	12.2	11.4		磁瓶、腹目(1段目18.5分目以内)	磁瓶、回転赤切敷、一部黒割	7.5YR6/3白	
1860	99B	SZ012	瀬川式陶器	磁器	大型3段	底30.0	12.5	9.8		磁瓶、腹目(1段目24.0分目以内、器底)	磁瓶、回転赤切敷	2.5YR6/3白	
1861	99B	SX01	瀬川式陶器	磁器	大型 4	底3.0	底4.0			磁瓶	磁瓶	SK60/2	
1862	99B	SX02	瀬川式陶器	磁器	大型3	底9.0	7.0	7.0		磁瓶、黒割	磁瓶、回転赤切敷	10YR6/4赤褐色	
1863	99B	SK42	瀬川式陶器	磁器	大型1	底14.0	15.6	6.8		磁瓶	磁瓶	2.5YR6/3白	
1864	99B	SX01	瀬川式陶器	磁器	大型3	底11.2	8.0	7.0		うすやい、黒割、コガリ着	磁瓶、又土付着、磁瓶、回転ヘラタズリ	10YR6/3赤褐色	
1865	99B	SZ020SX01	瀬川式陶器	磁器	大型4	底7.7	7.0	底0.0		磁瓶、黒割(輪ふきとり)、器底端	磁瓶、黒割(輪ふきとり)、器底端	7.5YR6/3白	
1866	99B	SK279SX02	瀬川式陶器	磁器	器型1	底13.6	底8.8	底0.7		磁瓶、1段目(輪ふきとり)黒割、ヘラタズリ	磁瓶	7.5YR6/3白	
1867	99B	T	瀬川式陶器	磁器	大型	底5.4	底10.4			磁瓶	磁瓶、回転ヘラタズリ	2.5YR6/3白	
1868	99B	SZ020	瀬川式陶器	磁器	器型1-2	底13.2	底10.8			磁瓶、1段目(輪ふきとり)黒割、回転ヘラタズリ	磁瓶	10YR6/2赤褐色	
1869	99B	SK84.131	瀬川式陶器	磁器	大型3	底13.3	10.2	底0.0		磁瓶	磁瓶、1段目(輪ふきとり)黒割、回転ヘラタズリ	7.5YR6/3白 7.5YR6/3赤褐色	
1870	99B	T	瀬川式陶器	磁器	大型4	底8.6				磁瓶、小片付着	磁瓶	2.5YR6/3赤褐色	
1871	99B	SX02	瀬川式陶器	磁器	大型3-4	底3.3	9.0			磁瓶、黒割	磁瓶、回転ヘラタズリ	2.5YR6/3白	
1872	99B	SZ020	瀬川式陶器	磁器	大型2	底7.7	底14.8			磁瓶、黒割	磁瓶、回転ヘラタズリ	7.5YR6/3白	
1873	99B	SK279	瀬川式陶器	磁器	小型	器型1	底4.2			磁瓶、黒割	磁瓶、黒割	7.5YR6/3白	
1874	99B	SK195	瀬川式陶器	磁器	大型3-4	底5.6				磁瓶、黒割	磁瓶、黒割	2.5YR6/3白	
1875	99B	西野7	瀬川式陶器	磁器	大型3-4	底2.2	4.8			磁瓶、黒割	磁瓶、回転赤切敷	7.5YR6/3白	
1876	99B	SK184	瀬川式陶器	磁器	大型3	底6.0	底9.1			磁瓶(黒割)	磁瓶(黒割)	SK61.2赤褐色	
1877	99B	SX02.0K291	瀬川式陶器	磁器	大型3	底3.3	底3.3			磁瓶	磁瓶	7.5YR6/3白 10YR6/4赤褐色	
1878	99B	SK36	瀬川式陶器	磁器	大型4	底4.4	7.1			磁瓶、器底端(輪ふきとり)、ヘラタズリ	磁瓶	10YR6/2赤褐色	
1879	99B	SK92	瀬川式陶器	磁器	大型4	底6.6	8.0			磁瓶、黒割(一部黒割)	磁瓶	7.5YR6/3白	
1880	99B	SK176.180	瀬川式陶器	磁器	大型3	底5.0	底8.4			磁瓶	磁瓶、黒割、ヘラタズリ	7.5YR6/3白	
1881	99B	SK114	瀬川式陶器	磁器	大型3	底3.4	9.8			磁瓶、黒割	磁瓶、回転ヘラタズリ	2.5YR6/3白	

昭和番号	調査区	遺物番号	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	内容	備考	数量	備考	
1882	990	SK36-08	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3	葺3.7	葺13.6		鉄胎(磁胎)	鉄胎(磁胎)	99018		
1883	990	SD20	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3		葺12.3		鉄胎	鉄胎、ヘラズビ	75YK121-白		
1884	990	SK01	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正		葺2.0		鉄胎(1種)	鉄胎、磁胎赤絵のちヘラズビ	75YK18(白)		
1885	990	SK46、SK25、SK2	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正2小1	5.8	葺21.5	葺9.7	鉄胎	鉄胎のち銅胎赤絵、 鉄胎	75YK28(白)		
1886	990	SK91、SK29	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正		葺9.7				99019、99019B、99019C		
1887	990	SD20	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正4小4		葺3.9	3.6	鉄胎	鉄胎、鉄胎、磁胎赤絵	75YK18(白)		
1888	990	SK183	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正1		葺4.1	4.5 4.9	鉄胎	鉄胎、磁胎、磁胎赤絵ヘラズビ、 鉄胎、磁胎赤絵	75YK18(白)	ソボイキ土	
1889	990	SK184、SK21	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正1		葺4.8	葺5.2	鉄胎、磁胎(磁胎)	鉄胎、磁胎、磁胎赤絵	10YK18C		
1900	990	T	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3		葺6.5	5.2	鉄胎、鉄胎付	鉄胎、鉄胎、銅トナベ鉄、磁胎ヘラズビ	25YK28(白)		
1901	990	SK01	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正4後		葺3.2	葺2.4	鉄胎	鉄胎(銅胎赤絵)	75YK18(白)		
1902	990	T	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正1		葺7.6		長石胎	長石胎(磁胎)、ヘラズビ	75YK18(白)		
1903	990	T	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正1		葺13.2	16.1	10.0	鉄胎、磁胎	鉄胎、磁胎、磁胎赤絵	75YK18(白)	
1904	990	香炉	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正1		葺3.7	葺6.8	鉄胎	鉄胎、磁胎、磁胎ヘラズビ	10YK18(赤黄)		
1905	990	SD20	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3小4		葺4.0		鉄胎	鉄胎、銅トナベ鉄、磁胎赤絵、 鉄胎	75YK18(赤黄)		
1906	990	SK104	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正1		葺4.6		鉄胎	鉄胎	5YK18		
1907	990	SK291	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3		葺6.9	7.2	鉄胎	鉄胎、磁胎、ヘラズビ	25YK28(白)		
1908	990	SK185、SK186	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3		葺11.6	9.1	葺6.0	鉄胎	鉄胎、ヘラズビ	75YK18(白)	
1909	990	SD20	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正		葺2.0		鉄胎(1種)	鉄胎(1種)	SK05		
1900	990	SK01	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3小4		葺11.0		鉄胎	鉄胎、ヘラズビ	10YK18(白)		
1901	990	香炉	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3小4		葺14.8	葺3.5	鉄胎	鉄胎	75YK18(白)		
1902	990	SK02	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3後		11.0	4.2	6.8	鉄胎	鉄胎、2号、鉄胎、透磁2号、 銅トナベ鉄、磁胎ヘラズビ	75YK18(白)	
1903	990	SK112	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3		葺2.2		鉄胎	鉄胎	10YK18(赤黄)		
1904	990	SD20	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正4後		葺2.5	葺4.7	鉄胎	鉄胎、磁胎、磁胎赤絵	75YK18(白)		
1905	990	SK131、SK140	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正		葺10.6	4.2	葺10.0	鉄胎	鉄胎、磁胎赤絵	25YK28(白)	
1906	990	SK191下	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3		葺13.0	葺4.0	鉄胎、11号磁胎(磁胎)、 長石胎	鉄胎	75YK18(白)		
1907	990	T	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3		葺14.0		鉄胎	鉄胎	10YK28(白)		
1908	990	SK31	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3		葺14.0		11号磁胎(磁胎)、鉄胎、 磁胎	鉄胎	10YK28(白)		
1909	990	SK260	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3		葺13.6	21.5	葺12.2	鉄胎、磁胎	鉄胎、磁胎、磁胎赤絵	75YK18(白)	
1910	990	SK191下	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正2小3		葺17.3	12.8	鉄胎	鉄胎、磁胎、銅トナベ鉄、ヘラズビ	10YK18(赤黄)		
1911	990	SK01	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正2小3		葺3.0	葺2.9	鉄胎	鉄胎、2号の黒色長石土を利用、 磁胎ヘラズビ	75YK18(白)		
1912	990	SK112	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3		葺16.2	葺17.6	鉄胎	鉄胎、長石胎、 鉄胎(磁胎)	75YK18(白)		
1913	990	SK01	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3後		葺14.2	葺9.8	鉄胎	鉄胎	10YK18(白)		
1914	990	香炉	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3後		葺15.8	葺2.0	鉄胎	鉄胎	10YK121-白(黄)		
1915	990	SD20	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正		葺13.6	葺2.0	鉄胎	鉄胎、長石胎	75YK18(赤黄)		
1916	990	SK192	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正		葺4.6	葺0.0	13.0	鉄胎	鉄胎(自然釉)、鉄胎、磁胎赤絵	10YK18(赤黄)	
1917	990	SK04	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3小4		葺15.0	葺11.0	鉄胎	鉄胎(銅トナベ鉄)、 長石胎、鉄胎、磁胎	75YK28(白)		
1918	990	SD20	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正4		葺6.5		鉄胎	鉄胎	75YK18(赤黄)		
1919	990	T	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3		葺4.5		鉄胎	鉄胎	75YK18(赤)		
1920	990	SK01	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3後		葺16.0	15.8	13.4	鉄胎、長石胎、 鉄胎	鉄胎、磁胎赤絵	NT005(白)	
1921	990	T	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正3		葺14.6	葺9.2		鉄胎	75YK18(白)		
1922	990	SK221	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正		葺30.0	葺4.9	鉄胎	鉄胎	10YK18(赤黄)		
1923	990	SD20	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正		葺37.4		鉄胎	鉄胎	75YK18(白)		
1924	990	SK36	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正1		1.8	葺3.8	鉄胎、磁胎	鉄胎	75YK18(白)		
1925	990	SK280	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正		葺3.1	葺3.3	鉄胎	鉄胎、磁胎、磁胎赤絵	75YK18(白)		
1926	990	SK195	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正	葺大15.3	葺大16.2	葺大19.1	鉄胎	鉄胎	25YK28(白)		
1927	990	SK174	瀬川瓦葺陶器	香炉	大正	葺大15.3	葺大18.2	葺大19.0	鉄胎	鉄胎	10YK28(白)		
1928	990	SK36	土師器	口7口調整器	C類	葺11.4	2.3	5.0	コソナテ	中心部のコソナテ、コソナテ、 磁胎赤絵	25YK28(赤)	25YK28(赤)	
1929	990	SK127	土師器	口7口調整器	C類	葺10.8	1.9	5.3	コソナテ	コソナテ、磁胎赤絵	25YK28(赤)		
1930	990	SK168	土師器	口7口調整器	C類	葺10.0	2.5	4.4	コソナテ	コソナテ、磁胎赤絵	25YK28(赤)		
1931	990	SK168	土師器	口7口調整器	C類	葺12.0	2.0	葺6.0	コソナテ	コソナテ、磁胎赤絵	25YK28(赤)		
1932	990	SK291	土師器	口7口調整器	C類	葺10.8	2.4	4.8	コソナテ、ターム付	コソナテ、ターム付、磁胎赤絵、 鉄胎、金條鉄胎	10YK121-白(黄)	10YK121-白(黄)	
1933	990	SK293	土師器	口7口調整器	C類	11.0	2.5	5.2	コソナテ、土師赤絵	コソナテ、磁胎赤絵	10YK121-白(黄)		
1934	990	SK01	土師器	口7口調整器	C類	葺10.8	2.2	6.6	コソナテ	コソナテ、磁胎赤絵	75YK18(赤)		
1935	990	SD20	土師器	口7口調整器	C類	葺10.6	1.8	5.3	コソナテ	コソナテ、磁胎赤絵のち板状	25YK28(赤)	25YK28(赤)	
1936	990	SD20	土師器	口7口調整器	C類	11.0	2.3	6.4	コソナテ	コソナテ、磁胎赤絵	75YK18(赤)	磁胎(1号、2号)	
1937	990	SD20	土師器	口7口調整器	C類	葺10.4	1.7	葺4.9	コソナテ	コソナテ、ターム付、 磁胎赤絵	75YK18(赤)		
1938	990	SD20	土師器	口7口調整器	C類	11.0	2.1	5.8	コソナテ、ターム付	コソナテ、磁胎赤絵	10YK121-白(黄)	10YK121-白(黄)	
1939	990	SD20	土師器	口7口調整器	C類	葺11.0	2.5	4.5	コソナテ、ターム付	コソナテ、ターム付、磁胎赤絵のち板状	25YK28(赤)		
1940	990	香炉	土師器	口7口調整器	C類	葺10.4	1.9	6.0	コソナテ	コソナテ、磁胎赤絵	25YK28(赤)		
1941	990	香炉	土師器	口7口調整器	C類	葺11.2	2.6	葺4.8	コソナテ	コソナテ、磁胎赤絵	5YK18(白)		
1942	990	香炉	土師器	口7口調整器	C類	葺10.0	2.4	4.8	コソナテ	コソナテ、磁胎赤絵のち板状	25YK28(赤)		
1943	990	香炉	土師器	口7口調整器	C類	葺10.6	2.4	4.8	コソナテ	コソナテ、磁胎赤絵のち板状	10YK121-白(黄)	1403	

遺物一覧表

昭和番号	調査区	遺物番号	所在地・材質	器 種	時期	口径(mm)	底径(mm)	底径(mm)	内 径	特 徴	備 考
1944	99B	T	土師器	ワケリ調製器	C類	底10.8	2.0	5.8	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、ナール付着、胎土赤褐色	1979K33(表裏)
1945	99B	SX02	土師器	ワケリ調製器	無類	底11.3	2.1	底5.4	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色	2.5YK6(表裏)
1946	99B	SX02	土師器	ワケリ調製器	無類	底10.3	2.2	底6.2	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色の毛根状付着	25A(表裏)1979K31(表裏)
1947	99B	SK194	土師器	ワケリ調製器	?	底12.7	2.5	底7.0	ヨコナテ、黒色付着	ヨコナテ、胎土赤褐色	1979K29(表裏)
1948	99B	SK168	土師器	ワケリ調製器	C類	底11.0	2.6	底5.0	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色	2.5YK6(表裏)
1949	99B	SK168	土師器	ワケリ調製器	C類	底12.2	2.3	底4.3	ヨコナテ、全体に黒スス	ヨコナテ、胎土赤褐色、全体に黒スス	1979K21(表裏)1979K22(表裏)
1950	99B	SK174	土師器	ワケリ調製器	C類	底12.0	2.1	底6.3	ナール付着、ヨコナテ	ナール付着、ヨコナテ、胎土赤褐色の毛根状付着、表面が滑り上	2.5YK6(表裏)2.5YK25(表裏)
1951	99B	SK176	土師器	ワケリ調製器	C類	底10.6	2.5	底6.0	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色の毛根状付着	2.5K25(表裏)1979K35(表裏)
1952	99B	SK176	土師器	ワケリ調製器	C類	底12.0	2.2	底6.0	ヨコナテ、全体に黒色付着し、表面が滑くなる	ヨコナテ、胎土赤褐色、全体に黒色付着し、表面が滑くなる	7.5YK42(表裏)1979K36(表裏)
1953	99B	SK180	土師器	ワケリ調製器	C類	底11.0	2.0	底6.6	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色	2.5K35(表裏)1979K38(表裏)
1954	99B	SK180	土師器	ワケリ調製器	C類	底11.0	2.1	底5.8	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色の毛根状付着	2.5YK41(表裏)
1955	99B	SK184	土師器	ワケリ調製器	C類	底10.7	2.5	底4.4	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色	1979K24(表裏)1979K25(表裏)
1956	99B	SK274	土師器	ワケリ調製器	C類	底11.6	2.0	底6.0	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色	1979K21(表裏)1979K38(表裏)
1957	99B	SK274	土師器	ワケリ調製器	C類	底10.4	2.5	底4.6	ヨコナテ	ヨコナテ、ナール付着、胎土赤褐色	1979K33(表裏)
1958	99B	SK276	土師器	ワケリ調製器	C類	底11.8	2.0	底5.0	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色の毛根状付着	1979K31(表裏)1979K32(表裏)
1959	99B	SK279	土師器	ワケリ調製器	C類	底10.4	2.4	底4.6	ヨコナテ	ヨコナテ、全体にナール付着、胎土赤褐色、構成面が丸い	1979K23(表裏)
1960	99B	SK279	土師器	ワケリ調製器	C類	底10.8	2.4	底5.8	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色の毛根状付着	1979K25(表裏)
1961	99B	SK291	土師器	ワケリ調製器	C類	底6.6	1.7	底4.6	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色	1979K30(表裏)
1962	99B	SK291	土師器	ワケリ調製器	C類	底6.2	底1.1	底4.2	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、ナール付着	7.5YK43(表裏)
1963	99B	SK291	土師器	ワケリ調製器	C類	底6.8	2.3	底6.8	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、ナール付着、胎土赤褐色の毛根状付着	2.5YK28(表裏)
1964	99B	SX02	土師器	ワケリ調製器	不明	底11.3	2.6	底6.8	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色、全体に黒スス付着	1979K20(表裏)1979K23(表裏)
1965	99B	SX20	土師器	ワケリ調製器	無類	底12.4	2.0	底6.8	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、ナール付着、胎土赤褐色の毛根状付着	2.5YK28(表裏)
1966	99B	SK7	土師器	ワケリ調製器	A類?	底10.3	2.1	底5.5	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色	1979K21(表裏)1979K22(表裏)
1967	99B	SK7	土師器	ワケリ調製器	無類	底10.4	2.3	底4.2	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、ナール付着、胎土赤褐色	1979K21(表裏)1979K22(表裏)
1968	99B	SK	土師器	ワケリ調製器	C類	底11.1	2.4	底5.8	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、ナール付着、胎土赤褐色	1979K21(表裏)1979K22(表裏)
1969	99B	SK	土師器	ワケリ調製器	C類	底10.3	2.1	底4.0	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色	1979K34(表裏)
1970	99B	SK	土師器	ワケリ調製器	C類	底10.9	2.0	底5.0	ヨコナテ、ナール付着	ヨコナテ、ナール付着、胎土赤褐色の毛根状付着	1979K34(表裏)
1971	99B	SK	土師器	ワケリ調製器	C類	底10.8	2.1	底5.8	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色	1979K21(表裏)1979K22(表裏)
1972	99B	T	土師器	ワケリ調製器	C類	底11.0	2.8	底4.2	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色、全体に黒スス付着	2.5YK25(表裏)1979K23(表裏)
1973	99B	SX02	土師器	ワケリ調製器	無類	底7.8	1.6	底5.0	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色	7.5YK41(表裏)1979K21(表裏)
1974	99B	SK	土師器	ワケリ調製器	無類	底7.3	1.6	底4.4	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色	1979K21(表裏)1979K22(表裏)
1975	99B	SK184	土師器	ワケリ調製器	?	底10.8	2.1	底5.8	ヨコナテ	胎土赤褐色の毛根状付着、構成面が丸い	2.5YK28(表裏)
1976	99B	SX01	土師器	ワケリ調製器	器A	底12.1	2.0	底10.0	ヨコナテ	ヨコナテ、胎土赤褐色	1979K25(表裏)
1977	99B	SK97	土師器	器B	C類	底5.2	1.5	底4.0	一方ヨコナテと器B	胎土赤褐色、(子の平盤?)	1979K34(表裏)
1978	99B	SK148	土師器	器C	無類	底5.3	1.2	底4.0	中央凹付、一方ヨコナテの毛根状付着	器Bと同じ器ナヤム、器ナヤム	1979K34(表裏)
1979	99B	SK148	土師器	器D	無類	底5.1	1.3	底4.0	中央凹付、一方ヨコナテ	器Bと同じ器ナヤム	1979K34(表裏)
1980	99B	SK148	土師器	器E	C類	底5.0	1.4	底4.0	一方ヨコナテ、器ナヤム	器ナヤムの毛根状付着	1979K34(表裏)
1981	99B	SK180	土師器	器F	C類	底4.9	1.2	底4.0	一方ヨコナテ	器ナヤム(子の平盤?)	7.5YK43(表裏)
1982	99B	SK184	土師器	器G	C類	底4.9	1.0	底4.0	器ナヤム	器ナヤム(子の平盤?)	7.5YK43(表裏)
1983	99B	SK184	土師器	器H	C類	底4.8	0.9	底4.0	器ナヤム	器ナヤム(子の平盤?)	7.5YK43(表裏)
1984	99B	SK184	土師器	器I	C類	底4.8	0.7	底4.0	器ナヤム	器ナヤム(子の平盤?)	7.5YK43(表裏)
1985	99B	SK184	土師器	器J	C類	底4.7	0.9	底4.0	器ナヤム	器ナヤム	7.5YK34(表裏)1979K21(表裏)
1986	99B	SK194	土師器	器K	C類	底4.7	1.1	底4.0	一方ヨコナテ(器B)	器ナヤム(子の平盤?)	1979K25(表裏)
1987	99B	SK274	土師器	器L	無類?	底4.6	1.1	底4.0	一方ヨコナテ	器ナヤム	2.5YK28(表裏)
1988	99B	SK304	土師器	器M	C類	底4.6	1.5	底4.0	一方ヨコナテ	器ナヤム(子の平盤?)	1979K25(表裏)
1989	99B	SX02	土師器	器N	C類	底4.7	1.0	底4.0	一方ヨコナテ	器ナヤム(子の平盤?)	1979K25(表裏)
1990	99B	SX20	土師器	器O	C類	底4.7	1.0	底4.0	一方ヨコナテ	器ナヤム(子の平盤?)	2.5YK28(表裏)
1991	99B	SX20	土師器	器P	C類	底4.8	1.0	底4.0	一方ヨコナテ	器ナヤム(子の平盤?)	1979K21(表裏)1979K22(表裏)
1992	99B	SX20	土師器	器Q	C類	底4.7	1.0	底4.0	一方ヨコナテ	器ナヤム(子の平盤?)	5YK32(表裏)
1993	99B	SX20	土師器	器R	C類	底4.7	1.2	底4.0	器ナヤム(子の平盤?)	器ナヤム(子の平盤?)	1979K21(表裏)1979K22(表裏)
1994	99B	SX20	土師器	器S	C類	底4.4	1.5	底4.0	一方ヨコナテ、器ナヤム	器ナヤム	2.5YK28(表裏)
1995	99B	SK7	土師器	器T	C類	底5.5	1.3	底4.0	一方ヨコナテ	器ナヤム(子の平盤?)	1979K34(表裏)
1996	99B	T	土師器	器U	C類	底5.5	1.0	底4.0	一方ヨコナテ	器ナヤム(子の平盤?)	7.5YK34(表裏)1979K21(表裏)
1997	99B	T	土師器	器V	A類?	底5.7	0.9	底4.0	子の平盤の毛根状付着がナヤム、構成面が丸い	ヨコナテ、器ナヤム(子の平盤?)	7.5YK43(表裏)
1998	99B	T	土師器	器W	C類	底4.6	1.0	底4.0	器ナヤム	器ナヤム	7.5YK43(表裏)
1999	99B	SK	土師器	器X	無類	底4.6	0.9	底4.0	器ナヤム	器ナヤム	7.5YK43(表裏)
2000	99B	T	土師器	器Y	C類	底4.6	1.3	底4.0	器ナヤム、一方ヨコナテ	器ナヤム	2.5YK28(表裏)
2001	99B	T	土師器	器Z	C類	底4.5	0.9	底4.0	一方ヨコナテ、器ナヤム	器ナヤム(子の平盤?)	7.5YK43(表裏)
2002	99B	SK274	土師器	器AA	A類	底5.1	1.1	底4.0	一方ヨコナテ	ヨコナテ、器ナヤム	7.5YK43(表裏)
2003	99B	SK288	土師器	器AB	A類	底4.8	1.1	底4.0	一方ヨコナテ	ヨコナテ、器ナヤム(子の平盤?)	1979K25(表裏)

発掘年	調査区	遺構番号	所在地	遺構	時期	11(m)	最高(m)	最低(m)	内	外	備考	主	備
2004	990	横丁	土師器	赤土下層遺構	A層	05.3	1.4		1-5段目		赤土中、赤土中(手の平)	7.5YR6/3表層	
2005	990	SK268	土師器	赤土下層遺構	A層	5.2	1.2		1-5段目		赤土中、赤土中(手の平)	7.5YR6/3表層	
2006	990	SK280	土師器	赤土下層遺構	A層	5.3	1.2		1-5段目		赤土中、赤土中(手の平)	10YR6/29白	
2007	990	横丁	土師器	赤土下層遺構	D層	05.2	06.2		傾斜上-1方向の平		赤土中、赤土中	10YR6/3表層	
2008	990	SK268	土師器	赤土下層遺構	A層	5.1	1.4		1-5段目		赤土中、赤土中(手の平)	7.5YR6/3表層	
2009	990	SD20	土師器	赤土下層遺構	A層	5.0	1.3		1-5段目		赤土中、赤土中(手の平)	2.5YR6/3表層	
2010	990	T	土師器	赤土下層遺構	A層	5.0	1.2		傾斜中		赤土中、赤土中(手の平)	2.5YR6/3白	
2011	990	SK194	土師器	赤土下層遺構	B層	04.3	0.7		平		赤土中	10YR6/3表層	
2012	990	SK244	土師器	形代(瓦)		残12.9	07.4	残10.8				10YR7/21白-表層	
2013	990	T	土師器	形代(瓦)		残15.5	9.0	残10.8				10YR7/21白-表層	
2014	990	横	土師器	形代(人形?)		残14.0	9.0	残11.4			平	10YR7/21白-表層	
2015	990	SK176	土師器	形代(瓦)		残16.4	9.0	残13.3				10YR7/21白-表層	
2016	990	SK276	土師器	形代(人形?)		残12.8	9.0	残11.7				2.5YR6/3 15YR6/3	
2017	990	SK194	土師器	土師			04.9				平	7.5YR6/29白	
2018	990	SK194	土師器	磁土塗	手づくね成形	06.4	1.8		コナテ		コナテ	7.5YR6/3表層	
2019	990	SK02	土師器	磁土塗	手づくね成形	5.3	9.7	4.5	コナテ		コナテ、ヘラズリなど	10YR6/3 10YR7/21白	
2020	990	T	土師器	内瓦	円筒	16.4	06.5		平、しみあり		コナテ、赤土中、スス付	10YR7/21白-表層	
2021	990	SK46	土師器	内瓦	筒	16.8	07.7		コナテ、平、コナ		コナテ、スス付、赤土中	2.5YR6/3 10YR6/3	
2022	990	SK42	土師器	内瓦	筒	21.0	04.0		コナテ、平		コナテ、スス付、赤土中	5YR7/21白-表層	
2023	990	SK106	土師器	内瓦	筒	21.0	03.1		コナテ、平、赤土		コナテ、赤土中、ヘラズリ、スス付	5YR7/21白-表層	
2024	990	SK92	土師器	内瓦	筒	26.8	06.7		コナテ、平、しみ		コナテ、スス付、赤土中	10YR7/21白-表層	
2025	990	SK174	土師器	内瓦	筒	26.4	04.9		コナテ、平		コナテ、赤土中	7YR6/3 10YR6/3	
2026	990	横丁	土師器	内瓦	筒	21.0	06.4		コナテ、平		コナテ、赤土中、スス付	2.5YR6/3表層	
2027	990	T	土師器	内瓦	筒	24.8	05.5		コナテ、平、コナ		コナテ、赤土中、スス付	10YR6/29表層	
2028	990	SK194	土師器	内瓦	筒	21.2	03.9		コナテ、平		コナテ、赤土中、スス付	10YR6/29白	
2029	990	SK02	土師器	筒		21.0	04.6		コナテ、スス付		コナテ、赤土中、ヘラズリ、スス付	5YR6/3表層	
2030	990	SK02	土師器	筒		29.8	04.7		コナテ、平		コナテ、赤土中、ヘラズリ、スス付	7YR6/3 2.5YR6/3	
2031	990	SK155	土師器	筒		26.0	04.8		コナテ、平		コナテ、赤土中、ヘラズリ、スス付	7.5YR6/3表層	
2032	990	SK174	土師器	筒		27.0	04.0		コナテ、平、コナ		コナテ、赤土中、ヘラズリ、スス付	7.5YR6/3表層	
2033	990	SK176	土師器	筒		29.0			コナテ、平、コナ		コナテ、赤土中、ヘラズリ、スス付	2.5YR6/3 10YR6/3	
2034	990	SK180	土師器	筒		31.0	04.2		コナテ、平		コナテ、赤土中、ヘラズリ、スス付	7.5YR6/3表層	
2035	990	SK194	土師器	筒		27.0	04.0		コナテ、平		コナテ、赤土中、わずかにスス付	7.5YR6/3 10YR6/3	
2036	990	SK276	土師器	筒		30.0	05.3		コナテ、平		コナテ、赤土中、ヘラズリ、スス付	2.5YR6/3表層	
2037	990	SK291	土師器	筒		31.0	04.4		コナテ、ヘラ、し		コナテ、赤土中、ヘラズリ、スス付	2.5YR6/3表層	
2038	990	SK02	土師器	筒		30.4	05.1		コナテ、ヘラ?		コナテ、赤土中、スス付	10YR6/3表層	
2039	990	T	土師器	筒		28.8	05.9		コナテ、平、しみ		コナテ、赤土中、スス付、ヘラズリ	10YR7/21 10YR6/3	
2040	990	SK291	土師器	筒		29.0	04.6		コナテ、平、しみ		コナテ、赤土中、ヘラズリ、スス付	10YR6/3表層	
2041	990	SK02	土師器	筒		29.0	05.9		コナテ、平、しみ		コナテ、赤土中、ヘラズリ、スス付	10YR6/3表層	
2042	990	SK02	土師器	筒		28.0	05.3		コナテ、平、ヘラ		コナテ、赤土中、ヘラズリ、スス付	7.5YR6/3表層	
2043	990	SK02	土師器	筒		26.0	04.1		コナテ、平		コナテ、赤土中、スス付	7.5YR6/3 10YR6/3	
2044	990	SK02	土師器	筒		30.4	05.0		コナテ、平		コナテ、赤土中、スス付	7.5YR6/3 10YR6/3	
2045	990	SD20	土師器	筒		26.0	05.3		コナテ、しみあり		コナテ、赤土中、ヘラズリ	5YR6/3表層	
2046	990	T	土師器	筒		30.6	06.0		平、しみあり		コナテ、赤土中、ヘラズリ、スス付	7YR6/3 10YR6/3	
2047	990	横	土師器	筒		29.4	06.0		コナテ、黒不明、		コナテ、ヘラ、赤土	2.5YR6/3 10YR6/3	
2048	990	T	土師器	筒		33.8	05.5		コナテ、平		コナテ、赤土中、へら、スス付	7.5YR6/3 白-表層	
2049	990	SK244	土師器	筒		14.6	04.6		コナテ、平、黒		コナテ、赤土中、平	2.5YR6/3 10YR6/3	
2050	990	SK92	土師器	筒		13.8	04.0		コナテ、赤土中		コナテ、わずかにスス付、赤土中	10YR6/29白	
2051	990	SK244	土師器	筒		13.3	06.5		コナテ、赤土中、		コナテ、赤土中、平	2.5YR6/3 10YR6/3	
2052	990	SK274	土師器	筒		12.2	04.6		コナテ、ヘラズリ		コナテ、スス付	10YR6/3白	
2053	990	SK168	土師器	筒			06.7		平、赤土中、平、		筒中、コナテ、赤土中、ヘラズリ、スス付	10YR6/3 10YR6/3	
2054	990	SD20	土師器	筒		13.0	05.0		コナテ、平		コナテ、平、スス付	7.5YR6/3表層	
2055	990	SD20	土師器	筒		12.2	05.4		コナテ、平		コナテ、スス付	7.5YR6/3表層	
2056	990	SD20	土師器	筒		14.2	05.0		コナテ、平、黒		コナテ、スス付	7.5YR6/3表層	
2057	990	SD20	土師器	筒		14.0	04.8		スス付、コナテ、		スス付、コナテ、平、赤土中	7.5YR6/3 10YR6/3	
2058	990	SK140	土師器	筒(口縁?)		13.4	06.2		コナテ		コナテ、表面全体が黒く滑りして表面の凹凸が感じにくい	7.5YR6/3白	
2059	990	SK274	土師器	筒		12.0	06.1		コナテ、平、しみ		コナテ、平、しみ	10YR6/29白	
2060	990	SK01	土師器	筒		14.0	05.6		コナテ、平、しみ		コナテ、平	2.5YR6/3 10YR6/3	
2061	990	SK02	土師器	筒		13.0	05.9		コナテ、平		コナテ	5YR6/3表層	

調査年度	調査区	遺構番号	所在地・村名	遺 構	時 期	口径(cm)	底径(cm)	底深(cm)	内 径	外 径	備 考	
2062	990	SX02	土師器	甕		底13.8	底14		ヨコナテ	ヨコナテ	7.5YR6/6黄褐色	
2063	990	SZ020	土師器	甕		底13.0	底14		ヨコナテ、ハク	ヨコナテ、ハク	7.5YR6/5黄褐色	
2064	990	SZ020	瓦器	甕		底12.4	底16		ヨコナテ、腹オヤム、ハク	ヨコナテ、口オヤム、ス入付着	7.5YR6/3白	
2065	990	SZ020	土師器	甕		底12.5	底14		ヨコナテ、ハク	ヨコナテ、ハク	7.5YR6/5黄褐色	
2066	990	SZ020	土師器	甕		底12.0	底17		ヨコナテ、ハク	ヨコナテ、ハク、ス入付着に付着	7.5YR6/5黄褐色	
2067	990	SZ020	土師器	甕		底16.2	底12		ヨコナテ、ハク	ヨコナテ	5YR7/4いり色	
2068	990	SZ020	土師器	甕		底14.2	底12		ヨコナテ、ス入付着、ハク、腹オヤム	ヨコナテ、ス入付着	7YR7/3白	
2069	990	T	土師器	甕		底13.8	底14		ス入付着、ヨコナテ、ハク	ス入付着、ヨコナテ	7.5YR6/3白 7.5YR6/5	
2070	990	SK291	土師器	片鉢		底29.8	底14		ヨコナテ、ハクまたはオヤム	ヨコナテ、ハク、腹オヤム	7YR6/3白 2.5YR6/3	
2071	990	SX02	土師器	片鉢		底34.0	底12		ヨコナテ、ハク	ヨコナテ、腹オヤム	7YR6/3白 2.5YR6/3	
2072	990	SX02	土師器	片鉢			底12		ヨコナテ、ハク、一部ス入付着、底面オヤム	ヨコナテ、ハク	7.5YR6/3白 10YR6/3	
2073	990	SX02	土師器	片鉢小			底10		ヨコナテ、腹オヤム、ハクオヤム小	ヨコナテ、オヤム、ハクオヤム	2.5YR6/3 7YR6/3	
2074	990	SK174	土師器	片鉢小		底19.0	底10		ヨコナテ	ヨコナテ	7.5YR6/5黄褐色	
2075	990	SK291	土師器	片鉢小			底14		ハク	ハク	10YR6/3 7YR6/3	
2076	990	SK180	黄銅器	鏝	高線	底31.4	底5		鍍金跡物	鍍金跡物	2.5Y/1黄銅	
2077	990	SK136	黄銅器	鏝	高線		底7		鍍金跡物	鍍金跡物	7.5YR6/5黄褐色	
2078	990	SK180	黄銅器	鏝	高線		底9		鍍金、高線一部鍍金	鍍金、高線一部	7.5YR6/5	
2079	990	墓地	黄銅器	鏝	高線		底4.5		鍍金、ヨコナテ	自然物	9YR6/3黄銅	
2080	990	SZ05	黄銅器	鏝	高線		底6.1		鍍金	鍍金、一部自然物	9YR6/3 10YR6/3	
2081	990	T	黄銅器	鏝	高線		底6.1		鍍金	自然物、鍍金	9YR6/3 10YR6/3	
2082	990	墓地	黄銅器	鏝	高線		底7.8		鍍金	鍍金、鍍金付着	2.5YR6/3 2.5YR6/3	
2083	990	SZ020	黄銅器	鏝	高線		底7.6		鍍金	鍍金	9YR6/3	
2084	990	T	黄銅器	鏝	高線		底6.4		ハクオヤム、ハクオヤム、オヤム	ハクオヤム、底面鍍金、鍍金	9YR6/3 10YR6/3	
2085	990	狭	黄銅器	鏝?	高線		底5.7		底140 白色化した自然物、ヨコナテ	鍍金、ハクオヤム、底面鍍金、鍍金	N7Y6/3	
2086	990	SZ14	黄銅器	加蓋蓋	高線	底15.0	底7.9		鍍金、木皮	鍍金、木皮	2.5YR6/3	
2087	990	SX01	黄銅器	加蓋蓋	高線		底16		底125 鍍金、ヨコナテ、注線?	自然物、鍍金、底面鍍金、鍍金	10YR6/3	
2088	990	SK67	黄銅器	加蓋蓋	高線	底20.4	底8.1		鍍金(鍍金ハク)	鍍金(鍍金ハク)	2.5YR6/3	
2089	990	SK184	黄銅器	加蓋蓋	高線	13.3 16.0	10.8	13.0	鍍金、ヨコナテ	自然物、鍍金、底面鍍金、鍍金	2.5YR6/3	
2090	990	SK148	中国白磁	小鉢	茶器類茶器		底14	底12	白磁類	白磁類、高小碗蓋高脚	NA06/3	
2091	990	SK102.104	中国白磁	茶	茶	11.8	2.6	底5.4	白磁類	白磁類、鍍金	NA06/3	
2092	990	SK176	中国青花	茶	鎌州茶器		底13	底6	青花、釉薬	青花、高小碗蓋高脚	10YR6/25白	
2093	990	SK198	中国白磁	碗	茶器類茶器		底16.0		白磁類	白磁類	NA06/3	
2094	990	SZ020	中国白磁	碗	茶器類茶器		底11.6	底3.0	底6.4	白磁類	白磁類、高小碗蓋高脚	7.5YR6/3
2095	990	狭	中国白磁	碗	茶器類茶器		底11.2	底2.8	底6.4	白磁類	白磁類、高小碗蓋高脚	NA06/3
2096	990	SX001	中国白磁	碗	茶器類茶器		底12.6	底2.7	底6.8	白磁類	白磁類、高小碗蓋高脚	NA06/3
2097	990	SX01.02	中国白磁	碗	茶器類茶器		底16.4	底3.9	底7.4	白磁類	白磁類、高小碗蓋高脚	NA06/3
2098	990	西野	中国白磁	碗	茶器類茶器		底17.7	底7.4	白磁類	白磁類、高小碗蓋高脚	NA06/3	
2099	990	東?	中国白磁	丸皿	茶器類茶器		底9.8	底1.8	白磁類	白磁類	NA06/3	
2100	990	墓地	中国白磁	碗	茶器類茶器		底14.8	底2.7	底8.4	白磁類	白磁類、高小碗蓋高脚	NA06/3
2101	990	SK112	中国青花	特注器	飯蓋笠器		底10.4	底1.9	青花磁、劃花文	青花磁	NA06/3	
2102	990	SZ020	中国青花	碗	茶器類茶器		底12.2	底9.9	青花	青花	NA06/3	
2103	990	狭	中国青花	碗	茶器類茶器		底12.0	底3.2	青花	青花	NA06/3	
2104	990	狭?	中国青花	碗	茶器類茶器		底12.0	底2.1	青花	青花	NA06/3	
2105	990	墓地	中国青花	丸皿	茶器類茶器		底11.8	底0.0	青花	青花、鍍金に漆継ぎあり	NA06/3	
2106	990	SZ07	中国青花	碗	茶器類茶器		底12.0	底3.1	青花	青花、鍍金に漆継ぎあり	2.5YR6/3	
2107	990	墓地	中国青花	小鉢	茶器類茶器		底6.4	底0.2	青花	青花	NA06/3	
2108	990	墓地	中国青花	鍍金心碗	茶器類茶器		底2.6	底3.0	青花	青花、高小碗蓋高脚	NA06/3	
2109	990	SX02	中国五彩	小鉢	茶器類茶器		底9.8	底2.8	青花	五彩、高小碗蓋高脚	NA06/3	
2110	990	SK128	中国青花	小鉢	茶器類茶器		底2.7	底3.2	青花	青花、高小碗蓋高脚	NA06/3	
2111	990	SK200	中国青花	碗	茶器類茶器		底16.0	底3.3	底9.0	青花	青花、鍍金に漆継ぎあり	NA06/3
2112	990	SX01	中国青花	特注茶器	鎌州茶器		底2.4	底4.8	青花	青花、高小碗蓋高脚	10YR6/25白	
2113	990	墓地	中国青花	碗	茶器類茶器		底13.0	底3.2	底7.6	青花	青花、高小碗蓋高脚	NA06/3
2114	990	SX02	中国青花	丸皿	茶器類茶器		底4.0	底2.5	底8.2	青花、漆継ぎあり	NA06/3	
2115	990	SX02	中国青花	茶	茶器類茶器		底3.7	底9.0	青花	青花、高小碗蓋高脚	NA06/3	
2116	990	SX01	中国青花	茶	鎌州茶器?		底1.0	底5.6	青花	白磁類	2.5YR6/3	
2117	990	中国青花	碗	茶器類茶器		底14.6	底1.7	青花	青花	NA06/3		
2118	990	SK343	中国青花	碗	茶器類茶器		底14.2	底3.4	底6.0	青花	NA06/3	
2119	990	SZ020	中国青花	丸皿	茶器類茶器		底9.8	底2.2	底5.6	青花	青花、高小碗蓋高脚、鍍金に漆継ぎあり	NA06/3
2120	990	SZ01	中国青花	茶	茶器類茶器		底16.6	底6.6	青花	青花、高小碗蓋高脚	NA06/3	
2121	990	北?	中国青花	丸皿	茶器類茶器		底12.8	底2.2	青花	青花	NA06/3	
2122	990	狭?	中国青花	茶	茶器類茶器		底2.2	底2.2	青花	青花、高小碗蓋高脚	NA06/3	
2123	990	SX01	中国青花	丸皿	鎌州茶器		底9.8	底1.8	青花	青花	NA06/3	
2124	990	狭?	中国青花	丸皿	鎌州茶器		底10.8	底1.8	青花	青花	2.5YR6/3	
2125	990	SX02.SK300	中国青花	丸皿	鎌州茶器		底28.6	底4.5	底12.6	青花	青花、砂付着	2YR6/3 7YR6/3
2126	990	SK290	中国青花	丸皿	鎌州茶器		底12.0	底1.0	青花	青花、高小碗蓋高脚	NA06/3	
2127	990	SK319	中国青花	特注器	飯蓋笠器		底1.9	底5.6	青花磁、劃花文	青花磁、高小碗蓋高脚	10YR6/3	
2128	990	SK92	朝鮮半島白磁	平鉢		底15.9	底2.7	底6.2	透明物	透明物、黒色粘土、多色粘土	NA06/3 5YR6/6	
2129	990	SK180	朝鮮半島白磁	平鉢		底2.7	底6.0	透明物(粘土?)、粘土	透明物(粘土?)	7.5YR6/3		

物品番号	調査区	遺構番号	所在地・材質	品名	時期	寸法(cm)	容積(cc)	重量(g)	白	青	赤	黄	黒	上	備考
2130	99B	SX02	新緑1号調査区	鉢		径14.8	容1.0		透明陶						透明陶 10853赤系
2131	99B	SX20	赤松田遺跡	筒形陶		径10.0	容4.3		白化粧(黄色)						白化粧(黄色) 筒形陶 10852赤系 210A4
2132	99B	SX01	赤松田遺跡	筒形陶	黒漆	径9.3	容3.7		緑釉(黄色)						緑釉(黄色) 37876赤系
2133	99B	SX01	赤松田遺跡	筒形陶		径1.1	容2.4		白化粧・緑釉						白化粧・緑釉 筒形陶 37877赤系
2134	99B	SX20	赤松田遺跡	筒形陶		径9.8	容3.8		緑釉(黄色)						白化粧・緑釉 筒形陶 37878赤系
2135	99B	SX01	赤松田遺跡	筒形陶	黒漆	径9.8	容3.8		緑釉(黄色)						白化粧・緑釉 筒形陶 37879赤系
2136	99B	SX20	赤松田遺跡	筒形陶	黒漆	径10.3	容4.6		緑釉(黄色)						白化粧・緑釉 筒形陶 37880赤系
2137	99B	SX02	赤松田遺跡	筒形陶	白色陶器				緑釉(黄色)						緑釉(黄色) 37881赤系
2138	99B	SK191275	赤松田遺跡	筒形陶	白色陶器			径17.0	黄色緑釉						黄色緑釉 10888赤系
2139	99B	赤松田SK194	赤松田遺跡	丸瓶		径11.0	容4.9	4.2	灰釉						灰釉、頸部・胴部目線あり、胴部 ヘラタズリ 25786赤系
2140	99B	SX20	赤松田遺跡	丸瓶		径4.9	容4.6		灰釉						灰釉、蓋部、胴部ヘラタズリ 37882赤系
2141	99B	SX04	赤松田遺跡	丸瓶		径3.1	容4.3		灰釉						灰釉、蓋部、胴部ヘラタズリ 25783赤系
2142	99B	SX20	赤松田遺跡	丸瓶		10.5	5.6	3.8	灰釉						灰釉、蓋部、胴部ヘラタズリ 37883赤系
2143	99B	新緑	赤松田遺跡	丸瓶			径2.7	4.0	灰釉						灰釉、蓋部、胴部ヘラタズリ 37884赤系
2144	99B	赤松田	赤松田遺跡	丸瓶			径2.5	4.7	灰釉						灰釉、蓋部、胴部ヘラタズリ 37885赤系
2145	99B	SK279	赤松田遺跡	丸瓶		径10.4	容6.2	4.0	灰釉						灰釉、蓋部、胴部目線あり 37886赤系
2146	99B	SK67	赤松田遺跡	鉄器(赤銅)			径3.1		長石釉表面						長石釉表面 37887赤系
2147	99B	SK271	赤松田遺跡	鉄器(赤銅)		径27.6	径1.1		長石釉? (灰釉、蓋部)						長石釉? (灰釉、蓋部) 10889赤系
2148	99B	SK174	白松田遺跡	壺			径1.0		黒釉						黒釉、自然釉 37890赤系
2149	99B	SX02	白松田遺跡	壺		径12.2	径2.6		黒釉						黒釉 37891赤系
2150	99B	SX02	白松田遺跡	小瓶			径2.5	2.0	黒釉						黒釉、頸部、フツメヘラタズリ 3813赤系
2151	99B	SK176	白松田遺跡	小瓶			径2.5	2.0	黒釉						黒釉、ヘラタズリ 3809赤系
2152	99B	SK106176	白松田遺跡	小瓶			径2.4		黒釉						黒釉 3810赤系
2153	99B	SK280	白松田遺跡	壺			径6.6		自然釉						自然釉 3811赤系
2154	99B	SK181SX02	白松田遺跡	壺		径11.1	容12.0		自然釉						自然釉、蓋石蓋あり、蓋部、ヘラ タズリ 37892赤系
2155	99B	SK104	白松田遺跡	壺		径27.0	容4.2		黒釉						黒釉、蓋石蓋あり 25784赤系
2156	99B	新緑	白松田遺跡	壺		径24.6	容4.7		灰釉・黒釉						灰釉・黒釉、蓋石蓋あり 37893赤系
2157	99B	赤松	肥前赤銅	白銅製		径4.2	容4.4		白銅製						白銅製、高台環状突起 37894赤系
2158	99B	SX01	肥前赤銅	小瓶		径2.7	容3.7		焼付						焼付、高台環状突起 3809赤系
2159	99B	SX03	肥前赤銅	瓶		径16.2	容3.4		コシヤ						コシヤ 37895赤系
2160	99B	新緑	肥前赤銅	瓶		径3.3	容3.6		自然釉						自然釉 37896赤系
2161	99B	新緑	肥前赤銅	瓶		径2.1	容3.7		コシヤ、蓋石蓋あり						コシヤ、蓋石蓋あり、胴部 ヘラタズリ 3809赤系
2162	99B	SK275	肥前赤銅	瓶		径2.4	容3.6		自然釉						自然釉 3809赤系
2163	99B	SK82	肥前赤銅	瓶		径1.0	容3.0		コシヤ						コシヤ、高台環状突起、胴部 ヘラタズリ 37897赤系
2164	99B	新緑	肥前赤銅	小瓶		径7.8	容4.6		コシヤ						コシヤ、胴部突起 3809赤系
2165	99B	新緑	肥前赤銅	瓶		径4.4	容3.6		コシヤ						コシヤ 37898赤系
2166	99B	新緑	肥前赤銅	瓶		径4.3	容3.4		コシヤ、一方コシヤ						コシヤ、高台環状突起、胴部 ヘラタズリ 37899赤系
2167	99B	SK195	肥前赤銅	瓶		径1.6	容3.0		コシヤ						コシヤ、高台環状突起、胴部 ヘラタズリ 37893赤系
2168	99B	新緑	肥前赤銅	瓶		径1.0	容3.8		コシヤ						コシヤ、高台環状突起、胴部 ヘラタズリ 25785赤系
2169	99B	SK251	肥前赤銅	小瓶		径0.9	容3.1		コシヤ						コシヤ、胴部突起 3809赤系
2170	99B	SK184	肥前赤銅	高脚瓶		径3.3	容2.4		コシヤ						コシヤ、胴部突起 3809赤系
2171	99B	SK20	肥前赤銅	壺	加1号壺	最大径24	最大径9.0	最大径1.7							37895赤系
2172	99B	肥前赤銅	肥前赤銅	壺	加1号壺	最大径24	最大径2.3	最大径1.3							37897赤系
2173	99B	SK140	白松田遺跡	丸瓶		最大径23	最大径2.3	最大径2.3							37899赤系
2174	99B	北原丁	瓦	和瓦(30号)					コシヤ						3809赤系
2175	99B	北原丁	瓦	和瓦(30号)					コシヤ						3809赤系
2176	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)					コシヤ						3809赤系
2177	99B	北原丁	瓦	和瓦(30号)					コシヤ						3809赤系
2178	99B	新緑	瓦	和瓦(30号)		瓦当径16.3			コシヤ						3809赤系
2179	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径16.9			コシヤ						3809赤系
2180	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径16.6		7.0	コシヤ						3809赤系
2181	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径16.6		8.0	コシヤ						3809赤系
2182	99B	701	瓦	和瓦(30号)		瓦当径16.9		7.0	筒形瓦当?						3809赤系
2183	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径17.2		8.0	コシヤ						37893赤系
2184	99B	新緑	瓦	和瓦(30号)		瓦当径17.5			コシヤ						3809赤系
2185	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径16.1			コシヤ						3809赤系
2186	99B	701	瓦	和瓦(30号)		瓦当径17.3			コシヤ						3809赤系
2187	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径17.2		8.0	コシヤ						37893赤系
2188	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径17.6		8.0	コシヤ						3809赤系
2189	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径17.1			コシヤ						3809赤系
2190	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径16.6			コシヤ						37893赤系
2191	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径16.8			コシヤ						3809赤系
2192	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径16.9			コシヤ						3809赤系
2193	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径16.1		8.0	コシヤ						37893赤系
2194	99B	SK03	瓦	和瓦(30号)		瓦当径16.2		8.0	筒形瓦当						3809赤系
2195	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径15.8		8.0	筒形瓦当						37893赤系
2196	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径15.8		7.0	筒形瓦当						3809赤系
2197	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径16.2		7.0	筒形瓦当						3809赤系
2198	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径15.6			コシヤ						3809赤系
2199	99B	SK01-280	瓦	和瓦(30号)		瓦当径15.4			コシヤ						3809赤系

遺物一覧表

調査番号	調査区	遺構番号	遺地・材質	器 種	時 期	口径(cm)	底径(cm)	高径(cm)	内 径	特 徴	出 土 順 号
2200	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径16.3		83		3号瓦	SK005(白)
2201	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径16.3				3号瓦	SK005(白)
2202	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径15.6	82		楕圓径27.0	瓦,3号瓦	7356(黒)
2203	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径15.4		78		3号瓦	NT005(白) SK005(白)
2204	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式				78		3号瓦	SK005(白)
2205	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径15.5	80		楕圓径29.0	瓦,3号瓦	SK005(白)
2206	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径15.5	83		楕圓径29.0	瓦,3号瓦	SK005(白)
2207	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径16.5	80			3号瓦	SK005(白)
2208	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径15.9	79			3号瓦	SK005(黒色)
2209	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径16.1	77			3号瓦	SK005(白) HY010(黒)
2210	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径15.9				3号瓦	SK005(白)
2211	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径15.6					SK005(白)
2212	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径16.0				3号瓦	NT005(白) SK005(白)
2213	96	T98	瓦	和瓦,EMD形式							SK005(白)
2214	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式							SK005(白)
2215	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式							NT005(白) SK005(白)
2216	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径17.4			底径7.0	3号瓦A	SK005(白)
2217	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径15.2				3号瓦	SK005(白)
2218	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.9					SK005(白)
2219	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径15.1				3号瓦	SK005(白)
2220	96	SX01-180	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.9				3号瓦	SK005(白)
2221	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.4				3号瓦	SK005(白)
2222	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.7					SK005(白)
2223	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.1					SK005(黒色)
2224	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.2	88			3号瓦	SK005(白)
2225	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.8	74			3号瓦	SK005(白)
2226	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.6				3号瓦	NT005(白)
2227	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.1					SK005(白)
2228	96	SX01-180	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.6					SK005(白)
2229	96	T98	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.9					SK005(黒色)
2230	96	榎T	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.7					SK005(白)
2231	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.4				3号瓦	SK005(黒色)
2232	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径15.1					SK005(黒色)
2233	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径12.5				3号瓦	SK005(白) 7357(黒)
2234	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.2				3号瓦	SK005(白)
2235	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.3				3号瓦	SK005(白)
2236	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.0					SK005(白) 7356(黒)
2237	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.1				3号瓦	NT005(白) SK005(白)
2238	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式							SK005(白)
2239	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径11.3	87			3号瓦	SK005(白)
2240	96	SX01-榎田	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.6					SK005(白)
2241	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式							SK005(白)
2242	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.6	83		楕圓径22.3	瓦,3号瓦A	NT005(白)
2243	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.5				3号瓦	SK005(白)
2244	96	SX01-榎田	瓦	和瓦,EMD形式						3号瓦	SK005(白)
2245	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式							SK005(白)
2246	96	SX01-榎田	瓦	和瓦,EMD形式			68		楕圓径24.7	瓦,3号瓦	SK005(白)
2247	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式			74		楕圓径24.2	瓦,3号瓦A	NT005(白) SK005(白)
2248	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式						3号瓦	NT005(白)
2249	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.8					NT005(白)
2250	96	T93	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.3				3号瓦	SK005(白)
2251	96	SX01-榎田	瓦	和瓦,EMD形式			71		楕圓径21.8	瓦,3号瓦A	SK005(白)
2252	96	SX01-180	瓦	和瓦,EMD形式			56		楕圓径23.8	瓦,3号瓦	SK005(白)
2253	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.0					SK005(白)
2254	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.0					SK005(黒色)
2255	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式						3号瓦	SK005(白)
2256	96	榎田	瓦	和瓦,EMD形式							SK005(白)
2257	96	T93	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.8					NT005(白)
2258	96	榎田T	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.0				3号瓦	SK005(白)
2259	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.7					SK005(白)
2260	96	榎田T	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.2					SK005(黒色)
2261	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.7				3号瓦	SK005(白)
2262	96	榎田T	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.2	71			3号瓦	SK005(黒色)
2263	96	T96	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.0					NT005(白)
2264	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.7					SK005(白) 7357(黒)
2265	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.3					SK005(白)
2266	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.3				3号瓦	SK005(白)
2267	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.6	72				SK005(白) 7356(黒)
2268	96	SX01-180	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.2	70		楕圓径24.1	瓦,3号瓦	NT005(白)
2269	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.0	77		楕圓径24.3	瓦,3号瓦	NT005(白)
2270	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.8	74		楕圓径24.0	瓦,3号瓦	NT005(白)
2271	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.9	66			3号瓦	NT005(白)
2272	96	SX01-180	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径13.1					NT005(白)
2273	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		瓦当径14.0					NT005(白)
2274	96	SX01-180	瓦	和瓦,EMD形式		1号径13.7	56		厚さ2.1		NT005(白)
2275	96	榎田T	瓦	和瓦,EMD形式		1号径12.6	59		厚さ2.0		SK005(白)
2276	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式			56		厚さ2.0		SK005(白)
2277	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		1号径29.2	53		厚さ2.5		孔 SK005(白)
2278	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		1号径27.6	54		厚さ2.1		榎, 瓦 SK005(白)
2279	96	SX01-200	瓦	和瓦,EMD形式		1号径27.5	50		厚さ2.5		瓦, 瓦 SK005(白)

図号番号	調査区	遺物番号	産地・材質	器 種	時 期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内 径	外 径	備 考
2280	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径17.7	52	厚3.8			NT606(白)
2281	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径26.2	53	厚5.7			NT606(白)
2282	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径17.7	52	厚5.24			NT606(白)
2283	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			51	厚5.55			NT606(白)
2284	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			53	厚5.26			NT606(白)
2285	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径16.8	53	厚3.18			NT606(白)
2286	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			56	厚5.23			NT606(白)
2287	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径16.8	54	厚5.21			NT606(白)
2288	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径16.8	50	厚5.55			NT606(白) HW619
2289	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径15.4	53	厚5.22			NT606(白)
2290	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			58				NT606(白)
2291	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			53	厚5.23			NT606(白)
2292	96	TK2	瓦	和子瓦組形器			59				NT606(白)
2293	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径15.4	53	厚5.24			NT606(白) NK09(白)
2294	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			53	厚5.23			NT606(白)
2295	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径16.3	53	厚5.21			NT606(白)
2296	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			50	厚5.20			NT606(白)
2297	96	SD06SK01	瓦	和子瓦組形器			53	厚5.23			NT606(白)
2298	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			52	厚5.23			NT606(白)
2299	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径17.1	53	厚5.22			NT606(白)
2300	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径16.8	52	厚5.24			NT606(白)
2301	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			50	厚5.25			NT606(白)
2302	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			57	厚5.17			NT606(白)
2303	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			65	厚5.19			NT606(白)
2304	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			54	厚5.17			NT606(白)
2305	96	SK01-100	瓦	和子瓦組形器			50	厚5.18			NT606(白)
2306	96	SK01-100	瓦	和子瓦組形器			57	厚5.17			NT606(白)
2307	96	SW01-000	瓦	和子瓦組形器			40				HW619(白) NK09(白)
2308	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			36	厚5.21			NT606(白)
2309	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			45				NT606(白)
2310	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			50				NT606(白)
2311	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			50	厚5.20			NT606(白)
2312	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			48	厚5.17			NT606(白)
2313	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							NT606(白)
2314	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径14.6	51	厚5.20			NT606(白)
2315	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径14.6	49	厚5.22			NT606(白)
2316	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			57				NT606(白)
2317	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			53	厚5.18			NT606(白)
2318	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			56	厚5.12			NT606(白)
2319	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径14.7	52	厚5.23			NT606(白)
2320	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径14.9	50	厚5.19			NT606(白)
2321	96	SK01-100	瓦	和子瓦組形器			49	厚5.18			NT606(白)
2322	96	SK01-100	瓦	和子瓦組形器			47	厚5.17			NT606(白)
2323	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			38	厚5.20			NT606(白) NK09(白)
2324	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			49	厚5.18			NT606(白)
2325	96	SW01-000	瓦	和子瓦組形器			47	厚5.22			NT606(白)
2326	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			48				NT606(白)
2327	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径11.4	38	厚5.21			NT606(白)
2328	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			42				NT606(白)
2329	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			48				NT606(白)
2330	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			43	厚5.21			NT606(白)
2331	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			41				NT606(白)
2332	96	TK2	瓦	和子瓦組形器			38	厚5.19			HW619(白) NK09(白)
2333	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			37	厚5.18			NT606(白)
2334	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径11.2	38	厚5.17			NT606(白)
2335	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径11.3	38	厚5.17			NT606(白)
2336	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径14.2	36	厚5.21			NT606(白)
2337	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径14.6	36	厚5.18			NT606(白)
2338	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径11.6	36	厚5.14			NT606(白)
2339	96	TK2	瓦	和子瓦組形器		口径11.7	38	厚5.18			NT606(白) NK09(白)
2340	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径12.2	36	厚5.16			NT606(白)
2341	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径11.1	34	厚5.19			NT606(白)
2342	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			45	厚5.20			NT606(白)
2343	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			41	厚5.20			HW619(白)
2344	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			46				NT606(白)
2345	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器			42	厚5.18			NT606(白)
2346	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径11.6	36	厚5.20			NT606(白)
2347	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径12.1	38	厚5.20			NT606(白) NK09(白)
2348	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器		口径10.9	34	厚5.13			NT606(白)
2349	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2350	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2351	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2352	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2353	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2354	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2355	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2356	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2357	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2358	96	TK2	瓦	和子瓦組形器							
2359	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2360	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2361	96	TK2	瓦	和子瓦組形器							
2362	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2363	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2364	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2365	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2366	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							
2367	96	SK01-200	瓦	和子瓦組形器							

遺物一覧表

国号番号	調査区	遺物番号	遺地・材質	器 種	時期	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	内 径	特 徴	出 土 順 号	備 考
2368	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2369	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2370	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2371	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2372	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2373	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2374	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2375	96	葺石?	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2376	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2377	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2378	96	T02	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2379	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2380	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2381	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2382	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2383	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2384	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2385	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2386	96	SX01 29	瓦	全蓋軒瓦瓦								
2387	96	葺?	瓦	瓦	最大径27.6	最大径24.4	厚さ2.5	3.5×6				SK005(2)
2388	96	葺?	瓦	瓦	最大径25.2	最大径24.6	厚さ1.0	3.5×6				7.5YX10K(1)
2389	96	SX01 29	瓦	瓦	最大径23.0	最大径18.6	厚さ1.9	3.5×6				7.5YX10K(1)
2390	96	SX01 29	瓦	瓦	最大径27.4	最大径23.4	厚さ2.5	3.5×6				7.5YX10K(1)
2391	96	SX01 29	瓦	瓦	最大径27.8	最大径24.8	厚さ2.8	3.5×6				7.5YX10K(1)
2392	96	SX01 29	瓦	瓦	最大径22.8	最大径21.0	厚さ1.8	3.5×6				2.5YX20K(1)
2393	96	SX01 29	瓦	瓦	最大径28.0	最大径22.4	厚さ2.3	3.5×6				SK005(1)
2394	96	T06	瓦	瓦	最大径28.4	最大径22.8	厚さ2.9	3.5×6				7.5YX10K(1)
2395	96	SX01 29	瓦	瓦	最大径27.6	最大径24.2	厚さ2.4	3.5×6				7.5YX10K(1) 1976年11月調査
2396	96	SX01 29	瓦	瓦	最大径27.8	最大径23.2	厚さ2.5	3.5×6				7.5YX10K(1)
2397	96	SX01 19	瓦	瓦	最大径26.0	最大径20.8	厚さ2.3	3.5×6				10YX04(瓦葺)
2398	96	SX01 19	瓦	瓦	最大径26.8	最大径22.8	厚さ2.3	3.5×6				2.5YX20K(1) 7.5YX10K(1)
2399	96	SX01 29	瓦	瓦	最大径26.2	最大径22.4	厚さ2.9	3.5×6				7.5YX10K(1)
2400	96	SX01 29	瓦	瓦	最大径32.8	最大径28.6	厚さ2.1					2.5YX20K(1)
2401	96	SX01 29	瓦	平瓦	最大径31.4	最大径27.2	厚さ2.4					7.5YX10K(1)
2402	96	SX01 29	瓦	平瓦	最大径27.6	最大径23.0	厚さ2.4					5YX10K(1) 4号
2403	96	SX01 29	瓦	平瓦	最大径31.8	最大径26.6	厚さ2.6					2.5YX20K(1) 10YX02K(1)
2404	96	T01	瓦	瓦	最大径18.6	最大径12.0	厚さ2.4					7.5YX10K(1) 1976年11月調査
2405	96	SX01 29	瓦	平瓦	最大径32.2	最大径28.8	厚さ2.3					10YX05K(1)
2406	96	SX01 29	瓦	平瓦	最大径32.0	最大径27.6	厚さ3.1					
2407	96	SX01 29	瓦	平瓦	最大径32.4	最大径28.0	厚さ2.3					
2408	96	SX01 29	瓦	平瓦	最大径26.4	最大径22.8	厚さ2.0					
2409	96	SX01 29	瓦	平瓦	最大径32.0	最大径28.2	厚さ2.6					
2410	96	SX01 29	瓦	平瓦	最大径30.8	最大径27.8	厚さ2.3					
2411	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2412	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2413	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2414	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2415	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2416	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2417	96	H1	瓦	甍瓦								
2418	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2419	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2420	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2421	96	H1	瓦	甍瓦								
2422	96	SX01 19	瓦	甍瓦								
2423	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2424	96	T02	瓦	甍瓦								
2425	96	H1	瓦	甍瓦								
2426	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2427	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2428	96	H1	瓦	甍瓦								
2429	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2430	96	T15	瓦	甍瓦								
2431	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2432	96	SD01	瓦	甍瓦								
2433	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2434	96	H1	瓦	甍瓦								
2435	96	SX01 19	瓦	甍瓦								
2436	96	SK01	瓦	甍瓦								
2437	96	T15	瓦	甍瓦								
2438	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2439	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2440	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2441	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2442	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2443	96	H1	瓦	甍瓦								
2444	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2445	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2446	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2447	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2448	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2449	96	H1	瓦	甍瓦								
2450	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2451	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2452	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2453	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2454	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2455	96	SD01	瓦	甍瓦								
2456	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2457	96	SX01 29	瓦	甍瓦								
2458	96	SX01 29	瓦	甍瓦								

発掘番号	調査区	遺物番号	遺物・材質	品名	時期	口径(cm)	底径(cm)	底径(cm)	内径	外径	長さ	備考
2439	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2460	96	T01	瓦	甍瓦								
2461	96	榎1	瓦	甍瓦								
2462	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2463	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2464	96	SX01榿埋	瓦	甍瓦								
2465	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2466	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2467	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2468	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2469	96	SX01-280	瓦	甍瓦(木込)								
2470	96	SX01-280	瓦	甍瓦(榿埋)								
2471	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2472	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2473	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2474	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2475	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2476	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2477	96	SX01榿埋	瓦	甍瓦								
2478	96	SD03	瓦	甍瓦								
2479	96	SX01榿埋	瓦	甍瓦								
2480	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2481	96	SX01-18	瓦	甍瓦								
2482	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2483	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2484	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2485	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2486	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2487	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2488	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2489	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2490	96	SX01-280	瓦	瓦瓦								
2491	96	SX01-280	瓦	瓦瓦								
2492	96	SX01-280	瓦	瓦瓦								
2493	96	SX01-280	瓦	瓦瓦								
2494	96	SX01榿埋	瓦	瓦瓦								
2495	96	SX01-18	瓦	瓦瓦								
2496	96	SX01-280	瓦	瓦瓦								
2497	96	SX01-280	瓦	瓦瓦								
2498	96	SX01-280	瓦	瓦瓦								
2499	96	SX01榿埋	瓦	瓦瓦								
2500	96	SX01瓦並	瓦	瓦瓦								
2501	96	SX03	瓦	瓦瓦								
2502	96	SX01-280	瓦	瓦瓦								
2503	96	榎	瓦	瓦瓦								
2504	96	SX01-280	瓦	瓦瓦								
2505	96	SX01-280	瓦	瓦瓦								
2506	96	SX01榿埋	瓦	瓦瓦								
2507	96	SX01-280	瓦	瓦瓦								
2508	96	T06	瓦	瓦瓦								
2509	96	SX01-280	瓦	瓦瓦								
2510	96	SX01-280	瓦	瓦瓦								
2511	96	SX01-280	瓦	瓦瓦								
2512	96	SX01榿埋	瓦	瓦瓦								
2513	96	SX01-280	瓦	瓦瓦								
2514	96	SX01	瓦	瓦瓦								
2515	96	SX01瓦並	瓦	瓦瓦								
2516	96	SX01榿埋	瓦	甍瓦								
2517	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2518	96	SX01榿埋	瓦	甍瓦								
2519	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2520	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2521	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2522	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2523	96	SX01榿埋	瓦	甍瓦								
2524	96	SX01榿埋	瓦	甍瓦								
2525	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2526	96	瓦1	瓦	甍瓦								
2527	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2528	96	SX01-280	瓦	甍瓦								
2529	96	SX01	瓦	造形瓦								
2530	96	SX01榿埋	瓦	造形瓦								
2531	96	T01	瓦	造形瓦								
2532	96	SX01-280	瓦	造形瓦								
2533	96	SX01榿埋	瓦	造形瓦								
2534	96	SX01-280	瓦	造形瓦								
2535	96	SX01-280	瓦	造形瓦								
2536	96	SX01榿埋	瓦	造形瓦								
2537	96	SX01	瓦	造形瓦								
2538	96	SX01-280	瓦	造形瓦								
2539	96	SX01-280	瓦	造形瓦								
2540	96	SX01-280	瓦	造形瓦								
2541	96	SX01-280	瓦	造形瓦								
2542	96	SX01-280	瓦	造形瓦								

遺物一覧表

国号番号	調査区	遺物番号	遺地・材質	器 種	時 期	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	内 径	特 徴	製 工	備 考
2543	96	SX01 200	瓦	輪蓋い瓦								
2544	96	SX01 200	瓦	輪蓋い瓦								
2545	96	SX01 200	瓦	輪蓋い瓦								
2546	96	SX01 200	瓦	輪蓋い瓦								
2547	96	SX01 200	瓦	輪蓋い瓦								
2548	96	SX01 樽埋	瓦	輪蓋い瓦								
2549	96	SX01 200	瓦	輪蓋い瓦								
2550	96	SX01 200	瓦	輪蓋い瓦								
2551	96	SX01 200	瓦	輪蓋い瓦								
2552	96	SX01 200	瓦	輪蓋い瓦								
2553	96	SX01 200	瓦	輪蓋い瓦								
2554	96	SX01 100	瓦	筒い瓦								
2555	96	SX01 200	瓦	筒い瓦								
2556	96	T01 下層	瓦	筒い瓦								
2557	96	SX01 200	瓦	筒い瓦								
2558	96	SX01 200	瓦	筒い瓦								
2559	96	T02	瓦	筒い瓦								
2560	96	SX01 200	瓦	筒い瓦								
2561	96	SX01 200	瓦	筒い瓦								
2562	96	SX01 200	瓦	筒い瓦								
2563	96	SX01 200	瓦	瓦葺基礎瓦								
2564	96	T04	瓦	瓦葺基礎瓦								
2565	96	SX01 200	瓦	瓦葺基礎瓦								
2566	96	SX01 200	瓦	瓦葺基礎瓦								
2567	96	SX01 200	瓦	瓦葺基礎瓦								
2568	96	SX01 200	瓦	瓦葺基礎瓦								
2569	96	SX03	瓦	瓦葺基礎瓦								
2570	96	樽1	瓦	瓦葺基礎瓦								
2571	96	SX01 200	瓦	瓦葺基礎瓦								
2572	96	T05	瓦	瓦葺基礎瓦								
2573	96	SX01 200	瓦	瓦葺基礎瓦								
2574	96	SX01 200	瓦	瓦葺基礎瓦								
2575	96	S091	瓦	瓦葺基礎瓦								
2576	96	T01	瓦	瓦葺基礎瓦								
2577	96	並T	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2578	96	T01	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2579	96	SX01 樽埋	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2580	96	T08	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2581	96	T02	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2582	96	SX01 200	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2583	96	SX01 100	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2584	96	SX01 200	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2585	96	SX01 200	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2586	96	T02	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2587	96	SX01 100	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2588	96	SX01 200	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2589	96	SX01 200	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2590	96	SX01 200	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2591	96	SX01 200	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2592	96	SX01 200	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2593	96	SX01 200	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2594	96	SX01 200	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2595	96	SX01 100	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2596	96	T01	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2597	96	西畑T	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2598	96	T02	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2599	96	SX01 200	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2600	96	樽7	瓦	中瓦葺基礎瓦								
2601	96	T08	瓦	筒蓋瓦								
2602	96	SX01 200	瓦	筒蓋瓦								
2603	96	SX01 100	瓦	筒蓋瓦								
2604	96	SX01 200	瓦	筒蓋瓦								
2605	96	SX01 200	瓦	筒蓋瓦								
2606	96	SX01 200	本梨山	本梨津込陶入								
2607	96	SX01 200	本梨山	津込								
2608	96	SX01 200	本梨山	本梨津込陶								
2609	96	SX01 100	本梨山	本梨津込陶								
2610	96	SX01 200	本梨山	本梨津込陶入								
2611	96	SX01 200	本梨山	溝蓋下駄?								
2612	96	SX01 200	本梨山	筒								
2613	96	SX01 200	本梨山	津込筒								
2614	96	SX01 200	本梨山	山ノ腹								
2615	96	T01 下層	本梨山	本梨津込陶目								
2616	96	SX01 200	本梨山	へら状本梨山								
2617	96	SX01 200	本梨山	へら状ノ高筒								
2618	96	SX01 200	本梨山	台榎炭桶								
2619	96	T01 下層	本梨山	本梨津込陶入								
2620	96	T01	本梨山	本梨津込陶入								
2621	96	T01	本梨山	本梨津込陶入								
2622	96	T147下層	本梨山	本梨津込陶入								
2623	96	T01 下層	本梨山	本梨津込陶								
2624	96	T01 下層	本梨山	本梨津込陶目								
2625	96	T01 下層	本梨山	本梨津込陶								
2626	96	T01 下層	本梨山	本梨津込陶目								
2627	96	並トランプ	本梨山	本梨津込陶								
2628	96	樽5	本梨山	本梨津込陶								
2629	96	T02 下層	本梨山	高筒桶出取								
2630	96	T01	本梨山	高筒桶出取								
2631	96	T01 下層	本梨山	高筒桶出取								
2632	96	T01	本梨山	台榎炭桶								
2633	96	T01 下層	本梨山	台榎炭桶								
2634	96	T01 下層	本梨山	台榎炭桶								
2635	96	T01	本梨山	台榎炭桶								
2636	96	T02 下層	本梨山	台榎炭桶								
2637	96	T01 下層	本梨山	台榎(土製)								

調査番号	調査区	遺構番号	遺構・材質	部 類	時期	11径(cm)	12径(cm)	底径(cm)	内 径	特 徴	備 考
2638	97B	97B-1	木製品	平直板							
2639	97B	N801	木製品	漆塗り板							
2640	97B	N802	木製品	漆塗り板							
2641	97B	N803	木製品	漆塗り板							
2642	97B	N804	木製品	漆塗り板							
2643	97B	N805	木製品	漆塗り板							
2644	97B	N806	木製品	漆塗り板							
2645	97B	N807	木製品	漆塗り板							
2646	97B	N808	木製品	漆塗り板							
2647	97B	N809	木製品	漆塗り板							
2648	97B	N810	木製品	漆塗り板							
2649	97B	N811	木製品	漆塗り板							
2650	97B	N812	木製品	漆塗り板							
2651	97B	N813	木製品	漆塗り板							
2652	97B	N814	木製品	漆塗り板							
2653	97B	N815	木製品	漆塗り板							
2654	97B	N816	木製品	漆塗り板							
2655	97B	N817	木製品	漆塗り板							
2656	97B	N818	木製品	漆塗り板							
2657	97B	N819	木製品	漆塗り板							
2658	97B	N820	木製品	漆塗り板							
2659	97B	N821	木製品	漆塗り板							
2660	97B	N822	木製品	漆塗り板							
2661	97B	N823	木製品	漆塗り板							
2662	97B	N824	木製品	漆塗り板							
2663	97B	N825	木製品	漆塗り板							
2664	97B	N826	木製品	漆塗り板							
2665	97B	N827	木製品	漆塗り板							
2666	97B	N828	木製品	漆塗り板							
2667	97B	N829	木製品	漆塗り板							
2668	97B	N830	木製品	漆塗り板							
2669	97B	N831	木製品	漆塗り板							
2670	97B	N832	木製品	漆塗り板							
2671	97B	N833	木製品	漆塗り板							
2672	97B	N834	木製品	漆塗り板							
2673	97B	N835	木製品	漆塗り板							
2674	97B	N836	木製品	漆塗り板							
2675	97B	N837	木製品	漆塗り板							
2676	97B	N838	木製品	漆塗り板							
2677	97B	N839	木製品	漆塗り板							
2678	97B	N840	木製品	漆塗り板							
2679	97B	N841	木製品	漆塗り板							
2680	97B	N842	木製品	漆塗り板							
2681	97B	N843	木製品	漆塗り板							
2682	97B	N844	木製品	漆塗り板							
2683	97B	N845	木製品	漆塗り板							
2684	97B	N846	木製品	漆塗り板							
2685	97B	N847	木製品	漆塗り板							
2686	97B	N848	木製品	漆塗り板							
2687	97B	N849	木製品	漆塗り板							
2688	97B	N850	木製品	漆塗り板							
2689	97B	N851	木製品	漆塗り板							
2690	97B	N852	木製品	漆塗り板							
2691	97B	N853	木製品	漆塗り板							
2692	97B	N854	木製品	漆塗り板							
2693	97B	N855	木製品	漆塗り板							
2694	97B	N856	木製品	漆塗り板							
2695	97B	N857	木製品	漆塗り板							
2696	97B	N858	木製品	漆塗り板							
2697	97B	N859	木製品	漆塗り板							
2698	97B	N860	木製品	漆塗り板							
2699	97B	N861	木製品	漆塗り板							
2700	97B	N862	木製品	漆塗り板							
2701	97B	N863	木製品	漆塗り板							
2702	97B	N864	木製品	漆塗り板							
2703	97B	N865	木製品	漆塗り板							
2704	97B	N866	木製品	漆塗り板							
2705	97B	N867	木製品	漆塗り板							
2706	97B	N868	木製品	漆塗り板							
2707	97B	N869	木製品	漆塗り板							
2708	97B	N870	木製品	漆塗り板							
2709	97B	N871	木製品	漆塗り板							
2710	97B	N872	木製品	漆塗り板							
2711	97B	N873	木製品	漆塗り板							
2712	97B	N874	木製品	漆塗り板							
2713	97B	N875	木製品	漆塗り板							
2714	97B	N876	木製品	漆塗り板							
2715	97B	N877	木製品	漆塗り板							
2716	97B	N878	木製品	漆塗り板							
2717	97B	N879	木製品	漆塗り板							
2718	97B	N880	木製品	漆塗り板							
2719	97B	N881	木製品	漆塗り板							
2720	97B	N882	木製品	漆塗り板							
2721	97B	N883	木製品	漆塗り板							
2722	97B	N884	木製品	漆塗り板							
2723	97B	N885	木製品	漆塗り板							
2724	97B	N886	木製品	漆塗り板							
2725	97B	N887	木製品	漆塗り板							
2726	97B	N888	木製品	漆塗り板							
2727	97B	N889	木製品	漆塗り板							
2728	97B	N890	木製品	漆塗り板							
2729	97B	N891	木製品	漆塗り板							
2730	97B	N892	木製品	漆塗り板							
2731	97B	N893	木製品	漆塗り板							
2732	97B	N894	木製品	漆塗り板							

遺物一覧表

国号番号	調査区	遺物番号	遺物名	材質	器種	時期	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	内径	外径	備考	出土	備考
2733	97B	N802	埴輪物	本梨山	不明(漆器?)									
2734	97B	N802	埴輪物	本梨山	不明(土器?)									
2735	97B	N802	埴輪物	本梨山	不明(漆器?)									
2736	97B	N802	埴輪物	本梨山	不明									
2737	97B	N802	埴輪物	本梨山	本器									
2738	97B	N802	埴輪物	本梨山	埴輪(漆器?)									
2739	97B	N802	埴輪物	本梨山	本器									
2740	97B	N802	埴輪物	本梨山	不明(漆器?)									
2741	97B	N802	埴輪物	本梨山	不明(漆器?)									
2742	97B	N802	埴輪物	本梨山	埴輪(漆器?)									
2743	97B	N802	埴輪物	本梨山	埴輪(漆器?)									
2744	97B	N802	埴輪物	本梨山	埴輪(漆器?)									
2745	97B	N802	埴輪物	本梨山	埴輪(漆器?)									
2746	97B	N802	埴輪物	本梨山	埴子(ハニ泥)									
2747	97B	N802	埴輪物	本梨山	埴輪(漆器?)									
2748	97B	N802	埴輪物	本梨山	埴輪(漆器?)									
2749	97B	N802	埴輪物	本梨山	埴子(下敷)									
2750	97B	N802	埴輪物	本梨山	埴輪(漆器?)									
2751	97B	N802	埴輪物	本梨山	ハニ									
2752	97B	N802	埴輪物	本梨山	埴子の前									
2753	97B	N802	埴輪物	本梨山	埴									
2754	97B	N802	埴輪物	本梨山	不明(加工物?)									
2755	97B	N802	埴輪物	本梨山	不明(漆器?)									
2756	97B	N802	埴輪物	本梨山	漆器									
2757	97B	N802	下層	本梨山	本器(漆器)									
2758	97B	N802	下層	本梨山	不明(土器?)									
2759	97B	N802	下層	本梨山	不明(土器?)									
2760	97B	N802	下層	本梨山	不明(漆器?)									
2761	97B	N802	下層	本梨山	不明(漆器?)									
2762	97B	N802	下層	本梨山	埴輪(漆器?)									
2763	97B	N802	下層	本梨山	不明(漆器?)									
2764	97B	N802	下層	本梨山	本器(漆器?)									
2765	97B	N802	下層	本梨山	不明(加工物?)									
2766	97B	N802	下層	本梨山	不明(漆器?)									
2767	97B	N802	下層	本梨山	埴輪(漆器?)									
2768	97B	N802	下層	本梨山	埴子(ハニ泥)									
2769	97B	N8A	本梨山	不明(漆器?)										
2770	97B	N8B	(漆器?)	本梨山	埴									
2771	97C	S801	下層	本梨山	本器(漆器)									
2772	97C	S801	(漆器?)	本梨山	本器(漆器)									
2773	97C	S801	本梨山	本器(漆器)										
2774	97C	S801	本梨山	本器(漆器)										
2775	97C	S801	本梨山	漆器										
2776	97C	S801	前本器	本梨山	本器(漆器)									
2777	97C	S802	下層	本梨山	本器(漆器)									
2778	97C	S802	(漆器?)	本梨山	本器(漆器)									
2779	97C	S802	本梨山	漆器(漆器)										
2780	97C	S802	本梨山	埴子(ハニ泥)										
2781	97C	S802	下層	本梨山	本器(漆器)									
2782	97C	S802	(漆器?)	本梨山	本器(漆器)									
2783	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2784	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2785	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2786	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2787	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2788	97C	埴1	本梨山	古形(漆器)										
2789	97C	埴1	本梨山	古形(漆器)										
2790	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2791	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2792	97C	埴1	本梨山	不明(漆器?)										
2793	97C	埴1	本梨山	不明(漆器?)										
2794	97C	埴1	本梨山	不明(漆器?)										
2795	97C	埴1	本梨山	不明(加工物?)										
2796	97C	埴1	本梨山	不明(漆器?)										
2797	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2798	97C	埴1	本梨山	不明(漆器?)										
2799	97C	埴1	本梨山	不明(漆器?)										
2800	97C	埴1	本梨山	不明(漆器?)										
2801	97C	埴1	本梨山	埴子の前										
2802	97C	埴1	本器	埴子(ハニ泥)										
2803	97C	埴1	本梨山	不明(漆器?)										
2804	97C	埴1	本梨山	埴子の前										
2805	97C	埴1	本梨山	埴子										
2806	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2807	97C	埴1	本梨山	不明(漆器?)										
2808	97C	埴1	本梨山	不明(漆器?)										
2809	97C	埴1	本梨山	埴子の前										
2810	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2811	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2812	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2813	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2814	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2815	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2816	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2817	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2818	97C	埴1	(漆器?)	本梨山	本器(漆器)									
2819	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2820	97C	埴1	本梨山	本器										
2821	97C	埴1	本梨山	本器										
2822	97C	埴1	本梨山	不明(漆器?)										
2823	97C	埴1	本梨山	不明(漆器?)										
2824	97C	埴1	本梨山	不明(漆器?)										
2825	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										
2826	97C	埴1	本梨山	本器										
2827	97C	埴1	本梨山	本器(漆器)										

国号番号	調査区	遺構番号	遺物	材質	品名	時期	11径(mm)	12径(mm)	底径(mm)	内径	外径	高さ	備考
2828	97C	跡目	木製品	木製品	不明材料								
2829	97C	跡目	木製品	木製品	竹製炭飯								
2830	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯?								
2831	97C	跡目	木製品	木製品	貝殻炭飯 跡目								
2832	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯								
2833	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯								
2834	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯								
2835	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯								
2836	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯								
2837	97C	跡目	木製品	木製品	1径付 100?								
2838	97C	跡目	木製品	木製品	1径付 100?								
2839	97C	跡目	木製品	木製品	竹								
2840	97C	跡目	木製品	木製品	不明材料								
2841	97C	跡目	木製品	木製品	木製漆器柄杓								
2842	97C	跡目	木製品	木製品	木製漆器柄杓								
2843	97C	跡目	木製品	木製品	木製漆器								
2844	97C	跡目	木製品	木製品	木製漆器								
2845	97C	跡目	木製品	木製品	木製漆器								
2846	97C	跡目	木製品	木製品	力形漆器炭飯								
2847	97C	跡目	木製品	木製品	竹製炭飯								
2848	97C	跡目	木製品	木製品	竹製炭飯								
2849	97C	跡目	木製品	木製品	不明材料								
2850	97C	跡目	木製品	木製品	竹製炭飯								
2851	97C	跡目	木製品	木製品	力形漆器炭飯								
2852	97C	跡目	木製品	木製品	竹製炭飯								
2853	97C	跡目	木製品	木製品	竹製炭飯								
2854	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯								
2855	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯								
2856	97C	跡目	木製品	木製品	貝殻炭飯								
2857	97C	跡目	木製品	木製品	子1径付 100?								
2858	97C	跡目	木製品	木製品	子1径付 100?								
2859	97C	跡目	木製品	木製品	不明角材								
2860	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯下								
2861	97C	跡目	木製品	木製品	竹								
2862	97C	跡目	木製品	木製品	不明角材								
2863	97C	跡目	木製品	木製品	貝殻炭飯 跡目								
2864	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯								
2865	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯?								
2866	97C	跡目 (SK02)	木製品	木製品	炭								
2867	97C	跡目	木製品	木製品	竹製炭飯								
2868	97C	跡目 (SK02)	木製品	木製品	貝殻炭飯 跡目								
2869	97C	跡目	木製品	木製品	不明材料								
2870	97C	跡目 (SK02)	木製品	木製品	貝殻炭飯 跡目?								
2871	97C	跡目	木製品	木製品	竹製炭飯								
2872	97C	跡目	木製品	木製品	子籠の柄								
2873	97C	跡目 (SK02)	木製品	木製品	子1径付 100?								
2874	97C	跡目 (SK02)	木製品	木製品	竹製炭飯								
2875	97C	跡目	木製品	木製品	貝殻炭飯 跡目?								
2876	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯								
2877	97C	跡目 (SK02)	木製品	木製品	不明材料								
2878	97C	跡目 (SK02)	木製品	木製品	不明材料								
2879	97C	跡目	木製品	木製品	木製漆器柄杓								
2880	97C	跡目	木製品	木製品	木製漆器柄杓								
2881	97C	跡目	木製品	木製品	木製漆器								
2882	97C	跡目	木製品	木製品	木製漆器柄杓								
2883	97C	跡目	木製品	木製品	木製漆器								
2884	97C	跡目	木製品	木製品	力形漆器炭飯								
2885	97C	跡目	木製品	木製品	力形漆器炭飯								
2886	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯?								
2887	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯								
2888	97C	跡目	木製品	木製品	竹製炭飯								
2889	97C	跡目	木製品	木製品	同上 上 上 上								
2890	97C	跡目	木製品	木製品	力形漆器炭飯								
2891	97C	跡目	木製品	木製品	1径付 100?								
2892	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯								
2893	97C	跡目	木製品	木製品	不明材料 跡目?								
2894	97C	跡目	木製品	木製品	竹								
2895	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯								
2896	97C	跡目	木製品	木製品	竹								
2897	97C	跡目	木製品	木製品	竹								
2898	97C	跡目	木製品	木製品	竹								
2899	97C	跡目	木製品	木製品	竹								
2900	97C	跡目	木製品	木製品	竹子 1径付								
2901	97C	跡目	木製品	木製品	不明加工材料								
2902	97C	跡目	木製品	木製品	竹子 1径付								
2903	97C	跡目	木製品	木製品	不明加工材料								
2904	97C	跡目	木製品	木製品	不明材料								
2905	97C	跡目	木製品	木製品	不明材料								
2906	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯								
2907	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯 跡目								
2908	97C	跡目	木製品	木製品	不明角材								
2909	97C	跡目	木製品	木製品	不明角材								
2910	97C	跡目	木製品	木製品	不明角材								
2911	97C	跡目	木製品	木製品	貝殻炭飯 跡目								
2912	97C	跡目	木製品	木製品	貝殻炭飯 跡目								
2913	97C	跡目	木製品	木製品	貝殻炭飯 跡目								
2914	97C	跡目	木製品	木製品	不明角材								
2915	97C	跡目	木製品	木製品	不明角材								
2916	97C	跡目	木製品	木製品	子1径付 100?								
2917	97C	跡目	木製品	木製品	不明材料								
2918	97C	跡目	木製品	木製品	不明材料								
2919	97C	跡目	木製品	木製品	植物炭飯								
2920	97C	跡目	木製品	木製品	子籠の柄								
2921	97C	跡目	木製品	木製品	漆器下駄								
2922	97C	跡目	木製品	木製品	瓦瓦紋押餅								

遺物一覧表

国庫番号	調査区	遺物番号	遺物	材質	器種	時期	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	内径	外径	備註
2923	97C	瓶V	木製品		蓋付短冊							
2924	97C	瓶V	木製品		箱付短冊							
2925	97C	瓶V	木製品		短冊							
2926	97C	瓶V	木製品		二面加工短冊							
2927	97C	瓶V	木製品		箱付短冊							
2928	97C	瓶V	木製品		箱付短冊							
2929	97C	瓶V	木製品		箱付短冊							
2930	97C	瓶V	木製品		箱付短冊							
2931	97C	瓶V	木製品		箱付短冊							
2932	97C	瓶V	木製品		箱付短冊							
2933	97C	瓶	木製品		木製蓋付短冊							
2934	99A	SK248	木製品		木製蓋付短冊							
2935	99A	SD1	木製品		木製蓋付短冊							
2936	99A	SK248	木製品		箱付短冊							
2937	99A	SK33	木製品		短冊							
2938	99B	SD20	木製品		短冊							
2939	99B	SD31	木製品		蓋付短冊							
2940	99B	SD30	木製品		蓋							
2941	99B	SD20	木製品		蓋							
2942	99B	蓋	木製品		蓋付短冊							
2943	99B	蓋	木製品		蓋付短冊							
2944	99B	不明	木製品		蓋付短冊							
2945	97C	SW01	木製品		1.朽木							
2946	97C	SW01	木製品		1.朽木							
2947	97C	SW01	木製品		1.朽木							
2948	97C	SW01	木製品		1.朽木							
2949	97C	SW01	木製品		1.朽木							
2950	97C	SW01	木製品		1.朽木							
2951	97C	SW01	木製品		1.朽木							
2952	97C	SW01	木製品		1.朽木							
2953	97C	SW01	木製品		1.朽木							
2954	97C	SW01	木製品		1.朽木							
2955	97C	SW01	木製品		1.朽木							
2956	97C	覆1	木製品		短冊							
2957	97C	覆1	木製品		短冊							
2958	97C	覆2	木製品		短冊							
2959	97C	覆2	木製品		短冊							
2960	97C	覆3(木製)	木製品		短冊							
2961	97C	覆3	木製品		短冊							
2962	97C	覆4	木製品		短冊							
2963	97C	覆5	木製品		短冊							
2964	97C	覆	木製品		短冊							
2965	97C	覆	木製品		短冊							
2966	97B	N802群物等	藤織製品		布		残存径1.03		残存径0.89			
2967	97B	N802群物等	藤織製品		布		残存径0.80		残存径0.68			
2968	97B	N802群物等	藤織製品		布		残存径1.40		残存径0.79			
2969	97B	N802群物等	藤織製品		布		残存径0.63		残存径0.75			
2970	97B	N802群物等	藤織製品		布							
2971	96	SA01 200	右衛門		石臼				蓋付径32.0			
2972	97C	SW01(蓋込)	右衛門		石臼							
96	SA01	右衛門			石臼				蓋付径38.4			
2974	96	SA01 200	右衛門		石臼				蓋付径32.0			
2975	97B	N8A	右衛門		石臼							
2976	96	SA01	右衛門		石臼							
2977	96	SA01 200	右衛門		右衛門				蓋付径33.1		残17.6	
2978	96	SD01	右衛門		右衛門				蓋付径33.1		残17.0	
2979	97C	蓋上	右衛門		右衛門				蓋付径13.4		残19.3	
2980	97C	SW01(蓋込)	右衛門		右衛門				蓋付径13.6		残18.2	
2981	96	SD01	右衛門		右衛門				蓋付径13.9		残19.5	
2982	97C	SW01(蓋込)	右衛門		右衛門				蓋付径14.8		残20.8	
2983	97C	蓋上	右衛門		右衛門				蓋付径14.5		残20.2	
2984	97C	SW01(蓋込)	右衛門		右衛門				蓋付径14.7		残21.0	
2985	97C	SW01(蓋込)	右衛門		右衛門				蓋付径14.8		残20.7	
2986	96	SA01 200	右衛門		右衛門				17.6		17.2	16.5
2987	96	蓋?	右衛門		右衛門				最大径1		最大径1	10.3
2988	96	SA01 200	右衛門		右衛門				蓋付径18.7		残11.6	
2989	96	SA01 200	右衛門		右衛門				蓋付径20.5		残10.0	
2990	97C	SW01(蓋込)	右衛門		右衛門				蓋付径19.3		残16.8	
2991	96	SA01 200	右衛門		右衛門				蓋付径21.0		残16.8	
2992	96	SA01 200	右衛門		右衛門				蓋付径22.3		残17.0	
2993	96	SA01 200	右衛門		右衛門				蓋付径17.3		残12.9	
2994	96	SA01 200	右衛門		右衛門				13.0			
2995	97C	SW01(蓋込)	右衛門		右衛門				蓋付径14.0			
2996	97C	SW01	右衛門		右衛門				蓋付径14.3			
2997	97C	SW01(蓋込)	右衛門		右衛門							
2998	96	SA01 200	右衛門		右衛門							
2999	96	SA01 200	右衛門		右衛門							
3000	99A	SK94	右衛門		短冊							
3001	99A	SD01	右衛門		短冊							
3002	99A	SD12	右衛門		短冊							
3003	96	SD01	右衛門		短冊							
3004	97B	N802(右衛門)	右衛門		短冊							
3005	97B	N801	右衛門		短冊							
3006	97C	瓶?	右衛門		短冊							
3007	99A	SD11	右衛門		短冊							
3008	99A	SD03	右衛門		短冊							
3009	99A	SK203	右衛門		短冊							
3010	99B	蓋	右衛門		短冊							
3011	99B	SK94	右衛門		短冊							
3012	99B	蓋付?	右衛門		短冊							
3013	99B	瓶?	右衛門		短冊							
3014	99A	SK89	右衛門		短冊							
3015	99A	瓶?	右衛門		短冊							
3016	99B	SK195	右衛門		短冊							

発掘番号	調査区	遺構番号	遺物・材質	器種	時期	1層(m)	深高(cm)	底径(cm)	内径	外径	備考
3017	95A	SK39	石製品	砥石							
3018	97C	SW01.02	石製品	砥石							
3019	99B	SK02	石製品	砥石							
3020	99A	SK44	石製品	砥石							
3021	99B	西門7	石製品	砥石							
3022	99B	SK97	石製品	砥石							
3023	97B	西7	石製品	砥石							
3024	97C	西7	石製品	砥石							
3025	95A	西7-1	石製品	砥石							
3026	97B	N802群物	漆製品	小丸刷二日月	鎌倉時代?	最大径6.5	最大幅0.0	最大厚0.1			
3027	97B	N802群物	漆製品	小丸刷二日月	鎌倉時代?	最大径6.0	最大幅0.5	最大厚0.2			
3028	97B	N802群物	漆製品	小丸刷二日月	鎌倉時代?	最大径6.5	最大幅0.0	最大厚0.2	厚色漆		
3029	97B	N802群物	漆製品	小丸刷二日月	鎌倉時代?	最大径6.4	最大幅0.1	最大厚0.2	表面調査書より		
3030	97B	N802群物	漆製品	小丸刷二日月	鎌倉時代?	最大径6.5	最大幅0.8	最大厚0.2			
3031	97B	N802群物	漆製品	小丸刷二日月	鎌倉時代?	最大径6.3	最大幅0.9	最大厚0.2			
3032	97B	N802群物上	漆製品	小丸刷二日月	鎌倉時代?	最大径15.4	最大幅0.0	最大厚0.1			
3033	97B	N802群物	漆製品	三日月	室町時代	最大径6.8	最大幅0.9	最大厚0.1			
3034	97B	N802群物	漆製品	三日月	室町時代	最大径6.5	最大幅0.0	最大厚0.1			
3035	97B	N802群物	漆製品	三日月	室町時代	最大径6.9	最大幅0.3	最大厚0.1			
3036	97B	N802群物	漆製品	三日月	室町時代	最大径6.3	最大幅0.5	最大厚0.2			
3037	97B	N802群物	漆製品	三日月	室町時代	最大径6.6	最大幅0.0	最大厚0.1	厚色漆		
3038	97B	N802群物	漆製品	三日月	室町時代	最大径6.4	最大幅0.8	最大厚0.1			
3039	97B	N802群物	漆製品	小丸	室町時代	最大径5.3	最大幅0.9	最大厚0.2	厚色漆		
3040	99A	SK03	漆製品	小丸	室町時代	最大径5.9	最大幅2.3	最大厚1.5			表面調査書より
3041	97B	SK192	漆製品	三日月	室町時代	最大径3.5	最大幅0.8	最大厚0.4			
3042	97B	N802群物	漆製品	船輪の月形	室町時代	最大径15.4	最大幅0.8	最大厚0.6	厚色漆、器内面に有線彫		
3043	96	T01	漆製品	釘		最大径12.0	最大幅0.0	最大厚0.5			
3044	96	SK01-1等	漆製品	釘		最大径8.2	最大幅0.1	最大厚1.0			表面調査書より
3045	96	SK01-1等	漆製品	釘		最大径7.4	最大幅0.6	最大厚0.2			表面調査書より
3046	96	SK01-2等	漆製品	釘		最大径6.8	最大幅0.9	最大厚0.8			
3047	96	SK01-2等	漆製品	釘		最大径6.6	最大幅0.0	最大厚0.8			
3048	96	SK01-2等	漆製品	釘		最大径5.4	最大幅0.1	最大厚0.9			表面調査書より
3049	96	T01	漆製品	釘		最大径3.6	最大幅0.1	最大厚0.6			
3050	97B	N802下層	漆製品	釘		最大径5.7	最大幅0.1	最大厚0.5			
3051	97C	西7	漆製品	釘		最大径4.3	最大幅0.1	最大厚0.3			
3052	99A	SK04	漆製品	釘		最大径5.4	最大幅0.1	最大厚0.3			表面調査書より
3053	99A	SK04	漆製品	釘		最大径7.4	最大幅0.2	最大厚0.8			表面調査書より
3054	99A	SK04	漆製品	釘		最大径6.2	最大幅0.9	最大厚0.4			表面調査書より
3055	99A	SK08	漆製品	釘		最大径4.5	最大幅0.1	最大厚0.9			
3056	99A	SK09	漆製品	釘		最大径5.2	最大幅0.3	最大厚1.0			表面調査書より
3057	99A	SK09	漆製品	釘		最大径4.9	最大幅0.5	最大厚1.0			表面調査書より
3058	99A	SK00	漆製品	釘		最大径5.9	最大幅0.5	最大厚1.5			表面調査書より
3059	99A	SK01	漆製品	釘		最大径3.3	最大幅0.1	最大厚0.7			
3060	99A	SK04	漆製品	釘		最大径6.7	最大幅0.1	最大厚0.1			
3061	99A	SK201	漆製品	釘		最大径12.7	最大幅0.5	最大厚0.8			表面調査書より
3062	99B	SK19	漆製品	釘		最大径7.8	最大幅0.6	最大厚0.9			
3063	99B	SK174	漆製品	釘		最大径5.0	最大幅0.2	最大厚0.8			
3064	99B	SK176	漆製品	釘		最大径4.5	最大幅0.5	最大厚1.0			
3065	99A	西1-1	漆製品	釘		最大径7.3	最大幅0.4	最大厚0.9			表面調査書より
3066	99A	SK01	漆製品	釘(合戦鍔)		最大径4.3	最大幅0.1	最大厚1.0			表面調査書より
3067	99B	東門7	漆製品	漆塗鍔?		最大径6.3	最大幅0.5	最大厚0.4			
3068	99B	東門7	漆製品	漆		最大径11.5	最大幅2.5	最大厚1.2			
3069	97C	西7	漆製品	漆		最大径7.8	最大幅0.0	最大厚1.0			
3070	99A	SK04	漆製品	鍔?		最大径6.9	最大幅0.0	最大厚0.9			
3071	99A	西1	漆製品	鍔(横溝鍔)		最大径7.7	最大幅0.0	最大厚1.0			
3072	97B	SK140	漆製品	六釘九弁		最大径10.6	最大幅0.8	最大厚0.9			表面調査書より
3073	99A	西1	漆製品	六釘九弁		最大径12.1	最大幅0.9	最大厚1.7			表面調査書より
3074	99A	SK01	漆製品	六釘九弁		最大径10.1	最大幅0.8	最大厚1.4			表面調査書より
3075	97B	SK101	漆製品	六釘九弁下		最大径11.2	最大幅0.2	最大厚1.5			
3076	99B	SK128	漆製品	瓦丁?		最大径25.1	最大幅0.2	最大厚1.6			
3077	99A	西1-1	漆製品	軸状製品		最大径3.8	最大幅0.2	最大厚1.0			表面調査書より
3078	99A	SK163	漆製品	軸状製品		最大径5.3	最大幅0.8	最大厚0.5			表面調査書より
3079	97B	N808 義弘的	漆製品	軸状製品		最大径4.5	最大幅0.0	最大厚0.9			表面調査書より
3080	97B	SK192	漆製品	軸状製品		最大径5.0	最大幅0.9	最大厚1.0			表面調査書より
3081	99A	SK01	漆製品	土鍔?		最大径12.0	最大幅0.1	最大厚1.8			
3082	99A	SK08	漆製品	棒状製品		最大径10.9	最大幅0.3	最大厚1.5			表面調査書より
3083	99B	西1	漆製品	棒状製品		最大径15.9	最大幅0.6	最大厚0.2			
3084	99A	SK04	漆製品	棒状製品		最大径6.6	最大幅0.9	最大厚0.7			
3085	96	SK01-2等	漆製品	棒(140)		最大径8.0	最大幅0.6	最大厚0.5			
3086	99A	西1	漆製品	煎釜?		最大径8.6	最大幅0.5	最大厚1.0			表面調査書より
3087	96	SK01-2等	漆製品	煎		最大径18.6	最大幅0.3	最大厚1.2			
3088	97C	西7	漆製品	土鍔		最大径33.8	最大幅0.0	最大厚0.6			
3089	97B	SK127	漆製品	土鍔?		最大径25.3	最大幅0.7	最大厚1.5			表面調査書より
3090	97B	SK01	漆製品	佛状製品		最大径11.5	最大幅0.6	最大厚0.2			表面調査書より
3091	99B	SK05	漆製品	佛状製品		最大径11.9	最大幅0.9	最大厚0.8			
3092	99B	SK03	漆製品	臼状製品下?		最大径12.7	最大幅0.3	最大厚0.9			
3093	99A	SK68	漆製品	臼の基材?		最大径13.1	最大幅0.0	最大厚1.2			表面調査書より
3094	97C	SW01 義弘的	漆製品	鍔		最大径13.5	最大幅0.5	最大厚1.2			
3095	97C	SW01 義弘的	漆製品	鍔		最大径40.7	最大幅0.5	最大厚1.0			
3096	97C	SW01 義弘的	漆製品	鍔		最大径24.4	最大幅0.7	最大厚1.8			
3097	97C	SW01 義弘的	漆製品	鍔		最大径17.1	最大幅0.4	最大厚1.4			
3098	97B	N802群物	銅製品	百貫金貨		最大径2.7	最大幅0.7	最大厚0.3			
3099	97B	西1-1 義弘的	銅製品	百貫金貨		最大径3.2	最大幅0.1	最大厚0.4			
3100	97B	SK183	銅製品	小銅		最大径10.3	最大幅0.6	最大厚0.7			
3101	97B	N802群物	銅製品	小銅		最大径10.0	最大幅0.4	最大厚0.4			

遺物一覽表

発掘番号	調査区	遺物番号	遺物名	材質	器種	時期	1/3(cm)	2/3(cm)	3/3(cm)	内	外	備	出	備
3102	98B	98B-1	骨製物	鹿角	小物	不明	最大径7.5	最大径6.1	最大径6.6					
3103	98	98-1	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径4.8	最大径1.7	最大径6.6					
3104	97C	97C-1	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径3.6	最大径2.2	最大径2.8					
3105	97B	N802	N802群物	鹿角	鹿角	不明	最大径18.4	最大径6.4	最大径9.8					
3106	97B	97B-1	N802群物	鹿角	鹿角	不明	最大径10.5	最大径4.5	最大径5.2					
3107	97B	97B-2	N802群物	鹿角	鹿角	不明	最大径15.4	最大径9.3	最大径1.8					
3108	97B	N802群物	N802群物	鹿角	鹿角	不明	最大径20.1	最大径1.2	最大径2.2					
3109	98	SK017	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径5.6	最大径0.6	最大径0.3					
3110	99A	SK12	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径11.1	最大径2.9	最大径1.8					
3111	99A	SK116	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径7.2	最大径0.6	最大径0.3					
3112	99A	SK116	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径1.7	最大径1.3	最大径1.2					
3113	99A	SD12	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径11.0	最大径0.4	最大径0.4					
3114	99A	SK4	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径4.7	最大径1.4	最大径0.6					
3115	99A	SK182	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径18.5	最大径0.4	最大径0.4					
3116	99A	SK94	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径9.9	最大径0.6	最大径0.5					
3117	99B	SK192	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径7.6	最大径0.3	最大径0.3					
3118	99B	3.2.2.2	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径5.8	最大径0.8	最大径0.8					
3119	99A	SK88	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径7.1	最大径0.9	最大径0.8					竹筒貯蔵容器
3120	99B	SK183	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径7.9	最大径0.4	最大径0.3					
3121	99A	99A-1	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径1.2	最大径1.2	最大径1.2					
3122	99B	99B-1	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径1.2	最大径1.2	最大径1.2					
3123	99A	SK94	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径1.4	最大径2.4	最大径0.9					
3124	99B	99B-1	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.3					鹿角加工品
3125	98	SK012	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.6	最大径2.5	最大径0.1					No.3
3126	98	SK012	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.5	最大径2.5	最大径0.1					No.8
3127	98	SK012	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.2	最大径2.2	最大径0.1					No.8
3128	98	SK012	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					No.11
3129	98	SK012	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					No.11
3130	98	SK012	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					No.10
3131	98	SK012	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					No.10
3132	98	SK012	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					No.10
3133	97C	97C-1	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.5	最大径2.5	最大径0.1					
3134	97C	97C-1	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					
3135	97C	97C-1	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					
3136	97A	97A-1	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.8	最大径2.4	最大径0.1					
3137	97A	97A-2	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					
3138	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.5	最大径2.5	最大径0.1					
3139	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					
3140	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.5	最大径2.5	最大径0.4					
3141	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					
3142	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.3	最大径2.3	最大径0.1					
3143	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.5	最大径2.5	最大径0.1					
3144	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.3	最大径2.3	最大径0.1					
3145	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					
3146	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.5	最大径2.5	最大径0.1					
3147	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					
3148	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.3	最大径2.3	最大径0.2					
3149	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.5	最大径2.5	最大径0.1					
3150	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.5	最大径2.5	最大径0.1					
3151	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.5	最大径2.5	最大径0.1					
3152	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					
3153	97B	N802群物	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.5	最大径2.5	最大径0.1					
3154	99A	SK04	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					
3155	99A	SK010	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					
3156	99A	SK22	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.5	最大径2.4	最大径0.1					
3157	99A	SK44	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.5	最大径2.5	最大径0.1					
3158	99A	SK68	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.5	最大径2.5	最大径0.1					
3159	99A	SK94	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.6	最大径2.5	最大径0.2					
3160	99A	SK112	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.4	最大径2.4	最大径0.1					
3161	99A	SK185	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.5	最大径2.4	最大径0.1					
3162	99A	No.1	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.2	最大径2.2	最大径0.1					
3163	99A	No.97	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.5	最大径2.3	最大径0.5					
3164	99A	No.97	鹿角	鹿角	小物	不明	最大径2.3	最大径2.3	最大径0.1					
3165	99A	SK198	土器	土器	土器	2.9<-	4.9	3.1	最大径1.8					黄・赤褐色付着、赤褐色付着
3166	99A	SK198	土器	土器	土器	2.9<-	3.9	2.7	最大径0.9					赤褐色付着
3167	99A	99A-1	土器	土器	土器	2.9<-	5.1	4.0	最大径1.0					赤褐色付着、赤褐色付着
3168	99A	SK94	土器	土器	土器	2.9<-								赤褐色付着、赤褐色付着
3169	99A	SK219	土器	土器	土器	2.9<-								赤褐色付着、赤褐色付着
3170	99A	99A-1	土器	土器	土器	2.9<-	11.0	8.4	最大径1.3					赤褐色付着、赤褐色付着
3171	99A	99A-2	土器	土器	土器	2.9<-	5.3	4.9	最大径0.7					赤褐色付着
3172	99A	SK94	土器	土器	土器	2.9<-	8.9	5.5	最大径1.2					赤褐色付着、赤褐色付着
3173	99A	SD12	土器	土器	土器	2.9<-								赤褐色付着、赤褐色付着
3174	99A	SK89	土器	土器	土器	2.9<-								赤褐色付着、赤褐色付着
3175	99A	SK198	土器	土器	土器	2.9<-	8.5	8.4	最大径1.2					赤褐色付着、赤褐色付着
3176	99A	SK89	土器	土器	土器	2.9<-	5.3	5.3	最大径0.5					赤褐色付着、赤褐色付着
3177	99A	99A-1	土器	土器	土器	2.9<-	4.4	3.4	最大径0.9					赤褐色付着、赤褐色付着
3178	99A	SD12	土器	土器	土器	2.9<-								赤褐色付着、赤褐色付着
3179	99A	SK94	土器	土器	土器	2.9<-								赤褐色付着、赤褐色付着
3180	99A	SK89	土器	土器	土器	2.9<-	6.4	6.1	最大径1.2					赤褐色付着、赤褐色付着
3181	99A	SK89	土器	土器	土器	2.9<-	4.1	2.9	最大径1.1					赤褐色付着

国名番号	調査区	遺構番号	所在地	材質	器種	時期	口径(cm)	底径(cm)	底径(cm)	内径	出物	備考
3182	99A	SK198	土師器	土器<Ⅱ>			3.7	2.0	最大厚0.9	黒土陶片、赤色付着物	炭灰付	
3183	99A	様Ⅱ	土師器	土器<Ⅱ>			3.5	3.4	最大厚0.7	黒土陶片、赤色付着物		
3184	99A	SK198	土師器	土器<Ⅱ>			3.3	2.3	最大厚1.0	黒土陶片、赤色付着物	黒土陶片	
3185	99A	様Ⅱ	土師器	土器<Ⅱ>			3.3	3.0	最大厚0.8	黒土陶片、赤色付着物	黒土、白<Ⅱ>付着	
3186	99A	SD12	土師器	土器<Ⅱ>						赤土陶片付着、赤褐色付着物	黒土陶片	
3187	99A	SK39	土師器	土器<Ⅱ>						赤土陶片付着、赤褐色付着物		
3188	99A	SK198	土師器	土器<Ⅱ>			4.3	3.4	最大厚0.8	白土付着物	黒土陶片	
3189	99A	様Ⅱ	土師器	土器<Ⅱ>			5.9	5.4	最大厚0.7	黒土陶片、赤土陶片、赤色付着物		
3190	99A	様Ⅱ	土師器	土器<Ⅱ>			3.4	2.8	最大厚0.9	赤土陶片付着、赤褐色付着物		
3191	99A	SK39 No.4	土師器	土器<Ⅱ>			6.5	5.3	最大厚0.8	赤土陶片付着、赤褐色付着物	陶片<Ⅱ>	
3192	99A	様Ⅱ	土師器	土器<Ⅱ>			3.0	2.4	最大厚0.6	赤色付着物、赤褐色付着物	陶片<Ⅱ>	
3193	99A	SK30 No.6	土師器	土器<Ⅱ>			4.9	4.9	最大厚0.5	赤土陶片付着、赤褐色付着物	陶片<Ⅱ>	
3194	99A	SK39	土師器	土器<Ⅱ>						赤土陶片付着、灰色付着物	陶片<Ⅱ>	
3195	99A	SK39	土師器	土器<Ⅱ>						赤土陶片付着、灰色付着物	陶片<Ⅱ>	
3196	99A	様Ⅱ	土師器	土器<Ⅱ>			5.2	4.5	最大厚1.0	赤土陶片	陶片<Ⅱ>	
3197	99A	SK39	土師器	土器<Ⅱ>			2.2	1.8	最大厚1.2	赤色付着物、白<Ⅱ>付着	黒土陶片	
3198	99A	SD12	土師器	土器<Ⅱ>			4.2	4.5	最大厚1.0		赤色付着物	
3199	99A	SK24	赤瓦葺遺物	陶瓦			最大径2.3	最大厚0.4	最大厚0.5		青銅	
3200	99A	様Ⅱ	赤瓦葺遺物	陶瓦			最大径0.7	最大厚0.6	最大厚0.5			
3201	99A	SK219	赤瓦葺遺物	陶瓦			最大径1.2	最大厚0.9	最大厚0.5			
3202	99A	SK219	赤瓦葺遺物	陶瓦							緑土付着、白<Ⅱ>付着	
3203	99A	SK219	赤瓦葺遺物	陶瓦			最大径1.8	最大厚0.8	最大厚1.0			
3204	99A	SK39	赤瓦葺遺物	陶瓦			最大径3.4	最大厚0.0	最大厚1.2		灰色付着	
3205	99A	SD04	赤瓦葺遺物	陶瓦			最大径3.0	最大厚0.8	最大厚1.6		緑土、赤色付着物付着	
3206	99A	SK34	赤瓦葺遺物	瓦葺片			最大径5.5	最大厚0.5	最大厚2.3	黒土付着	全面に赤色付着、黒土に緑土付着	
3207	99A	SD01	赤瓦葺遺物	土師陶器類跡						土師陶器類	土師陶器類	
3208	99A	SD05	赤瓦葺遺物	陶器跡			最大径10.7	最大厚0.0	最大厚3.1	土師陶器類	土師陶器類	
3209	99A	SD01	赤瓦葺遺物	土師陶器類跡			最大径11.2	最大厚0.5	最大厚7.6	土師陶器類	土師陶器類	
3210	99A	SK114	土師器	皿<Ⅰ>							黒土陶片	
3211	99A	SK104	土師器	皿<Ⅰ>							黒土陶片	
3212	99A	SD12	土師器	皿<Ⅰ>							黒土陶片	
3213	99A	SK219	土師器	皿<Ⅰ>							黒土陶片	
3214	99A	SK34	土師器	皿<Ⅰ>							黒土陶片	
3215	99A	SK37	赤瓦葺遺物	砂器<Ⅱ>							黒土陶片	
3216	99B	曹地物	土師器	皿<Ⅰ>			最大径5.0	最大厚0.4	最大厚3.2		赤土付着、赤色付着物	
3217	99B	SK180	赤瓦葺遺物	瓦葺片			最大径2.1	最大厚0.2	最大厚1.4		白<Ⅱ>付着	
3218	99B	SK180	赤瓦葺遺物	瓦葺片			最大径3.0	最大厚0.7	最大厚1.7			
3219	99B	SK180	赤瓦葺遺物	瓦葺片			最大径3.4	最大厚0.4	最大厚1.7			
3220	99B	SK194	赤瓦葺遺物	瓦葺片			最大径4.6	最大厚0.4	最大厚1.1			
3221	99B	曹地物	赤瓦葺遺物	陶器跡			最大径7.7	最大厚0.8	最大厚1.5	白<Ⅱ>付着	灰色付着	
3222	96	SD01<Ⅱ>	赤瓦葺遺物	土師陶器類跡						灰色付着	灰色付着、白<Ⅱ>、赤褐色付着	
3223	96	SD01<Ⅱ>	赤瓦葺遺物	土師陶器類跡						土師陶器類	土師陶器類	
3224	99A	SD10	赤瓦葺遺物	砂器<Ⅱ>			最大径10.1	最大厚0.3	最大厚1.2	黒土付着	黒土付着、赤褐色付着	
3225	96	T91下層	陶瓦							SD10	SD14	
3226	97B	SD01北	陶瓦							SD14		
3227	97B	南T1	土師器	皿<Ⅰ>			最大径6.9	最大厚0.4	最大厚2.4		表面に赤土付着、鉄片のみ付着	SYKAW炭
3228	97B	SD01南	赤瓦葺遺物	陶器跡			最大径7.4	最大厚0.7	最大厚2.3	石土灰付着	石土灰付着	
3229	97B	SD01西	赤瓦葺遺物	砂器跡			最大径10.9	最大厚0.7	最大厚2.2	石土灰付着	土師陶器類	
3230	97B	NRA	皿<Ⅰ>				最大径12.8	最大厚0.1	最大厚0.7		土師陶器類	
3231	99A	様Ⅰ<Ⅰ>	板瓦	板瓦			最大径3.0	最大厚0.9	最大厚0.4		切欠	
3232	99A	様Ⅰ<Ⅱ>	板瓦	板瓦			最大径3.1	最大厚0.1	最大厚0.2			
3233	99A	様Ⅰ<Ⅲ>	赤瓦葺遺物	土師陶器類跡			最大径5.0	最大厚0.4	最大厚1.3	緑土付着	中央の白土	

軒丸瓦・軒平瓦一覧表の凡例

この表は軒丸瓦・軒平瓦の全資料を一覧表にまとめたものである。

「型式」は本文記載の瓦当面紋様分類を指している。この分類に該当しないものや識別できないものは「不明」とした。

「整理番号」は軒丸瓦・軒平瓦に通番をつけたもので、実測図掲載資料以外のものはこの番号で整理されている。

各種データの内容については、下記に概要を記載したが、詳細は「清洲城下町遺跡Ⅳ」（鈴木編1997）のp54～p57を参照されたい（単位は長さがmm、重さがg、残存率と巴長の角度は°で表記した）。

「遺構」は発掘調査当時の遺構番号をそのまま表記した。

軒丸瓦の凡例

「形状」は特徴のある形状のもののみを記入した。「棧」は筒部に棧が残存するもの、「孔」は筒部に焼成前に設けられた孔が残存するもの、「穿孔」は筒部に焼成後に設けられた孔が残存するもの、「鳥衾」は鳥衾瓦と推定されたものをそれぞれ示している。

「筒長」、「筒幅」、「筒厚」、「高さ」は完存するものについて記録した。

「重さ」は全重量を10g単位で記録した。

「コビキ」は筒部表面に残存する粘土板成形痕について記載し、コビキAを「A」、コビキBを「B」とした。

「直径」は瓦当面全体の径、「内径」は内区（巴紋）の径、「巴長」は巴紋が巡る角度、「外幅」は珠紋が巡る外区の幅、「珠数」は珠紋の数、「珠径」は珠紋の径、「文径」は周縁幅を除く文様区の径、「周幅」は周縁区の幅、「周高」は周縁区の外区に対する高さ、「軒厚」は瓦当部の厚さ、「残率」は周縁区に残存する角度をそれぞれ示している。

軒平瓦の凡例

「形状」は特徴のある形状のもののみを記入した。「棧」は平瓦部に棧が残存するもの、「孔」は平瓦部に焼成前に設けられた孔が残存するもの、「罅」は平瓦の両側端部に設けられた罅が残存するもの、「水返し」は平瓦部に水返しが残存するものをそれぞれ示している。

「左長」、「右長」、「頭長」、「尻長」は残存する長さを記録した。

「厚」、「高さ」は完存するものについて記録した。

「重さ」は全重量を10g単位で記録した。

「紋横」紋様区の横幅、「紋縦」は紋様区の縦幅、「外上」は上位の外区幅、「外下」は下位の外区幅、「脇左」は左側の脇区の幅、「脇右」は右側の脇区の幅、「周高」は周縁区の外区に対する高さ、「上厚」は平瓦部付近の瓦当部の厚さ、「下厚」は瓦当部下端の瓦当部の厚さ、「頸高」は瓦当部下端から平瓦部までの距離をそれぞれ示している。

軒丸瓦一覽表(1)

型式	整理番号	形状	直径	幅	重さ	コバ高	高さ	傾斜	葺き	葺き	内径	内径	外径	棟数	支棟	間隔	軒厚	葺き区	グリップ	建機	図面番号				
M101	1401				27	390	B	1									80	96	66	北東T	2174				
M101	1402				130	A	1									25	65	96	66	北東T	2175				
M101	1403				80	A	1									24	50	96	66	北東T	2176				
M101	1404				120	A	1									22	70	96	66	北東T	2177				
M101	1404				120	A	1									22	70	96	66	北東T	2177				
M101	1404				120	A	1									22	70	96	66	北東T	2177				
M101	1404				120	A	1									22	70	96	66	北東T	2177				
M101	1404				120	A	1									22	70	96	66	北東T	2177				
M101	1404				120	A	1									22	70	96	66	北東T	2177				
M121	177	孔	289	152	26	2960	A	88	1					7	7	24	65	96	100	TO1					
M121	179				25	390	A	1						17	7	22	145	96	100	TO1下層					
M121	187				25	390	A	1						17	6	25	75	96	100	TO1下層					
M121	217				670	A	1							15	6	23	80	96	110	TO1					
M121	224				310	A	1							16	6	20	66	96	100	TO1					
M121	1405				25	110	A	1		163	85	255	14	16	7	117	23	8	20	260	96	100	TO1	2178	
M121	1406				23	1490	A	2		169	87	255	15	16	7	121	23	8	18	360	96	100	TO1	2179	
M121	1407				148	24	1840	A	75	1	166	85	270	15	16	7	117	23	8	20	360	96	100	TO1	2180
M121	1408				153	25	2020	A	83	1	166	85	270	15	16	8	118	25	8	25	360	96	150	TO1	2181
M121	1852	塊	268	154	26	2000	A	81	1					17	8	24				85	96	90	TO1		
M121	1926				21	990	A	1						17	9	20				130	97C	66	TO1		
M121	1935				153	23	1600	A	76	5	165	83	250	15	7	116	23	8	24	245	96	111	TO1	新工分組1	
M121	1130				21	530	B	1						7	7	26				110	96	128	TO1		
M121	168				20	240	B	2						20	6	21	8	23	130	96	110	TO1			
M121	169				180	A	1							14	9	18	5	25	120	96	111	TO1			
M121	170				330	A	1							22	7	24	8	27	100	96	138	TO1			
M121	171				100	A	1							7	7					96	154	160	TO1		
M121	172				26	800	B	2		166	81	17		7	7	116	25			120	96	150	TO1		
M121	173				140	A	1							15	7	27	10	25	65	96	131	TO1			
M121	174				90	A	1							15	7	26				50	96	96	TO1		
M121	175				420	B	2		174	88	210	18		7	7	122	28			65	96	100	TO1		
M121	176				500	A	1		174	85	225	17		8	8	120	24	8	21	185	96	100	TO1		
M121	178				360	A	1			86	265	19		7	7	22	8	19	80	96	128	TO1			
M121	180				340	A	1			18	6	24		9	25	150	96	100				TO1下層			
M121	181				21	990	A	1		15	7	16	6	20	20	96	150					TO1			
M121	182				80	A	1			14	7	16	6	20	20	96	150					TO1			
M121	183				60	A	1			14	7	16	6	20	20	96	150					TO1			
M121	184				70	A	1			18	6	25	5	23	40	96	121					TO1			
M121	185				180	A	1			16	7	27		27	60	96	108					TO1			
M121	186				140	A	1			17	7	25	7	25	75	96	70					TO1			
M121	188				170	A	1			15	8	24		15	8	24				45	96	66	TO1		
M121	189				140	A	1			17	7	27	9	25	70	96	110					TO1			
M121	190				80	A	1			18	7									96	121		TO1		
M121	191				90	A	1			18	7	23	8	20	60	96	131					TO1			
M121	192				80	A	1			16	6	21	7	20	20	96	121					TO1			
M121	193				60	A	1													96	111		TO1		
M121	194				140	A	1			15	6	25		10	96	150						TO1			
M121	195				70	A	1			13	8	23	5	20	50	96	121					TO1			
M121	196				110	A	1			7	24	7	24	70	96	138						TO1			
M121	197				160	A	1			20	6	25	8	21	95	96	111					TO1			
M121	198				200	A	1			15	6	25		40	96							TO1			
M121	199				40	A	1			18	7	28		25	96	128						TO1			
M121	200				50	A	1			17	7	27		25	96	100						TO1			
M121	201				60	A	1													96	170		TO1		
M121	202				70	A	1			7	25	8	23	55	96	90						TO1			
M121	203				80	A	1			18	8	24	11		96	60						TO1			
M121	204				90	A	1													96	121		TO1		
M121	205				29	470	B	1		18	8	25		60	96	131						TO1			
M121	206				50	A	1			16	8	23		10	96	120						TO1			
M121	207				100	A	1			15	6	25	9	26	35	96	121					TO1			
M121	208				90	A	1			15	7	25	11	25	50	96	128					TO1			
M121	209				110	A	1			16	8	25		65	96	74						TO1			
M121	210				120	A	1			20	6	22	8	22	45	96	60					TO1			
M121	211				120	A	1			15	6	23		65	96	100						TO1			
M121	212				170	A	1			16	7	27		80	96	100						TO1			
M121	213				120	A	1			17	6	25		50	96	100						TO1			
M121	214				80	A	1			20	6	23		55	96	96						TO1			
M121	215				20	A	1							8						96	100		TO1		
M121	216				40	A	1													96	100		TO1		
M121	218				130	A	1													96	100		TO1		
M121	219				100	A	1													96	128		TO1		
M121	220				210	A	1			15	7	23	10	27	80	96	100					TO1			
M121	221				150	A	1			16	7	23		60	96	100						TO1			
M121	222				90	A	1			7	24			40	96	100						TO1			
M121	223				80	A	1													96	170		TO1		
M121	225				110	A	1													96	100		TO1		
M121	226				320	A	1			13	8	28		85	96	74						TO1			
M121	227				200	A	1			15	6	25	8	19	95	96	70					TO1			
M121	228				120	A	1			20	7	25	10	22	75	96	100					TO1			
M121	229				50	A	1													96	100		TO1		
M121	230				30	A	1			15	8									96	100		TO1		
M121	231				200	A	1			17	8	24		110	96	60						TO1			
M121	1346				100	A	1													96	150		TO1		
M121	1541				21	340	A	1		14	7	23		35	96	110						TO1			
M121	1558				23	370	A	1						9						96	100		TO1		
M121	1855				140	A	1							9						96	100		TO1		
M121	1869				310	A	1		76	250	14			24					75	97C	66	TO1			
M122	147	塊	295	1																					

軒丸瓦一覽表 (4)

型式	整理番号	形状	筒長	筒径	高さ	コピ	破片	金目	直径	内径	円筒	瓦数	棟瓦	文様	間隔	軒数	葺率	葺率区	グラッド	遺構	図版番号				
M122	1882					90	1														SX01/130				
M123	1818					50	1				19	6	23					96	111		SX01/130				
M121	1858					50	1					26						97C	6m,6m	棟1	SX01/130				
M123	1894					80	1				20	7	22	7	24	30	97C	6m			SX01/130				
M122	1932					150	1				20	7	22	8	23	125	97C	6m			SX01/130				
M122	1932			153	24	1490	79		168	80	215	18	16	7	120	23	6	26	320	96	150	棟1			
M124	356	瓦		146	26	2370	A	82	1			17	8					0	96	15e		SX01/230			
M124	372			23	960	A	1			78	150	15	8	108	23				96	15e		SX01/230			
M124	379			28	1350	A	1			8	25							70	96	10m		SX01/230			
M124	399			28	2460	A	1					10	20					20	96	10m		SX01/230			
M124	412			140	25	2900	A	78	1		77	160	15	8	111	22		65	96	14f		SX01/230			
M124	1123			149	29	1210	A	81	1	162	78	160	16	8	114	24		230	96	13g		SX01/230			
M124	1436			144	23	2180	A	78	1	159	83	150	14	16	8	112	22	9	120	96	11k		SX01/230		
M124	1502	瓦	293	154	30	1490	A	81	1	155	79	160	16	16	9	111	24	10	19	96	96	123		SX01/230	
M124	1939			28	1090	A	1			1	170	14	8					153	96	16d		SX01/230			
M124	357			21	460	B	2			148	76	180	20	9	108	20	9	19	240	96	13h,13g		SX01/230		
M124	363	瓦	301	160	26	2400	B	82	1		18	8	21					5	96	16d		SX01/230			
M124	364	瓦	273	146	27	2460	B	81	1		14	9	22					143	96	15e		SX01/230			
M124	366			147	26	880	B	83	1	161	82	135	15	8	116	24		185	96	14k		SX01/230			
M124	371			26	1100	B	1			1	120	15	8	23				150	96	11k		SX01/230			
M124	374			167	27	1860	B	81	1		79	125	15	8	22			105	96	15e		SX01/230			
M124	375			21	590	B	1			15	9	21						80	96	15e		SX01/230			
M124	376			28	620	B	1			15	15	9	25					80	96	13h,13g		SX01/230			
M124	388			23	190	B	1			13	9	20						50	96	12c		SX01/230			
M124	398			282	22	1420	B	1			8	22						35	96	8p		SX01/130			
M124	402			30	540	B	1			1	10	17	7	23				85	96	16e		SX01/230			
M124	403			21	510	B	1			100	17	7	7	22				45	96			SX01/230			
M124	404			23	340	B	1			20	8	21						80	96	11j		SX01/230			
M124	406		207	22	790	B	2			140	17	8	23					95	96	15f		SX01/230			
M124	407			140	19	1190	B	71	1		16	6	21					145	96	15e		SX01/230			
M124	409			133	20	1450	B	74	1		135	9	9					90	96	15h		SX01/230			
M124	410			28	1090	B	1			83	155	17	7	115	22			55	96	10m		SX01/230			
M124	413			25	450	B	1			15	8	23						5	96	16d		SX01/230			
M124	414			23	450	B	1			80	145	15	7	112	24			60	96	10m		SX01/230			
M124	415			25	1030	B	1			160	80	155	16	8	113	23		8	19	290	96	12m		SX01/230	
M124	416	瓦		145	26	1490	B	87	2	162	83	150	14	8	111	24		18	96	14m		SX01/230			
M124	417			142	22	1190	B	79	1		79	165	16	8	109	21	10	12	120	96	13i		SX01/230		
M124	419	瓦	275	148	26	2460	B	83	1		77	180	15	8	24			5	96	14f		SX01/230			
M124	434			24	400	B	1			15	8	21	9	23	30			90	96	9e		SX01/230			
M124	458			25	130	B	1			15	9	23						90	96			SX01/230			
M124	489			22	680	B	1			14	8	20						95	96	15e		SX01/230			
M124	492			22	360	B	1			14	8	22						45	96	10p		SX01/230			
M124	1121			25	700	B	1			14	8	24						80	96	8e		SX01/130			
M124	1122			138	18	890	B	72	1		8	15	8	27				71	184			SX01/230			
M124	1124			23	560	B	1			8	24							100	96	12m		SX01/230			
M124	1420			140	24	1940	B	86	2	163	83	160	15	16	9	112	23	8	25	310	96	11h,10h		SX01/230	
M124	1422	瓦	283	148	26	2600	B	89	1		162	85	170	15	8	118	22		190	96	8m		SX01/230		
M124	1423	瓦	280	140	23	1800	B	81	1		158	80	155	15	8	110	22		235	15g		SX01/230			
M124	1424	瓦	277	160	26	2920	B	78	1		158	80	165	15	7	108	22		222	96			SX01/230		
M124	1425	瓦	272	145	21	2280	B	73	1		162	85	150	15	9	116	22		215	96	13h		SX01/230		
M124	1426			21	1070	B	1			154	80	155	14	16	9	109	24		24	180	96	12k		SX01/230	
M124	1427			146	26	1670	B	83	2		161	82	165	14	16	9	112	25	9	18	960	96	14g,13h		SX01/230
M124	1428			24	1070	B	1			161	83	150	13	16	8	110	26	10	23	240	96	13i		SX01/230	
M124	1429	瓦	270	140	30	3000	B	82	1		156	80	160	14	16	8	109	25	10	19	255	96	15e		SX01/230
M124	1430			143	24	2210	B	78	1		154	78	160	14	16	9	108	25	9	23	360	96	13h		SX01/230
M124	1431			140	20	1230	B	75	1		80	160	14	16	8	110	24	7	18	160	96	14f		SX01/230	
M124	1432	瓦	290	145	22	3980	B	80	1		155	80	165	13	16	8	108	23	11	19	960	96	12i		SX01/230
M124	1433	瓦	280	162	27	3570	B	83	1		155	80	155	14	16	8	109	24	10	18	300	96	12j		SX01/230
M124	1435	瓦	250	140	1800	B	80	1		165	82	160	15	16	8	113	23	10	20	360	96	14f		SX01/230	
M124	1437			149	24	1730	B	77	1		161	83	160	16	16	9	111	24	8	22	255	96	12i		SX01/230
M124	1439			25	1100	B	1			159	80	155	14	16	8	111	24	8	18	360	96	15e		SX01/230	
M124	1440			24	960	B	1			160	80	165	14	16	9	110	26	9	17	310	96	12h		SX01/230	
M124	1940			152	33	1520	B	89	2		168	82	160	14	8	115	25		80	96	14f		SX01/230		
M124	1941			149	32	1890	B	2		157	80	145	13	9	112	22		65	96	12m		SX01/230			
M124	353			30	510	B	1			154	78	155	15	8	107	23	10	20	180			SX01/230			
M124	354			410			1			71	120	15	8	23				103	24	155	96	9a		SX01/230	
M124	355			360			1			170	15	8	22	9	24	115	96	13k			SX01/230				
M124	358		144	540			2			165	83	135	14	10	114	24	9	23	185	96	12k		SX01/230		
M124	359			26	850		2			156	78	145	15	8	108	25		220	96	13,10h		SX01/230			
M124	360			40			1			79	145	17	8	23	9	24		9	16	35	96	13l		SX01/230	
M124	361			330			1			79	145	17	8	21	7	20		70	96	10m	TO3		SX01/230		
M124	362			24	1250		1			15	8	24						105	96	15e		SX01/230			
M124	365			470			1			78	125	14	8	22	8	19	125	96	12e			SX01/230			
M124	367			141	390		1			158	76	125	14	8	109	23	9	22	180	96	14f		SX01/230		
M124	368			30			1			9								0	96	15e		SX01/230			
M124	369			250			1			15	8	25						90	96	11n		SX01/230			
M124	370			160			1			15	8	23	9	20	80	96	15e				SX01/23				

軒丸瓦一覧表 (5)

型式	整理番号	形状	径長	厚	重さ	コバ	高さ	金品	貫挿	内径	外径	棟数	支棟	間高	間幅	軒庇	調子	調子	グリッド	遺構	図面番号			
M124	396		24	400	1						16	7	24			105	96	10h		SX01	棟屋			
M124	397			70	1												0	96			SX01	棟屋		
M124	400			80	1						17	7	23			40	96	10h			棟1			
M124	401		27	910							17	7	21			160	96	9h			SX01	2階		
M124	405			440	2					77	155	16	7	23	11	20	140	96	15h			SX01	2階	
M124	408		2	220	2						135	16	7	24	9	16	135	96	15h			SX01	2階	
M124	411			250	2						125	18	7	25		40	96	11h			SX01	2階		
M124	418		153	29	910	87	1			81	130	14	7	23	9	22	125	96	11h			SX01	2階	
M124	420			240	1						14	8	24			55	96	7h			東守			
M124	421			10	1											0	96	10h				棟1		
M124	422			40	1											8	22	25	96	11h		棟1		
M124	423			60	1											0	96	11h				棟1		
M124	424			40	1											0	96	12h				SX01	1階	
M124	425			110	2						15	8	20			85	96	12h				SX01	2階	
M124	426		26	370	1						13	7	23			95	96	9h				SX01	2階	
M124	427			180	1						15	8	25	9	19	65	96	16h				SX01	2階	
M124	428			100	1						15	7	24	9	27	35	96	13h				SX01	2階	
M124	429			100	1											40	96	15h				SX01	2階	
M124	430			120	1											8	25	0	96	10h			SX01	2階
M124	431			100	1											7	23	65	96	12h			SX01	2階
M124	432			60	1						14	9	24	10	14	60	96	10h				SX01	2階	
M124	433			280	1						16	8	24	9	28	70	96	12h				SX01	2階	
M124	435			10	1											0	96	15h				SX01	2階	
M124	436			50	1											0	96	15h				SX01	2階	
M124	437			60	1						15	8	24			60	96	12h				SX01	2階	
M124	438			60	1						14	8	22	9	23	45	96	12h				SX01	2階	
M124	439			270	1						15	8	24	9	20	160	96	12h				SX01	2階	
M124	440			60	1											0	96	14h				SX01	2階	
M124	441			40	1											8	19	20	96	12h			SX01	2階
M124	442			160	1											9	23	75	96	12h			SX01	2階
M124	443			180	1					80	145	15	7	26	10	17	75	96	11h			SX01	2階	
M124	444			70	1											8	25	35	96	11h			SX01	2階
M124	445			60	1											8	23	55	96	16h			SX01	2階
M124	446			130	1						13	8	25	9	20	75	96	14h				SX01	2階	
M124	447			70	1						14	7	21	8	20	45	96	14h				SX01	2階	
M124	448			220	1											12	7	0	96	10h			SX01	2階
M124	449			220	1						16	8	22			15	96	10h				SX01	2階	
M124	450			260	1						15	8	23	9	23	95	96	9h				SX01	2階	
M124	451			190	1						140	15	8	26	10	17	75	96	16h			SX01	2階	
M124	452			110	1						14	8	23	9	18	75	96	15h				SX01	2階	
M124	453		21	230	1											9	22	15	96	13h			SX01	2階
M124	454			50	1											7	0	96	12h				SX01	1階
M124	455			110	1						13	9	26			40	96	13h				SX01	2階	
M124	456			10	1											0	96	13h				SX01	2階	
M124	457			70	1											0	96	12h				SX01	2階	
M124	459			80	1						15	8	23	10	18	55	96	13h				SX01	2階	
M124	460			170	1						14	7	23			70	96	9h				SX01	2階	
M124	461			60	1						14	8	22	9	18	96	13h					SX01	2階	
M124	462			300	1						78	130	13	7	23	10	22	90	15h				SX01	2階
M124	463			470	1						78	150	14	8	24	9	24	155	96	11h			SX01	2階
M124	464			70	1											9	25	55	96	14h			SX01	2階
M124	465			90	1											9	0	96	13h				SX01	2階
M124	466			70	1						12	7	27	8	17	50	13h					SX01	2階	
M124	467			20	1											9	0	96	14h				SX01	2階
M124	468		25	270	1						14	8	22			70	96	10h				棟1		
M124	469			220	1						13	9	25	10	21	100	96	16h				棟1		
M124	470			70	1											0	96	10h				棟1		
M124	471			30	1											6	22	10	24	20	96	12h	棟1	
M124	472			230	1						140	14	8	24		70	96	12h				棟2		
M124	473			120	1						15	9	24	9	18	60	96	11h				SX01	2階	
M124	474			130	1						13	8	25	9	20	60	96	12h				SX01	2階	
M124	475			50	1						13	9	24			25	96	12h				SX01	2階	
M124	476			260	1						15	8	22			75	96	11h				SX01	2階	
M124	477			50	1						12	8	24	10	27	35	96	12h				SX01	2階	
M124	478			60	1											8	18	40	96	13h			SX01	2階
M124	479			60	1											24	9	16	55	96	13h		SX01	2階
M124	480			170	1						16	8	27	9	22	45	96	14h				SX01	2階	
M124	481			90	1						13	9	25	8	21	55	96	10h				SX01	2階	
M124	482			200	1						16	8	25	8	22	110	96	10h				SX01	2階	
M124	483			410	1						15	7	27			110	96	9h				SX01	2階	
M124	484			140	1						14	8	24	10	19	85	96	15h				SX01	2階	
M124	485			240	1						14	8	26	10	16	115	96	12h				SX01	2階	
M124	486		20	200	1						7	23				90	96	14h				SX01	2階	
M124	487			320	1						13	8	25	9	17	150	96	12h				SX01	2階	
M124	488			60	1						16	9	24	11	24	45	96	12h				SX01	2階	
M124	490			70	1						14	8	24	9	14	60	96	15h				SX01	2階	
M124	491			140	1						82	8				0	96	11h				SX01	2階	
M124	493			60	1						16	7				0	96	12h				SX01	2階	
M124	494			220	1						78	14	8	25	9	22	55	96	12h				SX01	2階
M124	495			360	1						14	8	22			90	96	13h				SX01	2階	
M124	496			90	1						9	24				35	96	13h				SX01	2階	
M124	497			80	1						9	25				50	12h					SX01	2階	
M124	498			140	1						13	8	22			30	90	13h				SX01	2階	
M124	499			100	1											0	96	13h				SX01	2階	
M124	500			30	1											0	96	12h				SX01	2階	
M124	501			80	1											8	23	9	21	50	96	14h	SX01	2階
M124	502			240	1						145	16	8	25</										

軒丸瓦一覽表 (9)

型式	整理番号	形状	長さ	幅	厚さ	重量	コバ 年	高さ	傾斜	継ぎ 目	直径	内径	外径	棟 数	支 柱	間隔	間隔	軒 数	調子 間	調子 間	グリッド	遺構	国産番号		
M221	1168		450		2						245	18	8		16		95	96	11g		T01				
M211	1169		250		1							14	7		21	7	27	32	96	11g		T04			
M211	1171		120		1							14	9		19	6	19	65	96	15g		T06			
M211	1172		70		1							12	6		26	9	16	70	96			抽出			
M211	1173		170		1							14	8		26	9	21	65	96	10g		取1			
M211	1174		130		1				78	34	170	9	6	56	13	6	14	175	96	10g		取1			
M211	1175		180		1							15	6		24	8	26	70	96	10g		取1			
M211	1178		50		1							115	12	8	14		120	96	8g			SX011号			
M211	1179		40		1								6				0	96	12g			SX011号			
M211	1180		10		1												0	96	9g			SX011号			
M211	1182		80		1							15	8		23	9	17	65	96	15g		SX012号			
M211	1183		80		1							14	9		18		50	96	15g			SX012号			
M211	1184		130		1								9	5			0	96	10g			SX012号			
M211	1185		250		1							230	15	9	11	6	20	70	96	12g		SX012号			
M211	1186		170		1								6		22	6	20	90	96	12g		SX012号			
M211	1188		210		1							21	9		25	7	27	80	96	16g		SX012号			
M211	1189		90		1							14	8		18	5	17	70	96	12g		SX012号			
M211	1190		90		1							14	10		16	5	22	30	96	12g		SX012号			
M211	1191		50		1							14	8		22	9	20	45	96	12g		SX012号			
M211	1192		200		1							15	6		21	7	19	120	96	13g		SX012号			
M211	1193		180		1							170	15	8	18	7	120	96	12g			SX012号			
M211	1194		240		1							160	15	7	21	8	19	120	96	13g		SX012号			
M211	1195		100		1								10				0	96	13g			SX012号			
M211	1196		70		1							15	9		19	10	60	96	10g			SX012号			
M211	1197		240		1							13	8		18		110	96	12g			SX012号			
M211	1198		70		1							8	9		20	8	20	40	96	15g		SX012号			
M211	1199		310		1							14	7		18	6	21	130	96	10g		SX012号			
M211	1449		640		1				142	73	230	15	12	9	105	20	6	24	355	96	14g		2222		
M211	1460		300		1				141	74	315	14	12	9	103	20	6	17	200	96	16g		2223		
M211	1464		22	700		1			141	71	230	14	12	9	103	18	6	18	200	96	12m		2227		
M211	1465		620		1				136	69	260	15	9	100	17	6	28	260	96	10m		SX011号			
M211	1466		580		1				140	73	155	16	12	9	104	19	7	20	240	96	15g		2229		
M211	1467		540		1				137	72	245	15	12	9	102	18	6	22	245	96	15g		2230		
M211	1506		20		1							12	7				0	96	16d			SX012号			
M211	1739		90		1								7		17	7	21	60	96	13g		SX012号			
M241	562		27	550	A	69	3					13	7		25		7	20	96	10g		耐土分析13			
M241	1947		136	24	950	A	69	3				13	8		25		140	96	10g			SX012号			
M241	556		110		1							13	8		27	9	20	70	96	15g		SX012号			
M241	557		150		1							13	8		27	11	20	95	96	13g		SX012号			
M241	558		130		1							13	8		23		20	96	7g			SX012号			
M241	559		40		1							12	8				0	96	13g			SX012号			
M241	560		70		1							13	8		26	8	17	60	96	14d		SX012号			
M241	561		150		1							65	250	13	8	85		0	96	16d		SX012号			
M241	563		100		1							190	11	9			6	96	12g			SX012号			
M241	564		40		1							12	8				0	96	10g			SX012号			
M241	565		140		1							12	6		26	8	20	50	96	10g		SX012号			
M241	566		310		1							12	7		25		85	96	10g			SX012号			
M241	567		210		1							12	6		26		85	96	10g			取1			
M241	568		70		1							12					0	96	12g			SX011号			
M241	569		190		1							12	9		26	9	18	160	96	15g		SX012号			
M241	570		350		1							58	200	12	8	24	10	19	170	96	13g		SX012号		
M241	4480		280		1				146	64	270	13	7	91	26	10	18	190	96	10g		2240			
M241	4551		320		1							57	180	16	7	25	9	22	140	12g		SX012号			
M241	4639		50		1							16	9				0	96	15d			SD06			
M241	4864		170		1							15	8		19	7	19	25	97C	6m/m		取1			
M241	4962		20		1												0	96	13g			SX012号			
M251	1161		20	180	A	1						13	7		16		96	96	13g			SX012号			
M251	1956		137	22	1140	A	69	2				139	75	240	14	10	106	20	6	25	110	96	11g	SX012号	
M251	1959		134	23	740	A	72	3				138	70	180	13	8	101	19	7	18	260	96	12m	SX012号	
M251	4453		19	810	B	1						125	96	210	14	12	6	96	14	6	22	310	96	12g	2243
M251	4454		19	840	B	2						132	70	210	12	7	97	17	7	19	290	96	13m,14d	SX012号	
M251	4455		20	690	B	1						133	69	205	17	12	6	96	17	6	13	360	96	14m	SX012号
M251	4457		22	940	B	1						131	69	235	13	12	6	97	20	7	19	325	96	16c	SX012号
M251	4458		19	890	B	1						69	205	13	6	98	19	6	14	140	96	15c	SX012号		
M251	4459		137	21	1260	B	87	1				133	71	200	14	12	8	97	19	7	16	360	96	11g	2249
M251	4458		19	850	B	1						139	73	235	12	9	805	16	20	90	12g		SX012号		
M251	4955		19	760	B	1						144	73	250	15	10	106	18	5	22	180	96	12m	SX012号	
M251	1958		22	640	B	2						15	8		19		125	96	13g			SX012号			
M251	4555		280		1							81	190	13	8	20	9	18	115	96	7g		北沢		
M251	1132		290		1							19	8		16		18	96	14g			取1			
M251	1133		90		1							6	18		7	20	30	96	12g			T02			
M251	1134		40		1							14	4		15	8	22	40	96	12g		T02			
M251	1135		220		2							200	14	7	19	6	16	100	96	8g		T04			
M251	1136		180		1							185	13	6	16		6	17	70	96	14d		T06		
M251	1137		240		1							210	14	7	19	7	20	110	96	10g		SD05			
M251	1138		40		1							13	8		19	6	15	40	96	10g		SX012号			
M251	1139		50		1												0	96	10m			SX011号			
M251	1140		80		1							14	6		18	6	18	40	96	11g		SX012号			
M251	1141		90		1												0	96	14g			SX012号			
M251	1142		160		1							185					0	96	6c			SX012号			
M251	1143		50		1							14	6				0	96	14g			SX012号			
M251	1144		100		1							14	7		17	7	20	70	96	17g		SX012号			
M251	1145		130		1							13	6		18	6	17	70	96	14d		SX012号			
M251	1146		110		1							12	7		18	7	25	50	96	17g		SX012号			
M2																									

軒丸瓦一覽表(11)

型式	整理番号	形状	直径	筒幅	筒厚	重量	口径	高さ	全面積	軒巻	軒径	内径	外径	棟数	棟径	支径	間隔	間幅	軒巻区	葺き方	屋根	国産番号			
M341	702		95						1								19	30	96	6p	東型T	東型T			
M341	703		95						1								25	30	96	7p	東型T	東型T			
M341	704		95						1								22	30	96	5p	東型T	東型T			
M341	705		220						1				12	8	26	8	23	155	96	5p	東型T	東型T			
M341	706		19	120					1								25	30	96	17p	東型T	東型T			
M341	707		110						1				11	7	26	10	21	80	96	17p	T02	T02			
M341	708		50						1								26	6	15	60	96	10p	SW01標準		
M341	710		130						1				13	8	25	8	20	80	96	11p	SW01標準	SW01標準			
M341	711		40						1								24		60	96	11p	SW01標準	SW01標準		
M341	712		50						1								27		70	96	15p	SW01標準	SW01標準		
M341	713		60						1								25		75	96	11p	SW01標準	SW01標準		
M341	714		100						1								26		60	96	12p	SW01標準	SW01標準		
M341	715		70						1								8	20	55	96	12p	SW01標準	SW01標準		
M341	716		90						1								25		60	96	13p	SW01標準	SW01標準		
M341	718		50						1								26		65	96	14p	SW01標準	SW01標準		
M341	720		160						1				12	7	27	10	21	95	96	10p	SW01標準	SW01標準			
M341	721		70						1								25		100	96	14p	SW01標準	SW01標準		
M341	722		30						1								8	24		55	96	12p	SW01標準	SW01標準	
M341	723		40						1								24		65	96	15p	SW01標準	SW01標準		
M341	724		50						1								25		70	96	16p	SW01標準	SW01標準		
M341	725		23	210					1								26		50	96	12p	SW01標準	SW01標準		
M341	726		30						1											60	96	15p	SW01標準	SW01標準	
M341	727		40						1									26		60	96	13p	SW01標準	SW01標準	
M341	728		40						1								24	5	24	30	96	12p	SW01標準	SW01標準	
M341	729		30						1								9	23		30	96	11p	SW01標準	SW01標準	
M341	730		40						1								8	23		55	96	13p	SW01標準	SW01標準	
M341	732		20	160					1								25		95	96	15p	SW01標準	SW01標準		
M341	733		30						1								25	6	18	35	96	12p	SW01標準	SW01標準	
M341	734		70						1				13	8	25			80	96	14p	SW01標準	SW01標準			
M341	737		40						1								26	10	17	60	96	16p	SW01標準	SW01標準	
M341	738		50						1				12	9	25			8	16	65	96	14p	SW01標準	SW01標準	
M341	739		50						1								26		8	23	35	96	12p	SW01標準	SW01標準
M341	740		20						1												60	96	16p	SW01標準	SW01標準
M341	741		80						1				12	9	25	8	16	60	96	14p	SW01標準	SW01標準			
M341	742		20	270					1				13	8	24			95	96	13p	SW01標準	SW01標準			
M341	743		60						1				10	24	8	19		45	96	15p	SW01標準	SW01標準			
M341	744		100						1								29		45	96	11p,13p	SW01標準	SW01標準		
M341	745		80						1				12	8	26	7	17	70	96	14p	SW01標準	SW01標準			
M341	746		50						1								22		70	96	15p	SW01標準	SW01標準		
M341	747		80						1				13	7	25	9	23	40	96	12p	SW01標準	SW01標準			
M341	748		40						1								24	7	19	50	96	17p	SW01標準	SW01標準	
M341	749		50						1											90	96	14p	SW01標準	SW01標準	
M341	750		120						1								24		60	96	12p	SW01標準	SW01標準		
M341	751		19	200					1				10	25			25		60	96	13p	SW01標準	SW01標準		
M341	752		30						1								26		55	96	11p	SW01標準	SW01標準		
M341	753		30						1								24		40	96	11p	SW01標準	SW01標準		
M341	754		100						1				12	8	27	8	20	120	96	12p	SW01標準	SW01標準			
M341	755		50						1								9	25		30	96	10p	SW01標準	SW01標準	
M341	756		80						1								7	23		0	96	11p	SW01標準	SW01標準	
M341	757		60						1								25		40	96	7p	SW01標準	SW01標準		
M341	758		50						1								24		40	96	8p	SW01標準	SW01標準		
M341	759		60						1								8	25		40	96	12p	SW01標準	SW01標準	
M341	760		50						1								25	7	20	55	96	12p	SW01標準	SW01標準	
M341	761		30						1								9	23		30	96	11p	SW01標準	SW01標準	
M341	762		40						1								9	18	6	19	20	96	9p	SW01標準	SW01標準
M341	763		30						1									6	23	30	96	12p	SW01標準	SW01標準	
M341	764		100						1								25		35	96	10p	T01	T01		
M341	765		120						1								8	25		80	96	10p	T01	T01	
M341	766		230						1								10	22		80	96	10p	T01	T01	
M341	767		70						1				13	9	25	8	22	60	96	10p	T01	T01			
M341	768		110						1				12	8	25	8	23	60	96	10p	T01	T01			
M341	769		30						1								23		40	96	10p	T01	T01		
M341	770		110						1								10	23		35	96	10p	T01	T01	
M341	771		50						1				12	8	25	8	19	20	96	12p	T01	T01			
M341	772		60						1								27	8	16	45	96	10p	T01	T01	
M341	773		120						1								8	25	7	23	60	96	10p	T01	T01
M341	774		170						1				14	6	26			50	96	10p	T01	T01			
M341	775		30						1								24		45	96	10p	T01	T01		
M341	776		50						1								24	8	20	55	96	10p	T01	T01	
M341	777		60						1								8	24		30	96	13p	T01	T01	
M341	778		50						1								9			0	96	10p	T01	T01	
M341	779		60						1								8	24		45	96	12p	T02	T02	
M341	780		20						1											0	96	14p	T02	T02	
M341	781		60						1								24	9	16	35	96	12p	T02	T02	
M341	782		60						1								27	6	22	55	96	12p	T02	T02	
M341	783		20						1								25	7	18	10	96	14p	T06	T06	
M341	784		60						1								9	21		50	96	14p	T06	T06	
M341	785		30						1								9	23		60	96	14p	SW01標準	SW01標準	
M341	786		60						1								27		25	96	17p	SW01標準	SW01標準		
M341	788		40						1								26		50	96	15p	SW01標準	SW01標準		
M341	789		30						1								26	9	20	35	96	12p	SW01標準	SW01標準	
M341	790		20	320					1								22		100	96	14p	SW01標準	SW01標準		
M341	791		10	140					1								24		35	96	15p	SW01標準	SW01標準		
M341	792		40						1								9	23		40	96	15p	SW01標準	SW01標準	
M341	793		190						1								24		100	96	14p	SW01標準	SW01標準		
M341	794		90						2				16	9	24	9	20	95	96	13p	SW01標準	SW01標準			
M341	795		40																						

軒丸瓦一覽表(13)

型式	整理番号	形状	筒径	筒幅	重量	コピキ	高さ	傾斜	継ぎ目	葺き方	内径	外径	棟数	棟長	支保	間幅	間高	軒長	調子区	グリッド	建端	図面番号	
M341	916				70				1										0.96	12t		SK012型	
M341	917				20														0.96	12t		SK012型	
M341	918				110							13	9		24	8	18	80	96	12m		SK012型	
M341	919				40														0.96	15t		SK012型	
M341	920				40										24	8	18	65	96	12t		SK012型	
M341	921				270		15					14	8		25			55	96	14t		SK012型	
M341	922				110							12	8		25	10	18	80	96	15t		SK012型	
M341	923				140							12	8		25			60	96	13t		SK012型	
M341	924				50								9		17			55	96	11t		SK012型	
M341	925				130							12	10		27	9	23	80	96	13t		SK012型	
M341	926				240							12	7		24			115	96	12t		SK012型	
M341	927				40								9					0.96	14t			SK012型	
M341	928				80								8		26	9	18	80	96	16t		SK012型	
M341	930				70								6		26	8	20	75	96	15t		SK012型	
M341	931				120							12	8		26			95	96	14t		SK012型	
M341	932				100							12	7		25	9	17	65	96	13t		SK012型	
M341	933				80							11	8		25	8	19	65	96	10t		SK012型	
M341	934				200							12	9		23			110	96	10t		SK012型	
M341	935				70								15		18	6	17	55	96	10t		SK012型	
M341	936				60							14	8		25	8	14	60	96	10t		SK012型	
M341	937				50							12	9		25			75	96	10t		SK012型	
M341	938				40								7		23	7	21	35	96	10t		SK012型	
M341	939				40							15	9		26			35	96	10t		SK012型	
M341	941				30								23					35	96	10t		SD02	
M341	942				10								8					0.96	10t			T01	
M341	943				130							13	9		25	7	20	55	96	12t		T01	
M341	944				20								7					0.96	12t			T02	
M341	945				150							12	10		26	8	21	85	96	12t		T02	
M341	946				140							13	9		24	7	14	130	96	12t		T02	
M341	947				40								25		7	16	50	96	12t			T02	
M341	948				40								25		2	5	5	96	80			T04	
M341	949				40								27		9	18	80	96	16t			T06	
M341	951				160							12	10		25	7	20	100	96	12t		SK012型	
M341	952				30								18					35	96	13t		SK012型	
M341	953				90							12	8		27	8	20	50	96	12t		SK012型	
M341	955				140							14	9		25			155	96	14t		SK012型	
M341	956				100								8		26	8	23	50	96	13t		SK012型	
M341	957				60								7		24			35	96	10t		SK012型	
M341	958				80							12	7		25	9	14	90	96	12t		SK012型	
M341	960				100							10	26		8	26	65	96	11t			SK012型	
M341	961				22	250						13	8		22			110	96	12t		SK012型	
M341	963				60								24		7	21	55	96	12t			SK012型	
M341	965				120							12	8		25	8	20	95	96	12t		SK012型	
M341	966				280							13	8		25	8	17	140	96	12t		SK012型	
M341	968				60								9		24			40	96	13t		SK012型	
M341	969				30								17					50	96	16t		SK012型	
M341	970				30								23					40	96	14t		SK012型	
M341	971				50								7		18			80	96	13t		SK012型	
M341	973				80								25		7	22	60	96	12t			SK012型	
M341	974				130							12	7		26	9	24	85	96	14t		SK012型	
M341	975				60								25					40	96	16t		SK012型	
M341	976				70							13	8		25	8	21	45	96	12t		SK012型	
M341	977				100								9		27	8	22	90	96	8t		SK012型	
M341	978				40								26		7	21	35	96	12t			SK012型	
M341	979				40								7					0.96	13t			SK012型	
M341	980				340							13	9		23			160	96	12t		SK012型	
M341	981				120								9		25			100	96	12t		SK012型	
M341	982				40								9		21			50	96	13t		SK012型	
M341	984				30								24		20	50	96	13t				SK012型	
M341	985				70								8		22			90	96	16t		SK012型	
M341	986				60								9		18			65	96	11t		SK012型	
M341	987				170								23					80	96	12t		SK012型	
M341	988				20								27					80	96	11t		SK012型	
M341	989				90								15		7	21	8	20	40	96	15t		SK012型
M341	990				100							14	9		25	8	19	70	96	12t		SK012型	
M341	991				20								7					35	96	13t		SK012型	
M341	992				50								23					20	96	12t		SK012型	
M341	993				220							16	6		25			25	96	14t		SK012型	
M341	994				50								24					60	96	14t		SK012型	
M341	996				60								27		9	17	70	96	13t			SK012型	
M341	997				60								25		8	18	75	96	13t			SK012型	
M341	998				80							13	9		25	9	23	70	96	12t		SK012型	
M341	999				220							14	9		25	8	21	150	96	13t		SK012型	
M341	1000				100							13	10		27	8	21	105	96	12t		SK012型	
M341	1001				80							13	6		27	10	17	80	96	12t		SK012型	
M341	1002				90								25					110	96	14t		SK012型	
M341	1003				120							11	8		25	9	19	70	96	8t		SK012型	
M341	1004				30								25		6	25	96	13t				SK012型	
M341	1005				100							15	9		25	8	17	80	96	13t		SK012型	
M341	1006				80							13	8		25	7	18	50	96	8t		SK012型	
M341	1008				40							12	8		26	9	20	30	96	13t		SK012型	
M341	1009				130								8		22	9	18	75	96	13t		SK012型	
M341	1010				70							11	8		26	9	18	55	96	17t		SK012型	
M341	1011				100							13	7		26	8	17	70	96	10t		SK012型	
M341	1012				110							12	8		26	8	22	50	96	13t		SK012型	
M341	1013				100							14	6		25	9	17	80	96	12t		SK012型	
M341	1014				150		21						23					60	96	12t		SK012型	
M341	1016				70							14	8		26	8	17	65	96	12t		SK012型	
M341	1017				30								28		9	20	30	96	10t			SK012型	
M341	1018				40							12	7		25	8	16	40	96	14t		SK012型	
M341	1019				50								8		23	7	19	45	96	12t		SK012型	
M341																							

軒丸瓦一覽表(14)

型式	整理番号	形状	筒径	筒高	高さ	コピキ	高さ	破片	直径	内径	内長	外周	枚数	面積	重量	軒率	葺き区	グリップ	造備	図版番号					
M341-1024			80								14	6	25	10	26	96			SX01-150						
M341-1025			90									9	25	7	20	30	96	10	棟1						
M341-1026			60									9	25	7	20	30	96	10	棟1						
M341-1027			140								14	8	24	9	20	90	96	10	棟1						
M341-1028			100								14	8	24	7	20	80	96	10	棟1						
M341-1029			170									9	23			108	96	10	棟1						
M341-1030			50								13	8	26			80	96	13	SX01-150						
M341-1031			140								14	9	24			108	96	7	SX01-150						
M341-1032			70								12	7	24	8	20	50	96	7	SX01-150						
M341-1033			160		16						13	9	21			140	96	7	SX01-150						
M341-1035			150								12	9	22			80	96	12	SX01-150						
M341-1036			80								9	27	8	23	65	96	16		SX01-250						
M341-1038			30								12	9				0	96	13	SX01-250						
M341-1039			90								14	9	23	8	17	80	96	15	SX01-250						
M341-1040			50									9	26			55	96	15	SX01-250						
M341-1041			70								12	8	23			35	96	15	SX01-250						
M341-1042			110								13	8	23	8	21	40	96	16	SX01-250						
M341-1043			230								16	8	25	8	22	90	96	15	SX01-250						
M341-1044			90								13	7	26	10	19	55	96	12	SX01-250						
M341-1046			190								14	9	24	9	19	100	96	16	SX01-250						
M341-1048			40								15	6	23			35	96	16	SX01-250						
M341-1051			20									9	26			0	96	14	SX01-250						
M341-1052			20									9	26			0	96	15	SX01-250						
M341-1053			190								15	9	25			70	96	14	SX01-250						
M341-1054			140								16	7	25			60	96	16	SX01-250						
M341-1055			40									7				35	96	13	SX01-250						
M341-1056			20													0	96	15	SX01-250						
M341-1058			150								14	9	25			65	96	15	SX01-250						
M341-1059			70								19	8	15			60	96	16	SX01-250						
M341-1060			70								14	8	26	8	20	45	96	12	SX01-250						
M341-1062			120								14	9	24	8	20	80	96	14	SX01-250						
M341-1063			50									9	26			80	96	16	SX01-250						
M341-1064			120								15	7	28	10	24	70	96	10	SX01-250						
M341-1065			80								16	9	25	7	20	35	96	16	SX01-250						
M341-1067			150								14	8	24	9	16	85	96	16	SX01-250						
M341-1068			70								13	7	27	10	23	60	96	10	SX01-250						
M341-1070			70								16	9	24			85	96	16	SX01-250						
M341-1071			50									7	23			40	96	16	SX01-250						
M341-1072			23	190							15	12	28			35	96	13	SX01-250						
M341-1073			70								19	9	25			30	96	11	SX01-250						
M341-1075			100									9	25			60	96	7	SX01-250						
M341-1117			24	1100							230	14	7	26	10	19	200	96	16	SX01-250					
M341-1118			360								185	15	9	24	8	22	160	96	15	SX01-250					
M341-1381			60										23	7	28	80	96	9	棟1						
M341-1393			10									6				0	96	15	棟1						
M341-1399			20	160									26			30	96	14	SX01-250						
M341-1473			20	500							56	185	15	8	8	88	25	140	96	17	SX01-250				
M341-1477			470								148	61	220	13	8	8	92	28	10	23	96	6	SX01-250		
M341-1481			430								140	54	160	16	9	88	25	7	21	205	96		SX01-250		
M341-1482			25	720							140	58	185	15	8	9	91	26	8	25	360	96	14	SX01-250	
M341-1484			450								153	190	14	8	9	88	24	9	25	160	96		棟出	2256	
M341-1485			23	590							138	66	245	14	8	8	88	26	10	16	360	96	12	棟1	2257
M341-1487			440								127	58	205	15	8	9	91	25	8	20	360	96	16	SX01-250	2259
M341-1488			650								142	59	180	16	8	8	88	25	10	20	360	96	5	棟	2260
M341-1491			140								58	90	15	8	9	89	27	9	21	140	96	14	棟	2263	
M341-1492			23	610							137	59	200	13	8	8	87	25	9	20	360	96	15	SX01-250	2264
M341-1493			450								133	56	170	15	8	9	85	24	8	23	210	96	13	SX01-250	2265
M341-1500			16	730							131	55	170	15	8	9	84	27	9	21	360	96	8	SX01-150	2272
M341-1501			440								140	55	180	15	8	8	87	28	9	20	190	96	16	SX01-250	2273
M341-1507			30											24			30	96	13					SX01-250	
M341-1509			50											25	8	22	65	96	12				SX01-250		
M341-1511			20	100									7	17		60	96	12					SX01-250		
M341-1530			50											20		60	96	9					SX01-250		
M341-1555			40											21	7	20	30	96	9				SX01-250		
M341-1565			50													26								SX01-250	
M341-1568			50													23		60	96	9				SX01-250	
M341-1620			21	190												23		20	96	11				T01	
M341-1632			200								13	8	25			50	96	8					SX01		
M341-1635			50													25		90	96	10				SX01-150	
M341-1653			20	370												35		60	10					SX01-250	
M341-1699			30									15				0	96	11						SX01-250	
M341-1704			80													24		30	96	13				SX01-250	
M341-1724			70													27		70	96	12				SX01-250	
M341-1728			40													28		40	96	13				SX01-250	
M341-1734			80													24		30	96	12				SX01-250	
M341-1777			20													9	19	6	18	30	96	13		SX01-250	
M341-1807			70													27	9	22	55	96	13			SX01-250	
M341-1836			70													25	8	22	65	96	12			SX01-250	
M341-1878			22	390							58	180	13	9	91	29	160	97	6				SX01		
M341-1879			140													22	9	22	55	97	6			SX01-150	
M341-1888			80													28	9	23	40	97	6			SX01-150	
M341-1896			40													39	60	97	6					SX01-150	
M341-1903			130													12	7	26						棟1	
M341-1906			130													10		0	97	13				棟1	
M341-1913			50													25	25	97						表土前5	
M341-1960			30														0	96	13					SX01-250	
M341-1964			100													14	8	26						SX01-250	
M341-1084		棟	234	123	16	1800	A	66								14	9	26						SX01-250	
M341-1111			20	350	A											9	24		95	96	15			SX01-150	
M341-1079			21	280	B											24		70	96	15				SX01-250	
M341-1080			20	61																					

軒丸瓦一覽表(15)

形式	整理番号	形状	片径	片幅	厚さ	重量	コバ 寸法	高さ	傾斜 度	継手 仕様	内径	外径	棟 数	棟 間	支 柱	間幅	間 数	坪数	調布 区 分	アリック	建構	図面番号				
M341	1102		18	240	B	1					14	8	24		25	25	96				SX01	110				
M341	1107		26	240	B	1					13	10	24		25	45	96					SX01棟瓦	110			
M341	1109		15	420	B	1					14	8	24		90	96	111					SX01棟瓦	111			
M341	1076		110			1					14	7	23	10	19	65	96	160					SX01	216		
M341	1077		240			1					13	7	25	10	23	130	96	156					SX01	216		
M341	1078		90			1					9	25	8	22	80	96	120						SX01	216		
M341	1081		150			1					14	9	25	9	17	85	96	160					SX01	216		
M341	1082		30			1					14	6	18		30	96	120						SX01	216		
M341	1083		220			1					15	9	24	9	21	125	96	156					SX01	216		
M341	1084		50			1					15	25	8	24	40	96	156						SX01	216		
M341	1087		50			1					17	8	25	9	35	96	156						SX01	216		
M341	1088		140			1					12	7	26		45	96	160						SX01	216		
M341	1089		70			1					7	26			90	96	160						SX01	216		
M341	1091		21	100		1					12	8	23		40	96	160						SX01	216		
M341	1092		18	100		1					13	7			0	96	156						SX01	216		
M341	1093		270			1					225	14	7	25	9	27	160	96	160				SX01	216		
M341	1096		160			1					13	6	26	11	22	75	96	160					SX01	216		
M341	1097		90			1					9	26	9	21	60	96	160						SX01	216		
M341	1098		60			1					15	6	25	10	21	40	96	128					SX01	216		
M341	1099		50			1					15	9	25		15	96	96						SX01	116		
M341	1100		90			1					17	7	23	8	19	50	96	111					SX01	116		
M341	1101		100			1					6	27			45	96	120						SX01	116		
M341	1103		50			1					6	23	9	27	35	96	108						SX01	116		
M341	1104		33	270		1					6	28			80	96	108						SX01	116		
M341	1105		40			1					8				0	96	108						SX01	116		
M341	1106		150			1					9	24			100	96	108						SX01	116		
M341	1108		50			1					18	7	24		20	96	108						SX01	116		
M341	1110		80			1					8	25	8	17	30	96	108						SX01	116		
M341	676		23	510	A	1					190	13	10	25		200	96	108					SX01	116		
M341	620		190			1					60	190	13	8	23	8	17	130	96	146			SX01	216		
M341	621		360			1					58	185	12	9	25	9	20	130	96	111			SX01	216		
M341	622		150			1					165	12	9	26	8	17	75	96	144				SX01	216		
M341	623		170			1					11	9			0	96	176						SX01	216		
M341	624		240			1					58	190	12	9	26	9	18	90	96	138			SX01	216		
M341	625		320			1					61	180	12	8	25	9	22	145	96	128			SX01	216		
M341	626		310			1					8	27	9	20	125	96	144						SX01	216		
M341	627		190			1					8	24			35	96	148						SX01	216		
M341	628		360			1					137	60	185	12	8	27	23	9	190	96	131		SX01	216		
M341	629		290			1					62	180	13	9	27	25	9	145	96	156			SX01	216		
M341	630		100			1					180	12	9		175	96	108						SX01	216		
M341	631		90			1									0	96	120						SX01	216		
M341	632		120			1					14	7	22	8	23	30	96	156					SX01	216		
M341	633		290			1					66	190	12	9	26	9	19	160	96	126			SX01	216		
M341	634		130			1					13	13			25	8	19	96	131				SX01	216		
M341	635		190			1					13	7	23	9	22	40	96	144					SX01	216		
M341	636		140			1					175	13	9		0	96	120						SX01	216		
M341	637		110			1							10		0	96	144						SX01	216		
M341	638		210			1					170	12	9	27		110	96	96					SX01	216		
M341	639		40			1					13	9			0	96	144						SX01	216		
M341	640		340			1					62	190	12	9	27	28	9	20	150	96	120		SX01	216		
M341	641		400			1					62	180	12	9	27	26	9	17	180	96	120		SX01	216		
M341	642		120			1					13				26	8	19	105	96	140			SX01	216		
M341	643		190			1					10	25			8	24	96	144					SX01	216		
M341	644		110			1					175	14	8	24	8	18	70	96	138				SX01	216		
M341	645		300			1					61	190	14	8	25	8	21	155	96	160			SX01	216		
M341	646		170			1					210	13	9	25	8	19	96	128					SX01	216		
M341	647		290			1					60	175	14	9	25	8	17	120	96	96			SX01	116		
M341	648		140			1					12	9	27	9	17	100	96	111					SX01	116		
M341	649		200			1					180	13	8	25	8	18	55	96					SX01	216		
M341	650		370			1					62	195	13	8	25	9	19	155	96	108			SX01	216		
M341	651		170			1					175	12	8	25	8	24	75	96	108					図1		
M341	652		90			1							10		0	96	111							図1		
M341	653		300			1					63	190	13	9	26	9	20	140	96	108				図1		
M341	654		360			1					61	185	12	9	27	25	8	21	190	96	108				図1	
M341	655		290			1					60	195	13	7	24	8	18	145	96	156				図1		
M341	656		190			1					200	12	9	26	7	20	96	96						図2		
M341	657		330			1					60	190	12	9	26	9	19	150	96	74					図2	
M341	658		350			1					60	185	12	9	27	26	10	21	180	96	156				図6	
M341	659		100			1					190				0	96	186								図9	
M341	660		90			1									0	96	72								図9	
M341	661		150			1					12	8	26		70	96	120								図9	
M341	662		240			1					60	190	12	8	25	9	17	120	96	120					SX01	216
M341	663		340			1					62	180	13	8	28	26	9	21	170	96	156				SX01	216
M341	664		190			1					26	8	19	60	96	160									SX01	216
M341	665		200			1					61	180	14	9	24	8	22	40	96	156					SX01	216
M341	666		220			1					12	9	25	8	24	110	96	156							SX01	216
M341	667		310			1					58	180	12	9	25	9	20	130	96	120					SX01	216
M341	668		90			1									0	96	120								SX01	216
M341	669		100			1							8		0	96	156								SX01	216
M341	670		110			1					61	195	8		0	96	160								SX01	216
M341	671		260</																							

軒丸瓦一覧表 (16)

型式	整理番号	形状	筒径	筒高	高さ	コピシ	破片	重量	内径	外径	瓦数	文様	間幅	間高	軒厚	調査区	グランド	遺構	図版番号			
M341	687		430				1		64	249	13	7	25	10	24	145	96	16d	SK01 25d			
M341	688		430				1				13	9	26	9	25	140	96	13d	SK01 25d			
M341	689		580				1		65	235	13	7	27			135	96	11d	SK01 25d			
M341	690		160				1		62	230	12	8	26	10	19	80	96	13d	SK01 25d			
M341	691		17	350			1		65	250	13	8	30			130	96	12d	SK01 25d			
M341	692						1				13	6	25	9	15	50	96	12d	SK01 25d			
M341	693		70				1					9				96	12d	SK01 25d				
M341	694		50				1					9				96	6d	SK01 25d				
M341	695		160				1		245	12		6	25	10	19	105	96	11d	SK01 15d			
M341	696		360				1		141	63	232	12	8	89	27	10	210	15	H1			
M341	697		40				1										96	10d	H1			
M441	538		40				1					5	19	6	18	65	96	10d	H1			
M441	539		90				1		170	10		7	20	6	17	100	96	11d	T01			
M441	540		20				1					6	17			50	96	10d	SK01 15d			
M441	541		40				1					7	19			90	96	13d	SK01 25d			
M441	1115		40				1					17				70	96	14d	T02			
M441	1550		20				1					16				25	96	8d	SK01 25d			
M441	1934		240				1	並	101	37	180	11	8	8	60	18	8	11	300	96	10d	SK01 40d
M441	1954		40				1					9	19			50	96	12d	SK01 25d			
M不明	1546		20				1					24				20	96	7d	SK01 25d			
M不明	2015	残	25	300			1									96	12d	SK01 25d				
M不明	2017	残	22	260			1									96	13d	SK01 25d				
M不明	2019	残	19	36			1									96	13d	SK01 25d				
M不明	2023	残	21	130			1									96	13d	SK01 25d				
M不明	1	残	28	790	A		1									97C	6m	SK01 丸部				
M不明	2	残	149	18	1230	A	64	1								97C	6m	SK01 丸部				
M不明	3	残	28	480	A		1									97C	6m	SK01 丸部				
M不明	5	残	22	270	A		1									97C	6m	SK01 丸部				
M不明	6	残	157	23	1240	A	73	1								97C	6m	SK01 丸部				
M不明	7	穿孔・残	151	28	1800	A	89	1								97C	6m	SK01 丸部				
M不明	1207		26	470	A		1				9	5	16			100	96	8d	SK01 15d			
M不明	1211		29	210	A		1					4	13			85	96	12d	SK01 25d			
M不明	1228		23	70	A		1									96	7d	東宝T				
M不明	1229		28	150	A		1									96	5d	東宝T				
M不明	1230		24	760	A		1									96	5d	東宝T				
M不明	1233		23	210	A		1									96	14d	SK01 25d				
M不明	1235		22	110	A		1									96	12d	SK01 25d				
M不明	1243		26	180	A		1									96	12d	SK01 25d				
M不明	1244	残	161	27	2600	A	78	1								96	12m	SK01 25d				
M不明	1245		26	220	A		1									96	16d	SK01 25d				
M不明	1249		23	90	A		1									10	96	13d	SK01 25d			
M不明	1253		23	210	A		1									96	13d	SK01 25d				
M不明	1254		18	70	A		1									96	16d	SK01 25d				
M不明	1257		23	240	A		1									96	16d	SK01 25d				
M不明	1259		25	150	A		1									96	12d	SK01 25d				
M不明	1262		22	100	A		1									96	13d	SK01 25d				
M不明	1263		22	110	A		1									96	14d	SK01 25d				
M不明	1266		21	200	A		1									96	13d	SK01 25d				
M不明	1269		23	300	A		1									96	14d	SK01 25d				
M不明	1272		21	150	A		1									96	16d	SK01 25d				
M不明	1274		24	200	A		1									96	14d	SK01 25d				
M不明	1278		24	140	A		1									96	12d	SK01 25d				
M不明	1279		19	150	A		1									96	12d	SK01 25d				
M不明	1280		21	290	A		1									96	16d	SK01 25d				
M不明	1283		21	250	A		1									96	14d	SK01 25d				
M不明	1287		24	450	A		1									96	12d	SK01 25d				
M不明	1296	残	160	29	2750	A	85	1								96	10d	T01				
M不明	1302		23	420	A		1									96	8d	SK01 15d				
M不明	1304		25	320	A		1									96	13d	SK01 25d				
M不明	1306		24	120	A		1									96	12d	SK01 25d				
M不明	1308		18	320	A		1									96	15d	SK01 25d				
M不明	1309		18	130	A		1									96	12d	SK01 25d				
M不明	1310		20	250	A		1									96	12d	SK01 25d				
M不明	1311		21	100	A		1									96	13d	SK01 25d				
M不明	1314		19	310	A		1									96	12d	SK01 25d				
M不明	1316		25	630	A		1									96	13d	SK01 25d				
M不明	1319		25	130	A		1									96	13d	SK01 25d				
M不明	1320		23	260	A		1									96	12d	SK01 25d				
M不明	1322		24	250	A		1									96	14d	SK01 25d				
M不明	1327		11	60	A		1									96	13d	SK01 25d				
M不明	1336		23	600	A		1									35	96	10m	T03			
M不明	1339		27	150	A		1									96	8d	T04				
M不明	1342		21	430	A		1									96	15d	T09				
M不明	1349		21	190	A		1									96	12d	SK01 25d				
M不明	1351		22	490	A		1					9				96	12d	SK01 25d				
M不明	1352		24	310	A		1									96	16d	SK01 25d				
M不明	1356		27	590	A		1									96	12d	SK01 25d				
M不明	1358		18	120	A		1									96	14d	SK01 25d				
M不明	1359		21	100	A		1									96	12d	SK01 25d				
M不明	1360		22	220	A		1									96	12d	SK01 25d				
M不明	1366		25	190	A		1									96		推出				
M不明	1367		20	120	A		1									96	13d	H1				
M不明	1368		27	260	A		1									96	12d	H1				
M不明	1382		24	150	A		1									96	10d	H1				
M不明	1383		27	110	A		1									96	10d	H1				
M不明	1388		147	26	970	A	81	1								96	11d	SK01 25d				
M不明	1389		22	100	A		1									96	14d	SK01 25d				
M不明	1390		19	260	A		1									96	14d	SK01 25d				
M不明	1512		23	730	A		1									96	13d	SK01 25d				
M不明	1515		25	1110	A		1									96	12m	SK01 25d				
M不明	1516		26	130	A		1									96	12m	SK01 25d				
M不明	1528		26	510	A		1									96	12m	SK01 25d				
M不明	1532		24	340	A		1					9				5	96	10d	SK01 25d			
M不明	1534		21	380	A		1									96	15d	SK01 25d				
M不明	1544		18	180	A		1									96	6d	SK01 25d				

前土分置20

軒丸瓦一覽表 (17)

型式	整理番号	形状	寸法	重量	高さ	傾斜	継手	瓦葺	内葺	外葺	棟葺	文葺	周葺	軒葺	調子区	グリッド	建端	図面番号
M-不明	1545			26, 750	A	1									0.96	Rq	SN01 2葺	
M-不明	1548	棟 高倉上		20, 440	A	1									0.96	Ta	SN01 棟葺	
M-不明	1556			22, 310	A	1									0.96	9a	SN01 2葺	
M-不明	1563			20, 170	A	1									0.96	6p	SN01 2葺	
M-不明	1566			20, 170	A	1								21	10.96	10a	SN01 2葺	
M-不明	1574			20, 380	A	1									0.96	10a	SN01 棟葺	
M-不明	1576			23, 320	A	1									0.96	Rq	SN01 2葺	
M-不明	1577			40	A	1									0.96	9a	SN01 1葺	
M-不明	1588			23, 100	A	1									0.96	11a	SN01 1葺	
M-不明	1601			23, 170	A	1									0.96	12	T02	
M-不明	1602			26, 140	A	1									0.96	14a	T02	
M-不明	1603			24, 240	A	1									0.96	14a	T02	
M-不明	1604			19, 350	A	1								21	40.96	8a	T04	
M-不明	1605			19, 140	A	1									0.96	8a	T04	
M-不明	1609			20, 170	A	1									0.96	Ta	表組T	
M-不明	1616			23, 270	A	1									0.96	14a	T06	
M-不明	1618			21, 440	A	1									0.96	12a	T01	
M-不明	1621			20, 170	A	1									0.96	11a	T01	
M-不明	1627			22, 210	A	1									0.96	10a	R1	
M-不明	1638			23, 290	A	1									0.96	17a	T08	
M-不明	1644			19, 180	A	1									0.96	11a	T03	
M-不明	1650			22, 100	A	1									0.96	10a	T01	
M-不明	1651			23, 240	A	1									0.96	17a	SD01	
M-不明	1654			21, 290	A	1				8	23				25.96	10a	SN01 棟葺	
M-不明	1656			18, 150	A	1						23			15.96	10a	SN01 棟葺	
M-不明	1661			27, 330	A	1						25			15.96	10a	SN01 棟葺	
M-不明	1662			18, 480	A	1						22			40.96	10a	SN01 棟葺	
M-不明	1667			21, 160	A	1									0.96	10a	SN01 棟葺	
M-不明	1669			23, 100	A	1									0.96	10a	SN01 棟葺	
M-不明	1673			22, 320	A	1									0.96	10a	SN01 棟葺	
M-不明	1674			20, 290	A	1									0.96	10a	SN01 棟葺	
M-不明	1677			23, 250	A	1									0.96	10a	SN01 棟葺	
M-不明	1678			26, 290	A	1									0.96	10a	SN01 棟葺	
M-不明	1685			21, 180	A	1									0.96	12a	SN01 2葺	
M-不明	1689			1, 120	A	1									0.96	10a	SN01 2葺	
M-不明	1691			21, 160	A	1									0.96	Ta	SN01 棟葺	
M-不明	1694			20, 380	A	1									0.96	9a	SN01 2葺	
M-不明	1700			26, 500	A	1									0.96	ToRo	SN01 2葺	
M-不明	1701			27, 160	A	1									0.96	13a	SN01 2葺	
M-不明	1703			17, 80	A	1									0.96	12a	SN01 2葺	
M-不明	1708			22, 300	A	1								21	30.96	6a	SN01 2葺	
M-不明	1709			26, 590	A	1									0.96	10a	SN01 2葺	
M-不明	1710			22, 120	A	1									0.96	13a	SN01 2葺	
M-不明	1711			19, 430	A	1									0.96	13a	SN01 2葺	
M-不明	1714			21, 220	A	1									0.96	13a	SN01 2葺	
M-不明	1717			23, 180	A	1									0.96	11a	SN01 2葺	
M-不明	1721			20, 170	A	1									0.96	12a	SN01 2葺	
M-不明	1722			25, 470	A	1									0.96	12a	SN01 2葺	
M-不明	1735			26, 300	A	1									0.96	12a	SN01 2葺	
M-不明	1736			24, 100	A	1									0.96	12a	SN01 2葺	
M-不明	1737			16, 100	A	1									0.96	17a	SN01 2葺	
M-不明	1740			25, 200	A	1									0.96	13a	SN01 2葺	
M-不明	1747			23, 230	A	1									0.96	12a	SN01 2葺	
M-不明	1751			1, 120	A	1									0.96	17a	SN01 2葺	
M-不明	1752	孔		19, 840	A	1									0.96	14a	SN01 2葺	
M-不明	1753			20, 80	A	1									0.96	12a	SN01 2葺	
M-不明	1756			19, 110	A	1									0.96	16a	SN01 2葺	
M-不明	1760			25, 260	A	1									0.96	16a	SN01 2葺	
M-不明	1764			23, 150	A	1									0.96	14a	SN01 2葺	
M-不明	1765	孔	132	22, 1610	A	71									0.96	11a	SN01 2葺	
M-不明	1770			20, 300	A	1									0.96	15a	SN01 2葺	
M-不明	1773			20, 90	A	1									0.96	12a	SN01 2葺	
M-不明	1774			23, 450	A	1								21	60.96	11a	SN01 2葺	
M-不明	1778			19, 160	A	1									0.96	16a	SN01 2葺	
M-不明	1780			20, 170	A	1									0.96	12a	SN01 2葺	
M-不明	1782			20, 150	A	1									0.96	16a	SN01 2葺	
M-不明	1785			21, 160	A	1									0.96	12a	SN01 2葺	
M-不明	1799			20, 290	A	1								26	30.96	12a	SN01 2葺	
M-不明	1803			25, 200	A	1									0.96	11a	SN01 2葺	
M-不明	1805			25, 180	A	1									0.96	13a	SN01 2葺	
M-不明	1815			28, 700	A	1									0.96	10a	SN01 2葺	
M-不明	1816			20, 100	A	1									0.96	10a	SN01 2葺	
M-不明	1818			20, 340	A	1									0.96	9a	SN01 2葺	
M-不明	1830			19, 200	A	1								7	0.96	14a	SN01 2葺	
M-不明	1846			23, 360	A	1									0.96		SN01 2葺	
M-不明	1861			23, 250	A	1									0.96	6a	内葺	
M-不明	1872			26, 210	A	1									0.97C	6a	内葺	
M-不明	1909			20, 210	A	1									0.97C	6a	内葺	
M-不明	1920			26, 140	A	1									0.97C	6a	SN01 瓦葺	
M-不明	1923			25, 170	A	1									0.97C	6a	SN01 瓦葺	
M-不明	1927			26, 600	A	1									0.97C	6a	SN01 瓦葺	
M-不明	1931			26, 590	A	1									0.97C	6a	SN01 瓦葺	
M-不明	1972			19, 130	A	1									0.96	14a	SN01 2葺	
M-不明	1979			18, 170	A	1									0.96	16a	SN01 2葺	
M-不明	1982			23, 170	A	1									0.96	9a	SN01 2葺	
M-不明	1984			23, 80	A	1									0.96	12a	SN01 2葺	
M-不明	2003			20, 180	A	1									0.96	10a	SN01 棟葺	
M-不明	2005			21, 90	A	1									0.96	10a	R1	
M-不明	2008			22, 170	A	1									0.96	10a	T01	
M-不明	2013			23, 1340	A	79									0.96	12a	SN01 2葺	
M-不明	2026	H	161	22, 610	A	1									0.96	11a	SN01 2葺	
M-不明	2028	H		25, 130	A	1									0.96	14a	SN01 2葺	
M-不明	2031	H		25, 250	A	1									0.96	11a	SD01	
M-不明	2034	H		24, 240	A	1									0.96	10a	R1	
M-不明	2035	H		24, 620	A	1									0.96	10a	R1	

軒丸瓦一覽表 (18)

型式	整理番号	形状	筒長	筒幅	高さ	コピキ	高さ	破片	金呂	内径	外径	瓦枚	棟枚	文様	周幅	周高	軒率	調査区	グランド	遺構	図版番号	
M-形	2037	棟		27	120	A												01	96_10j	棟1		
M-形	2043	棟		28	860	A												01	96_10e	SX01_250		
M-形	2050	棟		25	720	A												01	96_12k	SX01_250		
M-形	2053	棟		25	230	A												01	96_12b	SX01_250		
M-形	2055	棟		27	900	A												01	96_13b	SX01_250		
M-形	2059	棟		24	1350	A												01	96_16d	SX01_250		
M-形	2063	棟		27	1490	A												01	96_10h	SX01_250		
M-形	2064	棟		24	150	A												01	96_8q	SX01_250		
M-形	2074	棟・孔	151	21	1640	A	75											01	96_12m	SX01_250		
M-形	2082	棟		25	70	A												01	96_10f	SX01_250		
M-形	2089	棟		22	80	A												01	96_13k	SX01_250		
M-形	2092	棟		21	300	A												01	96_8p	SX01_250		
M-形	2093	棟		24	1180	A												01	96_10h	SX01_250		
M-形	2096	棟		24	420	A												01	96_16f	SX01_250		
M-形	2102	棟		26	660	A												01	96_8p	SX01_250		
M-形	2112	棟		25	150	A												01	96_10h	SX01_覆瓦		
M-形	1208	棟		18	240	B						15		5	15			45	96_8p	SX01_130		
M-形	1226	棟		25	430	B												01	96_5p	東瓦丁		
M-形	1227	棟		24	400	B												01	96_7f	東瓦丁		
M-形	1234	棟		23	60	B												01	96_12j	SX01_250		
M-形	1236	棟		15	150	B												01	96_14i	SX01_250		
M-形	1238	棟		21	270	B												01	96_12i	SX01_250		
M-形	1239	棟		22	170	B												01	96_15g	SX01_250		
M-形	1241	棟		20	190	B												01	96_12i	SX01_250		
M-形	1246	棟		25	510	B												01	96_16d	SX01_250		
M-形	1247	棟		22	150	B												01	96_13b	SX01_250		
M-形	1251	棟		27	750	B												01	96_12j	SX01_250		
M-形	1256	棟		19	270	B												01	96_14h	SX01_250		
M-形	1260	棟		20	300	B												01	96_13k	SX01_250		
M-形	1263	棟		23	310	B												01	96_12j	SX01_250		
M-形	1270	棟		21	500	B												01	96_12i	SX01_250		
M-形	1271	棟		21	400	B												01	96_8e	SX01_250		
M-形	1275	棟		30	B													01	96_11j	SX01_250		
M-形	1276	棟		22	280	B												01	96_12j	SX01_250		
M-形	1281	棟		20	220	B												01	96_16e	SX01_250		
M-形	1282	棟		21	990	B												01	96_14i	SX01_250		
M-形	1286	棟		23	220	B												01	96_13b	SX01_250		
M-形	1288	棟		25	400	B												01	96_9o	SX01_150		
M-形	1289	棟		21	130	B												01	96_9e	SX01_250		
M-形	1291	孔	145	23	1730	B	73											01	96_12k	T01		
M-形	1297	棟		18	90	B												01	96_7d	東瓦丁		
M-形	1298	棟		20	170	B												01	96_15f	西瓦丁		
M-形	1300	棟		22	250	B										22		10	96_10i	T03		
M-形	1303	棟		21	1500	B	73											01	96_11i	SX01_250		
M-形	1305	棟		23	210	B												01	96_15f	SX01_250		
M-形	1307	棟		23	150	B												01	96_12j	SX01_250		
M-形	1317	棟		23	150	B												01	96_12j	SX01_250		
M-形	1321	棟		24	870	B	77											01	96_14f	SX01_250		
M-形	1323	棟	151	24	760	B												01	96_13b	SX01_250		
M-形	1325	棟		23	400	B												01	96_11j	SX01_250		
M-形	1326	棟		22	120	B												01	96_13i	SX01_250		
M-形	1335	棟		26	400	B												01	96_11n	T03		
M-形	1337	棟		22	210	B												01	96_11n	T03		
M-形	1338	棟		27	210	B												01	96_8p	T04		
M-形	1340	棟		21	170	B												15	96_14g	T06		
M-形	1343	棟		20	100	B												01	96_12j	SX01_250		
M-形	1344	棟		18	100	B												01	96_12j	SX01_250		
M-形	1350	棟		19	290	B											5	22	35	96_14g	SX01_250	
M-形	1353	棟		19	320	B												01	96_13i	SX01_250		
M-形	1355	棟		21	140	B												01	96_14g	SX01_250		
M-形	1362	棟		24	590	B												01	96_12k	SX01_250		
M-形	1363	棟		20	500	B												01	96_12b	SX01_250		
M-形	1395	棟		22	420	B												01	96_13j	SX01_250		
M-形	1396	棟		23	180	B												01	96_12k	SX01_250		
M-形	1503	棟		18	300	B												01	96_18c	SX01_250		
M-形	1508	棟		24	770	B												01	96_15b	SX01_250		
M-形	1513	棟		25	1410	B												01	96_12m	SX01_250		
M-形	1519	棟		19	400	B												40	96_16i	SX01_250		
M-形	1533	棟		22	400	B												01	96_10b	SX01_250		
M-形	1543	棟		21	150	B												30	96_6e	SX01_250		
M-形	1559	棟		27	500	B												01	96_9p	SX01_250		
M-形	1562	棟	155	26	1200	B	78											01	96_6p	SX01_250		
M-形	1567	棟		26	860	B												01	96_10b	SX01_250		
M-形	1578	棟		23	150	B												01	96_9a	SX01_250		
M-形	1579	棟		30	550	B												01	96_9a	SX01_150		
M-形	1580	棟		140	B													01	96_12i	SX01_150		
M-形	1581	棟		26	250	B												01	96_12i	SX01_150		
M-形	1583	棟		21	150	B												01	96_12j	SX01_150		
M-形	1586	棟		21	210	B												01	96_10a	SX01_150		
M-形	1589	棟		22	200	B												01	96_13i	SX01_150		
M-形	1595	棟		19	100	B												01	96_12i	SX01_150		
M-形	1596	棟		21	100	B												01	96_12j	SX01_150		
M-形	1599	棟		21	240	B												01	96_10k	T15		
M-形	1600	棟		23	350	B												01	96_10k	T15		
M-形	1608	棟		18	90	B												01	96_13i	T02		
M-形	1611	棟		20	230	B												01	96_5p	東瓦丁		
M-形	1614	棟		21	70	B												01	96_6e	東瓦丁		
M-形	1622	棟		24	240	B												01	96_11j	T01		
M-形	1623	棟		23	140	B												01	96_6p	東瓦丁		
M-形	1626	棟		22	200	B												01	96_10i	棟1		
M-形	1637	棟		23	230	B										25		30	96_10h	SX01_前蓋		
M-形	1642	棟		24	130	B												01	96_5o	北瓦丁		
M-形	1648	棟		24	170	B												30	96_10i	棟1		
M-形	1663	棟		19	70	B												01	96_10i	SX01_覆瓦		
M-形	1680	棟		22	130	B																

軒丸瓦一覽表 (19)

型式	整理番号	形状	長	幅	厚さ	コバ 寸	高さ	重量 kg	面積 ㎡	葺 枚	内 葺	外 葺	棟 葺	文 葺	周 葺	軒 葺	調 合	調 合	グリップ	遺構	図面番号
M-不明	1661		21	120	B			1									0.96	10h		SN01標準	
M-不明	1667		16	220	B			1									0.96	6h		SN01標準	
M-不明	1705		25	380	B			1									0.96	2h		SN01標準	
M-不明	1706		15	110	B			1									0.96	12h		SN01標準	
M-不明	1707		20	180	B			1									0.96	6h		SN01標準	
M-不明	1712		28	380	B			1									0.96	13h		SN01標準	
M-不明	1713		23	270	B			1									0.96	13h		SN01標準	
M-不明	1720		25	130	B			1									0.96	11h		SN01標準	
M-不明	1727		20	340	B			1									0.96	16h		SN01標準	
M-不明	1729		21	400	B			1									0.96	13h		SN01標準	
M-不明	1731		25	170	B			1									0.96	13h		SN01標準	
M-不明	1741		19	160	B			1									0.96	13h		SN01標準	
M-不明	1743		22	320	B			1									0.96	14h		SN01標準	
M-不明	1744		26	490	B			1									0.96	11h		SN01標準	
M-不明	1746		21	220	B			1									0.96	12h		SN01標準	
M-不明	1755		17	200	B			1									0.96	12h		SN01標準	
M-不明	1758		20	220	B			1									0.96	15h		SN01標準	
M-不明	1761		21	100	B			1									0.96	16h		SN01標準	
M-不明	1762		21	70	B			1									0.96	12h		SN01標準	
M-不明	1768		19	130	B			1									0.96	11h		SN01標準	
M-不明	1775		18	160	B			1									0.96	16h		SN01標準	
M-不明	1781		27	290	B			1									0.96	13h		SN01標準	
M-不明	1783		20	330	B			1									0.96	14h		SN01標準	
M-不明	1790		19	140	B			1									0.96	13h		SN01標準	
M-不明	1791		20	170	B			1									0.96	13h		SN01標準	
M-不明	1792		21	210	B			1									0.96	16h		SN01標準	
M-不明	1793		23	140	B			1									0.96	13h		SN01標準	
M-不明	1796		21	110	B			1									0.96	12h		SN01標準	
M-不明	1800		100	B				1									0.96	15h		SN01標準	
M-不明	1810		22	30	B			1									0.96	15h		SN01標準	
M-不明	1821	棟、孔	276	153		23	165	B	72	2					19		40	96	12h	SN01標準	
M-不明	1825		21	90	B			1									0.96	12h		SN01標準	
M-不明	1837		21	320	B			1									0.96	5h		SN01標準	
M-不明	1839		21	260	B			1									0.96	6h		SN01標準	
M-不明	1869		25	65	B			1									0.97C	15h		BE1	
M-不明	1867		21	180	B			1									0.97C	11h		BE1	
M-不明	1915		50	B				1									0.97C	6m		SN01瓦葺	
M-不明	1933	孔	152	27	2020	B	74	1									0.97C	6h		SN01瓦葺	
M-不明	1970		21	100	B			1									0.96	12h		SN01標準	
M-不明	1983		22	230	B			1									0.96	6h		SN01標準	
M-不明	1985		20	80	B			1									0.96	16h		SN01標準	
M-不明	2014	棟	161	25	920	B	80	1									0.96	12h		SN01標準	
M-不明	2016	棟	21	1720	B	75	1										0.96	15h		SN01標準	
M-不明	2018	棟	158	26	1800	B	82	1									0.96	13h		SN01標準	
M-不明	2022	棟	25	390	B			1									0.96	14h		SN01標準	
M-不明	2039	棟	28	1220	B			1									0.96	10h		BE1	
M-不明	2045	棟	23	940	B			1									0.96	12h		SN01標準	
M-不明	2048	棟	26	390	B			1									0.96	12h		SN01標準	
M-不明	2056	棟	32	760	B			1									0.96	15h		SN01標準	
M-不明	2060	棟	24	880	B			1									0.96	17h		SN01標準	
M-不明	2062	棟、孔	22	420	B			1									0.96	7h		SN01標準	
M-不明	2076	棟	25	700	B			1									0.96	12h		SN01標準	
M-不明	2080	棟	21	660	B			1									0.96	9h		SN01標準	
M-不明	2094	棟	24	420	B			1									0.96			SN01標準	
M-不明	2103		25	450	B			1									0.96	12h		SN01標準	
M-不明	2110		24	120	B			1									0.96	12h		SN01標準	
M-不明	4	鳥雲	1	130	B			1									30	97C	6h	SN01瓦葺	
M-不明	8	鳥雲	1	60	B			1									40	30	97C	6h	SN01瓦葺
M-不明	9	棟	130	B				1									0.97C	6h		SN01瓦葺	
M-不明	10	棟	70	B				1									0.97C	6h		SN01瓦葺	
M-不明	11	棟	29	170	B			1									0.97C	6h		SN01瓦葺	
M-不明	12	棟	60	B				1									0.97C	11h		SN01葺込	
M-不明	13	棟	30	B				1									0.97C	6h		内葺	
M-不明	14	棟	40	B				1									0.97C	6m		BE1	
M-不明	15	棟	130	B				1									0.97C	6h		BE1	
M-不明	16	棟	30	B				1									0.97C	10h		BE1	
M-不明	1200		80	B				1				15	9	18			20	96	12h	T01	
M-不明	1201		90	B				1				8	18				65	96	10h	T01	
M-不明	1202		30	B				1				10	4	14			22	96	12h	T02	
M-不明	1203		30	B				1				14	7	23	8	18	75	96	9h	BE1T	
M-不明	1204		20	B				1				5	18				30	96	11h	SN01標準	
M-不明	1205		270	B				1					22				105	96	10h	SN01標準	
M-不明	1206		30	B				1				4	16	9	20		30	96	10h	SN01標準	
M-不明	1209		20	B				1				6	16				45	96	14h	SN01標準	
M-不明	1210		60	B				1				8	24				35	96	13h	SN01標準	
M-不明	1212		20	B				1				5	16				30	96	12h	SN01標準	
M-不明	1213		90	B				1				16	6	22	10	23	60	96	12h	SN01標準	
M-不明	1214		30	B				1				6	25				25	96	12h	SN01標準	
M-不明	1215		70	B				1				7	24				30	96	14h	SN01標準	
M-不明	1216		20	B				1				6	17				30	96		SN01標準	
M-不明	1217		30	B				1				9	16				30	96	12h	SN01標準	
M-不明	1218		160	B				1				6	18				100	96		SN01標準	
M-不明	1219		120	B				1					18				65	96	13h	SN01標準	
M-不明	1220		20	B				1									0.96	14h		SN01標準	
M-不明	1221		50	B				1				15	7	16			45	96	12h	SN01標準	
M-不明	1222		19	160	B			1				14	6	16			65	96	12h	SN01標準	
M-不明	1223		20	B				1					1	15	8	20		25	96	13h	SN01標準
M-不明	1224		20	90	B			1					5				0.96	9h		SN01標準	
M-不明	1225		50	B				1									0.96	11h		BE1	
M-不明	1252		22	160	B			1									0.96	17h		SN01標準	
M-不明	1257		24	150	B			1									0.96	17h		SN01標準	
M-不明	1240	棟	23	80	B			1									0.96	15h		SN01標準	
M-不明	1242		20	B				1									5	96	13h	SN01標準	
M-不明	1248		30	B				1									24			SN01標準	
M-不明	1248		30	B				1									0.96	17h		SN01標準	
M-不明	1250		25	240	B			1									0.96	16h		SN01標準	

軒丸瓦一覽表 (20)

型式	整理番号	形状	筒長	筒幅	高さ	コピキ	破片	金目	内径	外径	瓦数	文様	周幅	周厚	厚率	調査区	グラッド	遺構	図版番号			
M-01	1252				110											0	96.16d	SX01.25d				
M-01	1255	90														0	96.12d	SX01.25d				
M-01	1258		24		60											0	96.13k	SX01.25d				
M-01	1264				50											0	96.16d	SX01.25d				
M-01	1265				60											0	96.13k	SX01.25d				
M-01	1267		18		80											0	96.12d	SX01.25d				
M-01	1268				50											0	96.12k	SX01.25d				
M-01	1273				30											23	25 96.12d	SX01.25d				
M-01	1277				27	120										0	96.12d	SX01.25d				
M-01	1284				71	70										0	96.14d	SX01.25d				
M-01	1285				23	140										0	96.15r	SX01.25d				
M-01	1280				19	80										0	96.12k	T01				
M-01	1292				70											0	96.10k	H01				
M-01	1293				40											0	96.10k	H01				
M-01	1294				25	300										0	96.10k	SX01.100k				
M-01	1295				50											0	96.10k	SX01.100k				
M-01	1299				28	170										0	96.11j	SX01.13k				
M-01	1301				26	610										0	96.11m	SX01.13k				
M-01	1312				31	690										0	96.13k	SX01.25d				
M-01	1313				130											0	96.12d	SX01.25d				
M-01	1315				80											0	96.13k	SX01.25d				
M-01	1318				24	220										0	96.11j	SX01.25d				
M-01	1324				71	110										0	96.13k	SX01.25d				
M-01	1329				28	170										0	96.10k	H01				
M-01	1330				20											23	30 96.12d	H01				
M-01	1331				60											0	96.10k	H01				
M-01	1332				50											0	96.11j	H01				
M-01	1333				70											0	96.11j	SX01.13k				
M-01	1334				130											0	96.10k	T01				
M-01	1345				26	240										0	96.12d	SX01.25d				
M-01	1347				30	30										0	96.11j	SX01.25d				
M-01	1348				100											5	96.14d	SX01.25d				
M-01	1354				100											0	96.11j	SX01.25d				
M-01	1357				18	200										0	96.12d	SX01.25d				
M-01	1361				21	120										0	96.14d	SX01.25d				
M-01	1364				20											0	96.13k	SX01.13k				
M-01	1369				20											18	8	H01				
M-01	1370				50											25	20 96.11j	H01				
M-01	1371				160											7	24	9	27	40 96.6p	東Ⅱ	
M-01	1372				25											28	30 96.10k	SX01.100k				
M-01	1373				30											24	40 96.10k	SX01.100k				
M-01	1374				50											27	40 96.9j	SX01.100k				
M-01	1375				50											0	96.10k	SX01.100k				
M-01	1376				25	120										26	10 96.10k	SX01.100k				
M-01	1377				30											8	25	5	96.10k	SX01.100k		
M-01	1380				60											25	25 96.10k	H01				
M-01	1384				22	90										0	96.10k	H01				
M-01	1385				30											26	35 96.10k	H01				
M-01	1387				22	210										0	96.11j	SX01.25d				
M-01	1391				40											0	96.13d	SX01.25d				
M-01	1392				23	80										0	96.13d	SX01.25d				
M-01	1394				20											7	20	30 96.12d	SX01.25d			
M-01	1397				40											26	30 96.2k	SX01.25d				
M-01	1398				22	70										0	96.14d	SX01.25d				
M-01	1504				80											0	96.11m	SX01.25d				
M-01	1505				30	470										0	96.11m	SX01.25d				
M-01	1510				20											24	25 96.12k	SX01.25d				
M-01	1514				19	120										0	96.15d	SX01.25d				
M-01	1518				70											24	30 96.10k	SX01.25d				
M-01	1521				30											0	96.7p	SX01.25d				
M-01	1523				40											0	96.7p	SX01.25d				
M-01	1524				60											0	96.7p	SX01.25d				
M-01	1525				22	90										0	96.7p	SX01.100k				
M-01	1526				20	210										23	30 96.10k	SX01.25d				
M-01	1531				40											21	7	18	30 96.10k	SX01.25d		
M-01	1536				40											0	96.11m	SX01.25d				
M-01	1537				10											0	96.10k	SX01.25d				
M-01	1538				70											24	30 96.10k	SX01.25d				
M-01	1539				60											28	7	20	60 96.6p	SX01.25d		
M-01	1540				27	130										0	96.11m	SX01.25d				
M-01	1542				20											27	10	17	20 96.7p	SX01.25d		
M-01	1547				40											24	11	20	40 96.7q	SX01.25d		
M-01	1549				40											0	96.6p	SX01.25d				
M-01	1552				60											23	10	21	60 96.2q	SX01.25d		
M-01	1554				18	230										0	96.6p	SX01.25d				
M-01	1564				50											26	9	45	96.6p	SX01.25d		
M-01	1570				20											0	96.7p	SX01.25d				
M-01	1571				40											11	7	23	35 96.7p	SX01.25d		
M-01	1573				50											7	0	96.7p	SX01.25d			
M-01	1575				10											8	0	96.10k	SX01.25d			
M-01	1584				24	80										0	96.11j	SX01.13k				
M-01	1585				24	100										0	96.13j	SX01.13k				
M-01	1587				21	30										0	96.12d	SX01.25d				
M-01	1590				20											25	20 96.10p	SX01.13k				
M-01	1591				40											0	96.7q	SX01.13k				
M-01	1592				40											0	96.13j	SX01.13k				
M-01	1593				20											7	0	96.12k	SX01.13k			
M-01	1594				60											0	96.9q	SX01.13k				
M-01	1597				10											28	10 96.11k	SX01.13k				
M-01	1598				23	190										0	96.10k	T15				
M-01	1606				10											24	30 96.13i	T02				
M-01	1607				10											0	96.13i	T02				
M-01	1610				20	180										0	96.10k	H01				
M-01	1612				21	120										27	5	96.10k	H01			
M-01	1613				30											27	9	22	20 96.10k	H01		

軒丸瓦一覧表 (22)

型式	整理番号	形状	筒長	筒径	高さ	コピキ	高さ	破片	金目	内径	外径	瓦数	文様	周縁	厚さ	重量	調査区	グラッド	遺構	図版番号	
M-不明	1832		50											25	16	25	35	96	6m	SX01.250	
M-不明	1834		50									9		25	25	30	96	6m		SX01.250	
M-不明	1835		40											24	8	24	30	96	6m	SX01.250	
M-不明	1838		28	70													0	96	6p	SX01.250	
M-不明	1840		50														0	96	10m	SX01.250	
M-不明	1841		24	110													0	96	7m	SX01.250	
M-不明	1842		24	170													0	96	9m	SX01.250	
M-不明	1843		22	200													8	96	9m	SX01.250	
M-不明	1845		27	130													0	96	9m	SX01.250	
M-不明	1848		40														23	96	9m	SX01.250	
M-不明	1849		20											7	24	25	96	6m	SX01.250		
M-不明	1850		10														0	96	10m	SX01.埋蔵品	
M-不明	1851		20											25	15	96	10m		SX01.埋蔵品		
M-不明	1852		40											29	10	96	10m		SX01.埋蔵品		
M-不明	1853		20														0	97C	6m	SX01.瓦葺	
M-不明	1854		50											25	10	97C	6m.6m			H1	
M-不明	1857		50											25	25	97C	6m.6m			H1	
M-不明	1859		50											24	24	30	97C	6m.6m			H1
M-不明	1867		20											22	15	97C	5m			H1	
M-不明	1875		30											23	40	97C	1.3m			H1	
M-不明	1877		30							15		8					0	97C	6m		SX01
M-不明	1884		70											26	35	97C	6m			SX01.瓦葺	
M-不明	1885		40							11		5					0	97C	6m		SX01.瓦葺
M-不明	1886		30											22	30	97C	6m			SX01.瓦葺	
M-不明	1887		140							17		8	22	9	21	65	97C	6m			SX01.瓦葺
M-不明	1889		40											24	35	97C	6m			SX01.瓦葺	
M-不明	1902		10							15		7					0	97C	6m		H1
M-不明	1908		10											26	20	97C	5m			H1	
M-不明	1910		18	80													0	97C	1.3m		H1
M-不明	1911		20											25	35	97C				H1	
M-不明	1914		10											27	15	97C	6m			1.5m	
M-不明	1916		30											22	35	97C	6m			SX01.瓦葺	
M-不明	1917		30											24	20	97C	6m			SX01.瓦葺	
M-不明	1918		40											24	10	97C	6m			SX01.瓦葺	
M-不明	1919		30											23	25	97C	6m			SX01.瓦葺	
M-不明	1921		30											24	20	97C	6m			SX01.瓦葺	
M-不明	1922		50														0	97C	6m.6m		H1
M-不明	1965	鳥葺	60														25	96	1.3m		SX01.250
M-不明	1966		10														0	96	7p		SX01.250
M-不明	1967		20														0	96	16d		SX01.250
M-不明	1968		30											22	11	21	35	96	1.4m		SX01.250
M-不明	1969		50											18	25	96	1.2m			SX01.250	
M-不明	1971		50											27	10	96	1.2m			SX01.250	
M-不明	1973		40											23	10	96	1.2m			SX01.250	
M-不明	1974		10											23	10	96	1.0m			SX01.250	
M-不明	1975		24	80													0	96	1.1m		SX01.250
M-不明	1976		60														0	96	17C		SX01.250
M-不明	1977		30											26	9	22	30	96	1.3m		SX01.250
M-不明	1978		30														0	96	1.2m		SX01.250
M-不明	1980		10														0	96	1.2m		SX01.250
M-不明	1981		25	160													0	96	10m		SX01.250
M-不明	1986		60											23	20	96	1.2m			SX01.250	
M-不明	1987		30														0	96	10p		SX01.250
M-不明	1988		23	40													0	96	1.5m		SX01.250
M-不明	1989		40														0	96	1.0m		SX01.250
M-不明	1990		10														0	96	16d		SX01.250
M-不明	1991		20														0	96	6m		SX01.250
M-不明	1992	鳥葺	90											37	70	96	1.1m			SX01.250	
M-不明	1993		22	90										26	30	96	1.2m			SX01.150	
M-不明	1994		20	190													0	96	1.1m		SX01.150
M-不明	1995		50														0	96	6m		SX01.150
M-不明	1996		20														0	96	10m		SX01.150
M-不明	1997		20														0	96	1.2m		SX01.150
M-不明	1998		10														0	96	10m		SX01.埋蔵品
M-不明	1999		20														0	96	10m		SX01.埋蔵品
M-不明	2000		40											28	10	96	1.1m			SX01.埋蔵品	
M-不明	2001		23	70													0	96	10m		SX01.埋蔵品
M-不明	2002		10														0	96	9m		SX01.埋蔵品
M-不明	2004		28	70													0	96	10m		SX01.埋蔵品
M-不明	2006		10														0	96	7p		埋蔵品
M-不明	2009		20											26	10	96	1.0m			T01	
M-不明	2010		40														0	96	1.2m		T01
M-不明	2011		26	30													0	96	1.3m		T02
M-不明	2012	妻女型	19	140										30	15	96	7m			SX01.埋蔵品	
M-不明	2020	瓦	18	190													0	96	1.4m		SX01.250
M-不明	2021	瓦	22	270													0	96	1.1m		SX01.250
M-不明	2024	瓦	23	120													0	96	1.2m		SX01.250
M-不明	2025	瓦	24	120													0	96	1.3m		SX01.250
M-不明	2027	瓦	23	140													0	96	1.2m		SX01.250
M-不明	2029	瓦	25	90													0	96	1.3m		SX01.250
M-不明	2030	瓦	22	60													0	96	10m		SX01.150
M-不明	2032	瓦	29	620													0	96	10m		H1
M-不明	2033	瓦	26	110													0	96	10m		H1
M-不明	2036	瓦	22	160													0	96	10m		H1
M-不明	2038	瓦	21	80													0	96	10m		H1
M-不明	2040	瓦	27	100													0	96	10m		H1
M-不明	2041	瓦	100														0	96	9m		H1
M-不明	2042	瓦	30	160													0	96	1.2m		SX01.250
M-不明	2044	瓦	29	1200													0	96	1.3m		SX01.250
M-不明	2046	瓦	24	100													0	96	1.3m		SX01.250
M-不明	2047	瓦	20	150													0	96	16d		SX01.250
M-不明	2049	瓦	167	27	1210	68											0	96	1.5m		SX01.250
M-不明	2051	瓦	120														0	96	1.3m		SX01.250
M-不明	2052	瓦	16	100													0	96	1.2m		SX01.250
M-不明	2054	瓦	23	710													0	96	16d		SX01.250

軒丸瓦一覧表 (24)

型式	整理番号	形状	筒径	筒厚	重さ	コピキ	破片高さ	全高	内径	外径	内径	外径	溝数	文様	筒高	軒厚	残存区	グリップ	産地	図版番号	
M不明	2170	瓦			140		1										0.96	11h	SW03册落		
M不明	2171	瓦			80		1										0.96	11h	SD01		
M不明	2172	瓦			50		1										0.96	15d	SD06		
M不明	2173	瓦			70		1										0.96	8m	SX03		
M不明	2174	瓦			50		1										0.96	7q	東宝T		
M不明	2175	瓦			50		1										0.96	5e	北宝T		
M不明	2176	瓦			90		1										0.96	10h	H01		
M不明	2177	瓦			80		1										0.96	10h	H03		
M不明	2178	瓦			100		2										0.96	10h	H01		
M不明	2179	瓦			80		1										0.96	11i	H01		
M不明	2180	瓦		20	160		1										0.96	9f	H02		
M不明	2181	瓦			120		1										0.96	13h	SX03.2層		
M不明	2182	瓦			40		1										0.96	11h	SD01		
M不明	2183				20		1				2d						2d	96	10h	T01	

軒平瓦一覽表 (3)

形式	整理番号	形状	左長	右長	瓦長	瓦高	厚	重	破片	全張	上張	風張	下張	高さ	破綻	縦割	外割	内割	左脇	右脇	上野	下野	溝	調子	グランド	通	国産番号		
H012	96		42	0	180	170			53	30	15			50	28	7													
H012	97			40	0	21	210																						
H012	99	48		83	1	18	180	1							26	7	27	6	35	26	28	96	11						
H012	100				0			80	1								10	19	7	27									
H012	101		45		71			140	1							29	12	9	23	7	30	24	30	96	12				
H012	102	100			87		17	280	1																				
H012	104	33		54	1	20	180	1								29	11	9	26	7	38	28	28	96	10				
H012	106		112		180	1	23	1060	1							30	14	8	15	7	40	24	32	96	14				
H012	109		325	160	112	2	21	1810	1							29	10	8	19	6	39	27	29	96	8				
H012	110		64		148			930	1							31	9	9	23	7	40	30	29	96	13				
H012	112		88		153	1	26	620	1							29	9	9	29	6	42	29	96	14					
H012	113		70		76	1	21	570	1							28	12			19	35	30	96	12					
H012	117		45		96	1	23	300	1							30	11	10	18	8	43	30	32	96	9				
H012	118		23		40	1	24	160	1							28	12	8	21	6	38	24	19	96	11				
H012	119		32		129	1		290	1							28	15	9	17	7	38	28	96	11m					
H012	120		119		79	1	28	400	1							29	7	24	7	40	31	23	96	12k					
H012	122		126		48	1	24	410	1							28	12		23	8	45	29	24	96	10				
H012	123				0			90	1							29	13	17		46	31	30	96	14					
H012	125		108		118			530	1						264	23			36	7	39	26	23	96	7				
H012	812		146	188	268	2	21	1800	1						54	225	30	11	9	22	8	40	27	35	96	17c			
H012	816		46	130	268	2	23	1840	1	254	30	262	53	219	30	10	7	24	24	5	36	23	31	96	5				
H012	819				106	0		830	2						262	59	254	31	12	8	14	26	5	42	29	34			
H012	820		58	118	262	2	24	1260	3	254	25	262	53	222	28	12	9	19	30	7	43	29	30	96	12				
H012	821		212		152	1	23	1550	2						266	53	226	29	11	8	15	24	6	43	26	29	96		
H012	902		6		0	23	140	1																					
H012	941				0			10	1																				
H012	955				0			20	1																				
H012	966				42	0	23	210	1						56	29	11	9	7	41	27	31	97c	6					
H012	975		78		154	1	28	680	1						51	30	11	8	17	8	39	31	28	97c	6				
H012	978				52	0		200	2						58	29	12	9	7	38	29	34	97c	6					
H012	991				40	0		170	1																				
H012	999		60	118	272	2	20	1370	1	262	30	256	54	226	29	14	8	19	14	7	42	31	37	10c					
H012	1003		110		162	1	23	830	1						53	30	13	9	20	6	42	31	29	97c	6				
H013	827	孔、横、枕	152	170	236	2	24	3600	1	268	35	266	52	216	28	11	8	26	23	8	37	33	28	96					
H013	828	孔、横、枕	136	160	262	1	25	4060	1	268	50	218	28	210	28	10	8	26	26	8	37	30	25	96					
H013	1	横	46		121	1	18	670	1						47	27	11	8	25	5	33	25	27	96	14				
H013	2	横			98	0	22	360	1						49	29	14	8	23	4	31	29	31	96	15c				
H013	4	横	57	71	0	26	600	1							48	31	10	8	27	7	32	28	21	96	15f				
H013	8	横			0	23	710	2							51														
H013	11	横	176		133	1	21	1030	1						51	28	6	25	6	34	31	25	96	12					
H013	16	横	173		145	1	24	1180	1						51	28	11	8	28	7	37	31	25	96	15c				
H013	17	横			159	0	26	1030	1						50	28	10	9	23	38	24	24	96	12					
H013	18	横	184		198	1	26	1450	3						51	27	10	7	24	7	34	29	23	96	14				
H013	813	横	24		202	1	23	140	2						50	33	13	14	27	7	39	31	38	96	14				
H013	824	横	164		250	1	23	1780	2	264	53	216	29	14	8	25	26	7	39	29	28	96	15d,16e						
H013	3	横平	33	194	1	23	1								55	29	13	8	25	5	34	29	28	96	16d				
H013	10	横平			45	0	25	240	1						50	27	10	8	8	39	31	24	96	6					
H013	825	横平	176		176	23	1480	2	264	52	216	30	13	9	25	27	6	26	26	27	31	26	96	12					
H013	822	横、枕	52	54	248	1	21	2040	2	263	30	53	218	27	11	8	27	23	7	32	30	29	96	16d					
H013	826	横、枕	38	64	188	236	1	22	3630	1	271	27	262	53	216	29	13	8	27	23	7	36	30	96	16d				
H013	5	横			81	1	250	1							50	28	8	8	23	6	31	27	96	14					
H013	6	横	18		16	0	23	490	1						52	28	11	9	26	7	39	28	27	96	12				
H013	7	横	154		208	1	25	1480	1						50	28	11	9	26	7	39	28	27	96	15c				
H013	9	横	77		112	1	23	310	1						49	30	8	7	28	8	34	30	25	96	13				
H013	12	横			36	0	24	100	1						50	28	10	8	8	36	25	96	12b						
H013	13	横			68	0		110	1						47	29	10	10		5	32	25	24	96	14				
H013	14	横			40	0		140	1						47	7			7	38	28	96	16d						
H013	15	横			44	0	24	60	1																				
H013	894	横平	30		20	0		80	1						49	30			30										
H013	882	横平			31	0		150	1						50	28	10	10		36	35	33	96	13					
H013	829	横、枕	44		208	0	17	1420	2	228	57	191	29	13	9	30	20	5	34	19	41	6							
H013	1016	水葺上野	30	18	304	2	20	1330	1	281	31	61	200	31	14	10	43	37	5	25	19	40	97A						
H013	880	横	18		138	1	22	530	1						51	11													
H013	581	横			0			60	1																				
H013	583	横	30		149	0		40	1						48	24	3	27											
H013	584	横			0			40	1																				
H013	830	横平	76		198	1	19	800	1						65	30	15	9	30	4	31	48	96	10					
H013	876	横平	82		134	1	18	530	1						50	28	12	8	34	3	40	23	34	96	9				
H013	1017	横			148	0	28	470	5						58	31	8	8	4	29	18	41	96	10					
H012	569	横	60		86	1	25	270	1																				
H012	570	横	73	82	1	28	180	1																					
H012	571	横			0			70	1																				
H012	572	横			0			120	1																				

軒平瓦一覽表 (6)

型式	整理番号	形状	左長	右長	有長	有長	厚	厚	重さ	金目	上風	風落	下風	高さ	総幅	軒外	内上	脇左	脇右	高上	下唇	調子	調子	グランド	通称	国産番号	
H332	854					54	0	150	1	48				43	23	11				34	23	96	12g	SK00	2329		
H332	855					10	0	100	1	42				42	23					34	23	96	12g	SK01	2328		
H333	397		42		102	1	15	276	1	43	23	12	7	26	6	43	26	30	96	111				SK01	140		
H333	398					47	0	110	1	51	28	8		32	32	28	96	60						SK01	250		
H333	856					56	0	21	200	1	43	23	10	7	32	26	22	96	11g					SK01	2330		
H333	857					41	22	9	110	1	41			41											SK01	2331	
H333	858			86		74	1	19	400	1	38	21	8	24	6	27	19	16	96	10				柄1	2332		
H333	959			82		52	1	22	180	1	37	7		28	45									SK01	2300		
H333	1012			64		108	1	29	580	1	60	27	13	13	24	7	33	25	92	97c	60			SK01	2300		
H341	291	植	48		102	2	20	280	1	35	15			35	8	30	16	96	18					SK01	2300		
H341	312	植			83	0	18	310	1	39	15	11		33	4	24	20	96	5p					東宝T	SK01	2300	
H341	321	植	118		36	1	19	360	1	36	17	11		32	5	23	16	16	96	7g				SK01	2300		
H341	236	植			52	0	18	120	1	34	18	7	7	19	6	30	22	14	96	10g				柄1	SK01	2300	
H341	246	植			54	0	18	150	1	37	18	11	8	18	7	34	24	19	96	12g				SK01	2300		
H341	247	植			66	0	120	1	34	19	7	8	15	7	28	25	14	96	12g					SK01	2300		
H341	273	植			30	0	17	100	1	35	17	10	8	31	5	26	19	18	96	5p				東宝T	SK01	2300	
H341	311	植			26	0	17	150	1	33	19	8		25	15	96	10	10						SK01	2300		
H341	316	植			52	0	17	150	1	36	20	11	7	28	5	30	30	36	96	10g				柄1	TOI		
H341	355	植			66	0	170	1	34	20	7			26	34	26	21	96	10g					柄1	TOI		
H341	860	植			178	0	18	850	1	37	20	11	7	34	6	31	26	20	96	11g				SK01	2300		
H341	864	水返し	126	100	248	2	21	1340	2	36	171	21	8	33	36	6	30	24	15	96	10			SK01	2300		
H341	196																								柄1	SK01	2336
H341	197					38	0	17	250	1	35	19	7	7	5	29	21	18	96	11g				SK01	2300		
H341	198					52	0	22	90	1	35			26	96	5p									東宝T	SK01	2300
H341	199					87	0	17	210	1	35	21	10	7	7	30	23	17	96	9g				柄1	SK01	2300	
H341	200					63	0	15	120	1	37	19	8	9	3	34	25	16	96	10g				柄1	SK01	2300	
H341	201					64	0	17	80	1	38	19	12	7	6	32	23	20	96	12g				柄1	SK01	2300	
H341	202									37	20	9	6	5	31	21	18	96	11g					柄1	SK01	2300	
H341	203					104	0	18	150	1	37	20	9	6	7	33	22	16	96	12g				柄1	SK01	2300	
H341	204					46	0	18	120	1	36	20	7	7	30	96	10g							SK01	2300		
H341	205					96	0	16	70	1	36	20	10	6	23	8	28	31	17	96	10g			SK01	2300		
H341	206		47		132	1	18	260	1	36	19	7	7	5	33	17	96	10g						SK01	2300		
H341	207									36	19	7	7	18	20	96	11g							SK01	140		
H341	208					52	0	22	70	1	36	19	7	26	5	26	21	15	96	12g				SK01	2300		
H341	209					45	0	14	90	1	35	19	8	10	5	32	27	17	96	12g				SK01	2300		
H341	210		32		63	1	18	100	1	35	20	9	7	23	5	28	22	15	96	12g				SK01	2300		
H341	211				41	0	20	180	1	35	19	10		30	17	96	12g							SK01	2300		
H341	212				81	0	19	220	1	38	20	8	8	6	23	18	96	12g						SK01	2300		
H341	213				44	0	19	90	1	39	18	11		6	28	21	19	96	10g					SK01	2300		
H341	214				78	19	160	1	34	20	8	7	9	5	32	17	17	96	12g					SK01	2300		
H341	215				72	0	17	220	1	35	20	9		30	19	96	12g							SK01	2300		
H341	216				48	0	15	70	1	36	19	7	7	8	27	96	12g							SK01	2300		
H341	217									36	19	8		6	29	25	13	96	12g					SK01	2300		
H341	218									35	20	8		17	16	96	11g							SK01	2300		
H341	219				56	0	17	210	1	35	20	8	7	6	27	20	14	96	13g					SK01	2300		
H341	220				33	0	16	90	1	35	19	7	8	6	26	23	18	96	13g					SK01	2300		
H341	221		33		100	1	16	160	1	36	21	8	18	5	27	21	20	96	14g					SK01	2300		
H341	222				71	0	15	70	1	34	21	8		23	8	31	22	15	96	13g				SK01	2300		
H341	223				15	81	1	17	140	1	35	17	9	7	19	7	30	25	17	96	14g			SK01	2300		
H341	224				78	36	1	19	220	1	36	20	9	6	28	28	21	13	96	14g				SK01	2300		
H341	225				21	0	18	100	1	37	17	8		5	26	96	15g							SK01	2300		
H341	226									35	20	7		8	33	22	17	96	15g					SK01	2300		
H341	227				38	0	20	70	1	35	20	7		33	16	96	15g							SK01	2300		
H341	228				53	0	17	190	1	36	21	10	7	6	32	24	18	96	16d					SK01	2300		
H341	229				30	0	17	160	1	36	21	10		6	24	96	16d							SK01	2300		
H341	230									36	21	10		6	24	96	16d							SK01	2300		
H341	231		30		81	0	18	370	1	37	19	7	9	28	32	20	96	16d						SK01	2300		
H341	232				44	0	15	100	1	39	21	11	6	8	28	21	22	96	16c					SK01	2300		
H341	233				55	0	15	150	1	34	20	9	7	28	30	18	96	16d						SK01	2300		
H341	234		56		122	1	17	250	1	34	21	9	7	28	6	35	24	18	96	10g				柄1	SK01	2300	
H341	235									35	19	7	14	6	21	15	96	10g						柄1	SK01	2300	
H341	237		38		141	1	20	280	1	36	19	8	6	23	6	30	14	15	96	10g				SK01	2300		
H341	238		98	42	155	1	17	630	2	218	21	35		5	28	20	15	96	12,13g					SK01	2300		
H341	239		70		146	1	16	370	2	35	20	7	6	21	6	28	19	16	96	15g				SK01	2300		
H341	240			44		113	1	18	270	2	35	20	7	6	23	6	31	22	16	96	13,13g			SK01	2300		
H341	241				154	0	21	390	2	38	20	12	8	5	30	27	15	96	10g					SK01	2300		
H341	242				64	0	16	280	2	35	21	6	6	31	21	20	96	12g						SK01	2300		
H341	243		50	24	208	2	18	410	3	208	20	38	171	20	11	9	18	26	6	27	19	16	96	12,13g	SK01	2300	
H341	244		68	121	172	1	14	740	2	210	21	37	19	9	22	6	29	28	21	96	15g			SK01	2300		
H341	245																								SK01	2300	
H341	248		74		92	1	17	200	1					6	17	28	96	13g						SK01	2300		
H341	249		66		106	1	18	22	1	37	20	6	8	22	7	34	24	15	96	13g				SK01	2300		
H341	250		26		38																						

軒平瓦一覧表 (7)

型式	整理番号	和尺	左尺	右尺	有長	瓦長	瓦厚	重さ	全平	上風	下風	高さ	庇幅	外上	外下	幅	上	下	調	調	グッド	通称	国産番号
H341	274	666	16	64	1	19	180	35	19	6	7	19	29	19	29	14	9	9	9	9	SX01	榎戸	
H341	275	16		64	1	18	210	36	18	6	10	20	3	32	24	15	9	10	10	10	SX01	榎戸	
H341	276	168	135	1	23	740	1	35	21	8	7	56	6	34	28	11	9	10	10	10	SX01	榎戸	
H341	277	132	148	1	16	600	1	35	20	9	8	19	5	30	24	17	9	11	11	11	SX01	榎戸	
H341	278	37	48	1	15	60	1	35	21	7	21	21	4	29	15	32	9	9	12	12	SX01	榎戸	
H341	279	14	28	1	17	370	1	40	18	10	7	33	4	29	15	32	9	9	9	9	SX01	榎戸	
H341	280		39	0	20	40	1	36	20	9				31	15	9	11	11	11	11	SX01	2号	
H341	281	34	120	1	15	420	1	33	21	6	8	17	5	28	24	16	9	11	11	11	SX01	2号	
H341	282		40	0	21	120	1	37	19	8				26	16	9	12	12	12	12	SX01	2号	
H341	284	30	28	1	17	370	1	33	20	7	8	21	6	26	20	9	9	9	9	9	SX01	2号	
H341	284		84	0	40	1		36	20	10				27	17	9	12	12	12	12	SX01	2号	
H341	285		103	1	17	140	1	35	21	8	16			29	9	10	12	12	12	12	SX01	2号	
H341	287		36	0	19	100	1	35	21	8				28	14	9	12	12	12	12	SX01	2号	
H341	288	83	138	1	15	340	1	33	20	9	6	23	6	31	22	18	9	12	12	12	SX01	2号	
H341	289	41	46	1	17	70	1	36	18	9	28	30	10	36	22	9	13	13	13	13	SX01	2号	
H341	290	11	32	0	19	190	1	34	20	8	8			6	26	20	15	9	13	13	SX01	2号	
H341	292	82	75	1	18	150	1	38	19	8				28	14	9	12	12	12	12	SX01	2号	
H341	293		36	0	20	50	1	38	19	12	9			5	25	18	16	9	13	13	SX01	2号	
H341	294	86	88	1	17	440	1	36	20	7	9	26	6	29	24	16	9	14	14	14	SX01	2号	
H341	295	98	100	1	19	380	1	37	19	10	25	6	27	21	17	9	14	14	14	14	SX01	2号	
H341	296		80	0	21	180	1	37	20	9				26	16	9	14	14	14	14	SX01	2号	
H341	297	120	112	1	16	370	1	36	19	8	8	16	6	26	20	10	9	15	15	15	SX01	2号	
H341	298	22	100	1	16	120	1	36	19	8	8	24	6	28	22	19	9	15	15	15	SX01	2号	
H341	299	26	104	1	16	240	1	38	18	9	9	26	6	33	19	21	9	15	15	15	SX01	2号	
H341	300	73	76	1	11	40	1	33	18	7	7	20	5	25	22	21	9	16	16	16	SX01	2号	
H341	301	12	77	1	20	280	1	35	17	10	9	23	4	28	21	15	9	16	16	16	SX01	2号	
H341	302		100	0	19	300	1	37	19	7	5			7	25	20	16	9	16	16	SX01	2号	
H341	303		108	1	13	180	1	34	10	8	7	19	6	24	21	20	9	16	16	16	SX01	2号	
H341	304	20	128	1	15	200	1	36	18	7	10	24	5	29	19	22	9	17	17	17	SX01	2号	
H341	305		80	0	40	1		37	20	12				32	20	9	16	16	16	16	SX01	2号	
H341	306		40	0	20	1		38	19	10	8			8	29	22	19	9	16	16	SX01	2号	
H341	307		112	1	16	370	1	35	20	11	7	23	6	31	23	19	9	16	16	16	SX01	2号	
H341	308		88	0	18	150	1	37	20	12				32	20	9	16	16	16	16	SX01	2号	
H341	309	32	72	1	19	120	1	35	20	11	7	23	6	31	23	19	9	16	16	16	SX01	2号	
H341	310	38	120	1	17	250	1	38	21	7	8	19	6	27	21	20	9	11	11	11	SX01	2号	
H341	313		20	0	21	50	1	37	20	9	7			23	15	9	16	16	16	16	SX01	2号	
H341	314		40	0	18	150	1	37	20	12				32	20	9	16	16	16	16	SX01	2号	
H341	315	25	63	1	16	300	1	34	20	9	7	30	6	27	22	16	9	16	16	16	SX01	2号	
H341	317	44	80	1	24	120	1	36	19	11	8	32	3	35	23	9	16	16	16	16	SX01	2号	
H341	318		40	0	18	150	1	33	20	7				28	17	9	16	16	16	16	SX01	2号	
H341	319		40	0	18	150	1	33	20	7				28	17	9	16	16	16	16	SX01	2号	
H341	320		160	1	21	110	1	37	20	9	7			6	28	21	15	9	16	16	SX01	2号	
H341	322	32	38	1	11	60	1	34	18	7	8	14	6	18	13	20	9	11	11	11	SX01	2号	
H341	323	17	63	1	18	260	1	36	20	9	8	24	5	31	23	20	9	12	12	12	SX01	2号	
H341	324	27	38	1	19	50	1	36	8	19	23	22	17	9	12	12	12	12	12	12	SX01	2号	
H341	325	48	118	1	16	270	1	35	21	11	7	22	5	27	20	19	9	12	12	12	SX01	2号	
H341	326	36	80	1	17	80	1	34	19	8	9	28	6	23	23	9	9	9	9	9	SX01	2号	
H341	327		90	0	18	210	1	38	21	11				27	17	9	12	12	12	12	SX01	2号	
H341	328		390	1	21	110	1	35	19	9	9			6	27	20	15	9	12	12	SX01	2号	
H341	329		48	1	40	1		37	20	11	7	25	5	24	9	12	12	12	12	12	SX01	2号	
H341	330	34	78	1	20	140	1	36	19	10	7			28	17	9	12	12	12	12	SX01	2号	
H341	331	40	74	1	16	30	1	33	17	9				25	27	23	9	13	13	13	SX01	2号	
H341	332	56	24	1	17	100	1	34	24					24	32	22	19	9	13	13	SX01	2号	
H341	333		0	20	1			36	18	10	7	23	5	30	26	18	9	13	13	13	SX01	2号	
H341	334	90	110	1	19	270	1	34	19	7	23	6	25	22	16	9	14	14	14	14	SX01	2号	
H341	335		40	0	20	1		36	18	10	7	23	5	30	26	18	9	13	13	13	SX01	2号	
H341	336	45	85	1	16	160	1	34	19	9	9	22	6	25	22	16	9	14	14	14	SX01	2号	
H341	337		106	0	18	280	1	36	20	10	6			7	28	20	16	9	14	14	SX01	2号	
H341	338	40	104	1	19	150	1	35	19	9				21	28	21	16	9	14	14	SX01	2号	
H341	339	68	114	1	16	380	1	34	20	9	7	23	6	30	23	16	9	14	14	14	SX01	2号	
H341	340		54	0	17	100	1	34	20	9	7			23	6	20	15	9	15	15	SX01	2号	
H341	341	50	94	1	20	300	1	37	17	10	9	22	5	26	22	17	9	15	15	15	SX01	2号	
H341	342	48	83	1	21	180	1	38	20	8	7	23	7	28	28	16	9	15	15	15	SX01	2号	
H341	343		78	0	20	140	1	36	20	9	7	23	6	25	22	16	9	14	14	14	SX01	2号	
H341	344	48	90	1	18	330	1	35	20	9	7	28	6	34	21	19	9	16	16	16	SX01	2号	
H341	345		84	0	20	200	1	37	20	10				30	14	9	16	16	16	16	SX01	2号	
H341	346	28	45	1	11	60	1	34	17	9	8	23	6	26	20	22	9	16	16	16	SX01	2号	
H341	347	17	45	1	19	320	1	35	21	9	8	18	6	27	19	16	9	16	16	16	SX01	2号	
H341	348	50	66	1	19	110	1	38	21	7	8	23	5	30	27	17	9	16	16	16	SX01	2号	
H341	349		14	0	130	1	36	18	8	8	8			5	33	24	17	9	16	16	SX01	2号	
H341	350		38	0	60	1		36	20	11	7			6	20	18	9	16	16	16	SX01	2号	
H341	351	7	74	0	18	140	1	36	20	8	7	23	6	28	22	19	9	17	17	17	SX01	2号	
H341	352	58	128	1	23	450	1	36	20	10	7	23	6	25	22	17	9	18	18	18	SX01	2号	
H341	353	68	44	0	18	270	1	36	20	10				28		</							

軒平瓦一覧表 (11)

型式	標準 番号	形状	長さ	右 瓦長	右 瓦幅	瓦 厚	厚 度	重さ	破 片 積 積	全 瓦 上 長	全 瓦 下 長	瓦 下 幅	瓦 上 幅	瓦 間 幅	外 上 幅	外 下 幅	瓦 厚	瓦 下 厚	調査 年次	グレード	用途	図説番号
瓦不明	1309	楕	38			0	200	1											96	10	SK012号	
瓦不明	1310	楕	76	40		0	100	1											96	74	SK012号	
瓦不明	1311	楕	76			0	70	1											96	12	SK012号	
瓦不明	1312	楕	46			0	60	1											96	128	SK012号	
瓦不明	1313	楕	58			0	140	1											96	128	SK012号	
瓦不明	1314	楕	120		26	1	310	1											96	109	SK012号	
瓦不明	1315	楕		72		0	120	1											96	12	SK012号	
瓦不明	1316	楕	54			0	70	1											96	128	SK012号	
瓦不明	1317	楕	44			0	120	1											96	160	SK012号	
瓦不明	1318	楕		24		0	80	1											96	111	SK012号	
瓦不明	1319	楕	100			0	150	1											96	90	SK012号	
瓦不明	1320	楕	42			0	70	1											96	131	SK012号	
瓦不明	1321	楕	126			0	240	1											96	156	SK012号	
瓦不明	1323	楕	8			0	30	1											96	100	SK012号	
瓦不明	1324	楕	94			0	90	1											96	126	SK012号	
瓦不明	1325	楕		8		0	100	1											96	128	SK012号	
瓦不明	1326	楕	36			0	90	1											96	13	SK012号	
瓦不明	1327	楕	54			0	50	1											96	141	SK012号	
瓦不明	1328	楕		112		0	150	1											96	116	SK012号	
瓦不明	1329	楕	28			0	50	1											96	144	SK012号	
瓦不明	1330	楕		36		0	50	1											96	128	SK012号	
瓦不明	1331	楕		72		0	100	1											96	160	SK012号	
瓦不明	1333	楕	72			0	90	1											96	12	SK012号	
瓦不明	1334	楕	56			0	80	1											96	130	SK012号	
瓦不明	1335	楕		60		0	80	1											96	154	SK012号	
瓦不明	1336	楕	76			0	60	1											96	138	SK012号	
瓦不明	1337	楕		92		0	120	1											96	128	SK012号	
瓦不明	1338	楕	68			0	60	1											96	131	SK012号	
瓦不明	1339	楕			20	1	70	1											96	66	SK012号	
瓦不明	1340	楕	42			0	30	1											96	111	SK012号	
瓦不明	1341	楕	66			0	90	1											96	130	SK012号	
瓦不明	1342	楕	56			0	80	1											96	109	SK012号	
瓦不明	1343	楕	14			0	110	1											96	12	SK012号	
瓦不明	1344	楕				0	40	1											96	144	SK012号	
瓦不明	1345	楕	34			0	50	1											96	108	SK012号	
瓦不明	1347	楕	72			0	50	1											96	12	SK012号	
瓦不明	1348	楕		12		16	1	20	1										96	128	SK012号	
瓦不明	1349	楕		140		0	170	1											96	13	SK012号	
瓦不明	1350	楕	56	26	1	60	1												96	144	SK012号	
瓦不明	1351	楕	68	18	1	80	1												96	128	SK012号	
瓦不明	1352	楕	68			0	160	1											96	10	SK010号	
瓦不明	1353	楕				0	20	1											96	10	SK010号	
瓦不明	1354	楕	36			0	50	1											96	10	SK010号	
瓦不明	1355	楕	82			0	140	1											96	10	SK010号	
瓦不明	1356	楕	62			0	110	1											96	10	SK010号	
瓦不明	1357	楕	46			0	100	1											96	10	SK010号	
瓦不明	1358	楕	114			0	150	1											96	10	SK010号	
瓦不明	1359	楕	80		16	1	50	1											96	10	SK010号	
瓦不明	1360	楕		104		0	100	1											96	10	SK010号	
瓦不明	1361	楕	96			0	130	1											96	10	SK010号	
瓦不明	1362	楕		88		0	70	1											96	108	SK010号	
瓦不明	1363	楕		66		0	110	1											96	114	SD01	
瓦不明	1364	楕	50			0	60	1											96	110	SD01	
瓦不明	1365	楕	24	22		0	30	1											96	12g	SD01	
瓦不明	1366	楕	34			0	70	1											96	12g	SD01	
瓦不明	1367	楕	30			0	50	1											96	12g	SD01	
瓦不明	1369	楕	62			0	140	1											96	10n	SK010号	
瓦不明	1370	楕	34	18	1	40	1												96	10n	SK010号	
瓦不明	1371	楕	84	24	1	80	1												96	7p	SK010号	
瓦不明	1372	楕	100			0	120	1											96	9p	SK010号	
瓦不明	1373	楕		92		0	200	1											96	8g	SK010号	
瓦不明	1374	楕	40	24	1	50	1												96	11j	SK010号	
瓦不明	1375	楕	52		22	1	800	1											96	8g	SK010号	
瓦不明	1376	楕	82			0	120	1											96	128	SK010号	
瓦不明	1377	楕		92	10	1	100	1											96	10n	SK010号	
瓦不明	1378	楕	64			0	110	1											96	8g	SK010号	
瓦不明	1379	楕		112		0	120	1											96	7g	SK010号	
瓦不明	1380	楕	52			0	40	1											96	10n	SK010号	
瓦不明	1381	楕	8			0	20	1											96	10n	SK010号	
瓦不明	1382	楕	30			0	180	1											96	128	T01	
瓦不明	1383	楕	50			0	40	1											96	10n	T01	
瓦不明	1385	楕	86			0	120	1											96	13	T02	
瓦不明	1386	楕	100			0	150	1											96	5p	瓦SET	
瓦不明	1387	楕	72			0	70	1											96	7g	瓦SET	
瓦不明	1388	楕	76			0	110	1											96	12n	他出	
瓦不明	1389	楕	62			0	70	1											96	10j	他1	
瓦不明	1390	楕	56			0	50	1											96	10j	他1	
瓦不明	1391	楕	64			0	100	1											96	10j	他1	
瓦不明	1393	楕	44			0	100	1											96	10j	他1	
瓦不明	1395	楕				0	50	1											96	11b	他1	
瓦不明	1396	楕	52			0	30	1											96	9,10	他2	
瓦不明	1401	楕	106			0	180	1											96	15g	SK010号	
瓦不明	1402	楕		104		0	140	1											96	14g	SK010号	
瓦不明	1408	楕	76	18	1	80	1												97C	6n	SK010号	
瓦不明	1409	楕	28			0	20	1											97C	6n	SK010号	
瓦不明	1410	楕	50	20	1	50	1												97C	6n	SK010号	
瓦不明	1411	楕	112			0	120	1											97C	6n	SK010号	
瓦不明	1412	楕	82	16	1	30	1												97C	6n	SK010号	
瓦不明	1413	楕				0	50	1											97C	6n	SK010号	
瓦不明	1415	楕	44			0	24	40											97C	6n	SK010号	
瓦不明	1416	楕				0	29	220	1										97C	6n	SK010号	
瓦不明	1418	楕				0	20	80	1										97C</			

軒平瓦一覽表 (16)

型式	型番	形状	左 庇	右 庇	溝 深	庇 深	厚	重さ	破 片	全 重	上 庇	下 庇	高 さ	波 高	波 幅	外 径	内 径	左 庇	右 庇	上 庇	下 庇	重 さ	調 合 色	グリッド	遺構	図番番号	
軒平	1238					0	30	1												20	32	27	96	108	SK01埋戻		
軒平	1240					0	10	1								6					6		96	126	SK01 2層		
軒平	1241					0	22	150	1														96	128	SK01 2層		
軒平	1244			34		20	0	40	1														96	138	SK01 2層		
軒平	1253					22	0	20	1						14								96	Sp	SK01T		
軒平	1254					0	24	70	1														96	6p	SK01T		
軒平	1258					0	23	100	1														96	7p	SK01 2層		
軒平	1270					0	19	220	1														96	6p	SK01 2層		
軒平	1403					28	0	18	70	1						8						35	96	108	SK01 2層		
軒平	1405		14			36	1	30	1					35		8	9	20				6	96	108	SK01埋戻		
軒平	1406					0	60	1								10						6	22	96	6p	SK01T	
軒平	1430		32			0	19	60	1														97C	6p	1層		
軒平	1433					26	0	18	60	1													40	97C	5p	埋	

金属製品・金属関連遺物一覧表の凡例

この表は、出土した金属製品や金属関連遺物の全資料のデータを記録した一覧表である。各データの内容は「愛知県における鉄器生産を考える(4)」(鈴木他2000)に依拠しているので、あわせて参照されたい。

「保存番号等」は保存処理などのために付された整理番号である。

「種別」は遺物の種別を記載した。金属関連遺物の分類については鈴木他2000を参照された。

「形状」は遺物の形状を「棒状」、「礫状」、「扁平」、「輪型」などに区分して記録した。

「重量」は0.1g単位で記録した。

「長径」、「短径」、「厚さ」は残存する長さを0.1cm単位で記録した。

「着磁度」は直径30mm・1300ガウス(0.13テスラ)のリング状フェライト磁石を用いて着磁反応を示す距離を測定した。

「メタル1」は簡易な金属反応器(松下電工壁うらセンサープロ用EZ380B)を用いて2段階に分けて表記した。

「メタル2」は簡易な金属反応器(京都度器株式会社KDSメタルチェッカーMR-50)を用いて3段階に分けて表記した。

「口径」はとりべについてのみその口縁部径を記録した。

「残存」は資料の遺存状況を「完」、「欠」で記録した。

「発泡」、「小石」、「植物」、「木炭」、「如材」はそれぞれが残存するか否かを「○」、「×」で記録した。

「ガラス質」は資料中のスラグ部分に包含するものをその重みと表面観察から3段階に分けて表記した。

「銅滴」、「銅滓」、「白色」はそれぞれ銅塊、銅滓、白色付着物が残存するか否かを「○」、「×」で記録した。この記載は銅生産関連遺物にのみ限定して記述した。

金属製品・金属関連遺物一覧表 (1)

番号	所在地	遺物名	材質	形状	用途	長さ	幅	高さ	重量	出土層	出土位置	発掘	調査	保存	備考
96-1	95A	SV01	960118	鉄製	960118	4.4	4.3	1.1	1.0	2	1	2	1	0	0
96-2	95A	2004	960120	鉄製	960120	6.9	3.8	1.3	1.2	1	0	0	0	0	0
96-3	95A	2004	960120	鉄製	960120	6.9	3.8	1.3	1.2	1	0	0	0	0	0
96-4	95A	2004	960120	鉄製	960120	13.3	6.3	1.4	1.3	0	0	0	0	0	0
96-5	95A	2004	960120	鉄製	960120	1.7	1.8	1.0	0.9	1	0	0	0	0	0
96-6	95A	100a	951211	鉄製	951211	0.7	2.3	0.3	0.3	3	1	2	0	0	0
96-7	95A	100a	951211	鉄製	951211	0.7	2.3	0.3	0.3	3	1	2	0	0	0
96-8	95A	100a	951211	鉄製	951211	0.7	2.3	0.3	0.3	3	1	2	0	0	0
96-9	95A	100a	951211	鉄製	951211	0.8	1.2	0.8	0.6	1	0	0	0	0	0
96-10	95A	100a	951212	鉄製	951212	1.1	1.1	1.1	0.8	2	0	0	0	0	0
96-11	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-12	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-13	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-14	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-15	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-16	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-17	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-18	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-19	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-20	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-21	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-22	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-23	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-24	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-25	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-26	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-27	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-28	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-29	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-30	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-31	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-32	95A	100a	951212	鉄製	951212	0.9	1.3	0.9	0.7	2	0	0	0	0	0
96-33	95B	150m	SD102	鉄製	960221	6.2	2.7	2.3	1.2	0	0	0	0	0	0
96-34	95B	150m	SD102	鉄製	960221	8.6	5.0	1.1	1.0	3	0	0	0	0	0
96-35	95B	150m	SD102	鉄製	960221	13.2	5.3	1.7	1.3	3	0	0	0	0	0
96-36	95B	150m	SD102	鉄製	960221	10.2	5.4	2.0	1.8	2	1	1	0	0	0
96-37	95B	150m	SD102	鉄製	960221	12.0	2.3	2.0	1.3	2	1	2	0	0	0
96-38	95B	150m	SD102	鉄製	960221	2.6	4.3	0.6	0.6	2	0	2	0	0	0
96-39	95B	150m	SD102	鉄製	960222	0.9	0.9	1.3	1.1	4	1	1	0	0	0
96-40	95B	150m	SD102	鉄製	960222	2.1	2.3	0.8	0.8	3	0	0	0	0	0
96-41	95B	150m	SD102	鉄製	960222	0.8	1.6	0.8	0.7	1	0	0	0	0	0
96-42	95B	200a	SD108	鉄製	960221	2.1	2.0	1.4	0.7	3	0	0	0	0	0
96-43	95B	SK109	960221	鉄製	960221	3.4	4.1	2.2	1.5	3	1	2	0	0	0
96-44	95B	SK127	960222	鉄製	960222	0.1	2.5	1.7	1.5	4	1	2	0	0	0
96-45	95B	SK180	960220	鉄製	960220	3.3	1.5	2.0	0.4	3	1	2	0	0	0
96-46	95B	SK186	960223	鉄製	960223	3.2	3.0	1.3	1.1	1	1	1	1	1	1
96-47	95B	SK183	960220	鉄製	960220	4.6	4.2	1.4	1.3	3	2	3	2	2	2
96-48	95B	SK183	960220	鉄製	960220	5.7	7.9	0.4	0.3	0	1	2	0	0	0
96-49	95B	SK184	960220	鉄製	960220	1.3	2.1	1.3	0.1	0	1	0	0	0	0
96-50	95B	SK184	960220	鉄製	960220	2.3	3.3	1.9	0.1	0	1	0	0	0	0
96-51	95B	SK191	960221	鉄製	960221	3.3	1.8	0.9	0.1	0	1	0	0	0	0
96-52	95B	SK191	960221	鉄製	960221	3.3	1.8	0.9	0.1	0	1	0	0	0	0

金属製品・金属関連遺物一覧表 (2)

存在番号	調査区	テラマナ遺構	住居	遺物	形状	重量	直径	厚さ	素材	JIS	JIS2	JIS3	保存	本館	資料	備考
96-54	95B	SK192	960221	960221 合流部	扁平	0.9	0.9	0.1	鉄	0	0	0	○	○	○	○
96-54	95B	SK192	960221	960221 合流部	扁平	0.9	3.0	0.9	1.0	5	0	0	○	○	○	○
96-54	95B	SK192	960221	960221 合流部	扁平	0.9	3.1	0.6	0.5	2	1	1	○	○	○	○
96-54	95B	SK192	960221	960221 合流部	扁平	2.0	7.6	0.3	0.1	1	2	2	○	○	○	○
96-54	95B	SK192	960221	960221 合流部	扁平	7.6	4.0	1.6	0.9	0	1	2	○	○	○	○
96-54	95B	SK192	960221	960221 合流部	扁平	6.3	3.3	1.9	1.3	2	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960214	960214 合流部	扁平	11.9	3.8	2.2	1.5	1	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960214	960214 合流部	扁平	11.9	3.8	2.2	1.5	1	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960214	960214 合流部	扁平	10.6	1.2	1.2	0.1	1	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960214	960214 合流部	扁平	10.6	1.2	1.2	0.1	1	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960214	960214 合流部	扁平	3.2	2.4	2.4	0.1	0	1	2	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960214	960214 合流部	扁平	14.3	3.8	2.8	1.0	2	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960214	960214 合流部	扁平	14.3	3.8	2.8	1.0	2	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960214	960214 合流部	扁平	17.6	5.1	3.0	2.1	3	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960214	960214 合流部	扁平	18.5	4.9	2.0	2.3	3	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960214	960214 合流部	扁平	3.5	3.9	1.3	0.6	3	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960214	960214 合流部	扁平	4.9	2.9	1.8	1.7	1	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960214	960214 合流部	扁平	2.1	2.5	1.5	1.2	1	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	30.4	3.8	2.2	2.4	2	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	21.1	5.2	3.0	0.4	0	1	2	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	21.1	5.2	3.0	0.4	0	1	2	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	12.5	9.4	1.5	1.3	2	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	10.4	13.7	1.5	1.3	4	1	2	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	2.0	2.4	1.6	0.1	1	1	1	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	602.2	25.2	7.4	5.2	3	1	2	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	5.8	6.0	1.2	1.2	1	1	1	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	23.9	0.7	1.1	0.1	0	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	0.9	2.0	1.2	0.3	0	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	1.8	2.4	2.3	0.1	0	1	2	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	13.0	5.8	1.7	1.4	1	1	1	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	1.2	1.1	0.8	0.8	1	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	2.0	4.3	0.3	0.3	1	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	3.3	3.8	0.9	0.7	1	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	14.2	7.4	1.6	1.2	1	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	3.3	5.6	0.8	0.6	2	1	2	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	5.1	3.7	1.8	1.7	1	1	2	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	20.2	4.0	2.6	0.5	3	1	2	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	15.2	8.6	1.3	1.2	3	1	2	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	17.4	0.7	4.9	0.3	2	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	144.5	7.0	3.7	2.6	2	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	16.7	3.2	2.1	1.7	2	0	0	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	108.1	10.6	6.9	4.0	1	1	2	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	3.6	6.6	1.0	0.8	4	1	2	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	4.1	2.4	2.4	0.2	0	1	2	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	2.4	2.4	2.4	0.1	0	1	2	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	3.0	2.4	2.4	0.1	0	1	2	○	○	○	○
96-61	95B	SK192	960209	960209 11477合流部	扁平	6.2	8.5	0.6	0.5	3	1	2	○	○	○	○

金屬製品・金屬関連遺物一覧表 (11)

存在番号等	調査区	発祥年代	行方	種類	重量	寸法	目録番号	重さ	JIS	JIS2	JIS3	保存	出土位置	本表	附録	備考	調査	調査	調査	調査
00-254	99A	12h	000118	銅製	短杖	3.7	2.5	2.5	0.1	0	1	2	○	×	×	0				
00-255	99A	15h	000117	銅製(不明)	短杖	2.1	2.5	2.5	0.1	0	1	2	○	×	×	0				
00-256	99A	15h	000114	銅製(不明)	短杖	37.4	5.4	4.2	2.6	1	0	0	○	×	×	0				
00-259	99A	15m	SK68	銅製(不明)	短杖	12.1	1.1	2.0	1.2	2	0	0	○	×	×	0				
00-260	99A	15m	SK68	銅製(不明)	短杖	14.9	1.1	1.4	1.1	2	0	0	○	×	×	0				
00-271	99A	15m	SK68	銅製(不明)	短杖	4.4	3.5	1.4	1.1	2	0	0	○	×	×	0				
00-272	99A	15m	SK68	銅製(不明)	短杖	3.0	2.5	2.5	0.1	0	1	2	○	×	×	0				
00-273	99A	15m	SK68	銅製(不明)	短杖	14.0	1.4	1.0	1.0	4	1	2	○	×	×	0				
00-274	99A	15m	SK68	銅製(不明)	短杖	7.8	3.6	1.8	1.5	1	0	0	○	×	×	0				
00-275	99A	15m	SK68	銅製(不明)	短杖	10.9	2.4	1.1	0.1	0	0	0	○	×	×	0				
00-276	99A	14h	SK71	銅製(不明)	短杖	48.3	8.3	3.7	1.5	0	0	0	○	×	×	0				
00-277	99A	14h	SK71	銅製(不明)	短杖	3.2	3.5	1.1	1.0	1	0	0	○	×	×	0				
00-278	99A	14h	SK71	銅製(不明)	短杖	3.9	2.7	1.1	1.0	1	0	0	○	×	×	0				
00-279	99A	14h	SK71	銅製(不明)	短杖	1.5	4.2	0.6	0.6	2	0	0	○	×	×	0				
00-280	99A	14h	SK71	銅製(不明)	短杖	40.4	4.9	2.4	2.4	1	0	0	○	×	×	0				
00-281	99A	14h	SK71	銅製(不明)	短杖	3.8	2.4	2.3	0.1	0	1	2	○	×	×	0				
00-282	99A	12h	SK88	銅製(不明)	短杖	23.9	4.3	3.9	1.3	0	0	0	○	×	×	0				
00-283	99A	12h	SK88	銅製(不明)	短杖	3.1	5.1	0.9	0.7	1	0	0	○	×	×	0				
00-284	99A	12h	SK88	銅製(不明)	短杖	3.1	4.3	1.1	0.9	1	0	0	○	×	×	0				
00-285	99A	12h	SK88	銅製(不明)	短杖	4.5	2.7	2.3	0.9	1	0	0	○	×	×	0				
00-286	99A	12h	SK88	銅製(不明)	短杖	2.4	2.5	2.0	0.6	0	0	0	○	×	×	0				
00-287	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	8.8	3.3	3.3	0.8	0	0	0	○	×	×	0				
00-288	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	28.0	3.4	3.0	1.2	0	1	2	○	×	×	0				
00-289	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	27.3	3.7	3.0	2.5	2	0	0	○	×	×	0				
00-290	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	4.2	3.3	1.9	0.6	2	1	0	○	×	×	0				
00-291	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	1.5	2.6	0.7	0.6	2	0	0	○	×	×	0				
00-292	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	13.3	4.8	2.6	0.9	0	0	0	○	×	×	0				
00-293	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	6.1	3.8	2.1	0.8	0	0	0	○	×	×	0				
00-294	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	5.7	2.9	2.6	0.7	0	0	0	○	×	×	0				
00-295	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	5.0	3.0	2.3	0.7	0	0	0	○	×	×	0				
00-296	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	3.9	2.3	1.9	0.7	0	0	0	○	×	×	0				
00-297	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	4.6	2.3	2.1	0.7	0	0	0	○	×	×	0				
00-298	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	1.9	1.7	1.4	0.6	0	0	0	○	×	×	0				
00-299	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	2.6	2.3	1.6	0.8	0	0	0	○	×	×	0				
00-300	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	1.5	1.3	1.2	0.8	0	0	0	○	×	×	0				
00-301	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	0.17	0.8	0.4	0.4	0	0	0	○	×	×	0				
00-302	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	1.4	1.6	1.3	1.0	0	0	0	○	×	×	0				
00-303	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	27.0	3.3	3.3	0.5	0	0	0	○	×	×	0				
00-304	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	14.2	4.1	2.7	1.1	0	0	0	○	×	×	0				
00-305	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	8.7	2.3	2.0	1.5	0	0	0	○	×	×	0				
00-306	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	6.8	3.3	3.3	1.5	0	0	0	○	×	×	0				
00-307	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	33.4	6.0	4.5	0.9	0	0	0	○	×	×	0				
00-308	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	16.1	4.8	4.0	0.7	0	0	0	○	×	×	0				
00-309	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	17.2	5.3	4.2	0.7	0	0	0	○	×	×	0				
00-310	99A	12h	SK89	銅製(不明)	短杖	10.3	3.8	3.7	0.8	0	0	0	○	×	×	0				

金屬製品・金屬関連遺物一覧表 (14)

存在番号等	調査区	調査区番号	遺物	目録	重量	寸法	材質	年代	用途	出土層	出土位置	本表	図号	写真	備考
142	99A	129	SK80	000118	2.9	1.4	0.6	0	0	0	0	X			
143	99A	129	SK80	000118	3.7	2.6	0.8	0	0	0	0	X			
144	99A	129	SK80	000118	4.8	2.5	2.0	0.9	0	0	0	X			
145	99A	129	SK80	000118	4.1	2.3	1.9	0.8	0	0	0	X			
146	99A	129	SK80	000118	2.1	2.2	1.7	0.6	0	0	0	X			
147	99A	129	SK80	000118	1.9	1.8	1.4	0.7	0	0	0	X			
148	99A	129	SK80	000118	2.3	2.2	1.4	0.7	0	0	0	X			
149	99A	129	SK80	000118	7.8	3.0	1.8	1.1	0	0	0	X			
150	99A	129	SK80	000118	4.1	2.2	1.8	1.0	0	0	0	X			
151	99A	129	SK80	000118	2.7	2.1	1.9	1.2	0	0	0	X			
152	99A	129	SK80	000125	13.5	3.9	3.4	0.7	0	0	7.2	X			No.5
153	99A	129	SK80	000125	3.7	2.4	1.7	0.7	0	0	0	X			No.5
154	99A	129	SK80	000125	20.0	4.9	4.0	0.5	0	0	5.2	X			No.5
155	99A	129	SK80	000126	5.3	3.4	1.8	0.7	1	0	1.5	X			
156	99A	129	SK80	000126	4.0	2.7	1.6	0.8	1	1	0	8.2			
157	99A	129	SK80	000126	4.0	3.0	2.1	0.6	0	0	0	6.1			
158	99A	129	SK80	000126	4.3	2.9	1.5	1.0	0	0	0	0			
159	99A	129	SK80	000126	3.1	2.7	1.8	0.5	0	0	0	4.1			
160	99A	129	SK80	000126	1.9	2.0	1.7	0.6	0	0	0	8.2			
161	99A	129	SK80	000126	0.9	1.4	1.1	0.5	0	0	0	0			
162	99A	129	SK80	000126	0.3	1.1	1.0	0.6	0	0	0	0			
163	99A	129	SK80	000126	3.5	3.0	1.2	0.9	1	0	0	0			
164	99A	129	SK80	000126	8.0	3.9	2.9	0.6	0	0	7.1	X			
165	99A	129	SK80	000126	22.9	5.8	3.4	0.9	0	0	10.2	X			No.11
166	99A	129	SK80	000118	1.8	2.0	1.4	0.6	0	0	0	0			
167	99A	129	SK80	000118	5.3	4.0	2.0	0.6	0	0	0	0			
168	99A	129	SK80	000118	4.8	2.7	1.7	1.0	0	0	0	6.1			
169	99A	129	SK80	000118	3.8	2.2	1.9	1.2	0	0	0	0			
170	99A	129	SK80	000118	2.7	2.1	1.3	1.1	0	0	0	0			
171	99A	129	SK80	000118	1.8	1.8	1.4	1.0	0	0	0	0			
172	99A	129	SK80	000118	6.0	3.1	1.5	1.3	2	0	1.1	0			
173	99A	129	SK80	000118	5.4	2.9	2.1	0.9	0	0	0	6.2			
174	99A	129	SK80	000118	4.9	2.6	2.3	0.8	0	0	0	8.2			
175	99A	129	SK80	000118	2.5	2.6	1.4	0.7	0	0	0	0			
176	99A	129	SK80	000118	2.3	1.8	1.5	1.0	0	0	0	0			
177	99A	129	SK80	000118	14.8	4.3	3.0	1.2	0	0	6.1	X			
178	99A	129	SK80	000118	2.9	1.9	1.5	1.2	0	0	0	0			
179	99A	129	SK80	000118	2.7	2.1	1.2	0.9	1	0	0	0			
180	99A	129	SK80	000118	13.5	3.9	3.1	0.9	0	0	0	0			
181	99A	129	SK80	000118	7.0	3.6	3.0	0.6	0	0	0	0			
182	99A	129	SK80	000118	4.7	2.3	2.1	0.7	0	0	0	0			
183	99A	129	SK80	000118	3.4	2.2	2.0	0.8	0	0	0	0			
184	99A	129	SK80	000118	4.7	3.0	2.6	0.6	0	0	0	0			
185	99A	129	SK80	000118	4.3	2.2	1.8	1.1	0	0	0	0			

金屬製品・金屬関連遺物一覧表 (18)

生存年代等	調査区	発掘位置	品目	形状	素材	寸法	重量	注目点	年代	出土層	出土状況	本表	図録	備考	写真	調査報告書	図録	備考	
283	99A	12a	SK83	硬鉄	12.3	3.3	4.8	1.0	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	
284	99A	12a	SK84	硬鉄	9.0	3.9	1.0	0.9	1	0	0	×	×	×	×	×	×	×	
285	99A	12a	SK84	硬鉄	2.9	2.6	2.1	0.7	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	
286	99A	12a	SK84	硬鉄	3.7	2.9	2.1	0.6	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	
287	99A	12a	SK84	硬鉄	6.0	2.7	2.3	0.8	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
288	99A	12a	SK84	硬鉄	3.8	2.1	2.2	0.8	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
289	99A	12a	SK84	硬鉄	3.8	2.1	2.2	0.8	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
290	99A	12a	SK84	硬鉄	2.3	2.0	1.8	0.8	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
291	99A	12a	SK84	硬鉄	2.3	2.0	1.8	0.8	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
292	99A	12a	SK84	硬鉄	2.3	2.0	1.8	0.8	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
293	99A	12a	SK84	硬鉄	4.4	2.1	2.1	1.1	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
294	99A	12a	SK84	硬鉄	20.6	4.0	4.0	1.0	0	1	11	×	×	×	×	×	×	×	×
295	99A	12a	SK84	硬鉄	5.7	3.1	2.2	0.8	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
296	99A	12a	SK84	硬鉄	5.7	3.1	2.2	0.8	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
297	99A	12a	SK84	硬鉄	2.4	1.7	1.4	1.0	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
298	99A	12a	SK84	硬鉄	2.4	1.7	1.4	1.0	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
299	99A	12a	SK84	硬鉄	0.7	1.4	1.0	0.5	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
300	99A	12a	SK84	硬鉄	5.1	2.3	2.2	1.1	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
301	99A	12a	SK84	硬鉄	1.6	1.5	1.1	0.8	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
302	99A	12a	SK84	硬鉄	1.6	1.5	1.1	0.8	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
303	99A	12a	SK84	硬鉄	0.5	0.8	0.7	0.6	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
304	99A	12a	SK84	硬鉄	2.0	2.4	3.3	0.3	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
305	99A	12a	SK84	硬鉄	2.7	4.2	3.3	0.3	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
306	99A	12a	SK84	硬鉄	6.1	3.5	2.2	0.6	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
307	99A	12a	SK84	硬鉄	4.7	3.5	1.5	0.8	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
308	99A	12a	SK84	硬鉄	2.9	1.9	1.9	0.7	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
309	99A	12a	SK84	硬鉄	2.9	1.9	1.9	0.7	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
310	99A	12a	SK84	硬鉄	8.0	3.3	2.9	1.1	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
311	99A	12a	SK84	硬鉄	2.8	2.4	1.8	1.5	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
312	99A	12a	SK84	硬鉄	11.9	4.2	4.5	1.1	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
313	99A	12a	SK84	硬鉄	11.9	4.2	4.5	1.1	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
314	99A	12a	SK84	硬鉄	11.0	3.8	2.4	1.0	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
315	99A	12a	SK84	硬鉄	6.3	3.3	1.6	1.2	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
316	99A	12a	SK84	硬鉄	9.0	5.1	1.2	1.1	2	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
317	99A	12a	SK87	硬鉄	22.2	2.7	2.0	1.3	2	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
318	99A	12a	SK87	硬鉄	1.3	1.3	1.8	0.7	1	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
319	99A	12a	SK87	硬鉄	0.6	2.1	0.6	0.5	1	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
320	99A	12a	SK87	硬鉄	14.8	3.7	3.2	0.2	3	0	1	×	×	×	×	×	×	×	×
321	99A	12a	SK87	硬鉄	11.4	3.3	2.2	1.2	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
322	99A	12a	SK87	硬鉄	5.9	2.5	2.4	1.2	1	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
323	99A	12a	SK87	硬鉄	1.0	1.3	1.0	0.9	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
324	99A	12a	SK87	硬鉄	12.7	3.7	3.9	1.0	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
325	99A	12a	SK87	硬鉄	6.7	3.0	1.8	1.2	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
326	99A	12a	SK87	硬鉄	4.3	2.9	2.0	1.3	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
327	99A	12a	SK87	硬鉄	1.3	1.6	1.1	0.3	2	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
328	99A	12a	SK87	硬鉄	0.3	1.1	0.9	0.1	1	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
329	99A	12a	SK87	硬鉄	3.3	3.7	3.7	2.4	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
330	99A	12a	SK87	硬鉄	6.9	2.8	2.5	0.7	2	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
331	99A	12a	SK87	硬鉄	6.1	2.7	2.5	0.8	1	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×
332	99A	12a	SK89	硬鉄	3.1	3.7	1.1	0.9	2	1	1	×	×	×	×	×	×	×	×
333	99A	12a	SK89	硬鉄	3.1	3.7	1.1	0.9	2	1	1	×	×	×	×	×	×	×	×
334	99A	12a	SK89	硬鉄	1.3	1.4	1.1	0.7	0	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×

金属製・金属関連遺物一覧表 (25)

管理番号	遺物番号	品名	材質	重量	長さ	幅	厚さ	直径	高さ	重さ	用途	出土状況	保存状況	調査年度	調査機関	備考
00-613	99A	13m	銅	13.7	4.1	1.8	1.3	3	1	2	×	×	×	×	×	0
00-614	99A	13m	銅	9.1	3.0	2.0	1.3	3	1	2	×	×	×	×	×	0
00-615	99A	14m	銅	8.0	2.7	1.7	1.1	3	0	0	×	×	×	×	×	0
00-616	99A	14m	銅	8.7	3.7	1.0	1.0	0	0	0	×	×	×	×	×	0
00-617	99A	14m	銅	80.0	5.3	3.7	2.1	3	0	0	×	×	×	×	×	1
00-618	99A	14m	銅	2.9	1.7	1.3	0.8	2	0	0	×	×	×	×	×	1
00-619	99A	14m	銅	2.9	1.7	1.3	0.8	2	0	0	×	×	×	×	×	1
00-620	99A	14m	銅	23.2	3.4	2.8	2.5	5	0	0	×	×	×	×	×	0
00-621	99A	14m	銅	24.2	6.1	2.8	1.6	3	0	0	×	×	×	×	×	0
00-622	99A	14m	銅	3.9	3.5	1.2	0.9	2	0	0	×	×	×	×	×	0
00-623	99A	14m	銅	58.4	4.4	4.2	2.5	3	0	0	×	×	×	×	×	0
00-624	99A	14m	銅	11.8	3.4	2.5	1.7	3	0	0	×	×	×	×	×	1
00-625	99A	14m	銅	7.7	3.7	1.9	1.2	3	0	0	×	×	×	×	×	0
00-626	99A	14m	銅	6.2	3.7	1.9	1.2	3	0	0	×	×	×	×	×	0
00-627	99A	15m	銅	4.6	2.5	1.5	0.8	2	0	0	×	×	×	×	×	1
00-628	99A	16m	銅	7.8	3.3	2.0	1.3	3	0	0	×	×	×	×	×	0
00-629	99A	16m	銅	18.0	6.6	1.6	1.4	3	0	0	×	×	×	×	×	0
00-630	99A	16m	銅	18.0	6.6	1.6	1.4	3	0	0	×	×	×	×	×	0
00-631	99A	16m	銅	17.9	4.4	3.1	0.9	0	0	0	×	×	×	×	×	0
00-632	99A	16m	銅	3.1	2.7	1.6	0.7	1	1	2	×	×	×	×	×	0
00-633	99A	16m	銅	1.2	2.0	1.3	0.7	2	0	0	×	×	×	×	×	0
00-634	99A	16m	銅	16.0	2.9	2.3	2.1	2	0	0	×	×	×	×	×	0
00-635	99A	16m	銅	1.2	1.3	1.0	0.6	2	0	0	×	×	×	×	×	0
00-636	99A	16m	銅	17.4	6.2	4.8	1.6	0	0	0	×	×	×	×	×	0
00-637	99A	16m	銅	13.3	3.3	1.8	0.7	4	0	1	×	×	×	×	×	0
00-638	99A	16m	銅	13.3	3.3	1.8	0.7	4	0	1	×	×	×	×	×	0
00-639	99A	16m	銅	3.3	2.5	0.7	0.7	2	0	0	×	×	×	×	×	0
00-640	99B	3	銅	3.7	3.1	1.1	1.0	2	1	1	×	×	×	×	×	0
00-641	99B	3	銅	1.6	2.1	1.0	0.7	2	0	0	×	×	×	×	×	0
00-642	99B	3	銅	2.4	0.9	1.4	0.9	3	0	0	×	×	×	×	×	0
00-643	99B	3	銅	2.4	0.9	1.4	0.9	3	0	0	×	×	×	×	×	0
00-644	99B	3	銅	2.4	0.9	1.4	0.9	3	0	0	×	×	×	×	×	0
00-645	99B	3	銅	7.0	4.6	1.1	1.1	4	1	1	×	×	×	×	×	0
00-646	99B	3	銅	3.3	2.3	1.2	0.9	2	0	0	×	×	×	×	×	0
00-647	99B	3	銅	2.9	2.7	1.3	0.9	1	0	0	×	×	×	×	×	0
00-648	99B	3	銅	2.4	2.5	0.9	0.6	3	0	0	×	×	×	×	×	0
00-649	99B	3	銅	3.7	3.7	1.1	0.7	2	0	0	×	×	×	×	×	0
00-650	99B	4	銅	11.0	2.7	2.5	1.0	5	1	2	×	×	×	×	×	0
00-651	99B	4	銅	3.4	2.0	1.4	0.8	3	0	0	×	×	×	×	×	0
00-652	99B	4	銅	3.9	2.9	1.3	0.9	2	0	0	×	×	×	×	×	0
00-653	99B	4	銅	4.3	2.9	1.5	1.0	2	0	0	×	×	×	×	×	0
00-654	99B	4	銅	2.5	2.4	1.6	1.3	0	0	0	×	×	×	×	×	2
00-655	99B	4	銅	8.5	2.5	1.9	1.4	1	0	0	×	×	×	×	×	0

金属製品・金属関連遺物一覧表 (27)

番号	発見地	遺物名	材質	重量	長さ	幅	厚さ	直径	高さ	形状	用途	保存	備考
00-657	9910-5	SKL180	硬鉄	5.4	2.7	1.5	1.3	2	1	0	×	×	×
00-658	9910-5	SKL180	硬鉄	1.4	2.4	1.0	0.7	1	0	0	×	×	×
00-659	9910-5	SKL180	硬鉄	0.7	1.0	0.5	0.4	1	0	0	×	×	×
00-660	9910-6	SKL180	硬鉄	14.5	8.4	1.2	1.0	1	0	0	×	×	×
00-661	9910-6	SKL180	硬鉄	7.2	4.7	1.2	1.1	2	0	0	×	×	×
00-662	9910-6	SKL180	硬鉄	3.5	3.9	0.9	0.9	3	0	0	×	×	×
00-663	9910-6	SKL180	硬鉄	3.5	3.9	0.9	0.9	3	0	0	×	×	×
00-664	9910-6	SKL180	硬鉄	1.0	0.9	0.5	0.4	2	0	0	×	×	×
00-665	9910-6	SKL180	硬鉄	6.8	12.2	0.8	0.7	2	1	2	×	×	×
00-666	9910-6	SKL180	硬鉄	1.5	3.7	0.3	0.4	2	1	1	×	×	×
00-667	9910-6	SKL155	硬鉄	2.4	3.5	0.7	0.7	2	0	0	×	×	×
00-668	9910-6	SKL155	硬鉄	2.5	4.4	1.0	0.6	3	1	2	×	×	×
00-669	9910-6	SKL155	硬鉄	0.5	2.3	0.5	0.5	2	0	0	×	×	×
00-670	9910-6	SKL155	硬鉄	0.3	1.3	0.4	0.3	1	0	0	×	×	×
00-671	9910-6	SKL157	硬鉄	7.8	2.6	1.3	1.2	1	0	0	×	×	×
00-672	9910-6	SKL157	硬鉄	7.1	2.7	1.5	1.5	1	0	0	×	×	×
00-673	9910-6	SKL157	硬鉄	9.1	3.1	1.6	1.6	1	0	0	×	×	×
00-674	9910-6	SKL157	硬鉄	2.0	3.2	0.8	0.8	2	0	0	×	×	×
00-675	9910-6	SKL157	硬鉄	2.7	3.1	1.1	0.8	2	0	0	×	×	×
00-676	9910-6	SKL157	硬鉄	2.4	2.3	1.0	0.9	1	0	0	×	×	×
00-677	9910-6	SKL157	硬鉄	1.3	3.3	0.9	0.8	1	0	0	×	×	×
00-678	9910-6	SKL164	硬鉄	12.6	4.9	0.8	0.7	3	1	2	×	×	×
00-679	9910-6	SKL164	硬鉄	11.7	3.1	2.2	1.8	1	0	0	×	×	×
00-700	9910-8	SKL103	硬鉄	4.6	3.2	1.5	1.0	3	0	0	×	×	×
00-701	9910-8	SKL106	硬鉄	1.9	1.9	1.0	0.7	1	0	0	×	×	×
00-702	9910-8	SKL173	硬鉄	3.8	3.9	0.9	0.8	4	1	2	×	×	×
00-703	9910-8	SKL174	硬鉄	4.6	5.0	1.2	0.8	3	1	2	×	×	×
00-704	9910-8	SKL174	硬鉄	22.0	4.4	3.9	3.3	3	0	0	×	×	×
00-705	9910-8	SKL174	硬鉄	31.3	4.1	3.9	2.8	0	0	0	×	×	×
00-706	9910-8	SKL174	硬鉄	20.0	4.1	3.0	2.2	2	0	0	×	×	×
00-707	9910-8	SKL174	硬鉄	1.9	4.2	1.0	0.6	4	1	2	×	×	×
00-708	9910-8	SKL175	硬鉄	4.5	3.8	2.0	1.3	0	0	0	×	×	×
00-709	9910-8	SKL175	硬鉄	9.1	5.0	1.3	1.2	2	1	2	×	×	×
00-710	9910-8	SKL176	硬鉄	4.2	4.5	1.5	1.0	3	1	2	×	×	×
00-711	9910-8	SKL176	硬鉄	14.4	6.3	1.9	1.5	1	0	0	×	×	×
00-712	9910-8	SKL176	硬鉄	20.0	4.7	3.5	3.1	2	0	0	×	×	×
00-713	9910-8	SKL176	硬鉄	7.1	3.1	1.7	1.1	2	0	0	×	×	×
00-714	9910-8	SKL176	硬鉄	6.4	2.6	2.4	1.3	0	0	0	×	×	×
00-715	9910-8	SKL176	硬鉄	3.7	2.6	1.7	1.5	2	0	0	×	×	×
00-716	9910-8	SKL179	硬鉄	2.3	1.9	1.6	0.8	0	0	0	×	×	×
00-717	9910-8	SKL180	硬鉄	19.0	3.4	3.4	1.7	1	0	0	×	×	×
00-718	9910-8	SKL180	硬鉄	10.0	5.1	2.4	1.7	1	0	0	×	×	×
00-719	9910-8	SKL180	硬鉄	8.5	6.7	1.3	0.9	0	0	0	×	×	×
00-720	9910-8	SKL180	硬鉄	14.2	4.4	4.1	1.2	0	0	0	×	×	×
00-721	9910-8	SKL180	硬鉄	2.3	3.0	0.9	0.8	3	0	0	×	×	×
00-722	9910-8	SKL180	硬鉄	24.8	6.9	2.9	1.0	3	0	0	×	×	×
00-723	9910-8	SKL180	硬鉄	5.3	5.8	1.1	0.5	1	0	0	×	×	×
00-724	9910-8	SKL180	硬鉄	5.3	2.5	1.4	0.3	1	0	0	×	×	×
00-725	9910-8	SKL180	硬鉄	5.3	2.5	1.4	0.3	1	0	0	×	×	×

00-686 硬鉄

00-687 硬鉄

00-688 硬鉄

00-689 硬鉄

00-690 硬鉄

00-691 硬鉄

00-692 硬鉄

00-709 硬鉄

00-710 硬鉄

00-711 硬鉄

00-712 硬鉄

00-713 硬鉄

00-714 硬鉄

00-715 硬鉄

00-720 硬鉄

00-721 硬鉄

00-722 硬鉄

00-723 硬鉄

00-724 硬鉄

00-725 硬鉄

00-726 硬鉄

00-727 硬鉄

00-728 硬鉄

00-729 硬鉄

00-730 硬鉄

00-731 硬鉄

00-732 硬鉄

金屬製品・金屬関連遺物一覧表 (28)

存在形式等	調査区	テグマノリ	遺物	形状	重量	直径	厚さ	単位	1941	1942	1943	1944	1945	1946	1947	1948	1949	1950	1951	1952	1953	備考		
00-226	9915	5	SK100	000124	楕円	楕円	46.0	3.0	1.7	1.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
00-228	9915	5	SK101	000124	楕円	楕円	28.3	8.6	1.9	1.3	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-228	9915	5	SK101	000124	楕円	楕円	15.6	5.8	1.5	1.5	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-228	9915	5	SK101	000124	楕円	楕円	34.1	4.6	1.5	1.7	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2731	9915	6	SK104	000124	楕円	楕円	18.2	5.2	1.8	1.4	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2732	9915	6	SK104	000124	楕円	楕円	9.8	5.0	1.1	1.8	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2733	9915	6	SK104	000124	楕円	楕円	8.4	4.5	1.5	1.1	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2734	9915	6	SK106	000125	楕円	楕円	24.4	4.7	2.4	1.6	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2735	9915	5	SK109	000125	楕円	楕円	31.1	4.1	0.7	1.1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2736	9915	5	SK109	000127	楕円	楕円	31.1	4.0	1.9	1.1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2737	9915	5	SK109	000124	楕円	楕円	49.2	4.8	3.9	2.8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2738	9915	6	SK101	000127	楕円	楕円	13.1	3.9	1.0	1.5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2738	9915	6	SK101	000127	楕円	楕円	2.4	2.7	0.8	0.7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2739	9915	6	SK101	000127	楕円	楕円	2.3	2.1	1.0	0.6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2739	9915	6	SK101	000127	楕円	楕円	1.1	2.0	0.7	0.6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2740	9915	6	SK101	000124	楕円	楕円	3.1	2.6	1.5	0.9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2742	9915	5	SK102	000207	楕円	楕円	3.6	4.7	1.0	0.4	5	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2742	9915	10	SK103	000207	楕円	楕円	15.2	4.3	1.9	1.3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2742	9915	10	SK103	000207	楕円	楕円	23.5	7.1	2.0	1.7	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2747	9915	9	SK104	000309	楕円	楕円	33.5	2.3	1.2	1.2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2748	9915	10	SK104	000309	楕円	楕円	33.5	2.3	1.2	1.2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2749	9915	10	SK104	000309	楕円	楕円	33.5	2.3	1.2	1.2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2749	9915	6	SK104	000207	楕円	楕円	13.5	4.1	2.0	1.6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2749	9915	6	SK104	000207	楕円	楕円	11.0	3.4	2.0	1.4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2749	9915	6	SK104	000207	楕円	楕円	3.8	2.9	1.1	1.0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2749	9915	6	SK104	000207	楕円	楕円	26.1	4.6	3.4	1.1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2751	9915	5	SK104	000207	楕円	楕円	6.7	4.6	1.5	1.3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2756	9915	6	SK104	000207	楕円	楕円	26.1	11.3	2.2	1.3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2756	9915	6	SK104	000207	楕円	楕円	24.2	5.0	3.1	1.6	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2757	9915	9	SK104	000207	楕円	楕円	11.9	4.4	1.2	1.2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2757	9915	9	SK104	000207	楕円	楕円	7.9	3.7	1.0	1.3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2757	9915	9	SK104	000207	楕円	楕円	26.3	6.3	1.2	0.4	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2757	9915	9	SK104	000208	楕円	楕円	12.6	3.1	2.0	1.6	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2758	9915	9	SK104	000208	楕円	楕円	15.3	3.3	1.5	1.5	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2758	9915	9	SK104	000208	楕円	楕円	6.0	3.6	1.4	1.1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2758	9915	9	SK104	000208	楕円	楕円	3.2	3.1	1.1	0.7	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2758	9915	9	SK104	000208	楕円	楕円	6.0	2.9	2.4	0.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-2758	9915	9	SK104	000208	楕円	楕円	5.9	2.9	1.8	0.8	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-760	9915	10	SK105	000124	楕円	楕円	42.7	3.8	3.5	3.3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-761	9915	10	SK105	000124	楕円	楕円	6.0	2.9	2.4	0.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-762	9915	9	SK105	000309	楕円	楕円	36.9	4.9	3.9	1.5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-874	9915	4	SK209	000107	楕円	楕円	6.2	4.0	1.1	0.8	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-875	9915	4	SK211	000102	楕円	楕円	2.2	2.9	1.4	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-877	9915	4	SK209	000106	楕円	楕円	1.5	1.6	1.3	0.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-878	9915	6	SK201	000101	楕円	楕円	3.8	3.6	0.8	0.8	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-880	9915	5	SK274	000129	楕円	楕円	8.4	5.0	1.4	1.2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-881	9915	5	SK276	000101	楕円	楕円	100.6	6.8	6.4	3.5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-883	9915	14	SK276	000101	楕円	楕円	48.3	5.0	4.4	3.2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

金屬製品・金屬関連遺物一覧表 (30)

存在番号等	調査区	テラマツト	遺物	形状	長さ	直径	厚さ	重量	1941	1942	1943	1944	1945	1946	1947	1948	1949	1950	備考		
00-769	9919	68	000106	銅板	楕円	2.1	3.9	2.2	2.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-771	9919	68	000106	銅板	楕円	7.7	3.3	2.5	1.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-775	9919	68	000106	銅板	楕円	5.5	5.9	0.8	0.6	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-784	9919	38	000221	銅板	楕円	1.8	2.0	1.5	1.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-789	9919	4	000221	銅板	楕円	10.5	5.0	2.0	1.5	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-790	9919	4	000221	銅板	楕円	22.0	3.7	2.6	2.9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-791	9919	4	000224	銅板	楕円	0.6	1.4	0.9	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-793	9919	48	000224	銅板	楕円	7.6	3.5	1.8	0.2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-794	9919	5	000224	銅板	楕円	8.8	4.1	1.1	0.9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-795	9919	5	000224	銅板	楕円	2.6	3.4	0.8	0.2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-796	9919	58	000224	銅板	楕円	6.6	3.7	1.8	1.5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-798	9919	58	000225	銅板	楕円	2.6	3.9	1.3	1.1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-799	9919	58	000225	銅板	楕円	19.2	7.5	2.0	1.7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-800	9919	58	000225	銅板	楕円	6.6	4.2	1.3	1.4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-801	9919	58	000221	銅板	楕円	13.6	2.9	2.3	2.1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-802	9919	58	000221	銅板	楕円	6.3	3.6	1.1	1.0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-803	9919	68	000225	銅板	楕円	6.3	3.6	1.1	1.0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-804	9919	68	000225	銅板	楕円	10.2	5.3	1.3	1.0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-805	9919	68	000225	銅板	楕円	22.9	4.4	2.0	1.3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-806	9919	68	000225	銅板	楕円	19.2	8.9	1.9	1.5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-807	9919	68	000225	銅板	楕円	46.7	6.9	3.7	2.2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-811	9919	100	000203	銅板	楕円	86.7	2.9	5.8	1.5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-818	9919	100	000204	銅板	楕円	3.2	4.1	1.1	0.4	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-822	9919	100	000203	銅板	楕円	14.7	4.4	3.5	1.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-827	9919	6	000203	銅板	楕円	5.7	4.3	1.2	1.1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-828	9919	6	000203	銅板	楕円	2.1	2.9	0.8	0.7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-830	9919	7	000203	銅板	楕円	8.1	4.0	1.5	1.0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-831	9919	7	000203	銅板	楕円	11.5	3.3	2.8	1.3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-832	9919	7	000203	銅板	楕円	4.4	2.1	1.8	0.8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-833	9919	7	000203	銅板	楕円	4.5	3.0	2.2	1.0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-834	9919	7	000203	銅板	楕円	2.0	2.2	0.8	0.8	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-835	9919	7	000203	銅板	楕円	2.2	1.8	0.9	0.6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-836	9919	7	000203	銅板	楕円	11.1	5.8	1.2	1.1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-841	9919	7	000203	銅板	楕円	3.0	2.2	1.4	1.2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-842	9919	7	000203	銅板	楕円	0.6	1.5	0.9	0.1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-843	9919	7	000203	銅板	楕円	23.3	2.1	2.1	1.8	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-845	9919	78	000217	銅板	楕円	8.7	3.0	2.4	1.5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-851	9919	78	000217	銅板	楕円	2.8	2.9	0.8	0.9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-853	9919	78	000217	銅板	楕円	2.9	1.8	1.5	0.6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-854	9919	98	000203	銅板	楕円	4.3	2.4	1.3	1.1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-854	9919	98	000203	銅板	楕円	11.0	2.1	2.3	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-833	9919	98	000214	銅板	円盤	62.8	7.0	4.7	3.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
00-839	9919	98	000214	銅板	楕円	17.6	4.0	2.2	1.9	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
00-840	9919	98	000203	銅板	楕円	17.0	3.1	2.3	1.1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
00-832	9919	98	000203	銅板	楕円	5.8	3.5	1.2	1.1	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
00-837	9919	98	000203	銅板	楕円	3.1	1.6	1.3	1.0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

金属製品・金属関連遺物一覧表 (31)

番号	品名	種別	行方	種別	重量	長さ	幅	高さ	厚さ	材質	形状	寸法	備考	体積	質量	測定方法	
00-835	9910-06	鉄製品	000134	鉄製品	0.37	13.5	3.0	1.8	4	1	2	×	×	×	×	×	×
00-834	9910-06	鉄製品	000202	1/2寸鋼製ナット	0.99	3.6	2.5	1.8	4	1	2	×	×	×	×	×	×
00-835	9910-06	鉄製品	000135	1/2寸鋼製ナット	0.72	3.8	4.0	0.7	0	1	2	×	×	×	×	×	×
00-835	9910-06	鉄製品	000136	1/2寸鋼製ナット	0.72	3.8	4.0	0.7	0	1	2	×	×	×	×	×	×
00-844	9910-06	鉄製品	000144	7分×7分×5分鋼製ナット	13.7	5.0	2.9	1.1	0	0	11	×	×	×	×	×	×
00-844	9910-06	鉄製品	000145	7分×7分×5分鋼製ナット	14.4	2.8	2.8	1.2	0	0	9	×	×	×	×	×	×
00-846	9910-06	鉄製品	000203	六角鋼製ナット	7.5	1.0	1.9	1.4	5	0	0	×	×	×	×	×	×
00-846	9910-06	鉄製品	000204	六角鋼製ナット	1.8	1.5	1.2	0.7	3	1	2	×	×	×	×	×	×
00-846	9910-06	鉄製品	000205	六角鋼製ナット	0.59	1.7	0.7	0.69	3	1	1	×	×	×	×	×	×
00-846	9910-06	鉄製品	000206	六角鋼製ナット	0.59	1.7	0.7	0.69	3	1	1	×	×	×	×	×	×
00-816	9910-12b	鉄製品	000207	六角鋼製ナット	13.1	3.6	3.0	0.8	3	1	2	×	×	×	×	×	×
00-817	9910-12b	鉄製品	000207	六角鋼製ナット	7.6	4.3	1.3	0.9	2	1	2	×	×	×	×	×	×
00-811	9910-13	鉄製品	000141	六角鋼製ナット	10.0	2.4	2.4	0.3	1	1	2	×	×	×	×	×	×
00-812	9910-13	鉄製品	000142	六角鋼製ナット	7.0	4.1	1.7	1.2	3	0	0	×	×	×	×	×	×
00-814	9910-5b	鉄製品	000121	鋼製ナット	2.7	2.7	2.5	0.1	0	1	2	×	×	×	×	×	×
00-861	9910-5	鉄製品	000238	六角鋼製ナット	5.1	4.1	3.0	1.6	1	0	0	×	×	×	×	×	×
00-862	9910-5	鉄製品	000239	六角鋼製ナット	8.1	4.5	1.3	1.2	3	1	2	×	×	×	×	×	×
00-792	9910-08	鉄製品	000117	六角鋼製ナット	0.6	2.1	0.5	0.5	3	0	0	×	×	×	×	×	×
00-792	9910-08	鉄製品	000118	六角鋼製ナット	0.7	2.1	0.5	0.5	3	0	0	×	×	×	×	×	×
00-792	9910-08	鉄製品	000119	六角鋼製ナット	3.7	2.4	1.3	1.3	0	0	0	×	×	×	×	×	×
00-792	9910-08	鉄製品	000120	六角鋼製ナット	3.7	2.4	1.3	1.3	0	0	0	×	×	×	×	×	×
00-791	9910-08	鉄製品	000115	六角鋼製ナット	0.8	2.0	1.3	0.8	0	0	0	×	×	×	×	×	×
00-791	9910-08	鉄製品	000116	六角鋼製ナット	0.1	1.0	0.7	0.5	0	0	0	×	×	×	×	×	×
00-791	9910-08	鉄製品	000117	六角鋼製ナット	0.1	1.0	0.7	0.5	0	0	0	×	×	×	×	×	×
00-791	9910-08	鉄製品	000118	六角鋼製ナット	9.1	5.9	1.3	1.0	4	1	2	×	×	×	×	×	×
00-791	9910-08	鉄製品	000119	六角鋼製ナット	9.0	4.4	1.4	1.2	2	1	0	×	×	×	×	×	×
00-795	9910-7b	鉄製品	000115	六角鋼製ナット	11.6	8.3	0.9	0.8	4	1	2	×	×	×	×	×	×
00-795	9910-7b	鉄製品	000116	六角鋼製ナット	8.8	3.3	2.0	1.7	1	0	0	×	×	×	×	×	×
00-797	9910-13b	鉄製品	000122	六角鋼製ナット	41.5	4.1	2.6	1.9	1	1	1	×	×	×	×	×	×
00-800	9910-08	鉄製品	000122	六角鋼製ナット	36.6	4.9	4.2	2.3	3	0	0	×	×	×	×	×	×
00-800	9910-08	鉄製品	000105	六角鋼製ナット	28.1	5.7	2.5	2.0	1	0	0	×	×	×	×	×	×
00-802	9910-5b	鉄製品	000122	六角鋼製ナット	8.9	5.2	1.3	0.8	3	1	2	×	×	×	×	×	×
00-803	9910-08	鉄製品	000125	六角鋼製ナット	14.2	4.8	2.5	1.9	0	0	0	×	×	×	×	×	×
00-803	9910-08	鉄製品	000126	六角鋼製ナット	16.3	2.0	1.3	1.3	1	0	0	×	×	×	×	×	×
00-805	9910-08	鉄製品	000125	六角鋼製ナット	10.9	4.2	3.0	1.5	1	0	0	×	×	×	×	×	×
00-805	9910-08	鉄製品	000126	六角鋼製ナット	4.1	2.8	1.8	1.0	0	0	0	×	×	×	×	×	×
00-809	9910-08	鉄製品	000122	六角鋼製ナット	1.0	2.7	0.6	0.5	2	0	0	×	×	×	×	×	×
00-809	9910-7b	鉄製品	000122	六角鋼製ナット	14.4	4.8	2.5	1.2	3	0	0	×	×	×	×	×	×
00-799	9910-5b	鉄製品	000122	六角鋼製ナット	30.3	5.1	4.9	0.9	2	1	1	×	×	×	×	×	×
00-856	9910-5b	鉄製品	000122	六角鋼製ナット	28.5	2.7	2.2	1.7	0	0	0	×	×	×	×	×	×
00-857	9910-5b	鉄製品	000122	六角鋼製ナット	3.3	1.9	1.3	0.4	1	0	0	×	×	×	×	×	×
00-858	9910-13	鉄製品	000126	六角鋼製ナット	11.8	0.8	1.0	0.9	3	1	2	×	×	×	×	×	×
00-858	9910-13	鉄製品	000129	六角鋼製ナット	16.0	5.3	3.4	0.9	4	1	1	×	×	×	×	×	×
00-859	9910-13	鉄製品	000128	六角鋼製ナット	11.7	3.7	1.5	1.1	0	0	0	×	×	×	×	×	×
00-859	9910-13	鉄製品	000129	六角鋼製ナット	21.7	4.8	3.0	0.3	5	1	2	×	×	×	×	×	×
00-820	9910-13b	鉄製品	000207	六角鋼製ナット	4.5	3.0	1.1	1.0	3	0	0	×	×	×	×	×	×
00-822	9910-13b	鉄製品	000208	六角鋼製ナット	9.7	4.1	1.3	1.2	2	0	0	×	×	×	×	×	×
00-867	9910-13b	鉄製品	000209	六角鋼製ナット	49.1	5.4	4.4	2.6	1	0	0	×	×	×	×	×	×

CD-ROM 掲載表一覧

添付されたCD-ROMには本書には印刷されていない下記のデータ (Excel) が登録されているので、あわせて参照されたい。

1. ファイル名「95AB 区土器出土量表」

95A・95B 区における出土地点毎の器種別土器出土量を破片数で記録した。

2. ファイル名「96 区土器陶磁器出土量表」

96 区における出土地点毎の器種別・時期別の土器・陶磁器出土量を破片数で記録した。

3. ファイル名「97BC 区土器陶磁器出土量表」

97B・97C 区における出土地点毎の器種別・時期別の土器・陶磁器出土量を破片数で記録した。

4. ファイル名「99AB 区土器陶磁器出土量表」

99A・99B 区における出土地点毎の器種別・時期別の土器・陶磁器出土量を破片数で記録した。

5. ファイル名「軒丸瓦一覧表」

96 区と 97C 区で出土した軒丸瓦全点のデータを記録した。各項目は「清洲城下町遺跡Ⅶ」の「軒丸瓦一覧表」に準じて記録されており、詳細はその凡例を参照されたい。

6. ファイル名「軒平瓦一覧表」

96 区と 97C 区で出土した軒平瓦全点のデータを記録した。各項目は「清洲城下町遺跡Ⅶ」の「軒平瓦一覧表」に準じて記録されており、詳細はその凡例を参照されたい。

7. ファイル名「丸瓦厚別集計表」

96 区と 97C 区で出土した丸瓦全点のデータをグリッド毎に厚さ別に集計したデータである。集計したデータは重量、左長、右長、筒頭 (長さ)、玉 (縁) 幅、尻幅、隅数、破片 (数) である。

8. ファイル名「丸瓦径別集計表」

96 区と 97C 区で出土した丸瓦全点のデータをグリッド毎に筒部の径別に集計したデータである。集計したデータは重量、左長、右長、筒頭 (長さ)、玉 (縁) 幅、尻幅、隅数、破片 (数) である。

9. ファイル名「平瓦厚別集計表」

96 区と 97C 区で出土した平瓦全点のデータをグリッド毎に厚さ別に集計したデータである。集計したデータは重量、左長、右長、頭長、尻長、隅数、破片 (数) である。

10. ファイル名「道具瓦一覧表」

96 区と 97C 区で出土した道具瓦や飾瓦などの全点のデータを記録した。

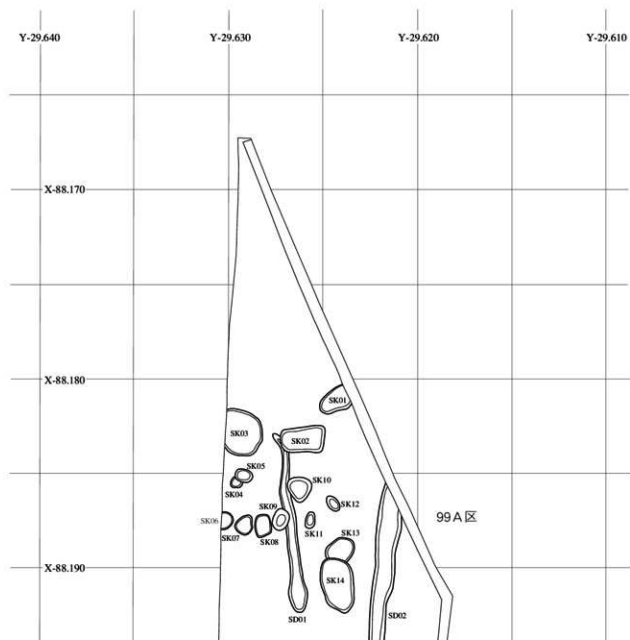
11. ファイル名「金属関連遺物一覧表-1」

12. ファイル名「金属関連遺物一覧表-2」

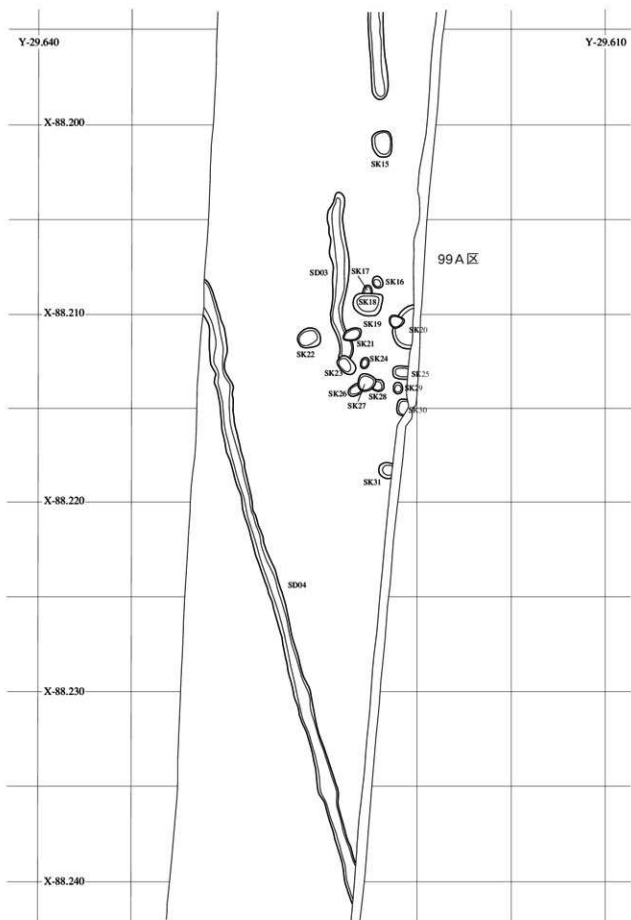
この2つのファイルには、今回の報告の対象となる調査区全てから出土した金属関連遺物のデータが記録されている。記述の内容は鈴木正貴・藤山誠一・天野博之1998「愛知県における古代・中世の鉄器生産その2」『考古学フォーラム9』の観察表に準じている。

図版目次

- 図版 1 95A・B区遺構図 (1)
図版 2 95A・B区遺構図 (2)
図版 3 95A・B区遺構図 (3)
図版 4 95A・B区遺構図 (4)
図版 5 97B区遺構図
図版 6 96・97C区遺構図 (1)
図版 7 96・97C区遺構図 (2)
図版 8 99A区上層遺構図
図版 9 99A区下層遺構図
図版 10 99B区上層遺構図
図版 11 99B区下層遺構図
写真図版 1 96区と清須城本丸、96区全景
写真図版 2 96区SW01、96区SW01
写真図版 3 96区全景、96区SW01・02、SA01・02・03
写真図版 4 96・97C区SW01下の土台木、96・97C区SW01下の土台木
写真図版 5 99A区2面全景、99B区2面全景
写真図版 6 99B区SX01、99B区SX01セクション
写真図版 7 瀬戸美濃窯産陶器天目茶碗、丸碗
写真図版 8 各種陶磁器の碗類
写真図版 9 瀬戸美濃窯産陶器施軸皿類
写真図版 10 各種陶磁器の皿類
写真図版 11 土師器皿、土師器仏具、木胎漆器
写真図版 12 瀬戸美濃窯産陶器向付・水注・茶入など、土師器小形製品など
写真図版 13 瀬戸美濃窯産陶器向付・大皿・筒形容器、中国産磁器大皿
写真図版 14 瀬戸美濃窯産陶器搦鉢・壺・瓶・甕など
写真図版 15 土師器鍋釜類、備前・常滑窯産陶器、瓦器
写真図版 16 古瀬戸製品、中国産陶磁器、金箔押瓦類、金属製品、金属関連遺物など
写真図版 17 95A区遺構 (南部・中央部・北部・SK23・SK26)
写真図版 18 95B区遺構 (全景・SK206等・中央部・SK09・SE01)
写真図版 19 96区遺構 (SW02・SD01・セクション)
写真図版 20 96区・97C区遺構 (SW01・02出土状態・SW01裏込め石・SX01出土状態)
写真図版 21 96区SW01 (南西部・中央部・北東部・五輪塔出土状態・下部南西部・下部中央部・下部北東部・墨書検出状況)
写真図版 22 96区・97C区遺構 (SW01・土台木・杭・SD02・SD06・SA01・SA03・SW03・SA09・SA08)
写真図版 23 97C区遺構 (SA06・倒木・SW02杭・SA07)
写真図版 24 97B区遺構 (全景・SK16・SD01セクション・南壁セクション)
写真図版 25 99A区・99B区遺構 (99A区2面全景・99A区1面全景・99B区1面全景)
写真図版 26 99B区遺構 (SX01・SK92セクション・SK316・SK92・SK316)
写真図版 27 99A区遺構 (SK248セクション・SK182セクション・SK207・SK182・SK207)
写真図版 28 99A区遺構 (SD13セクション・SX01東壁セクション・SK68セクション・SK44セクション・SK203セクション)
写真図版 29 土師器皿
写真図版 30 土師器皿、金属製品、金属関連遺物、石製品
写真図版 31 軒丸瓦 (1)
写真図版 32 軒丸瓦 (2)
写真図版 33 軒丸瓦 (3)
写真図版 34 軒丸瓦 (4)
写真図版 35 軒丸瓦 (5)
写真図版 36 軒丸瓦 (6)
写真図版 37 軒平瓦 (1)
写真図版 38 軒平瓦 (2)
写真図版 39 軒平瓦 (3)
写真図版 40 丸瓦、平瓦、道具瓦など

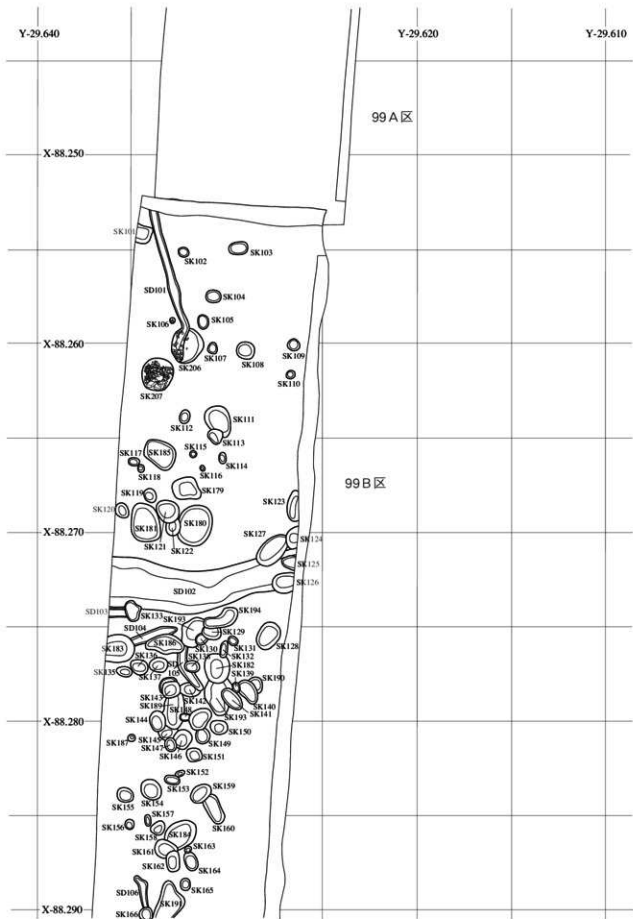


図版1 99A・B区遺構図(1) (1/200)



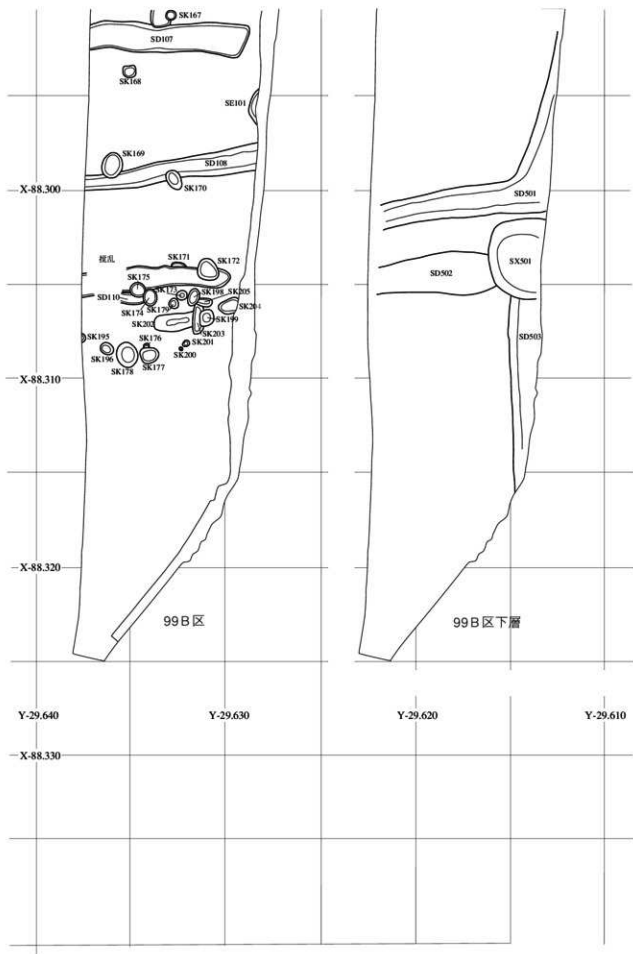
図版2 95A・B区遺構図(2)

(1/200)



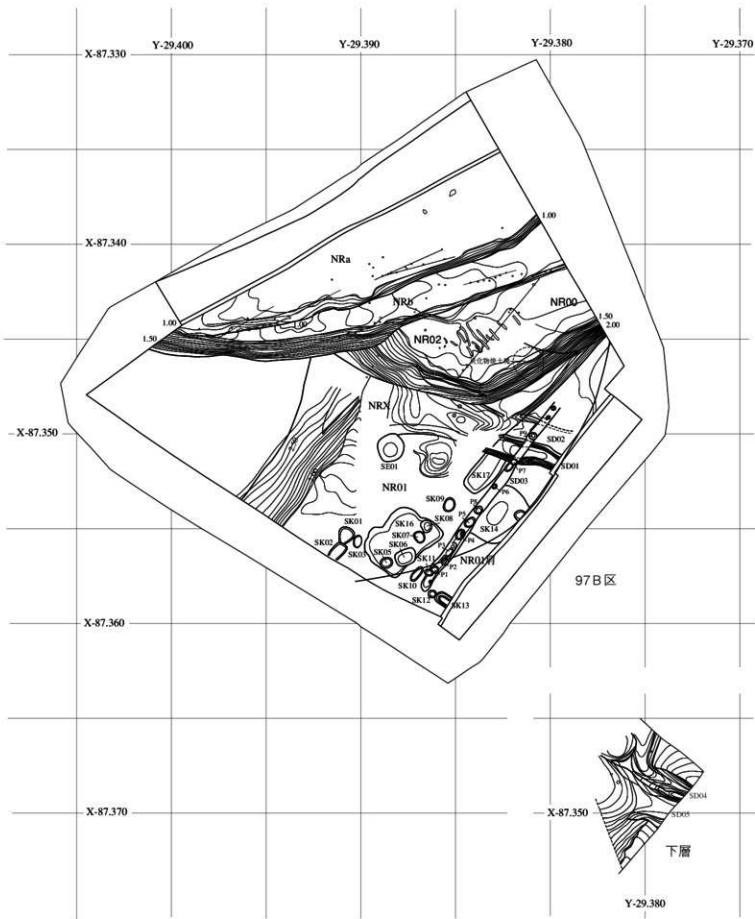
図版3 95A・B区遺構図(3)

(1/200)



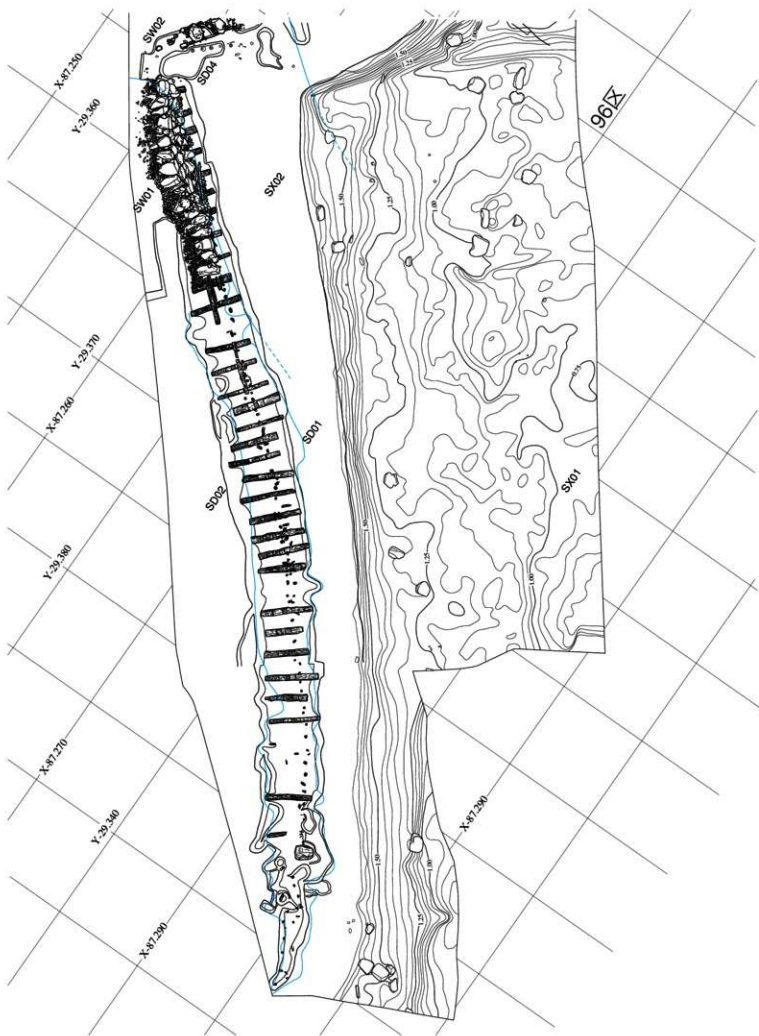
図版4 95 A・B区遺構図(4)

(1/200)



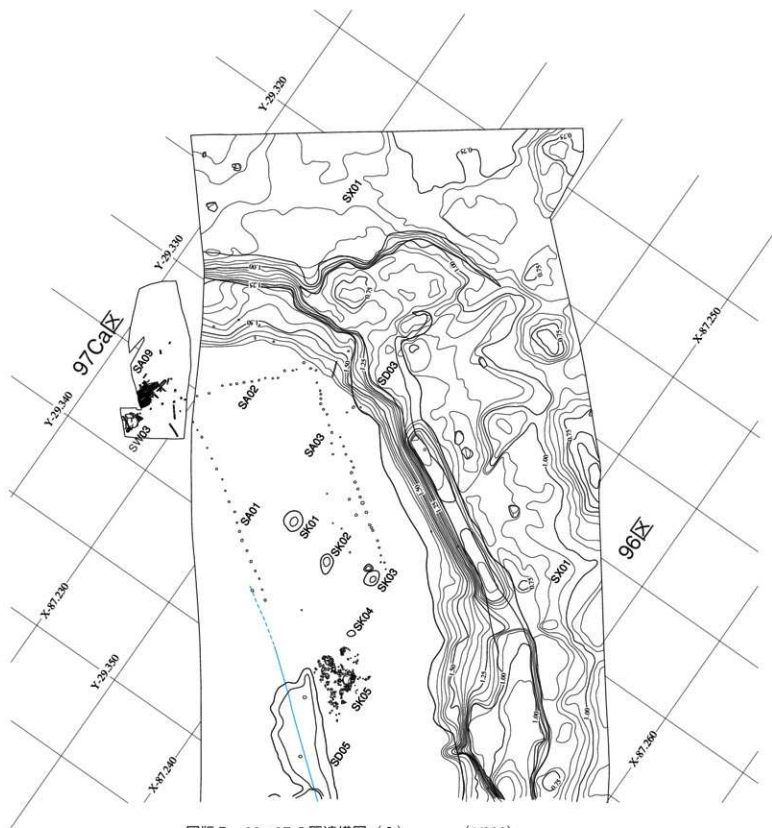
図版 5 97B区遺構図

(1/200)



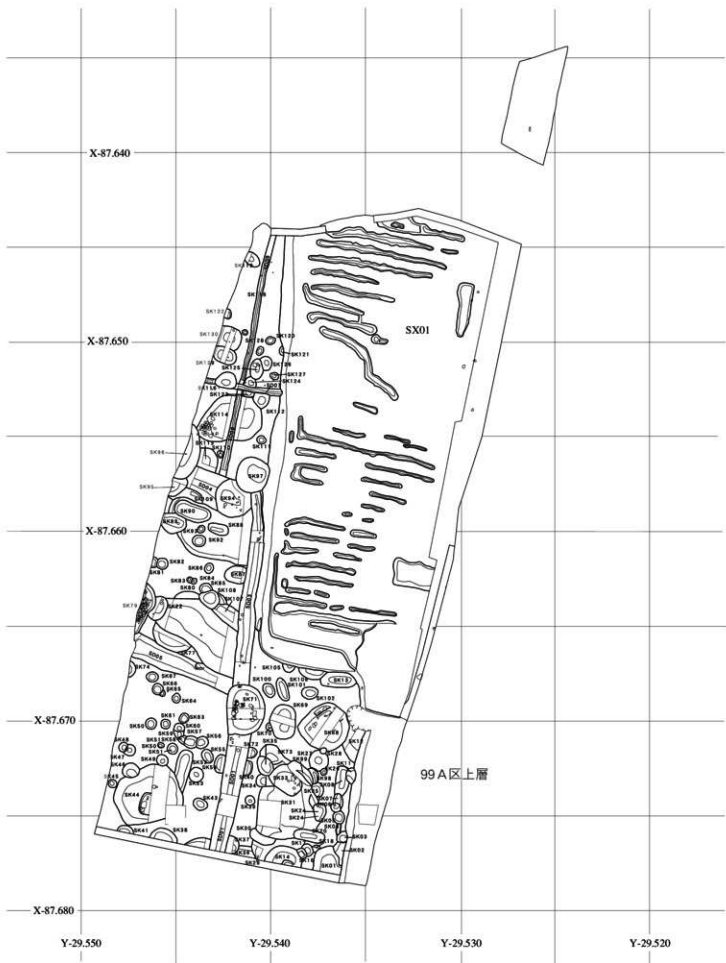
图版 6 96·97 C区遗構図 (1)

(1/200)

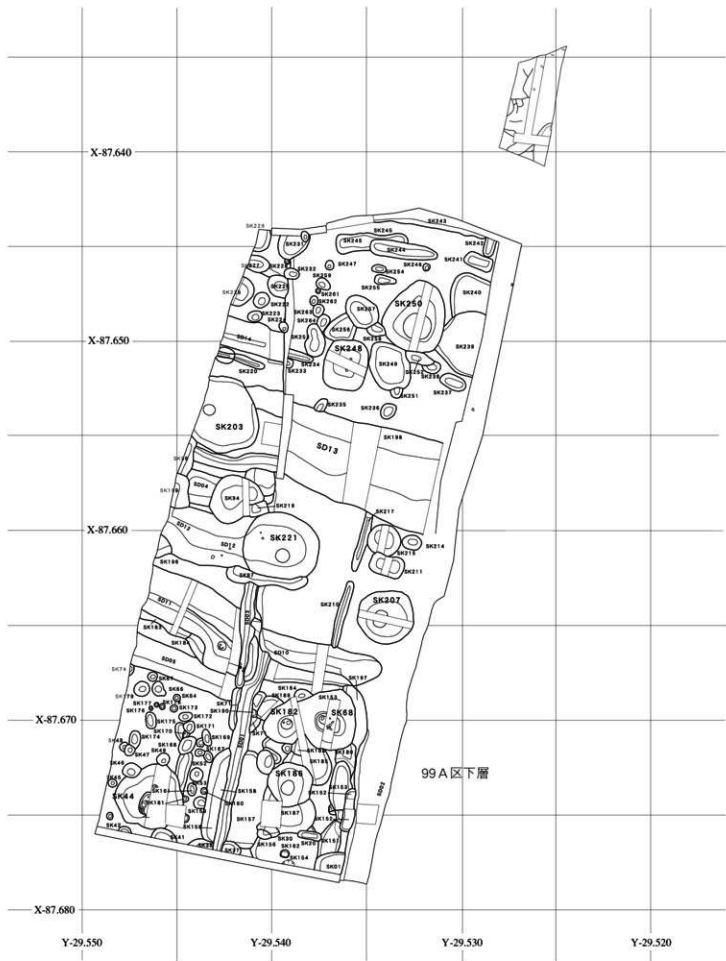


図版7 96・97 C区遺構図(2)

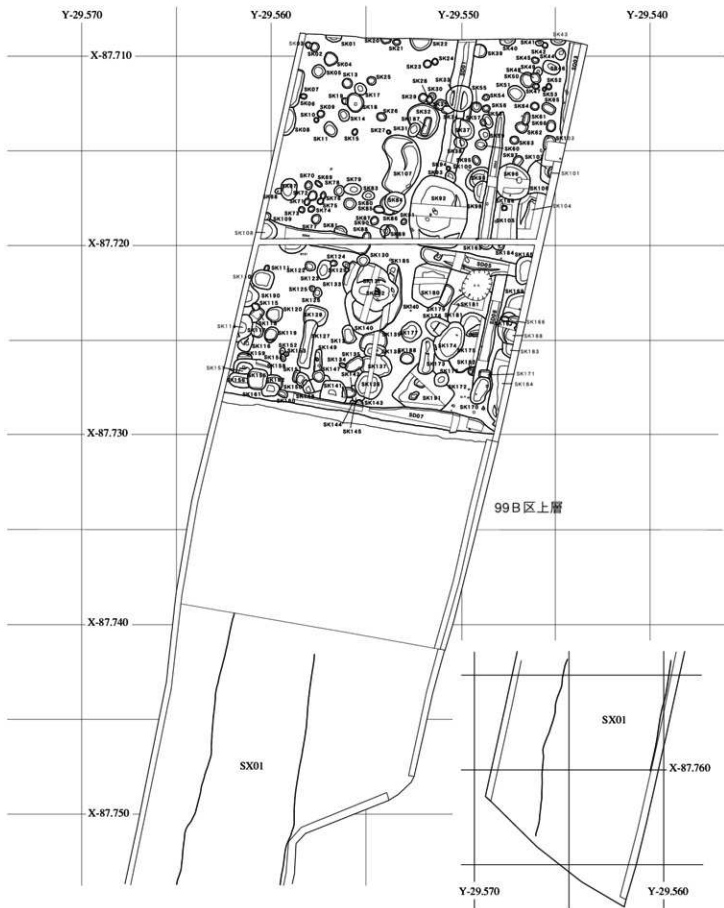
(1/200)



図版 8 99 A区上層遺構図 (1/200)



図版9 99A区下層遺構図 (1/200)



図版 10 99 B区上層邊構図 (1/200)



図版 11 99 B区下層遺構図

(1/200)



96区と清須城本丸（南東から）



96区全景（南西から）



96区 SW01 (南東から)



96区 SW01 (南から)



96区全景 (北東から)



96区 SW01・02、SA01・02・03 (北東から)



96・97 C区 SW01 下の土台木 (南西から)



96・97 C区 SW01 下の土台木 (南から)



99 A区2面全景 (南から)



99 B区2面全景 (北から)



上段
99 B区 SX01 (北から)

中段左
99 B区 SX01 セクション
東部 (北から)

中段右
99 B区 SX01 セクション
中央東部 (北から)

下段左
99 B区 SX01 セクション
中央西部 (北から)

下段右
99 B区 SX01 セクション
西部 (北から)

























上段：
95 A区南部（南東から）

中段左：
95 A区中央部（東から）

中段右：
95 A区北部（南東から）

下段左：
95 A区 SK23（南西から）

下段右：
95 A区 SK26（南西から）





上段:

95 B区全景 (北から)

中段左:

95 B区 SD101・SK207
(南西から)

中段右:

95 B区 中央部 (東から)

下段左:

95 A区 SK09 (西から)

下段右:

95 A区 SE101 (西から)





上段：
96区 SW02 (南から)

中段左：
96区 SKW02 (南東から)

中段右：
96区 SD01 完掘状況
(北東から)

下段左：
96区 SD01・02・土台木
セクション (南から)

下段右：
96区 SD01 完掘状況
(西から)





上段：
96区 SW01・02 付近瓦・礫出土状態（北から）

中段左：
96区 SW01・02 付近瓦・礫出土状態
（南東から）

中段右：
96区 SW01 裏込め石検出状況（南から）

下段左：
97 C区 SX01 肩部瓦・礫出土状態
（南から）

下段右：
97 C区 SX01 瓦・礫出土状態（北から）





96区 SW01 南西部 (南東から)



96区 SW01 下部南西部 (南東から)



96区 SW01 中央部 (南東から)



96区 SW01 下部中央部 (南東から)



96区 SW01 北東部 (南東から)



96区 SW01 下部北東部 (南東から)



96区 SW01 五輪塔出土状態 (南東から)



96区 SW01 墨書検出状況 (南東から)



96区 SW01・土台木南西部 (南西から)



96区土台木・杭 (東から)



96区 SD02・SD06 南西部 (南西から)



96区 SD06 (西から)



96区 SA01 (南東から)



96区 SA03 (南東から)



97 C区 SW03・SA09 (南から)



97 C区 SA08 (南東から)



97 C区 SA06 (北東から)



97 C区 SA06・倒木 (北東から)



97 C区 SW02 杭 (南東から)



97 C区 SA06・倒木 (北東から)



97 C区 SW02 杭・SA07 (北から)



97 C区 SA07 (北東から)



97 C区 SW02 杭・SA07 (南西から)



97 C区 SA07 (北西から)



上段：
97 B区全景（北西から）

中段左：
97 B区全景（北から）

中段右：
97 B区 SK16（東から）

下段左：
97 B区 SD01 セクション
（東から）

下段右：
97 B区南壁セクション
（北から）





上段：
99 A区 2面全景（北から）

中段左：
99 A区 1面全景（北から）

中段右：
99 A区 1面全景（南から）

下段左：
99 B区 1面全景（南から）

下段右：
99 B区 1面全景（北から）





上段：
99 B区 SX01 (北から)

中段左：
99 B区 SK92 セクション
(南から)

下段左：
99 B区 SK92 (西から)

中段右：
99 B区 SK316 (東から)

下段右：
99 B区 SK316 (東から)





上段：
99 A区 SK248 セクション
(北から)

中段左：
99 A区 SK182 セクション
(西から)

下段左：
99 A区 SK182 (東から)

中段右：
99 A区 SK207 検出状況
(南から)

下段右：
99 A区 SK207 (南から)





上段:

99 A区 SD13 セクション
(東から)

中段左:

99 A区 SX01 東壁セクション
(西から)

中段右:

99 A区 SK44 セクション
(西から)

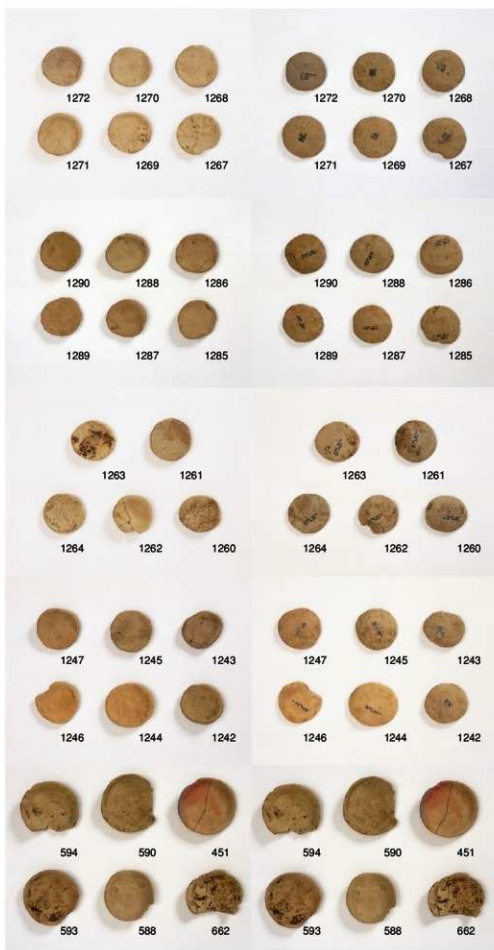
下段左:

99 A区 SK68 セクション
(東から)

下段右:

99 A区 SK203 セクション
(東から)









2179



2180



2181



2182



2184



2187



2188



2189



2190



2193



2197



2198



2206



2207



2210



2216



2217



2219



2221



2222



2226



2227



2231



2232



2235



2236



2239



2254



2255



2257



2262



2264



2266



2268



2269



2270



2272



2350



2275



2277



2278



2279



2282



2285



2289



2315



2297



2317



2300



2319



2302



2321



2303



2326



2306



3237





愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第99集

清洲城下町遺跡Ⅷ

資料編

2002年8月31日

編集・発行 財団法人愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 サンメッセ株式会社